2026 大学院履修要項

同志社大学

―― 目 次 ――

大学院学則…… 1
学位規程…… 16
大学院一般内規…… 20
大学院研究生に関する内規…… 22
大学院研修生に関する内規…… 22
外国留学に関する諸規程…… 23
関西四大学大学院学生の単位互換に関する協定書…… 25
大学院学年暦…… 26
研究科専攻別授業科目および履修方法
博士課程（前期課程）または修士課程
神学研究科…… 29
文学研究科…… 43
社会学研究科…… 61
法学研究科…… 87
経済学研究科…… 109
商学研究科…… 119
総合政策科学研究科…… 129
文化情報学研究科…… 153
理工学研究科…… 161
生命医科学研究科…… 197
スポーツ健康科学研究科…… 207
心理学研究科…… 217
グローバル・スタディーズ研究科…… 225
ビジネス研究科…… 241
博士課程（後期課程）
神学研究科…… 253
文学研究科…… 265
社会学研究科…… 281
法学研究科…… 295
経済学研究科…… 303
商学研究科…… 309
総合政策科学研究科…… 315
文化情報学研究科…… 339
理工学研究科…… 347
生命医科学研究科…… 369
スポーツ健康科学研究科…… 379
心理学研究科…… 385
グローバル・スタディーズ研究科…… 389
一貫制博士課程
脳科学研究科…… 399
専門職学位課程
専門職大学院学則 …… 409
法科大学院学則…… 416
司法研究科学年暦 …… 422
司法研究科授業科目および履修方法…… 423
ビジネス研究科学年暦…… 442
ビジネス研究科授業科目および履修方法…… 443
高等研究教育院…… 457
路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う授業・期末試験の実施について … 463

同志社大学大学院学則

（2026年4月1日改正）

第1章　総　　則

第1条　本学大学院は、学問の自由とキリスト教的精神とを尊重して、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

第1条の2　本学大学院は、教育研究水準の向上を図り、本学大学院の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2　点検及び評価に関する規程は、別に定める。

3　本学大学院は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

4　本学は、第1項及び前項に規定する点検及び評価の結果並びに認証評価の結果を公表するとともに、教育研究活動等について不断の見直しを行う。

第2条　本学大学院の課程は、前期及び後期の課程に区分する博士課程（以下「区分制博士課程」という。）、前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程（以下「一貫制博士課程」という。）、修士課程及び専門職学位課程とする。

2　博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

3　博士課程の前期課程及び修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

4　専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

第2条の2　本学大学院は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各研究科において専攻毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第2章　研究科の組織及び修業年限

第3条　本学大学院の各研究科に次の専攻を置く。

（1）区分制博士課程及び修士課程

	前期課程又は修士課程	後期課程
神学研究科	神学専攻	神学専攻
文学研究科	哲学専攻	哲学専攻
	英文学・英語学専攻	英文学・英語学専攻
	文化史学専攻	文化史学専攻
	国文学専攻	国文学専攻
	美学芸術学専攻	美学芸術学専攻
社会学研究科	社会福祉学専攻	社会福祉学専攻
	メディア学専攻	メディア学専攻
	教育文化学専攻	教育文化学専攻
	社会学専攻	社会学専攻
	産業関係学専攻	産業関係学専攻
法学研究科	政治学専攻	政治学専攻
	私法学専攻	私法学専攻
	公法学専攻	公法学専攻
経済学研究科	理論経済学専攻	経済政策専攻
	応用経済学専攻	
商学研究科	商学専攻	商学専攻
総合政策科学研究科	総合政策科学専攻	総合政策科学専攻
文化情報学研究科	文化情報学専攻	文化情報学専攻
理工学研究科	情報工学専攻	情報工学専攻
	電気電子工学専攻	電気電子工学専攻
	機械工学専攻	機械工学専攻
	応用化学専攻	応用化学専攻
	数理環境科学専攻	数理環境科学専攻
生命医科学研究科	医工学・医情報学専攻	医工学・医情報学専攻
	医生命システム専攻	医生命システム専攻
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	スポーツ健康科学専攻
心理学研究科	心理学専攻	心理学専攻
グローバル・スタディーズ研究科	グローバル・スタディーズ専攻	グローバル・スタディーズ専攻
ビジネス研究科	グローバル経営研究専攻	

（2）一貫制博士課程

脳科学研究科　発達加齢脳専攻

（3）専門職学位課程

司法研究科　法務専攻

ビジネス研究科　ビジネス専攻

2　専門職大学院に関する事項は、専門職大学院学則として別にこれを定める。

3　総合政策科学研究科においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う。

4　本学大学院に高等研究教育院を置く。高等研究教育院に関する規程は、別に定める。

第4条　博士課程の後期課程の標準修業年限は、3年とする。

2　一貫制博士課程の標準修業年限は、5年とする。

3　博士課程の前期課程及び修士課程の標準修業年限は、2年とする。

4　前3項の規定にかかわらず、職業を有しているなどの事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に本学大学院の教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出た者に対しては、各研究科の定めるところにより、その履修を博士課程の前期課程、修士課程又は博士課程の後期課程では6年、一貫制博士課程では8年まで認めることができる。

5　第17条の規定により転入学を許可された転入学生の修業年

限は、前４項に基づき当該研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て決定する。

第５条　博士課程の前期課程に４年、後期課程に６年を超えて在学することを認めない。

２　修士課程に４年を超えて在学することを認めない。

３　一貫制博士課程に８年を超えて在学することを認めない。

４　第１項及び第２項の規定にかかわらず、博士課程の前期課程又は修士課程において前条第４項の規定により長期にわたる教育課程の履修を認められた者については、当該研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て決定された履修期間を在学年限の上限とすることができる。

５　第17条の規定により転入学を許可された転入学生の在学年限は、前４項に基づき当該研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て決定する。

第３章　授業科目、研究指導、履修方法及び教育方法の特例

第６条　各研究科の教育課程は、各研究科が学校教育法施行規則第165条の２第１項第１号及び第２号により定める方針に基づき編成し、授業科目、履修方法等は、別表Ⅱにおいてこれを定める。授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

（1）講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学大学院が定める時間の授業をもって１単位とする。

（2）実験及び実習については、30時間から45時間までの範囲で本学大学院が定める時間の授業をもって１単位とする。

（3）第１号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前２号に規定する基準を考慮して本学大学院が定める。

２　本学大学院は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　本学大学院は、第１項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第６条の２　大学院学生は、別に定める他の大学大学院において当該大学大学院の授業科目を履修することができる。

２　前項の規定により履修した授業科目について単位を修得した者には、各研究科において教育上有益と認めるときは、15単位を超えない範囲で課程修了の所定単位として認定することができる。

第６条の３　第20条の２により留学した大学の大学院において単位を修得した者、外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し単位を修得した者、外国の大学院の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し単位を修得した者及び大学院設置基準第15条に定める「国際連合大学」の教育課程における授業科目を履修し単位を修得した者には、各研究科において教育上有益と認めるときは、前条により認定した単位と合わせて15単位を超えない範囲で課程修了の所定単位として認定することができる。

２　第20条の２により留学した大学の大学院において受けた研究指導は、博士課程の後期課程又は一貫制博士課程において、その一部を認定することができる。

第６条の４　本学大学院は、各研究科において教育上有益と認めるときは、大学院学生が入学前に大学大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学大学院において修得したものとして認定することができる。

２　前項の単位は、転入学の場合を除き、本学大学院において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとし、第６条の２第２項及び第６条の３第１項により修得したものとみなす単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

第６条の５　高等学校教諭専修免許状及び中学校教諭専修免許状を得ようとする者は、各研究科における授業科目から教育職員免許法及び同施行規則に定める必要単位数を履修しなければならない。（ただし、高等学校教諭一種免許状及び中学校教諭一種免許状の取得資格を有する者）

２　本学大学院において取得できる免許状の種類（教科）は、次のとおりとする。

神学研究科	
神学専攻	中専免（宗教）、高専免（宗教）
文学研究科	
哲学専攻	中専免（社会）、高専免（地理歴史）、高専免（公民）
英文学・英語学専攻	中専免（英語）、高専免（英語）
文化史学専攻	中専免（社会）、高専免（地理歴史）
国文学専攻	中専免（国語）、高専免（国語）
美学芸術学専攻	中専免（社会）、高専免（地理歴史）、高専免（公民）
社会学研究科	
社会福祉学専攻	高専免（福祉）
メディア学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）
教育文化学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）
社会学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）
産業関係学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）
法学研究科	
政治学専攻	中専免（社会）、高専免（地理歴史）、高専免（公民）
私法学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）
公法学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）
経済学研究科	
理論経済学専攻	中専免（社会）、高専免（地理歴史）、高専免（公民）
応用経済学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）
商学研究科	
商学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）、高専免（商業）
総合政策科学研究科	
総合政策科学専攻	中専免（社会）、高専免（公民）

文化情報学研究科
　文化情報学専攻　　中専免（数学）、高専免（数学）
理工学研究科
　情報工学専攻　　中専免（数学）、高専免（数学）
　応用化学専攻　　中専免（理科）、高専免（理科）
　数理環境科学専攻　　中専免（数学）、高専免（数学）、中専免（理科）、高専免（理科）
生命医科学研究科
　医工学・医情報学専攻　　中専免（理科）、高専免（理科）
　医生命システム専攻　　中専免（理科）、高専免（理科）
スポーツ健康科学研究科
　スポーツ健康科学専攻　　中専免（保健体育）、高専免（保健体育）
心理学研究科
　心理学専攻　　中専免（社会）、高専免（地理歴史）、高専免（公民）
グローバル・スタディーズ研究科
　グローバル・スタディーズ専攻　中専免（社会）、高専免（公民）

第６条の６　本章に定めるもののほか、授業科目の種類、単位数、履修方法の細目等については、各研究科の定めるところによる。

第６条の７　本学大学院には、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くための教育を行うため、博士課程教育リーディングプログラムを置く。

２　博士課程教育リーディングプログラムに関し必要な事項は、別に定める。

第６条の８　本学大学院は、各研究科において教育上有益と認めるときは、大学院学生を別に定める他の大学大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、博士課程の前期課程又は修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、１年を超えないものとする。

第６条の９　本学大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに１年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示する。

２　本学大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第４章　課程修了の認定

第７条　博士の学位を得ようとする者は、大学院博士課程に５年（博士課程の前期課程又は修士課程を修了した者にあっては、当該課程における２年の在学期間を含む。）以上在学、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。最終試験は学位論文を中心とし、これに関連ある分野について行う。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、３年（博士課程の前期課程２年又は修士課程２年を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

２　前項の規定にかかわらず、優れた業績により博士課程の前期課程又は修士課程を在学１年以上で修了した者の在学期間に関しては、博士課程の前期課程又は修士課程における在学期間に３年を加えた期間とする。ただし、優れた研究業績をあげた者については、３年（博士課程の前期課程又は修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

３　前２項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則第 156 条の規定により、修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者又は専門職学位課程を修了した者については、３年（専門職大学院設置基準第 18 条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては、２年）以上在学し、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。最終試験は学位論文を中心とし、これに関連ある分野について行う。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては、３年から当該１年以上２年未満の期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

４　前３項の課程修了の認定には、その研究に必要な外国語によく通じていることを一条件とする。

５　修士の学位を得ようとする者は、博士課程の前期課程又は修士課程に２年以上在学し、授業科目について 30 単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。最終試験は学位論文を中心とし、これに関連ある科目について行う。ただし、優れた業績をあげた者については、大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。

６　前項の場合において、当該博士課程の前期課程又は修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって学位論文の審査に代えることができる。

７　前２項の課程修了の認定には、その研究に必要な外国語に通じていることを一条件とする。

８　本学大学院は、第６条の４の規定により本学大学院に入学する前に修得した単位（学校教育法第 102 条第１項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を本学大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本学大学院の修士課程又は博士課程（区分制博士課程における後期の課程を除く。）の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して１年を超えない範囲で本学大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、博士課程の前期課程又は修士課程については、当該課程に少なくとも１年以上在学するものとする。

９　前項の規定は、博士課程の前期課程又は修士課程を修了した者の第７条第１項及び同条第２項に規定する博士課程における在学期間（同条第１項の規定により博士課程における在学期間に含む修士課程における在学期間を除く。）については、適用しない。

第８条　修士の学位論文は、在学期間中に提出し審査を終了するものとする。

２　博士の学位論文は、在学期間中に学長に提出し、提出された

日から１年以内に審査を終了するものとする。

第９条　課程修了の認定は、研究科長会の審議を経て、学長が決定する。

２　研究科長会に関する内規は、別に定める。

第５章　学位の授与

第 10 条　本学大学院において、各研究科の課程修了の認定を得た者には、次の学位を授与する。

博士（神学、一神教研究、哲学、英文学、英語学、文化史学、国文学、芸術学、社会福祉学、メディア学、教育文化学、社会学、産業関係学、政治学、法学、経済学、商学、政策科学、ソーシャル・イノベーション、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究、学術）

修士（神学、一神教研究、哲学、英文学、英語学、文化史学、国文学、美学、芸術学、社会福祉学、メディア学、教育文化学、社会学、産業関係学、政治学、比較政治学、法学、経済学、商学、政策科学、ソーシャル・イノベーション、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究、経営学、学術）

２　前項に規定する学位には、「博士（神学）（同志社大学）」又は「修士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

３　本学は、別に定める同志社大学学位規程により博士課程を経ることなくして、博士の学位論文を提出する者に、博士課程における学位授与の方法に準じて学位を授与する。

第６章　学年、学期及び休業日

第 11 条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終る。

第 12 条　学年を次の２学期に分ける。

春学期　４月１日から９月 20 日まで

秋学期　９月 21 日から翌年３月 31 日まで

第 13 条　休業日は、次のとおりとする。

（1）日曜日

（2）「国民の祝日に関する法律」に定める休日

（3）創立記念日　11 月 29 日

（4）キリスト降誕日　12 月 25 日

（5）夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。

２　前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第７章　入学、転入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

第 14 条　入学の時期は、学年の始めとする。ただし、研究科が必要とするときは、入学の時期を学期の始めとすることができる。

第 15 条　博士課程の前期課程、一貫制博士課程又は修士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

（1）大学を卒業した者

（2）大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと本学大学院が認めたもの

（3）大学院への入学に関し、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第 155 条第１項に規定された者

２　博士課程の後期課程に入学又は一貫制博士課程の第３年次に転入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

（1）修士の学位又は専門職学位を得た者

（2）大学院への入学に関し、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第 156 条に規定された者

第 15 条の２　外国人の入学志願者のうち、その入学資格の判明しがたいときには、当該外国公館の証明を必要とする。

第 16 条　入学志願者には各研究科が学校教育法施行規則第 165 条の２第１項第３号により定める方針に基づき、学力検査を行い、既往の成績等を総合して入学者を決定する。

２　前項の考査方法、時期等については、その都度定める。

第 17 条　他の大学大学院学生又は本学大学院を修了した者で、転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り前条に準ずる考査を経たうえで、転入学を許可することがある。

第 18 条　入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Ⅰの９に定める入学検定料を納入しなければならない。

２　災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

３　前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第 19 条　入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

２　本学大学院の複数の研究科・専攻・クラスター（以下「研究科等」という。）の入学許可を得て、一方の研究科等の学費を納入した者が、もう一方の研究科等への入学を希望する場合等は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の研究科等の学費に振替を認めることがある。

３　前項の振替の詳細は、別に定める。

第 20 条　学生が疾病その他やむを得ない事由により休学しようとするときは、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。

２　休学期間は、１年又は半年とする。

３　休学の期間は、通算して博士課程の前期課程又は修士課程においては２年、博士課程の後期課程においては３年、一貫制博士課程においては５年を超えることができない。ただし、母国における兵役義務による休学は、この期間に算入しない。

４　休学期間は、第４条及び第５条に定める修業年限、在学年限には算入しない。

第 20 条の２　学生は、在学中当該研究科教授会又は研究科委員会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学の大学院に留学することができる。

２　留学の期間は、第４条の修業年限及び第５条の在学年限に算入できる。

３　留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第 21 条　学生が、疾病その他やむを得ない事由により退学しようとするときは、その旨願い出なければならない。

第 22 条　学長は、学力劣等で成業の見込みがないと認める者、また出席常でない者を、当該研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て、諭旨退学させることがある。

第 23 条　学長は、品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該研究科教授会又は研究科委員会において懲戒の対象となりうると認められたときは、けん責、停学又は退学に処することができる。

２　前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第 23 条の２　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。第１号については、春学期末修了予定者は春学期末、それ以外の者は該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、第２号並びに第３号については、該当学期末に除籍する。

（1）学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

（2）在学期間が第５条に規定する在学年限を超える者

（3）学費未納で履修科目の登録をしていない者

第 23 条の３　退学者及び前条第１項第１号又は第３号により除籍された者が、再入学を願い出た場合は、それを許可することがある。なお、除籍された者が再入学を願い出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第 23 条の４　再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第８章　科目等履修生、聴講生、研究生、研修生、委託生、特別研究学生、外国人留学生及び外国人研究生

第 24 条　各研究科又は高等研究教育院に設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、科目等履修生とすることができる。

２　科目等履修生のうち、他の大学大学院学生で、協定に基づき本学大学院の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

３　科目等履修生が履修した授業科目について試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価を受け合格したときは、所定の単位を与える。

４　前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第 24 条の２　各研究科に設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、聴講生とすることができる。

２　聴講生に関する内規は、別に定める。

第 24 条の３　本学大学院博士課程の後期課程に６年間在学した者又は一貫制博士課程に８年間在学した者が、その後、研究指導を受けることを希望するときは、当該研究科において、研究生としてこれを許可することがある。

２　研究生に関する内規は、別に定める。

第 24 条の４　本学大学院の博士課程の前期課程又は修士課程を修了した者で、高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力をさらに養うため研修を希望するものがあるときは、当該研究科において、研修生としてこれを許可することがある。

２　研修生に関する内規は、別に定める。

第 25 条　他の大学大学院学生にして、その大学院の委託により、本学大学院研究科における授業科目中１科目又は数科目の選修を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、当該研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て修学を許可することがある。

２　委託生が選修科目の試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価に合格したときは、その科目の修了証明書を授与する。

第 25 条の２　他の大学大学院学生で、本学大学院において研究指導を受けることを希望する者があるときは、当該大学院との協議に基づき、特別研究学生として研究指導を受けることを認めることがある。

２　特別研究学生に関する内規は、別に定める。

第 26 条　外国人留学生、外国人研究生に関する内規は、別にこれを定める。

第９章　学　　費

第 27 条　在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

２　外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

３　履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

４　委託生修学料、大学院研修生研修料、大学院研究生及び外国人研究生研究指導料は、所定の期日までに納入しなければならない。

第 28 条　学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、委託生修学料、研修料及び研究指導料を含む。）、教育充実費、論文審査在籍料、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの８にこれを定める。

２　博士課程の後期課程において３年以上又は一貫制博士課程において５年以上在学して所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた者が、学位論文を提出してその審査のために在籍する期間については、論文審査在籍料を納入するものとし、他の学費の納入を要しない。ただし、上記の者が退学した場合、退学日から３年以内に再入学を許可され、再入学と同時に学位論文を提出したときには、本項本文を適用する。

３　協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本学から１学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

４　休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入

学金を除く他の学費の納入を要しない。

5　第 24 条第２項に定める、協定に基づき本学大学院の授業科目を履修するため、他の大学院から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

6　いったん納入した学費は返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

7　履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

8　退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

9　第 23 条第１項に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第 28 条の２　やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（論文審査在籍料、特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

２　前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第 28 条の３　災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

２　前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第 10 章　削　　除

第 29 条　削除

第 11 章　教育研究実施組織及び運営組織

第 30 条　大学院における授業並びに指導は、一定数の本学教員がこれを担当する。

第 31 条　大学院及び各研究科に共通する重要事項は、部長会で審議する。

２　部長会に関する規程は、別に定める。

第 32 条　学部を基礎としない独立研究科には研究科教授会を、学部を基礎とする研究科には研究科委員会を置く。

２　研究科教授会及び研究科委員会は、当該研究科に関する次の事項を審議する。

（1）学生の入学、退学、休学、修了等に関する事項及び学位の授与に関する事項

（2）授業及び研究指導に関する事項

（3）教員の人事に関する事項

（4）学位論文審査に関する事項

（5）学則、研究科諸規程に関する事項

（6）その他研究科長がつかさどる教育研究に関する事項

３　研究科教授会及び研究科委員会は、学長から諮問された事項について審議する。

４　研究科教授会及び研究科委員会は、学生の入学、修了、学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で研究科教授会及び研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

５　研究科教授会及び研究科委員会の組織及び運営に関する事項は、当該研究科教授会又は研究科委員会において定める。

第 33 条　大学院の学務は、学長が総括し、研究科の学務は、当該学部長が研究科長としてこれを管掌し、グローバル・スタディーズ研究科においてはグローバル・スタディーズ研究科長が、脳科学研究科においては脳科学研究科長が、ビジネス研究科においてはビジネス研究科長が管掌する。その他、大学院の事務を遂行するため、職員を置く。

第 33 条の２　本学大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第 12 章　学生の入学定員及び収容定員

第 34 条　各研究科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

（1）区分制博士課程及び修士課程

研究科	前期課程又は修士課程			後期課程		
	専攻	入学定員	収容定員	専攻	入学定員	収容定員
神学研究科	神学専攻	20	40	神学専攻	5	15
文学研究科	哲学専攻	7	14	哲学専攻	3	9
	英文学・英語学専攻	10	20	英文学・英語学専攻	4	12
	文化史学専攻	15	30	文化史学専攻	4	12
	国文学専攻	10	20	国文学専攻	3	9
	美学芸術学専攻	5	10	美学芸術学専攻	3	9
	計	47	94	計	17	51
社会学研究科	社会福祉学専攻	10	20	社会福祉学専攻	6	18
	メディア学専攻	5	10	メディア学専攻	2	6
	教育文化学専攻	7	14	教育文化学専攻	3	9
	社会学専攻	10	20	社会学専攻	5	15
	産業関係学専攻	5	10	産業関係学専攻	2	6
	計	37	74	計	18	54
法学研究科	政治学専攻	40	80	政治学専攻	5	15
	私法学専攻	45	90	私法学専攻	5	15
	公法学専攻	45	90	公法学専攻	5	15
	計	130	260	計	15	45
経済学研究科	理論経済学専攻	25	50	経済政策専攻	5	15
	応用経済学専攻	25	50			
	計	50	100	計	5	15
商学研究科	商学専攻	65	130	商学専攻	5	15
総合政策科学研究科	総合政策科学専攻	70	140	総合政策科学専攻	15	45
文化情報学研究科	文化情報学専攻	30	60	文化情報学専攻	5	15
理工学研究科	情報工学専攻	60	120	情報工学専攻	5	15
	電気電子工学専攻	70	140	電気電子工学専攻	7	21
	機械工学専攻	80	160	機械工学専攻	8	24
	応用化学専攻	80	160	応用化学専攻	7	21
	数理環境科学専攻	25	50	数理環境科学専攻	3	9
	計	315	630	計	30	90
生命医科学研究科	医工学・医情報学専攻	90	180	医工学・医情報学専攻	2	6
	医生命システム専攻	20	40	医生命システム専攻	12	36
	計	110	220	計	14	42
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	10	20	スポーツ健康科学専攻	6	18
心理学研究科	心理学専攻	10	20	心理学専攻	6	18
グローバル・スタディーズ研究科	グローバル・スタディーズ専攻	45	90	グローバル・スタディーズ専攻	18	54
ビジネス研究科	グローバル経営研究専攻	45	90			
合計		984	1,968	合計	159	477

（2）一貫制博士課程

研究科	専攻	入学定員	収容定員
脳科学研究科	発達加齢脳専攻	10	50
合計		10	50

第 13 章　研究指導施設及び厚生保健施設

第 35 条　図書館を設け、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報等を系統的に整備し、教育研究を促進する。

第 36 条　学生の研究のため各研究科に読書研究室を設ける。

第 37 条　教職員及び学生の保健医療には、学生支援機構保健センターを利用する。

第 14 章　雑　　則

第 38 条　京都教育大学大学院連合教職実践研究科教職実践専攻の教育研究の実施に当たっては、協定書に記載の大学等とともに協力するものとする。

第 39 条　本学大学院は、学費及び修学に係る経済的負担の軽減を図るための措置に関する情報を整理し、在学生及び入学志願者に対して明示するように努めるものとする。

附　　則

1　この学則は、2005 年４月１日から施行する。

2　第 20 条第３項の規定は、1989 年度入学生から適用する。

3　第３条及び第 34 条は、文学研究科の改組・再編に伴う、文学研究科社会福祉学専攻、新聞学専攻、教育学専攻、社会学専攻、産業関係学専攻の前期課程又は修士課程の廃止及び社会学研究科社会福祉学専攻、メディア学専攻、教育学専攻、社会学専攻、産業関係学専攻の前期課程の設置並びに文学研究科社会福祉学専攻、新聞学専攻、教育学専攻、社会学専攻の後期課程の廃止及び社会学研究科社会福祉学専攻、メディア学専攻、教育学専攻、社会学専攻、産業関係学専攻の後期課程の設置、文学研究科英文学専攻及び美学および芸術学専攻の前期課程並びに哲学および哲学史専攻、英文学専攻及び美学および芸術学専攻の後期課程の名称変更により 2005 年４月１日から改正施行する。

　なお、廃止又は名称変更を行う各専攻は、2005 年度より学生募集を停止する。ただし、各専攻に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（2005 年４月１日改正）

4　第６条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2005 年度第１年次入学生から適用し、2004 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

5　第 10 条に規定する学位は、2005 年度第１年次入学生から適用し、2004 年度以前の入学生については、従前の規程による。

6　第 23 条の３に規定する再入学は、2004 年度第１年次入学生から適用する。

7　第 28 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2005 年度入学生に適用する。2004 年度以前の入学生については、従前の学費による。

8　第 28 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、休学在籍料については、2003 年度以降在学の学生に適用する。ただし、2002 年度以前の入学生のうち、従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は、その額とする。

附　　則

1　この学則は、2006 年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2006 年度第１年次入学生から適用し、2005 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

3　第 28 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2006 年度入学生に適用する。2005 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　　則

1　この学則は、2007 年４月１日から施行する。

2　第３条及び第 34 条は、神学研究科の改組・再編に伴う、神学研究科聖書神学専攻、歴史神学専攻、組織神学専攻の前期課程の廃止及び神学研究科神学専攻の前期課程の設置並びに神学研究科歴史神学専攻の後期課程の名称変更、及び文化情報学研究科文化情報学専攻の前期課程及び後期課程の設置により改正施行する。

　なお、聖書神学専攻、歴史神学専攻、組織神学専攻の前期課程及び歴史神学専攻の後期課程は、2007 年度より学生募集を停止する。ただし、各専攻に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第６条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2007 年度第１年次入学生から適用し、2006 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

4　第 28 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007 年度入学生に適用する。2006 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　　則

1　この学則は、2008 年４月１日から施行する。

2　第３条及び第 34 条は、工学研究科知識工学専攻及び電気工学専攻の名称変更並びに生命医科学研究科生命医科学専攻の設置により改正施行する。

　なお、知識工学専攻及び電気工学専攻は、2008 年度より学生募集を停止する。ただし、各専攻に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第６条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2008 年度第１年次入学生から適用し、2007 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

4　第 10 条に規定する学位は、2008 年度第１年次入学生から適用し、2007 年度以前の入学生については、従前の規程による。

5　第 28 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008 年度入学生に適用する。2007 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　　則

1　この学則は、2009 年４月１日から施行する。

2　第３条及び第 34 条は、文学研究科心理学専攻の前期課程及び後期課程の廃止及び工学研究科数理環境科学専攻の課程変更並びに心理学研究科心理学専攻の前期課程及び後期課程並びに総合政策科学研究科技術・革新的経営専攻の一貫制博士課程の設置により改正施行する。

　なお、文学研究科心理学専攻の前期課程及び後期課程並びに工学研究科数理環境科学専攻の修士課程は、2009 年度より学生募集を停止する。ただし、各専攻に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、修業年限、在学年限、課程修了の認定、休学期間及び教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第６条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2009 年度第１年次入学生から適用し、2008 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

4　第 10 条に規定する学位は、2009 年度第１年次入学生から適用し、2008 年度以前の入学生については、従前の規程による。

5　第 28 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009 年度入学生に適用する。2008 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　　則

1　この学則は、2010 年４月１日から施行する。

2　第３条、第 33 条及び第 34 条は、スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻の修士課程の設置及びグローバル・スタ

ディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻の前期課程及び後期課程の設置並びにこれに伴うアメリカ研究科アメリカ研究専攻の前期課程及び後期課程の廃止により改正施行する。

なお、アメリカ研究科アメリカ研究専攻の前期課程及び後期課程は、2010年度より学生募集を停止する。ただし、当該専攻に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第４条第４項に規定する長期にわたる教育課程の履修は、2010年度第１年次入学生から適用する。ただし、一貫制博士課程においては、2010年度第１年次入学生及び2010年度転入学生から適用する。

4　第６条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2010年度第１年次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

5　第10条に規定する学位は、2010年度第１年次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、従前の規程による。

6　第28条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2011年４月１日から施行する。

2　第３条及び第34条は、社会学研究科教育学専攻の名称変更により改正施行する。

なお、教育学専攻は、2011年度より学生募集を停止する。ただし、当該専攻に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2011年度第１年次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2012年４月１日から施行する。

2　第３条、第33条及び第34条は、工学研究科、工業化学専攻の名称変更、生命医科学研究科の改組・再編に伴う、生命医科学研究科生命医科学専攻の廃止及び生命医科学研究科医工学・医情報学専攻、医生命システム専攻の設置、スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻の課程変更、脳科学研究科発達加齢脳専攻の設置により改正施行する。

なお、工学研究科各専攻及び生命医科学研究科生命医科学専攻並びにスポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻の修士課程は、2012年度より学生募集を停止する。ただし、当該研究科に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2012年度第１年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

4　第10条に規定する学位は、2012年度第１年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　則

1　この学則は、2013年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2013年度第１年次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2014年４月１日から施行する。

2　第３条、第33条及び第34条は、ビジネス研究科グローバル経営研究専攻の修士課程の設置により改正施行する。

3　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2014年度第１年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

4　第10条に規定する学位は、2014年度第１年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　則

1　この学則は、2015年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2015年度第１年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　第28条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2016年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2016年度第１年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　第28条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

4　第28条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、論文審査在籍料については、2016年度第１年次入学生から適用する。

附　則

1　この学則は、2017年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2017年度第１年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　総合政策科学研究科技術・革新的経営専攻の一貫制博士課程は、2017年度より学生募集を停止する。ただし、当該専攻に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

4　第28条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2018年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2018年度第１年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　第28条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2019年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2019年度第１年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　第 28 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020 年 4 月 1 日以降に再入学する学生に適用する。
4　第 28 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019 年 4 月 1 日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附　　則

1　この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 6 条の別表Ⅱの各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2020 年度第 1 年次入学生から適用し、2019 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　　則

1　この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 6 条の別表Ⅱの各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2021 年度第 1 年次入学生から適用し、2020 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　　則

1　この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 6 条の別表Ⅱの各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2022 年度第 1 年次入学生から適用し、2021 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　　則

1　この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 6 条の別表Ⅱの各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2023 年度第 1 年次入学生から適用し、2022 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。
3　第 28 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2023 年度入学生に適用する。2022 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　　則

1　この学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 6 条の別表Ⅱの各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2024 年度第 1 年次入学生から適用し、2023 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。
3　第 28 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2024 年度入学生に適用する。2023 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　　則

1　この学則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 6 条の別表Ⅱの各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2025 年度第 1 年次入学生から適用し、2024 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。
3　第 28 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2025 年度入学生に適用する。2024 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　　則

1　この学則は、2026 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 6 条の別表Ⅱの各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2026 年度第 1 年次入学生から適用し、2025 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

別表Ⅰ　学費

入学金、授業料及び教育充実費
区分制博士課程及び修士課程

博士課程（前期）又は修士課程　　（年額）

		入学金	授業料	教育充実費
神学研究科 文学研究科 社会学研究科 法学研究科 経済学研究科 商学研究科 総合政策科学研究科 グローバル・スタディーズ研究科	第１年次	200,000 円	515,000 円	117,000 円
	第２年次		715,000 円	117,000 円
	所定単位修得者		357,500 円	58,500 円
文化情報学研究科	第１年次	200,000 円	599,000 円	126,000 円
	第２年次		799,000 円	126,000 円
	所定単位修得者		421,000 円	63,000 円
理工学研究科 生命医科学研究科	第１年次	200,000 円	854,000 円	156,000 円
	第２年次		1,054,000 円	156,000 円
	所定単位修得者		585,000 円	78,000 円
スポーツ健康科学研究科	第１年次	200,000 円	626,000 円	126,000 円
	第２年次		826,000 円	126,000 円
	所定単位修得者		448,000 円	63,000 円
心理学研究科	第１年次	200,000 円	649,000 円	132,000 円
	第２年次		849,000 円	132,000 円
	所定単位修得者		456,000 円	66,000 円
ビジネス研究科 グローバル経営研究専攻	第１年次	200,000 円	586,000 円	132,000 円
	第２年次		786,000 円	132,000 円
	所定単位修得者		393,000 円	66,000 円

（1）授業料及び教育充実費については、各々２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。

（2）学内進学者の入学金については、２分の１とする。

（3）２年を超えて在籍した場合の学費は、第２年次の学費を適用する。

（4）博士課程の前期課程又は修士課程において、２年以上在学し、所定の単位を修得した者は、次の学期から所定単位修得者欄に記載の学費を適用する。ただし、学部又は大学院の授業科目の履修を希望する者及び第４条第４項の規定により長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）については、適用しない。

（5）転入学生の入学金は、200,000 円とし、授業料及び教育充実費は、転入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生及び本学大学院修了生に限り、入学金は２分の１とする。

（6）再入学生の入学金は、100,000 円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度４月 30 日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期 10 月 31 日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000 円とする。

（7）MOT コース生がビジネス研究科を修了し、理工学研究科 MOT コースに転入学した場合は、（5）にかかわらず、授業料は 838,000 円、教育充実費は 78,000 円とし、入学金の全額を免除する。

なお、理工学研究科に１年を超えて在籍した場合の学費は、理工学研究科の第２年次学費を適用する。

（8）長期履修学生の学費については、以下のとおり取り扱う。

ア 授業料は、標準修業年限までの合計額を履修年数で除した額とする。ただし、合計額には長期履修学生となる以前の額は含まない。また、千円未満の端数が発生する場合は、千円単位に切上げ、この学費を適用する最初の年次で調整する。

イ 教育充実費は、標準修業年限を超えた学期以降、標準修業年限における最終年次の教育充実費の２分の１とする。

ウ アの規定にかかわらず、履修期間の短縮が認められた場合の授業料は、標準修業年限までの合計額から既納入額を控除した額とする。

エ アおよびイの規定にかかわらず、認められた履修期間を超えて在籍する場合の学費は、標準修業年限における最終年次の学費を適用する。

オ アの規定にかかわらず、長期履修学生だった者が再入学する場合の授業料は、再入学前を含む履修期間が再入学を許可された年次に在籍する同一履修期間の長期履修学生と同額とする。

博士課程（後期）　（年額）

		入学金	授業料	教育充実費
神学研究科 文学研究科 社会学研究科 法学研究科 経済学研究科 商学研究科 総合政策科学研究科 グローバル・スタディーズ研究科	第１年次	200,000 円	484,000 円	123,000 円
	第２年次		684,000 円	123,000 円
	第３年次		684,000 円	123,000 円
	３年以上在学者		342,000 円	61,500 円
文化情報学研究科	第１年次	200,000 円	570,000 円	133,000 円
	第２年次		770,000 円	133,000 円
	第３年次		770,000 円	133,000 円
	３年以上在学者		362,500 円	66,500 円
理工学研究科 生命医科学研究科	第１年次	200,000 円	825,000 円	162,000 円
	第２年次		1,025,000 円	162,000 円
	第３年次		1,025,000 円	162,000 円
	３年以上在学者		453,500 円	81,000 円
スポーツ健康科学研究科	第１年次	200,000 円	595,000 円	133,000 円
	第２年次		795,000 円	133,000 円
	第３年次		795,000 円	133,000 円
	３年以上在学者		362,500 円	66,500 円
心理学研究科	第１年次	200,000 円	613,000 円	138,000 円
	第２年次		813,000 円	138,000 円
	第３年次		813,000 円	138,000 円
	３年以上在学者		377,000 円	69,000 円

（1）授業料及び教育充実費については、各々２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。

（2）学内進学者からは、入学金を徴収しない。

（3）３年を超えて在籍した場合の学費は、第３年次の学費を適用する。

（4）博士課程の後期課程において、３年以上在学した者は、次の学期から３年以上在学者欄に記載の学費を納入するものとする。ただし、学部又は大学院の授業科目の履修を希望する者及び第４条第４項の規定により長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）については、適用しない。

（5）転入学生の入学金は、200,000 円とし、授業料及び教育充実費は、転入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学大学院修了生に限り、入学金は徴収しない。

（6）再入学生の入学金は、100,000 円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度４月 30 日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期 10 月 31 日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000 円とする。

（7）退学日から３年以内の者で、博士の学位論文の審査を請求するために再入学を許可されたものについては、論文審査在籍料を納入するものとし、他の学費の納入を要しない。

（8）長期履修学生の学費については、以下のとおり取り扱う。

ア 授業料は、標準修業年限までの合計額を履修年数で除した額とする。ただし、合計額には長期履修学生となる以前の額は含まない。また、千円未満の端数が発生する場合は、千円単位に切上げ、この学費を適用する最初の年次で調整する。

イ 教育充実費は、標準修業年限を超えた学期以降、標準修業年限における最終年次の教育充実費の２分の１とする。

ウ アの規定にかかわらず、履修期間の短縮が認められた場合の授業料は、標準修業年限までの合計額から既納入額を控除した額とする。

エ ア及びイの規定にかかわらず、認められた履修期間を超えて在籍する場合の学費は、標準修業年限における最終年次の学費を適用する。

オ アの規定にかかわらず、長期履修学生だった者が再入学する場合の授業料は、再入学前を含む履修期間が再入学を許可された年次に在籍する同一履修期間の長期履修学生と同額とする。

一貫制博士課程　　（年額）

		入学金	授業料	教育充実費
脳科学研究科	第１年次	200,000 円	854,000 円	156,000 円
	第２年次		1,054,000 円	156,000 円
	第３年次		825,000 円	162,000 円
	第４年次		1,025,000 円	162,000 円
	第５年次		1,025,000 円	162,000 円
	所定単位修得者		453,500 円	81,000 円

（1）授業料及び教育充実費については、各々２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。
（2）学内進学者の入学金については、２分の１とする。
（3）５年を超えて在籍した場合の学費は、第５年次の学費を適用する。
（4）一貫制博士課程において、５年以上在学し、所定の単位を修得した者は、次の学期から所定単位修得者欄に記載の学費を納入するものとする。ただし、学部又は大学院の授業科目の履修を希望する者及び第４条第４項の規定により長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）については、適用しない。
（5）転入学生の入学金は、200,000 円とし、授業料及び教育充実費は、転入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生及び本学大学院修了生に限り、入学金は２分の１とする。
（6）再入学生の入学金は、100,000 円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度４月 30 日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期 10 月 31 日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000 円とする。
（7）退学日から３年以内の者で、博士の学位論文の審査を請求するために再入学を許可されたものについては、論文審査在籍料を納入するものとし、他の学費の納入を要しない。
（8）長期履修学生の学費については、以下のとおり取り扱う。
ア 授業料は、標準修業年限までの合計額を履修年数で除した額とする。ただし、合計額には長期履修学生となる以前の額は含まない。また、千円未満の端数が発生する場合は、千円単位に切上げ、この学費を適用する最初の年次で調整する。
イ 教育充実費は、標準修業年限を超えた学期以降、標準修業年限における最終年次の教育充実費の２分の１とする。
ウ アの規定にかかわらず、履修期間の短縮が認められた場合の授業料は、標準修業年限までの合計額から既納入額を控除した額とする。
エ ア及びイの規定にかかわらず、認められた履修期間を超えて在籍する場合の学費は、標準修業年限における最終年次の学費を適用する。
オ アの規定にかかわらず、長期履修学生だった者が再入学する場合の授業料は、再入学前を含む履修期間が再入学を許可された年次に在籍する同一履修期間の長期履修学生と同額とする。

論文審査在籍料

半年又は１年	60,000 円

・論文審査在籍料により在籍する期間に学部又は大学院の授業科目を履修することはできない。

特別在籍料

ダブルディグリープログラムによる留学期間	特別在籍料
１　年	300,000 円
１学期	150,000 円

休学在籍料

休学期間	休学在籍料
１　年	120,000 円
半　年	60,000 円

・母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表Ⅰの２　履修料

履修登録料	全研究科及び高等研究教育院	50,000 円
履修料（１単位につき）	神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	24,000 円
	文化情報学及びスポーツ健康科学研究科	26,000 円
	理工学、生命医科学及び脳科学研究科	33,000 円
	心理学研究科及びビジネス研究科グローバル経営研究専攻	27,000 円
	高等研究教育院	26,000 円

（1）研究科において、履修料の総額が当該年度の第１年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
（2）本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、２分の１とする。
（3）学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
（4）複数の研究科及び高等研究教育院に併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの３　聴講料

聴講登録料	全研究科	50,000 円
聴講料（１単位につき）	神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	16,000 円
	文化情報学及びスポーツ健康科学研究科	17,000 円
	理工学、生命医科学及び脳科学研究科	22,000 円
	心理学研究科及びビジネス研究科グローバル経営研究専攻	18,000 円

（1）聴講料の総額が当該年度の第１年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
（2）本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、２分の１とする。
（3）学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
（4）複数の研究科に併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの４　委託生修学料

（年額）

研究科	修学料
神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	307,500 円
文化情報学研究科	349,500 円
理工学、生命医科学及び脳科学研究科	477,000 円
スポーツ健康科学研究科	363,000 円
心理学研究科	374,500 円
ビジネス研究科グローバル経営研究専攻	343,000 円

修学期間が春学期又は秋学期に限る場合は、修学料を２分の１とする。

別表Ⅰの５　外国人留学生（特別学生）　入学金及び研修料

	入学金	研修料（年額）	研修料（年度内の在学期間が７月以内の場合）
神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	50,000 円	480,000 円	240,000 円
文化情報学及びスポーツ健康科学研究科	50,000 円	520,000 円	260,000 円
理工学、生命医科学及び脳科学研究科	50,000 円	660,000 円	330,000 円
心理学研究科及びビジネス研究科グローバル経営研究専攻	50,000 円	540,000 円	270,000 円

（1）研修料については、２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。
（2）特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
（3）期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第４条第２項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
（4）秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
（5）特別学生が、年度内に 20 単位（年度内の在学期間が７月以内の場合は 10 単位）を超えて学科目登録をする場合は、超過する分１単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録するときは学則別表Ⅰの２に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録するときは大学院学則別表Ⅰの２に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録するときは専門職大学院学則別表Ⅰの２に定める履修料相当額を、国際教養教育院科目を登録するときは学則別表Ⅰの２に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
（6）研修料の総額が当該年度の第１年次の授業料を超える場合は、その額にとどめる。
（7）外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しないときがある。

別表Ⅰの６　外国人研究生　研究指導料

（月額）

課程	研究科	研究指導料
博士課程（前期課程）又は修士課程	神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	26,000 円
	文化情報学及びスポーツ健康科学研究科	27,000 円
	理工学及び生命医科学研究科	35,000 円
	心理学研究科及びビジネス研究科グローバル経営研究専攻	29,000 円
博士課程（後期課程）	神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	26,000 円
	文化情報学及びスポーツ健康科学研究科	27,000 円
	理工学及び生命医科学研究科	35,000 円
	心理学研究科	29,000 円
一貫制博士課程	脳科学研究科	35,000 円

別表Ⅰの７　大学院研究生　研究指導料

研究科	研究指導料	
	1年	半年
神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	309,000 円	154,500 円
文化情報学及びスポーツ健康科学研究科	329,000 円	164,500 円
理工学及び生命医科学研究科	420,000 円	210,000 円
心理学研究科	344,000 円	172,000 円
脳科学研究科	420,000 円	210,000 円

別表Ⅰの８　大学院研修生　研修料

研究科	研修料	
	1年	半年
神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、総合政策科学及びグローバル・スタディーズ研究科	307,500 円	153,750 円
文化情報学及びスポーツ健康科学研究科	328,000 円	164,000 円
理工学及び生命医科学研究科	419,000 円	209,500 円
心理学研究科及びビジネス研究科グローバル経営研究専攻	343,000 円	171,500 円

別表Ⅰの９　入学検定料

区分		金額
一般入学試験 その他特別入学試験 転入学試験		35,000 円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験	書類選考及び研究科独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
法学研究科ダブル・ディグリーコース入学試験		10,000 円
理工学研究科・生命医科学研究科 国際科学技術コース入学試験 ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 入学試験	書類選考及び研究科独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円

別表Ⅱ　各研究科人材養成目的及び授業科目一覧表　（省略）

同志社大学学位規程

（2025年4月1日改正）

この規程は、学校教育法第104条及び学位規則（昭和28年文部省令第9号）に準拠して制定したものである。

（学位の授与）

第1条　同志社大学学位は、この規程に基づきこれを授与する。

学位は、博士、修士、専門職及び学士とする。

（博士の学位）

第2条　博士の学位に付記する専攻分野の名称及び英文学位の名称は、次のとおりとする。

専攻分野の名称	英文学位の名称
神学	Doctor of Theology
一神教研究	Doctor of Philosophy in Monotheistic Studies
哲学	Doctor of Philosophy
英文学	Doctor of Philosophy in English Literature
英語学	Doctor of Philosophy in English Linguistics
文化史学	Doctor of Philosophy in History
国文学	Doctor of Philosophy in Japanese Literature
芸術学	Doctor of Philosophy in Art Theory
社会福祉学	Doctor of Philosophy in Social Welfare
メディア学	Doctor of Philosophy in Media Studies
教育文化学	Doctor of Philosophy in Education and Culture
社会学	Doctor of Philosophy in Sociology
産業関係学	Doctor of Philosophy in Industrial Relations
政治学	Doctor of Political Science
法学	Doctor of Laws
経済学	Doctor of Economics
商学	Doctor of Philosophy in Commerce
政策科学	Doctor of Philosophy in Policy and Management
ソーシャル・イノベーション	Doctor of Philosophy in Social Innovation
文化情報学	Doctor of Culture and Information Science
工学	Doctor of Philosophy in Engineering
理学	Doctor of Philosophy in Science
スポーツ健康科学	Doctor of Philosophy in Health and Sports Science
心理学	Doctor of Philosophy in Psychology
アメリカ研究	Doctor of Philosophy in American Studies
現代アジア研究	Doctor of Philosophy in Contemporary Asian Studies
グローバル社会研究	Doctor of Philosophy in Global Society Studies
学術	Doctor of Arts

（博士の学位授与の要件）

第3条　博士の学位は、大学院の博士課程を修了した者に授与するものとする。

2　大学院の課程を経ない者であっても、所定の博士論文の審査に合格し、かつ本条第1項に該当する者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与するものとする。

（修士の学位）

第4条　修士の学位に付記する専攻分野の名称及び英文学位の名称は、次のとおりとする。

専攻分野の名称	英文学位の名称
神学	Master of Arts in Theology
一神教研究	Master of Arts in Monotheistic Studies
哲学	Master of Arts in Philosophy
英文学	Master of Arts in English Literature
英語学	Master of Arts in English Linguistics
文化史学	Master of Arts in History
国文学	Master of Arts in Japanese Literature
美学	Master of Arts in Aesthetics
芸術学	Master of Arts in Art Theory
社会福祉学	Master of Social Welfare
メディア学	Master of Arts in Media Studies
教育文化学	Master of Arts in Education and Culture
社会学	Master of Arts in Sociology
産業関係学	Master of Arts in Industrial Relations
政治学	Master of Political Science
比較政治学	Master of Arts in Comparative Political Studies
法学	Master of Laws
経済学	Master of Economics
商学	Master of Commerce
政策科学	Master of Arts in Policy and Management
ソーシャル・イノベーション	Master of Arts in Social Innovation
文化情報学	Master of Culture and Information Science
工学	Master of Science in Engineering
理学	Master of Science
スポーツ健康科学	Master of Health and Sports Science
心理学	Master of Arts in Psychology
アメリカ研究	Master of Arts in American Studies
現代アジア研究	Master of Arts in Contemporary Asian Studies
グローバル社会研究	Master of Arts in Global Society Studies
経営学	Master of Business Administration
学術	Master of Arts

（修士の学位授与の要件）

第5条　修士の学位は、大学院の博士課程の前期課程又は修士課程を修了した者に授与するものとする。

（専門職学位）

第５条の２　本学において授与する専門職学位及び英文学位の名称は、次のとおりとする。

学位名	英文学位の名称
法務博士（専門職）	Juris Doctor
ビジネス修士（専門職）	Master of Business Administration

（専門職学位授与の要件）

第５条の３　専門職学位は、大学院の専門職学位課程を修了した者に授与するものとする。

（学士の学位）

第６条　学士の学位に付記する専攻分野の名称及び英文学位の名称は、次のとおりとする。

専攻分野の名称	英文学位の名称
神学	Bachelor of Arts in Theology
英文学	Bachelor of Arts in English
哲学	Bachelor of Arts in Philosophy
美学芸術学	Bachelor of Arts in Aesthetics and Art Theory
文化史学	Bachelor of Arts in History
国文学	Bachelor of Arts in Japanese Literature
社会学	Bachelor of Arts in Sociology
社会福祉学	Bachelor of Social Welfare
メディア学	Bachelor of Media,Journalism and Communications
産業関係学	Bachelor of Industrial Relations
教育文化学	Bachelor of Arts in Education and Culture
法学	Bachelor of Laws
政治学	Bachelor of Political Science
経済学	Bachelor of Economics
商学	Bachelor of Commerce
政策学	Bachelor of Arts in Policy Studies
文化情報学	Bachelor of Culture and Information Science
工学	Bachelor of Engineering
理学	Bachelor of Science
スポーツ健康科学	Bachelor of Health and Sports Science
心理学	Bachelor of Arts in Psychology
グローバル・コミュニケーション学	Bachelor of Global Communications
グローバル地域文化学	Bachelor of Global and Regional Studies
国際教養	B.A. in Liberal Arts

（学士の学位授与の要件）

第７条　学士の学位は、大学を卒業した者に授与するものとする。

（学位論文の審査及び試験）

第８条　第３条第１項及び第２項に関する博士論文の審査及び試験、又は学力の確認並びに第５条に関する修士論文の審査及び試験は、次の手続によって行う。

（1）第３条第１項及び第５条に関する学位論文の審査を請求する者は、自著の論文３通に履歴書及び所定の学位論文審査願を添え､研究科教授会又は研究科委員会を通じて学長に提出する。

（2）第３条第２項に関する学位論文の審査を請求する者は、自著の論文３通に履歴書及び所定の学位申請書を添え、審査にあたる研究科教授会又は研究科委員会を通じて学長に提出する。学長は、これを受理するとともに、相当する研究科教授会又は研究科委員会に審査及び試験、又は学力の確認を委嘱する。

（3）研究科教授会又は研究科委員会は、審査委員３名を選定する。ただし、研究科教授会又は研究科委員会が審査のために必要と認めたときは、博士論文の審査委員を４名又は５名とすることができる。

（4）審査委員は、互選によって主査委員を定めるものとする。

（5）審査委員は、可及的速かに論文の審査をしなければならない。審査にあたって、直接口頭による総合試験、又は面接のうえ学力の確認を行う。この試験又は学力の確認は、学位論文を中心とし、これに関連ある分野にわたる総合試験、又は学力の確認の大綱は、審査委員において協議して定める。

（6）主査委員は、論文審査及び総合試験、又は学力の確認の要旨、評点を記録し研究科教授会又は研究科委員会に提出し意見を開陳する。

（7）研究科教授会及び研究科委員会は、構成員の３分の２以上出席し、その３分の２以上の同意をもって、学位論文の審査及び総合試験、又は学力の確認の結果について合否を決定する。
　票決は無記名投票とする。

（8）学長は研究科教授会又は研究科委員会において合格が判定されたときは、研究科長会の審議に付し、学位授与の可否を決定する。

（学位論文の審査の協力）

第８条の２　前条の学位論文の審査にあたっては、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

（博士の学位審査手数料）

第９条　第３条第２項による博士論文の審査及び学力の確認については、手数料を必要とする。その額は、別表１にこれを定める。

（記録の保存）

第 10 条　学長は、学位授与に関し、審査及び試験又は学力の確認の経過その他必要事項を記録した記録簿を作成し、これを保存しなければならない。

（学 位 記）

第 11 条　学位を授与された者には、所定の学位記をもってこれを証する。

２　学位記の様式は、別表２にこれを定める。

３　大学院学則第６条の７に定める博士課程教育リーディングプログラムを修了した者の学位記には、当該プログラムを修了した旨付記するものとする。

（博士論文要旨等の公表）

第 12 条　本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から３月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を、インターネット

の利用により公表するものとする。

（博士論文の公表）
第13条　博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を、インターネットの利用により公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前にすでにインターネットの利用により公表したときは、この限りでない。
2　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、研究科教授会又は研究科委員会の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
3　博士の学位を授与された者が行う前条及び前2項の規定によるインターネットの利用による公表は、同志社大学学術リポジトリにより行うものとする。

（報　　告）
第14条　博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、別記様式による学位授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

（学位の名称）
第15条　この規程により博士、修士、専門職又は学士の学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、本大学名を付記するものとする。

（学位授与の取消）
第16条　不正の方法により学位を授与された事実の判明したときは、すでに授与した学位を取り消すものとする。
2　学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったときは、その学位を取り消すことができる。
3　第1項の学位の取消し手続きは、別に定める。
4　第1項により学位を取消された者の学籍は退学とし、再入学は認めないものとする。
5　学位規程第3条第2項により授与された学位を第1項により取消された者は、本学に対して学位論文の審査を請求することはできない。

附　　則
1　この規程は、2005年4月1日から施行する。
2　第2条、第4条及び第6条に規定する学位は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
1　この規程は、2006年4月1日から施行する。
2　第4条に規定する学位は、2006年度第1年次入学生から適用し、2005年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
1　この規程は、2007年4月1日から施行する。
2　第2条、第4条及び第6条に規定する学位は、2007年度第1年次入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
1　この規程は、2008年4月1日から施行する。
2　第2条、第4条及び第6条に規定する学位は、2008年度第1年次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
1　この規程は、2009年4月1日から施行する。
2　第2条、第4条、第5条及び第6条に規定する学位は、2009年度第1年次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
1　この規程は、2010年4月1日から施行する。
2　第2条、第4条及び第5条に規定する学位は、2010年度第1年次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
1　この規程は、2011年4月1日から施行する。
2　第6条に規定する学位は、2011年度第1年次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
1　この規程は、2012年4月1日から施行する。
2　第2条、第4条及び第5条に規定する学位は、2012年度第1年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　　則
1　この規程は、2013年4月1日から施行する。
2　第4条及び第6条に規定する学位は、2013年度第1年次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
この規程は、2013年4月1日から施行する。

附　　則
1　この規程は、2014年4月1日から施行する。
2　第2条、第4条、第5条及び第6条に規定する学位は、2014年度第1年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　　則
この規程は、2015年4月1日から施行する。

附　　則
この規程は、2016年4月1日から施行する。

附　　則
この規程は、2017年4月1日から施行する。

附　　則
この規定は、2019年4月1日から施行する。

附　　則

この規定は、2020年４月１日から施行する。

附　　則

この規定は、2025年４月１日から施行する。

別表１　博士の学位審査手数料

博士課程の後期課程において３年以上又は一貫制博士課程において５年以上在学し、所定の研究指導を受けた者で、退学日から３年以内の期間内に学位論文を提出する場合	25,000円
博士課程の後期課程において３年以上又は一貫制博士課程において５年以上在学し、所定の研究指導を受けた者で、退学日から３年を超える期間経過した後学位論文を提出する場合	150,000円
学外者で、論文提出による場合	150,000円
学内教職員で、論文提出による場合	75,000円

備考　博士課程の後期課程又は一貫制博士課程に在学する者及び在学中に学位論文を提出して退学した者の審査手数料は不要。

別表２　学位記様式　（略）

大学院一般内規（博士課程・修士課程・専門職学位課程共用）

（2024年4月1日改正）

学　年　暦

別に定める「学年暦」は、年間の行事を示し、特別の通知・掲示がない限りこのとおり行われる。行事の詳細については、その都度指示する。

学籍番号

1　学生には、入学と同時に学籍番号が付与され、在学する期間を通じて変わらない。

2　転入学生には、転入学を許可された年次に該当する入学年度を冠した学籍番号が付与される。

3　再入学生には、再入学を許可された年次に該当する入学年度を冠した学籍番号が付与される。

学　生　証

1　学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯しなければならない。

2　学生証は、課程修了、退学及び除籍の場合は、直ちに返納しなければならない。

3　学生証を紛失したときは、直ちに届け出て再交付を受けなければならない。ただし、別に定める手数料を納入することを要する。

4　学生証は、他人に貸与又は譲渡してはならない。

履修科目の登録

1　履修する科目は、学年暦に定められた期間に登録しなければならない。ただし、在学留学が認められた場合は、これによらないことがある。

2　留学期間中に外国の大学の大学院で取得した単位のうち、「外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規」により当該研究科教授会又は研究科委員会が認定したものは、本学で修得した単位に加算する。

3　合格となった科目は、再度登録履修することはできない。ただし、司法研究科については、別に定める取扱いによる。

試　　験

1　学費未納のままでは受験できない。

2　未登録の授業科目は、受験できない。

3　授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取り消すことがある。

4　試験には、必ず学生証を持参しなければならない。

5　試験に15分以上遅刻した者は、受験を許さない。また、試験開始後30分経過するまでは退室できない。

修士論文・学位授与式

1　修士論文

（1）論文題目は当該研究科の定める期日までに、所定の様式により2通提出すること。これにより論文指導の担当者が決定される。

（2）論文の提出期日、論文用紙及び制限枚数は、当該研究科において別に定める。

（3）提出部数は3部とし、それぞれに参考文献目録、梗概及び提出者の写真を添付すること。

（4）参考文献目録、付図、付表等は論文の制限枚数に算入しない。

（5）論文は、大学院において製本・保管する。製本に要する費用は、納入しなければならない。

2　学位授与式

春学期末と秋学期末の2回とし、大学の卒業式と同時に行う。

学　業　成　績

1　学業成績は、A＋、A、B＋、B、C＋、C及びFで評価し、C以上の成績を合格とする。ただし、研究科の定めるところにより、特定の授業科目の学業成績は、合格又は不合格で評価することができる。

2　成績は、成績原簿に記録される。

3　不合格となった科目を再履修し、合格となった場合は、直近の不合格の評価のみ改変される。

届書・願書

届書及び願書には、次のようなものがある。

1　届　　書

（1）改姓（名）届　　戸籍抄本添付のこと。

（2）性別変更届　　戸籍抄本添付のこと。

（3）住所変更届

2　願　　書

（1）休　学　願　　理由記載、適宜証明書類添付のこと。

（2）退　学　願　　理由記載のこと。

（3）再 入 学 願　　理由記載のこと。

（4）通称名使用願　　診断書添付のこと。

（5）旧姓名使用願　戸籍抄本等、旧姓名を確認できる証明書類添付のこと。

（6）在学留学願　留学する大学の大学院の入学許可書添付のこと。

（7）転研究科転専攻願　理由記載のこと。

以上の各種届書及び願書は、所定様式により提出する。必要によっては、当該研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て処理される。なお、教室使用願、物品使用願等は、願い出責任者を明記のうえ、教育支援機構教務部に提出すること。

再　入　学

1　退学日又は除籍日から５年以内に限り、当該研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て、再入学を許可する。

2　再入学の時期は、学期の始めとする。

3　再入学を許可する研究科・専攻は、退学又は除籍時の研究科・専攻とする。ただし、退学又は除籍時の研究科・専攻が存在しない場合及び学生募集が停止されている場合は、当該学生の再入学願を審議する研究科教授会又は研究科委員会は、学長が指定する。

4　再入学を許可する年次、修業年限及び在学年限は、再入学前に在籍していた期間により定める。

5　再入学生の教育課程は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同様とする。

6　前２項の規定にかかわらず、退学日から３年以内の者で、博士の学位論文の審査を請求するために再入学を許可されたものについては、再入学後の学籍は退学時のものとする。

転研究科・転専攻

1　転研究科及び転専攻は、やむを得ない事情の生じた場合に限り、関係研究科教授会又は研究科委員会の審議を経て許可することがある。ただし、課程を変更することは、認めない。

2　いったん転研究科・転専攻を許可した学生の再転研究科・転専攻は認めない。

3　転研究科・転専攻願書の受付期限は秋学期講義最終日とし、許可決定の時期は、当該年度の終わりとする。

免許資格課程登録料

免許資格課程を登録する者は、次の各号の免許資格課程登録料を納入しなければならない。

（1）教職課程　30,000 円

（2）博物館学芸員課程　10,000 円

（3）図書館司書課程　10,000 円

2　免許資格課程登録料の詳細は、別に定める。

教育実習費

教育実習を登録する者は、登録と同時に実習費を納めなければならない。

諸会費

本学が代理徴収を行う学会及び卒業生団体の諸会費は、所定の期日までに納入しなければならない。

教員免許状

中学校教諭、高等学校教諭等の教育職員免許状を得ようとする者は、所定の教職課程科目の単位を修得しなければならない。

附　則

この内規は 2024 年４月１日から施行する。

大学院研究生に関する内規

（2023年４月１日改正）

第１条　大学院学則第24条の３の研究生に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第２条　研究生として研究を希望する者は、所定の研究生願書に指導教授の推薦書及び写真を添えて、学期の開始前に当該研究科長に願い出るものとする。

第３条　研究生の研究期間は、学期始めから１年又は半年とする。継続して研究を希望する者は、研究期間が終了するまでに、理由を付して当該研究科長に願い出なければならない。

第４条　研究生として研究を許可された者は、所定の期日までに別に定める研究指導料を納入しなければならない。

２　研究生には、研究生証を交付する。

第５条　研究生が、授業科目を履修又は聴講しようとするときは、科目等履修生又は聴講生とならなければならない。

第６条　研究生が学内施設及び設備を使用するときは、研究生証を提示しなければならない。

第７条　この内規の実施に関する事務は、教育支援機構教務部今出川校地教務課の所管とする。

第８条　この内規の改廃は、部長会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、2023年４月１日から施行する。

大学院研修生に関する内規

（2023年４月１日改正）

第１条　大学院学則第24条の４及び専門職大学院学則第38条の研修生に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第２条　研修生として研修を希望する者は、所定の研修生願書に指導教員の推薦書及び写真を添えて、学期の開始前に当該研究科長に願い出るものとする。

第３条　研修生の研修期間は、学期始めから１年又は半年とする。継続して研修を希望する者は、研修期間が終了するまでに、理由を付して当該研究科長に願い出なければならない。

第４条　研修生として研修を許可された者は、所定の期日までに別に定める研修料を納入しなければならない。

２　研修生には、研修生証を交付する。

第５条　研修生が、授業科目を履修又は聴講しようとするときは、科目等履修生又は聴講生とならなければならない。

第６条　研修生が学内施設及び設備を使用するときは、研修生証を提示しなければならない。

第７条　この内規の実施に関する事務は、教育支援機構教務部今出川校地教務課の所管とする。

第８条　この内規の改廃は、部長会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、2023年４月１日から施行する。

外国の大学に留学する学生の取扱に関する内規

（設置）

第１条　本学の学部又は大学院の学生が、本学の教育課程の一環として同志社大学学則第 27 条の２、同志社大学大学院学則第 20 条の２、同志社大学専門職大学院学則第 29 条又は同志社大学法科大学院学則第 15 条により留学する場合は、この内規の定めるところによる。

（教育機関の定義）

第２条　この内規において外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育機関をいう。

２　外国の大学の調査認定は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が行う。

（留学の定義）

第３条　この内規において留学とは、本学の許可を受けて外国の大学に在学し、科目を履修し、又は研究指導を受けることをいう。

（条件）

第４条　この内規の適用を受けて留学する学生は、次の要件を満たさなければならない。

ただし、大学院学生には適用しない。

（1）本学に１年以上在学していること。

（2）30 単位以上修得していること。

２　前項第２号は、当該学部教授会の認める特別の事情がある場合には、適用しない。

（学籍）

第５条　この内規の適用を受けて留学する学生の本学学籍上の取扱は、在学留学とし、休学としない。ただし、学生が休学を認められ、外国の大学で学修する場合は、この内規は適用しない。

（期間）

第６条　在学中に留学できる期間は、１年以内とする。在学留学期間の算定は、留学先大学の別にかかわらず、当該教育課程における在学留学期間の通算にて行う。

２　当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、１年間を限度として、在学留学期間の延長を許可する。

（履修）

第７条　留学する大学での履修については、留学前に留学する大学の授業科目を検討した上、当該学部又は研究科の指導を受けなければならない。

（学生納付金）

第８条　この内規の適用を受けて留学する学生は、留学中所定の学生納付金を納入しなければならない。

（手続）

第９条　外国の大学に留学する学生で、この内規の適用を希望する場合は、在学留学願を当該学部長又は研究科長を経て学長に提出するものとする。

２　出発・帰国に際しては、留学出発・帰国届を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

３　在学留学期間の延長を願い出る場合は、在学留学延長願を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出するものとする。

（単位認定）

第 10 条　単位認定を受けようとする者は、帰国後速やかに、次に掲げる必要書類（留学した大学の発行するもの）を添付した取得単位認定願を、当該学部長又は研究科長に提出するものとする。

（1）成績証明書（時間数、単位数、科目名を明記したもの）

（2）指導教員又はこれに準ずる教員の所見を記したもの

（3）受講した科目の内容を説明した教授細目

（4）大学履修要項

２　当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会は、関係機関と協議の上審議し、留学した大学での取得単位を学則の定めるところにより認定することができる。

（帰国後の登録及び履修）

第 11 条　留学した学生の帰国直後の春学期又は秋学期における登録及び履修については、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が出国時までの履修状況等を勘案し、特別の措置を講ずることがある。なお、設置科目によっては関係機関との協議を必要とする。

（事務）

第 12 条　この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際課が取り扱う。

（改廃）

第 13 条　この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、2026 年４月１日から施行する。

同志社大学外国協定大学派遣留学生に関する内規

（目的）

第１条　この内規は、同志社大学外国協定大学派遣留学生制度を設け、本学の外国協定大学に学生を派遣し、もって本学建学の精神である国際主義を体得した学生を養成することを目的とする。

（定義）

第２条　この制度による外国協定大学派遣留学生（以下「派遣留学生」という。）とは、本学と外国の大学との大学間協定に基づき、学長の推薦により、外国の大学に留学する学生をいう。

（取扱）

第３条　派遣留学生として留学をする場合は、この内現によるほか、「外国の大学に留学する学生の取扱に関する内規」の定めるところによる。

（出願条件）

第４条　派遣留学生として出願できる学生は、学力、人物共に優秀で本制度の趣旨をよく理解し、留学年度の４月１日現在、学部２年次生以上の者又は大学院に在学中の者とする。

（義務）

第５条　派遣留学生として留学を希望する学生は、募集要項に定める出願書類を指定された期日までに提出しなければならない。

（推薦方法）

第６条　派遣留学生は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の推薦に基づき、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が候補者を決定し、留学先大学に推薦する。

（候補者の決定）

第７条　派遣留学生の最終決定は、留学先大学による当該留学生の受入決定に基づき、学長がこれを行う。

（留学期間）

第８条　留学期間は、留学先大学の正規の１年以内とする。ただし、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が外国協定大学への在学留学期間の延長を認めることがある。

（事務）

第９条　この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際課が取り扱う。

（改廃）

第10条　この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、2026年４月１日から施行する。

関西四大学大学院学生の単位互換に関する協定書

（2004 年４月１日改正）

関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学は、各大学大学院の規則に定めるところにより、大学院の学生を相互に派遣し、他大学大学院の授業科目を履修し単位を取得することを認めるにあたり、次の事項について合意に達したので、ここに協定を締結する。

〔受入れ〕
第１条　各大学大学院の修士課程、博士課程（前期および後期の課程に区分した博士課程、もしくはこの区分を設けない博士課程のいずれも含む）、または専門職学位課程に在籍する正規の学生が、研究上の必要により他大学大学院の授業科目の履修および単位の取得を希望するときは、当該授業科目を開設する大学の学長は当該学生を受け入れることができる。

〔単位互換履修生〕
第２条　各大学大学院は、前条により受け入れた学生を「関西四大学単位互換履修生」(以下､「履修生」という。) として取り扱う。

〔履修期間〕
第３条　履修生の履修期間は、履修生の希望を勘案のうえ、受入大学大学院が決定する。

〔授業科目の範囲および単位数〕
第４条　履修生が履修できる授業科目の範囲および取得できる単位数は、別に定める。

〔受入学生数〕
第５条　各授業科目に履修生として受け入れる学生数は、受入大学大学院が決定する。

〔派遣および受入手続〕
第６条　履修生の派遣および受入手続は、別に定める。

〔単位の授与等〕
第７条　履修生の履修方法、単位の授与等については、受入大学大学院の正規の学生と同様に扱う。

〔履修料等〕
第８条　履修生の選考料および履修料等は、別に定める。

〔覚書〕
第９条　本協定の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

附　則
１　この協定は、1998（平成 10）年４月１日から施行する。
２　この協定の締結に伴い 1998（平成 10）年３月 31 日をもって「関西四大学大学院学生の交流に関する申合せ」は廃止する。
３　この協定は、2004（平成 16）年４月１日から改正施行する。

障がいのある学生への受講に対する配慮

身体、精神・発達等に障がいのある学生が、他の学生と等しい条件のもとで科目を受講できるよう、「合理的配慮」について検討します。

合理的配慮を希望される場合は、スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援センター（SDA センター）までご相談ください。

単位制について

単位制とは、各研究科ごとに定められた授業科目を登録・履修し、試験に合格することによりそれぞれの授業科目の所定の単位を得、修業年限中に修了に必要な単位数を修得していく制度です。

下記に記載している大学院学則のとおり、１単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて標準 45 時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。授業だけでなく、準備学習や復習の時間の重要性をよく理解しておくようにしてください。

修了必要単位数は研究科によって異なるので、所属研究科の欄を参照してください。大学院授業科目の単位数の計算は、次の基準によります（大学院学則第６条）

第６条　各研究科の教育課程は、各研究科が学校教育法施行規則第 165 条の２第１項第１号及び第２号により定める方針に基づき編成し、授業科目、履修方法等は、別表Ⅱにおいてこれを定める。授業科目の単位数は、１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

（１）講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で本学大学院が定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）実験及び実習については、30 時間から 45 時間までの範囲で本学大学院が定める時間の授業をもって１単位とする。

（３）第１号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前２号に規定する基準を考慮して本学大学院が定める。

２０２６年度

大学院学年暦

同志社大学

司法研究科・ビジネス研究科以外

春学期　17週（102日）

2026年

4月 1日	（水）	春学期始め・春学期入学式
2日	（木）	新入学生履修指導期間
3日	（金）	
4日	（土）	オンデマンド授業期間
5日	（日）	（DO Week）
6日	（月）	
7日	（火）	
8日	（水）	
9日	（木）	
10日	（金）	
11日	（土）	面接授業開始（注１）
28日	（火）	春学期学費納入最終日
4月29日	（水）	休日
～		
5月 5日	（火）	
6日	（水）	振替休日（授業日）
7月 17日	（金）	面接授業最終日
18日	（土）	期末試験開始
20日	（月）	海の日（試験日）
31日	（金）	期末試験終了
8月 1日	（土）	期末試験予備日・夏期休暇開始
1日	（土）	春学期集中講義期間
～		
7日	（金）	
9月 10日	（木）	春学期学位論文総合審査日
		夏期休暇終了
11日	（金）	在学生成績通知（注２）
20日	（日）	春学期終り
26日	（土）	春学期学位授与式

※ 1週分のオンデマンド授業は、各学期の面接授業開始以降、成績評価を終えるまでに配信される。

（注１）２年次生以上は前年度３月の成績通知日以降、１年次生は入学式以降、この面接授業開始日までに、履修科目登録期間が設定される。

（注２）成績通知日以降、秋学期の面接授業開始日までに、履修科目登録変更期間が設定される。

（注３）成績通知日以降、翌年度４月の面接授業開始日までに、履修科目登録期間が設定される。

秋学期　18週（108日）

9月21日	（月）	秋学期始め・秋学期入学式
25日	（金）	オンデマンド授業期間
26日	（土）	（DO Week）
27日	（日）	
28日	（月）	
29日	（火）	
30日	（水）	
10月 1日	（木）	
2日	（金）	面接授業開始
12日	（月）	スポーツの日（授業日）
30日	（金）	秋学期学費納入最終日
11月 3日	（火）	文化の日（授業日）
23日	（月）	勤労感謝の日（授業日）
26日	（木）	創立記念行事週間（休講）
27日	（金）	
28日	（土）	
29日	（日）	創立記念日（休日）
12月25日	（金）	キリスト降誕日(休日)･冬期休暇開始

2027年

1月 6日	（水）	冬期休暇終了
7日	（木）	面接授業再開
11日	（月）	成人の日（休日）
18日	（月）	面接授業最終日
19日	（火）	期末試験開始
23日	（土）	創立者永眠の日
2月 8日	（月）	期末試験終了
12日	（金）	秋学期集中講義期間
～		
18日	（木）	
3月 4日	（木）	秋学期学位論文総合審査日
9日	（火）	在学生成績通知（注３）
20日	（土）	秋学期学位授与式
21日	（日）	
22日	（月）	
31日	（水）	秋学期終り

2026年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	●29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
●3	●4	●5	●6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	●20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	●11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	●21	●22	●23	24	25	26
27	28	29	30			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	●12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	●3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	●23	24	25	26	27	28
29	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2027年

1月

日	月	火	水	木	金	土
					●1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	●11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	●11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	●23	24	25	26	27
28						

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
●21	●22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●印は「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
授業時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:10～14:40	14:55～16:25	16:40～18:10
	Ⅵ	Ⅶ			
	18:25～19:55	20:10～21:40			

大学院研究科専攻別授業科目
および履修方法

博士課程(前期課程)
または修士課程

神学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆目指すべき人材（物）像

◇博士課程（前期課程）

【神学】

神学研究科神学専攻博士課程（前期）は、人類の営みに深く関わり、生きるための知恵と力を生み出してきた宗教、とりわけキリスト教を批判的・学問的に分析することをとおして、幅の広い人間理解と深い知的洞察力を身につけ、諸問題を的確に把握して対応できる高度な専門家及び国際社会で活躍できる研究者の養成を目指している。具体的には、修了後の進路として以下のものが挙げられる。

（1）キリスト教会の牧師、キリスト教主義学校の聖書科教員、社会事業家、研究者など、キリスト教関連の高度な専門家

（2）宗教に関する知識を持った専門家として、一般企業で活躍が期待される職業人

【一神教研究】

神学研究科神学専攻博士課程（前期）は、人類の営みに深く関わり、生きるための知恵と力を生み出してきた宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教を批判的・学問的に分析することをとおして、幅の広い人間理解と深い知的洞察力を身につけ、諸問題を的確に把握して対応できる高度な専門家及び国際社会で活躍できる研究者の養成を目指している。具体的には、修了後の進路として以下のものが挙げられる。

（1）多様な文明の共存のために、政府機関、国際機関、NGO、研究機関などで働く高度な専門家

（2）学校教員、社会事業家、研究者など、宗教関連の高度な専門家

（3）宗教に関する知識を持った専門家として、一般企業で活躍が期待される職業人

◆ディプロマ・ポリシー

【神学】

（知識・技能）

宗教、とりわけキリスト教とその世界に関し、人間・言語・歴史・文化・社会に対する学術的研究を行うための専門的な知識を習得し、方法論や語学力を身につけている。

（思考力・判断力・表現力）

宗教、とりわけキリスト教とその世界に関する諸問題を積極的に発見し、その適正な解決方策を探求するために、習得した知識、方法論、語学力を運用して論理的な分析と考察を行い、その成果を口頭で発表し、論文にまとめる表現力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

宗教、とりわけキリスト教とその世界に関する課題を自ら設定し、習得した知識と研究方法をもって主体的に研究を進めることができる。また、様々な先行研究にあたり、他者との対話や協力をとおして課題解決のための方策を探求できる。

【一神教研究】

（知識・技能）

宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教とその世界に関し、人間・言語・歴史・文化・社会に対する学術的研究を行うための専門的な知識を習得し、方法論や語学力を身につけている。

（思考力・判断力・表現力）

宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教とその世界に関する諸問題を積極的に発見し、その適正な解決方策を探求するために、習得した知識、方法論、語学力を運用して論理的な分析と考察を行い、その成果を口頭で発表し、論文にまとめる表現力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教とその世界に関する課題を自ら設定し、習得した知識と研究方法をもって主体的に研究を進めることができる。また、宗教の多様性を尊重し、様々な先行研究にあたり、他者との対話や協力をとおして共存のための方策を探求できる。

◆カリキュラム・ポリシー

【神学】

宗教、とりわけキリスト教を批判的・学問的に分析することをとおして、幅の広い人間理解と深い知的洞察力を身につけ、諸問題を的確に把握して対応できる高度な専門家及び国際社会で活躍できる研究者を養成するため、聖書神学研究コース科目、歴史神学研究コース科目、組織神学研究コース科目、実践神学研究コース科目、一神教学際研究コース科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

聖書神学研究コース、歴史神学研究コース、組織神学研究コース、実践神学研究コースのいずれか1コースを専攻し、その科目からキリスト教とその世界に関する専門的な知識・技能とその運用能力及び知的態度を16単位以上学び、かつ合計32単位以上を履修する。

上記を補完・強化するため、他コース科目、他研究科科目、本学高等研究教育院設置科目、他大学院科目を履修することができる。

宗教、とりわけキリスト教に関する専門的な知識・技能と適切な研究方法をもって自ら設定した課題を考察し、その研究結果を明瞭に伝達できるようになるため、主指導教員と2名の副指導教員の下、修士学位論文を作成する。

・聖書神学研究コース科目では、キリスト教の正典である旧約聖書ならびに新約聖書のテキスト（原典）を現代聖書学の多様な方法論を用いて解釈し、聖書の成立過程や現代に至るまでの影響史なども主体的に考察することにより、聖書に関する専門的な知識・技能を習得する。
・歴史神学研究コース科目では、キリスト教の歴史的展開を社会・文化・政治・経済などとの関わりを考慮しつつ探究し、特にアメリカ、イギリス、ドイツ、アジア、日本などの地域における宗教の実態や機能を解明することにより、キリスト教史に関する専門的な知識・技能を習得する。
・組織神学研究コース科目では、キリスト教の思想や、現代社会における宗教や倫理に関連するテーマを研究し、特に現代世界が直面している環境問題や生命倫理などの諸問題を主体的に考察することにより、キリスト教思想に関する専門的な知識・技能を習得する。
・実践神学研究コース科目では、教会・礼拝・説教など、キリスト教信仰の具体的な形態や現象と、社会におけるキリスト教の働きを研究し、特に人間が抱える生と死の問題などを理論的・実践的に考察することにより、キリスト教の実践に関する専門的な知識・技能を習得する。
・一神教学際研究コース科目では、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教を総合的に研究し、キリスト教神学はもちろんのこと、ユダヤ教とユダヤ教徒／人に関する思想・文化・歴史などや、イスラーム教とイスラーム教徒に関する思想・文化・歴史などを幅広く探究することにより、3つの一神教に関する専門的な知識・技能を習得する。

【一神教研究】

宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教を批判的・学問的に分析することをとおして、幅の広い人間理解と深い知的洞察力を身につけ、諸問題を的確に把握して対応できる高度な専門家及び国際社会で活躍できる研究者を養成するため、一神教学際研究コース科目、聖書神学研究コース科目、歴史神学研究コース科目、組織神学研究コース科目、実践神学研究コース科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

一神教学際研究コースを専攻し、その科目からキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教とその世界に関する専門的な知識・技能とその運用能力及び知的態度を16単位以上学び、かつ合計32単位以上を履修する。

上記を補完・強化するため、他コース科目、他研究科科目、本学高等研究教育院設置科目、他大学院科目を履修することができる。

宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する専門的な知識・技能と適切な研究方法をもって自ら設定した課題を考察し、その研究結果を明瞭に伝達できるようになるため、主指導教員と2名の副指導教員の下、修士学位論文を作成する。

・一神教学際研究コース科目では、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教を総合的に研究し、キリスト教神学はもちろんのこと、ユダヤ教とユダヤ教徒／人に関する思想・文化・歴史などや、イスラーム教とイスラーム教徒に関する思想・文化・歴史などを幅広く探究することにより、3つの一神教に関する専門的な知識・技能を習得する。
・聖書神学研究コース科目では、キリスト教の正典である旧約聖書ならびに新約聖書のテキスト（原典）を現代聖書学の多様な方法論を用いて解釈し、聖書の成立過程や現代に至るまでの影響史なども主体的に考察することにより、聖書に関する専門的な知識・技能を習得する。
・歴史神学研究コース科目では、キリスト教の歴史的展開を社会・文化・政治・経済などとの関わりを考慮しつつ探究し、特にアメリカ、イギリス、ドイツ、アジア、日本などの地域における宗教の実態や機能を解明することにより、キリスト教史に関する専門的な知識・技能を習得する。
・組織神学研究コース科目では、キリスト教の思想や、現代社会における宗教や倫理に関連するテーマを研究し、特に現代世界が直面している環境問題や生命倫理などの諸問題を主体的に考察することにより、キリスト教思想に関する専門的な知識・技能を習得する。
・実践神学研究コース科目では、教会・礼拝・説教など、キリスト教信仰の具体的な形態や現象と、社会におけるキリスト教の働きを研究し、特に人間が抱える生と死の問題などを理論的・実践的に考察することにより、キリスト教の実践に関する専門的な知識・技能を習得する。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）で示された、修了時までに身につける資質・能力と神学研究科科目との対応関係を表にまとめたものです。

神学研究科ホームページに掲載していますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

https://theo.doshisha.ac.jp/theo/graduate/curriculum.html

神 学 研 究 科

神学専攻2013年度以降生

登録コード 科目	クラス	科 目 名 (サブタイトル)	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	K－GURS	備 考
【聖書神学研究コース科目】									
30113001		旧約聖書学概論Ⅰ (旧約聖書研究(1)－モーセ五書－)	2	越後屋　朗	春	2	可	★	
30113002		旧約聖書学概論２ (旧約聖書研究(2)－歴史書－)	2	越後屋　朗	秋	2	可	★	
30113003		旧約聖書学概論３ (旧約聖書研究(3)－預言書－)	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113004		旧約聖書学概論４ (旧約聖書研究(4)－詩編、知恵文学など－)	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113011		新約聖書学概論Ⅰ (福音書（Ⅰ))	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113012		新約聖書学概論２ (書簡（Ⅰ))	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113013		新約聖書学概論３ (福音書（2))	2	村山　盛葦	春	2	可	★	
30113014		新約聖書学概論４ (書簡（2))	2	村山　盛葦	秋	2	可	★	
30113021		聖書解釈学Ⅰ (聖書解釈（Ⅰ))	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113022		聖書解釈学２ (聖書解釈（２))	2	(本年度休講)		2	可	★	
		ヘブライ語碑文(起源と発達)	2	(本年度休講)					2014年度以前生科目
30113051		旧約聖書原典演習Ⅰ (旧約聖書原典講読（Ⅰ))	2	越後屋　朗	春	2	可	★	**聖書ヘブライ語を修得していること。**
30113052		旧約聖書原典演習２ (旧約聖書原典講読（２))	2	越後屋　朗	秋	2	可	★	**聖書ヘブライ語を修得していること。**
30113061		新約聖書原典演習Ⅰ (新約聖書の原典講読と釈義（Ⅰ))	2	(本年度休講)		集中	可	★	**古典ギリシア語、あるいはコイネー・ギリシア語の文法を修得していること。**
30113062		新約聖書原典演習２ (新約聖書の原典講読と釈義（２))	2	村山　盛葦	春	集中	可	★	**古典ギリシア語、あるいはコイネー・ギリシア語の文法を修得していること。**
30113071		聖書解釈学演習Ⅰ (聖書解釈の諸問題（Ⅰ))	2	(本年度休講)		2	否		
30113072		聖書解釈学演習２ (聖書解釈の諸問題（２))	2	(本年度休講)		2	否		
30113081		聖書解釈学特殊演習Ⅰ (聖書解釈の方法（Ⅰ))	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113082		聖書解釈学特殊演習２ (聖書解釈の方法（２))	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113083		聖書解釈学特殊演習３ (聖書解釈の理論（Ⅰ))	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113084		聖書解釈学特殊演習４ (聖書解釈の理論（２))	2	(本年度休講)		2	可	★	
30113085		福音書演習Ⅰ (共観福音書とヨハネ福音書(Ⅰ))	2	村山　盛葦	春	2	可	★	
30113086		福音書演習２ (共観福音書とヨハネ福音書(2))	2	村山　盛葦	秋	2	可	★	
30113091		ヨシュア記演習Ⅰ (ヨシュア記(Ⅰ)－ヨシュア記と申命記学派－)	2	(本年度休講)		2	可	★	

＊聴講区分欄は、他研究科生の登録可否を示すものです。
＊Ｋ－ＧＵＲＳ欄は、「京都・宗教系大学院連合単位互換履修生」に履修を認める科目（★を付与した科目）を示すものです。

登録コード 科目	登録コード クラス	科目名（サブタイトル）	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	K－GURS	備考
30113092		ヨシュア記演習２ （ヨシュア記(2)－ヨシュア記の法思想－）	2	（本年度休講）		2	可	★	
30113093		サムエル記演習 （サムエル記－歴史かフィクションか－）	2	Ada COHEN	春	2	可	★	
30113094		イスラエル法演習 （イスラエル法と古代近東法）	2	Ada COHEN	秋	2	可	★	
30113098		聖書神学特殊研究Ｉ	2	（本年度休講）					
30113099		聖書神学特殊研究２	2	（本年度休講）					

【歴史神学研究コース科目】

30123101		キリスト教宣教の歴史Ｉ （宣教の現場（Ｉ））	2	越川　弘英	春	2	否		
30123102		キリスト教宣教の歴史２ （宣教の現場（２））	2	越川　弘英	秋	2	否		
30123111		プロテスタント教派研究Ｉ （ルター派、改革派、宗教改革急進派）	2	村上　みか	春	2	可	★	
30123112		プロテスタント教派研究２ （イングランドにおける諸教派の形成）	2	村上　みか	秋	2	可	★	
30123121		日本基督教団研究Ｉ（歴史） （日本基督教団の歴史）	2	小﨑　　眞	春	2	可		
30123122		日本基督教団研究２（課題） （日本基督教団の課題）	2	小﨑　　眞	秋	2	可		
30123131		宗教改革研究Ｉ （ドイツの宗教改革－ルター－）	2	村上　みか	春	2	可	★	
30123132		宗教改革研究２ （スイスの宗教改革－ツヴィングリとカルヴァン－）	2	村上　みか	秋	2	可	★	
30123151		日本プロテスタント史演習Ｉ（論文指導） （第二次大戦前の日本キリスト教史）	2	吉田　　亮	春	2	否		
30123152		日本プロテスタント史演習２（論文指導） （第二次大戦後の日本キリスト教史）	2	吉田　　亮	秋	2	否		
30123161		近世キリスト教史演習Ｉ （宗教改革と近世ヨーロッパのキリスト教（Ｉ））	2	村上　みか	春	2	否		
30123162		近世キリスト教史演習２ （宗教改革と近世ヨーロッパのキリスト教（2））	2	村上　みか	秋	2	否		
30123198		歴史神学特殊研究Ｉ	2	（本年度休講）					
30123199		歴史神学特殊研究２	2	（本年度休講）					

【組織神学研究コース科目】

30133201		神学研究概論 （神学概論）	2	（本年度休講）		2	否		
30133211		教義学研究Ｉ （教義学研究（Ｉ））	2	（本年度休講）		2	可		
30133212		教義学研究２ （教義学研究（２））	2	崔　　弘徳	秋	2	可		
30133221		近・現代神学史研究Ｉ （近・現代神学史研究(Ｉ)）	2	（本年度休講）		2	可		
30133222		近・現代神学史研究２ （近・現代神学史研究(２)）	2	崔　　弘徳	春	2	可		
30133231		宗教哲学Ｉ （宗教哲学研究（Ｉ））	2	三宅　威仁	春	2	可	★	
30133232		宗教哲学２ （宗教哲学研究（２））	2	三宅　威仁	秋	2	可	★	
30133241		現代神学研究Ｉ （現代神学の課題（1）－神学の言葉と認識－）	2	（本年度休講）		2	可	★	
30133242		現代神学研究２ （現代神学の課題（2）－神と世界－）	2	（本年度休講）		2	可	★	

＊聴講区分欄は、他研究科生の登録可否を示すものです。
＊Ｋ－ＧＵＲＳ欄は、「京都・宗教系大学院連合単位互換履修生」に履修を認める科目（★を付与した科目）を示すものです。

登録コード 科目	クラス	科目名（サブタイトル）	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	K－GURS	備考
30133243		現代神学研究３ (現代神学の展開（Ⅰ）－神学とコンテキスト－)	2	（本年度休講）		2	可	★	
30133244		現代神学研究４	2	（本年度休講）		2	可	★	
30133251		組織神学の諸問題演習Ⅰ （組織神学の諸問題（Ⅰ））	2	（本年度休講）		2	否		
30133252		組織神学の諸問題演習２ （組織神学の諸問題（２））	2	（本年度休講）		2	否		
30133261		組織神学文献講読演習Ⅰ （組織神学文献講読（Ⅰ））	2	（本年度休講）		2	否		
30133262		組織神学文献講読演習２ （組織神学文献講読（２））	2	（本年度休講）		2	否		
30133271		現代神学演習Ⅰ （現代神学の成果と展望（Ⅰ））	2	小原　克博	春	2	否		
30133272		現代神学演習２ （現代神学の成果と展望（２））	2	小原　克博	秋	2	否		
30133281		古代中世神学原典演習Ⅰ （ラテン語文献講読（Ⅰ））	2	（本年度休講）		2	可	★	**ラテン語の基礎文法を修得していること。**
30133282		古代中世神学原典演習２ （ラテン語文献講読（２））	2	（本年度休講）		2	可	★	**ラテン語の基礎文法を修得していること。**
30133291		宗教哲学演習Ⅰ （宗教哲学の諸問題（Ⅰ））	2	三宅　威仁	春	2	否		
30133292		宗教哲学演習２ （宗教哲学の諸問題（２））	2	三宅　威仁	秋	2	否		
30133298		組織神学特殊研究Ⅰ	2	（本年度休講）					
30133299		組織神学特殊研究２	2	（本年度休講）					

【実践神学研究コース科目】

30143301		牧会学 (牧師とは何か？－その神学と実践－)	2	越川　弘英	春	2	否		
30143311		牧会カウンセリングⅠ (牧会カウンセリングの基礎と牧会者としての自己の発見)	2	関谷　直人	春	2	否		
30143312		牧会カウンセリング２ (教会内の様々な牧会場面を想定して)	2	関谷　直人	秋	2	否		
30143321		礼拝学 （キリスト教の礼拝研究）	2	（本年度休講）		2	否		
30143351		臨床牧会訓練演習Ⅰ (臨床牧会訓練(Ⅰ)－自己理解とロールプレイ－)	2	関谷　直人	春	2	否		
30143352		臨床牧会訓練演習２ (臨床牧会訓練(２)－現場実習－)	2	関谷　直人	秋	2	否		**臨床牧会訓練演習Ⅰを履修済、または同時に登録すること。**
30143361		説教学演習Ⅰ （説教：理論と実践）	2	関谷　直人 森田　喜基	春	2	否		
30143362		説教学演習２ （説教：聖書解釈と言語）	2	関谷　直人 森田　喜基	秋	2	否		
30143371		宣教学演習 （宣教現場における実践・課題）	2	関谷　直人 菅根　信彦	秋	2	否		
30143372		礼拝学演習 （キリスト教礼拝の課題と実践）	2	（本年度休講）		2	否		
30143373		牧会学演習 （現代日本における牧師）	2	越川　弘英	秋	2	否		
30143381		インターンシッププログラムⅠ （神学生実習プログラム）	2	関谷　直人	春	2	否		
30143382		インターンシッププログラム２ （夏期神学生実習プログラム）	2	（本年度休講）		2	否		
		東南アジアのキリスト教演習		（本年度休講）					2014年度以前生科目

＊聴講区分欄は、他研究科生の登録可否を示すものです。
＊Ｋ－ＧＵＲＳ欄は、「京都・宗教系大学院連合単位互換履修生」に履修を認める科目（★を付与した科目）を示すものです。

登録コード 科目	クラス	科目名（サブタイトル）	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	K－GURS	備考
30143391		実践神学の諸問題演習Ⅰ（現代における牧会と牧会者）	2	関谷　直人	春	2	否		
30143392		実践神学の諸問題演習２（現代における牧会の理論と実践）	2	関谷　直人	秋	2	否		
30143398		実践神学特殊研究Ⅰ	2	（本年度休講）					
30143399		実践神学特殊研究２	2	（本年度休講）					

【一神教学際研究コース科目】

30153401		ユダヤ教聖書解釈の諸相Ⅰ（ラビ・ユダヤ教文献の聖書解釈）	2	（本年度休講）		2	可	★	
30153402		ユダヤ教聖書解釈の諸相２（中世･近現代のユダヤ教聖書解釈）	2	（本年度休講）		2	可	★	
30153411		ゲニザ文書研究Ⅰ（ゲニザ文書を通して考える中世地中海世界(1)）	2	勝又　悦子	春	2	可		
30153412		ゲニザ文書研究２（ゲニザ文書を通して考える中世地中海世界(2)）	2	勝又　悦子	秋	2	可		
30153421		ユダヤ史の研究演習Ⅰ（ユダヤ教･ユダヤ人の歴史(１)）	2	勝又　悦子	春	2	可	★	
30153422		ユダヤ史の研究演習２（ユダヤ教･ユダヤ人の歴史(２)）	2	勝又　悦子	秋	2	可	★	
30153451		現代ヘブライ語･ヘブライ文学読解演習Ⅰ（現代ヘブライ人作家-ヘブライ文学読解練習(1)）	2	Ada COHEN	春	2	可		
30153452		現代ヘブライ語･ヘブライ文学読解演習２（現代ヘブライ人作家-ヘブライ文学読解練習(2)）	2	Ada COHEN	秋	2	可		
30153461		現代ヘブライ語演習Ⅰ（上級）（現代ヘブライ語の世界とその文化(１)）	2	Ada COHEN	春	2	可	★	
30153462		現代ヘブライ語演習２（上級）（現代ヘブライ語の世界とその文化(２)）	2	Ada COHEN	秋	2	可	★	
30153471		20世紀におけるユダヤ文学の発展演習Ⅰ（ヨーロッパの現代ユダヤ文学の発展演習(1)）	2	Doron COHEN	春	2	可	★	
30153472		20世紀におけるユダヤ文学の発展演習２（ヨーロッパの現代ユダヤ文学の発展演習(2)）	2	Doron COHEN	秋	2	可	★	
30153661		イスラーム研究概論Ⅰ（イスラーム研究の課題と方法）	2	森山　央朗	春	2	可	★	2025年度以降生科目
30153662		イスラーム研究概論２（イスラーム法学・神学思想とムスリムの宗教文化の概容）	2	仁子　寿晴	秋	2	可	★	2025年度以降生科目
30153671		イスラーム研究特論Ⅰ（哲学とイスラーム神学）	2	（本年度休講）		2	可	★	2025年度以降生科目
30153672		イスラーム研究特論２（クルアーン・ハディースとムスリムの宗教的世界観・歴史観）	2	（本年度休講）		2	可	★	2025年度以降生科目
30153673		イスラーム研究特論３（スーフィズムの思想と文化）	2	仁子　寿晴	春	2	可	★	2025年度以降生科目
30153674		イスラーム研究特論４（「ハディースの徒」の歴史）	2	森山　央朗	秋	2	可	★	2025年度以降生科目
30153681		イスラーム研究演習Ⅰ（原典分析に基づくイスラーム思想・ムスリム文化研究の実践（1））	2	（本年度休講）		2	可		2025年度以降生科目
30153682		イスラーム研究演習２（原典分析に基づくイスラーム思想・ムスリム文化研究の実践（2））	2	（本年度休講）		2	可		2025年度以降生科目
30153683		イスラーム研究演習３（原典分析に基づくイスラーム思想・ムスリム文化研究の実践（3））	2	森山　央朗	春	2	可		2025年度以降生科目
30153684		イスラーム研究演習４（原典分析に基づくイスラーム思想・ムスリム文化研究の実践（4））	2	森山　央朗	秋	2	可		2025年度以降生科目

＊聴講区分欄は、他研究科生の登録可否を示すものです。
＊Ｋ－ＧＵＲＳ欄は、「京都・宗教系大学院連合単位互換履修生」に履修を認める科目（★を付与した科目）を示すものです。

登録コード 科目	クラス	科目名（サブタイトル）	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	K－GURS	備考
30153501		イスラーム基礎法学Ⅰ	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153502		イスラーム基礎法学２	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153503		イスラーム基礎法学３	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153504		イスラーム基礎法学４	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153511		クルアーン解釈Ⅰ	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153512		クルアーン解釈２	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153521		ハディース解釈Ⅰ	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153522		ハディース解釈２	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153531		スーフィズムとイスラーム哲学Ⅰ	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153532		スーフィズムとイスラーム哲学２	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153533		スーフィズムとイスラーム哲学３	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153534		スーフィズムとイスラーム哲学４	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153551		クルアーンと法Ⅰ（演習）	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153552		クルアーンと法２（演習）	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153561		ハディースと法Ⅰ（演習）	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153562		ハディースと法２（演習）	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153571		クルアーン解釈演習Ⅰ	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153572		クルアーン解釈演習２	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153581		ハディース解釈演習Ⅰ（ハディース学の古典理論と方法）	2	森山　央朗	春	2	可		2024年度以前生科目
30153582		ハディース解釈演習２（古典期ハディース学者の知的実践）	2	森山　央朗	秋	2	可		2024年度以前生科目
30153601		イランとイスラームⅠ	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153602		イランとイスラーム２	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153603		イランとイスラーム３	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153604		イランとイスラーム４	2	（本年度休講）		2	可	★	2024年度以前生科目
30153651		イラン・イスラーム論演習Ⅰ（論文指導）	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153652		イラン・イスラーム論演習２（論文指導）	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153653		イラン・イスラーム論演習３（論文指導）	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153654		イラン・イスラーム論演習４（論文指導）	2	（本年度休講）		2	可		2024年度以前生科目
30153701		グローバル社会研究Ⅰ（グローバル社会と多文化共生）	2	内藤　正典	春	2	否		
30153702		グローバル社会研究２（グローバル社会と移民問題）	2	内藤　正典	秋	2	否		
30153711		宗教研究Ⅰ	2	（本年度休講）		2	可		
30153712		宗教研究２	2	（本年度休講）		2	可		
30153721		国際関係（外交政策論）	2	土屋　貴裕	春	集中	否		
30153731		一神教学際研究（グローバル社会における宗教と政治－共生のための道筋－）	2	（本年度休講）		2	可		
30153751		一神教学際研究演習Ⅰ（一神教学際研究の方法（Ⅰ））	2	森山　央朗 関谷　直人 Ada COHEN	春	2	否		**一神教学際研究コース生（前期課程学生）のみ履修可。 一神教学際研究コースの1年次生は必ず履修すること。**
30153752		一神教学際研究演習２（一神教学際研究の方法（２））	2	森山　央朗 関谷　直人 Ada COHEN	秋	2	否		**一神教学際研究コース生（前期課程学生）のみ履修可。 一神教学際研究コースの1年次生は必ず履修すること。**
30153761		国際関係演習Ⅰ（国際安全保障論）	2	村田　晃嗣	秋	2	否		
30153762		国際関係演習２（アメリカ）	2	倉科　一希	春	2	否		

＊聴講区分欄は、他研究科生の登録可否を示すものです。
＊Ｋ－ＧＵＲＳ欄は、「京都・宗教系大学院連合単位互換履修生」に履修を認める科目（★を付与した科目）を示すものです。

登録コード		科 目 名 （サブタイトル）	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	K－GURS	備 考
科 目	クラス								
30153798		一神教特殊研究Ⅰ （ユダヤ教は宗教か）	2	Ada COHEN Leora F. BATNITZKY	春	集中	可	★	講義日程（予定）はシラバスを参照すること。 英語により授業を行う。
30153799		一神教特殊研究２	2	（本年度休講）					

30101498		論文							

＊聴講区分欄は、他研究科生の登録可否を示すものです。
＊Ｋ－ＧＵＲＳ欄は、「京都・宗教系大学院連合単位互換履修生」に履修を認める科目（★を付与した科目）を示すものです。

１．修了要件

下記の要件をすべて充足する必要があります。

⑴博士課程（前期課程）に２年以上在学すること。

⑵以下に示す修了に必要な単位数を修得すること。

自己のコース科目から最低16単位を選択履修し、かつ合計32単位以上を履修すること。指導教員の承認が得られた場合は、他の研究科又は本学高等研究教育院設置の科目を履修することができる。その場合、あわせて８単位まで課程修了に必要な単位数に含めることができる。

⑶修士学位論文を提出し、最終試験（修士修了総合試験）に合格すること。なお、特定の課題についての研究の成果をもって修士学位論文にかえることができる。

⑷研究に必要な外国語に通じていること。

２．履修方法

下記の他、登録の具体的な要領については、別冊『神学研究科登録要領』を参照してください。

⑴同志社大学では、すべての学部・大学院で「セメスター制」を実施しています。ただし、科目の登録については秋学期に履修する科目も春学期の登録期間に登録してください。なお、春学期に登録した秋学期科目は秋学期前に登録を変更することが可能です。

⑵日本基督教団補教師検定試験を受験しようと考えている場合、履修科目の選択は大変重要です。補教師をめざす方を対象とした説明会を入学後のオリエンテーション期間に開催しますので、説明会に必ず出席したうえで履修計画を立ててください。受験を予定している2025年度以前生も出席してください。

⑶修了する予定の年度の春学期に「論文」を登録してください。なお、特定の課題についての研究の成果をもって修士論文にかえる場合も「論文」を登録してください。
修了見込となる登録ができていない場合は論文の登録はできません。

⑷特定の課題についての研究の成果をもって修士論文にかえることを希望する場合は、指導教員、大学院教務主任に相談してください。

⑸原則として、主指導教員の演習科目を２年にわたって履修し、修士論文作成に必要な指導を受けてください。その他の演習科目も、主指導教員が研究上必要と認めたときは、２度まで履修することができる場合があります。講義科目は１度しか履修が認められません。同一科目を２度履修した場合には２度とも修了単位に算入されますが、宗教科免許取得の単位としては１度しか算入されません。

⑹神学研究科在学中に他大学大学院で修得した大学院科目について、15単位を超えない範囲で課程修了の所定単位として認定する場合があります。主なものは以下のとおりです。

〇関西四大学大学院単位互換科目
〇京都・宗教系大学院連合科目
〇在学留学先で修得した科目

⑺神学研究科入学前に他大学大学院で修得した大学院科目（科目等履修生として修得した単位を含む）について、15単位を超えない範囲で課程修了の所定単位として認定する場合があります。

⑻⑹と⑺で認定する課程修了の所定単位は合わせて20単位を超えない範囲とします。

⑼神学研究科入学前に本大学大学院で修得した大学院科目（科目等履修生として修得した単位を含む）について、課程修了の所定単位として認定する場合があります（上限なし）。

※⑹～⑼の内容は2024年度以降生が対象です。2023年度以前生の単位認定については神学研究科事務室までお問合せください。

⑽大学院学則により、博士課程の前期課程に２年以上在学し、所定の単位を修得した方は、次の学期から学費の減免が適用されます。ただし、学部または大学院の授業科目（「論文」を除く）の履修を希望する場合は、この適用を受けることができないため、留意のうえ科目登録してください。ご不明な点は、神学研究科事務室までお問合せください。

３．修士論文作成について

⑴入学後のオリエンテーション期間に開催する「博士前期課程新入生オリエンテーション」に必ず出席してください。指導教員決定後は指導教員の指導を受けてください。なお、指導教員決定方法については説明会にて案内します。

⑵論文の提出期限、様式等は神学研究科ホームページに掲載の『神学研究科博士課程（前期課程）「論文」提出要領』を参照してください。

⑶「修士論文および特定課題の研究」の審査基準については次のとおりです。

1）問題意識が明確で、学術的意義のある研究テーマを設定していること。
2）関連する主要な先行研究を理解していること。
3）研究テーマに最適な方法論を採用していること。
4）論理的一貫性のある論述を展開し、確固とした論拠に基づいて妥当な結論を導き出していること。
5）結論が当該研究領域の学問的進展に寄与するものであること。
6）倫理的・形式的要件を満たしていること。

⑷論文は日本語で作成する。ただし、指導教員がその必要性を認めた場合には、許可申請書を神学研究科事務室に届け出、研究科委員会の承認を経て英語による論文作成が認められる。許可申請書は修士学位論文提出の1年前までに届け出ること。

4．学会発表に対する交通費等の補助

⑴神学研究科に在籍する者が学会で発表する場合、往復の交通費および宿泊費を補助します。ただし、指導教員がその「学会発表」を指導上必要と認めた場合に限ります。また、休学中もしくは論文審査在籍の者は対象となりません。

⑵補助申請を希望する者は、神学部研究室事務室(神学館2階)に申し出てください。必要なデータをお渡しします。

⑶「出張稟議書」、「学会での発表を証明する書類」および「研究出張申請書」を開催日の2週間前までに指導教員へ提出してください（指導教員より神学部研究室事務室へ提出されます)。なお、「出張稟議書」データは、別途神学部研究室事務室へ提出してください。

⑷申請内容によっては補助が認められない場合があります。

⑸補助申請は年度内に国内2件、海外1件の計3件までを上限とします。

⑹国内で開催される学会で発表する場合の補助は、2件分の交通費と宿泊費をあわせて70,000円を上限とします。

⑺海外で開催される学会で発表する場合の補助は、交通費と宿泊費をあわせて70,000円を上限とします。

⑻交通費は鉄道運賃、船舶運賃、航空運賃、その他の運賃とし、算出基準は同志社大学旅費交通費取扱要領を準用します。

ただし、主催者等から交通費が支給される場合や他の予算から交通費が支給される場合は支給しません。

⑼宿泊費は学会開催地が遠方のため発表日前日の出発が必要な場合や、発表当日に帰着が不可能な場合に限り、1件につき1泊13,000円を上限とし補助します。なお、学会開催地が遠方のため発表日前日の出発が必要、且つ発表当日に帰着が不可能な場合に限り2泊分を限度として補助します。学会発表前後の学会に参加してもその分の宿泊費は支給しません。

また、主催者等から宿泊費が支給される場合や他の予算から宿泊費が支給される場合も支給しません。

⑽学会発表終了後、2週間以内に指導教員の承認印をもらったうえで「研究出張報告書」を神学部研究室事務室（神学館2階）へ提出してください。

5．「京都・宗教系大学院連合」の教育（単位互換）および研究に関する協定書

2006年2月28日

「京都・宗教系大学院連合」はその設立の趣旨に基づき、2005年7月31日に設立された。「京都・宗教系大学院連合」に加盟する大学院は、各大学院の規則に定めるところにより、学生が相互に他大学院の授業科目を履修し、単位を修得することを認めるにあたり、また、研究上の相互協力を促進するために、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

（受け入れ）

第1条　「京都・宗教系大学院連合」に加盟する大学院に在学する学生が、他の大学院が指定する授業科目の履修および単位の修得を希望するときは、科目を開設する大学院の学長は当該学生を受け入れることができる。

（単位互換履修生）

第2条　各大学院は、前条により受け入れた学生を「京都・宗教系大学院連合単位互換履修生」（以下、「単位互換履修生」という）として取り扱う。

（履修期間）

第3条　単位互換履修生の履修期間は、受け入れ大学院が決定する。

（授業科目の範囲および単位数）

第4条　履修できる授業科目の範囲および修得できる単位数は、受け入れ大学院が決定する。

（学生数）
第５条　各授業科目に受け入れる学生数は、受け入れ大学院が決定する。
（受け入れ手続き）
第６条　単位互換履修生の受け入れ手続きは、受け入れ大学院が決定する。
（成績通知等）
第７条　単位互換履修生の履修方法、成績通知等については、受け入れ大学院に在学する学生の場合と同様とする。
（授業料等）
第８条　単位互換履修生の選考料および授業料等については相互に徴収しない。
（研究上の相互協力）
第９条　各大学院等において、学術情報の交換、国内外の研究者との人的交流、共同の講演会・研究会の開催等により、研究上の相互協力を促進する。その内容および方法については、別に定める。

附則　この協定は、2006年２月28日から施行する。

６．神学部研究室図書利用規程

2021年３月25日　改正

【一　般　規　程】
１．神学部研究室所蔵資料（以下、本研究室所蔵資料）は、原則として神学部・神学研究科専任教員および学生の、研究・学問の必要に応じて利用されるものである。
２．前項に支障を生じない範囲において、部外者の利用にも便宜をはかる。
３．本研究室所蔵資料は、多くの教員および学生が共用するものであるため、利用規程を遵守し、他の利用者の研究・学問の妨げとならないように留意すること。
４．規程に反するときは貸出停止の処置をとることがある。
５．貸出と返却はかならず本人が行うこと。
６．紛失や延滞の責任は借用した者が負うことになる。又貸しは絶対に行わないこと。
７．資料を紛失した場合は、同一資料または時価により弁償しなければならない。
８．図書室での談話・飲食を禁じる。
９．開館時間：平日９時から11時半、12時半から17時

【細　　則】
Ⅰ．神学部・神学研究科生の利用
１．DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、学生証を添えて窓口で手続きすること。なお下記の資料については貸出できないため、図書室内で利用すること。
※リザーブ図書（神学部設置科目担当教員の指定により、一定期間貸出を保留し、受講学生のサイド・リーディングの便宜をはかる図書）・参考図書・逐次刊行物（雑誌、新聞、学術誌）・マイクロ資料・視聴覚資料・貴重書・禁帯出図書
２．前項にかかわらず、リザーブ図書は、平日15時から翌朝10時45分まで、金曜日は15時から翌週月曜日午前10時45分までに限り、館外貸出を認める。貸出を希望する図書に学生証を添えて、窓口で手続きすること。
３．神学研究科生は、書庫に入って資料探索することができる。窓口で入庫許可書を提示の上、入庫名簿に必要事項を記載し入庫すること。貸出を希望する場合には、貸出を希望する図書に学生証を添えて、窓口で手続きすること。なお、神学研究科生以外でも、特にその必要が認められた場合には、入庫を許可することがある。
４．貸出冊数と期間：　学部生　　５冊　14日
研究科生　20冊　28日

Ⅱ．教職員の利用
１．神学部専任教員（任期付き含む）：
１．下記の資料については原則貸出できないが、授業利用として申し出した場合は貸出可能。
※参考図書・逐次刊行物（雑誌、新聞、学術誌）・マイクロ資料・視聴覚資料・貴重書・禁帯出図書

２．貸出を希望する図書に社員証を添えて、窓口で手続きすること。
３．神学部専任教員は書庫に入って資料探索することができる。貸出を希望する場合には、貸出を希望する図書に社員証を添えて、窓口で手続きすること。
貸出冊数と期間：　50冊　90日

２．他学部専任教員、専任職員：窓口で社員証を提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、社員証を添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：所定用紙に必要事項を記入の上、社員証を添えて窓口で手続きすること。
教員　50冊　28日　　職員　10冊　28日

３．神学部・他学部嘱託教員：窓口で社員証を提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、社員証を添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：所定用紙に必要事項を記入の上、社員証を添えて窓口で手続きすること。
貸出冊数と期間：　５冊　14日

４．法人内各学校教職員、京都・宗教系大学院連合加盟大学院（大学）所属教員：窓口で身分証を提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、身分証を添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：所定用紙に必要事項を記入の上、身分証を添えて窓口で手続きすること。
法人内各学校教職員　５冊　14日
京都・宗教系大学院連合加盟大学院（大学）所属教員　10冊　28日

Ⅲ．その他の利用
神学部・神学研究科生以外の利用については、本学部関係者の研究・学問に差支えない限り、下記の規程にそって本研究室所蔵資料を利用することができる。

１．神学部・神学研究科の科目等履修生、聴講生：窓口で科目等履修生証、聴講生証を提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、科目等履修生証、聴講生証を添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：所定用紙に必要事項を記入の上、科目等履修生証、聴講生証を添えて窓口で手続きすること。
研究科生　10冊　28日　　学部生　５冊　14日

２．他研究科生、他学部生（科目等履修生、聴講生含む）：窓口で学生証（科目等履修生証、聴講生証）を提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、学生証（科目等履修生証、聴講生証）を添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：所定用紙に必要事項を記入の上、学生証（科目等履修生証、聴講生証）を添えて窓口で手続きすること。
研究科生　10冊　28日　　学部生　５冊　14日

３．同志社女子大生：窓口で図書利用カードを提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、図書利用カードを添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：所定用紙に必要事項を記入の上、図書利用カードを添えて窓口で手続きすること。
５冊　14日

４．京都・宗教系大学院連合単位互換履修生：窓口で学生証を提示すること。
大学コンソーシアム京都単位互換履修生：窓口で単位互換履修生証を提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、学生証または単位互換履修生証を添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：神学部設置科目を登録履修中の学生は貸出することができる。所定用紙に必要事項を記入の上、学生証または単位互換履修生証を添えて窓口で手続きすること。
５冊　14日

5．同志社大学図書利用カード発行者：窓口で図書利用カードを提示すること。
館内利用：DOORS（学術情報検索システム）で貸出を希望する図書を検索し、所定用紙に必要事項を記入の上、図書利用カードを添えて窓口で手続きすること。図書室内で閲覧すること。
館外貸出：所定用紙に必要事項を記入の上、図書利用カードを添えて窓口で手続きすること。
5冊　14日
なお、同志社大学図書利用カード発行者のうち、神学研究科（前期・後期課程）を修了した者で、かつ研究主任の認めた者については、入庫を許可する。

6．その他学外者
下記の手続にしたがって図書室内で閲覧利用することができる。原則として貸出は行わない。
1）私立大学図書館協会、国立大学図書館協議会、および公立大学協会図書館協議会加盟校教職員および学生
図書館を通じて事前に問い合わせし、当該図書館長の紹介状を窓口に持参すること。
2）近隣諸教会の教職者、他大学の教職員等で長期間、神学部図書室の利用を希望される方
申請により「特別閲覧許可証」を発行する。別記、「特別閲覧細則」参照。

附則
この規程は、2021年4月1日から施行する。

文学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

文学研究科博士課程（前期）は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の高度な理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とし、研究・教育職並びに高度に専門的な業務に必要な研究能力及び豊かな学識を養い、現代世界の全体を視野に置きつつ、人間と文化の本質を洞察して新たな時代を切り開く有能な人物を世に送り出すことを目指す。

哲学専攻

哲学専攻博士課程（前期）は、西洋哲学及び倫理学をはじめ、広く宗教から現代思想、現代文化、世界と人間をめぐる現代の諸問題について、語学力、読解力、概念把握力、問題分析力の徹底的な研鑽をとおして、古典研究の基礎的資質と思想文化全般にわたる知識と洞察力、さらに発展的に新たな問題を主題化できる構想力を身につけて、研究者、専門的職業人として研究機関をはじめ広く高度知識社会に活躍する人物を養成することを目的とする。

修士（哲学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（哲学）の学位を授与する。

⊙哲学・倫理学の高度な専門的知識を中心として、思想、宗教、文化について深い理解と教養をもとに、流動的な社会に対して、鋭い批判的洞察をもち、柔軟で適切な対応ができる（知識・技能）。

⊙根本的思索の訓練をとおして、高度知識社会のなかで新たに問うべき課題を構想し、的確な判断と明晰な表現によって、変遷の激しい社会に対して問題を提起できる（思考力・判断力・表現力）。

⊙古典の精確な読解によって、深い人間理解とモラル、さらに、公共性と先見性を身につけられる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

⊙哲学専攻は、そのディプロマ・ポリシーに従って、甲類科目と乙類科目からなるカリキュラムを編成し、修了に30単位以上の履修を課して、哲学・倫理学の高度な専門的知識と鋭い批判的洞察力とを修練できるようにしている。

⊙甲類科目には、哲学専攻の基幹科目である、理論哲学、実践哲学、現代哲学を配置している。その履修をとおして、哲学の根本的な問題にどのように挑むのか、その態度を専門性という見地から培う。甲類科目には哲学史関連の科目もあり、通時的な視点から哲学の諸問題を見つめる力の涵養にも力点を置いている。乙類科目では、視野を広げて、歴史、社会、倫理、宗教、教育といった領域の諸課題を、甲類科目で養う哲学的視座から発展的に考察する。甲類科目と同じように、乙類科目にも、哲学史的視野を身に付けるための科目を置いている。

各科目群で養成する学力

⊙甲類科目と乙類科目には、講義科目の特講と演習科目の演習がある。特講では、哲学と倫理学の根本的な問題を巡って、知識と研究の高い専門性に触れる。演習では、それを踏まえたうえで、能動的で積極的な参加をとおして、各科目が照準を定めている主題の批判的な洞察に磨きをかけていく（知識・技能）。

⊙哲学では、古典的な文献の精緻な理解は避けられない。甲類科目と乙類科目にある哲学史及び思想史に関連する科目は、そこに狙いを定めている。古典は、現代に通じるものの見方と考え方、ならびに、深い人間理解の範型を提示している。こうした科目をとおして、哲学の礎である古典の丹念な研究を進めていく。

その中で、人間のあり方を現代の社会のなかで問うていく（主体性・多様性・協働性）。
前期課程生は、みずからの関心と興味に基づいて、甲類科目と乙類科目の中から、履修する科目を選択する。その学びは、どのような科目であっても、前期課程生がみずから選んだ研究の主題の専門性を高めることに繋がっている。それは、同時に、哲学的な問題を論理的な分析によって徹底的に考究していく力を育む訓練にもなっている（思考力・判断力・表現力）。

⦿教育課程のこうした考え方のもとで、総合演習２単位を必修にし、基幹科目である甲類科目から講義４科目と演習４科目で12単位、展開科目である乙類科目をも含めて16単位以上を履修条件とする。この条件により、時代ごとの哲学史的知識と分野ごとの主題的知識とを組み合わせて、総合的で高度な専門的知識をもてるように啓発する（知識・技能）。

⦿総合演習のねらいは、在籍する前期課程生の研究発表への質疑応答を通じて、状況に応じて的確に判断できる力と、明晰な表現によって問題を主題化できる力とを修得させるところにある（思考力・判断力・表現力）。

⦿指導の必要に応じて他研究科、他専攻の科目の履修を認可し、思想、宗教、文化について、教養を深められるようにしている（知識・技能）。このように多様性も担保した専門的な学びをとおして、深い人間理解に裏打ちされた公共性と先見性を育む（主体性・多様性・協働性）。

⦿前期課程の教育課程には「論文」として修士論文の制作を配置している。修士論文の提出がなければ、修士（哲学）の学位を取得できないことは、言うまでもない。２年間の学びの集大成が修士論文である。そこでは、主題に関連する知識の専門性とそれに関する考察の深さ、主題に対する多面的な考え方、現代を見つめるまなざしと論究の現代性を問う。

英文学・英語学専攻

英文学・英語学専攻博士課程（前期）は、同志社英学校以来の伝統と現代のグローバリズムに基づき、英米文学と英語学・英語教育、およびこれらの関連分野における深い専門知識、鋭い分析・論理的判断能力と高度な英語運用能力を備えた人物の養成を目的としている。グローバル社会に通用する専門知識、高度な実践的英語運用能力、学術的および学際的思考力・表現力・判断力を身につけ、国内外の後期課程に進学し、将来高等教育機関において研究・教育に深く携われる人物や、中等教育機関の教育を担う広範な視野と実践的な能力を備えた英語教員、そして英語を媒介として文化形成や伝達事業に参画できる人物を養成することを目的とする。

修士（英文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（英文学）の学位を授与する。

⦿英米および英語圏の文学とこれらの関連分野において深い学術的知見に基づき、広範で専門性が高い知識を得ることができる（知識・技能）。

⦿専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な高度な英語運用能力を習得し、それを有効に活用できる（知識・技能）。

⦿グローバル社会において、文学やそれに関連する分野の分析を通じて、国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。

⦿課題解決方法や理論を、国内外における学術会議等において、精緻な英語表現により、論理的に提示できる（思考力・判断力・表現力）。

⦿グローバル社会において、文学や文化の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組み、他者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

●英米文学研究において、グローバル社会の多様性や学術的に深い知識、客観的に調査する技術、および高度な英語表現能力が備わる人物を養成するために、基本的な専門知識と分析能力を養う甲類科目と、個別分野に対する知識の深化とその応用能力を養う乙類科目、および論文によって構成され、専門性を段階的に履修するカリキュラムを設置する。甲類科目からは12単位、甲類（甲類として挙げた科目は除く）・乙類を合わせて18単位以上を履修し、合計30単位以上を履修し、「論文」を登録し、必要な研究指導を通算１年以上受け、修士論文を提出し、合格することを求める。

各科目群で養成する学力

●甲類科目は、英米文学の領域における専門的知識を身につけ、研究対象に対する鋭い分析や批判を行える能力を身につけることを目標とする。乙類科目は、英米文学の領域における個別分野に対する理解を深めることを目標とする。乙類科目より１年次に「英語修辞法」を履修し、英語論文作成技能を習得する。また、指導教員の指示により、１年次秋学期に「英米文学演習 I」、２年次春学期に「英米文学演習 II」を必修することにより、修士論文作成に必要な専門的知識、学術的リサーチ能力、学術的分析能力、高度な英語表現能力を養う。指導教員が必要と認めた時は、乙類科目として、他専攻、他研究の関連科目を履修することができる。その場合、８単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる（知識・技能）。

●英米文学に関する甲類科目および乙類科目を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、口頭発表とペーパー作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、修士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。

●英米文学に関する甲類科目および乙類科目を通じて、多様な学術的見解を自ら受容・尊重する姿勢を身につけるために、自発的に意見を構築し、他者と意見交換をする少人数制の演習科目を履修する。また、研究のテーマ上、本人が必要と確信し、指導教員が必要と認めた時は、乙類科目として、他専攻、他研究科の関連科目を履修することができる。その場合、８単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる（主体性・多様性・協働性）。

修士（英語学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（英語学）の学位を授与する。

●英語学・英語教育とこれらの関連分野において深い学術的知見に基づき、広範で専門性が高い知識を得ることができる（知識・技能）。

●専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な高度な英語運用能力を習得し、それを有効に活用できる（知識・技能）。

●グローバル社会において、英語学や英語教育及びそれに関連する分野の分析を通じて、国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。

●課題解決方法や理論を、国内外における学術会議等において精緻な英語表現により、論理的に提示できる（思考力・判断力・表現力）。

●グローバル社会において、言語の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組み、他者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

●英語学・英語教育研究において、グローバル社会の多様性や学術的に深い知識、客観的に調査する技術、および高度な英語表現能力が備わる人物を養成するために、基本的な専門知識と分析能力を養う甲類科目と、個別分野に対する知識の深化とその応用能力を養う乙類科目、および論文によって構成され、専門性を段階的に履修するカリキュラムを設置する。甲類科目からは12単位、甲類（甲類として挙げた科目は除く）・乙類を合わせて18単位以上を履修し、合計30単位以上を履修し、「論文」を登録し、必要な研究指導を通算1年以上受け、修士論文を提出し、合格することを求める。

各科目群で養成する学力

●甲類科目は、英語学・英語教育の領域における専門的知識を身につけ、研究対象に対する鋭い分析や批判を行える能力を身につけることを目標とする。乙類科目は、英語学・英語教育の領域における個別分野に対する理解を深めることを目標とする。乙類科目より１年次に「英語修辞法」を履修し、英語論文作成技能を習得する。また、指導教員の指示により、１年次秋学期に「英語学演習Ⅰ」、２年次春学期に「英語学演習 II」を必修することにより、修士論作成に必要な専門的知識、学術的リサーチ能力、学術的分析能力、高度な英語表現能力を養う（知識・技能）。

●英語学・英語教育に関する甲類科目および乙類科目を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、口頭発表とペーパー作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、修士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。

●英語学・英語教育に関する甲類科目および乙類科目を通じて、多様な学術的見解を自ら受容・尊重する姿勢を身につけるために、自発的に意見を構築し、他者と意見交換をする少人数制の演習科目を履修する。また、研究のテーマ上、本人が必要と確信し、指導教員が必要と認めた時は、乙類科目として、他専攻、他研究科の関連科目を履修することができる。その場合、８単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる（主体性・多様性・協働性）。

文化史学専攻

文化史学専攻博士課程（前期）は、過去における人間活動のあらゆる領域における事象を対象として、史料の分析にもとづく深い洞察と批判の能力、さらには歴史像を提示する創造的な構想力や豊かな表現力を身につけて、人類の歴史に関するよりよい理解に貢献する研究者・教育者、あるいはかかる資質を応用的に活かして市民社会や国際社会の融和と発展のために活躍する社会人を養成することを目的とする。

修士（文化史学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（文化史学）の学位を授与する。

●学術的な歴史研究を一定程度自立的に遂行するのに必要な専門的知識（研究上の主要な概念や方法、およびそれらをめぐる論争に関する知識等）と基幹的能力（外国語や漢文等）を備え、特定の事象に関する史料を客観的に分析してその時代や社会・文化の特質を深く理解できる（知識・技能）。

●特定の歴史的事象を深く考察する思考力と、日本と世界の歴史的展開を眺望できる広い視野を持った歴史の見方を身につけ、そこから得た知見が社会において活用されることを目指して研究の発信に従事することができる（思考力・判断力・表現力）。

●現代の日本と世界の形成に寄与した多様な構成要素の歴史的役割を適切に評価し、市民社会・国際社会の調和に資する要素を有する歴史像を主体的に構想することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

●学術的な歴史研究を一定程度自立的に遂行できる人物を養成するために、甲類と乙類から構成されるカリキュラムを設置する。

●甲類科目では、歴史研究全般に関する知識と技能を（８単位以上）、乙類科目では、特定事象の考察を通じた歴史的思考力と視野の広い歴史観を（乙類科目と合わせて32単位以上）、さらに修士論文では主体的な歴史像の構築方法を学ぶ。

各科目群で養成する学力

●甲類科目のうち総合演習を除く科目は、学術的な歴史研究の遂行に必要な専門的知識を養う（知識・技能）。

●乙類科目のうち演習を除く科目は、特定事象の歴史研究のあり様を学ぶことによって、時代や社会の特質を深く理解する能力を養う（知識・技能）。

●甲類科目の総合演習は、学生と担当教員の全員の出席のもとで、学生が研究発表を行い、専門的歴史研究にふさわしい論理構成や表現能力の錬磨を行うとともに、出席者間での討議を通じて批判的思考力を培う。乙類科目の演習は、設定された課題について史料の分析にもとづいた構想能力を養う。他専攻・他研究科の歴史関係科目を乙類科目として算入することによって、幅広い視野の歴史観を育成することもできる（思考力・判断力・表現力）。

●修士論文は、学生各自が課題を発見し、多様な解釈の意味を咀嚼しながら、学術研究として適切な史料を渉猟・分析し、それにもとづいて時代・社会の歴史像を創造的に提示する（主体性・多様性・協働性）。

国文学専攻

国文学専攻博士課程（前期）は、古代・中世・近世・近現代の日本文学及び日本語について、作品の実証的研究や理論的研究、国際的視野に基づく比較研究、芸能・演劇等の隣接諸領域を視野に入れた研究、京都という地理的環境を生かした研究などをとおして、日本文化について豊かな専門的知識や知的洞察力を身につけて、中学校・高等学校教育、マスコミ・出版関係、専門の研究等において活躍する人物を養成することを目的とする。

修士（国文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（国文学）の学位を授与する。

●日本文学・日本語に関する課題の解決方法について、文献の探索や読解のための専門知識や技能を備え、専門的学術研究の立場を広く理解できる（知識・技能）。

●日本文学・日本語に関する課題について、専門的学術研究の立場から問題点を探究する知的洞察力を身につけ、課題解決のための会議において意見を効果的に表明できる（思考力・判断力・表現力）。

●日本文学・日本語に関する課題を専門的学術研究の立場から主体的に解決するために、他者と広く意見を交わし、多様な視点を養い、協働的に研究できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

●日本文学・日本語に関する課題を専門知識や知的洞察力を用いて解決することに貢献できる人物を育成するために、自身の研究テーマに係る課題を解決するために必要な学力を養成する甲類科目および研究に必要な幅広い知識・能力を養成する乙類科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

●甲類科目は、日本文学・日本語に関する専門的学術研究に必要とされる文献の探索や読解などの知識・技能に習熟し、それをもとに学術的判断や表現ができることを到達目標として設置する。１年次から２年次にかけて講義形態の授業５科目10単位以上、演習形態の授業５科目10単位以上を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
●甲類科目のうちに総合演習を設置して、主体的に課題を解決する資質と研究に必要な表現力や多様な視点・協働性を養う。受講者は、各自の研究課題を多様な視点を持つ履修生および教員の全員と相互批判しながら進展させることを到達目標とし、上記とは別に１年次から２年次にかけて２科目４単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
●乙類科目は、研究に必要な幅広い知識・技能や思考力・判断力を養うために、日本文学・日本語の専門領域およびその関連領域に関する科目として設置する。乙類科目においては専門的学術研究に習熟することを到達目標とし、１年次から２年次にかけて講義形式の授業４科目８単位以上を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
●修士論文において、身につけた知識・技能や思考力・表現力を駆使し、日本文学・日本語についての専門的学術研究に貢献する成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。

美学芸術学専攻

美学芸術学専攻博士課程（前期）、修士（美学）は、美学・芸術学・芸術史（美術史）について、西洋・東洋（日本）の美や芸術の本質や原理に関する普遍的なアプローチと芸術諸分野に関わる個別的なアプローチを相互補完的に学ぶことによって、精深な学識、高度な研究能力、柔軟な思考力、鋭敏な分析力、並びに豊かな表現力を身につけて、美術館・博物館の学芸員や文化行政及び民間での文化支援活動に関わる高度専門的職業人を養成することを目的とする。

修士（芸術学）は、美学、芸術学、芸術史（美術史）について、西洋・東洋（日本）の美や芸術について、理論と専門的知識とを相互補完的に学ぶことによって、精深な学識や研究能力を身につけて、美術館・博物館の学芸員や文化行政及び民間での文化支援活動に関わる高度専門的職業人を養成することを目的とする。

修士（美学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（美学）の学位を授与する。
●西洋・東洋（日本）の美学に加えて、芸術学、芸術史についての専門的知識を身につけるとともに、その本質や原理に関する普遍的なアプローチの仕方を学ぶことができる（知識・技能）。
●多くの情報の中から重要な問題を見出すとともに、多様な視点から柔軟かつ論理的な分析を通じて的確な推論を下し、その成果を平易かつ明晰に表現する研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
●美学の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

各科目群で養成する学力

●ディプロマ・ポリシーに基づき、博士課程（前期）では、自らの研究テーマに関する専門知識と研究方法を深化させる科目群で構成される甲類科目と、自らの専門分野を相対化させる科目群で構成される乙類科目によって構成されるカリキュラムを設置する。課程修了には、甲類科目の総合演習および論文指導教員の「特講」「特講演習」を必修としたうえで、甲類および乙類科目から合計18単位以上履修し、修士論文

の総合試験に合格しなければならない。

各科目群で養成する学力

●甲類科目にある「特講」および「特講演習」を１年次から２年次にかけて８単位以上履修することによって、西洋・東洋（日本）の美や芸術についての専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法に基づく研究能力を身につける（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

●甲類科目にある総合演習を履修することによって、美学諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽する（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。

●講義中心の乙類科目を履修することによって、よりいっそう多様な専門的知識や思考方法を学ぶ（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

●修士論文において、身につけた知識・技能・思考力・判断力・表現力を駆使し、研究成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

修士（芸術学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（芸術学）の学位を授与する。

●西洋・東洋（日本）の芸術学・芸術史に加えて、美学の専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的な思考方法を学ぶことができる（知識・技能）。

●多くの情報の中から重要な問題を見出すとともに、多様な視点から柔軟かつ論理的な分析を通じて的確な推論を下し、その成果を平易かつ明晰に表現する研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。

●芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

●ディプロマ・ポリシーに基づき、博士課程（前期）では、自らの研究テーマに関する専門知識と研究方法を深化させる科目群で構成される甲類科目と、自らの専門分野を相対化させる科目群で構成される乙類科目によって構成されるカリキュラムを設置する。課程修了には、甲類科目の総合演習および論文指導教員の「特講」「特講演習」を必修としたうえで、甲類および乙類科目から合計18単位以上履修し、修士論文の総合試験に合格しなければならない。

各科目群で養成する学力

●甲類科目にある「特講」および「特講演習」を１年次から２年次にかけて８単位以上履修することによって、西洋・東洋（日本）の美や芸術についての専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法に基づく研究能力を身につける（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

●甲類科目にある総合演習を履修することによって、芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽する（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。

●講義中心の乙類科目を履修することによって、よりいっそう多様な専門的知識や思考方法を学ぶ（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

●修士論文において、身につけた知識・技能・思考力・判断力・表現力を駆使し、研究成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

授業1週目（DOWeek）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載していますので、以下の URL、QR コード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び
https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

2026年度 履修登録関連資料の訂正について

「履修要項」「履修の手引き」といった科目登録に必要な資料について、訂正が生じた場合は、文学部・文学研究科ホームページにて随時周知しますので各自確認してください。

■文学部・文学研究科ホームページ
https://letters.doshisha.ac.jp/letters/students/graduateschool.html

文 学 研 究 科

哲 学 専 攻

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
甲類科目	30201201		理論哲学特講Ⅰ		2	新　茂之	春学期	2	可
	30201202		理論哲学特講Ⅱ		2	新　茂之	秋学期	2	可
	30201203		実践哲学特講Ⅰ	カント『実践理性批判』の読解Ⅰ	2	中村　拓也	春学期	2	可
	30201204		実践哲学特講Ⅱ	カント『実践理性批判』の読解Ⅱ	2	中村　拓也	秋学期	2	可
	30201251		近代哲学特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201252		近代哲学特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201205		現代哲学特講Ⅰ	現象学的方法	2	中村　拓也	春学期	2	不可
	30201206		現代哲学特講Ⅱ	フッサール『事物と空間』精読	2	中村　拓也	秋学期	2	不可
	30201207		古代哲学史特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201208		古代哲学史特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201209		中世哲学史特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201210		中世哲学史特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201211		近世哲学史特講Ⅰ	レヴィナスの存在論Ⅰ	2	服部　敬弘	春学期	2	可
	30201212		近世哲学史特講Ⅱ	レヴィナスの存在論 II	2	服部　敬弘	秋学期	2	可
	30201213		社会思想史特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201214		社会思想史特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201215		科学思想史特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201216		科学思想史特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201217		理論哲学演習Ⅰ		I	新　茂之	春学期	2	可
	30201218		理論哲学演習Ⅱ		I	新　茂之	秋学期	2	可
	30201219		実践哲学演習Ⅰ	自律概念の検討Ⅰ	I	中村　拓也	春学期	2	可
	30201220		実践哲学演習Ⅱ	自律概念の検討Ⅱ	I	中村　拓也	秋学期	2	可
	30201269		近代哲学演習Ⅰ		I	（本年度休講）			
	30201270		近代哲学演習Ⅱ		I	（本年度休講）			
	30201221		現代哲学演習Ⅰ	現象学入門Ⅰ	I	中村　拓也	春学期	2	不可
	30201222		現代哲学演習Ⅱ	現象学入門 II	I	中村　拓也	秋学期	2	不可
	30201223		古代哲学史演習Ⅰ		I	（本年度休講）			
	30201224		古代哲学史演習Ⅱ		I	（本年度休講）			
	30201225		中世哲学史演習Ⅰ		I	（本年度休講）			
	30201226		中世哲学史演習Ⅱ		I	（本年度休講）			
	30201227		近世哲学史演習Ⅰ		I	（本年度休講）			
	30201228		近世哲学史演習Ⅱ		I	（本年度休講）			
	30201229		社会思想史演習Ⅰ		I	（本年度休講）			
	30201230		社会思想史演習Ⅱ		I	（本年度休講）			
	30201231		科学思想史演習Ⅰ		I	（本年度休講）			
	30201232		科学思想史演習Ⅱ		I	（本年度休講）			
	30201233		哲学総合演習Ⅰ		I	新　茂之 中村　拓也 鬼頭　葉子 服部　敬弘	春学期	隔週2	不可
	30201234		哲学総合演習Ⅱ		I	新　茂之 中村　拓也 鬼頭　葉子 服部　敬弘	秋学期	隔週2	不可

	登録コード		科目名	主題	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分
	科目	クラス							
乙類科目	30201235		歴史哲学特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201236		歴史哲学特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201237		社会哲学特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201238		社会哲学特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201239		倫理学特講Ⅰ		2	倉本　香	春学期	2	可
	30201240		倫理学特講Ⅱ		2	倉本　香	秋学期	2	可
	30201241		宗教哲学特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201242		宗教哲学特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201243		教育哲学特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201244		教育哲学特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201245		倫理思想史特講Ⅰ	世俗とは何か：政治と宗教とのかかわり	2	鬼頭　葉子	春学期	2	可
	30201246		倫理思想史特講Ⅱ	人権の哲学	2	鬼頭　葉子	秋学期	2	可
	30201247		教育哲学史特講Ⅰ	教育に関する伝統主義的な観点から	2	森　久佳	春学期	2	可
	30201248		教育哲学史特講Ⅱ	教育にかんするプラグマティズムの観点から	2	森　久佳	秋学期	2	可
	30201249		社会倫理思想史特講Ⅰ		2	（本年度休講）			
	30201250		社会倫理思想史特講Ⅱ		2	（本年度休講）			
	30201263		歴史哲学演習Ⅰ		1	（本年度休講）			
	30201264		歴史哲学演習Ⅱ		1	（本年度休講）			
	30201265		社会哲学演習Ⅰ		1	（本年度休講）			
	30201266		社会哲学演習Ⅱ		1	（本年度休講）			
	30201267		宗教哲学演習Ⅰ		1	（本年度休講）			
	30201268		宗教哲学演習Ⅱ		1	（本年度休講）			
	30201255		教育哲学演習Ⅰ		1	（本年度休講）			
	30201256		教育哲学演習Ⅱ		1	（本年度休講）			
	30201257		倫理思想史演習Ⅰ		1	（本年度休講）			
	30201258		倫理思想史演習Ⅱ		1	（本年度休講）			
	30201261		社会倫理思想史演習Ⅰ		1	（本年度休講）			
	30201262		社会倫理思想史演習Ⅱ		1	（本年度休講）			
	30201099		論文						不可

履修方法

甲類科目中、指導教員の指示により「哲学総合演習Ⅰ・Ⅱ」２単位、ならびに講義４科目および演習４科目の12単位、合計14単位を必修し、さらに甲類・乙類科目合わせて16単位以上を履修すること。

指導教員が必要と認めた場合は、自由科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、自由科目として修得した単位は甲類科目・乙類科目のいずれにも算入しない。

英 文 学 ・ 英 語 学 専 攻

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
甲類科目	30216001		古・中英語文学	中世英語英文学入門	4	大沼　由布	春学期	4	可(注)
	30216002		ルネッサンス英文学	シェイクスピア研究	4	勝山　貴之	春学期	4	可(注)
	30216003		近代英文学	イギリス小説と理論を学ぶ	4	臼井　雅美	秋学期	4	可
	30216004		アメリカ文学	アメリカン・ルネッサンスから20世紀転換期までのアメリカ文学	4	石塚　則子	秋学期	4	可
	30216006		英語学Ⅰ		4	菅原真理子	秋学期	4	可(注)
	30216007		英語学Ⅱ	認知言語学	4	菊田　千春	春学期	4	可
	30216008		英語学Ⅲ		4	能登原祥之	春学期	4	可(注)
	30216011		応用言語学研究法	応用言語学研究のアプローチとデータ分析方法	4	赤松　信彦	秋学期	4	可
乙類科目	30216201	001	英米文学演習Ⅰ①		2	(本年度休講)	秋学期	2	不可
		002	英米文学演習Ⅰ②	シェイクスピアの喜劇		勝山　貴之			
		003	英米文学演習Ⅰ③			(本年度休講)			
		004	英米文学演習Ⅰ④	*Mandeville's Travels*		大沼　由布			
		005	英米文学演習Ⅰ⑤	20世紀のアメリカ短編小説を読む		山辺　省太			
		006	英米文学演習Ⅰ⑥			(本年度休講)			
		007	英米文学演習Ⅰ⑦	近現代英米文学小説研究		臼井　雅美			
		008	英米文学演習Ⅰ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅰ		下楠　昌哉			
		009	英米文学演習Ⅰ⑨	20世紀転換期のアメリカ小説研究		石塚　則子			
		010	英米文学演習Ⅰ⑩	アメリカ文学・文化研究：作品と批評		白川　恵子			
		011	英米文学演習Ⅰ⑪	イギリス散文作品研究		金谷　益道			
		012	英米文学演習Ⅰ⑫	現代イギリス演劇論：グローバリズムと同性愛		川島　　健			
		013	英米文学演習Ⅰ⑬	イギリス・ロマン主義研究		金津　和美			
		014	英米文学演習Ⅰ⑭			(本年度休講)			
	30216202	001	英米文学演習Ⅱ①		2	(本年度休講)	春学期	2	不可
		002	英米文学演習Ⅱ②	シェイクスピアの歴史劇		勝山　貴之			
		003	英米文学演習Ⅱ③			(本年度休講)			
		004	英米文学演習Ⅱ④	中世英文学研究		大沼　由布			
		005	英米文学演習Ⅱ⑤	20世紀のアメリカ短編小説を読む		山辺　省太			
		006	英米文学演習Ⅱ⑥			(本年度休講)			
		007	英米文学演習Ⅱ⑦	英米文学と文学理論		臼井　雅美			
		008	英米文学演習Ⅱ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅱ		下楠　昌哉			
		009	英米文学演習Ⅱ⑨	20世紀転換期のアメリカ文学研究		石塚　則子			
		010	英米文学演習Ⅱ⑩	アメリカ文学・文化研究：歴史と社会		白川　恵子			
		011	英米文学演習Ⅱ⑪	イギリス散文作品研究		金谷　益道			
		012	英米文学演習Ⅱ⑫	近現代アメリカ演劇を読む		川島　　健			
		013	英米文学演習Ⅱ⑬	イギリス・ロマン主義研究		金津　和美			
		014	英米文学演習Ⅱ⑭	19世紀イギリス小説		桐山　恵子			
	30216203	001	英語学演習Ⅰ①	認知言語学研究	2	菊田　千春	秋学期	2	不可
		002	英語学演習Ⅰ②	生成統語論研究		瀧田　健介			
		003	英語学演習Ⅰ③	応用コーパス言語学研究		能登原祥之			
		004	英語学演習Ⅰ④	英語教育学・応用言語学		赤松　信彦			
		005	英語学演習Ⅰ⑤			菅原真理子			
		006	英語学演習Ⅰ⑥	社会言語学・語用論		STEFANIE ALEXA STADLER			
		007	英語学演習Ⅰ⑦	会話分析セミナー		杉浦　秀行			
		008	英語学演習Ⅰ⑧	英語教育学		鬼田　崇作			

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
乙類科目	30216204	001	英語学演習Ⅱ①	認知言語学研究	2	菊田　千春	春学期	2	不可
		002	英語学演習Ⅱ②	生成統語論研究		瀧田　健介			
		003	英語学演習Ⅱ③	応用コーパス言語学研究法		能登原祥之			
		004	英語学演習Ⅱ④	英語教育学・応用言語学		赤松　信彦			
		005	英語学演習Ⅱ⑤			菅原真理子			
		006	英語学演習Ⅱ⑥	社会言語学・語用論		STEFANIE ALEXA STADLER			
		007	英語学演習Ⅱ⑦			杉浦　秀行			
		008	英語学演習Ⅱ⑧	英語教育学		鬼田　崇作			
	30216062	001	英語修辞法①		2	桐山　恵子	春学期	2	不可
		002	英語修辞法②			菅原真理子			
	30216063		言語理論	生成文法理論	4	瀧田　健介	春学期	4	可
	30216041		英語教育理論Ⅰ	国際語としての英語と学習者方略・自己調整学習研究	4	若本　夏美	春学期	4	可
	30216042		英語教育理論Ⅱ	学習者コーパス研究	4	能登原祥之	秋学期	4	可(注)
	30216043		英語教育理論Ⅲ	第二言語語彙研究	4	鬼田　崇作	秋学期	4	可
	30216100		英語教育法	英語指導理論と実践研究法	4	能登原祥之	秋学期	4	可(注)
	30216064		作家研究Ⅰ	ヘミングウェイ研究	4	山辺　省太	秋学期	4	可
	30216065		作家研究Ⅱ	トマス・ハーディ研究	4	金谷　益道	春学期	4	可
	30216066		作家研究Ⅲ		4	（本年度休講）			
	30216067		作家研究Ⅳ	アイルランド・イギリス作家研究	4	下楠　昌哉	秋学期	4	可
	30216068		作家研究Ⅴ	メアリー・シェリー研究	4	金津　和美	秋学期	4	可
	30216073		英米文学特講Ⅰ		4	（本年度休講）			
	30216074		英米文学特講Ⅱ		4	（本年度休講）			
	30216075		英米文学特講Ⅲ		4	（本年度休講）			
	30216076		英米文学特講Ⅳ		4	（本年度休講）			
	30216077		英米文学特講Ⅴ	アンテベラム期の奴隷制／奴隷叛乱とナラティヴ	4	白川　恵子	春学期	4	可
	30216078		英米文学特講Ⅵ		4	（本年度休講）			
	30216081		英語学特講Ⅰ	An Introduction to Forensic Linguistics	4	STEFANIE ALEXA STADLER	秋学期	4	可
	30216082		英語学特講Ⅱ		4	（本年度休講）			
	30216083		英語学特講Ⅲ	会話分析入門	4	杉浦　秀行	秋学期	4	可
	30216084		英語学特講Ⅳ		4	（本年度休講）			
	30216085		英語学特講Ⅴ		4	（本年度休講）			
	30216086		英語学特講Ⅵ		4	（本年度休講）			
	30216099		論文						不可

（注）　他研究科生、文学研究科の他専攻生が履修を希望する場合は、担当教員が履修の可否を判断するために面接を行うことがある。

履修方法

甲類科目中12単位を必修し、さらに甲類、乙類科目中から18単位以上を履修すること。ただし、乙類科目から１年次に「英語修辞法」と指導教員の指示により、１年次秋学期に「英米文学演習Ⅰ」もしくは「英語学演習Ⅰ」、２年次春学期に「英米文学演習Ⅱ」もしくは「英語学演習Ⅱ」のいずれかを必修すること。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、修得した他専攻科目、他研究科科目及び高等研究教育院設置科目の単位は、８単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる。

文 化 史 学 専 攻

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
甲類科目	30204001		文化史学の理論	文化史学の諸問題	4	北　康宏 水ノ江和同 小林　丈広 中野　慎之 鍛治　宏介 佐野　静代 山田　徹	春･秋学期	2	不可
	30204201		文化史研究法Ⅰ	古代末期のキリスト教とジェンダー	2	足立　広明	春学期	2	可
	30204202		文化史研究法Ⅱ	古代末期のローマ帝国と西アジア世界の変容	2	足立　広明	秋学期	2	可
	30204009		文化史学総合演習ＡⅠ（日本）		2	小林　丈広 中野　慎之 水ノ江和同 佐野　静代 北　康宏 鍛治　宏介 山田　徹	春･秋学期	隔週2	不可
	30204010		文化史学総合演習ＡⅡ（日本）		2	小林　丈広 中野　慎之 水ノ江和同 佐野　静代 北　康宏 鍛治　宏介 山田　徹	春･秋学期	隔週2	不可
	30204013		文化史学総合演習ＢⅠ （西洋・東洋）		2	堀井　優 阿部　俊大 服部　伸 小野　直子 城地　孝	春･秋学期	隔週2	不可
	30204014		文化史学総合演習ＢⅡ （西洋・東洋）		2	堀井　優 阿部　俊大 服部　伸 小野　直子 城地　孝	春･秋学期	隔週2	不可
乙類科目	30204051		日本古代文化史特講	日本古代史研究とその周辺	4	北　康宏	春･秋学期	2	可
	30204053		日本中世文化史特講	日本中世史研究の諸問題	4	山田　徹	春･秋学期	2	可(注)
	30204055		日本近世文化史特講	江戸時代を対象とする歴史研究	4	鍛治　宏介	春･秋学期	2	可
	30204057		日本近代文化史特講	古文書に触れながら歴史学を考える	4	小林　丈広	春･秋学期	2	可
	30204059		日本文化史特講Ⅰ	日本彫刻史	4	松岡久美子	春･秋学期	2	可
	30204061		日本文化史特講Ⅱ		4	中野　慎之	春･秋学期	2	可
	30204098		日本文化史特講Ⅲ	歴史地理学	4	佐野　静代	春･秋学期	2	可(注)
	30204063		考古学特講Ⅰ		4	水ノ江和同	春･秋学期	2	可(注)
	30204065		考古学特講Ⅱ	中世都市京都の総合学的研究	4	鋤柄　俊夫	春･秋学期	2	可(注)
	30204203		西洋古代文化史特講Ⅰ	日常のなかの政治　ジェンダーⅠ	2	栗原　麻子	春学期	2	可
	30204204		西洋古代文化史特講Ⅱ	日常性のなかの政治　ジェンダー２	2	栗原　麻子	秋学期	2	可
	30204205		西洋中世文化史特講Ⅰ	西洋中世史研究の基礎	2	阿部　俊大	春学期	2	可
	30204206		西洋中世文化史特講Ⅱ	西洋中世史研究の基礎	2	阿部　俊大	秋学期	2	可
	30204230		西洋近代文化史特講Ⅰ	19世紀ドイツのカトリック社会・政治運動	2	服部　伸	春学期	2	可
	30204231		西洋近代文化史特講Ⅱ	ナチの独裁体制について	2	服部　伸	秋学期	2	可
	30204211		西洋文化史特講Ⅰ	戦後イギリス文化史	2	小関　隆	春学期	2	可
	30204212		西洋文化史特講Ⅱ	ヨーロッパ近現代史研究の最前線	2	能勢　和宏	秋学期	2	可
	30204213		西洋文化史特講Ⅲ	近世フランスにおける宗教・社会・国家	2	小山　啓子	春学期	2	可
	30204214		西洋文化史特講Ⅳ	王権と都市の交差から見る近世のフランス	2	小山　啓子	秋学期	2	可
	30204221		アメリカ文化史特講Ⅰ	世界史の中の南北アメリカ	2	小野　直子	春学期	2	可

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
乙類科目	30204222		アメリカ文化史特講Ⅱ	アメリカの人種主義	2	小野　直子	秋学期	2	可
	30204223		中東文化史特講Ⅰ	イスラーム国家の商業特権と条約体制1	2	堀井　優	春学期	2	可
	30204224		中東文化史特講Ⅱ	イスラーム国家の商業特権と条約体制2	2	堀井　優	秋学期	2	可
	30204232		東アジア文化史特講Ⅰ（2020年度以降生のみ登録可）	中国明清時代史の史料と研究Ⅰ	2	城地　孝	春学期	2	可
	30204233		東アジア文化史特講Ⅱ（2020年度以降生のみ登録可）	中国明清時代史の史料と研究Ⅱ	2	城地　孝	秋学期	2	可
	30204079		東洋文化史特講（2021年度以前生のみ登録可）		4	古勝　隆一	春･秋学期	2	可
	30204225		東洋文化史特講Ⅰ（2022年度以降生のみ登録可）	中国の伝統思想	2	古勝　隆一	春学期	2	可
	30204226		東洋文化史特講Ⅱ（2022年度以降生のみ登録可）	中国の伝統思想	2	古勝　隆一	秋学期	2	可
	30204227		東洋文化史特講Ⅲ（2020年度以降生のみ登録可）		2	（本年度休講）			
	30204228		東洋文化史特講Ⅳ（2020年度以降生のみ登録可）	近世インド洋海域における接触と交流の諸相	2	和田　郁子	秋学期	2	可
	30204081		文化史特講		4	（本年度休講）			
	30204102		文化財学特講	文化庁文化財調査官による 文化財保護の理論と実践	4	水ノ江和同 桑波田武志 岡本　公秀 前田俊一郎 井上　大樹 山下信一郎 江戸　謙顕	春･秋学期	2	可
	30204085		日本古代文化史演習	研究発表と論文指導	4	北　康宏	春･秋学期	2	不可
	30204086		日本中世文化史演習	日本中世史研究の基礎	4	山田　徹	春･秋学期	2	不可
	30204087		日本近世文化史演習	古文書調査実習	4	鍛治　宏介	春･秋学期	2	不可
	30204088		日本近代文化史演習	日本近現代史研究	4	小林　丈広	春･秋学期	2	不可
	30204089		日本文化史特講演習Ⅰ	歴史地理学	4	佐野　静代	春･秋学期	2	不可
	30204090		日本文化史特講演習Ⅱ		4	中野　慎之	春･秋学期	2	不可
	30204091		考古学演習	考古学研究者になろう！	4	水ノ江和同	春･秋学期	2	不可
	30204092		西洋古代文化史演習		4	（本年度休講）			
	30204093		西洋中世文化史演習	修士論文作成と博士論文への展望	4	阿部　俊大	春･秋学期	2	不可
	30204100		西洋近代文化史演習	ヨーロッパ近現代史	4	服部　伸	春･秋学期	2	不可
	30204096		アメリカ文化史演習	アメリカ史研究の技法	4	小野　直子	春･秋学期	2	不可
	30204097		中東文化史演習	中東イスラーム史研究	4	堀井　優	春･秋学期	2	不可
	30204101		東アジア文化史演習（2022年度以降生のみ登録可）		4	城地　孝	春･秋学期	2	不可
	30204099		論文						不可

（注）　文学研究科生のみ登録できる。他専攻生が履修を希望する場合には、授業への適応状況に応じて、担当教員が履修の可否を判断するために面接を行うことがある。

履修方法

甲類科目より「文化史学の理論」または「文化史研究法Ⅰ」および「文化史研究法Ⅱ」のいずれか４単位、ならびに「文化史学総合演習」ＡⅠ・ＡⅡまたはＢⅠ・ＢⅡのいずれか４単位、計８単位を必修し、乙類科目と合わせて32単位以上を履修すること。ただし、乙類科目の演習は、第２年次においていずれか１つを必修のこと。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、修得した他専攻科目、他研究科科目及び高等研究教育院設置科目の単位は、課程修了に必要な単位数に含めることができる。

国 文 学 専 攻

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
甲類科目	30206201		日本文学特講Ⅰ	万葉和歌の漢字表現	2	垣見　修司	秋学期	2	可
	30206202		日本文学特講Ⅱ	中古文学の研究方法	2	岩坪　　健	春学期	2	可
	30206203		日本文学特講Ⅲ		2	（本年度休講）			
	30206204		日本文学特講Ⅳ		2	（本年度休講）			
	30206205		日本文学特講Ⅴ		2	（本年度休講）			
	30206206		日本文学特講Ⅵ		2	（本年度休講）			
	30206207		日本文学特講Ⅶ	文学作品へのアプローチを考える	2	笹尾　佳代	秋学期	2	可
	30206208		日本文学特講Ⅷ	近代文学における「場」	2	西川　貴子	秋学期	2	可
	30206235		日本文学特講Ⅸ(2022年度以降生のみ登録可)	日本近現代文学研究の基礎概念	2	瀬崎　圭二	春学期	2	可
	30206209		日本語学特講Ⅰ	日本文章史の研究	2	藤井　俊博	秋学期	2	可
	30206210		日本語学特講Ⅱ	中世口語資料序説	2	山本佐和子	春学期	2	可
	30206211		日本文学特講演習Ⅰ	上代日本文学の研究方法	2	垣見　修司	春学期	2	可
	30206212		日本文学特講演習Ⅱ	中古文学の研究方法	2	岩坪　　健	秋学期	2	可
	30206213		日本文学特講演習Ⅲ		2	（本年度休講）			
	30206214		日本文学特講演習Ⅳ		2	（本年度休講）			
	30206215		日本文学特講演習Ⅴ		2	（本年度休講）			
	30206216		日本文学特講演習Ⅵ		2	（本年度休講）			
	30206217		日本文学特講演習Ⅶ	文学作品へのアプローチを考える	2	笹尾　佳代	春学期	2	可
	30206218		日本文学特講演習Ⅷ		2	西川　貴子	春学期	2	可
	30206236		日本文学特講演習Ⅸ(2022年度以降生のみ登録可)	日本近現代文学研究の基礎概念	2	瀬崎　圭二	秋学期	2	可
	30206219		日本語学特講演習Ⅰ	宇治拾遺物語の言語の研究	2	藤井　俊博	春学期	2	可
	30206220		日本語学特講演習Ⅱ	抄物ヲ読マウヨ	2	山本佐和子	秋学期	2	可
	30206221		日本文学・日本語学総合演習Ⅰ	日本文学・日本語学の総合的研究	2	垣見　修司 瀬崎　圭二 藤井　俊博 西川　貴子	春学期	2	不可
	30206222		日本文学・日本語学総合演習Ⅱ	日本文学・日本語学の総合的研究	2	岩坪　　健 柳川　　響 大山　和哉 山本佐和子 笹尾　佳代 三宅　宏幸	春学期	2	不可
乙類科目	30206223		日本文学史研究Ⅰ	文学史の功罪と可能性	2	田口　律男	春学期	2	可
	30206224		日本文学史研究Ⅱ	戦時中国と戦後日本の文学的連続性―池田克己を視座として	2	木田　隆文	秋学期	2	可
	30206225		日本文学史研究Ⅲ	平安和歌の本文と表現の研究	2	福田　智子	春学期	2	可
	30206226		日本文学史研究Ⅳ	『万葉集』の時代と創意	2	井ノ口　史	秋学期	2	可
	30206227		日本文学理論研究Ⅰ	古典受容と女訓	2	安達　敬子	春学期	2	可
	30206228		日本文学理論研究Ⅱ	芸能・御伽草子にみる古典受容	2	安達　敬子	秋学期	2	可
	30206229		日本文学理論研究Ⅲ		2	盛田　帝子	春学期	2	可
	30206230		日本文学理論研究Ⅳ	18世紀の仮名読物史―「奇談」書を中心に	2	飯倉　洋一	秋学期	2	可
	30206231		日本語学理論研究Ⅰ	日本語史上の新語	2	橋本　行洋	春学期	2	可
	30206232		日本語学理論研究Ⅱ	日本語史料論	2	宇都宮啓吾	春学期	2	可
	30206233		日本語学理論研究Ⅲ	上代・中古の可能表現の概観	2	吉井　　健	秋学期	2	可
	30206234		日本語学理論研究Ⅳ	異言語接触の場としての日本	2	鈴木　広光	秋学期	2	可
	30206099		論文						不可

他研究科生、及び文学研究科の他専攻生が履修を希望する場合は、授業内容に対応可能かどうかを確認するため、担当教員による面接を行う場合がある。

履修方法

上記科目から甲類科目の講義科目は10単位以上、演習科目は指導教員の演習１科目を含む10単位以上、総合演習から４単位以上、乙類科目は８単位以上、計32単位以上を履修すること。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、８単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる。

美 学 芸 術 学 専 攻

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
甲類科目	30217401		美学特講Ⅰ	西洋の音楽観の歴史	2	大愛　崇晴	春学期	2	可
	30217402		美学特講Ⅱ	現代イタリア語音楽書の講読	2	大愛　崇晴	秋学期	2	可
	30217403		美学特講Ⅲ	ベンヤミンの『パサージュ論』	2	森田　　團	春学期	2	可
	30217404		美学特講Ⅳ	ベンヤミンとハイデガー(ヘルダーリンをめぐって)	2	森田　　團	秋学期	2	可
	30217437		芸術学特講Ⅰ（芸術と歴史）		2	（本年度休講）			
	30217438		芸術学特講Ⅱ（芸術と歴史）	イメージと空間	2	越前　俊也	秋学期	2	可
	30217439		芸術学特講Ⅲ（芸術と社会）	イメージの対象とメディア	2	佐藤　守弘	春学期	2	可
	30217440		芸術学特講Ⅳ（芸術と社会）	イメージの語り方	2	佐藤　守弘	秋学期	2	可
	30217429		芸術学特講Ⅴ		2	（本年度休講）			
	30217430		芸術学特講Ⅵ		2	（本年度休講）			
	30217441		芸術学特講Ⅶ（芸術と社会）	芸術と社会	2	伊達　立晶	春学期	2	可
	30217442		芸術学特講Ⅷ（芸術と社会）	芸術と社会	2	伊達　立晶	秋学期	2	可
	30217409		美術史特講Ⅰ	作品の「細部」	2	吉田　朋子	春学期	2	可
	30217410		美術史特講Ⅱ	アリオストと芸術	2	吉田　朋子	秋学期	2	可
	30217411		美術史特講Ⅲ	日本美術史の諸問題	2	河野　道房	春学期	2	可
	30217412		美術史特講Ⅳ	中国美術史の諸問題	2	河野　道房	秋学期	2	可
	30217413		美学特講Ⅰ演習	美学芸術学研究	2	大愛　崇晴	春学期	2	不可
	30217414		美学特講Ⅱ演習	美学芸術学研究	2	大愛　崇晴	秋学期	2	不可
	30217415		美学特講Ⅲ演習	フィードラーの芸術論	2	森田　　團	春学期	2	不可
	30217416		美学特講Ⅳ演習	フィードラーの芸術論	2	森田　　團	秋学期	2	不可
	30217443		芸術学特講Ⅰ演習（芸術と歴史）	近代以降の絵画と彫刻	2	越前　俊也	春学期	2	不可
	30217444		芸術学特講Ⅱ演習（芸術と歴史）	20世紀の美術	2	越前　俊也	秋学期	2	不可
	30217445		芸術学特講Ⅲ演習（芸術と社会）	研究対象の分析法	2	佐藤　守弘	春学期	2	不可
	30217446		芸術学特講Ⅳ演習（芸術と社会）	芸術学の方法論	2	佐藤　守弘	秋学期	2	不可
	30217431		芸術学特講Ⅴ演習		2	（本年度休講）			
	30217432		芸術学特講Ⅵ演習		2	（本年度休講）			
	30217447		芸術学特講Ⅶ演習（芸術と社会）		2	伊達　立晶	春学期	2	不可
	30217448		芸術学特講Ⅷ演習（芸術と社会）		2	伊達　立晶	秋学期	2	不可
	30217421		美術史特講Ⅰ演習	18世紀フランスのサロン批評	2	吉田　朋子	春学期	2	不可
	30217422		美術史特講Ⅱ演習	アカデミーのコンフェランス	2	吉田　朋子	秋学期	2	不可
	30217423		美術史特講Ⅲ演習	日本美術史の諸問題	2	河野　道房	春学期	2	不可
	30217424		美術史特講Ⅳ演習	中国美術史の諸問題	2	河野　道房	秋学期	2	不可
	30217427		美学芸術学総合演習Ⅰ	美学・芸術学・芸術史の諸問題Ⅰ	2	河野　道房 越前　俊也 伊達　立晶 佐藤　守弘 森田　　團 吉田　朋子 大愛　崇晴 前田　朋美	春学期	2	不可
	30217428		美学芸術学総合演習Ⅱ	美学・芸術学・芸術史の諸問題Ⅱ	2	河野　道房 越前　俊也 伊達　立晶 佐藤　守弘 森田　　團 吉田　朋子 大愛　崇晴 前田　朋美	秋学期	2	不可

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
乙類科目	30217201		芸術哲学特講Ⅰ	ニコラ・ブリオーの美学をめぐって	2	武田　宙也	春学期	2	可
	30217202		芸術哲学特講Ⅱ		2	稲賀　繁美	秋学期	2	可
	30217203		美学史特講Ⅰ	近代フランス語圏美学・芸術学	2	大橋完太郎	春学期	2	可
	30217204		美学史特講Ⅱ	ドイツ啓蒙主義美学研究 II	2	杉山　卓史	秋学期	2	可
	30217205		芸術史学特講Ⅰ		2	安田　篤生	春学期	2	可
	30217206		芸術史学特講Ⅱ	近代美術史の方法	2	圀府寺　司	秋学期	2	可
	30217207		芸術史学特講Ⅲ	日本彫刻史における観音造像の研究	2	田中　健一	春学期	2	可
	30217208		芸術史学特講Ⅳ	近世の障壁画	2	山下　義也	秋学期	2	可
	30217209		文芸学特講Ⅰ	古代ギリシアの美論と芸術論	2	渡辺　浩司	春学期	2	可
	30217210		文芸学特講Ⅱ		2	加須屋　誠	秋学期	2	可
	30217211		音楽学特講Ⅰ	ロマン派のピアノ音楽をめぐって	2	田之頭一知	秋学期	2	可
	30217212		音楽学特講Ⅱ	オーケストラ論	2	西村　　理	春学期	2	可
	30217099		論文						不可

履修方法

（2024年度以前生）

甲類科目中、「美学芸術学総合演習Ⅰ、Ⅱ」計４単位と、論文指導教員の特講および演習を計８単位必修のこと。

さらに甲・乙類科目から18単位以上履修のこと。

（2025年度以降生）

甲類科目中、「美学芸術学総合演習Ⅰ、Ⅱ」計４単位と、論文指導教員の特講および演習を計８単位必修のこと。

さらに甲・乙類科目から18単位以上履修のこと。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、修得した他専攻科目、他研究科科目及び高等研究教育院設置科目の単位は、８単位まで乙類科目の課程修了に必要な単位数に含めることができる。

社会学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◇博士課程（前期課程）

社会学研究科博士課程（前期）は、激しく変動する社会事象や社会問題について、各専門分野が開拓し蓄積してきた理論的、実証的方法の伝授、修得をとおして、情報収集、解析、解釈における専門的能力をベースにした高度な研究企画や実践能力を身に付けて、専門的能力を活かした高度職業人、若しくは研究者を目指しうる人材の養成を目的とする。

社会福祉学専攻

◆人材養成に関する目的

社会福祉学専攻博士課程（前期）は、社会福祉学の理論、思想・歴史、援助論と制度・政策論についてミクロからメゾ、マクロまでバランスよく提供することで、社会福祉の「価値・倫理観」、「知識」と「援助技術」の習得をめざし、社会福祉の諸領域において専門性の高い実践を遂行できる中核的実践家を養成するとともに、社会福祉施設や教育機関、地方自治体などの職員へのリカレント教育機会の提供による高度専門職業人の養成を目指す。

◆ディプロマ・ポリシー

少子・高齢化社会における多くの福祉課題の解決に向けて、社会福祉の制度・政策、地域福祉、対人援助それぞれの基礎的知識を習得し、現場に密接した相談援助スキルを身に付けることができる。（知識・技能）

社会が直面する社会問題に対し、社会福祉の各領域において国際的な社会科学的知見から学術的に探究し、その解決に向けて行動し、発信できる。（思考力・判断力・表現力）

社会福祉の基礎になっている価値・倫理観を習得し、福祉社会の健全な発展に向けて政策企画や実践を探求できる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

【2025年度以降生】

●少子・高齢化社会における多くの福祉課題の解決に貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目Ａ群～Ｃ群で構成されるカリキュラムを設置し、また、修士論文作成を課している。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。

●必修科目は「社会福祉学論文指導Ⅰ、Ⅱ」（2年次通年配当、計4単位）であり、優れた修士論文の完成を目標にきめ細かい指導を行っていく。

●選択科目は主として以下のような内容で区別されている。

Ａ群：社会福祉の原理と政策・思想・歴史

Ｂ群：社会福祉の援助実践の理論と方法

Ｃ群：社会福祉の分野

●必要単位数は、必修科目4単位、選択科目Ａ群8単位以上、選択科目Ｂ、Ｃ群からそれぞれ4単位以上、合計30単位以上であり、特定専門領域に偏らず、実践から思想・歴史、方法論、社会福祉の各分野までバランスよく取るようにしている。なお、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）を履修した場合は、修了必要単位数に含めることができる。

●大学院入学者には教員がアドバイザーとして円滑な履修と研究のスタートをサポートする。1年次秋には指導教員（主査）および副指導教員を決定し、丁寧な指導を行っていく。

●修士論文提出（2年次の1月）までに「修士論文作成発表会」を2回開き（5－6月、11－12月）、教員、院生からのアドバイスを得ることができる。

【2024年度以前生】

・少子・高齢化社会における多くの福祉課題の解決に貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目Ａ群～Ｅ群で構成されるカリキュラムを設置し、また、修士論文作成を課している。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。

●必修科目は「社会福祉学論文指導Ⅰ、Ⅱ」（2年次通年配当、計4単位）であり、優れた修士論文の完成を目標にきめ細かい指導を行っていく。

●選択科目は主として以下のような内容で区別されている。

Ａ群：基礎科目および科学的調査方法論の習得を目標とする科目

Ｂ群：社会福祉の思想・歴史

Ｃ群：社会福祉のマクロ、メゾおよび国際社会福祉

Ｄ群：社会福祉のミクロ

Ｅ群：社会福祉の分野及び関連領域

●必要単位数は、必修科目4単位、選択科目Ａ群～Ｅ群の中から4群を選択し、（※2011年度以前生は、選択科目Ａ群～Ｄ群から）それぞれ4単位以上、さらに選択科目Ａ群～Ｅ群、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目から10単位以上、合計30単位以上であり、特定専門領域に偏らず、マクロからミクロ、思想・歴史から方法論までバランスよく取るようにしている。

●大学院入学者には教員がアドバイザーとして円滑な履修と研究のスタートをサポートする。1年次秋には指導教員（主査）および副指導教員を決定し、丁寧な指導を行っていく。

●修士論文提出（2年次の1月）までに「修士論文作成発表会」を2回開き（5－6月、11－12月）、教員、院生からのアドバイスを得ることができる。

メディア学専攻

◆人材養成に関する目的

メディア学専攻博士課程（前期）は、メディアとジャーナリズム、情報と社会、文化とコミュニケーションの視座から、現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの影響・機能について、理論的研究を深めるとともに、メディアの実践的スキルを修得させ、修了後は研究継続として後期課程への進学、官民の研究機関・メディア機関及び一般コミュニケーション関連企業等において活躍できる人材の育成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響について学術的・理論的に深く理解することができる。（知識・技能）

社会課題に対応したメディアの問題解決のため研究と実践両面で学識を適切に応用することができる。（思考力・判断力・表現力）

メディアの課題に対して社会的・職業的な要請に応える高い識見を自ら育成することができる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

●現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響について深く理解し、メディアの課題に対応した社会的・職業的な要請に応える識見を自ら育成、研究・実践両面において課題解決に適切な応用力を持つ人材を目標として講義科目、演習科目で構成されるカリキュラムを設置し、また、修士論文作成を課している。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要

は次のとおりである。

●講義科目は、指導教員の指示により「メディアとジャーナリズム」「情報と社会」「コミュニケーションと文化」の３つの視点から現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響に関して深く理解し、課題に対応した識見を自ら育成するため16単位以上を修得する。

●演習科目は、専門家としてメディアの課題に対して社会的・職業的な要請に応える識見を育成、研究・実践両面において課題解決に適切な応用力を身に付けるため指導教員の指示により２単位以上を修得する。

●学際的に幅広い見地から専門家としての基礎を確立するために社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響等メディアに関連した講義科目・演習科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目から12単位以上を修得する。

教育文化学専攻

◆人材養成に関する目的

教育文化学専攻博士課程（前期）は、多文化共生社会における教育文化による人間形成について理論研究およびフィールド研究に取り組むことで、多文化間の相互理解における問題を解決し、相互理解を促進しうる高度職業人の育成を目指す。

◆ディプロマ・ポリシー

多文化共生社会における教育文化による人間形成について、客観性と独創性のある研究に必要な諸理論と学際的方法に基づいて体系的な論文執筆ができる。（知識・技能）

多文化共生社会における教育文化による人間形成について、諸理論と学際的方法に基づいて問題発見、分析、解決ができ、これを公表することができる。（思考力・判断力・表現力）

多文化共生社会における教育文化による人間形成について、学際的な視野を持って主体的に活動する高度職業人としての態度を育成できる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

●ディプロマ・ポリシーに基づき、多文化共生社会における教育文化による人間形成について、関係する理論と手法、およびフィールド研究による理論と実践の架橋を通じて、問題発見、分析、解決に自立的な貢献ができるだけの知識と技能と態度を習得することを到達目標とし、必修科目と選択科目から構成されるカリキュラムを設置する。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。

●必修科目は、多文化共生社会における教育文化による人間形成を、基盤となる理論から理解し、多文化間の相互理解を推進できるように、教育文化学研究の理論と方法、教育文化学演習、修士論文執筆に至るまでの自立的な研究能力を育成する目的で実施する教育文化学総合演習によって構成され、計10単位から成り立っている。教員全員による指導体制が基盤となる総合演習を通じて、幅広い知識と手法の習得を確実にする。

●選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目は20単位以上を修得する。選択科目は、必修科目に加え、多文化共生社会における教育文化による人間形成を理解し、多文化間の相互理解を推進していくことを到達目標にし、多様な学際的側面から知識と技能を習得するための科目によって構成されている。

社会学専攻

◆人材養成に関する目的

社会学専攻博士課程（前期）は、社会学・人類学という学問分野についての理論・実証の両側面をともに重視した教育をとおして、(1) 人間社会についての洞察力と問題整理能力、(2) 社会統計学の知識に基づく計量調査能力、(3) フィールドワークに基づく質的調査能力を身に付け、行政・民間企業・NPO/NGO の研究員、職員、教員として活躍する人材や研究者を目指す人材の養成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

多様な社会学理論を理解し、社会統計学やフィールドワークの手法など調査研究方法に関する知識を習得する。（知識・技能）

専門社会調査士レベルの実証的研究能力をベースに、調査の企画・実践力ならびに学会・研究会・学術雑誌での発表・表現力を身に付ける。（思考力・判断力・表現力）

学生が各自で学ぶべき研究分野とテーマを選び、自分の専門性を深め、主体的な研究態度を身に付ける。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

【2025年度以降生】

●ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、講義科目、演習科目、論文指導科目から構成されるカリキュラムを設置する。講義科目、演習科目、論文指導科目はそれぞれ、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

●講義科目は、専門性を深めるとともに、広く社会学・人類学を学べるように、多様な理論と実証的な調査研究方法をバランスよく配置する。各講義科目の内容をより深く探究するために演習科目を設置し、講義科目と相互補完的に学べるように構成する。

●修士論文作成のための指導を行う特別演習を設置している。1年次に幅広く社会学・人類学を学習したうえで、同年度末までに指導教員を決定し、2年次に指導教員のもとで修士論文を作成する。

●講義科目から12単位以上、演習科目から4単位以上、論文指導科目4単位を履修し、合計30単位以上を履修する。他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）を履修した場合は、修了必要単位数に含めることができる。なお、第2年次に指導教員が担当する「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」と「論文」を履修するものとする。

【2024年度以前生】

●ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、講義科目、演習科目、論文指導科目から構成されるカリキュラムを設置する。講義科目、演習科目、論文指導科目はそれぞれ、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

●講義科目は、下記の3群に分かれる。

A 群：「個人と社会」をめぐる微視的な問題領域（ミクロ科目群）

B 群：巨視的な動的社会過程を射程に入れた研究領域（メゾ・マクロ科目群）

C 群：社会学の理論・実証研究の基本を学ぶ基礎科目（共通科目群）

●上記に加えて、各科目群の内容をより深く探求するために演習を設置し、また修士論文作成のための指導を行う特別演習を設置している。

●講義科目の各群から4単位以上、演習科目から2単位以上、さらに上記科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目から12単位以上と論文指導科目（特別演習）4単位の、計30単位以上を履修する。なお、修士論文を提出する年度に、修士論文構想発表会で報告をすることが必要である。

産業関係学専攻

◆人材養成に関する目的

産業関係学専攻博士課程（前期）は、雇用・労働に関わる問題の分析とその解決についてフィールドワークでの検証やリサーチセミナーでの議論をとおして、事例分析と数値データ解析という二つの実証分析能力を涵養するとともに、収集した事実を整理・体系化して理論的知見に基づいた雇用ルールの制度設計等を行う能力を身に付けて、人事管理の専門家として、企業や行政機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

産業社会が直面する雇用・労働に関する実際的問題を、実証分析に基づき論理的・体系的に認識できる。（知識・技能）

雇用・労働問題を論理的に認識するために、テキスト・数値という２種のデータの実証分析ができる。（思考力・判断力・表現力）

産業社会が直面する雇用・労働問題を発見・体系化し、理論的知見に基づき新たな雇用ルールを提起できる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

●産業社会が直面する雇用・労働に関する実際的問題を、実証分析に基づき論理的・体系的に認識できるようになるために必修科目と選択科目を設置し、必修科目は12単位以上、選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目は18単位以上の履修を求めている。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。

●必修科目には、産業関係学の体系と方法を理解するために産業関係学研究を、また雇用関係が表出する場である労働市場のメカニズムを理解するために労働市場論の２科目を講義形式で設置する。

●さらに雇用・労働に関する問題を実証分析に基づき論理的・体系的に認識し、新たな雇用ルールの提起ができるようになるために、必修科目に産業関係学演習Ⅰ・産業関係学演習ⅡＡ・産業関係学演習ⅡＢをテキスト情報系と数値情報系の２系統にわたって設置する。また各人が講義・演習で養ってきた産業関係に関わる知見を相互に交流するため、同じく必修科目にリサーチセミナーを設置する。

●選択科目には、雇用・労働現象を理解するための理論を学ぶ11の講義を設置する。また雇用・労働に関するテキストデータ・数値データの解析能力を涵養するために、労働調査研究Ⅰ・Ⅱと労働統計研究Ⅰ・Ⅱを設置する。以上の講義と演習によって養成した実証分析能力を使って独力でリサーチを実行できるようになるために、実習形式の産業関係フィールドワークを設置する。

社会学研究科

社会福祉学専攻（2025年度以降生対象）

科目群		履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
必修科目		2～	30910091	1	社会福祉学論文指導Ⅰ ①	2	永田　祐	春学期	2	不可		不可
				2	〃 ②	2	休講					
				3	〃 ③	2	野村　裕美	春学期	2	不可		不可
				4	〃 ④	2	木原　活信	春学期	2	不可		不可
				5	〃 ⑤	2	小山　隆	春学期	2	不可		不可
				6	〃 ⑥	2	鈴木　良	春学期	2	不可		不可
				7	〃 ⑦	2	空閑　浩人	春学期	2	不可		不可
		2～	30910092	1	社会福祉学論文指導Ⅱ ①	2	永田　祐	秋学期	2	不可		不可
				2	〃 ②	2	休講					
				3	〃 ③	2	野村　裕美	秋学期	2	不可		不可
				4	〃 ④	2	木原　活信	秋学期	2	不可		不可
				5	〃 ⑤	2	小山　隆	秋学期	2	不可		不可
				6	〃 ⑥	2	鈴木　良	秋学期	2	不可		不可
				7	〃 ⑦	2	空閑　浩人	秋学期	2	不可		不可
選択科目	A群	1～	30910001		社会福祉体系Ⅰ	2	空閑　浩人	春学期	2	可		可
		1～	30910002		社会福祉体系Ⅱ	2	小山　隆	秋学期	2	可		可
		1～	30910005		福祉思想・福祉哲学研究	4	木原　活信	春学期	4	可		可
		1～	30910121		キリスト教福祉学研究	4	MARTHA MENSENDIEK	秋学期	4	可		可
		1～	30910026		社会福祉政策	4	居神　浩	通年	2	可		不可
		1～	30910115		社会福祉学特殊研究AⅠ	4	休講					
	B群	1～	30910015		ソーシャルワーク研究Ⅰ	4	小山　隆	春学期	4	可		可
		1～	30910016		ソーシャルワーク研究Ⅱ	4	空閑　浩人	秋学期	4	可		可
		1～	30910025		事例研究法	2	休講					
		1～	30910111		フィールドワークⅠ	4	休講					
		1～	30910112		フィールドワークⅡ	4	野村　裕美	通年	2	不可		不可
		1～	30910006		社会福祉調査研究	4	鈴木　良	通年	2	可		不可
		1～	30910027		スーパービジョン研究	4	休講					
		1～	30910125		社会福祉学特殊研究BⅠ	4	休講					
	C群	1～	30910154		高齢者福祉研究	4	休講					
		1～	30910158		障害者福祉研究	4	鈴木　良	通年	2	可		可
		1～	30910007		地域福祉研究	4	休講					
		1～	30910004		社会保障研究	4	齋藤　立滋	通年	2	可		不可
		1～	30910012		国際社会福祉研究	4	休講					
		1～	30910003		社会福祉組織・管理論	4	休講					
		1～	30910028		児童福祉研究	4	小野セレスタ　摩耶	通年	2	可		可
		1～	30910029		保健医療福祉研究	4	野村　裕美	通年	2	可		可
		1～	30910135		社会福祉学特殊研究CⅠ	4	休講					
		2～	30910099		論　文			通年		不可		不可

履修方法

指導教員の指示により、必修科目４単位、選択科目Ａ群８単位以上、選択科目Ｂ、Ｃ群からそれぞれ４単位以上履修し、合計30単位以上を履修すること。他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）を履修した場合は、修了必要単位数に含めることができる。
なお、第2年次に指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ、Ⅱ」と「論文」を履修するものとする。

必修科目	選択科目				合計
	A群	B群	C群	他専攻科目・ 他研究科科目・ 高等研究教育院設置科目	
4単位	8単位以上	4単位以上	4単位以上	単位取得可	30単位以上

実験実習料が必要な科目

対象科目：フィールドワークⅠ・Ⅱ

金　　額：登録時に5,000円、実習先決定後に30,000円が必要です。

納入方法：実験実習料（登録時に納入分）については証明書発行サービスを利用して納入後、所定用紙（事務室で配付）を提出してください。加えて、実習決定後、30,000円を納入してください。納入方法については後日掲示板等で指示します。

アドバイザーについて

アドバイザー設置の目的は、博士前期課程1年目春学期の研究と履修をスムーズに促進することです。履修や研究上の課題・問題が発生した場合、あるいは相談がある場合には、まず最初に「アドバイザー」に相談してください。社会福祉学専攻では、アドバイザーから専攻教務主任、さらには専攻教務主任が大学院担当者会議を招集し、協議のうえ、改善・解決をはかるシステムとなっています。

なお、アドバイザーは1年目秋学期開始時点に決定する「修士論文指導教員（主査）」とは切り離されたものです。つまり、アドバイザーが必ずしも指導教員になるわけではありません。

アドバイザーの決定にあたっては、入学後に提出された研究テーマ、研究計画などの内容を検討し、大学院担当者会議にて決定します。

指導教員（主査）について

指導教員（主査）は1年目秋学期開始時点で決定します。決定のための手続き、その後の指導方法は、次のスケジュールのとおりです。

第1年次　8月末日　　指導教員決定のための「修士論文：研究テーマ＆研究計画書」「指導教員希望届出」の提出
　　9月　　大学院担当者会議での指導教員（主査）、副査の決定
第2年次　4月　　指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ・Ⅱ」の登録、履修

修士論文提出までの主な予定

修士論文提出のためのスケジュールは次のとおりです。ただし、年度によって日程は多少のズレがありますので、その都度、専攻教務主任、主査の指示に従ってください。

第1年次　9月　　指導教員（主査）、副指導教員（第一副査）の決定
　　3月　　修士論文題目の届出
第2年次　4月　　指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ・Ⅱ」の登録
　　※指導教員と修士論文題目、研究計画についての相談
　　研究科委員会：「修士論文作成要領」の審議・決定
　　5～6月　修士論文作成発表Ⅰ　（論文作成の今後の予定を明らかにするものです）
　　10～11月　修士論文作成発表Ⅱ　（論文の完成状況を明らかにするものです）
　　※発表Ⅰ・Ⅱでは、次のようなレジュメを配布してください。
　　1．修士論文題目
　　2．概要（ねらいと研究方法）
　　3．目次（章・節・項）とそれぞれの内容
　　原則として、この発表（Ⅰ・Ⅱ）をしない時点で当該年度の修士論文提出ができないと判断します。

11月下旬　修士論文題目の確定
修士論文作成発表Ⅱの指導により修士論文題目を変更する場合は、指導教員の承認を受けた後、所定用紙にて提出してください。なお、以後の題目変更は認められません。
第二副査の決定

翌年1月中旬　修士論文提出期限
締切時間経過後は一切受け付けません。提出後の差し替えなどもできません。

2月中旬　修士論文口頭試問
研究科委員会：修士論文審査

3月上旬　研究科長会：修士学位総合審査

3月下旬　学位授与式（修了）

※修士論文未提出の再履修生は、別途、指導教員（主査）および専攻教務主任の指示を受けてください。

社 会 学 研 究 科

社会福祉学専攻（2024年度以前生対象）

科目群		履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
必修科目		2～	30910091	1	社会福祉学論文指導Ⅰ ①	2	永田　祐	春学期	2	不可		不可
				2	〃 ②	2	休講					
				3	〃 ③	2	野村　裕美	春学期	2	不可		不可
				4	〃 ④	2	木原　活信	春学期	2	不可		不可
				5	〃 ⑤	2	小山　隆	春学期	2	不可		不可
				6	〃 ⑥	2	鈴木　良	春学期	2	不可		不可
				7	〃 ⑦	2	空閑　浩人	春学期	2	不可		不可
		2～	30910092	1	社会福祉学論文指導Ⅱ ①	2	永田　祐	秋学期	2	不可		不可
				2	〃 ②	2	休講					
				3	〃 ③	2	野村　裕美	秋学期	2	不可		不可
				4	〃 ④	2	木原　活信	秋学期	2	不可		不可
				5	〃 ⑤	2	小山　隆	秋学期	2	不可		不可
				6	〃 ⑥	2	鈴木　良	秋学期	2	不可		不可
				7	〃 ⑦	2	空閑　浩人	秋学期	2	不可		不可
選択科目	A群	1～	30910001		社会福祉体系Ⅰ	2	空閑　浩人	春学期	2	可		可
		1～	30910002		社会福祉体系Ⅱ	2	小山　隆	秋学期	2	可		可
		1～	30910006		社会福祉調査研究	4	鈴木　良	通年	2	可		不可
		1～	30910111		フィールドワークⅠ	4	休講					
		1～	30910112		フィールドワークⅡ	4	野村　裕美	通年	2	不可		不可
		1～	30910115		社会福祉学特殊研究A1	4	休講					
		1～	30910116		社会福祉学特殊研究A2	4	休講					
		1～	30910117		社会福祉学特殊研究A3	2	休講					
		1～	30910118		社会福祉学特殊研究A4	2	休講					
	B群	1～	30910005		福祉思想・福祉哲学研究	4	木原　活信	春学期	4	可		可
		1～	30910121		キリスト教福祉学研究	4	MARTHA MENSENDIEK	秋学期	4	可		可
		1～	30910125		社会福祉学特殊研究B1	4	休講					
		1～	30910126		社会福祉学特殊研究B2	4	休講					
		1～	30910127		社会福祉学特殊研究B3	2	休講					
		1～	30910128		社会福祉学特殊研究B4	2	休講					
	C群	1～	30910004		社会保障研究	4	齋藤　立滋	通年	2	可		不可
		1～	30910007		地域福祉研究	4	休講					
		1～	30910012		国際社会福祉研究	4	休講					
		1～	30910026		社会福祉政策	4	居神　浩	通年	2	可		不可
		1～	30910135		社会福祉学特殊研究C1	4	休講					
		1～	30910136		社会福祉学特殊研究C2	4	休講					
		1～	30910137		社会福祉学特殊研究C3	2	休講					
		1～	30910138		社会福祉学特殊研究C4	2	休講					
	D群	1～	30910003		社会福祉組織・管理論	4	休講					
		1～	30910015		ソーシャルワーク研究Ⅰ	4	小山　隆	春学期	4	可		可
		1～	30910016		ソーシャルワーク研究Ⅱ	4	空閑　浩人	秋学期	4	可		可
		1～	30910025		事例研究法	2	休講					
		1～	30910027		スーパービジョン研究	4	休講					
		1～	30910145		社会福祉学特殊研究D1	4	休講					
		1～	30910146		社会福祉学特殊研究D2	4	休講					

科目群		履修年次	登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
			科目コード	クラスコード								
選択科目	D群	1～	30910147		社会福祉学特殊研究 D3	2	休講					
		1～	30910148		社会福祉学特殊研究 D4	2	休講					
	E群	1～	30910151		社会福祉学特殊研究 E1	4	休講					
		1～	30910152		社会福祉学特殊研究 E2	4	休講					
		1～	30910153		社会福祉学特殊研究 E3	4	休講					
		1～	30910154		高齢者福祉研究	4	休講					
		1～	30910155		社会福祉学特殊研究 E4	2	休講					
		1～	30910156		社会福祉学特殊研究 E5	2	休講					
		1～	30910157		社会福祉学特殊研究 E6	2	休講					
		1～	30910158		障害者福祉研究	4	鈴木　良	通年	2	可		可
		1～	30910028		児童福祉研究	4	小野セレスタ　摩耶	通年	2	可		可
		1～	30910029		保健医療福祉研究	4	野村　裕美	通年	2	可		可
		2～	30910099		論　文			通年		不可		不可

履修方法

指導教員の指示により、必修科目4単位、選択科目Ａ群～Ｅ群の中から4群を選択し、それぞれ4単位以上、さらに選択科目Ａ群～Ｅ群、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から10単位以上、合計30単位以上を履修すること。

なお、第2年次に指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ、Ⅱ」と「論文」を履修するものとする。

必修科目	選択科目						合計
	Ａ群	Ｂ群	Ｃ群	Ｄ群	Ｅ群	他専攻科目・他研究科科目・高等研究教育院設置科目	
4単位	（4単位）	（4単位）	（4単位）	（4単位）	（4単位）		30単位以上
	Ａ～Ｅ群の5つの中から4群を選び、16単位以上（各4単位以上）						
						10単位以上	

実験実習料が必要な科目

対象科目：フィールドワークⅠ・Ⅱ

金　　額：登録時に5,000円、実習先決定後に30,000円が必要です。

納入方法：実験実習料（登録時に納入分）については証明書発行サービスを利用して納入後、所定用紙（事務室で配付）を提出してください。加えて、実習決定後、30,000円を納入してください。納入方法については後日掲示板等で指示します。

アドバイザーについて

アドバイザー設置の目的は、博士前期課程1年目春学期の研究と履修をスムーズに促進することです。履修や研究上の課題・問題が発生した場合、あるいは相談がある場合には、まず最初に「アドバイザー」に相談してください。社会福祉学専攻では、アドバイザーから専攻教務主任、さらには専攻教務主任が大学院担当者会議を招集し、協議のうえ、改善・解決をはかるシステムとなっています。

なお、アドバイザーは1年目秋学期開始時点に決定する「修士論文指導教員（主査）」とは切り離されたものです。つまり、アドバイザーが必ずしも指導教員になるわけではありません。

アドバイザーの決定にあたっては、入学後に提出された研究テーマ、研究計画などの内容を検討し、大学院担当者会議にて決定します。

指導教員（主査）について

指導教員（主査）は1年目秋学期開始時点で決定します。決定のための手続き、その後の指導方法は、次のスケジュールのとおりです。

第１年次　８月末日　　指導教員決定のための「修士論文：研究テーマ＆研究計画書」「指導教員希望届出」の提出
　　９月　　大学院担当者会議での指導教員（主査）、副査の決定
第２年次　４月　　指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ・Ⅱ」の登録、履修

修士論文提出までの主な予定

修士論文提出のためのスケジュールは次のとおりです。ただし、年度によって日程は多少のズレがありますので、その都度、専攻教務主任、主査の指示に従ってください。

第１年次　９月　　指導教員（主査）、副指導教員（第一副査）の決定
　　３月　　修士論文題目の届出
第２年次　４月　　指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ・Ⅱ」の登録
　※指導教員と修士論文題目、研究計画についての相談
　研究科委員会：「修士論文作成要領」の審議・決定
　５～６月　修士論文作成発表Ⅰ　（論文作成の今後の予定を明らかにするものです）
　10～11月　修士論文作成発表Ⅱ　（論文の完成状況を明らかにするものです）
　※発表Ⅰ・Ⅱでは、次のようなレジュメを配布してください。
　1．修士論文題目
　2．概要（ねらいと研究方法）
　3．目次（章・節・項）とそれぞれの内容
　原則として、この発表（Ⅰ・Ⅱ）をしない時点で当該年度の修士論文提出ができないと判断します。

　11月下旬　修士論文題目の確定
　修士論文作成発表Ⅱの指導により修士論文題目を変更する場合は、指導教員の承認を受けた後、所定用紙にて提出してください。なお、以後の題目変更は認められません。
　第二副査の決定

翌年１月中旬　修士論文提出期限
　締切時間経過後は一切受け付けません。提出後の差し替えなどもできません。
　２月中旬　修士論文口頭試問
　研究科委員会：修士論文審査
　３月上旬　研究科長会：修士学位総合審査
　３月下旬　学位授与式（修了）

※修士論文未提出の再履修生は、別途、指導教員（主査）および専攻教務主任の指示を受けてください。

メディア学専攻

科目群	履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
講義科目	1～	30920038		社会学とメディアⅠ	2	休講					
	1～	30920039		社会学とメディアⅡ	2	休講					
	1～	30920003		メディア史	2	休講					
	1～	30920004		ジャーナリズム史	2	休講					
	1～	30920040		社会学と情報社会Ⅰ	2	休講					
	1～	30920041		社会学と情報社会Ⅱ	2	休講					
	1～	30920007		ジャーナリズム論	2	休講					
	1～	30920011		社会関係論	2	休講					
	1～	30920012		メディア社会論	2	佐伯　順子	秋学期	2	可		可
	1～	30920013		コミュニケーション論	2	休講					
	1～	30920014		相互行為論	2	休講					
	1～	30920015		現代社会論	2	休講					
	1～	30920016		情報環境論	2	休講					
	1～	30920019		表現技術論	2	休講					
	1～	30920020		表象メディア論	2	阿部　康人	秋学期	2	不可		不可
	1～	30920021		消費情報論	2	竹内　幸絵	春学期	2	可		可
	1～	30920022		広告論	2	竹内　幸絵	秋学期	2	可		可
	1～	30920023		情報意味論	2	阿部　康人	春学期	2	不可		不可
	1～	30920025		メディア認知論	2	休講					
	1～	30920026		社会ネットワーク論	2	休講					
	1～	30920027		メディア文化史	2	休講					
	1～	30920028		映像情報論	2	休講					
	1～	30920029		メディアとジェンダー論	2	佐伯　順子	春学期	2	可		可
	1～	30920030		ニュース論	2	小黒　　純	春学期	2	不可		可
	1～	30920031		調査報道論	2	小黒　　純	秋学期	2	不可		可
	1～	30920032		取材編集論	2	休講					
	1～	30920033		メディア学理論史	2	河崎　吉紀	秋学期	2	可		不可
	1～	30920034		新聞学学説史	2	河崎　吉紀	春学期	2	可		不可
	1～	30920035		メディア論	2	勝野　宏史	春学期	2	可		可
	1～	30920036		デジタル・メディア論	2	勝野　宏史	秋学期	2	可		可
	1～	30920037		広報学	2	休講					
	1～	30920042		メディア・コミュニケーション論Ⅰ	2	休講					
	1～	30920043		メディア・コミュニケーション論Ⅱ	2	休講					
	1～	30920044		メディア文化論	2	休講					
	1～	30920045		メディア人類学	2	休講					
演習科目	1～	30920091		演習ＩＡ（社会学とメディア研究Ⅰ）	1	伊藤　高史	春学期	2	不可		不可
	1～	30920092		演習ＩＢ（社会学とメディア研究Ⅱ）	1	伊藤　高史	秋学期	2	不可		不可
	1～	30920053		演習ⅡＡ（ジャーナリズム研究）	1	休講					
	1～	30920057		演習ⅣＡ（コミュニケーション研究）	1	休講					
	1～	30920058		演習ⅣＢ（相互行為論研究）	1	休講					
	1～	30920059		演習ＶＡ（新聞学学説史研究）	1	河崎　吉紀	春学期	2	可		不可
	1～	30920060		演習ＶＢ（メディア学理論史研究）	1	河崎　吉紀	秋学期	2	可		不可
	1～	30920061		演習ⅥＡ（現代社会研究）	1	休講					
	1～	30920062		演習ⅥＢ（情報環境研究）	1	休講					
	1～	30920093		演習ⅦＡ（社会学と情報社会研究Ⅰ）	1	休講					
	1～	30920094		演習ⅦＢ（社会学と情報社会研究Ⅱ）	1	休講					

科目群	履修年次	登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
		科目コード	クラスコード								
演習科目	1～	30920065		演習ⅧA（社会関係研究）	1	休講					
	1～	30920069		演習ⅩA（表現技術研究）	1	休講					
	1～	30920070		演習ⅩB（表象メディア研究）	1	阿部　康人	秋学期	2	不可		不可
	1～	30920071		演習ⅪA（消費情報論研究）	1	竹内　幸絵	春学期	2	不可		可
	1～	30920072		演習ⅪB（広告論研究）	1	竹内　幸絵	秋学期	2	不可		可
	1～	30920073		演習ⅫA（情報意味論研究）	1	阿部　康人	春学期	2	不可		不可
	1～	30920075		演習ⅩⅢA（メディア認知論研究）	1	休講					
	1～	30920076		演習ⅩⅢB（社会ネットワーク論研究）	1	休講					
	1～	30920077		演習ⅩⅣA（メディア表現史研究）	1	休講					
	1～	30920078		演習ⅩⅣB（映像情報研究）	1	休講					
	1～	30920079		演習ⅩⅤA（メディアとジェンダー研究）	1	佐伯　順子	春学期	2	可		可
	1～	30920081		演習ⅩⅥA（ニュース研究）	1	小黒　純	春学期	2	不可		不可
	1～	30920082		演習ⅩⅥB（調査報道研究）	1	小黒　純	秋学期	2	不可		不可
	1～	30920084		演習ⅩⅦB（取材編集研究）	1	休講					
	1～	30920085		演習ⅢA（メディア史研究）	1	休講					
	1～	30920086		演習ⅢB（ジャーナリズム史研究）	1	休講					
	1～	30920087		演習ⅧB（メディア社会研究）	1	佐伯　順子	秋学期	2	可		可
	1～	30920088		演習ⅩⅧA（メディア論研究）	1	勝野　宏史	春学期	2	不可		不可
	1～	30920089		演習ⅩⅧB（デジタル・メディア論研究）	1	勝野　宏史	秋学期	2	不可		不可
	1～	30920090		演習ⅨX（広報学研究）	1	休講					
	1～	30920095		演習ⅩⅩA（メディア・コミュニケーション研究Ⅰ）	1	休講					
	1～	30920096		演習ⅩⅩB（メディア・コミュニケーション研究Ⅱ）	1	休講					
	1～	30920097		演習ⅩⅩⅠA（メディア文化論研究）	1	休講					
	1～	30920098		演習ⅩⅩⅠB（メディア人類学研究）	1	休講					
	2～	30920099		論　文		全教員	通年		不可		不可

履修方法

指導教員の指示により、講義科目から16単位以上および演習科目から２単位以上を選択履修し、さらに、講義科目・演習科目ならびに社会学研究科の他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から12単位以上を選択履修すること。なお、第２年次に「論文」を履修すること。

講義科目	演習科目	他専攻科目・ 他研究科科目・ 高等研究教育院設置科目	合計
16単位以上	２単位以上	12単位以上	30単位以上

＊メディア学専攻では、前期課程学生のメディア学についての基礎知識を補完する目的で次の内規を定める。

博士課程（前期課程）メディア学専攻に入学した学生のうち、他大学出身者、もしくは本学他学部、他学科、他専攻出身者は、同志社大学社会学部メディア学科が提供しているメディア学科専任教員の担当する講義科目の中から12単位以上を原則として修得しなければならない。ただし、この単位は前期課程における修得単位としては認定しない。

修士論文提出までの主な予定

第１年次	秋学期中	指導教員の決定
第２年次	６月～７月	春学期修士論文中間発表会
	11月下旬～12月中旬	秋学期修士論文中間発表会
	１月中旬	修士学位論文提出
	２月初旬	修士論文口頭試問

中間発表については、論文提出学年度の春学期および秋学期に行い、学部卒論提出時に修論仮提出（３部）を行う。
詳細は指導教員に尋ねること。

教育文化学専攻

科目群	履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
必修科目	1～	30960001		教育文化学研究の理論と方法Ⅰ	2	吉田　亮	春学期	2	不可		不可
	1～	30960002		教育文化学研究の理論と方法Ⅱ	2	中川　吉晴	秋学期	2	不可		不可
	1～	30960003		教育文化学総合演習Ⅰ	2	吉田　亮 中川　吉晴 W. R. STEVENSON III 兒島　明 奥井　遼 崔　紗華 小松　光	通年	2	不可		不可
	2～	30960004		教育文化学総合演習Ⅱ	2	吉田　亮 中川　吉晴 W. R. STEVENSON III 兒島　明 奥井　遼 崔　紗華 小松　光	通年	2	不可		不可
	2～	30960301	001	教育文化学演習　①	2	吉田　亮	通年	2	不可		不可
			002	〃　②	2	兒島　明	通年	2	不可		不可
			003	〃　③	2	奥井　遼	通年	2	不可		不可
			004	〃　④	2	中川　吉晴	通年	2	不可		不可
			005	〃　⑤	2	越水　雄二	通年	2	不可		不可
			006	〃　⑥	2	W. R. STEVENSON III	通年	2	不可		不可
			007	〃　⑦	2	小松　光	通年	2	不可		不可
選択科目	1～	30960201		キリスト教教育文化論特講Ⅰ	2	休講					
	1～	30960202		キリスト教教育文化論特講Ⅱ	2	休講					
	1～	30960203		キリスト教人間形成論特講Ⅰ	2	休講					
	1～	30960204		キリスト教人間形成論特講Ⅱ	2	休講					
	1～	30960221		日本教育文化論特講Ⅰ	2	兒島　明	春学期	2	可		可
	1～	30960222		日本教育文化論特講Ⅱ	2	兒島　明	秋学期	2	可		可
	1～	30960223		西洋教育文化論特講Ⅰ	2	休講					
	1～	30960224		西洋教育文化論特講Ⅱ	2	休講					
	1～	30960211		異文化間心理教育論特講Ⅰ	2	休講					
	1～	30960212		異文化間心理教育論特講Ⅱ	2	休講					
	1～	30960213		アジア教育文化論特講Ⅰ	2	休講					
	1～	30960214		アジア教育文化論特講Ⅱ	2	休講					
	1～	30960215		移民教育文化論特講Ⅰ	2	吉田　亮	春学期	2	不可		可
	1～	30960216		移民教育文化論特講Ⅱ	2	吉田　亮	秋学期	2	不可		可
	1～	30960217		比較教育文化論特講Ⅰ	2	小松　光	春学期	2	可		可
	1～	30960218		比較教育文化論特講Ⅱ	2	小松　光	秋学期	2	可		可
	1～	30960219		Globalization, Education and Culture I	2	W. R. STEVENSON III	春学期	2	不可		可
	1～	30960220		Globalization, Education and Culture II	2	W. R. STEVENSON III	秋学期	2	不可		可
	1～	30960225		言語教育文化論特講Ⅰ	2	奥井　遼	春学期	2	可		可
	1～	30960226		言語教育文化論特講Ⅱ	2	奥井　遼	秋学期	2	可		可
	1～	30960231		異文化理解支援実習Ⅰ	2	休講					
	1～	30960232		異文化理解支援実習Ⅱ	2	休講					
	1～	30960271		学校教育文化論特講Ⅰ	2	休講					
	1～	30960272		学校教育文化論特講Ⅱ	2	休講					
	1～	30960283		生涯学習文化論特講Ⅰ	2	中川　吉晴 PATRICK LEE MILLER	春学期	集中※	可		可
	1～	30960284		生涯学習文化論特講Ⅱ	2	中川　吉晴	秋学期	2	可		可

科目群	履修年次	登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
		科目コード	クラスコード								
選択科目	1～	30960285		教育文化学調査法Ⅰ	2	井上　毅	春学期	2	可		不可
	1～	30960286		教育文化学調査法Ⅱ	2	休講					
	1～	30960291		教育文化学総合研究Ⅰ	2	清木　孝悦	春学期	集中※	可		不可
	1～	30960292		教育文化学総合研究Ⅱ	2	清木　孝悦	秋学期	集中※	可		不可
	1～	30960293		教育文化学総合研究Ⅲ	2	休講					
	1～	30960294		教育文化学総合研究Ⅳ	2	休講					
	1～	30960295		教育文化学総合研究Ⅴ	2	休講					
	1～	30960296		教育文化学総合研究Ⅵ	2	休講					
	2～	30960199		論　文			通年		不可		不可

※集中講義科目の講義日程等は社会学部・社会学研究科 HP を参照

履修方法

指導教員の指示により、必修科目10単位、選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から20単位以上、合計30単位以上を履修すること。

他専攻・他研究科及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）は指導教員の許可を得て履修することができる。なお、第2年次に「論文」を履修すること。

必修科目	選択科目・ 他専攻科目・ 他研究科科目・ 高等研究教育院設置科目	合計
10単位	20単位以上	30単位以上

社会学専攻（2025年度以降生対象）

科目群	履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否	専門社会調査士
講義科目	1～	30940021		社会学理論研究	4	休講						
	1～	30940023		社会学研究法	4	尾嶋　史章	春学期	4	可		可	H
	1～	30940015		集団・組織研究	4	休講						
	1～	30940014		国際比較研究	4	板垣　竜太	春学期	4	可		可	
	1～	30940013		比較社会研究	4	森　千香子	春学期	4	可		可	
	1～	30940012		地域社会研究	4	轡田　竜蔵	秋学期	4	可		可	J
	1～	30940002		家族問題研究	4	休講						
	1～	30940001		社会人間学研究	4	休講						
	1～	30940022		文化社会学研究	4	清水　香基	秋学期	4	可		可	H
	1～	30940003		フィールドワーク研究	4	西田　芳正	秋学期	4	可		可	J
	1～	30940031		社会学特殊講義 Ⅰ	2	板垣　竜太	秋学期	2	可		可	
	1～	30940032		社会学特殊講義 Ⅱ	4	休講						
	1～	30940033		社会学特殊講義 Ⅲ	2	休講						
	1～	30940034		社会学特殊講義 Ⅳ	2	休講						
	1～	30940035		社会学特殊講義 Ⅴ	4	休講						
演習科目	1～	30940071		社会学特殊研究演習 Ⅰ	2	休講						
	1～	30940072		社会学特殊研究演習 Ⅱ	2	平山　亮	春学期	4	可		可	
	1～	30940073		社会学特殊研究演習 Ⅲ	2	鵜飼　孝造	秋学期	4	可		可	
	1～	30940074		社会学特殊研究演習 Ⅳ	2	藤本　昌代	春学期	4	可		可	H
	1～	30940075		社会学特殊研究演習 Ⅴ	2	休講						
	1～	30940076		社会学特殊研究演習 Ⅵ	2	休講						
	1～	30940077		社会学特殊研究演習 Ⅶ	2	尾嶋　史章	秋学期	4	可		可	I
	1～	30940078		社会学特殊研究演習 Ⅷ	2	休講						
論文指導科目	2～	30940083	001	社会学特別演習Ⅰ　①	2	休講				複数回履修可。「論文」を登録する学期に、必ず同時登録すること。ただし、既に単位を修得済で、再度履修する場合は、自由科目として登録すること。詳細は、次頁参照。		
			002	〃　②	2	休講						
			003	〃　③	2	鵜飼　孝造	春学期	2	不可		不可	
			004	〃　④	2	藤本　昌代	春学期		不可		不可	
			005	〃　⑤	2	森　千香子	春学期		不可		不可	
			006	〃　⑥	2	轡田　竜蔵	春学期		不可		不可	
			007	〃　⑦	2	尾嶋　史章	春学期		不可		不可	
			008	〃　⑧	2	板垣　竜太	春学期		不可		不可	
	2～	30940084	001	社会学特別演習Ⅱ　①	2	休講				複数回履修可。「論文」を登録する学期に、必ず同時登録すること。ただし、既に単位を修得済で、再度履修する場合は、自由科目として登録すること。詳細は、次頁参照。		
			002	〃　②	2	休講						
			003	〃　③	2	鵜飼　孝造	秋学期	2	不可		不可	
			004	〃　④	2	藤本　昌代	秋学期		不可		不可	
			005	〃　⑤	2	森　千香子	秋学期		不可		不可	
			006	〃　⑥	2	轡田　竜蔵	秋学期		不可		不可	
			007	〃　⑦	2	尾嶋　史章	秋学期		不可		不可	
			008	〃　⑧	2	板垣　竜太	秋学期		不可		不可	
	2～	30940099		論　文		全教員	通年		不可		不可	

※集中講義科目の講義日程等は社会学部・社会学研究科 HP を参照

履修方法

指導教員の指示により、講義科目から12単位以上、演習科目から4単位以上、論文指導科目４単位を履修し、合計30単位以上を履修すること。他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）を履修した場合は、修了必要単位数に含めることができる。

なお、第２年次に指導教員が担当する「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」と「論文」を履修するものとする。

講義科目	演習科目	論文指導科目	他専攻・ 他研究科科目・ 高等研究教育院 設置科目	修了必要単位数
12単位以上	４単位以上	４単位	単位取得可	30単位以上

[標準修業年限を超えて在学する場合]

「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」の登録について

○前年度までに「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」の単位を修得済の場合でも、「論文」を登録する学期には、再度「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」を登録すること。その際、必ず自由科目（登録種別：Z）として「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」を登録すること。

自由科目として登録しなかった場合、成績通知書上に正しく修了見込みの判定が表示されない可能性がある。

ただし、「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」の単位を未修得の場合は、自由科目として登録してはいけない。

○「社会学特別演習Ⅰ」のみ、もしくは「社会学特別演習Ⅱ」のみで４単位を修得したとしても、論文指導科目（４単位）の要件を満たさない。必ず「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」の両方の単位を修得すること。また、「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」の単位を４単位を超えて修得したとしても、修了必要単位には含まれない。

※合格 / 不合格評価の科目

「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」

→合格 / 不合格科目は、４単位までしか修了必要単位数に算入されない。また、GPA 算出の対象にならない。

※自由科目

単位を修得しても、修了に必要な単位として算入されない科目を自由科目という。科目登録時に登録種別欄に「Z」を付けて登録した科目も自由科目として扱われる。自由科目の評価は、GPA には算入されない。

修士論文提出までの主な予定

第１年次	１月末まで	主指導教員の決定
	２月末まで	副指導教員（１人）の決定
第２年次	４月	主指導教員が担当する「社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ」に登録し、指導を受ける。
	４月末まで	研究題目・研究計画について相談する。
	８月	主指導教員に修士論文の第１次ドラフトを提出、指導を受ける。
	10月	専攻の「修士論文構想発表会」で報告（ここで報告しないと、修士論文は提出できません）。
	11月	主指導教員・副指導教員に修士論文の第2次ドラフトを提出、指導を受ける。
翌年	１月中旬	修士論文提出
	２月中旬	修士論文口頭試問
		専攻会議で修士論文審査
		研究科委員会で修士論文審査
	３月上旬	研究科長会　修士学位総合審査
	３月下旬	学位授与式（修了）

社会学専攻（2024年度以前生対象）

科目群		履修年次	登録コード 科目コード	クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否	専門社会調査士
講義科目	A群	1～	30940001		社会人間学研究	4	休講						
		1～	30940002		家族問題研究	4	休講						
		1～	30940003		フィールドワーク研究	4	西田　芳正	秋学期	4	可		可	J
		1～	30940004		社会病理学研究	4	休講						
	B群	1～	30940012		地域社会研究	4	轡田　竜蔵	秋学期	4	可		可	J
		1～	30940013		比較社会研究	4	森　千香子	春学期	4	可		可	
		1～	30940014		国際比較研究	4	板垣　竜太	春学期	4	可		可	
		1～	30940015		集団・組織研究	4	休講						
	C群	1～	30940021		社会学理論研究	4	休講						
		1～	30940022		文化社会学研究	4	清水　香基	秋学期	4	可		可	H
		1～	30940023		社会学研究法	4	尾嶋　史章	春学期	4	可		可	H
		1～	30940031		社会学特殊講義 Ⅰ	2	板垣　竜太	秋学期	2	可		可	
		1～	30940032		社会学特殊講義 Ⅱ	4	休講						
		1～	30940033		社会学特殊講義 Ⅲ	2	休講						
		1～	30940034		社会学特殊講義 Ⅳ	2	休講						
演習科目		1～	30940071		社会学特殊研究演習 Ⅰ	2	休講						
		1～	30940072		社会学特殊研究演習 Ⅱ	2	平山　亮	春学期	4	可		可	
		1～	30940073		社会学特殊研究演習 Ⅲ	2	鵜飼　孝造	秋学期	4	可		可	
		1～	30940074		社会学特殊研究演習 Ⅳ	2	藤本　昌代	春学期	4	可		可	H
		1～	30940075		社会学特殊研究演習 Ⅴ	2	休講						
		1～	30940076		社会学特殊研究演習 Ⅵ	2	休講						
		1～	30940077		社会学特殊研究演習 Ⅶ	2	尾嶋　史章	秋学期	4	可		可	I
		1～	30940078		社会学特殊研究演習 Ⅷ	2	休講						
論文指導科目		2～	30940081	001	社会学特別演習Ⅰ　①	2	休講		2				
				002	〃　②	2	休講						
				003	〃　③	2	鵜飼　孝造	春学期		不可		不可	
				004	〃　④	2	藤本　昌代	春学期		不可		不可	
				005	〃　⑤	2	森　千香子	春学期		不可		不可	
				006	〃　⑥	2	轡田　竜蔵	春学期		不可		不可	
				007	〃　⑦	2	尾嶋　史章	春学期		不可		不可	
				008	〃　⑧	2	板垣　竜太	春学期		不可		不可	
		2～	30940082	001	社会学特別演習Ⅱ　①	2	休講		2				
				002	〃　②	2	休講						
				003	〃　③	2	鵜飼　孝造	秋学期		不可		不可	
				004	〃　④	2	藤本　昌代	秋学期		不可		不可	
				005	〃　⑤	2	森　千香子	秋学期		不可		不可	
				006	〃　⑥	2	轡田　竜蔵	秋学期		不可		不可	
				007	〃　⑦	2	尾嶋　史章	秋学期		不可		不可	
				008	〃　⑧	2	板垣　竜太	秋学期		不可		不可	
		2～	30940099		論　文		全教員	通年		不可		不可	

※集中講義科目の講義日程等は社会学部・社会学研究科 HP を参照

履修方法

指導教員の指示により、講義科目の各群からそれぞれ４単位以上、演習科目から2単位以上、論文指導科目４単位を履修し、合計30単位以上を履修すること。他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）を履修した場合は、修了必要単位数に含めることができる。

なお、第2年次に指導教員が担当する「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」と「論文」を履修するものとする。

講義科目			演習科目	論文指導科目	他専攻・他研究科科目・高等研究教育院設置科目	修了必要単位数
A群	B群	C群				
4単位以上	4単位以上	4単位以上	2単位以上	4単位	単位取得可	30単位以上

修士論文提出までの主な予定

第1年次	1月末まで	主指導教員の決定
	2月末まで	副指導教員（1人）の決定
第2年次	4月	主指導教員が担当する「社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ」に登録し、指導を受ける。
	4末まで	研究題目・研究計画について相談する。
	8月	主指導教員に修士論文の第1次ドラフトを提出、指導を受ける。
	10月	専攻の「修士論文構想発表会」で報告（ここで報告しないと、修士論文は提出できません）。
	11月	主指導教員・副指導教員に修士論文の第2次ドラフトを提出、指導を受ける。
翌年	1月中旬	修士論文提出
	2月中旬	修士論文口頭試問
		専攻会議で修士論文審査
		研究科委員会で修士論文審査
	3月上旬	研究科長会　修士学位総合審査
	3月下旬	学位授与式（修了）

専門社会調査士について

１．専門社会調査士とは

「専門社会調査士」は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる高度な調査能力を身に付けた「調査のプロ」の資格で、調査の問題点や妥当性等の指摘はもちろんのこと、多様な調査手法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営管理する能力、高度な分析手法による報告書執筆などの実践能力を有する人が認定されます。資格授与機関として、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の相互の連携協力のもとに、2003年11月に「社会調査士資格認定機構」が創設され、2008年11月には社団法人「社会調査協会」へと法人化されています。

認定機構では、2004年より資格認定を行っており、2017年までに全国の参加大学院69校から計583名が専門社会調査士資格を得ています。（また、全国の大学教員や研究者1,934名も専門社会調査士の認定を受けています。）

研究・教育機関のみならず、一般企業・官公庁などの仕事に携わるものにとっても、社会調査の能力は必須のものであり、専門社会調査士は重要な資格となりつつあります。

２．専門社会調査士資格のための科目

社会調査協会は、専門社会調査士の資格を取得するために、下記の（1）～（4）を求めています。

（1）社会調査士資格を有すること

（社会調査士資格を有していない場合でも、専門社会調査士資格を取得する際に同時に申請することも可能です。

その場合、Ｅ／Ｆは選択制、Ｇは不要。社会調査士については、社会学部の履修要項を参照してください。）

（2）専門社会調査士科目を設置している大学院で、標準カリキュラムＨ～Ｊに対応した科目を履修し単位を取得していること

（3）社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆すること

（4）修士（博士前期）課程を修了すること

社会調査協会は、Ｈ～Ｊの科目群を、専門社会調査士の標準カリキュラムとして定めており、本研究科社会学専攻で開講している科目はそれぞれに次のように対応しています。

＜専門社会調査士のために必要な履修科目＞

専門社会調査士の資格は、本研究科在学中に下記の科目群から各一科目以上を履修・合格し、上記の条件を満たした上で課程修了時に申請することで取得できます。資格取得を希望する人は、在学中、計画的に必要な科目を履修するようにしてください。また、認定科目は年々変化しますので、最新の情報は社会調査協会の HP で確認してください。

（https://jasr.or.jp/）

【Ｈ】調査企画・設計に関する演習（実習）科目

（2026年度）

社会学研究法、文化社会学研究、社会学特殊研究演習Ⅳ

（2025年度）

集団・組織研究、社会学研究法

（2024年度）

社会学特殊研究演習Ⅳ

【Ｉ】多変量解析に関する演習（実習）科目

（2026年度）

社会学特殊研究演習Ⅶ

（2025年度）

家族問題研究、社会学特殊研究演習 Ⅶ

（2024年度）

社会人間学研究、社会学特殊研究演習Ⅱ、社会学特殊研究演習Ⅶ

【Ｊ】質的調査法に関する演習（実習）科目

（2026年度）

地域社会研究、フィールドワーク研究

（2025年度）

フィールドワーク研究、社会学特殊研究演習 Ⅷ

（2024年度）

フィールドワーク研究、比較社会研究

３．専門社会調査士資格の申請について

なお、社会調査協会への申請手続きについては、適時お知らせいたしますので、社会学研究科の掲示板や HP に注意してください。また、社会学専攻の教員に尋ねてください。

産業関係学専攻

科目群	履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
必修科目	1～	30950001		産業関係学研究	2	上田　眞士	秋学期	集中※	可		不可
	1～	30950002		労働市場研究	2	梶谷　真也	春学期	集中※	可		不可
	1～	30950081	001	産業関係学演習Ⅰ　①	2	梶谷　真也	秋学期	2	不可		不可
			002	〃　②	2	松山　一紀	秋学期	2	不可		不可
			003	〃　③	2	上田　眞士	秋学期	2	不可		不可
			004	〃　④	2	樋口　純平	秋学期	2	不可		不可
			005	〃　⑤	2	阿形　健司	秋学期	2	不可		不可
			006	〃　⑥	2	休講					
			007	〃　⑦	2	寺井　基博	秋学期	2	不可		不可
			008	〃　⑧	2	浦坂　純子	秋学期	2	不可		不可
	2～	30950082	001	産業関係学演習ⅡA　①	2	休講					
			002	〃　②	2	休講					
			003	〃　③	2	休講					
			004	〃　④	2	休講					
			005	〃　⑤	2	阿形　健司	春学期	2	不可		不可
			006	〃　⑥	2	休講					
			007	〃　⑦	2	休講					
			008	〃　⑧	2	休講					
	2～	30950083	001	産業関係学演習ⅡB　①	2	休講					
			002	〃　②	2	休講					
			003	〃　③	2	休講					
			004	〃　④	2	休講					
			005	〃　⑤	2	阿形　健司	秋学期	2	不可		不可
			006	〃　⑥	2	休講					
			007	〃　⑦	2	休講					
			008	〃　⑧	2	休講					
	2～	30950084		リサーチ・セミナー	2	上田　眞士 樋口　純平 松山　一紀 寺井　基博 梶谷　真也 浦坂　純子 阿形　健司	通年	1	不可		不可
選択科目	1～	30950021		労働調査研究Ⅱ	2	樋口　純平 寺井　基博 上田　眞士 DAVID HUGH WHITTAKER	秋学期	集中※	可		不可
	1～	30950022		労働統計研究Ⅱ	2	八木　　匡	春学期	2	不可		不可
	1～	30950023		産業組織研究	2	DAVID HUGH WHITTAKER	春学期	2	可		不可
	1～	30950024		労働安全衛生研究	2	藤野　ゆき	秋学期	2	可		不可
	1～	30950025		人的資源管理研究	2	DAVID HUGH WHITTAKER	春学期	2	可		可
	1～	30950026		非典型雇用研究	2	朴　　峻喜	春学期	2	可		可
	1～	30950027		労働経済研究	2	梶谷　真也	秋学期	集中※	可		可
	1～	30950028		雇用政策研究	2	寺井　基博	春学期	2	可		可
	1～	30950029		産業社会学研究	2	DAVID HUGH WHITTAKER	秋学期	2	可		可
	1～	30950030		教育社会学研究	2	阿形　健司	秋学期	2	可		可
	1～	30950031		産業心理学研究	2	松山　一紀	春学期	2	可		可
	1～	30950032		社会政策研究	2	杉田　菜穂	秋学期	集中※	可		不可
	1～	30950033		国際産業関係学研究	2	樋口　純平	秋学期	2	可		可

科目群	履修年次	登録コード		科　　目　　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	履修条件など	学部生履修可否
		科目コード	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ								
選択科目	2～	30950034		産業関係フィールドワーク	2	浦坂　純子	春学期	集中※	不可		不可
	1～	30950035		労働調査研究Ⅰ	2	森山　智彦	春学期	集中※	可		可
	1～	30950036		労働統計研究Ⅰ	2	休講					
	2～	30950099		論　文			通年		不可		

※集中講義科目の講義日程等は社会学部・社会学研究科 HP を参照

履修方法

指導教員の指示により、必修科目12単位、選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から18単位以上、合計30単位以上を履修すること。

なお、第2年次に「論文」を履修すること。

必修科目	選択科目・ 他専攻科目・ 他研究科科目・ 高等研究教育院設置科目	合計
12単位	18単位以上	30単位以上

履修上の注意

＊1年次秋学期に産業関係学演習Ⅰ、２年次に産業関係学演習ⅡA、産業関係学演習ⅡB、リサーチ・セミナー（各２単位）を履修すること。

＊産業関係学演習Ⅰ、ⅡA、ⅡBは原則として同一担当者のクラスを登録すること。

修士論文提出までの主な予定

第２年次において、リサーチ・セミナーを中心におおむね以下のような進捗を指導

４月　　テーマの確定
　　問題意識の鮮明化
　　先行研究文献のリストアップ
　　週単位での研究計画の立案
５・６月　論文の章別構成
　　論文の中核部分の部分的執筆
７月　　この時点までに、書けるだけ書いた中間的論文（1）の発表
　　夏期休暇中の研究計画の立案
８・９月　夏期研究計画に基づく研究
10月　　夏期研究をふまえた中間的論文（2）の発表
　　秋期の研究計画の立案
12月　　ほぼ完成論文の発表
年末年始　部分的修正

法学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

法学研究科は、政治学・法学について、分野ごとの体系的・専門的研究を通じ基本理論を学ぶとともに、現代的領域の研究や実務能力の養成を目指すことをとおして、より高度な専門性とともに、現代社会における有用な高度な理論と実務能力を身につけて、高度に専門的な職業や研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

政治学専攻

◇修士（政治学）

目指すべき人材(物)像

法学研究科政治学専攻博士課程（前期）は、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想について、基幹科目の履修により、社会の諸問題に対する高度の考察・分析能力と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力を修得し、研究者のほか公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、NGO スタッフといった専門職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（DP）

下記の資質・能力を備えた学生に修士（政治学）学位を授与します。

知識・技能

・政治学について専門性の高い知識を体系的に獲得し、社会における政治学的諸問題を客観的に調査する技能を修得する。

思考力・判断力・表現力

・政治学的な視点から、説得力のある議論を展開できるようになる。

・社会における政治学的諸問題に対応できる柔軟な応用力を修得する。

主体性・多様性・協働性

・文化や思想の多様性を尊重し、他者との協働を通じて、社会における政治学的諸問題の解決に向けて主体的に行動することができるようになる。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

カリキュラム総説

・政治学に関する高度な専門的知識を修得し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を的確に分析し、説得力のある議論ができる能力を身につけた人材を養成するために、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の３つの分野を柱とした標準的な科目群によって構成されるカリキュラムを設置する。また、ダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムのために研究科間科目を設置する。

学力の三要素 / 領域

知識・技能

・社会における政治学的諸問題の理解に必要な基礎知識と調査技能を修得するために、必修科目として「政治学基礎」を設置する。

・「国際関係科目・地域研究科目」については、理論と実践のバランスに配慮しつつ、また、地域的なバランスを可能な限り考慮しながら科目を設置する。

・「政治過程科目」については、現代政治過程の「アクター」と「アリーナ」の２つの次元においてバランスの取れた科目を設置する。

・「政治史科目・政治思想科目」については、「洋の東西」と「歴史と思想」の２つの軸においてバランスに配慮した科目を設置する。

・上記の標準的な科目群に加え、「文献研究」、「大学院特殊講義」を設置し、学問動向の変化に迅速に対応することのできるカリキュラムとする。

・課程の集大成として、修了要件である「論文」およびその執筆を指導する「論文指導」を設置する。

思考力・判断力・表現力

・学生は、それぞれの専門に対応する科目群にウエイトを置きつつも、政治学全体としてのバランスに配慮しつつ選択的に履修をすることにより、社会における政治学的諸問題に対応できる柔軟な応用力を修得する。

・修士論文の執筆過程において指導教員から論文のテーマ・論文作成方法などについて個別的な指導を受ける「論文指導」を通じて、研究者や専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する。

主体性・多様性・協働性

・学生は、政治学専攻のほぼすべての科目において、担当教員からの研究に関する直接的、間接的指導を受け、担当教員および他の学生との議論を行うことから、主体的に考え、他者の考えを尊重し、協働して学びを深める力を習得することができる。

・修士論文執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられていることから、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する力を修得することができる。

◇修士（比較政治学）

目指すべき人材(物)像

法学研究科政治学専攻博士課程（前期）は、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想について、基幹科目の履修により、社会の諸問題に対する高度の考察・分析能力と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力を修得し、研究者のほか公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、NGO スタッフといった専門職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（DP）

下記の資質・能力を備えた学生に修士（比較政治学）学位を授与します。

知識・技能

・政治学について専門性の高い知識を体系的に獲得し、比較の手法を駆使することにより、地球規模で発生

する問題を客観的に調査する技能を修得する。

思考力・判断力・表現力

・政治学的な視点から、説得力のある議論を展開できる。

・地球規模で発生する問題に対して創造的な対応をするために、学術や実務の場で英語を適切に運用できる。

主体性・多様性・協働性

・文化や思想の多様性を尊重し、他者との協働を通じて、地球規模で発生する問題の解決に向けて主体的に行動することができる。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）

カリキュラム総説

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

・政治学に関する高度な専門的知識を修得し、地球規模で発生する問題に対して創造的な対応のできる未来のリーダーとしての能力を身につけた人材を養成するために、英語で授業が行われる日本やアジアの法と政治に関する必修科目、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の３つの分野を柱とした選択科目などの標準的な科目群によって構成されるカリキュラムを設置する。また、ダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムのために研究科間科目を設置する。

・学生は、前期課程の２年間のうち、同志社大学と海外提携大学でそれぞれ一定期間修学し、すべての修了要件を満たすことにより、両大学からそれぞれ学位が授与される。

学力の三要素 / 領域

知識・技能

・必修科目については、英語で授業が行われる日本やアジアの法と政治および政治学の方法論に関する科目を設置する。

・選択科目については、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の３つの分野を柱として、バランスの取れた科目を設置する。

・課程の集大成として、修了要件である「論文」およびその執筆を指導する「論文指導」を設置する。

思考力・判断力・表現力

・学生は、必修科目の履修をとおして政治学の基礎知識と調査技能を修得したうえで、政治学全体としてのバランスに配慮しつつ選択科目を履修をすることにより、地球規模で発生する問題に対して創造的な対応のできる未来のリーダーとしての能力を修得する。

・修士論文の執筆過程において、指導教員から英語で執筆する論文のテーマ・論文作成方法などについて個別的な指導を受ける「論文指導」を通じて、研究者や専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する。

主体性・多様性・協働性

・学生は、政治学専攻のほぼすべての科目において、担当教員からの研究に関する直接的、間接的指導を受け、担当教員および他の学生との議論を行うことから、主体的に考え、他者の考えを尊重し、協働して学びを深める力を習得することができる。

・英語での修士論文執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられていることから、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する力を修得することができる。

私法学専攻

◇修士（法学）

目指すべき人材(物)像

法学研究科私法学専攻博士課程（前期）は、民法・商法・民事手続法・労働法・知的財産法・国際私法などの私法学科目について、基幹科目の履修により、現代社会において有用な高度な理論と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力（高度のリーガルマインド）を修得し、研究者のほか、公務員、企業の法務部門、司法書士や税理士といった専門職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（DP）

下記の資質・能力を備えた学生に修士（法学）学位を授与します。

知識・技能

・研究者や法律専門職としての活動の基盤となる、私法学を中心とする高度な専門的知識を獲得し、自らの課題についての基本的な調査・研究手法を修得する。

思考力・判断力・表現力

・研究者や法律専門職として直面する多様な法律問題に対応するための、総合的な判断力や柔軟な応用力を修得し、説得力のある法的議論ができるようになる。

主体性・多様性・協働性

・国際化・複雑化が進む現代社会に生じる様々な社会事象をめぐる法的な問題に関して、多様な関心をもつ教員・学生と協働しながら主体的に分析する態度を身につける。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）

カリキュラム総説

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

・私法学を中心とした法律学分野に関する高度な専門的知識を修得し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を的確に分析し、説得力のある法的議論ができる能力を身につけた人材を養成するために、基幹科目と共通科目によって構成されるカリキュラムを設置する。また、ダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムのために「グローバル科目」を設置する。さらに、これらの科目を補完する「研究科間科目」も設置する。

学力の三要素 / 領域

知識・技能

・基幹科目と共通科目を履修することにより、各法律分野に関する高度な専門的知識を修得する。また、個別的・時事的問題を取り上げる「大学院特殊講義」、外国法へのアクセス能力を養成するための「文献研究（英語・ドイツ語・フランス語）」を設置する。

課程の集大成として、修了要件である「論文」およびその執筆を指導する「論文指導」を設置する。

思考力・判断力・表現力

・主として演習形式で行われる基幹科目と共通科目を通じて多様な法律問題に対して総合的かつ柔軟な応用力をもって対応するとともに、説得力ある法的議論を展開するための能力を修得する。また「ケース・スタディ」科目を設置することにより、判例の分析をとおして高度な法的分析能力の養成を図る。そして国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を行う、より高度な能力を修得することを目的として、海外の法学系大学院と連携してダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムを推進する。

・他方で、修士論文の執筆過程において指導教授から個別的な指導を受ける科目である「論文指導」を通じて、研究者や法律専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する。

主体性・多様性・協働性

・前期課程の柱となる「基幹科目」のほか、公務員、企業の法務スタッフ、司法書士、税理士、弁理士などの国内外で法律に携わる専門的職業に就くことを目指す人材にとって特に有意義な科目として、専門性の高い重要課題を取り扱う「ビジネス関連科目」、「ケーススタディ」を設置する。また海外の法学系大学院と連携したダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムをとおして、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を試みる基本的な能力を修得する。これらは基本的に学生の主体的な取り組みの中で行われるもので、受講希望の学生が自らの関心や進路計画に応じて選択し履修する。

・修士論文執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける。

公法学専攻

◇修士（法学）

目指すべき人材(物)像

法学研究科公法学専攻博士課程（前期）は、憲法・行政法・税法・刑法・国際法などの公法学科目および法哲学・法思想史・英米法・法社会学・法史学などの基礎法学科目について、基幹科目の履修により、高度な理論と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力（高度のリーガルマインド）を修得し、研究者のほか、公務員、企業の法務部門、司法書士や税理士などといった専門職､国際公務員などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（DP）

下記の資質・能力を備えた学生に修士（法学）学位を授与します。

知識・技能

・研究者や法律専門職としての活動の基盤となる、公法学を中心とする高度な専門的知識を獲得し、自らの課題についての基本的な調査・研究手法を修得する。

思考力・判断力・表現力

・研究者や法律専門職として直面する多様な法律問題に対応するための、総合的な判断力や柔軟な応用力を

修得し、説得力のある法的議論ができるようになる。

主体性・多様性・協働性

・国際化・複雑化が進む現代社会に生じる様々な社会事象をめぐる法的な問題に関して、多様な関心をもつ教員・学生と協働しながら主体的に分析する態度を身につける。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）

カリキュラム総説

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

・公法学科目および基礎法学科目を中心とした法律学分野に関する高度な専門的知識を修得し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を的確に分析し、説得力のある法的議論ができる能力を身につけた人材を養成するために、基幹科目と共通科目によって構成されるカリキュラムを設置する。また、ダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムのために「グローバル科目」を設置する。さらに、これらの科目を補完する「研究科間科目」も設置する。

学力の三要素 / 領域

知識・技能

・基幹科目と共通科目を履修することにより、各法律分野に関する高度な専門的知識を修得する。また、個別的・時事的問題を取り上げる「大学院特殊講義」、外国法へのアクセス能力を養成するための「文献研究（英語・ドイツ語・フランス語）」を設置する。

課程の集大成として、修了要件である「論文」およびその執筆を指導する「論文指導」を設置する。

思考力・判断力・表現力

・主として演習形式で行われる基幹科目と共通科目を通じて、多様な法律問題に対して総合的かつ柔軟な応用力をもって対応するとともに、説得力ある法的議論を展開するための能力を修得する。また、「ケース・スタディ」科目を設置することにより、判例の分析をとおして高度な法的分析能力の養成を図る。そして、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を行う、より高度な能力を修得することを目的として、海外の法学系大学院と連携してダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムを推進する。

・他方で、修士論文の執筆過程において指導教授から個別的な指導を受ける科目である「論文指導」を通じて、研究者や法律専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する。

主体性・多様性・協働性

・前期課程の柱となる「基幹科目」のほか、公務員、企業の法務スタッフ、司法書士、税理士、弁理士などの国内外で法律に携わる専門的職業に就くことを目指す人材にとって特に有意義な科目として、専門性の高い重要課題を取り扱う「ビジネス関連科目」、「ケーススタディ」を設置する。また、海外の法学系大学院と連携したダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムをとおして、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を試みる基本的な能力を修得する。これらは基本的に学生の主体的な取り組みの中で行われるもので、受講希望の学生が自らの関心や進路計画に応じて選択し履修する。

●修士論文の執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける。

法 学 研 究 科

政 治 学 専 攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
30315001		政治学基礎	2	大矢根・森裕・望月	春学期	2	不可	(注1)
30315002		社会調査論	2	森　　裕城	春学期	2	不可	
30315003		計量政治学	2	飯田　　健	春学期	2	可	
30315011		国際関係１（国際関係理論）	2	大矢根　聡	秋学期	2	可	
30315012		国際関係２（国際政治経済論）	2	大矢根　聡	春学期	2	可	
30315013		国際関係３（国際安全保障論）	2	村田　晃嗣	秋学期	2	可	
30315014		国際関係４（国際組織論）	2	鷲江　義勝	秋学期	2	可	
30315015		国際関係５（国際関係史）	2	鷲江　義勝	春学期	2	不可	
30315016		国際関係６（外交政策論）	2	土屋　貴裕	春学期	集中	可	
30315021		地域研究１（中国）	2	土屋　貴裕	秋学期	集中	可	
30315022		地域研究２（東南アジア）	2	森下　明子	春学期	2	可	
30315023		地域研究３（南アジア）	2	藤倉　達郎	春学期	2	可	
30315024		地域研究４（中東）	2	濱中　新吾	春学期	2	可	
30315025		地域研究５（ヨーロッパ）	2	鷲江　義勝	春学期	2	可	
30315026		地域研究６（アメリカ）	2	倉科　一希	春学期	2	可	
30315031		政治過程１（政治過程論）	2	森　　裕城	秋学期	2	不可	
30315032		政治過程２（政治行動論）	2	西澤　由隆	春学期	2	可	
30315033		政治過程３（政治経済学）	2	市川　喜崇	秋学期	2	可	
30315034		政治過程４（選挙研究）	2	品田　　裕	秋学期	2	可	
30315035		政治過程５（比較政治）	2	力久　昌幸	秋学期	2	可	
30315036		政治過程６（行政学）	2	市川　喜崇	春学期	2	可	
30315037		政治過程７（地方政府論）	2	（本年度休講）				
30315041		政治史１（日本政治史１）	2	森　　靖夫	春学期	2	可	
30315042		政治史２（日本政治史２）	2	森　　靖夫	秋学期	2	可	
30315043		政治史３（日本政治史資料講読）	2	（本年度休講）				
30315044		政治史４（ヨーロッパ政治史１）	2	（本年度休講）				
30315045		政治史５（ヨーロッパ政治史２）	2	小堀　眞裕	春学期	2	可	
30315051		政治思想１（西洋政治思想史）	2	長谷川一年	春学期	2	可	
30315052		政治思想２（現代の政治理論）	2	長谷川一年	秋学期	2	可	
30315053		政治思想３（日本政治思想史）	2	植村　和秀	春学期	2	可	
30315054		政治思想４（日本政治思想史資料講読）	2	植村　和秀	秋学期	2	可	
30315112	001	政治学文献研究	2	長谷川一年	春学期	2	可	(注2)
30315112	002	政治学文献研究	2	長谷川一年	秋学期	2	可	(注2)
30315112	003	政治学文献研究	2	馬原　潤二	春学期	2	可	(注2)
30315112	004	政治学文献研究	2	馬原　潤二	春学期	2	可	(注2)
大学院特殊講義								
		テーマ						
30315142	001	方法論セミナー（応用）	2	飯田　　健	春学期	集中	可	(注3,4)
30315142	005	外交問題徹底討論講座１	2	山上　信吾	春学期	2	可	(注4)
30315142	006	外交問題徹底討論講座２	2	山上　信吾	秋学期	2	可	(注4)
30315142	007	Introduction to the Japanese Policy Process	2	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	可	(注4)
30315142	008	近代日本崩し字史料読解１	2	森　　靖夫	春学期	2	可	(注4)
30315142	009	近代日本崩し字史料読解２	2	森　　靖夫	秋学期	2	可	(注4)
30315142	010	European Security	2	中村登志哉	春学期	2	可	(注4)
30315142	011	Global Governance	2	中村登志哉	秋学期	2	可	(注4)
30315143	100	Experimental Political Science 2026	2	村上　　剛	秋学期	2	可	

（注1）「政治学基礎」は必修科目です。また、1年次生については大学で一括して登録します。
（注2）2022年度以前生は、「文献研究」を履修してください。
（注3）「大学院特殊講義」クラス1は、「計量政治学」が過年度履修済みであるか、履修中であることが条件となります。
（注4）過年度に同一テーマの「大学院特殊講義」を履修済みの場合、修了必要単位に参入されません。

登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
科目	クラス							
グローバル科目（研究科間協定科目）								
30306001	001	Introduction to Japanese Law	2	萩原　一樹	春学期	集中	不可	
30306001	002	Introduction to Japanese Law	2	萩原　一樹	秋学期	集中	不可	
30306002	001	Introduction to Japanese Politics	2	飯田　健	春学期	2	可	
30306002	002	Introduction to Japanese Politics	2	飯田　健	秋学期	2	可	
30306022		Political Economy in the Asia-Pacific Region	2	寺田　貴	秋学期	2	可	
30306023		International Relations Theory in the Asia-Pacific Region	2	寺田　貴	春学期	2	可	
30306024		Public Opinion and Political Participation in Japan	2	西澤　由隆	秋学期	2	不可	
30306025		Development and Democracy in East Asia	2	森下　明子	秋学期	2	可	
【論文指導科目・論文】								
30305996		論文指導	2	別表参照				
30311901		論文						

●政治学専攻・論文指導

科目コード：30305996

担当者	クラスコード		担当者	クラスコード	
	春	秋		春	秋
長谷川一年	102	502	大矢根　聡	109	509
市川　喜崇	103	503	力久　昌幸	110	510
飯田　　健	104	504	寺田　　貴	111	511
森　　裕城	105	505	鷲江　義勝	112	512
森　　靖夫	106	506	山上　信吾	114	514
村田　晃嗣	107	507	—	—	—
西澤　由隆	108	508	—	—	—

【注　意】

※「論文指導」は合計４単位を履修する必要があり、うち２単位は修了する学期に必ず履修しなければなりません。

※修士論文を提出する予定の方は、決定している指導教員の担当する「論文指導」および「論文」を必ず登録してください。

※春・秋学期に１回ずつ登録する場合は、必ず同一担当者の「論文指導」を登録してください。
（指導教員の「論文指導」が半期のみ開講の場合は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までご連絡ください）。

※今年度修士論文を提出する予定でない場合でも、下記に該当する方は、今年度中に「論文指導」を必ず登録してください。「論文指導（計4単位）」の履修には、２学期以上必要となりますので、計画的に登録履修をしてください。

１．来年度の春学期修了を予定している
２．来年度の秋学期修了を予定しているが、春学期は休学する予定である
３．すでに１年半以上在籍しており、今後は修士論文を提出する学期以外は休学予定である

※後述の「履修について（政治学専攻）」を参照してください。

私 法 学 専 攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
【基幹科目】								
3033530Ⅰ		民法演習ＩⅠ	2	川和　功子	春学期	2	不可	
30335302		民法演習Ⅰ２	2	川和　功子	秋学期	2	不可	
3033531Ⅰ		民法演習ⅡⅠ	2	梶山　玉香	春学期	2	不可	
30335312		民法演習Ⅱ２	2	梶山　玉香	秋学期	2	不可	
3033532Ⅰ		民法演習ⅢⅠ	2	神谷　　遊	春学期	2	可	
30335322		民法演習Ⅲ２	2	神谷　　遊	秋学期	2	可	
3033533Ⅰ		民法演習ⅣⅠ	2	上田誠一郎	春学期	2	可	
30335332		民法演習Ⅳ２	2	上田誠一郎	秋学期	2	可	
3033535Ⅰ		商法演習ＩⅠ	2	川口　恭弘	春学期	2	不可	
30335352		商法演習Ⅰ２	2	舩津　浩司	秋学期	2	不可	
3033536Ⅰ		商法演習ⅡⅠ	2	釜田　薫子	春学期	2	不可	
30335362		商法演習Ⅱ２	2	釜田　薫子	秋学期	2	不可	
3033537Ⅰ		商法演習ⅢⅠ	2	伊藤　靖史	春学期	2	不可	
30335372		商法演習Ⅲ２	2	伊藤　靖史	秋学期	2	不可	
3033538Ⅰ		経済法演習Ⅰ	2	瀬領　真悟	春学期	2	可	
30335382		経済法演習２	2	瀬領　真悟	秋学期	2	可	
3033540Ⅰ		民事訴訟法演習ＩⅠ	2	岡田　幸宏	春学期	2	可	
30335402		民事訴訟法演習Ⅰ２	2	岡田　幸宏	秋学期	2	可	
3033541Ⅰ		民事訴訟法演習ⅡⅠ	2	川嶋　四郎	春学期	2	可	
30335412		民事訴訟法演習Ⅱ２	2	川嶋　四郎	秋学期	2	可	
3033546Ⅰ		知的財産法演習ＩⅠ	2	井関　涼子	春学期	2	可	
30335462		知的財産法演習Ⅰ２	2	井関　涼子	秋学期	2	可	
3033547Ⅰ		知的財産法演習ⅡⅠ	2	山根　崇邦	春学期	2	可	
30335472		知的財産法演習Ⅱ２	2	山根　崇邦	秋学期	2	可	
3033550Ⅰ		国際私法演習Ⅰ	2	髙杉　　直	秋学期	2	可	
30335502		国際私法演習２	2	林　　貴美	春学期	2	可	
3033555Ⅰ		労働法演習ＩⅠ	2	土田　道夫	春学期	2	可	
30335552		労働法演習Ⅰ２	2	土田　道夫	秋学期	2	可	
3033556Ⅰ		労働法演習ⅡⅠ	2	上田　達子	春学期	2	可	
30335562		労働法演習Ⅱ２	2	上田　達子	秋学期	2	可	
3033557Ⅰ		社会保障法演習Ⅰ	2	坂井　岳夫	春学期	2	可	
30335572		社会保障法演習Ⅱ	2	坂井　岳夫	秋学期	2	可	

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
【共通科目】								
30305901		ケーススタディ憲法	2	松本　哲治	秋学期	2	可	
30305902		ケーススタディ行政法	2	重本　達哉	春学期	2	不可	
30305903		ケーススタディ税法	2	倉見　智亮	春学期	2	可	
30305904		ケーススタディ刑法	2	池田　直人	秋学期	2	可	
30305905		ケーススタディ刑事訴訟法	2	佐藤　由梨	春学期	2	可	
30305906		ケーススタディ国際法	2	岩本　誠吾	秋学期	2	可	
30305912		ケーススタディ民法Ⅰ	2	野々村和喜	春学期	2	可	
30305913		ケーススタディ民法２	2	野々村和喜	秋学期	2	可	
30305908		ケーススタディ商法	2	伊藤　靖史・舩津　浩司	春学期	2	不可	
30305909		ケーススタディ民事訴訟法	2	園田　賢治	秋学期	2	可	
30305921		ビジネス契約法	2	廣田　　浩	秋学期	2	可	
30305922		消費者法	2	川和　功子	秋学期	2	可	
30305923		金融取引法	2	舩津　浩司	春学期	2	不可	
30305924		経済刑法	2	山田　　慧	秋学期	2	可	
30305925		コーポレート・ガバナンス	2	川口　恭弘	春学期	2	不可	
30305926		コーポレート・ファイナンス	2	釜田　薫子	秋学期	2	不可	
30305945		証券規制	2	川口　恭弘	秋学期	2	不可	（注1）
30305928		Ｍ＆Ａ	2	伊藤　靖史	秋学期	2	不可	
30305942		企業活動と経済法	2	小林　　渉	秋学期	2	可	
30305929		企業税法	2	倉見　智亮	秋学期	2	可	
30305930		法律英語	2	廣田　　浩	春学期	2	可	
30305931		担保権実行法	2	川嶋　四郎	春学期	2	可	
30305932		倒産処理法	2	中西　正・浅野　雄太	春学期	2	可	
30305933		国際取引法	2	髙杉　　直	春学期	2	可	
30305934		国際経済法	2	瀬領　真悟	春学期	2	可	
30305935		国際民事訴訟法	2	髙杉　　直	秋学期	2	可	
30305936		国際知的財産法	2	辻　　淳子	秋学期	2	可	
30305937		ビジネスと知的財産法	2	山田威一郎	春学期	2	可	
30305938		企業人事と労働法	2	土田　道夫	春学期	2	可	
30305939		企業法務と労働法	2	土田　道夫	秋学期	2	可	
30305943		企業法務エシックス	2	廣田　浩・高尾　朗	春学期	2	不可	
30305940		企業法務ベーシック	2	山根・廣田・高尾	春学期	2	不可	
30305944	005	企業法務アドバンス［Ｍ＆Ａとファイナンスの法と実務］	2	永井　智亮	春学期	集中	可	（注2）
30305944	007	企業法務アドバンス［国際契約論］	2	小倉　　隆	春学期	2	可	（注2）
30305944	008	企業法務アドバンス［国際商事紛争解決の実務と法］	2	小倉　　隆	秋学期	2	可	（注2）
30305944	010	企業法務アドバンス［国際民事紛争解決の実務（日本仲裁人協会寄付講座）］	2	廣田　浩・高尾　朗	春学期	2	可	（注2）
30305944	011	企業法務アドバンス［コーポレート・ガバナンスの理論と実務］	2	永井　智亮	秋学期	集中	可	（注2）
30305944	012	企業法務アドバンス［各種契約のドラフティングのポイント］	2	高尾　　朗	春学期	2	可	（注2）
30305944	013	企業法務アドバンス［コンプライアンス活動のポイント］	2	高尾　　朗	秋学期	2	可	（注2）
30305944	014	企業法務アドバンス［エンターテインメント産業と著作権法（JASRAC寄付講座）］	2	井関　涼子・山根　崇邦	秋学期	2	可	（注2）
30305946	051	企業法務アドバンス［戦略法務の理論と実践］	2	山根　崇邦・高尾　朗	秋学期	2	不可	（注2・3）
30304491		リーガル・フィールドワーク	2	廣田　浩・高尾　朗	秋学期	2	不可	（注4）
30305984	003	法学文献研究［英語］	2	川嶋　四郎	春学期	2	可	（注5）
30305984	004	法学文献研究［英語］	2	川嶋　四郎	秋学期	2	可	（注5）
30305984	005	法学文献研究［英語］	2	川和　功子	春学期	2	不可	（注5）
30305984	008	法学文献研究［英語］	2	黒坂　則子	春学期	2	不可	（注5）
30305984	009	法学文献研究［英語］	2	黒坂　則子	秋学期	2	不可	（注5）
30305984	010	法学文献研究［英語］	2	倉見　智亮	春学期	2	不可	（注5）
30305984	011	法学文献研究［英語］	2	倉見　智亮	秋学期	2	不可	（注5）
30305984	051	法学文献研究［ドイツ語］	2	上田誠一郎	春学期	2	可	（注5）
30305984	052	法学文献研究［ドイツ語］	2	上田誠一郎	秋学期	2	可	（注5）
30305984	053	法学文献研究［ドイツ語］	2	中田　邦博	春学期	2	可	（注5）
30305984	054	法学文献研究［ドイツ語］	2	中田　邦博	秋学期	2	可	（注5）
30305984	055	法学文献研究［ドイツ語］	2	林　　貴美	春学期	2	可	（注5）
30305984	056	法学文献研究［ドイツ語］	2	林　　貴美	秋学期	2	可	（注5）

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
30305984	100	法学文献研究［フランス語］	2	渡邊　　貴	秋学期	2	可	（注5）
30305984	101	法学文献研究［フランス語］	2	渡邊　　貴	春学期	2	可	（注5）

（注1）2023年度以前生は、「金融商品取引法」を履修してください。
（注2）各クラス1回のみ履修可能です。過年度に履修したクラス以外の企業法務アドバンスを登録しようとした際、画面上に「過年度履修済み」と表示されますが、同一クラス以外は登録することが可能です。
（注3）「企業法務ベーシック」を履修済または登録中であることを履修の条件とします。
なお、登録中の「企業法務ベーシック」が履修の結果、不合格となった場合、当該科目を履修することはできません。
（注4）「リーガル・フィールドワーク」は、当該年度の「企業法務エシックス」「企業法務ベーシック」の履修を条件とし、受講生選考を実施します。詳細は『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
（注5）2022年度以前生は、「文献研究（～語）」を履修してください。

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
大学院特殊講義								
		テーマ						
30305991	102	武力紛争法2026	2	岩本　誠吾	春学期	2	可	
30305991	103	CISG-AC オピニオンの研究 1	2	野々村　和喜・渡邊　貴	春学期	2	可	
30305991	104	CISG-AC オピニオンの研究 2	2	野々村　和喜・渡邊　貴	秋学期	2	可	
30305991	105	警察の国際協力	2	白川　靖浩	春学期	2	不可	
30305991	106	企業活動と社会安全	2	白川　靖浩	秋学期	2	不可	
グローバル科目（研究科間協定科目）［　］はサブタイトルを表す								
30306001	001	Introduction to Japanese Law	2	萩原　一樹	春学期	2	不可	
30306001	002	Introduction to Japanese Law	2	萩原　一樹	秋学期	2	不可	
30306010	001	American Law［Criminal Law – 2026］	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306010	002	American Law［Law of Torts – 2026］	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306010	003	American Law［Civil Procedure – 2026］	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306011	001	Asian Law［Chinese Private International Law 2026］	2	黄　ジン霆	秋学期	2	不可	
30306011	002	Asian Law［Private International Law in Korea］	2	JANG JUNHYOK	春学期	集中	可	
30306012	001	European Law［Cross-Border Issues in Private Law – 2026］	2	植松　真生	春学期	2	可	
30306028	001	Comparative Law［Cross-Border Bankruptcy 2026 ］	2	高橋　宏司	秋学期	2	可	（注1）
30306028	002	Comparative Law［Public International Law and International Dispute Settlement 2026］	2	張　　皓程	春学期	2	可	（注1）
30306028	003	Comparative Law［Transnational Law and Global Governance 2026］	2	西谷　祐子	秋学期	2	可	（注1）
30306028	004	Comparative Law［The Public and Private Dimensions of Global Justice 2026 ］	2	張　　皓程	秋学期	2	可	（注2）
30306014	001	International Law［International Humanitarian Law 2026］	2	新井　　京	春学期	2	可	
30306015	001	International Arbitration［International Commercial Arbitration 2026］	2	高橋　宏司	秋学期	2	可	
30306016	001	International Institutions and Global Law［Global/Regional Organizations and Their Laws – 2026］	2	植松　真生	春学期	2	可	
30306018		International Commercial Arbitration Moot 1	2	前川　直輝	春学期	2	不可	
30306019		International Commercial Arbitration Moot 2	2	廣田　　浩	秋学期	2	不可	
30306020		International Law Moot 1	2	（本年度休講）				
30306021		International Law Moot Ⅱ	2	（本年度休講）				
30306026	001	Japanese Law［Constitutional Law and Major Cases, 2026］	2	東川　浩二	春学期	集中	可	（注3）
30306027	001	Research and Writing	2	二村　太郎	春学期	2	不可	（注4・注5）
30306027	002	Research and Writing	2	二村　太郎	秋学期	2	不可	（注4・注5）
【論文指導科目・論文】								
30305996		論文指導	2	別表参照				
30332901		論文						

（注1）2025年度以前生は、「Current Issues in Comparative Law」を履修してください。
（注2）2025年度以前生は、「Current Issues in Global Law」を履修してください。
（注3）2022年度以前生は、「Japanese Constitution」を履修してください。
（注4）ダブル・ディグリープログラムへの参加学生のみが履修できます。
（注5）2023年度以前生は、「Research and Writing(Law)」を履修してください。

●私法学専攻・論文指導

科目コード：30305996

担当者	クラスコード		担当者	クラスコード		担当者	クラスコード	
	春	秋		春	秋		春	秋
深谷　格	201	601	川口　恭弘	211	611	山根　崇邦	220	620
梶山　玉香	202	602	木下　孝治	212	612	林　貴美	221	621
神谷　遊	203	603	瀬領　真悟	213	613	髙杉　直	222	622
川和　功子	204	604	林　昭一	214	614	高橋　宏司	223	623
大中　有信	206	606	川嶋　四郎	215	615	土田　道夫	224	624
上田誠一郎	207	607	中西　正	217	617	上田　達子	225	625
舩津　浩司	208	608	岡田　幸宏	218	618			
伊藤　靖史	209	609	園田　賢治	226	626			
釜田　薫子	210	610	井関　涼子	219	619			

【注　意】

※「論文指導」は合計４単位を履修する必要があり、うち２単位は修了する学期に必ず履修しなければなりません。

※修士論文を提出する予定の方は、決定している指導教員の担当する「論文指導」および「論文」を必ず登録してください。

※春・秋学期に１回ずつ登録する場合は、必ず同一担当者の「論文指導」を登録してください。
（指導教員の「論文指導」が半期のみ開講の場合は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までご連絡ください）。

※今年度修士論文を提出する予定でない場合でも、下記に該当する方は、今年度中に「論文指導」を必ず登録してください。「論文指導（計4単位）」の履修には、２学期以上必要となりますので、計画的に登録履修をしてください。

１．来年度の春学期修了を予定している
２．来年度の秋学期修了を予定しているが、春学期は休学する予定である
３．すでに１年半以上在籍しており、今後は修士論文を提出する学期以外は休学予定である

※後述の「履修について（私法学専攻・公法学専攻）」を参照してください。

公 法 学 専 攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
【基幹科目】								
30365601		憲法演習Ⅰ１	2	勝山　教子	春学期	2	可	
30365602		憲法演習Ⅰ２	2	勝山　教子	秋学期	2	可	
30365611		憲法演習Ⅱ１	2	檜垣　伸次	春学期	2	可	
30365612		憲法演習Ⅱ２	2	檜垣　伸次	秋学期	2	可	
30365651		行政法演習Ⅰ１	2	佐伯　彰洋	春学期	2	不可	
30365652		行政法演習Ⅰ２	2	佐伯　彰洋	秋学期	2	不可	
30365661		行政法演習Ⅱ１	2	黒坂　則子	春学期	2	不可	
30365662		行政法演習Ⅱ２	2	黒坂　則子	秋学期	2	不可	
30365671		税法演習１	2	倉見　智亮	春学期	2	不可	
30365672		税法演習２	2	倉見　智亮	秋学期	2	不可	
30365701		刑法演習Ⅰ１	2	岡本　昌子	春学期	2	可	
30365702		刑法演習Ⅰ２	2	岡本　昌子	秋学期	2	可	
30365711		刑法演習Ⅱ１	2	松原　久利	春学期	2	可	
30365712		刑法演習Ⅱ２	2	松原　久利	秋学期	2	可	
30365721		刑事訴訟法演習１	2	宮木　康博	春学期	集中	可	
30365722		刑事訴訟法演習２	2	宮木　康博	秋学期	集中	可	
30365731		刑事学演習１	2	川崎　友巳	春学期	2	可	
30365732		刑事学演習２	2	川崎　友巳	秋学期	2	可	
30365751		国際法演習Ⅰ１	2	浅田　正彦	春学期	集中	不可	
30365752		国際法演習Ⅰ２	2	浅田　正彦	秋学期	2	不可	
30365761		国際法演習Ⅱ１	2	新井　　京	春学期	2	可	
30365762		国際法演習Ⅱ２	2	新井　　京	秋学期	2	可	
30365801		法哲学演習１	2	濱　真一郎	春学期	2	可	
30365802		法哲学演習２	2	濱　真一郎	秋学期	2	可	
30365811		法思想史演習１	2	戒能　通弘	春学期	2	可	
30365812		法思想史演習２	2	戒能　通弘	秋学期	2	可	
30365821		法社会学演習１	2	木下麻奈子	春学期	2	可	
30365822		法社会学演習２	2	木下麻奈子	秋学期	2	可	
30365851		英米法演習１	2	勝田　卓也	春学期	2	不可	
30365852		英米法演習２	2	会沢　　恒	秋学期	集中	可	
30365863		日本法史演習１	2	伊藤　孝夫	春学期	2	可	
30365864		日本法史演習２	2	伊藤　孝夫	秋学期	2	可	
30365873		西洋法史演習１	2	佐々木　健	春学期	2	可	
30365874		西洋法史演習２	2	佐々木　健	秋学期	2	可	
30365883		東洋法史演習１	2	浅野　宜之	春学期	2	可	
30365884		東洋法史演習２	2	浅野　宜之	秋学期	2	可	

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
【共通科目】								
30305901		ケーススタディ憲法	2	松本　哲治	秋学期	2	可	
30305902		ケーススタディ行政法	2	重本　達哉	春学期	2	不可	
30305903		ケーススタディ税法	2	倉見　智亮	春学期	2	可	
30305904		ケーススタディ刑法	2	池田　直人	秋学期	2	可	
30305905		ケーススタディ刑事訴訟法	2	佐藤　由梨	春学期	2	可	
30305906		ケーススタディ国際法	2	岩本　誠吾	秋学期	2	可	
30305912		ケーススタディ民法Ⅰ	2	野々村和喜	春学期	2	可	
30305913		ケーススタディ民法２	2	野々村和喜	秋学期	2	可	
30305908		ケーススタディ商法	2	伊藤　靖史・舩津　浩司	春学期	2	不可	
30305909		ケーススタディ民事訴訟法	2	園田　賢治	秋学期	2	可	
30305921		ビジネス契約法	2	廣田　　浩	秋学期	2	可	
30305922		消費者法	2	川和　功子	秋学期	2	可	
30305923		金融取引法	2	舩津　浩司	春学期	2	不可	
30305924		経済刑法	2	山田　　慧	秋学期	2	可	
30305925		コーポレート・ガバナンス	2	川口　恭弘	春学期	2	不可	
30305926		コーポレート・ファイナンス	2	釜田　薫子	秋学期	2	不可	
30305945		証券規制	2	川口　恭弘	秋学期	2	不可	(注1)
30305928		M＆A	2	伊藤　靖史	秋学期	2	不可	
30305942		企業活動と経済法	2	小林　　渉	秋学期	2	可	
30305929		企業税法	2	倉見　智亮	秋学期	2	可	
30305930		法律英語	2	廣田　　浩	春学期	2	可	
30305931		担保権実行法	2	川嶋　四郎	春学期	2	可	
30305932		倒産処理法	2	中西　正・浅野　雄太	春学期	2	可	
30305933		国際取引法	2	髙杉　　直	春学期	2	可	
30305934		国際経済法	2	瀬領　真悟	春学期	2	可	
30305935		国際民事訴訟法	2	髙杉　　直	秋学期	2	可	
30305936		国際知的財産法	2	辻　　淳子	秋学期	2	可	
30305937		ビジネスと知的財産法	2	山田威一郎	春学期	2	可	
30305938		企業人事と労働法	2	土田　道夫	春学期	2	可	
30305939		企業法務と労働法	2	土田　道夫	秋学期	2	可	
30305943		企業法務エシックス	2	廣田　浩・高尾　朗	春学期	2	不可	
30305940		企業法務ベーシック	2	山根・廣田・高尾	春学期	2	不可	
30305944	005	企業法務アドバンス［M＆Aとファイナンスの法と実務］	2	永井　智亮	春学期	集中	可	(注2)
30305944	007	企業法務アドバンス［国際契約論］	2	小倉　　隆	春学期	2	可	(注2)
30305944	008	企業法務アドバンス［国際商事紛争解決の実務と法］	2	小倉　　隆	秋学期	2	可	(注2)
30305944	010	企業法務アドバンス［国際民事紛争解決の実務(日本仲裁人協会寄付講座)］	2	廣田　浩・高尾　朗	春学期	2	可	(注2)
30305944	011	企業法務アドバンス［コーポレート・ガバナンスの理論と実務］	2	永井　智亮	秋学期	集中	可	(注2)
30305944	012	企業法務アドバンス［各種契約のドラフティングのポイント］	2	高尾　　朗	春学期	2	可	(注2)
30305944	013	企業法務アドバンス［コンプライアンス活動のポイント］	2	高尾　　朗	秋学期	2	可	(注2)
30305944	014	企業法務アドバンス［エンターテインメント産業と著作権法(JASRAC寄付講座)］	2	井関　涼子・山根　崇邦	秋学期	2	可	(注2)
30305946	051	企業法務アドバンス［戦略法務の理論と実践］	2	山根　崇邦・高尾　朗	秋学期	2	不可	(注2・3)
30304491		リーガル・フィールドワーク	2	廣田　浩・高尾　朗	秋学期	2	不可	(注4)
30305984	003	法学文献研究［英語］	2	川嶋　四郎	春学期	2	可	(注5)
30305984	004	法学文献研究［英語］	2	川嶋　四郎	秋学期	2	可	(注5)
30305984	005	法学文献研究［英語］	2	川和　功子	春学期	2	不可	(注5)
30305984	008	法学文献研究［英語］	2	黒坂　則子	春学期	2	不可	(注5)
30305984	009	法学文献研究［英語］	2	黒坂　則子	秋学期	2	不可	(注5)
30305984	010	法学文献研究［英語］	2	倉見　智亮	春学期	2	不可	(注5)
30305984	011	法学文献研究［英語］	2	倉見　智亮	秋学期	2	不可	(注5)
30305984	051	法学文献研究［ドイツ語］	2	上田誠一郎	春学期	2	可	(注5)
30305984	052	法学文献研究［ドイツ語］	2	上田誠一郎	秋学期	2	可	(注5)
30305984	053	法学文献研究［ドイツ語］	2	中田　邦博	春学期	2	可	(注5)
30305984	054	法学文献研究［ドイツ語］	2	中田　邦博	秋学期	2	可	(注5)
30305984	055	法学文献研究［ドイツ語］	2	林　　貴美	春学期	2	可	(注5)
30305984	056	法学文献研究［ドイツ語］	2	林　　貴美	秋学期	2	可	(注5)

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
30305984	100	法学文献研究［フランス語］	2	渡邊　　貴	秋学期	2	可	（注5）
30305984	101	法学文献研究［フランス語］	2	渡邊　　貴	春学期	2	可	（注5）

（注1）2023年度以前生は、「金融商品取引法」を履修してください。
（注2）各クラス1回のみ履修可能です。過年度に履修したクラス以外の企業法務アドバンスを登録しようとした際、画面上に「過年度履修済み」と表示されますが、同一クラス以外は登録することが可能です。
（注3）「企業法務ベーシック」を履修済または登録中であることを履修の条件とします。
なお、登録中の「企業法務ベーシック」が履修の結果、不合格となった場合、当該科目を履修することはできません。
（注4）「リーガル・フィールドワーク」は、当該年度の「企業法務エシックス」「企業法務ベーシック」の履修を条件とし、受講生選考を実施します。詳細は『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
（注5）2022年度以前生は、「文献研究（～語）」を履修してください。

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科 目	クラス							
大学院特殊講義								
		テーマ						
30305991	102	武力紛争法2026	2	岩本　誠吾	春学期	2	可	
30305991	103	CISG-AC オピニオンの研究1	2	野々村　和喜・渡邊　貴	春学期	2	可	
30305991	104	CISG-AC オピニオンの研究2	2	野々村　和喜・渡邊　貴	秋学期	2	可	
30305991	105	警察の国際協力	2	白川　靖浩	春学期	2	不可	
30305991	106	企業活動と社会安全	2	白川　靖浩	秋学期	2	不可	
グローバル科目（研究科間協定科目）［　］はサブタイトルを表す								
30306001	001	Introduction to Japanese Law	2	萩原　一樹	春学期	2	不可	
30306001	002	Introduction to Japanese Law	2	萩原　一樹	秋学期	2	不可	
30306010	001	American Law［Criminal Law - 2026］	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306010	002	American Law［Law of Torts - 2026］	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306010	003	American Law［Civil Procedure - 2026］	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306011	001	Asian Law［Chinese Private International Law 2026］	2	黄　ジン霆	秋学期	2	不可	
30306011	002	Asian Law［Private International Law in Korea］	2	JANG JUNHYOK	春学期	集中	可	
30306012	001	European Law［Cross-Border Issues in Private Law - 2026］	2	植松　真生	春学期	2	可	
30306028	001	Comparative Law［Cross-Border Bankruptcy 2026 ］	2	高橋　宏司	秋学期	2	可	（注1）
30306028	002	Comparative Law［Public International Law and International Dispute Settlement 2026］	2	張　　皓程	春学期	2	可	（注1）
30306028	003	Comparative Law［Transnational Law and Global Governance 2026］	2	西谷　祐子	秋学期	2	可	（注1）
30306028	004	Comparative Law［The Public and Private Dimensions of Global Justice 2026 ］	2	張　　皓程	秋学期	2	可	（注2）
30306014	001	International Law［International Humanitarian Law 2026］	2	新井　　京	春学期	2	可	
30306015	001	International Arbitration［International Commercial Arbitration 2026］	2	高橋　宏司	秋学期	2	可	
30306016	001	International Institutions and Global Law［Global/Regional Organizations and Their Laws - 2026］	2	植松　真生	春学期	2	可	
30306018		International Commercial Arbitration Moot 1	2	前川　直輝	春学期	2	不可	
30306019		International Commercial Arbitration Moot 2	2	廣田　　浩	秋学期	2	不可	
30306020		International Law Moot 1	2	（本年度休講）				
30306021		International Law Moot Ⅱ	2	（本年度休講）				
30306026	001	Japanese Law［Constitutional Law and Major Cases, 2026］	2	東川　浩二	春学期	集中	可	（注3）
30306027	001	Research and Writing	2	二村　太郎	春学期	2	不可	（注4・注5）
30306027	002	Research and Writing	2	二村　太郎	秋学期	2	不可	（注4・注5）
【論文指導科目・論文】								
30305996		論文指導	2	別表参照				
30332901		論文						

（注1）2025年度以前生は、「Current Issues in Comparative Law」を履修してください。
（注2）2025年度以前生は、「Current Issues in Global Law」を履修してください。
（注3）2022年度以前生は、「Japanese Constitution」を履修してください。
（注4）ダブル・ディグリープログラムへの参加学生のみが履修できます。
（注5）2023年度以前生は、「Research and Writing(Law)」を履修してください。

●公法学専攻・論文指導

科目コード：30305996

担当者	クラスコード		担当者	クラスコード		担当者	クラスコード	
	春	秋		春	秋		春	秋
勝山　教子	401	801	横田　光平	406	806	戒能　通弘	412	812
松本　哲治	402	802	川崎　友巳	407	807	木下麻奈子	413	813
檜垣　伸次	416	816	宇藤　　崇	415	815			
黒坂　則子	403	803	新井　　京	408	808			
佐伯　彰洋	404	804	浅田　正彦	409	809			
倉見　智亮	405	805	濱　真一郎	411	811			

【注　意】

※「論文指導」は合計４単位を履修する必要があり、うち２単位は修了する学期に必ず履修しなければなりません。

※修士論文を提出する予定の方は、決定している指導教員の担当する「論文指導」および「論文」を必ず登録してください。

※春・秋学期に１回ずつ登録する場合は、必ず同一担当者の「論文指導」を登録してください

（指導教員の「論文指導」が半期のみ開講の場合は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までご連絡ください)。

※今年度修士論文を提出する予定でない場合でも、下記に該当する方は、今年度中に「論文指導」を必ず登録してください。「論文指導（計4単位)」の履修には、２学期以上必要となりますので、計画的に登録履修をしてください。

１．来年度の春学期修了を予定している

２．来年度の秋学期修了を予定しているが、春学期は休学する予定である

３．すでに１年半以上在籍しており、今後は修士論文を提出する学期以外は休学予定である

※後述の「履修について（私法学専攻・公法学専攻)」を参照してください。

履修について（政治学専攻）

Ⅰ．修了要件

大学院学則第７条を確認してください。

Ⅱ．修了必要単位

「設置・開講科目一覧」に掲載されている科目のうちから**政治学基礎を必修とし、かつ合計30単位以上選択履修**してください。

ただし、本研究科他専攻、本学大学院他研究科又は高等研究教育院が設置する科目を選択履修した場合は、合計12単位まで修了単位に算入します。

Ⅲ．履修登録上の注意

１．一度合格評価を得た科目を再度履修しても､修了必要単位には算入できません｡自由科目扱いになります。

２．私法学・公法学専攻の「大学院特殊講義」については、４単位までしか修了単位に算入できません。

３．私法学・公法学専攻の「法学文献研究」（2022年度以前生は文献研究（～語））については、６単位までしか修了単位に算入できません。

４．以下の科目は複数回履修が可能ですが、一度不合格になった後、同じ科目を合格しても **GPA の書き換えは行われません**ので、注意してください。

〇政治学専攻科目

・政治学文献研究（2022年度以前生は文献研究）

・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）

〇私法学・公法学専攻科目

・法学文献研究（2022年度以前生は文献研究（～語））

・企業法務アドバンス（履修済みのクラス以外）

・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）

・グローバル科目（サブタイトルの異なるクラス）

５．大学院学則により、博士課程の前期課程に２年以上在学し、所定の単位を修得した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、**学部または大学院の授業科目（「論文指導」および「論文」を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができません**ので、留意のうえ科目登録をしてください。

特に、**修士論文が不合格の場合、修士論文を提出する学期の「論文指導」も不合格となり、所定の単位を修得できなくなる可能性があります。**また、春学期と秋学期に分かれて開講されているセット登録科目を登録して春学期科目が合格した場合、秋学期科目の履修を中止することはできません。これらの場合はこの適用を受けることができませんので、注意してください。

ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。

Ⅳ．登録について

『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

Ⅴ．修士論文について

各種手続の詳細については、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。また、その都度掲示で周知しますので、法学研究科掲示板に注意してください。

Ⅵ．ダブル・ディグリープログラムについて

ダブル・ディグリープログラムの履修については、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

Ⅶ. 授業1週目（DO Week）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載していますので、以下の URL、QR コード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

履修について（私法学専攻・公法学専攻）

Ⅰ．修了要件

大学院学則第７条を確認してください。

Ⅱ．修了必要単位

自専攻の「設置・開講科目一覧」に掲載されている科目のうちから**基幹科目を８単位以上、かつ合計30単位以上選択履修**してください。

また本研究科他専攻、本学大学院他研究科又は高等研究教育院が設置する科目を選択履修した場合は、合計16単位まで修了単位に算入します。ただし、本学大学院他研究科及び高等研究教育院の設置する科目については、８単位までしか修了単位に算入できません。

Ⅲ．履修登録上の注意

１．一度合格評価を得た科目を再度履修しても､修了必要単位には算入できません｡自由科目扱いになります。

２．私法学・公法学専攻の「大学院特殊講義」については、４単位までしか修了単位に算入できません。

３．「法学文献研究」（2022年度以前生は文献研究（～語））については、複数回履修科目ではありますが、３科目合計で６単位までしか修了単位に算入できません。

４．政治学専攻の「政治学文献研究」（2022年度以前生は文献研究）については、修了単位に算入できません。

５．Research and Writing はダブル・ディグリープログラムの参加学生のみが履修できます。それ以外の私法学、公法学の学生は修了単位に算入されません。

６．以下の科目は複数回履修が可能ですが、一度不合格になった後、同じ科目を合格しても **GPA の書き換えは行われません**ので、注意してください。

〇私法学・公法学専攻科目

・法学文献研究（2022年度以前生は文献研究（～語））
・企業法務アドバンス（サブタイトルの異なるクラス）
・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）
・グローバル科目（サブタイトルの異なるクラス）

〇政治学専攻科目

・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）

７．大学院学則により、博士課程の前期課程に２年以上在学し、所定の単位を修得した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、**学部または大学院の授業科目（「論文指導」および「論文」を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができません**ので、留意のうえ科目登録をしてください。

特に、**修士論文が不合格の場合、修士論文を提出する学期の「論文指導」も不合格となり、所定の単位を修得できなくなる可能性があります。**また、春学期と秋学期に分かれて開講されているセット登録科目を登録して春学期科目が合格した場合、秋学期科目の履修を中止することはできません。これらの場合はこの適用を受けることができませんので、注意してください。

ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。

Ⅳ．登録について

『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

Ⅴ．修士論文について

各種手続の詳細については､『法学研究科履修の手引き』を参照してください。また、その都度掲示で周知しますので、法学研究科掲示板に注意してください。

Ⅵ．ダブル・ディグリープログラムについて

ダブル・ディグリープログラムの履修については､『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

Ⅶ. 授業1週目（DO Week）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載していますので、以下の URL、QR コード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

経済学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

理論経済学専攻／応用経済学専攻（前期課程）

◆人材養成に関する目的

経済学研究科博士課程（前期）は、経済学の理論分野および応用分野について、長い歴史に培われてきた研究教育環境の下で、新しい時代に対応する経済学の専門知識をとおして、高度な分析能力と応用力を身に付け、国内外で活躍する専門職業人および研究者を養成することを目的とする。

Ⅰ　理論経済学専攻

理論経済学専攻博士課程（前期）は、経済学の根幹となる理論的領域の研究および理論・思想・歴史・地域研究領域の研究について、理論分析コースの理論的な分析手法および政治経済学・経済史コースの政治経済学的な分析手法をとおして、それらの専門的知見・分析技術を身に付け、国内外で活躍する専門職業人および研究者を養成することを目的とする。

Ⅱ　応用経済学専攻

応用経済学専攻博士課程（前期）は、公共経済・金融・経済政策などの応用的領域の研究および家族・文化・環境領域の研究について、アプライド・エコノミクスコースの政策的な応用分析手法およびクリエイティブ・エコノミーコースの経済学的分析手法をとおして、それらの専門的知見・分析技術を身に付け、国内外で活躍する専門職業人および研究者を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

多様な先行研究・関連研究から十分な専門的知見・分析技法を習得し、国内外の経済および経済学が直面する新しい理論的・制度的・歴史的な課題を理解できる。

（思考力・判断力・表現力）

研究課題に対して合理的な分析方法を選択し、その結果を客観的かつ一貫した論理として構成し、学術論文として適切な形式で、問題解決方法を示すことができる。

（主体性・多様性・協働性）

良心と広い教養を裏付けに、複雑化・高度化する経済に対する自らの研究の意義を自覚し、多様な知識・技能を有する人びととともに問題解決に取り組むことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

〔理論経済学専攻〕

・経済学の根幹となる理論的な領域の研究を行う「理論分析コース」、政治経済学的な分析手法による理論・思想・歴史・地域研究の領域の研究を行う「政治経済学・経済史コース」を設置する。
・論文演習、論文、共通選択必修科目、選択必修科目、選択科目 I、選択科目 II、選択科目 III などにより構成されるカリキュラムを設置する。
・論文演習は、修士論文を作成するために、自ら構想を示し、教員の専門的な助言・批判に応えながら、経済学的な分析を実践することを到達目標とする。理論経済学専攻に所属する教員の指導を受け、２年次に８単位を履修する。（主体性・多様性・協働性）
・論文は、論文演習での指導をもとに、論理的で客観的な議論を展開して説得力のある修士論文を作成すること、また学位論文審査において質疑に的確に応答できることを到達目標とする。論文演習と論文は必修科目である。（思考力・判断力・表現力）

・共通選択必修科目は、大学院で経済学の研究を進めるにあたって専門領域を問わず共通して必要な知識・分析技法を習得することを到達目標とする。理論経済学専攻・応用経済学専攻共通の科目であり、１年次から２年次にかけて２科目４単位を選択履修する。（知識・技能）
・選択必修科目は、学生の研究関心に即して専門領域およびその周辺領域の専門的な知識・分析技法を習得することを到達目標とする。学生が所属するコースから１年次から２年次にかけて２科目４単位を選択履修する。（知識・技能）
・選択科目Ⅰは、単独あるいは複数の教員が開講する講義科目「コンテンポラリー・スタディーズ」で、教員がテーマを選択する。理論経済学の多様な専門領域における最先端の課題に積極的に取り組むことを到達目標とする。（主体性・多様性・協働性）
・選択科目 II は応用経済学専攻の選択必修科目である。理論経済学の領域にとどまらず、広く応用経済学の領域の多様な知見を習得することを到達目標とする。（知識・技能）
・選択科目 III は英語の語学科目であり、英語で学術書を読解し、学術論文を執筆する能力とともに、英語でプレゼンテーションし、ディスカッションする能力を習得することを到達目標とする。（知識・技能）
・これに加えて、前期課程科目全体のなかに、講義に英語の要素を取り入れた PSE（Professional Studies in English）科目を設置する。英語の運用能力を習得することを到達目標とする。（知識・技能）

〔応用経済学専攻〕
・公共経済や金融、経済政策などの応用的な領域の研究を行う「アプライド・エコノミクスコース」、家族・文化・環境を柱に、新産業を創出する基盤や新しいライフスタイル・社会システム構築のための研究を行う「クリエイティブ・エコノミーコース」を設置する。
・論文演習、論文、共通選択必修科目、選択必修科目、選択科目 I、選択科目 II、選択科目 III などにより構成されるカリキュラムを設置する。
・論文演習は、修士論文を作成するために、自ら構想を示し、教員の専門的な助言・批判に応えながら、経済学的な分析を実践することを到達目標とする。応用経済学専攻に所属する教員の指導を受け、２年次に８単位を履修する。（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）
・論文は、論文演習での指導をもとに、論理的で客観的な議論を展開して説得力のある修士論文を作成すること、また学位論文審査において質疑に的確に応答できることを到達目標とする。論文演習と論文は必修科目である。（思考力・判断力・表現力）
・共通選択必修科目は、大学院で経済学の研究を進めるにあたって専門領域を問わず共通して必要な知識・分析技法を習得することを到達目標とする。理論経済学専攻・応用経済学専攻共通の科目であり、１年次から２年次にかけて２科目４単位を選択履修する。（知識・技能）
・選択必修科目は、学生の研究関心に即して専門領域およびその周辺領域の専門的な知識・分析技法を習得することを到達目標とする。学生が所属するコースから１年次から２年次にかけて２科目４単位を選択履修する。（知識・技能）
・選択科目Ⅰは、単独あるいは複数の教員が開講する講義科目「コンテンポラリー・スタディーズ」で、教員がテーマを選択する。応用経済学の多様な専門領域における最先端の課題に積極的に取り組むことを到達目標とする。（主体性・多様性・協働性）
・選択科目 II は理論経済学専攻の選択必修科目である。応用経済学の領域にとどまらず、広く理論経済学の領域の多様な知見を習得することを到達目標とする。（知識・技能）
・選択科目 III は英語の語学科目であり、英語で学術書を読解し、学術論文を執筆する能力とともに、英語でプレゼンテーションし、ディスカッションする能力を習得することを到達目標とする。（知識・技能）
・これに加えて、前期課程科目全体のなかに、講義に英語の要素を取り入れた PSE（Professional Studies in English）科目を設置する。英語でコミュニケーションする能力を習得することを到達目標とする。（知識・技能）

経 済 学 研 究 科

理論経済学専攻

登録コード 科目	クラス	科目名・クラス	サブタイトル	PSE科目	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
〔必修科目〕 ８単位履修すること											
30403001		論文演習Ⅰ			4	全教員	春または秋	2	2～	不可	クラスコード表参照
30403002		論文演習Ⅱ			4	全教員	秋または春	2	2～	不可	クラスコード表参照「論文演習Ⅰ」の単位を修得済の者のみ履修可
30403003		論文							2～		「論文演習Ⅱ」とセットで登録すること
〔共通選択必修科目〕 ２科目４単位以上履修すること（全コース共通）											
30403101		基礎ミクロ経済学		★	2	佐藤　敦紘	春	2	1～	可	
30403102		基礎マクロ経済学		★	2	荒渡　良	春	2	1～	可	
30403103		基礎計量経済学		★	2	八木　匡	春	2	1～	可	
30403104		経済史		★	2	菅　一城	春	2	1～	可	
30403105		経済学史			2	笠井　高人	春	2	1～	可	
30403106		政治経済学		★	2	大野　隆	春	2	1～	可	
30403107		経済政策		★	2	東　良彰	春	2	1～	可	
30403108		公共経済学			2	原田　禎夫	春	2	1～	可	
30403109		資源環境経済学			2	三俣　学	春	2	1～	可	
30403110		文化経済学		★	2	河島　伸子	春	2	1～	可	
30403111		行動経済学			2	大垣　昌夫	春	2	1～	可	
30403112		社会政策		★	2	山森　亮	春	2	1～	可	
30403113	001	基礎情報システム学①			2	宮崎　耕	春	2	1～	可	テレビ講義（京田辺校地）
30403113	051	基礎情報システム学⑤			2	宮崎　耕	春	2	1～	可	今出川校地
〔選択必修科目〕 所属専攻にある１つのコースから、２科目４単位以上履修すること											
理論分析コース											
30413001		ミクロ経済理論		★	2	本領　崇一	秋	2	1～	可	
30413002		マクロ経済理論		★	2	荒渡　良	秋	2	1～	可	
30413003		計量経済理論			2	西山　慶彦	春	2	1～	可	
30413004		計量経済実習１		★	2	岩澤　政宗	春	2	1～	可	
30413005		計量経済実習２		★	2	岩澤　政宗	秋	2	1～	可	
30413006		数理経済学			2	茂見　岳志	春	2	1～	可	
30413007		国際貿易論１		★	2	山本　和博	春	2	1～	可	
30413008		国際貿易論２			2	山本　和博	秋	2	1～	可	
30413009		国際マクロ経済学			2	柴田　章久	春	2	1～	可	
30413010		経済解析			2	佐藤　敦紘	秋	2	1～	可	
30413013		【理】特講Ⅰ（上級マクロ経済理論１）		★	2	柴田　章久	春	2	1～	可	
30413014		【理】特講Ⅰ（上級マクロ経済理論２）			2	柴田　章久	秋	2	1～	可	
30413020		【理】特講Ⅰ（行動経済学と共同体メカニズム１）			2	大垣　昌夫	春	2	1～	可	
		【理】特講Ⅱ			4	（本年度休講）			1～		

登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	サブタイトル	PSE科目	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
政治経済学・経済史コース											
30414001		欧米経済史			2	角井　正幸	春	2	1～	可	
30414002		アジア経済史			2	横井　和彦	春	2	1～	可	
30414003		日本経済史			2	奥田　以在	秋	2	1～	可	
30414004		比較社会経済			2	福岡　正章	秋	2	1～	可	
30414005		開発経済		★	2	手島　健介	春	2	3～	可	2024年度以前生対象
30414006		国際政治経済学			2	小野塚佳光	春	集中	1～	可	
30414007		政治経済理論			2	谷村　智輝	秋	2	1～	可	
30414008		経済思想史		★	2	西岡　幹雄	秋	2	1～	可	
30414009		制度分析			4	西岡　幹雄	通年	2	1～	不可	
		【理】特講Ⅰ			2	（本年度休講）			1～		
		【理】特講Ⅱ			4	（本年度休講）			1～		
〔選択科目Ⅰ〕											
30410101	003	【理】コンテンポラリー・スタディーズⅠ	近世東アジア貨幣論		2	福岡　正章 古賀　康士	春	2	1～	可	
		【理】コンテンポラリー・スタディーズⅡ			4	（本年度休講）			1～		
30420101	002	【応】コンテンポラリー・スタディーズⅠ	経済地理	★	2	Tamara Litvinenko	秋	2	1～	可	
		【応】コンテンポラリー・スタディーズⅡ			4	（本年度休講）			1～		
〔選択科目Ⅱ〕											
30422001		日本経済			2	前林　紀孝	秋	2	1～	可	
30422002		金融			2	北坂　真一	春	2	1～	可	
30422003		国際金融			2	久保徳次郎	秋	2	1～	可	
30422004		ファイナンス			2	新関三希代	秋	2	1～	可	
30422005		経済政策論			2	西垣　泰幸	秋	2	1～	可	
30422006		応用ミクロ経済分析		★	2	和田　美憲	春	2	1～	可	
30422007		応用マクロ経済分析			2	北川　雅章	秋	2	1～	可	
30422008		労働経済			2	宮本　大	春	2	1～	可	
30422009		地域経済			2	小藤　弘樹	春	2	1～	可	
30422010		交通経済			2	水谷　淳	春	2	1～	不可	遠隔授業
30422011		企業経済			2	竹廣　良司	春	2	1～	可	
30422012		産業経済			2	小林　千春	春	2	1～	可	
30422021		開発経済		★	2	手島　健介	春	2	1～	可	2025年度以降生対象
30422016		【応】特講Ⅰ（応用情報システム４）			2	久保徳次郎	秋	2	1～	可	
30422022		【応】特講Ⅰ（実証分析：自然実験的アプローチ）		★	2	手島　健介	春	2	1～	可	
30423001		コンテンツ産業論			2	（本年度休講）			1～		
30423002		文化政策論			2	竹谷多賀子	秋	2	1～	可	
30423003		創造都市論			2	（本年度休講）			1～		
30423004		家族の経済学		★	2	宮澤　和俊	春	2	1～	可	
30423005		教育の経済学			2	四谷　晃一	春	2	1～	可	
30423006		格差社会論			2	八木　匡	秋	2	1～	可	
30423007		ワークライフバランス論			2	川口　章	春	2	1～	不可	
30423008		コミュニティの経済学			2	八木　匡 大垣　昌夫	春	2	1～	可	

登録コード		科目名・クラス	サブタイトル	PSE科目	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
科目	クラス										
30423009	001	エコロジー経済学①	生態学・熱力学・経済学等の統合	★	2	和田　喜彦	秋	2	1～	可	
30423009	002	エコロジー経済学②	エントロピーとエネルギー		2	石田　葉月	春	2	1～	可	
30423009	003	エコロジー経済学③	一枚の畑から「生命の文化」へ		2	藤本　穣彦	秋	2	1～	可	
30423010		社会保障論			2	船橋　恒裕	秋	2	1～	可	
30423011		ＩＴソリューションズ			2	法雲　俊栄	春	2	1～	可	
30423012		インフォメーションシステムズ			2	久保徳次郎	秋	2	1～	可	
30423101	019	【応】特講Ⅰ (アカデミックリテラシー) ⑲			2	宮澤　和俊	秋	2	1～	不可	担当者の「論文演習Ⅰ」を登録する者のみ履修可
		【応】特講Ⅱ			4	(本年度休講)			1～		
〔選択科目Ⅲ〕											
30403701		英語(アカデミックライティング)			2	Shaun Gates	春	2	1～	不可	
30403702		英語(リーディング)			2	Shaun Gates	秋	2	1～	不可	
30403703		英語(プレゼンテーション)			2	Shaun Gates	春	2	1～	不可	
30403704		英語(ディスカッション)			2	Shaun Gates	秋	2	1～	不可	

応用経済学専攻

登録コード 科目	クラス	科目名・クラス	サブタイトル	PSE科目	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
〔必修科目〕 ８単位履修すること											
30403001		論文演習Ⅰ			4	全教員	春または秋	2	2～	不可	クラスコード表参照
30403002		論文演習Ⅱ			4	全教員	秋または春	2	2～	不可	クラスコード表参照「論文演習Ⅰ」の単位を修得済の者のみ履修可
30403003		論文							2～		「論文演習Ⅱ」とセットで登録すること。
〔共通選択必修科目〕 ２科目４単位以上履修すること（全コース共通）											
30403101		基礎ミクロ経済学		★	2	佐藤　敦紘	春	2	1～	可	
30403102		基礎マクロ経済学		★	2	荒渡　良	春	2	1～	可	
30403103		基礎計量経済学		★	2	八木　匡	春	2	1～	可	
30403104		経済史		★	2	菅　一城	春	2	1～	可	
30403105		経済学史			2	笠井　高人	春	2	1～	可	
30403106		政治経済学		★	2	大野　隆	春	2	1～	可	
30403107		経済政策		★	2	東　良彰	春	2	1～	可	
30403108		公共経済学			2	原田　禎夫	春	2	1～	可	
30403109		資源環境経済学			2	三俣　学	春	2	1～	可	
30403110		文化経済学		★	2	河島　伸子	春	2	1～	可	
30403111		行動経済学			2	大垣　昌夫	春	2	1～	可	
30403112		社会政策		★	2	山森　亮	春	2	1～	可	
30403113	001	基礎情報システム学①			2	宮崎　耕	春	2	1～	可	テレビ講義（京田辺校地）
30403113	051	基礎情報システム学⑤			2	宮崎　耕	春	2	1～	可	今出川校地
〔選択必修科目〕 所属専攻にある１つのコースから、２科目４単位以上履修すること											
アプライド・エコノミクスコース											
30422001		日本経済			2	前林　紀孝	秋	2	1～	可	
30422002		金融			2	北坂　真一	春	2	1～	可	
30422003		国際金融			2	久保徳次郎	秋	2	1～	可	
30422004		ファイナンス			2	新関三希代	秋	2	1～	可	
30422005		経済政策論			2	西垣　泰幸	秋	2	1～	可	
30422006		応用ミクロ経済分析		★	2	和田　美憲	春	2	1～	可	
30422007		応用マクロ経済分析			2	北川　雅章	秋	2	1～	可	
30422008		労働経済			2	宮本　大	春	2	1～	可	
30422009		地域経済			2	小藤　弘樹	春	2	1～	可	
30422010		交通経済			2	水谷　淳	春	2	1～	不可	遠隔授業
30422011		企業経済			2	竹廣　良司	春	2	1～	可	
30422012		産業経済			2	小林　千春	春	2	1～	可	
30422021		開発経済		★	2	手島　健介	春	2	1～	可	2025年度以降生対象
30422016		【応】特講Ⅰ（応用情報システム４）			2	久保徳次郎	秋	2	1～	可	
30422022		【応】特講Ⅰ（実証分析：自然実験的アプローチ）		★	2	手島　健介	春	2	1～	可	
		【応】特講Ⅱ			4	（本年度休講）			1～		

登録コード 科目	クラス	科目名・クラス	サブタイトル	PSE科目	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
クリエイティブ・エコノミーコース											
30423001		コンテンツ産業論			2	（本年度休講）			Ⅰ～		
30423002		文化政策論			2	竹谷多賀子	秋	2	Ⅰ～	可	
30423003		創造都市論			2	（本年度休講）			Ⅰ～		
30423004		家族の経済学		★	2	宮澤　和俊	春	2	Ⅰ～	可	
30423005		教育の経済学			2	四谷　晃一	春	2	Ⅰ～	可	
30423006		格差社会論			2	八木　匡	秋	2	Ⅰ～	可	
30423007		ワークライフバランス論			2	川口　章	春	2	Ⅰ～	不可	
30423008		コミュニティの経済学			2	八木　匡 大垣　昌夫	春	2	Ⅰ～	可	
30423009	001	エコロジー経済学①	生態学・熱力学・経済学等の統合	★	2	和田　喜彦	秋	2	Ⅰ～	可	
30423009	002	エコロジー経済学②	エントロピーとエネルギー		2	石田　葉月	春	2	Ⅰ～	可	
30423009	003	エコロジー経済学③	一枚の畑から「生命の文化」へ		2	藤本　穣彦	秋	2	Ⅰ～	可	
30423010		社会保障論			2	船橋　恒裕	秋	2	Ⅰ～	可	
30423011		ＩＴソリューションズ			2	法雲　俊栄	春	2	Ⅰ～	可	
30423012		インフォメーションシステムズ			2	久保徳次郎	秋	2	Ⅰ～	可	
30423101	019	【応】特講Ⅰ （アカデミックリテラシー）⑲			2	宮澤　和俊	秋	2	Ⅰ～	不可	担当者の「論文演習Ⅰ」を登録する者のみ履修可
		【応】特講Ⅱ			4	（本年度休講）			Ⅰ～		
〔選択科目Ⅰ〕											
30410101	003	【理】コンテンポラリー・スタディーズⅠ	近世東アジア貨幣論		2	福岡　正章 古賀　康士	春	2	Ⅰ～	可	
		【理】コンテンポラリー・スタディーズⅡ			4	（本年度休講）			Ⅰ～		
30420101	002	【応】コンテンポラリー・スタディーズⅠ	経済地理	★	2	Tamara Litvinenko	秋	2	Ⅰ～	可	
		【応】コンテンポラリー・スタディーズⅡ			4	（本年度休講）			Ⅰ～		
〔選択科目Ⅱ〕											
30413001		ミクロ経済理論		★	2	本領　崇一	秋	2	Ⅰ～	可	
30413002		マクロ経済理論		★	2	荒渡　良	秋	2	Ⅰ～	可	
30413003		計量経済理論			2	西山　慶彦	春	2	Ⅰ～	可	
30413004		計量経済実習Ⅰ		★	2	岩澤　政宗	春	2	Ⅰ～	可	
30413005		計量経済実習２		★	2	岩澤　政宗	秋	2	Ⅰ～	可	
30413006		数理経済学			2	茂見　岳志	春	2	Ⅰ～	可	
30413007		国際貿易論Ⅰ		★	2	山本　和博	春	2	Ⅰ～	可	
30413008		国際貿易論２			2	山本　和博	秋	2	Ⅰ～	可	
30413009		国際マクロ経済学			2	柴田　章久	春	2	Ⅰ～	可	
30413010		経済解析			2	佐藤　敦紘	秋	2	Ⅰ～	可	
30413013		【理】特講Ⅰ （上級マクロ経済理論Ⅰ）		★	2	柴田　章久	春	2	Ⅰ～	可	
30413014		【理】特講Ⅰ （上級マクロ経済理論２）			2	柴田　章久	秋	2	Ⅰ～	可	
30413020		【理】特講Ⅰ （行動経済学と共同体メカニズムⅠ）			2	大垣　昌夫	春	2	Ⅰ～	可	
30414001		欧米経済史			2	角井　正幸	春	2	Ⅰ～	可	
30414002		アジア経済史			2	横井　和彦	春	2	Ⅰ～	可	
30414003		日本経済史			2	奥田　以在	秋	2	Ⅰ～	可	

登録コード		科目名・クラス	サブタイトル	PSE科目	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
科目	クラス										
30414004		比較社会経済			2	福岡　正章	秋	2	1～	可	
30414005		開発経済		★	2	手島　健介	春	2	3～	可	2024年度以前生対象
30414006		国際政治経済学			2	小野塚佳光	春	集中	1～	可	
30414007		政治経済理論			2	谷村　智輝	秋	2	1～	可	
30414008		経済思想史		★	2	西岡　幹雄	秋	2	1～	可	
30414009		制度分析			4	西岡　幹雄	通年	2	1～	不可	
		【理】特講Ⅱ			4	（本年度休講）			1～		
〔選択科目Ⅲ〕											
30403701		英語（アカデミックライティング）			2	Shaun Gates	春	2	1～	不可	
30403702		英語（リーディング）			2	Shaun Gates	秋	2	1～	不可	
30403703		英語（プレゼンテーション）			2	Shaun Gates	春	2	1～	不可	
30403704		英語（ディスカッション）			2	Shaun Gates	秋	2	1～	不可	

理論経済学専攻 / 応用経済学専攻
論文演習Ⅰ・Ⅱ 担当者クラス・コード表

コード	担当者	コード	担当者	コード	担当者	コード	担当者
001 (101)	東　良彰	003 (103)	福岡　正章	011 (011)	河島　伸子	013 (113)	北坂　真一
019 (119)	宮澤　和俊	042 (142)	四谷　晃一	049 (149)	本領　崇一	054 (154)	岩澤　政宗
056 (156)	手島　健介	058 (158)	大垣　昌夫				

※（　）内については、「論文演習Ⅰ」の秋学期クラスおよび「論文演習Ⅱ」の春学期クラスを履修する者のクラス・コードである。

履修方法

・各セメスター最高14単位まで登録できる。
・修了に必要な単位や修了要件については、履修の手引きで確認すること。
・学部科目や他研究科科目の履修、単位認定等については、履修の手引きで確認すること。
・論文スケジュールおよび審査基準については、履修の手引きで確認すること。
・「PSE（Professional Studies in English）科目」とは、英語でのコミュニケーション能力を養成するため、経済学の講義の中に英語の要素を取り入れた科目である。

学部奨励学生の履修について

・2025年度に学部奨励学生であった者は、２年次以降に配当されている科目を１年次から履修することができる。
・2025年度に学部奨励学生であった者は、１年次に「論文」を登録して提出することができる。

注意事項 （「論文」および「論文演習Ⅱ」について）

Ⅰ．登録について
・論文提出を予定する学期には、「論文」および「論文演習Ⅱ」をセットで登録する。
・再履修の場合も「論文」および「論文演習Ⅱ」は、必ずセットで登録する。

Ⅱ．成績評価について
・「論文」は、「合格（P）」「不合格（F）」で評価する。
・「論文演習Ⅱ」は、GPA で評価する。
・「論文」および「論文演習Ⅱ」は、それぞれ独立して評価する。
・論文を提出しなかった場合も「論文演習Ⅱ」については、別途評価する。

Ⅲ．修了要件に対しての単位の算入について
・「論文」は、単位なし
・「論文演習Ⅱ」は、４単位のみ算入される。
・「論文演習Ⅱ」の単位を取得し「論文」が「不合格」となった場合、次セメスター以降に再度登録する「論文演習Ⅱ」は自由科目扱いとなる。

商学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

情報化やグローバル化など近年の著しい社会構造の変化により、現実感覚に溢れ、理論と実践を融合した高度な専門研究能力を備えた人材が要請されている。

商学研究科は、1950年に修士課程商学専攻として発足した後、修士・博士両課程を通じて、各方面に研究者をはじめ有為の人材を送り出してきた。また、多様な入試制度を設けて、研究意欲をもった希望者に広く門戸を開いている。本研究科では、理論・実証・実務への多様な関心を持った大学院学生同士が融合し相互に刺激し合うことを目的とするため、大学院学生の進路転換に柔軟に対応することが可能な一体化した研究体制を構築している。自らの研究課題を設定し、自律的に多様な研究活動をすすめることのできる能力を持った人材を養成する。

本研究科は、前期課程では幅広い視野に立った専門的知識の修得と問題発見・解決能力を養成し、高度な専門的研究能力を社会で大いに発揮できる人材を育成する。同時により深い研究を目指す大学院学生にたいしては、後期課程で独創性に富み自立した応用研究能力を養成し、国内外のさまざまな分野の最前線で活躍しうる人材を育成する。

教育の目的

本研究科が対象とするビジネス活動は、情報化・グローバル化などの変化がもっとも鮮明に現れている先端領域である。ビジネスの倫理と環境保全、非営利組織の発展など、新しい課題も生じている。本研究科は、こうした各分野における多様な変化に積極的に対応し、広く産業社会が要求する課題の解決に努めることを教育の目的とする。そのため、広い視野に立って基礎的な研究から最先端の研究まで、柔軟で段階的な研究指導体制を整備している。また、その時々の社会的要請に応えるために、多数の科目を増改設し、豊富なデータベースを揃え、学外からの実業家や学識者によるワークショップ、アドバイザリー・スタッフ制度などを設けている。こうして、大学院学生が主体的に問題を発見・解決し、修士論文に結実しうるよう努めている。

人材養成目的

商学研究科商学専攻博士課程（前期）は，現代産業社会の経済活動に関わる諸問題について，幅広い視野と深い専門知識の修得に基づく問題発見・解決能力の育成をとおして，みずから課題を発見し探究する深い学識と専門的調査研究能力を身に付け，もって現代産業社会および学術活動の最前線にたち，調査・研究・教育・専門職等において中核を担いうる人材の養成を目的とする。

【ディプロマ・ポリシー】（学位授与方針）

商学研究科博士課程（前期課程）では、ビジネス環境の変化に対応することのできる、次の３つの観点から評価した高度な能力をかねそなえた人物に、「修士（商学）」の学位を授与する。

知識・技能

現代産業社会の諸問題について、文献資料や統計データを調査・分析する技能を備え、理論的・実証的に、社会と学術の進歩に貢献しうる深い洞察ができるような、関連する分野への学術的知見を得ることができる。

思考力・判断力・表現力

現代産業社会の諸問題について、自ら課題を積極的に発見し、社会と学術の進歩に貢献しうる知見を探求し、公表できる。

主体性・多様性・協働性

現代産業社会の諸問題についての学術的理解に基づいて、産業社会の発展に寄与するために、行動することができる。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成方針）

現代産業社会の経済活動に関わる諸問題について、自ら課題を発見し、高度な学問領域を探求し、産業社会および学術の進歩と発展に貢献する人材を養成するために、「研究基礎科目」、「大学院基礎演習」、「特講演習Ⅰ～Ⅲ」、「副演習」、その他講義科目を含め30単位以上を履修するカリキュラムを設置する。カリキュラムは、研究倫理、定性的・定量的な研究方法の基礎を学ぶ「研究基礎科目」、専門分野をより深く学ぶ講

義科目と、研究能力の育成を目的とする「大学院基礎演習」、「特講演習Ⅰ」、「特講演習Ⅱ」および「特講演習Ⅲ」、ビジネスの最新動向を学ぶ「ワ―クショップ」から構成される。

知識・技能

「研究基礎」（必修）、「研究方法論（定性）」、「研究方法論（定量）」の３科目から構成される研究基礎科目を履修することにより、研究を進めて行くために必須となる研究倫理を身に付け、現代産業社会の諸問題に関連する専門分野および研究領域について、文献資料やデータなどの情報収集方法や、そこで得られた情報を用いて定性的・定量的に分析するための手法を習得できるようになる。「大学院基礎演習」を履修することにより、研究計画や研究方法などについて指導教員からアドバイスを受け、研究生活をスムーズにスタートすることが出来る。講義科目では、専門領域に関する幅広い知識や深い洞察力を習得することができるようになる。「特講演習Ⅰ～Ⅲ」を履修することにより、担当教員による指導の下で、研究能力の育成を図り、最終的に論文を作成することができるようになる。

思考力・判断力・表現力

「研究基礎」を履修することにより、論文作成やプレゼンテーション方法など研究内容を公表する際の基本的な作法を習得できるようになる。「大学院基礎演習」、「特講演習Ⅰ～Ⅲ」「副演習」、およびその他講義科目を履修することにより、現代産業社会の諸問題に関連する専門分野および研究領域について、広範な知識と研究能力の習得にもとづき、自ら課題を設定し、論文として公表することができるようになる。また、「特講演習Ⅰ～Ⅲ」を履修することにより、プレゼンテーション能力を養成することができるようになる。

主体性・多様性・協働性

「研究基礎」を履修することにより、研究倫理や基本的な研究方法など高度専門職業人や研究者として要求される基本的態度を身に付けることができるようになる。また、「大学院基礎演習」や「特講演習Ⅰ～Ⅲ」および「副演習」における報告や討論を通じて、多様な見解についての知見を深め、将来、産業社会の発展に貢献する主体的・協働的な態度を身につけた高度専門職業人や研究者・教育者として行動するための姿勢を身につけることができるようになる。

商 学 研 究 科

前期課程（2024年度以降生）

登録コード 科目	登録コード クラス	科目名	クラス	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分
■研究基礎科目								
30560001		研究基礎		2	服部　茂幸 石田　大典 夏　　世明	春学期	2	不可
30560002		研究方法論（定性）		2	太田原　準	春学期	2	不可
30560003		研究方法論（定量）		2	中岡　孝剛	春学期	2	不可
■基本科目								
（データサイエンス・コース）								
30561104		データ・アナリシスⅠ		2	上田　雅弘	秋学期	2	可
30561105		ビジネス・エコノミクス		2	久松　太郎	春学期	2	可
30561106		市場と人間		2	小島　秀信	春学期	2	可
（マーケティング・コース）								
30561301		マーケティング		2	髙橋　広行	春学期	2	可
30561302		流通論		2	（本年度休講）			
（マネジメント・コース）								
30561501		戦略論		2	冨田　健司	春学期	2	可
30561502		組織論		2	瓜生原葉子	春学期	2	可
（アカウンティング・コース）								
30561701		財務会計論		2	志賀　　理	春学期	2	可
30561702		管理会計論		2	中川　　優	春学期	2	可
30561703		監査論		2	大日方　隆	春学期	2	可
■コア科目								
（データサイエンス・コース）								
30562102		データ・アナリシスⅡ		2	牧　　大樹	春学期	2	可
30562112		ビジネス・プログラミング		2	溝渕　英之	春学期	2	可
30562122		ファイナンス		2	久納　誠矢	秋学期	2	可
30562132		コーポレート・ファイナンス		2	辻村　元男	春学期	2	可
30562142		金融システム論		2	丸茂　俊彦	春学期	2	可
30562151		金融論		2	植田　宏文	春学期	2	可
30562162		インターナショナル・エコノミクス		2	田淵　太一	秋学期	2	可
30562171		国際金融論		2	（本年度休講）			
30562191		地理情報システム		2	内藤　　徹	秋学期	2	可
30562201		環境リスク論		2	岡　　敏弘	春学期	2	可
30562211		環境リスク論のための経済学		2	岡　　敏弘	秋学期	2	可
（マーケティング・コース）								
30562301		マーケティング（展開）		2	崔　　容熏	春学期	2	可
30562311		マーケティング戦略論		2	（本年度休講）			
30562321		サービスマーケティング		2	（本年度休講）			
30562332		デジタルマーケティング		2	石田　大典	春学期	2	可
30562341		物流論		2	石田　信博	秋学期	2	可
30562351		電子商取引論		2	長沼　　健	春学期	2	可
30562361		国際商取引論		2	吉川英一郎	春学期	2	可
30562371		交通論		2	（本年度休講）			
30562381		商業史		2	川満　直樹	春学期	2	可
30562391		日本商業史		2	山下　麻衣	秋学期	2	可

登録コード		科　　目　　名	クラス	単 位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分
科 目	クラス							
（マネジメント・コース）								
30562501		戦略論（展開）		2	中道　一心	秋学期	2	可
30562511		組織論（展開）		2	福本　俊樹	秋学期	2	可
30562521		企業論		2	今西　宏次	春学期	2	可
30562531		中小企業経営論		2	関　　智宏	秋学期	2	可
30562541		経営分析論		2	（本年度休講）			
30562551		経営管理論Ⅰ		2	（本年度休講）			
30562552		経営管理論２		2	（本年度休講）			
30562561		アントレプレナー論		2	文能　照之	春学期	2	可
30562571		イノベーション論		2	太田原　準	秋学期	2	可
（アカウンティング・コース）								
30562701		財務諸表論Ⅰ		2	大日方　隆	春学期	2	可
30562702		財務諸表論２		2	山田　浩史	秋学期	2	可
30562711		会計基準論		2	山本　達司	春学期	2	可
30562721		国際会計論		2	稲見　　亨	春学期	2	可
30562731		税務会計論		2	嶋田　　薫	秋学期	2	可
30562741		財務諸表分析		2	山本　達司	春学期	2	可
30562751		戦略管理会計		2	頼　　誠	春学期	2	可
30562761		原価計算論		2	河合　隆治	秋学期	2	可
30562771		内部監査論		2	田中久美子	秋学期	2	可
30562772		内部統制論		2	田中久美子	秋学期	2	可
30562781		実験会計学		2	田口　聡志	春学期	2	可
30562801		会計制度史		2	大日方　隆	秋学期	2	可
30562791		パブリックアカウンティング		2	（本年度休講）			
■実践科目								
30563002	001	ワークショップ： ビジネスコンサルティング	1	2	太田原　準	春学期	2	不可
30563002	002	ワークショップ： グローバル化時代の会計	2	2	稲見　　亨 山田　浩史	秋学期	2	不可
30563002	003	ワークショップ： ビジネスと政策の現場におけるデータサイエンス	3	2	（本年度休講）			
■演習科目								
（主演習）								
30564000		大学院基礎演習		2	別表参照	春学期	2	不可
30564001		特講演習Ⅰ		2		秋学期	2	不可
30564002		特講演習Ⅱ		2		春学期	2	不可
30564003		特講演習Ⅲ		2		秋学期	2	不可
（副演習：修士論文で修了する場合のみ，修了必要単位数に算入）								
30564101		副演習Ⅰ		2	別表参照	秋学期	2	不可
30564102		副演習２		2		春学期	2	不可
30564103		副演習３		2		秋学期	2	不可
（５年一貫教育プログラム履修生用）								
30564011		特講演習Ａ		2	別表参照	春学期	2	不可
30564012		特講演習Ｂ		2		秋学期	2	不可
30564013		特講演習Ｃ		2		秋学期	2	不可
30564111		副演習Ａ		2		春学期	2	不可
30564112		副演習Ｂ		2		秋学期	2	不可
30564113		副演習Ｃ		2		秋学期	2	不可

登録コード		科　　目　　名	クラス	単 位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分
科 目	クラス							
■論文								
30565001		論文	※修士論文で修了する場合					不可
30565101		論文	※課題型修士論文で修了する場合					不可

【履修方法】

・研究基礎科目から２単位以上，基本科目及びコア科目から所属しているコースの科目を含めて10単位以上，演習科目から大学院基礎演習，特講演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲまたは特講演習Ａ，Ｂ，Ｃの計８単位を含め合計30単位を履修しなければならない。

（注）・研究基礎科目のうち，「研究基礎」を必修のこと。
・基本科目のうち，所属しているコースの科目から２単位以上を履修すること。
・コア科目のうち，所属しているコースの科目から２単位以上を履修すること。

前期課程（2018～2023年度生）

登録コード 科目	クラス	科目名	クラス	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分
■研究基礎科目								
30560001		研究基礎		2	服部　茂幸 石田　大典 夏　世明	春学期	2	不可
30560002		研究方法論（定性）		2	太田原　準	春学期	2	不可
30560003		研究方法論（定量）		2	中岡　孝剛	春学期	2	不可
■基本科目								
（ファイナンス・コース）								
30561101		データ・アナリシス		2	上田　雅弘	秋学期	2	可
30561102		ファイナンス		2	（本年度休講）			
30561103		インターナショナル・エコノミクス		2	田淵　太一	秋学期	2	可
（マーケティング・コース）								
30561301		マーケティング		2	髙橋　広行	春学期	2	可
30561302		流通論		2	（本年度休講）			
（マネジメント・コース）								
30561501		戦略論		2	冨田　健司	春学期	2	可
30561502		組織論		2	瓜生原葉子	春学期	2	可
（アカウンティング・コース）								
30561701		財務会計論		2	志賀　理	春学期	2	可
30561702		管理会計論		2	中川　優	春学期	2	可
30561703		監査論		2	大日方　隆	春学期	2	可
■コア科目								
（ファイナンス・コース）								
30562101		マクロ経済学		2	溝渕　英之	春学期	2	可
30562111		ミクロ経済学		2	内藤　徹	秋学期	2	可
30562121		証券投資論		2	久納　誠矢	秋学期	2	可
30562131		企業金融論		2	辻村　元男	春学期	2	可
30562141		貨幣論		2	丸茂　俊彦	春学期	2	可
30562151		金融論		2	植田　宏文	春学期	2	可
30562161		貿易論		2	田淵　太一	春学期	2	可
30562171		国際金融論		2	（本年度休講）			
30562181		市場と人間		2	小島　秀信	春学期	2	可
（マーケティング・コース）								
30562301		マーケティング（展開）		2	崔　容熏	春学期	2	可
30562311		マーケティング戦略論		2	（本年度休講）			
30562321		サービスマーケティング		2	（本年度休講）			
30562332		デジタルマーケティング		2	石田　大典	春学期	2	可
30562341		物流論		2	石田　信博	秋学期	2	可
30562351		電子商取引論		2	長沼　健	春学期	2	可
30562361		国際商取引論		2	吉川英一郎	春学期	2	可
30562371		交通論		2	（本年度休講）			
30562381		商業史		2	川満　直樹	春学期	2	可
30562391		日本商業史		2	山下　麻衣	秋学期	2	可
（マネジメント・コース）								
30562501		戦略論（展開）		2	中道　一心	秋学期	2	可
30562511		組織論（展開）		2	福本　俊樹	秋学期	2	可
30562521		企業論		2	今西　宏次	春学期	2	可
30562531		中小企業経営論		2	関　智宏	秋学期	2	可

登録コード		科　　目　　名	クラス	単 位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分
科 目	クラス							
30562541		経営分析論		2	（本年度休講）			
30562551		経営管理論Ⅰ		2	（本年度休講）			
30562552		経営管理論２		2	（本年度休講）			
30562561		アントレプレナー論		2	文能　照之	春学期	2	可
30562571		イノベーション論		2	太田原　準	秋学期	2	可
（アカウンティング・コース）								
30562701		財務諸表論Ⅰ		2	大日方　隆	春学期	2	可
30562702		財務諸表論２		2	山田　浩史	秋学期	2	可
30562711		会計基準論		2	山本　達司	春学期	2	可
30562721		国際会計論		2	稲見　　亨	春学期	2	可
30562731		税務会計論		2	嶋田　　薫	秋学期	2	可
30562741		財務諸表分析		2	山本　達司	春学期	2	可
30562751		戦略管理会計		2	頼　　誠	春学期	2	可
30562761		原価計算論		2	河合　隆治	秋学期	2	可
30562771		内部監査論		2	田中久美子	秋学期	2	可
30562772		内部統制論		2	田中久美子	秋学期	2	可
30562781		実験会計学		2	田口　聡志	春学期	2	可
30562801		会計制度史		2	大日方　隆	秋学期	2	可
30562791		パブリックアカウンティング		2	（本年度休講）			
■実践科目								
30563002	001	ワークショップ： ビジネスコンサルティング	1	2	太田原　準	春学期	2	不可
30563002	002	ワークショップ： グローバル化時代の会計	2	2	稲見　　亨 山田　浩史	秋学期	2	不可
30563002	003	ワークショップ： ビジネスと政策の現場におけるデータサイエンス	3	2	（本年度休講）			
■演習科目								
（主演習）								
30564000		大学院基礎演習		2	別表参照	春学期	2	不可
30564001		特講演習Ⅰ		2		秋学期	2	不可
30564002		特講演習Ⅱ		2		春学期	2	不可
30564003		特講演習Ⅲ		2		秋学期	2	不可
（副演習：修士論文で修了する場合のみ，修了必要単位数に算入）								
30564101		副演習Ⅰ		2	別表参照	秋学期	2	不可
30564102		副演習２		2		春学期	2	不可
30564103		副演習３		2		秋学期	2	不可
５年一貫教育プログラム履修生用								
30564011		特講演習Ａ		2	別表参照	春学期	2	不可
30564012		特講演習Ｂ		2		秋学期	2	不可
30564013		特講演習Ｃ		2		秋学期	2	不可
30564111		副演習Ａ		2		春学期	2	不可
30564112		副演習Ｂ		2		秋学期	2	不可
30564113		副演習Ｃ		2		秋学期	2	不可

登録コード		科　　目　　名	クラス	単 位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分
科 目	クラス							
■論文								
30565001		論文	※修士論文で修了する場合					不可
30565101		論文	※課題型修士論文で修了する場合					不可

【履修方法】

・研究基礎科目から２単位以上，基本科目及びコア科目から所属しているコースの科目を含めて10単位以上，演習科目から大学院基礎演習，特講演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲまたは特講演習Ａ，Ｂ，Ｃの計８単位を含め合計30単位を履修しなければならない。

（注）・研究基礎科目のうち，「研究基礎」を必修のこと。
・基本科目のうち，所属しているコースの科目から２単位以上を履修すること。
・コア科目のうち，所属しているコースの科目から２単位以上を履修すること。

【別表】演習科目担当者

担当者	クラスコード			
	大学院基礎演習	特講演習Ⅰ	特講演習Ⅱ	特講演習Ⅲ
		副演習１	副演習２	副演習３
		特講演習Ｂ	特講演習Ａ	特講演習Ｃ
		副演習Ｂ	副演習Ａ	副演習Ｃ
植田　宏文	001	001	001	001
丸茂　俊彦	002	002	002	002
田淵　太一	003	003	003	003
服部　茂幸	004	004	004	004
内藤　　徹	005	005	005	005
辻村　元男	006	006	006	006
久松　太郎	007	007	007	007
小島　秀信	008	008	008	008
溝渕　英之	009	009	009	009
上田　雅弘	010	010	010	010
牧　　大樹	011	011	011	011
久納　誠矢	012	012	012	012
長沼　　健	013	013	013	013
髙橋　広行	014	014	014	014
崔　　容熏	015	015	015	015
川満　直樹	016	016	016	016
吉川英一郎	017	017	017	017
山下　麻衣	018	018	018	018
今西　宏次	019	019	019	019
冨田　健司	020	020	020	020
太田原　準	021	021	021	021
関　　智宏	022	022	022	022
瓜生原葉子	023	023	023	023
中川　　優	024	024	024	024
志賀　　理	025	025	025	025
稲見　　亨	026	026	026	026
田口　聡志	027	027	027	027
山本　達司	028	028	028	028
河合　隆治	029	029	029	029
中道　一心	030	030		
岡　　敏弘	031	031	031	031
大日方　隆	032	032		

総合政策科学研究科

総合政策科学専攻

・政策研究コース
・ソーシャル・イノベーションコース

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

◇博士課程（前期課程）

総合政策科学研究科総合政策科学専攻博士課程（前期）は、高度な問題解決能力を総合的に備えた専門職業人を育成し、政府、企業、非営利等、社会の各分野の第一線で活躍できる人材を供給することを目的とする。そのために、総合性、学際性及び現地性にすぐれた教育体系を設け、多角的な視野で問題を正しく把握したうえで、解決に向けての政策を的確に立案し、それを実施できる能力の涵養を図るものとする。

政策研究コース

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

多様化・複雑化・情報化する現代社会が直面する政策課題を、客観的に調査・分析する知識・技能を備え、学際的・総合的観点に立った学術的知見に基づいて理解できるようになる。

（思考力・判断力・表現力）

多様化・複雑化・情報化する現代社会が直面する政策課題を解決するために、学際的・総合的観点に立った学術的知見に基づいて、公共政策、企業政策、国際政策の各分野における政策の立案・実施・評価を的確に運用できるようになる。

（主体性・多様性・協働性）

現代社会が直面する課題を、高度な情報化と多様性・複雑性を背景に顕在化したものとして総合的に捉え、その適切な解決方策を特定の専門分野の枠を超えて主体的に探求できるようになる。

◆カリキュラム・ポリシー

・多様化・複雑化・情報化する現代社会が直面する政策課題の解決に貢献できる人材を養成するために、導入科目、研究基礎科目、演習科目、展開科目、共通科目、論文・課題研究などによって構成されるカリキュラムを設置する。
・導入科目は、多様化・複雑化・情報化する現代社会が直面する基本的な政策課題を理解するとともに、政策科学に関する調査・分析・表現の基礎的な能力を身に付けることを目標とし、１科目２単位を履修する。
・研究基礎科目は、政策科学に関する学術的研究の基礎力となる社会科学の基礎理論や分析手法、英語文献の読解分析力、論文執筆能力の習得を目標とし、２科目４単位以上を履修する。
・演習科目は、現代社会が直面する政策課題を学問的に理解するとともに、課題解決の基本的態度を身に付け、多様な専門分野の学生と共同で課題解決を行うことを目標とし、３科目６単位以上を履修する。
・展開科目は、現代社会が直面する政策課題を探求し、その解決を図るために必要な政治・行政分野、法律分野、経済分野、組織・経営分野、及びそれらの各分野を統合する学際的・総合的な政策分野に関する高度な専門知識とその応用力の習得を目標とし、基礎展開科目から２科目４単位以上、応用展開科目から１科目２単位以上を選択科目Ⅰとして履修する。
・共通科目は、総合政策科学の基礎となる実践的な知識・技能の習得とフィールドワークによる政策現場での課題解決の実践的能力の獲得を目標とし、選択科目Ⅱとして履修する。
・論文は、科目の履修を通して培った、現代社会が直面する政策課題の解決能力を示すものであり、学術的かつ専門的な評価に値する研究として厳格に審査される。課題研究は、現代社会が直面する政策課題の具体的解決策を専門的な知見に基づいて研究した成果として厳格に審査される。

ソーシャル・イノベーションコース

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

SDGsを指針として現代社会に生起する社会的課題を客観的に調査・分析する知識・技能を備え、学際的・総合的観点に立った学術的知見に基づいて理解できるようになる。

（思考力・判断力・表現力）

SDGs を指針として現代社会に生起する社会的課題を解決するために、学際的・総合的観点に立った学術的知見に基づいて、地域社会や組織運営の臨床の場で政策の立案・実施・評価を的確に運用できるようになる。

（主体性・多様性・協働性）

SDGs を指針として現代社会に生起する社会的課題を解決するために、ビジネスで用いられる事業的手法の活用や社会的ネットワークの形成を通じて政策実現のために必要な資源を獲得する意欲を主体的に持つようになる。

◆カリキュラム・ポリシー

・SDGsを指針として現代社会に生起する社会的課題の解決に貢献できる人材を養成するために、導入科目、研究基礎科目、演習科目、展開科目、共通科目、論文・課題研究などによって構成されるカリキュラムを設置する。
・導入科目は、SDGs を指針として現代社会に生起する社会的課題を理解するとともに、政策科学に関する調査・分析・表現の基礎的な能力を身に付け、ソーシャル・イノベーションの研究上の基礎を習得することを目標とし、2科目4単位以上を履修する。
・研究基礎科目は、政策科学に関する学術的研究の基礎的ツールとなる分野横断的分析手法（定量・定性分析）を習得することを目標とし、１科目２単位以上を履修する。
・演習科目は、SDGs を指針として現代社会に生起する社会的課題を学問的に理解するとともに、課題解決の基本的態度を身に付け、多様な専門分野の学生と共同で課題解決を行うことを目標とし、３科目６単位以上を履修する。
・展開科目は、個々の SDGs の目標をより深く理解して現代社会に生起する社会的課題を探求し、その解決を図るために必要な高度な専門知識と臨床での実践力の習得を目標とし、Ａ群から２科目４単位以上、Ｂ群から２科目４単位以上を選択科目Ⅰとして履修する。
・共通科目は、総合政策科学の基礎となる実践的な知識・技能の習得とフィールドワークによる政策現場での課題解決の実践的能力の獲得を目標とし、選択科目Ⅱとして履修する。
・論文は、SDGs を指針として科目の履修を通して培った、現代社会に生起する社会的課題の解決能力を示すものであり、学術的かつ専門的な評価に値する研究として厳格に審査される。課題研究は、SDGs を指針として現代社会に生起する社会的課題の具体的解決策を専門的な知見に基づいて研究した成果として厳格に審査される。

授業1週目(DO Week)と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り２週分の授業はオンデマンドで受講することが同志社大学及び同志社大学大学院における標準的な授業となりますが、総合政策科学研究科においては、教室での授業とオンデマンドでの受講（原則１週目のみ）が基本となります。

授業１週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載しています。以下 URL もしくは QR コードから詳細を確認してください。また、授業２週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び（標準的な授業）
https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

総 合 政 策 科 学 研 究 科

総合政策科学専攻

＜政策研究コース＞　※2022年度以前生は総合政策科学研究科事務室までお問い合わせください。

登録コード 科目	クラス	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
必修科目								
〔導入科目〕								
30703002	001	総合政策科学入門 －セオリーアンドライティング－	2	西野　毅朗	1年次春学期	2	不可	
	002			壬生　裕子				
〔演習科目〕								
30703003	001	研究演習Ⅰ	2	足立　光生	秋学期	2	不可	指導教員のクラスを**秋学期**に登録すること
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			小谷　真理				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
30703004	001	研究演習Ⅱ	2	足立　光生	春学期	2	不可	指導教員のクラスを登録すること
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			（本年度休講）				

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
30703004	022	研究演習Ⅱ	2	岡本由美子	春学期	2	不可	指導教員のクラスを登録すること
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
	001			足立　光生				
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			（本年度休講）				
	013			久保　真人				
30703005	016	研究演習Ⅲ	2	武藏　勝宏	秋学期	2	不可	指導教員のクラスを登録すること
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
〔論文・課題研究〕								
30703000		論文						
30704281		課題研究						

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
選択科目Ⅰ								
〔演習導入科目〕								
	001			足立　光生				
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			小谷　真理				
	013			久保　真人				2クラス(4単位)まで履修可 ただし、修了単位には1クラス(2単位)しか算入しない
30703006	016	演習入門	2	武藏　勝宏	春学期	2	不可	
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
〔第2演習科目〕								
	001			足立　光生				
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				1クラス(2単位)のみ履修可 修了単位に算入する
30703007	010	研究第2演習（従）	2	川浦　昭彦	秋学期	2	不可	
	011			風間　規男				
	012			小谷　真理				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
30703007	022	研究第２演習（従）	2	岡本由美子	秋学期	2	不可	１クラス（２単位）のみ履修可 修了単位に算入する
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
〔研究基礎科目（４単位以上履修すること）〕								
30703100	001	定量分析Ⅰ	2	安達　晃史	春学期	2	不可	
	002			中原　　慧				
30703101		定量分析Ⅱ	2	木下　　健	秋学期	集中	不可	
30703102	001	定性分析Ⅰ	2	小田切康彦	春学期	2	不可	
30703103		定性分析Ⅱ	2	小田切康彦	春学期	集中	不可	
30703104		英語文献読解（法律）	2	中尾　祐人	春学期	2	不可	
30703105		英語文献読解（政治）	2	辻　優太郎	秋学期	2	不可	
30703106		英語文献読解（経済）	2	森　宏一郎	春学期	2	不可	
30703107		英語文献読解（組織・経営）	2	大平　剛士	秋学期	2	不可	
30703108		留学生のためのアカデミック・ライティング	2	朱　　浩良	春学期	2	不可	留学生のみ履修可
〔基礎展開科目（４単位以上履修すること）〕								
30770060		SDGs 概論	2	岡本由美子 足立　光生 川口　　章 川井　圭司 小谷　真理 新見　陽子 田中　秀樹	春学期	集中	不可	
30770061		法律学基礎	2	中尾　祐人	秋学期	2	可	
30770034		憲法解釈研究	2	大島佳代子	春学期	2	可	
30770035		立法政策過程論研究	2	武藏　勝宏	春学期	2	可	
30770037		現代行政法研究	2	小谷　真理	秋学期	2	可	
30770055		消費者政策研究	2	武藏　勝宏	春学期	集中	可	
30770051		国際法研究	2	新井　　京	春学期	2	不可	
30770036		政策形成論研究	2	髙橋　克紀 上村　　崇	秋学期	2	可	
30770062		政策過程論研究	2	風間　規男	秋学期	2	可	
30770063		行政組織論研究	2	入江　容子	春学期	2	可	
30770040		政策実施論研究	2	（本年度休講）				
30770041		政策評価論研究	2	（本年度休講）				
30770042		地方自治論研究	2	野田　　遊	春学期	2	可	
30770043		政治行動論研究	2	（本年度休講）				
30770049		国際政治学研究	2	月村　太郎	春学期	2	可	
30770064		グローバル・ガバナンス論研究	2	蓮生　郁代	春学期	2	可	
30770056		比較政治学研究	2	吉田　　徹	秋学期	2	可	
30770065		経済学基礎	2	小巻　泰之	秋学期	2	可	
30770032		政策分析研究	2	川上　敏和	秋学期	2	可	
30770031		政策価値論研究	2	柿本　昭人	秋学期	2	可	
30770046		公共選択論研究	2	川浦　昭彦	秋学期	2	可	
30770045		計量経済学研究	2	（本年度休講）				
30770050		グローバル経済論研究	2	岡本由美子	春学期	2	可	
30770054		数理分析研究	2	（本年度休講）				

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
30770066		組織・経営学基礎	2	夏　　世明	春学期	2	可	
30770057		人材・組織マネジメント研究	2	田中　秀樹	春学期	2	可	
30770067		組織と人間	2	（本年度休講）				
30770033		意思決定論研究	2	多田　　実	秋学期	2	可	
30770047		組織行動論研究	2	久保　真人	秋学期	2	可	
30770048		人的資源戦略論研究	2	（本年度休講）				
30770068		マーケティング研究	2	多田　　伶	春学期	集中	可	
30770069		ワーク・ライフ・バランス研究	2	藤本　哲史	春学期	2	可	
30770070		組織心理学	2	藤本　哲史	春学期	2	可	
〔応用展開科目（２単位以上履修すること）〕								
30770098		スポーツ法政策研究	2	川井　圭司	春学期	2	可	
30770099		スポーツ政策論研究	2	川井　圭司	秋学期	2	可	
30770107		消費者法研究	2	中田　邦博	秋学期	2	可	
30770200		地域分析論研究	2	野田　　遊	秋学期	2	可	
30770082		公共事業論研究	2	川上　敏和	秋学期	2	可	
30770108		国際社会論研究	2	富樫　耕介	春学期	2	可	
30770201		外交政策論研究	2	齋藤　嘉臣	春学期	2	可	
30770202		国際援助政策論研究	2	（本年度休講）				
30770203		国際地域統合論研究	2	原田　　徹	春学期	2	可	
30770204		エリア・スタディーズ研究	2	松田　　哲	秋学期	2	可	
30770205		公共財政管理論研究	2	田中　宏樹	秋学期	2	可	
30770085		文化政策・まちづくり観光論研究	2	（本年度休講）				
30770206		観光産業研究	2	高橋　一夫	春学期	2	可	
30770086		環境経済学研究	2	内田　真輔	秋学期	2	可	
30770088		生活保障論研究	2	畑本　裕介	春学期	2	可	
30770090		雇用政策論研究	2	川口　　章	春学期	2	可	
30770092		金融政策論研究	2	（本年度休講）				
30770214		地域金融研究	2	野間　敏克	春学期	2	可	
30770207		国際開発論研究	2	新見　陽子	春学期	2	可	
30770208		国際開発金融論研究	2	根岸　祥子	春学期	2	可	
30770215		国際協力 NGO 論研究	2	（本年度休講）				
30770209		資本市場研究	2	足立　光生	春学期	2	可	
30770210		定性調査法	2	（本年度休講）				
30770211		起業論	2	足立　光生	秋学期	2	可	
30770212		現代社会の労働・雇用	2	田中　秀樹	秋学期	2	可	
30770213		NPO 論	2	中嶋　　愛	秋学期	2	可	
30770159		政策研究プロジェクト －地方創生の法と政策－	2	武藏　勝宏 東南　隆光 竹原　信也	秋学期	2	不可	
30770250		政策研究プロジェクト －SDGs とジェンダー－	2	岡本由美子 川口　　章 川井　圭司 小谷　真理 新見　陽子 田中　秀樹	通年	集中	不可	

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
選択科目Ⅱ								
30780002		ソーシャル・イノベーション研究入門			＜ソーシャル・イノベーションコース＞科目ページ参照			
		展開科目Ａ群（ＳＩコース）	2024年度以降生					
		展開科目Ｂ群（ＳＩコース）	2024年度以降生					
		基礎展開科目（ＳＩコース）	2023年度生					
		臨床展開科目（ＳＩコース）	2023年度生					
		共通科目			＜共通科目＞科目ページ　参照			
選択科目Ⅲ								
		他研究科設置科目	他研究科履修要項　参照					
		関西四大学大学院単位互換科目	他大学履修要項　参照					
		高等研究教育院設置科目	学びのかたちの新展開（高等研究教育院）HP 参照					

＜ソーシャル・イノベーションコース＞

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
必修科目								
〔演習科目〕								
30703003	001	研究演習Ⅰ	2	足立　光生	秋学期	2	不可	指導教員のクラスを**秋学期に**登録すること
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			小谷　真理				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
	032			中島　恵理				
30703004	001	研究演習Ⅱ	2	足立　光生	春学期	2	不可	指導教員のクラスを登録すること
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			（本年度休講）				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
30703004	021	研究演習Ⅱ	2	野間　敏克	春学期	2	不可	指導教員のクラスを登録すること
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
	032			中島　恵理				
30703005	001	研究演習Ⅲ	2	足立　光生	秋学期	2	不可	指導教員のクラスを登録すること
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			（本年度休講）				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
	032			中島　恵理				
〔論文・課題研究〕								
30703000		論文						
30704281		課題研究						

登録コード 科目	クラス	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
選択科目Ⅰ								
〔演習導入科目〕								
30703006	001	演習入門	2	足立　光生	春学期	2	不可	2クラス（4単位）まで履修可 ただし、修了単位には1クラス（2単位）しか算入しない
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			小谷　真理				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
	032			中島　恵理				
〔第2演習科目〕								
30703007	001	研究第2演習（従）	2	足立　光生	秋学期	2	不可	1クラス（2単位）のみ履修可 修了単位に算入する
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			小谷　真理				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
30703007	021	研究第２演習（従）	2	野間　敏克	秋学期	2	不可	Ｉクラス（２単位）のみ履修可 修了単位に算入する
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
	032			中島　恵理				
〔導入科目（４単位以上履修すること）〕								
30780003		SDGs 入門	2	岡本由美子 足立　光生 川口　　章 川井　圭司 小谷　真理 新見　陽子 田中　秀樹	春学期	集中	不可	
30703002	001	総合政策科学入門 －セオリーアンドライティング－	2	西野　毅朗	春学期	2	不可	
	002			壬生　裕子				
30780002		ソーシャル・イノベーション研究入門	2	中島　恵理	春学期	2	不可	
〔研究基礎科目（２単位以上履修すること）〕								
30703100	001	定量分析Ⅰ	2	安達　晃史	春学期	2	不可	
	002			中原　　慧				
30703101		定量分析Ⅱ	2	木下　　健	秋学期	集中	不可	
30703102	001	定性分析Ⅰ	2	小田切康彦	春学期	2	不可	
30703103		定性分析Ⅱ	2	小田切康彦	春学期	集中	不可	
〔展開科目Ａ群（４単位以上履修すること）〕								
30780204		地域政策論研究	2	安達　晃史	秋学期	2	可	
30780206		ソーシャル・ネットワーク研究	2	中嶋　　愛	秋学期	2	可	
30770042		地方自治論研究	2	野田　　遊	春学期	2	可	
30780208		地域福祉論研究	2	畑本　裕介	秋学期	2	可	
30780222		人とイノベーション	2	（本年度休講）				
30780350		まちづくり実践論研究	2	（本年度休講）				
30780253		ソーシャル・インクルージョン研究	2	中島　恵理	春学期	2	可	
30770069		ワーク・ライフ・バランス研究	2	藤本　哲史	春学期	2	可	
30780257		パートナーシップ研究	2	小田切康彦	春学期	2	可	
30780262		スポーツコミュニティ論研究	2	（本年度休講）				
30780250		消費者行動論研究	2	永野　光朗	秋学期	2	可	
30770212		現代社会の労働・雇用	2	田中　秀樹	秋学期	2	可	
30770085		文化政策・まちづくり観光論研究	2	（本年度休講）				
30780358		防災・気候変動	2	武藏　勝宏 小谷　真理	秋学期	2	可	
30770207		国際開発論研究	2	新見　陽子	春学期	2	可	
30770108		国際社会論研究	2	富樫　耕介	春学期	2	可	
〔展開科目Ｂ群（４単位以上履修すること）〕								
30780227		ソーシャル・イノベーションの理論と技法	2	中島　恵理	秋学期	2	可	
30780251		ワークショップの理論と技法	2	山下　里愛 渡辺　珠子	春学期	集中	可	
30780201		公共性研究	2	柿本　昭人	秋学期	2	可	
30770063		行政組織論研究	2	入江　容子	春学期	2	可	

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
30780203		現代社会起業研究	2	中嶋　　愛	春学期	2	可	
30780229		ソーシャル・マーケティング研究	2	多田　　実	春学期	2	可	
30780356		サステナブル認証研究	2	岡本由美子	春学期	2	可	
30780230		金融経済教育	2	足立　光生	秋学期	2	可	
30770208		国際開発金融論研究	2	根岸　祥子	春学期	2	可	
30780353		ESG 経営研究	2	松岡　秀紀	秋学期	2	可	
30770211		起業論	2	足立　光生	秋学期	2	可	
30780261		スポーツ経営論研究	2	（本年度休講）				
30780357		インパクト投資・評価	2	伊藤　　健	秋学期	集中	可	
30770213		NPO 論	2	中嶋　　愛	秋学期	2	可	
30780216		ソーシャル・ビジネス研究	2	伊藤　　健	春学期	集中	可	
30780354		事業承継研究	2	（本年度休講）				
30780267		食科学・食育論研究	2	（本年度休講）				
30780270		現代有機農業研究Ⅰ	2	（本年度休講）				
30780271		現代有機農業研究Ⅱ	2	（本年度休講）				
30770250		政策研究プロジェクト －SDGs とジェンダー－	2	岡本由美子 川口　　章 川井　圭司 小谷　真理 新見　陽子 田中　秀樹	通年	集中	不可	
		ソーシャル・イノベーション研究プロジェクト	2	（本年度休講）				
選択科目Ⅱ								
		基礎展開科目（政策研究コース）	＜政策研究コース＞科目ページ　参照					
		応用展開科目（政策研究コース）						
		共通科目	＜共通科目＞科目ページ　参照					
選択科目Ⅲ								
		他研究科設置科目	他研究科履修要項　参照					
		関西四大学大学院単位互換科目	他大学履修要項　参照					
		高等研究教育院設置科目	学びのかたちの新展開（高等研究教育院）HP 参照					

＜共通科目＞

登録コード		科　目　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
30703017		総合政策科学実践論 －大学院での学びと実務での応用－	2	風間　規男 加藤　良太 次郎内　悟 大森　　晋 依田真由美 北村　英之	春学期	2	不可	
30703018		総合政策科学実践論 －理論と実践－	2	壬生　裕子 上田　　誠 横田　早紀	秋学期	集中	不可	
30703019	001	フィールド・リサーチ・プログラム	2	足立　光生	秋学期	集中	不可	指導教員の担当するクラスを登録し、秋学期初めに所定の手続きをとること（「履修の手引き」参照）
	002			藤本　哲史				
	003			畑本　裕介				
	004			内田　真輔				
	005			入江　容子				
	006			柿本　昭人				
	007			川口　　章				
	008			川井　圭司				
	009			川上　敏和				
	010			川浦　昭彦				
	011			風間　規男				
	012			（本年度休講）				
	013			久保　真人				
	016			武藏　勝宏				
	017			安達　晃史				
	018			根岸　祥子				
	019			新見　陽子				
	020			野田　　遊				
	021			野間　敏克				
	022			岡本由美子				
	023			大島佳代子				
	025			多田　　実				
	026			田中　秀樹				
	027			田中　宏樹				
	028			富樫　耕介				
	029			月村　太郎				
	031			吉田　　徹				
	032			中島　恵理				
30703041		インターンシップ －消費者政策のフィールドでの活動－	2	武藏　勝宏 雪　美保子	秋学期	集中	不可	

履修方法（政策研究コース）

１．研究指導を希望する教員に相談の上、修了必要単位数表（下記、３の表）に従って計画的に履修すること。

２．年間の登録単位数は46単位を限度とする。また、春学期および秋学期の登録単位数はそれぞれ32単位を限度とする（M 登録の免許・資格関係科目の登録単位数は含まない）。

３．修了必要単位数表

	科　目　群　（　　）は科目名		配当年次	学期	修了必要単位の内訳			合計
必修科目	導入科目	（総合政策科学入門）	１年次	春	２単位	８単位	８単位	30単位以上
	演習科目	（研究演習Ⅰ）	１年次	秋	６単位			
		（研究演習Ⅱ）	２年次	春				
		（研究演習Ⅲ）	２年次	秋				
	論文・課題研究		修了予定年度					
選択科目Ⅰ	演習導入科目	（演習入門）	１年次	春			22単位以上	
	第２演習科目	（研究第２演習）	１年次	秋				
	研究基礎科目	（略）	１年次		４単位以上	10単位以上		
	基礎展開科目（政策研究コース）	（略）	１年次～		４単位以上			
	応用展開科目（政策研究コース）	（略）	１年次～		２単位以上			
選択科目Ⅱ	導入科目　　（ＳＩコース）	（ソーシャル･イノベーション研究入門）	１年次	春				
	展開科目Ａ群（ＳＩコース）	（略）2024年度以降生	１年次～					
	展開科目Ｂ群（ＳＩコース）	（略）2024年度以降生	１年次～					
	基礎展開科目（ＳＩコース）	（略）2023年度生	１年次～					
	臨床展開科目（ＳＩコース）	（略）2023年度生	１年次～					
	共通科目	（略）	１年次～					
選択科目Ⅲ	他研究科設置科目	（略）	１年次～					
	関西四大学院単位互換科目	（略）	１年次～					
	高等研究教育院設置科目	（略）	１年次～					

自由科目	免許・資格関係科目	免許・資格関係履修要項参照	修了単位には含まれない

※ＳＩコース：ソーシャル・イノベーションコース

４．必修科目

・導入科目：「総合政策科学入門」を履修すること。

・演習科目：「研究演習Ⅰ」（１年次秋学期）「研究演習Ⅱ」（２年次春学期）「研究演習Ⅲ」（２年次秋学期）の６単位を履修すること。

・論文もしくは課題研究を提出する年度に「論文」または「課題研究」を必ず登録すること。

※早期修了の場合は、下記の点に注意すること。

・１年早期修了の場合は、演習導入科目の「演習入門」が必修となる。同一指導教員の「演習入門」・「研究演習Ⅰ」の４単位を履修すること（「研究演習Ⅱ」・「研究演習Ⅲ」の履修は不要）。

・１年半早期修了の場合は、同一指導教員の「研究演習Ⅰ」・「研究演習Ⅱ」の４単位を履修すること（「研究演習Ⅲ」の履修は不要）。

＜演習科目＞

指導教員は選考を経て１年次の春学期中に確定する。

（研究演習Ⅰ）

・指導教員の担当する「研究演習Ⅰ」を履修すること（秋学期に登録すること）。複数クラスを登録することはできない。

（研究演習Ⅱ、研究演習Ⅲ）
・同一指導教員の担当する「研究演習Ⅱ」・「研究演習Ⅲ」を履修し、年間を通じた論文指導を受けること。複数のクラスを登録することはできない。
・原則として、「研究演習Ⅰ」と同一指導教員の担当するクラスを履修すること。ただし、研究テーマの変更等、やむを得ない場合に限り「研究演習Ⅰ」から「研究演習Ⅱ」に進む際に「研究演習Ⅱ」の指導教員の承諾によって変更を認めることがある。

5．選択科目

5-1　選択科目Ⅰ

・演習導入科目：「演習入門」は、1年次秋学期から始まる「研究演習Ⅰ」に備えて、各専攻分野の研究に必要な導入的な理論・方法論等を習得するプレ演習として位置づけられる科目であり、2クラス（4単位）まで登録を認める。ただし、修了必要単位に算入できるのは1クラス（2単位）までとする。
・第2演習科目：「研究第2演習」は、いわゆるサブゼミとして位置づけられる科目であり、「研究演習Ⅰ」と同時に指導教員以外のクラスを1クラス（2単位）に限り履修することが可能（修了必要単位数に算入する）。
ただし、「研究第2演習」の受講が修士論文作成等の研究を進めていくために不可欠であることを指導教員及び担当教員と十分に相談したうえで登録すること。
・研究基礎科目：4単位以上履修すること。
・基礎展開科目：4単位以上履修すること。
・応用展開科目：2単位以上履修すること。

5-2　選択科目Ⅱ

・ソーシャル・イノベーションコースの導入科目「ソーシャル・イノベーション研究入門」、展開科目A群・B群（2024年度以降生）基礎・臨床展開科目（2023年度生）および共通科目の中から選択履修することができ、修了単位に算入することができる。

5-3　選択科目Ⅲ

・指導教員の指示により、本研究科以外の科目の中から履修することができる。ただし、修了必要単位に算入できるのは10単位（内、関西四大学大学院単位互換科目については8単位）までとする。

6．論文・課題研究の取り扱いについては、下記のとおりとする。
指導教員の指示により、「論文」または「課題研究」のいずれかを選択すること。

〔論文〕
論文の審査および口述試験に合格することを修了要件とする。
論文を提出予定の者は、論文を提出する年度の春学期に必ず「論文」を科目登録し、論文を提出する学期の所定の期日までに「論文題目届」提出等の手続きをとること（「履修の手引き」参照）。

〔課題研究〕
特定の課題についての研究成果の審査および口述試験に合格することを修了要件とする。
課題研究を提出予定の者は、課題研究を提出する年度の春学期に必ず「課題研究」を科目登録し、課題研究を提出する学期の所定の期日までに「課題研究題目届」提出等の手続きをとること（「履修の手引き」参照）。

上記の「論文」から「課題研究」、または「課題研究」から「論文」への変更は、春学期に提出する場合は春学期の履修科目登録期間、秋学期に提出する場合は秋学期の履修科目登録変更期間にのみ認められる。

7．「演習入門」や選択科目Ⅲの科目については、修了必要単位数に含まれる上限を超えて修得した単位についてもＧＰＡに算入される。
成績評価（ＧＰＡ制度）については「履修の手引き」を参照すること。

8．免許・資格関係科目

・科目に「M」をつけて登録すれば免許・資格関係科目となり所定の登録単位数には算入されず、別枠で登録される。
・免許・資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M 登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）」を必ず行わなければならない。手続方法は免許資格課程センター事務室に必ず事前に確認すること。

・「課程登録」を行った課程で定められている科目に限りＭ登録を行うことが可能となる。「課程登録」が完了していない場合、Ｍ登録することはできず登録エラーとなるので注意すること。
・免許・資格関係科目として登録する場合は、第２項で示した単位とは別枠で科目登録できる（ただし、修了単位には算入されない）。２課程とは、教職課程と図書館司書課程のように異なった課程をさし、教職課程の２教科（例：社会・公民科と英語科）ではないので注意すること。

登録課程数	年間最高登録単位数（Ｍ登録）
１課程	18単位
２課程（２教科ではない）	22単位

履修方法（ソーシャル・イノベーションコース）

1．研究指導を希望する教員に相談の上、修了必要単位数表（下記、３の表）に従って計画的に履修すること。

2．年間の登録単位数は46単位を限度とする。また、春学期および秋学期の登録単位数はそれぞれ32単位を限度とする（M 登録の免許・資格関係科目の登録単位数は含まない）。

3．修了必要単位数表

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">科　目　群　（　　）は科目名</th><th>配当年次</th><th>学期</th><th colspan="3">修了必要単位の内訳</th><th>合計</th></tr>
<tr><td rowspan="4">必修科目</td><td rowspan="3">演習科目</td><td>（研究演習Ⅰ）</td><td>1年次</td><td>秋</td><td></td><td></td><td rowspan="3">６単位</td><td rowspan="11">30単位以上</td></tr>
<tr><td>（研究演習Ⅱ）</td><td>2年次</td><td>春</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>（研究演習Ⅲ）</td><td>2年次</td><td>秋</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>論文・課題研究</td><td></td><td colspan="2">修了予定年度</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択科目Ⅰ</td><td>演習導入科目</td><td>（演習入門）</td><td>1年次</td><td>春</td><td colspan="3" rowspan="2"></td><td rowspan="8">24単位以上</td></tr>
<tr><td>第２演習科目</td><td>（研究第２演習）</td><td>1年次</td><td>秋</td></tr>
<tr><td>導入科目</td><td>（SDGs 入門）
（総合政策科学入門）
（ソーシャル・イノベーション研究入門）</td><td>1年次</td><td>春</td><td>４単位以上</td><td rowspan="4">14単位以上</td></tr>
<tr><td>研究基礎科目</td><td>（略）</td><td>1年次</td><td></td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>展開科目Ａ群（ＳＩコース）</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>展開科目Ｂ群（ＳＩコース）</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択科目Ⅱ</td><td>基礎展開科目（政策研究コース）</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td><td colspan="3" rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>応用展開科目（政策研究コース）</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td></tr>
<tr><td>共通科目</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択科目Ⅲ</td><td>他研究科設置科目</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td><td colspan="3" rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>関西四大学院単位互換科目</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td></tr>
<tr><td>高等研究教育院設置科目</td><td>（略）</td><td>1年次～</td><td></td></tr>
</table>

自由科目	免許・資格関係科目	免許・資格関係履修要項参照	修了単位には含まれない

※ＳＩコース：ソーシャル・イノベーションコース

4．必修科目

・演習科目：「研究演習Ⅰ」（1年次秋学期）「研究演習Ⅱ」（２年次春学期）「研究演習Ⅲ」（２年次秋学期）の６単位を履修すること。

・論文もしくは課題研究を提出する年度に「論文」または「課題研究」を必ず登録すること。

※早期修了の場合は、下記の点に注意すること。

・1年早期修了の場合は、演習導入科目の「演習入門」が必修となる。同一指導教員の「演習入門」・「研究演習Ⅰ」の４単位を履修すること（「研究演習Ⅱ」・「研究演習Ⅲ」の履修は不要）。

・1年半早期修了の場合は、同一指導教員の「研究演習Ⅰ」・「研究演習Ⅱ」の４単位を履修すること（「研究演習Ⅲ」の履修は不要）。

＜演習科目＞

指導教員は選考を経て1年次の春学期中に確定する。

（研究演習Ⅰ）

・指導教員の担当する「研究演習Ⅰ」を履修すること（秋学期に登録すること）。複数クラスを登録することはできない。

（研究演習Ⅱ、研究演習Ⅲ）

・同一指導教員の担当する「研究演習Ⅱ」・「研究演習Ⅲ」を履修し、年間を通じた論文指導を受けること。複数のクラスを登録することはできない。

・原則として、「研究演習Ⅰ」と同一指導教員の担当するクラスを履修すること。ただし、研究テー

マの変更等、やむを得ない場合に限り「研究演習Ⅰ」から「研究演習Ⅱ」に進む際に「研究演習Ⅱ」の指導教員の承諾によって変更を認めることがある。

5．選択科目

5-1　選択科目Ⅰ

・演習導入科目：「演習入門」は、1年次秋学期から始まる「研究演習Ⅰ」に備えて、各専攻分野の研究に必要な導入的な理論・方法論等を習得するプレ演習として位置づけられる科目であり、2クラス（4単位）まで登録を認める。ただし、修了必要単位に算入できるのは1クラス（2単位）までとする。

・第2演習科目：「研究第2演習」は、いわゆるサブゼミとして位置づけられる科目であり、「研究演習Ⅰ」と同時に指導教員以外のクラスを1クラス（2単位）に限り履修することが可能（修了必要単位数に算入する）。
ただし、「研究第2演習」の受講が修士論文作成等の研究を進めていくために不可欠であることを指導教員及び担当教員と十分に相談したうえで登録すること。

・導入科目：「SDGs 入門」「総合政策科学入門」「ソーシャル・イノベーション研究入門」から4単位以上履修すること。

・研究基礎科目：2単位以上履修すること。

・展開科目A群：4単位以上履修すること。

・展開科目B群：4単位以上履修すること。

5-2　選択科目Ⅱ

・政策研究コースの基礎展開科目、応用展開科目および共通科目の中から履修することができ、修了単位に算入することができる。

5-3　選択科目Ⅲ

・指導教員の指示により、本研究科以外の科目の中から履修することができる。ただし、修了必要単位に算入できるのは10単位（内、関西四大学大学院単位互換科目については8単位）までとする。

6．論文・課題研究の取り扱いについては、下記のとおりとする。
指導教員の指示により、「論文」または「課題研究」のいずれかを選択すること。

〔論文〕

論文の審査および口述試験に合格することを修了要件とする。
論文を提出予定の者は、論文を提出する年度の春学期に必ず「論文」を科目登録し、論文を提出する学期の所定の期日までに「論文題目届」提出等の手続きをとること（「履修の手引き」参照）。

〔課題研究〕

特定の課題についての研究成果の審査および口述試験に合格することを修了要件とする。
課題研究を提出予定の者は、課題研究を提出する年度の春学期に必ず「課題研究」を科目登録し、課題研究を提出する学期の所定の期日までに「課題研究題目届」提出等の手続きをとること（「履修の手引き」参照）。

上記の「論文」から「課題研究」、または「課題研究」から「論文」への変更は、春学期に提出する場合は春学期の履修科目登録期間、秋学期に提出する場合は秋学期の履修科目登録変更期間にのみ認められる。

7．「演習入門」や選択科目Ⅲの科目については、修了必要単位数に含まれる上限を超えて修得した単位についてもＧＰＡに算入される。
成績評価（ＧＰＡ制度）については「履修の手引き」を参照すること。

8．免許・資格関係科目

・科目に「M」をつけて登録すれば免許・資格関係科目となり所定の登録単位数には算入されず、別枠で登録される。

・免許・資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M 登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）」を必ず行わなければならない。手続方法は免許資格課程センター事務室に必ず事前に確認すること。

・「課程登録」を行った課程で定められている科目に限り M 登録を行うことが可能となる。「課程登録」が完了していない場合、M 登録することはできず登録エラーとなるので注意すること。

・免許・資格関係科目として登録する場合は、第２項で示した単位とは別枠で科目登録できる（ただし、修了単位には算入されない）。２課程とは、教職課程と図書館司書課程のように異なった課程をさし、教職課程の２教科（例：社会・公民科と英語科）ではないので注意すること。

登録課程数	年間最高登録単位数（M登録）
１課程	18単位
２課程（２教科ではない）	22単位

文化情報学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆文化情報学研究科の理念と研究指導

文化情報学研究科においては、人々の営み－文化－を、単に直感や経験則によってではなく、理論とデータに基づいて科学の視点から捉え、異なる学問分野の知識を有機的に結合して新しい文化理解の方法論を構築し、文化のよりよい伝承と、時代の要請に応える文化の創出に貢献できる研究活動を行い、学際的な研究能力の涵養と、新たな学問分野を開拓できる能力の啓発を教育研究上の理念・目的としている。

これら教育研究上の理念・目的を達成するために、①文化資源学、②言語データ科学、③行動データ科学、④これらの科学探究を支えるデータ科学基盤の４つの特化コースを重点開拓分野とし、各コースが連携して文化の諸事象・現象を対象に高度な教育研究活動を展開する。

具体的には、文化資源が持つ多彩な情報の関連性の総合化、複雑かつ曖昧な言語現象の解明、多様な人間行動の説明・予測・デザイン、数理・情報・統計科学の方法論構築など、異なる学問分野を融合した教育研究活動を展開している。それによって、前期課程では、柔軟な発想のできる広い視野を有し、社会で生起する多様で複雑な諸問題に的確に適応できる柔軟な発想能力を有する高度な専門職業人の育成を、後期課程では、文化の諸現象を多様な視点で解析し、文化に関する新たな研究手法を開発する能力、新たな学問分野を開拓する能力などを有する、国際社会で活躍できる研究者の育成を目指している。

前期課程の修了者は社会のあらゆる分野で活躍できると考えており、特に、さまざまな文化事象に対する深い理解力とともに情報分析能力を身につけていることから、公共機関や企業の研究調査解析部門、新聞社・テレビ局など報道関係、博物館・美術館などの機関での活躍が期待できる。また、後期課程の修了者は大学における先端的な文理融合部門、意思決定・立案の為の調査と分析を行う機関、大学や国・地方公共団体の空間情報解析・文化財保護関係部門、博物館・美術館などの研究機関で研究員として活躍することが期待できる。

これらのことを具現化するため、各課程で以下の研究指導を実施する。

前期課程

前期課程では、所属研究分野の専門的知識のみならず、幅広く高度な知識・能力を身につけさせるため、①文化資源学コース、②言語データ科学コース、③行動データ科学コース、④データ科学基盤コースの４つの特化コースにおける設置科目を幅広く履修させたうえ、研究指導科目である文化情報学研究実験と、研究発表およびそれに関する討論を中心とするシンポジウム科目を必ず履修させ、修士論文の研究指導を実施している。

また、自らの研究分野の位置づけと問題意識を認識し、自立して研究活動を行うことができる能力を涵養するため、共同研究や産学連携などに参加させ、実践的な環境下で研究指導を受けられるよう配慮するとともに、国内学会・会議で１件以上の発表と、紀要・学会誌等に１件の投稿を達成させ、専門分野のみならず、外国語能力、文献読解能力、論文執筆技法、プレゼンテーション資料作成技法、プレゼンテーション技法、問題解決能力を身につけさせることを目標にして指導を行っている。

◆人材養成目的

前期課程

文化情報学研究科文化情報学専攻博士課程（前期）は、文化の諸現象を、多様な視点から捉え、異なる学問分野の知識を有機的に結合した教育研究活動をとおして、学際的な研究能力と新たな学問分野を開拓できる能力を身に付けて、社会の多様で複雑な諸問題に的確に対応することができる高度な専門職業人を育成することを目的とする。

◆教育課程編成・実施の方針（CP）

博士課程（前期課程）

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

編成・運営方針

データサイエンスの高度な知見と、対象文化領域の深い専門知識に基づいて、科学的な探究を行える人材を育成するために、専門科目、共通科目、研究指導科目、シンポジウム科目、論文、および専門社会調査士認定科目によって構成されるカリキュラムを配置している。なお、授業科目は文化資源学、言語データ科学、行動データ科学、データ科学基盤の4つのコースにそれぞれ配置している。

知識・技能

・授業科目群においては、学際的な研究能力の基礎となるデータサイエンスの高度な知見と所属コースの深い専門知識を習得することを到達目標とし、所属コースの専門科目からは１２単位以上を履修する。
・研究指導科目群においては、授業科目群で習得する知識に基づいて、対象文化領域に対する専門的知識とそれを科学的に探究するための基礎的な研究手法を身につけることを到達目標とし、文化情報学研究実験を必修科目として、１年次から２年次にかけて４単位を履修する。
・共通科目群においては、日々変化する文化情報学に関する最新の知識・技能を修得するとともに、文化情報学研究に必要な英語運用能力を養う。
・専門社会調査士認定科目群においては、社会調査に関わる高度な研究方法を修得する。（以上、知識・技能）

思考力・判断力・表現力

論文は、研究指導科目において実施した研究をもとに、複雑かつ曖昧な文化と人間に関する現象について科学的探究を完遂し、問題発見・問題解決に応用でき、新たな知見を公表することを到達目標とし、必修とする。（以上、思考力・判断力・表現力）

主体性・多様性・協働性

シンポジウム科目は、研究発表を通して、発表技法を身につけるだけでなく、自身の研究の方向性や位置づけを明確に把握することを到達目標とし、必修科目として１年次から２年次にかけて４単位を履修する。（以上、主体性・多様性・協働性）

◆学位授与の方針（DP）

前期課程

知識・技能

データサイエンスの高度な知見と、対象文化領域の深い専門知識に基づいて、科学的な探究を行えるようになる。対象文化領域に対する専門的知識とそれを科学的に探究するための基礎的な研究手法を身につけることができる。

思考力・判断力・表現力

異なる学問分野の知識を有機的に結合して新しい文化理解の方法論を構築する能力を持つようになる。複雑かつ曖昧な文化と人間に関する現象について科学的探究を完遂し、問題発見・問題解決に応用できるようになる。

主体性・多様性・協働性

柔軟な発想のできる広い視野を有し、社会で生起する多様で複雑な諸問題に的確に適応できる柔軟な発想能力を有する。

文 化 情 報 学 研 究 科

文化情報学専攻（2013年度以降生）

登録コード 科目	クラス	科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
【専門科目】									
◇文化資源学コース									
		計量文化解析特論　1	2	（本年度休講）		2	1～		
		計量文化解析特論　2	2	（本年度休講）		2	1～		
30810005		美術情報研究特論　1	2	中安　真理	春学期	2	1～	可	
30810006		美術情報研究特論　2	2	中安　真理	秋学期	2	1～	可	
30810017		デジタル・ヒストリー特論　1	2	RAPPO GAETAN	春学期	2	1～	可	
30810018		デジタル・ヒストリー特論　2	2	RAPPO GAETAN	秋学期	2	1～	可	
30810011		日本古典文学情報特論　1	2	福田　智子	春学期	2	1～	可	
30810012		日本古典文学情報特論　2	2	福田　智子	秋学期	2	1～	可	
30810013		人類生態・時空間情報特論　1	2	津村　宏臣	春学期	2	1～	可	
30810014		人類生態・時空間情報特論　2	2	津村　宏臣	秋学期	2	1～	可	
30810015		映像文化研究特論　1	2	佐野　明子	春学期	2	1～	可	
30810016		映像文化研究特論　2	2	佐野　明子	秋学期	2	1～	可	
30810019		デジタルアーカイブ活用特論	2	大井　将生	春学期	2	1～	可	
30810020		デジタルアーカイブ構築特論	2	大井　将生	秋学期	2	1～	可	
◇言語データ科学コース									
30820003		言語生態研究特論　1	2	沈　　力	春学期	2	1～	可	
30820004		言語生態研究特論　2	2	沈　　力	秋学期	2	1～	可	
30820005		コーパス言語学研究特論	2	定延　利之	春学期	2	1～	可	
		言語コミュニケーション特論	2	（本年度休講）		2	1～		
30820007		言語記述研究特論	2	山内　信幸	春学期	2	1～	可	
30820008		計量語法研究特論	2	山内　信幸	秋学期	2	1～	可	
30820009		言語計算システム特論	2	星　　英仁	春学期	2	1～	可	
30820010		言語インターフェイス特論	2	星　　英仁	秋学期	2	1～	可	
30820011		言語運用研究特論	2	伊藤　紀子	春学期	2	1～	可	
30820012		言語計算科学特論	2	伊藤　紀子	秋学期	2	1～	可	
◇行動データ科学コース									
		未来学特論　1	2	（本年度休講）		2	1～		
		未来学特論　2	2	（本年度休講）		2	1～		
30830005		グラフィック表現研究法特論　1	2	下嶋　　篤	春学期	2	1～	可	
30830006		グラフィック表現研究法特論　2	2	下嶋　　篤	秋学期	2	1～	可	
30830007		計量社会学特論　1	2	鄭　　躍軍	春学期	2	1～	可	
30830008		計量社会学特論　2	2	鄭　　躍軍	秋学期	2	1～	可	
30830009		認知システム研究法特論　1	2	杉尾　武志	春学期	2	1～	可	
		認知システム研究法特論　2	2	（本年度休講）		2	1～		
30830011		身体表現文化研究法特論　1	2	阪田真己子	春学期	2	1～	可	
30830012		身体表現文化研究法特論　2	2	阪田真己子	秋学期	2	1～	可	
30830013		認知モデリング特論	2	杉尾　武志	秋学期	2	1～	可	
30830014		ヒューマンコンピュータインタラクション特論　1	2	飯尾　尊優	春学期	2	1～	可	
30830015		ヒューマンコンピュータインタラクション特論　2	2	飯尾　尊優	秋学期	2	1～	可	
30830016		プロジェクトデザイン特論	2	渕上ゆかり	春学期	2	1～	可	
30830017		環境社会学特論	2	渕上ゆかり	秋学期	2	1～	可	

登録コード		科　目　名・ク　ラ　ス	単位	担　当　者	期　間	週時間	配当年次	聴講区分	備　　考
科　目	クラス								
◇データ科学基盤コース									
30840003		数理統計学特論	2	宿久　　洋	春学期	2	1～	可	
30840004		多変量解析特論	2	宿久　　洋	秋学期	2	1～	可	
30840007		情報アクセス技術特論	2	波多野賢治	春学期	2	1～	可	
30840008		データベースシステム特論	2	波多野賢治	秋学期	2	1～	可	
30840009		生物統計学特論	2	大森　　崇	春学期	2	1～	可	
30840010		統計コンサルティング特論	2	大森　　崇	秋学期	2	1～	可	
30840011		時系列解析特論	2	川崎　能典	春学期	2	1～	可	
30840013		アルゴリズム特論	2	深川　大路	春学期	2	1～	可	
30840015		経済統計学特論	2	原　　尚幸	春学期	2	1～	可	
30840016		ベイズ統計学特論	2	原　　尚幸	秋学期	2	1～	可	
30840017		情報統計力学特論	2	中西　義典	春学期	2	1～	可	
30840018		サンプリング法特論	2	中西　義典	秋学期	2	1～	可	
30840019		数理最適化特論	2	深川　大路	秋学期	2	1～	可	
30840020		マルチメディア情報処理特論	2	（本年度休講）		2	1～		
30840021		マルチメディア機械学習研究特論	2	（本年度休講）		2	1～		
30840022		複雑系科学特論	2	阿部　真人	春学期	2	1～	可	
30840023		数理モデル特論	2	阿部　真人	秋学期	2	1～	可	
【専門社会調査士認定科目】									
30806601		調査法特別演習　Ⅰ	2	鄭　　躍軍	春学期	2	1～	可	
30806602		調査法特別演習　Ⅱ	2	鄭　　躍軍	秋学期	2	1～	不可	
30806603		社会調査特別研究指導　Ⅰ	2	鄭　　躍軍 宿久　　洋	秋学期	2	1～	不可	
30806604		社会調査特別研究指導　Ⅱ	2	鄭　　躍軍 宿久　　洋	春学期	2	2	不可	
30806605		多変量解析特別演習	2	宿久　　洋	秋学期	2	2	可	
【共通科目】									
30806701		文化情報学特殊講義　1	2	狩野　　裕	春学期	2	1～	可	
30806702		文化情報学特殊講義　2	2	狩野　　裕	秋学期	2	1～	可	
30806703		文化情報学特殊講義　3	2	岡田　暁生	春学期	2	1～	可	
30806704		文化情報学特殊講義　4	2	岡田　暁生	秋学期	2	1～	可	
30806705		文化情報学特殊講義　5	2	伊藤　紀子 佐野　明子	春学期	集中	1～	不可	
30806706		文化情報学特殊講義　6	2	BENJAMIN POIGNARD	秋学期	2	1～	可	
30806707	001	Strategies in English Communication 1	2	平岩　葉子	春学期	4	1～	不可	
30806707	002	Strategies in English Communication 1	2	平岩　葉子	秋学期	4	1～	不可	
30806708	001	Strategies in English Communication 2	2	CANDY	春学期	4	1～	不可	
30806708	002	Strategies in English Communication 2	2	CANDY	秋学期	4	1～	不可	

登録コード		科　目　名・ク　ラ　ス	単位	担　当　者	期　間	週時間	配当年次	聴講区分	備　　考
科　目	クラス								
【シンポジウム科目】									
30806501		シンポジウム　1	1	杉尾　武志 福田　智子 津村　宏臣 佐野　明子 中安　真理 RAPPO Gaetan 沈　　力 山内　信幸 星　　英仁 伊藤　紀子 鄭　　躍軍 阪田真己子 下嶋　　篤 飯尾　尊優 宿久　　洋 波多野賢治 中西　義典 阿部　直人 深川　大路 狩野　　裕	春学期	集中	1	不可	
30806502		シンポジウム　2	1	杉尾　武志 福田　智子 津村　宏臣 佐野　明子 中安　真理 RAPPO Gaetan 沈　　力 山内　信幸 星　　英仁 伊藤　紀子 鄭　　躍軍 阪田真己子 下嶋　　篤 飯尾　尊優 宿久　　洋 波多野賢治 中西　義典 阿部　直人 深川　大路 狩野　　裕	秋学期	集中	1	不可	
30806503		シンポジウム　3	1	杉尾　武志 福田　智子 津村　宏臣 佐野　明子 中安　真理 RAPPO Gaetan 沈　　力 山内　信幸 星　　英仁 伊藤　紀子 鄭　　躍軍 阪田真己子 下嶋　　篤 飯尾　尊優 宿久　　洋 波多野賢治 中西　義典 阿部　直人 深川　大路 狩野　　裕	春学期	集中	2	不可	

登録コード 科目	クラス	科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
30806504		シンポジウム 4	1	杉尾 武志 福田 智子 津村 宏臣 佐野 明子 中安 真理 RAPPO Gaetan 沈 力 山内 信幸 星 英仁 伊藤 紀子 鄭 躍軍 阪田真己子 下嶋 篤 飯尾 尊優 宿久 洋 波多野賢治 中西 義典 阿部 直人 深川 大路 狩野 裕	秋学期	2	2	不可	
【研究指導科目】									
3080575 1		文化情報学研究実験 Ⅰ	1		春学期	集中	1	不可	クラスコード表参照 研究実験ⅠとⅡ、ⅢとⅣを同時履修すること
30805752		文化情報学研究実験 Ⅱ	1		秋学期	集中	1	不可	
30805753		文化情報学研究実験 Ⅲ	1		春学期	集中	2	不可	
30805754		文化情報学研究実験 Ⅳ	1		秋学期	集中	2	不可	
【論文】									
30805800		論文							提出予定年度に必ず登録すること

≪クラスコード表≫

文化資源学コース		言語データ科学コース		行動データ科学コース		データ科学基盤コース	
クラスコード	担当者	クラスコード	担当者	クラスコード	担当者	クラスコード	担当者
015	福田 智子	033	沈 力	014	鄭 躍軍	043	宿久 洋
034	津村 宏臣	036	山内 信幸	025	阪田真己子		狩野 裕
049	佐野 明子	038	星 英仁	026	杉尾 武志	044	波多野賢治
053	中安 真理	039	伊藤 紀子	027	下嶋 篤	052	中西 義典
054	RAPPO Gaetan			050	飯尾 尊優	055	阿部 直人
						056	深川 大路

履修方法

文化資源学コース、言語データ科学コース、行動データ科学コース、データ科学基盤コースの中から、指導教員が担当するコース専門科目４単位以上、指導教員担当科目を除く所属コース専門科目８単位以上、シンポジウムⅠ～４の４単位、研究指導科目の文化情報学研究実験Ⅰ～Ⅳの４単位、本研究科他コースの専門科目、共通科目、専門社会調査士認定科目、本学他研究科設置科目ならびに高等研究教育院設置科目、関西四大学大学院単位互換科目、大阪大学大学院基礎工学研究科交流科目、外国協定大学における履修科目を含め、研究科が修了必要単位と認める科目から合計30単位以上履修すること。

専門社会調査士認定科目は、合計６単位まで修了単位に算入、本学他研究科設置科目、高等研究教育院設置科目、関西四大学大学院単位互換科目、大阪大学大学院基礎工学研究科交流科目、外国協定大学における履修科目は、合計15単位まで修了単位に算入する。但し、本学他研究科設置科目ならびに高校研究教育院設置科目、関西四大学大学院単位互換科目、大阪大学大学院基礎工学研究科交流科目、外国協定大学における履修科目は、それぞれ10単位を超えないものとする。

理工学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

本学は、「良心を手腕に運用する人材」の育成を建学の目的とし、それを具現するために、キリスト教主義・自由主義・国際主義を教育理念の柱としている。本研究科は、この教育理念に基づき、基礎および応用理論を十分に修得し、理工学における柱石となり、かつ知徳を兼ね備え社会に貢献し得る一国の良心ともいうべき人材を養成するのみならず、科学技術の革新に対応できる幅広い基礎知識と専攻分野に関する高度な学識をもち、指導的役割を果たすことができる創造性豊かな技術者あるいは研究者の養成を目的としている。

博士前期課程では、広い視野に立って、精深な学識を授け、専攻分野における研究能力や高度な専門性を要する職業に従事できる能力を養うことを目的としている。また、博士後期課程では、専門分野について自立して研究活動を行うのに必要な高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を有する人材の育成を目指している。

本研究科は、情報工学専攻、電気電子工学専攻、機械工学専攻、応用化学専攻、数理環境科学専攻の５専攻を有し、各専攻の教育研究の目的と人材養成の指針は、次のとおりである。

情報工学専攻

◇博士課程（前期課程）

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科情報工学専攻博士課程（前期）は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための高度で幅広い情報処理について、情報分野と知能分野のバランス良い講義科目をとおして幅広い知識・見識・能力を、また、研究室での研究実験および学術会議等での発表・議論を通じて実践的な知識・技術を身につけて、世界トップレベルの技術者として活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための情報処理について高度で幅広い知識と見識を備え、高度な専門知識に基づき情報システムの各領域・分野における課題を理解できる（知識・技能）。

●トップレベルの技術者として活躍するために身につけた基礎的な能力を情報システムにおける専門性の高い課題の解決に活用することができ、成果を学術会議などで発表することができる（思考力・判断力・表現力）。

●多様な情報システムにおける専門性の高い技術的課題に対し、解決法を主体的に探求できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

（2024年度以降生）

●将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための高度で幅広い知識・見識・能力を身につけて、トップレベルの技術者として活躍できる人材を育成するために、必修科目と選択科目から構成されるカリキュラムを設置する。なお、選択科目には「情報分野」科目と「知能分野」科目、インターンシップや専攻共通特殊講義科目を設置する。

●必修科目は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための基本的な知識・見識・能力を獲得し、情報システムに関する多様な課題を理解して解決方法を主体的に探求する技能を身につけることを到達目標とし、１年次から２年次にかけてゼミ形式で実施する情報工学研究実験８

単位を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。

●選択科目は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための実践的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とし、１年次から２年次にかけて講義形式の科目20単位を選択履修する（知識・技能）。

●選択科目のうち「情報分野」科目は、計算機科学、情報の処理と伝達に関する実践的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とし、「知能分野」科目は、人の知的働きを模して、あるいはそれを工学的に応用するための実践的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とする（知識・技能）。インターンシップは、実社会において技術者あるいは研究者として必要とされる様々な素養の基礎と実践的な能力を身につけることを到達目標とし、専攻共通特殊講義科目は、技術経営に関する基礎的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とする（知識・技能）。

●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。情報工学に関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の習得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたＢ群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。

●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。

●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

（2023年度以前生）

●将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための高度で幅広い知識・見識・能力を身につけて、トップレベルの技術者として活躍できる人材を育成するために、必修科目と選択科目から構成されるカリキュラムを設置する。なお、選択科目には「情報分野」科目と「知能分野」科目、インターンシップや専攻共通特殊講義科目を設置する。

●必修科目は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための基本的な知識・見識・能力を獲得し、情報システムに関する多様な課題を理解して解決方法を主体的に探求する技能を身につけることを到達目標とし、１年次から２年次にかけてゼミ形式で実施する情報工学研究実験８単位を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。加えて、技術開発の国際化に鑑み、英語によるコミュニケーション能力を涵養するため、科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ各１単位を履修する（思考力・判断力・表現力）。

●選択科目は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための実践的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とし、１年次から２年次にかけて講義形式の科目20単位を選択履修する（知識・技能）。

●選択科目のうち「情報分野」科目は、計算機科学、情報の処理と伝達に関する実践的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とし、「知能分野」科目は、人の知的働きを模して、あるいはそれを工学的に応用するための実践的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とする（知識・技能）。インターンシップは、実社会において技術者あるいは研究者として必要とされる様々な素養の基礎と実践的な能力を身につけることを到達目標とし、専攻共通特殊講義科目は、技術経営に関する基礎的な知識・見識・能力を身につけることを到達目標とする（知識・技能）。

●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。情報工学に

関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の習得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたＢ群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。

●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。

●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

電気電子工学専攻

◇博士課程（前期課程）

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科電気電子工学専攻博士課程（前期）は、現代社会に不可欠な電気エネルギー・電子情報通信の基礎となる学問領域について、本専攻教員による基礎理論・応用理論の教授をとおして、先端的な学識、技術開発・問題解決への基礎理論の応用技術能力、独創的な研究・技術開発プロジェクトの提案・企画・指導能力、コミュニケーション能力等を身につけて電気エネルギー・デバイス・通信分野等において活躍する人材の養成を行うことを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●電気電子工学専攻では、「インフラストラクチャ」「パワーエレクトロニクス」「光・電子デバイス」「情報通信」の４分野のうち一つの分野において、基礎理論ならびに応用理論を通して深い学識をもち、その技術的課題を理解できる（知識）。

●電気電子工学のシステム設計や回路設計、シミュレーションなどを通じて、論理的思考のもとで、課題を解決する能力を身につける（知識・技能）。

●技術者あるいは研究者として、グループワークなどの場においても、十分な表現力とコミュニケーション能力を発揮できる（思考力・判断力・表現力）。

●電気電子工学に関わる課題を自ら見出し、その解決方策を探求し、かつ実現できる（思考力・判断力）。

●高い倫理観と国際的な視野をもち、多様な社会の発展に役立つ電気電子工学技術の創出をめざして、成果を主体的に発信できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●電気電子工学に関する深い学識をもち、よりよい国際社会の発展に役立つ技術開発を支える人材の養成を目的として、以下に示す教育課程を編成する。十分な学識と応用能力を涵養するため、修了までに所定の30単位以上の修得を行う。

●学部で履修した学識の深化を目標とし、電気電子工学の基礎となる「電磁気学特論」２単位を必修科目とするとともに、多数の専門科目や特別講義科目を履修し、様々な技術的課題に対応できる知識を身につける（知識・技能）。

●専門科目の選択の際には、電気電子工学の基盤である「インフラストラクチャ」「パワーエレクトロニクス」「光・電子デバイス」「情報通信」分野のうちⅠコースを選択し、選択必修科目として各コースの主要科目計８単位以上を修得して学識の専門性を高める（知識・技能）。

●研究開発や課題解決に必要な主体性と自立性、および表現力の向上を到達目標として、「電気電子工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」の計８単位を修得する。特に電気電子工学研究実験Ⅰ～Ⅲでは、研究成果や進捗状況を発表する機会を課し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図る（思考力・判断力・表現力・協働性・主体性）。
●「科学技術英語特論Ⅰ、Ⅱ」あるいは「国際科学技術コースＢ群科目」を履修し、電気電子工学技術者・研究者に不可欠な国際性と、英語によるコミュニケーション能力を身につける。
●所定の単位を修得し、修士論文を提出し、審査に合格することが学位取得の要件となる。修士論文を作成する過程の研究開発では、電気電子工学に関わる課題を見出し、解決方策を探求する能力を磨くことを目標とする（思考力・主体性・多様性）。
●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。電気電子工学に関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の習得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたＢ群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。
●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。
●世界で活躍する技術者としての素養を得ることを目的に、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の派遣留学制度を設置する。

機械工学専攻

◇博士課程（前期課程）

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科機械工学専攻博士課程（前期）では、高度な機械工学の知識を獲得し、実社会で臨機応変に運用できる技術者・研究者の養成を教育の目的としている。具体的には機械工学の基礎となる材料、熱流体、振動・制御・工作などの各学問分野を広く網羅するように研究室を設置して、専門分野を深く掘り下げるのみならず機械技術者としての総合力や基礎力の向上に努めている。さらに、本学建学の精神に沿い、自らの機械工学の専門性を生かし国内国際を問わず広く社会に貢献できる人材、機械工学を基礎として多様な科学技術に対応しその発展を通じて、人々の幸福に貢献できる人材の養成を教育の目的としている。

◆ディプロマ・ポリシー

●機械工学の複雑な課題を、材料系、熱・流体系、機力・制御系の高度な知識に基づいて理解できる（知識・技能）。
●機械工学の複雑な課題を積極的に見出し、高度システムの実験解析・設計手法を使って、その解決策を探求できる（思考力・判断力・表現力）。
●機械工学の複雑な課題を解決するために、高度なシステムおよび数値実験を企画実行し、実験結果の解析および数値解析技術が適切に利用できる（思考力・判断力・表現力）。
●国際社会で活躍できるに十分な語学力と国際性を身につけて、機械工学の複雑な課題を国際的な視点から捉えて、高い倫理観でもって広く国際社会で「人間のための科学技術」の進展に貢献できる能力（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●ディプロマ・ポリシーに掲げた能力・資質を習得するために、材料系、熱・流体系、機力・制御系の３分野から必修科目として、指導教員の指示による機械工学研究実験Ⅰ～Ⅳがグレード制として設置されている。また、選択必修科目として専門応用科目を履修する科目として、必修科目と同様に３分野から各特論が設置されている。さらに、英語による国際的なコミュニケーション能力を高めるために Advanced English Ⅰ・Ⅱが設置されている。海外の協定校とのダブルディグリープログラムを設置し、学部３または４年次から２年間、指定された協定校に留学し、所定の単位を修得することにより、修了時に二つの学位を修めることができる。

●必修科目である機械工学研究実験Ⅰ～Ⅳは、各３分野の高度な知識やシステムに基づいて課題解決能力を身につけることを到達目標とし、各研究実験は２単位でⅠ～Ⅳの４グレードに分かれており、合計８単位を履修する。これらの科目では指導教員の指示のもと、機械工学の課題に関連する研究テーマを設定し、主体的かつ能動的に研究を進めていく。具体的には各研究テーマについて、課題設定、実験計画、実験および解析を進めて、最終的には修士論文を纏めることになっている。この研究実験をとおして、実験解析や数値解析の技能を習得し、科学論文の纏め方を身につけることを最終目標とする。また、修士学生は学部４年生とグループを組んで研究テーマに取り組むことになっており、この経験をとおして主体性や協働性を身につけることができる。単位履修のため、各期末の成果報告書の提出とともに、研究発表会での発表が義務付けられており、２年次の機械工学研究実験Ⅳでは、研究成果の発表の場として公聴会で発表する。また、在籍中に国内外の学会で研究発表することを義務づけており、プレゼンテーションの技能を習得させる（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）（主体性・多様性・協働性）。

●選択必修科目は、自己の研究に必要な知識を習得することを到達目標とし、専門応用の各特論の中から１１科目22単位を履修する。英語の能力を高めるための Advanced English Ⅰ・Ⅱは各２単位で、選択必修科目に組み込まれる（知識・技能）。

●安全・安心を重視した機械の設計力をつけるために選択科目として、「安全工学」、「リスクマネジメント」を設置している。安全工学では国際性を身につけるために英語で講義を行っている（知識・技能）。

●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。機械工学に関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の修得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたＢ群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。

●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。

●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

応用化学専攻

◇博士課程（前期課程）工学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科応用化学専攻博士課程（前期、工学）は、化学および化学工学に関する基礎から先端分野を網羅する内容について、系統的に組み立てられた講義、先端的な研究実験および実習をとおして、国際感覚や良識をもった問題解決能力、必要なことを正しく伝えられるプレゼンテーション能力および専門的研究能力を身につけて、機能性物質の創製に関連する科学技術の中核として活躍できる人材を育成することを目的

とする。特に、工学上重要な物質の創製や分離、それらの製造プロセスに関連する専門知識・技術を習得した人材の育成を目的とする。この目的の達成は、本学の教育理念（自由主義・キリスト教主義・国際主義）に基づいて行われる。

◆ディプロマ・ポリシー

●化学工業等で必要とされる､新たな物質の合成や分離を行うための方法を研究・開発できる(知識・技能)。
●化学工業等に必要な製造プロセスを設計することができる（知識・技能)。
●英語を用いて化学技術者が必要とするコミュニケーションができる（知識・技能)。
●化学技術に関わる諸課題の本質を、高度な化学および化学工学の知識を基礎として理解できる（思考力・判断力・表現力)。
●化学技術に関わる諸課題を解決するための研究・開発能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力)。
●国際感覚や良識をもって、化学技術に関わる諸課題に取り組むことができる（思考力・判断力・表現力)。
●化学技術に関わる諸課題、およびそれに対する対応・解決方法について、社会に発信するための適切なプレゼンテーションができる（主体性・多様性・協働性)。
●現在および未来の工学・医学などが直面する化学に関する諸課題を主体的に発見することができる（主体性・多様性・協働性)。
●現在および未来の工学・医学などが直面する化学に関する諸課題について、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、探求し解決できる（主体性・多様性・協働性)。

◆カリキュラム・ポリシー

応用化学専攻博士課程（前期、工学）は、化学および化学工学に関する専門分野を網羅する内容について習得するため、専攻共通に必要とされる専門的な化学、化学工学について、それぞれ、選択必修科目群を設置し、さらに、高度な専門科目として多数の特論科目、特別講義科目を設置している。また、専門的な研究実験を遂行するための研究実験科目を必修科目としている。さらに、国際感覚や良識をもった問題解決能力、必要なことを正しく伝えられるプレゼンテーション能力を習得するため、科学英語に熟達した教員による少人数クラスの科学技術英語特論を必修科目としている。それらの総合として修士論文作成のための研究について、学期毎さらに論文提出時に厳格な審査を行っている。

●化学工業等で必要とされる新たな物質の合成や分離を行うための方法を習得するための科目群として、機能化学コース専門基礎科目８単位を選択必修科目としている（知識・技能)。
●化学工業等に必要な製造プロセスを設計することができるようになるための科目群として、化学工学コース専門基礎科目８単位を選択必修科目としている（知識・技能)。
●英語を用いて化学技術者が必要とするコミュニケーションができるようになるため、科学技術英語特論Ⅰ単位を必修科目とし、修了に必須の在学生語学試験を課している（知識・技能)。
●化学技術に関わる諸課題の本質を、高度な化学および化学工学の知識を基礎として理解するための多くの特論科目および特別講義科目を設置している（思考力・判断力・表現力)。
●化学技術に関わる諸課題を解決するための研究・開発能力を身につけるため、応用化学研究実験８単位を必修科目としている（思考力・判断力・表現力)。
●国際感覚や良識をもって、化学技術に関わる諸課題に取り組めるようになるため、科学英語表現法特論Ⅰ単位を必修科目としている（思考力・判断力・表現力)。
●化学技術に関わる諸課題、およびそれに対する対応・解決方法について、社会に発信するための適切なプレゼンテーション能力を習得するため、Ⅰ学期にⅠ回の研究成果発表を課し、修士論文には厳格な審査を行っている（思考力・判断力・表現力)。
●修士論文を提出し審査に合格することが必須であるが､このための研究を通じて､現在および未来の工学・医学などが直面する化学に関する諸課題を主体的に発見することができるようになる｡また､それにあたっ

て、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、探求し解決できるようになる（主体性・多様性・協働性）。

●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。化学および化学工学に関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の習得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたＢ群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。

●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。

●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

応用化学専攻

◇博士課程（前期課程）理学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科応用化学専攻博士課程（前期、理学）は、化学および化学工学に関する基礎から先端分野を網羅する内容について、系統的に組み立てられた講義、先端的な研究実験および実習をとおして、国際感覚や良識をもった問題解決能力、必要なことを正しく伝えられるプレゼンテーション能力および専門的研究能力を身につけて、機能性物質の創製に関連する科学技術の中核として活躍できる人材を育成することを目的とする。特に、化学の発展において重要な物質の合成、分離、またそれらを記述する理論に関連する専門知識・技術を習得した人材の育成を目的とする。この目的の達成は、本学の教育理念（自由主義・キリスト教主義・国際主義）に基づいて行われる。

◆ディプロマ・ポリシー

●化学の進展に必要な高度な化学実験を、適切に行うことができる（知識・技能）。
●理論に基づいて、新たな化学反応や物質分離の方法を考えることができる（知識・技能）。
●英語を用いて化学者が必要とするコミュニケーションができる（知識・技能）。
●化学に関わる諸課題の本質を、基礎的学理に基づいて深く理解できる（思考力・判断力・表現力）。
●化学の発展を実現するために必要な研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
●国際感覚や良識をもって、化学に関わる諸課題に取り組むことができる（思考力・判断力・表現力）。
●化学に関わる諸課題、およびそれに対する対応・解決方法について、社会に発信するための適切なプレゼンテーションができる（主体性・多様性・協働性）。
●化学の発展に必要な諸課題を主体的に発見することができる（主体性・多様性・協働性）。
●現在の化学が直面する諸課題について、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、探求し解決できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●応用化学専攻博士課程（前期、理学）は、化学に関する専門分野を網羅する内容について習得するため、専攻共通に必要とされる専門的な化学について、選択必修科目群を設置し、さらに、高度な専門科目として多数の特論科目、特別講義科目を設置している。また、専門的な研究実験を遂行するための研究実験科

目を必修科目としている。さらに、国際感覚や良識をもった問題解決能力、必要なことを正しく伝えられるプレゼンテーション能力を習得するため、科学英語に熟達した教員による少人数クラスの科学技術英語特論を必修科目としている。それらの総合として修士論文作成のための研究について、学期毎さらに論文提出時に厳格な審査を行っている。

●化学の進展に必要な高度な化学実験を、適切に行うことができるようになるため、また、理論に基づいて、新たな化学反応や物質分離の方法を考えることができるようになるため、応用化学研究実験８単位を必修科目としている（知識・技能）。

●英語を用いて化学者が必要とするコミュニケーションができるようになるため、科学技術英語特論Ⅰ単位を必修科目とし、修了に必須の在学生語学試験を課している（知識・技能）。

●化学に関わる諸課題の本質を、基礎的学理に基づいて深く理解できるようになるため、多数の特論科目、特別講義科目を設置している（思考力・判断力・表現力）。

●化学の発展を実現するために必要な研究能力を身につけるため、応用化学研究実験８単位を必修科目としている（思考力・判断力・表現力）。

●国際感覚や良識をもって、化学に関わる諸課題に取り組むことができるようになるため、科学英語表現法特論Ⅰ単位を必修科目としている（思考力・判断力・表現力）。

●化学に関わる諸課題、およびそれに対する対応・解決方法について、社会に発信するための適切なプレゼンテーション能力を習得するため、Ⅰ学期にⅠ回の研究成果発表を課し、修士論文には厳格な審査を行っている（思考力・判断力・表現力）。

●修士論文を提出し審査に合格することが必須であるが、このための研究を通じて、現在および未来の工学・医学などが直面する化学に関する諸課題を主体的に発見することができるようになる。また、それにあたって、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、探求し解決できるようになる（主体性・多様性・協働性）。

●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。化学および化学工学に関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の習得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたB群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。

●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。

●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

数理環境科学専攻

◇博士課程（前期課程）工学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科数理環境科学専攻博士課程（前期）は、数理科学と環境科学について、関係分野の学問的進展についての理解と先端的な研究の遂行をとおして、問題の抽出と科学的な分析の能力、学際的な素養をもとに問題解決に取り組む能力を身につけて、各種産業界や研究・教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●環境科学と数理科学の双方に対する基礎知識を背景に、環境科学と数理科学の最先端の成果を理解できる（知識・技能）。
●環境科学・数理科学の諸課題を抽出分析し、学際的素養をもとに身につけた問題解決能力により、各種産業界や研究・教育界での課題解決が遂行できる（思考力・判断力・表現力）。
●環境科学・数理科学の諸課題を積極的に発見し、多種多様な地球環境に対し有益な解決法を粘り強く探求できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●環境科学と数理科学にわたる広い視野から概観でき貢献できる人物を養成するために、講義形式の授業科目２科目（各２単位）と演習実験形式の授業科目４科目（各２単位）を必修として、さらに授業科目18単位を選択科目として履修する（知識・技能）。
●必修科目の数理環境科学特論と数理環境科学輪講は１年次配当で、環境科学・数理科学の双方に対する柔軟な理解力、研究成果の的確な報告能力一般を習得し、各自の個別研究を遂行することを到達目標とする（思考力・判断力・表現力）。
●１年次と２年次に履修する必修科目の演習実験形式の数理環境研究実験Ⅰ～ⅠⅤでは、多種多様な地球環境に現れる諸課題を環境科学・数理科学の観点から捉え、環境に有益な解決法を主体的に探求する（主体性・多様性・協働性）。
●指導教員の指導のもとで１～２年次にかけて数理科学コース、環境科学コース、共通、専攻共通特殊講義の中から18単位を選択履修する。環境科学・数理科学の諸課題を発見し解決法を探求するために必要な高度な専門知識を習得することを到達目標とする（知識・技能）。
●多角的な問題解決能力と国際性の習得のため、他専攻の科目、他専攻の専攻共通特殊講義および国際科学技術コース科目の中から６単位以内履修が可能である（思考力・判断力・表現力）。
●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。数理環境科学に関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の習得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたＢ群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。
●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。
●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

数理環境科学専攻

◇博士課程（前期課程）理学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科数理環境科学専攻博士課程（前期）は、数理科学と環境科学について、関係分野の学問的進展についての理解と先端的な研究の遂行をとおして、問題の抽出と科学的な分析の能力、学際的な素養をもとに問題解決に取り組む能力を身につけて、各種産業界や研究・教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●環境科学と数理科学の双方に対する基礎知識を背景に、環境科学と数理科学の最先端の成果を理解できる（知識・技能）。
●環境科学・数理科学の諸課題を抽出分析し、学際的素養をもとに身につけた問題解決能力により、各種産業界や研究・教育界での課題解決が遂行できる（思考力・判断力・表現力）。
●環境科学・数理科学の諸課題を積極的に発見し、多様な森羅万象の中に現れる諸問題について総合的、かつ真理開明を目指す解決法を粘り強く探求できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●環境科学と数理科学にわたる広い視野から概観でき貢献できる人物を養成するために、講義形式の授業科目２科目（各２単位）と演習実験形式の授業科目４科目（各２単位）を必修として、さらに授業科目18単位を選択科目として履修する（知識・技能）。
●必修科目の数理環境科学特論と数理環境科学輪講は１年次配当で、環境科学・数理科学の双方に対する柔軟な理解力、研究成果の的確な報告能力一般を習得し、各自の個別研究を遂行することを到達目標とする（思考力・判断力・表現力）。
●１年次と２年次に履修する必修科目の演習実験形式の数理環境研究実験Ⅰ～ⅠⅤでは、多様な森羅万象の中に現れる諸問題を環境科学・数理科学の観点から抽出分析し、主体的、総合的、かつ真理開明を目指す解決法を探求する（主体性・多様性・協働性）。
●指導教員の指導のもとで１～２年次にかけて数理科学コース、環境科学コース、共通、専攻共通特殊講義の中から18単位を選択履修する。環境科学・数理科学の諸課題を発見し解決法を探求するために必要な高度な専門知識を習得することを到達目標とする（知識・技能）。
●多角的な問題解決能力と国際性の習得のため、他専攻の科目、他専攻の専攻共通特殊講義および国際科学技術コース科目の中から６単位以内履修が可能である（思考力・判断力・表現力）。
●国際科学技術コースでは、Ａ群Ⅰ類、Ａ群Ⅱ類、Ｂ群より合計30単位の修得が必要である。数理環境科学に関する高度な専門知識を習得するために、設置するＡ群Ⅰ類より、専門応用科目８単位以上、研究実験Ⅰ～Ⅳの８単位を履修する。理工学に関する幅広い教養の習得、異分野理解の促進を目的とするＡ群Ⅱ類（教養共通科目群）より６単位以上履修する。また、良心教育に基づく倫理観、技術開発や経営管理、技術者としての基礎技能習得を目的としたＢ群を設置しており、専門教養科目４単位以上を履修する。
●技術を経営に活かし、企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、本学大学院ビジネス研究科と共に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営（Management of Technology）コースを設けている。前述のカリキュラムに加え、理工学および経営に関わる幅広い知識の習得を目的とする専攻共通特殊講義を履修することができる。
●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

授業1週目（DO Week）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスからURLを確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学HPに掲載していますので、以下のURL、QRコード等から詳細を確認してください。
また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Weekから始まる新たな学び
https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

理 工 学 研 究 科

情報工学専攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
●情報分野							
31610001		計算機アーキテクチャ特論	2	奥田　正浩	春学期	2	
31610002		オペレーティングシステム特論	2	（本年度休講）			
31610003		組込みシステム特論	2	佐藤　健哉	秋学期	2	先行登録科目
31610004		符号理論特論	2	（本年度休講）			
31610005		情報理論特論	2	（本年度休講）			
31610006		通信工学特論Ⅰ	2	程　　俊	春学期	2	
31610007		通信工学特論Ⅱ	2	木村　共孝	秋学期	2	
31610010		プログラミング言語特論	2	（本年度休講）			2024年度以前生対象
31610011		ヒューマン・コンピュータインタラクション特論	2	（本年度休講）			
31610012		ディジタル信号処理特論	2	加藤　恒夫	春学期	2	（注）８参照
31610017		数値シミュレーション特論	2	土屋　隆生	秋学期	2	
31610050		システム制御工学特論	2	高橋　和彦	春学期	2	
31610048		分散システム特論	2	小板　隆浩	春学期	2	先行登録科目 （注）８参照
31610051		ソフトウェア工学特論	2	（本年度休講）			
31610054		データサイエンス特論	2	桂井麻里衣	秋学期	2	（注）８参照
31610055		パターン認識特論	2	白浜　公章	春学期	2	2024年度以降生対象 （注）８参照
31610056		システムモデリング特論	2	木村　達明	秋学期	2	2024年度以降生対象
●知能分野							
31610022		知識情報処理特論	2	土屋　誠司	秋学期	2	
31610023		聴覚音声情報処理特論	2	（本年度休講）			2022年度以前生対象
31610024		脳神経科学特論	2	（本年度休講）			〃
31610025		脳神経回路特論	2	（本年度休講）			〃
31610026		生態と認知特論	2	（本年度休講）			〃
31610027		感性情報処理特論	2	（本年度休講）			
31610028		自然言語処理特論	2	（本年度休講）			
31610029		音声処理特論	2	（本年度休講）			
31610030		コンピュータビジョン特論	2	渡部　広一	春学期	2	
31610031		進化的計算法特論	2	（本年度休講）			
31610032		知的システム工学特論Ⅰ	2	小野　景子	春学期	2	
31610033		知的システム工学特論Ⅱ	2	（本年度休講）			
31610052		センシング工学特論	2	橋本　雅文	春学期	2	
31610053		ヒューマンインタフェース特論	2	大久保雅史	秋学期	2	
31610038		パタン認識特論	2	（本年度休講）			2022年度以前生対象
31610039		創発システム特論	2	（本年度休講）			〃
31610040		Advanced Nature-Inspired Computing	2	Ivan Tanev	秋学期	2	（注）８参照
31610041		知識発見特論	2	大崎　美穂	秋学期	2	〃
31610046		科学技術英語特論Ⅰ	1	（本年度休講）			2023年度以前生対象
31610047		科学技術英語特論Ⅱ	1	（本年度休講）			2023年度以前生対象

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31610042		情報工学特別講義Ⅰ	2	Andrew Meredith Davies	秋学期	2	（注）8参照
31610043		情報工学特別講義２	2	（本年度休講）			2024年度以前生対象
31610044		情報工学特別講義３	2	（本年度休講）			〃
31610045		情報工学特別講義４	2	（本年度休講）			〃
31600001	001	大学院特別講義Ⅰ	2	Seung-Wuk Lee	春学期	2	（注）16参照
	002			澤　　宏司	春学期		
	003			澤　　宏司	秋学期		
31600002		大学院特別講義２	2	（本年度休講）			（注）16参照
31610049		インターンシップ	2	佐藤　健哉	３週間以上		（注）５参照
31610901		協定校単位互換科目	2				（注）10参照
31610101		情報工学研究実験Ⅰ	2		春学期	集中	１年次配当 （注）１参照
31610102		情報工学研究実験Ⅱ	2		秋学期	集中	〃
31610103		情報工学研究実験Ⅲ	2		春学期	集中	２年次配当 （注）１参照
31610104		情報工学研究実験Ⅳ	2		秋学期	集中	〃
31610100		論　文					（注）２参照
専攻共通特殊講義　（注）11参照							
登録コード		テ　　ー　　マ	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31600101		情報技術	2	吉田　純一 奥田　　環	春学期	2	インターネット講義
31600102		ナノテクノロジー	2	大谷　直毅	春学期	2	
31600103		制御システム	2	廣垣　俊樹	秋学期	2	
31600104		生命科学	2	北岸　宏亮	春学期	2	
31600105		地球環境科学	2	（本年度休講）			2024年度以前生対象
31600117		資源・エネルギー学	2	後藤　琢也	春学期	2	2025年度以降生対象
31600110	001	イノベーションマネジメント①	2	森　　良弘	春学期後半	2	今出川校地開講 （注）12参照
	301	イノベーションマネジメント㊿①					大阪サテライト開講 （注）12参照
31600113		リスクマネジメント	2	田中　達也 毛利　　正	春学期	2	
31600114		安全工学Ⅰ	2	毛利　　正 牛田　和彦 木村　共孝	秋学期	2	
31600115		安全工学２	2	毛利　　正 後藤　琢也 佐藤　譲宣 小川　正博	秋学期	2	
31600116		安全安心実習	2	毛利　　正 田中　達也	秋学期	集中	（注）14参照

履修方法

（2024年度以降生）

指導教員の指示により「情報工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」を含めて30単位以上を選択履修すること。

なお、前記単位数の中には、他専攻の科目、専攻共通特殊講義、協定校単位互換科目、関西四大学大学院単位互換科目、国際科学技術コース科目及び高等研究教育院設置科目合わせて６単位以内を含むことができるが、自由科目を含めることはできない。

（2023年度以前生）

指導教員の指示により「情報工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」「科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ」を含めて30単位以上を選択履修すること。

なお、前記単位数の中には、他専攻の科目、専攻共通特殊講義、協定校単位互換科目、関西四大学大学院単位互換科目、国際科学技術コース科目及び高等研究教育院設置科目合わせて６単位以内を含むことができるが、自由科目を含めることはできない。

（注）１．「情報工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、グレードⅠから順に登録履修すること。特に指示のない限り、Ⅰ～Ⅳは同じクラスを登録すること。
また、クラスについては「情報工学研究実験クラスコード表」を参照すること。

２．「論文」は２年次に登録すること。

３．以下にあげる他専攻の科目は履修することができない。

（電気電子工学専攻）インターンシップ、科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ

（機械工学専攻）　工業数学特論Ｂ、Advanced English Ⅰ・Ⅱ

（応用化学専攻）　工業数学特論ＣⅠ・ＣⅡ、科学技術英語特論、科学英語表現法特論、応用化学学外実習、生命化学特論

（数理環境科学専攻）自然環境特論Ⅱ、離散数理特論、統計ファイナンス特論Ⅱ、地球環境特論、数理環境科学特論、数理環境科学輪講、代数学特論Ⅰ・Ⅱ、情報数理特論Ⅰ・Ⅱ、幾何学特論Ⅰ・Ⅱ、応用計算代数学特論、資源･エネルギー学特論Ⅰ（2025年度以降生）、確率論特論Ⅰ・Ⅱ、解析学特論Ⅰ・Ⅱ、生物多様性特論Ⅰ

４．以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

インターンシップ、論文、情報工学研究実験Ⅰ～Ⅳ

５．「インターンシップ」は情報工学専攻生のみ登録可。受講については、あらかじめ申請をし、認められた者のみが登録できる。申請方法については、シラバスおよび掲示を参照すること。

６．講義時の使用言語については、各担当者の判断により決定する。

７．国際科学技術コースは外国人留学生を対象とし、授業は英語で行われるが、本コース以外の学生も履修することができる。受講については、理工学部・理工学研究科事務室で配布している国際科学技術コースの履修要項を確認し、登録期間中に登録手続きを行うこと。

８．以下の科目は国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。

ディジタル信号処理特論、Advanced Nature-Inspired Computing、情報工学特別講義Ⅰ、分散システム特論、知識発見特論、データサイエンス特論、パターン認識特論

９．以下にあげる国際科学技術コース科目は履修することができない。

電気電子工学専攻：Advanced Electrical and Electronic Engineering Ⅰ・Ⅱ (E)

10．「協定校単位互換科目」とは、理工学研究科と単位互換に関する協定を結んでいる大学（国内）の科目で、当該大学が受講を許可し、理工学研究科が受講を認める科目である。
受講については、あらかじめ申請をし、認められた者のみが登録できる。申請方法については、「理工学研究科登録要領」（別紙）および掲示を参照すること。
なお、この科目については、協定校の科目名が異なれば、複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認すること。

11. 「専攻共通特殊講義」には、「同志社 MOT コース（ダブル・ディグリー）」（詳細は P.195参照）のために、理工学研究科とビジネス研究科において共通に設置している科目および、「安全安心高度技術者養成プログラム」のために設置している科目があるが、本コースおよび、本プログラム以外の学生も履修することができる。
    なお、この科目については、テーマが異なれば複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認すること。
12. 専攻共通特殊講義の「イノベーションマネジメント」は**履修中止不可科目**のため、よく考えて登録すること。（その他の履修中止不可科目は登録期間前までに大学院掲示板に掲示する。）
13. 「安全安心高度技術者養成プログラム」を修了する為には、事前にプログラム履修登録した上で、所定の要件を満たす必要がある。詳細については、後掲の『「安全安心高度技術者養成プログラム」について』を参照すること。
14. 「専攻共通特殊講義（安全安心実習）」の登録に関しては掲示・説明会にて確認のこと。
15. 高等研究教育院設置科目については、P.457を参照のこと。
16. 「大学院特別講義１」「大学院特別講義２」は、専攻により登録可能なクラスが異なる。登録期間前までに掲示される大学院掲示板および DUET メッセージにより確認すること。

電気電子工学専攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科　目	クラス						
31620055		電磁気学特論	2	馬場　吉弘	春学期	2	必修
31620056		回路理論特論	2	加藤　利次	春学期	2	
31620057		計算電磁気学特論	2	髙橋　康人	秋学期	2	
31620058		光電子デバイス工学特論	2	大谷　直毅	春学期	2	
31620006		電気計測特論Ⅰ	2	小山　大介	春学期	2	
31620008		超音波エレクトロニクス特論Ⅰ	2	松川　真美	春学期	2	
31620009		超音波エレクトロニクス特論Ⅱ	2	松川　真美	秋学期	2	
31620010		高周波工学特論Ⅰ	2	大平　昌敬	春学期	2	
31620011		高周波工学特論Ⅱ	2	大平　昌敬	秋学期	2	
31620062		量子電子工学特論	2	鈴木　将之	春学期	2	
31620016		電力工学特論Ⅰ	2	馬場　吉弘	春学期	2	
31620017		電力工学特論Ⅱ	2	長岡　直人	秋学期	2	
31620022		応用代数学特論AⅠ	2	（本年度休講）			2023年度以前生対象
31620063		自動制御工学特論	2	井上　　馨	春学期	2	2023年度以前生対象
31620064		自動制御工学特論Ⅰ	2	井上　　馨	春学期	2	2024年度以降生対象
31620065		自動制御工学特論Ⅱ	2	平田健太郎	秋学期	2	〃
31620025		電気機器特論Ⅰ	2	髙橋　康人	春学期	2	
31620026		電気機器特論Ⅱ	2	藤原　耕二	秋学期	2	
31620027		光通信工学特論	2	戸田　裕之	秋学期	2	
31620029		通信理論特論	2	岩井　誠人	春学期	2	
31620030		通信方式特論Ⅰ	2	衣斐　信介	春学期	2	
31620031		通信方式特論Ⅱ	2	衣斐　信介	秋学期	2	
31620032		量子力学特論	2	吉川　治周	春学期	2	
31620059		固体電子工学特論	2	（本年度休講）			
31620060		電気電子材料特論Ⅰ	2	佐藤　祐喜	秋学期	2	
31620061		電気電子材料特論Ⅱ	2	（本年度休講）			
31620035		電磁波工学特論	2	出口　博之	春学期	2	
31620036		応用電波工学特論	2	出口　博之	秋学期	2	
31620037		応用物理学特論	2	粕谷　俊郎	秋学期	2	
31620038		応用電子工学特論	2	（本年度休講）			
31620039		コンピュータ応用解析	2	加藤　利次	春学期	2	大学院・学部共通設置科目（注）５参照
31620040		応用抽象代数学	2	（本年度休講）			2023年度以前生対象
31620041		量子力学	2	吉川　治周	秋学期	2	大学院・学部共通設置科目（注）５参照
31620042		インフラストラクチャ工学特論	2	長岡　直人	秋学期	2	（注）９参照
31620043		ワークショップ	2	（本年度休講）			
31620044		インターンシップ	2	粕谷　俊郎	３週間以上		（注）６参照
31620045		応用非線形解析特論	2	近藤　弘一	秋学期	2	
31620046		放射線科学特論	2	剣持　貴弘	春学期	2	
31620047	001	科学技術英語特論Ⅰ①	1	中山裕木子	春学期	2	
	002	科学技術英語特論Ⅰ②		森林　健悟 米谷　佳晃			
	003	科学技術英語特論Ⅰ③		中山裕木子			
	004	科学技術英語特論Ⅰ④		森林　健悟 米谷　佳晃			

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31620048	001	科学技術英語特論Ⅱ①	1	森林　健悟 米谷　佳晃	秋学期	2	
	002	科学技術英語特論Ⅱ②		中山裕木子			
	003	科学技術英語特論Ⅱ③		森林　健悟 米谷　佳晃			
	004	科学技術英語特論Ⅱ④		中山裕木子			
31620049		先端電気工学特別講義１	2	Bevrani Hassan	春学期	集中	(注)17参照
31620050		先端電気工学特別講義２	2	(本年度休講)			
31620051		先端電子工学特別講義１	2	(本年度休講)			
31620052		先端電子工学特別講義２	2	(本年度休講)			
31600001	001	大学院特別講義１	2	Seung-Wuk Lee	春学期	2	(注)18参照
	002			澤　　宏司	春学期		
	003			澤　　宏司	秋学期		
31600002		大学院特別講義２	2	(本年度休講)			(注)18参照
31620901		協定校単位互換科目	2				(注)11参照
31620101		電気電子工学研究実験Ⅰ	2		春学期	集中	1年次配当 (注)1参照
31620102		電気電子工学研究実験Ⅱ	2		秋学期	集中	〃
31620103		電気電子工学研究実験Ⅲ	2		春学期	集中	2年次配当 (注)1参照
31620104		電気電子工学研究実験Ⅳ	2		秋学期	集中	〃
31620100		論　文					(注)2参照

専攻共通特殊講義　(注)12参照

登録コード		テ　　ー　　マ	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31600101		情報技術	2	吉田　純一 奥田　　環	春学期	2	インターネット講義
31600102		ナノテクノロジー	2	大谷　直毅	春学期	2	
31600103		制御システム	2	廣垣　俊樹	秋学期	2	
31600104		生命科学	2	北岸　宏亮	春学期	2	
31600105		地球環境科学	2	(本年度休講)			2024年度以前生対象
31600117		資源・エネルギー学	2	後藤　琢也	春学期	2	2025年度以降生対象
31600110	001	イノベーションマネジメント①	2	森　　良弘	春学期後半	2	今出川校地開講 (注)13参照
	301	イノベーションマネジメント㊿					大阪サテライト開講 (注)13参照
31600113		リスクマネジメント	2	田中　達也 毛利　　正	春学期	2	
31600114		安全工学１	2	毛利　　正 牛田　和彦 木村　共孝	秋学期	2	
31600115		安全工学２	2	毛利　　正 後藤　琢也 佐藤　譲宣 小川　正博	秋学期	2	
31600116		安全安心実習	2	毛利　　正 田中　達也	秋学期	集中	(注)15参照

履修方法

指導教員の指示により「電磁気学特論」、「電気電子工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」、及び「科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ」もしくは「国際科学技術コースB群科目から２単位」を含めて30単位以上を選択履修すること。

なお、前記単位数の中には、他専攻の科目、専攻共通特殊講義、協定校単位互換科目、関西四大学大学院単位互換科目、国際科学技術コース科目及び高等研究教育院設置科目合わせて６単位以内を含むことができるが、自由科目を含めることはできない。

また、入学時に「インフラストラクチャコース」「パワーエレクトロニクスコース」「光・電子デバイスコース」「情報通信コース」のいずれかを選択し、各コースが指定する以下の選択必修科目から４科目計８単位以上を修得すること。

（2024年度以降生）

●インフラストラクチャコース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、電力工学特論Ⅰ、電力工学特論Ⅱ、
インフラストラクチャ工学特論

●パワーエレクトロニクスコース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、自動制御工学特論Ⅰ、自動制御工学特論Ⅱ、電気機器特論Ⅰ、
電気機器特論Ⅱ、コンピュータ応用解析

●光・電子デバイスコース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、超音波エレクトロニクス特論Ⅰ、光電子デバイス工学特論、
固体電子工学特論、応用物理学特論、量子力学特論

●情報通信コース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、応用電子工学特論、量子電子工学特論、光通信工学特論、
高周波工学特論Ⅰ、電磁波工学特論、通信方式特論Ⅰ、通信理論特論

（2023年度以前生）

●インフラストラクチャコース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、電力工学特論Ⅰ、電力工学特論Ⅱ、
インフラストラクチャ工学特論

●パワーエレクトロニクスコース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、自動制御工学特論、電気機器特論Ⅰ、
電気機器特論Ⅱ、コンピュータ応用解析

●光・電子デバイスコース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、超音波エレクトロニクス特論Ⅰ、光電子デバイス工学特論、
固体電子工学特論、量子電子工学特論、応用物理学特論、量子力学特論

●情報通信コース選択必修科目
回路理論特論、計算電磁気学特論、応用電子工学特論、光通信工学特論、
高周波工学特論Ⅰ、電磁波工学特論、通信方式特論Ⅰ、通信理論特論

（注）１．「電気電子工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、グレードⅠから順に登録履修すること。特に指示のない限り、Ⅰ～Ⅳは同じクラスを登録すること。また、クラスについては「電気電子工学研究実験クラスコード表」を参照すること。

２．「論文」は２年次に登録すること。

３．以下にあげる他専攻の科目は履修することができない。

（情報工学専攻）　インターンシップ

（機械工学専攻）　工業数学特論B、Advanced English Ⅰ・Ⅱ

（応用化学専攻）　工業数学特論ＣⅠ・ＣⅡ、科学技術英語特論、科学英語表現法特論、応用化学学外実習、生命化学特論

（数理環境科学専攻）自然環境特論Ⅱ、統計ファイナンス特論Ⅱ、地球環境特論、数理環境科学特論、数理環境科学輪講、代数学特論Ⅰ・Ⅱ、情報数理特論Ⅰ・Ⅱ、幾何学特論Ⅰ・Ⅱ、資源・エネルギー学特論Ⅰ（2025年度以降生）、確率論特論Ⅰ・Ⅱ、解析学特論Ⅰ・Ⅱ、生物多様性特論Ⅰ

4．以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。
　インターンシップ、論文、電気電子工学研究実験Ⅰ～Ⅳ
5．以下にあげる科目は、学部在学中に単位修得した場合、履修することができない。
　コンピュータ応用解析、量子力学
6．「インターンシップ」は電気電子工学専攻生のみ登録可。受講については、あらかじめ申請をし、認められた者のみが登録できる。申請方法についてはシラバスおよび掲示を参照すること。
7．講義時の使用言語については、各担当者の判断により決定する。
8．国際科学技術コースは外国人留学生を対象とし、授業は英語で行われるが、本コース以外の学生も履修することができる。受講については、理工学部・理工学研究科事務室で配布している国際科学技術コースの履修要項を確認し、登録期間中に登録手続きを行うこと。
9．以下の科目は国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。
　インフラストラクチャ工学特論
10．以下にあげる国際科学技術コース科目は履修することができない。
　電気電子工学専攻：Advanced Electrical and Electronic Engineering Ⅰ・Ⅱ (E)
11．「協定校単位互換科目」とは、理工学研究科と単位互換に関する協定を結んでいる大学（国内）の科目で、当該大学が受講を許可し、理工学研究科が受講を認める科目である。
受講については、あらかじめ申請をし、認められた者のみが登録できる。申請方法については、「理工学研究科登録要領」（別紙）および掲示を参照すること。
なお、この科目については、協定校の科目名が異なれば、複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認のこと。
12．「専攻共通特殊講義」には、「同志社 MOT コース（ダブル・ディグリー）」（詳細は P.195参照）のために、理工学研究科とビジネス研究科において共通に設置している科目および、「安全安心高度技術者養成プログラム」のために設置している科目があるが、本コースおよび、本プログラム以外の学生も履修することができる。
なお、この科目については、テーマが異なれば複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認のこと。
13．専攻共通特殊講義の「イノベーションマネジメント」は**履修中止不可科目**のため、よく考えて登録すること。（その他の履修中止不可科目は登録期間前までに大学院掲示板に掲示する。）
14．「安全安心高度技術者養成プログラム」を修了する為には、事前にプログラム履修登録した上で、所定の要件を満たす必要がある。詳細については、後掲の『「安全安心高度技術者養成プログラム」について』を参照すること。
15．「専攻共通特殊講義（安全安心実習）」の登録に関しては掲示・説明会にて確認のこと。
16．高等研究教育院設置科目については、P.457を参照のこと。
17．以下の科目は2026年度、英語にて講義を行う。
　先端電気工学特別講義 I
18．「大学院特別講義 I」「大学院特別講義２」は、専攻により登録可能なクラスが異なる。登録期間前までに掲示される大学院掲示板および DUET メッセージにより確認すること。

機械工学専攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31630001		構造解析特論	2	小武内清貴	春学期	2	
31630002		構造設計特論	2	大窪　和也	秋学期	2	
31630003		機械力学特論	2	（本年度休講）			
31630004		移動現象特論	2	（本年度休講）			
31630005		乱流現象特論	2	原　　峻平	春学期	2	
31630006		塑性工学特論	2	（本年度休講）			
31630007		制御工学特論	2	伊藤　彰人	秋学期	2	
31630008		機械制御工学特論	2	（本年度休講）			
31630009		流体力学特論	2	（本年度休講）			
31630010		複合材料工学特論	2	大窪　和也 田中　達也 湯浅　元仁	秋学期	2	
31630011		トライボロジー特論	2	（本年度休講）			
31630012		金属材料工学特論	2	湯浅　元仁	秋学期	2	
31630013		粘弾性学特論	2	（本年度休講）			
31630014		燃焼工学特論	2	松村恵理子	秋学期	2	
31630015		機械加工特論	2	（本年度休講）			
31630016		計算流体力学特論	2	（本年度休講）			
31630017		流れと振動の力学特論	2	平田　勝哉	春学期	2	
31630018		噴霧燃焼特論	2	（本年度休講）			
31630019		特殊流体の力学特論	2	（本年度休講）			
31630020		材料強度特論	2	（本年度休講）			
31630021		振動制御工学特論	2	辻内　伸好	春学期	2	
31630022		工業数学特論Ｂ	2	多久和英樹	秋学期	2	
31630024		応用代数学特論Ｂ	2	（本年度休講）			2023年度以前生対象
31630025		塑性力学特論	2	笹田　昌弘	春学期	2	
31630026		熱流体工学特論	2	稲岡　恭二	秋学期	2	
31630027		非線形物理学特論	2	高岡　正憲	秋学期	2	
31630028		機械材料学特論	2	宮本　博之	春学期	2	
31630029		Advanced English Ⅰ	2		春学期	集中	（注）２参照
31630030		Advanced English Ⅱ	2		秋学期	集中	〃
31630031		環境適合材料特論	2	（本年度休講）			
31630032		生産工学特論	2	廣垣　俊樹	秋学期	2	
31630033		分子動力学特論	2	（本年度休講）			
31630034		マイクロマテリアル特論	2	（本年度休講）			
31630035		成形加工特論	2	田中　達也	春学期	2	
31630056		機械設計工学特論	2	中村　守正	春学期	2	
31630036		弾性力学	2	（本年度休講）			（注）４参照
31630037		塑性力学	2	（本年度休講）			〃
31630038		破壊力学	2	大窪　和也	秋学期	2	
31630039		燃焼工学	2	松村恵理子	春学期	2	
31630057		メカトロニクス特論	2	中川　正夫	春学期	2	2025年度以降生対象
31630040		流体力学Ⅰ	2	（本年度休講）			
31630041		流体力学Ⅱ	2	（本年度休講）			
31630042		エネルギー変換工学	2	（本年度休講）			（注）４参照
31630043		移動現象論	2	（本年度休講）			〃
31630044		安全工学	2	（本年度休講）			
31630045		リスクマネジメント	2	（本年度休講）			

登録コード 科目	クラス	科目名	単位	担当者	期間	週時間	備考
31630046		材料力学特論特別講義Ⅰ	2	（本年度休講）			
31630047		材料力学特論特別講義Ⅱ	2	（本年度休講）			
31630048		材料工学特論特別講義Ⅰ	2	（本年度休講）			
31630049		材料工学特論特別講義Ⅱ	2	（本年度休講）			
31630050		機械工学特論特別講義Ⅰ	2	（本年度休講）			
31630051		機械工学特論特別講義Ⅱ	2	（本年度休講）			
31630052		熱工学特論特別講義Ⅰ	2	（本年度休講）			
31630053		熱工学特論特別講義Ⅱ	2	（本年度休講）			
31630054		流体の力学特論特別講義Ⅰ	2	（本年度休講）			
31630055		流体の力学特論特別講義Ⅱ	2	（本年度休講）			
31600001	001	大学院特別講義１	2	Seung-Wuk Lee	春学期	2	（注）16参照
	002			澤　宏司	春学期		
	003			澤　宏司	秋学期		
31600002		大学院特別講義２	2	（本年度休講）			（注）16参照
31630901		協定校単位互換科目	2				（注）10参照
31630101		機械工学研究実験Ⅰ	2		春学期	集中	１年次配当 （注）１参照
31630102		機械工学研究実験Ⅱ	2		秋学期	集中	〃
31630103		機械工学研究実験Ⅲ	2		春学期	集中	２年次配当 （注）１参照
31630104		機械工学研究実験Ⅳ	2		秋学期	集中	〃
31630100		論　文					（注）３参照

専攻共通特殊講義　（注）11参照

登録コード 科目	クラス	テーマ	単位	担当者	期間	週時間	備考
31600101		情報技術	2	吉田　純一 奥田　環	春学期	2	インターネット講義
31600102		ナノテクノロジー	2	大谷　直毅	春学期	2	
31600103		制御システム	2	廣垣　俊樹	秋学期	2	
31600104		生命科学	2	北岸　宏亮	春学期	2	
31600105		地球環境科学	2	（本年度休講）			2024年度以前生対象
31600117		資源・エネルギー学	2	後藤　琢也	春学期	2	2025年度以降生対象
31600110	001	イノベーションマネジメント①	2	森　良弘	春学期後半	2	今出川校地開講 （注）12参照
	301	イノベーションマネジメント㊿①					大阪サテライト開講 （注）12参照
31600113		リスクマネジメント	2	田中　達也 毛利　正	春学期	2	
31600114		安全工学１	2	毛利　正 牛田　和彦 木村　共孝	秋学期	2	
31600115		安全工学２	2	毛利　正 後藤　琢也 佐藤　譲宣 小川　正博	秋学期	2	
31600116		安全安心実習	2	毛利　正 田中　達也	秋学期	集中	（注）14参照

履修方法

指導教員の指示により「機械工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」を含めて30単位以上を選択履修すること。

なお、前記単位数の中には、他専攻の科目、専攻共通特殊講義、協定校単位互換科目、関西四大学大学院単位互換科目、国際科学技術コース科目及び高等研究教育院設置科目合わせて６単位以内を含むことができるが、自由科目を含めることはできない。

（注）1．「機械工学研究実験Ⅰ～Ⅳ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、グレードⅠから順に登録履修すること。特に指示のない限り、Ⅰ～Ⅳは同じクラスを登録すること。また、クラスについては「機械工学研究実験クラスコード表」を参照すること。

2．「Advanced English Ⅰ・Ⅱ」は下のクラスコード表を参照すること。

022	辻内　伸好	034	廣垣　俊樹	044	小武内清貴
024	平田　勝哉	036	田中　達也	045	湯浅　元仁
027	稲岡　恭二	039	多久和英樹	046	中村　守正
028	大窪　和也	040	松村恵理子	047	原　　峻平
029	高岡　正憲	041	伊藤　彰人	048	中川　正夫
033	宮本　博之	043	笹田　昌弘		

3．「論文」は２年次に登録すること。

4．以下にあげる科目は、学部在学中に単位修得した場合、履修することができない。

弾性力学、塑性力学、エネルギー変換工学、移動現象論

5．以下にあげる他専攻の科目は履修することができない。

（情報工学専攻）　インターンシップ

（電気電子工学専攻）科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ

（応用化学専攻）　工業数学特論ＣⅠ・ＣⅡ、科学技術英語特論、科学英語表現法特論、応用化学学外実習、生命化学特論

（数理環境科学専攻）自然環境特論Ⅱ、統計ファイナンス特論Ⅱ、地球環境特論、数理環境科学特論、数理環境科学輪講、代数学特論Ⅰ・Ⅱ、情報数理特論Ⅰ・Ⅱ、幾何学特論Ⅰ・Ⅱ、応用計算代数学特論、資源・エネルギー学特論Ⅰ（2025年度以降生）、確率論特論Ⅰ・Ⅱ、解析学特論Ⅰ・Ⅱ、生物多様性特論Ⅰ

6．以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

論文、機械工学研究実験Ⅰ～Ⅳ

7．講義時の使用言語については、各担当者の判断により決定する。

8．国際科学技術コースは外国人留学生を対象とし、授業は英語で行われるが、本コース以外の学生も履修することができる。受講については、理工学部・理工学研究科事務室で配布している国際科学技術コースの履修要項を確認し、登録期間中に登録手続きを行うこと。

9．以下にあげる国際科学技術コース科目は履修することができない。

電気電子工学専攻：Advanced Electrical and Electronic Engineering Ⅰ・Ⅱ (E)

10.「協定校単位互換科目」とは、理工学研究科と単位互換に関する協定を結んでいる大学（国内）の科目で、当該大学が受講を許可し、理工学研究科が受講を認める科目である。
受講については、あらかじめ申請をし、認められた者のみが登録できる。申請方法については、「理工学研究科登録要領」（別紙）および掲示を参照すること。
なお、この科目については、協定校の科目名が異なれば、複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認すること。

11.「専攻共通特殊講義」には、「同志社 MOT コース（ダブル・ディグリー）」（詳細は P.195参照）のために、理工学研究科とビジネス研究科において共通に設置している科目および、「安全安心高度技術者養成プログラム」のために設置している科目があるが、本コースおよび、本プログラム以外の学生も履修することができる。
なお、この科目については、テーマが異なれば複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入に

ついては、上記の履修方法を確認すること。

12. 専攻共通特殊講義の「イノベーションマネジメント」は**履修中止不可科目**のため、よく考えて登録すること。（その他の履修中止不可科目は登録期間前までに大学院掲示板に掲示する。）
13. 「安全安心高度技術者養成プログラム」を修了する為には、事前にプログラム履修登録した上で、所定の要件を満たす必要がある。詳細については、後掲の『「安全安心高度技術者養成プログラム」について』を参照すること。
14. 「専攻共通特殊講義（安全安心実習）」の登録に関しては掲示・説明会にて確認のこと。
15. 高等研究教育院設置科目については、P.457を参照のこと。
16. 「大学院特別講義１」「大学院特別講義２」は、専攻により登録可能なクラスが異なる。登録期間前までに掲示される大学院掲示板および DUET メッセージにより確認すること。

応用化学専攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
●専門基礎科目（機能化学コース）							
31640001		現代物理化学	2	木村　佳文 土井　貴之 佐藤　啓文	春学期	2	選択必修
31640002		現代無機化学	2	稲葉　　稔 加藤　将樹	春学期	2	選択必修
31640003		実用高分子化学	2	古賀　智之 西村慎之介	春学期	2	選択必修
31640004		実用有機化学	2	小寺　政人 水谷　　義 人見　　穣	春学期	2	選択必修
●専門基礎科目（化学工学コース）							
31640005		移動現象特論	2	土屋　活美	春学期	2	選択必修
31640006		化学工学熱力学特論	2	塩井　章久	春学期	2	選択必修
31640007		反応工学特論	2	松本　道明	春学期	2	選択必修
31640008		物性工学特論	2	白川　善幸	春学期	2	選択必修
●専門応用科目							
31640009		溶液物理化学特論	2	（本年度休講）			（注）7参照
31640010		物性物理化学特論	2	（本年度休講）			
31640049		分子分光学特論	2	木村　佳文	春学期	2	（注）7参照
31640011		無機合成化学特論	2	（本年度休講）			〃
31640012		無機物性化学特論	2	加藤　将樹	秋学期	2	〃
31640013		無機工業化学特論	2	（本年度休講）			〃
31640014		電気化学特論	2	稲葉　　稔	春学期	2	〃
31640015		精密有機解析学特論	2	小寺　政人	春学期	2	
31640016		有機合成化学特論	2	太田　哲男	秋学期	2	
31640017		構造有機化学特論	2	（本年度休講）			
31640018		先端材料化学特論	2	（本年度休講）			（注）7参照
31640019		生体高分子特論	2	古賀　智之 西村慎之介	秋学期	2	〃
31640020		生命化学特論	2	北岸　宏亮	春学期	2	
31640021		生命有機化学特論	2	人見　　穣	春学期	2	（注）7参照
31640022		化学計測特論	2	塚越　一彦	春学期	2	
31640023		界面・コロイド工学特論	2	石田　尚之	秋学期	2	
31640024		生物反応工学特論	2	（本年度休講）			
31640025		粉体工学特論	2	吉田　幹生	秋学期	2	
31640026		プロセス設計特論	2	（本年度休講）			
31640027		地球環境制御特論	2	（本年度休講）			
31640050		触媒化学特論	2	竹中　　壮	秋学期	2	
31640028		化学工学特論Ⅰ	2	山本　大吾	春学期	2	
31640029		化学工学特論Ⅱ	2	彌田　智一	春学期	2	
31640030		工業分析化学特論	2	橋本　雅彦	秋学期	2	
31640031		工業数学特論CⅠ	2	津田　博史	春学期	2	
31640032		工業数学特論CⅡ	2	津田　博史	秋学期	2	
31640035		応用複素解析学特論CⅠ	2	（本年度休講）			2024年度以前生対象
31640036		応用複素解析学特論CⅡ	2	（本年度休講）			〃

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31640037	001	科学技術英語特論①	1	中山裕木子	春学期	2	必修
	002	科学技術英語特論②					
	003	科学技術英語特論③					
	004	科学技術英語特論④					
31640038	001	科学英語表現法特論①	1	中山裕木子	秋学期	2	必修
	002	科学英語表現法特論②					
	003	科学英語表現法特論③					
	004	科学英語表現法特論④					
31640045		応用化学特別講義Ⅰ	2	剣持　貴弘	秋学期	2	
31640046		応用化学特別講義Ⅱ	2	佐藤　譲宣	秋学期	2	
31640047		応用化学特別講義Ⅲ	2	彌田　智一	秋学期	2	
31640048		応用化学特別講義Ⅳ	2	Seung-Wuk Lee	春学期	2	
31600001	001	大学院特別講義１	2	Seung-Wuk Lee	春学期	2	（注）19参照
	002			澤　　宏司	春学期		
	003			澤　　宏司	秋学期		
31600002		大学院特別講義２	2	（本年度休講）			（注）19参照
31640041		応用化学集中講義Ⅰ	1	（本年度休講）			（注）６参照
31640042		応用化学集中講義Ⅱ	1	坂口　裕樹	春学期	集中	〃
31640043		応用化学集中講義Ⅲ	1	（本年度休講）			〃
31640044		応用化学集中講義Ⅳ	1	濵地　　格	春学期	集中	〃
31640901		協定校単位互換科目	2				（注）13参照
31640101		応用化学研究実験Ⅰ	2		春学期	集中	１年次配当 （注）１参照
31640102		応用化学研究実験Ⅱ	2		秋学期	集中	〃
31640103		応用化学研究実験Ⅲ	2		春学期	集中	２年次配当 （注）１参照
31640104		応用化学研究実験Ⅳ	2		秋学期	集中	〃
31640100		論　文					（注）２参照
専攻共通特殊講義（注）14参照							
登録コード		テ　　ー　　マ	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31600101		情報技術	2	吉田　純一 奥田　　環	春学期	2	インターネット講義
31600102		ナノテクノロジー	2	大谷　直毅	春学期	2	
31600103		制御システム	2	廣垣　俊樹	秋学期	2	
31600104		生命科学	2	北岸　宏亮	春学期	2	（注）８参照
31600105		地球環境科学	2	（本年度休講）			2024年度以前生対象
31600117		資源・エネルギー学	2	後藤　琢也	春学期	2	2025年度以降生対象
31600110	001	イノベーションマネジメント①	2	森　　良弘	春学期後半	2	今出川校地開講 （注）15参照
	301	イノベーションマネジメント㊿					大阪サテライト開講 （注）15参照
31600113		リスクマネジメント	2	田中　達也 毛利　　正	春学期	2	
31600114		安全工学１	2	毛利　　正 牛田　和彦 木村　共孝	秋学期	2	
31600115		安全工学２	2	毛利　　正 後藤　琢也 佐藤　譲宣 小川　正博	秋学期	2	

登録コード		テ　ー　マ	単位	担 当 者	期 間	週時間	備　考
科 目	クラス						
31600116		安全安心実習	2	毛利　正 田中　達也	秋学期	集中	(注)17参照
●自由科目							
31640301	001	応用化学学外実習①	2	稲葉　稔	春学期	3週間以上	
	002	応用化学学外実習②	2	松本　道明	秋学期	3週間以上	

履修方法

指導教員の指示により「科学技術英語特論」「科学英語表現法特論」「応用化学研究実験Ⅰ～Ⅳ」を含めて30単位以上を選択履修すること。なお、前記単位数の中には、他専攻の科目、専攻共通特殊講義、協定校単位互換科目、関西四大学大学院単位互換科目、国際科学技術コース科目及び高等研究教育院設置科目合わせて６単位以内を含むことができるが、自由科目を含めることはできない。

また、入学時に、「機能化学コース」、「化学工学コース」のいずれかを選択し、春学期に開講される専門基礎科目８科目から、選択したコース内の３科目計６単位以上を修得すること。なお、他コースの専門基礎科目は、専門応用科目として履修できる。

(注)１．「応用化学研究実験Ⅰ～Ⅳ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、グレードⅠから順に登録履修し、各学期で研究成果を発表会で発表すること。特に指示のない限り、Ⅰ～Ⅳは同じクラスを登録すること。また、クラスについては「応用化学研究実験クラスコード表」を参照すること。

２．「論文」は２年次に登録すること。

３．以下にあげる他専攻の科目は履修することができない。

（情報工学専攻）　インターンシップ

（電気電子工学専攻）インターンシップ、科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ

（機械工学専攻）　工業数学特論B、Advanced English Ⅰ・Ⅱ

（数理環境科学専攻）統計ファイナンス特論Ⅰ・Ⅱ、自然環境特論Ⅱ、離散数理特論、地球環境特論、数理環境科学特論、数理環境科学輪講、代数学特論Ⅰ・Ⅱ、情報数理特論Ⅰ・Ⅱ、幾何学特論Ⅰ・Ⅱ、応用計算代数学特論、有機反応機構特論、資源・エネルギー学特論Ⅰ（2025年度以降生）、確率論特論Ⅰ・Ⅱ、解析学特論Ⅰ・Ⅱ、生物多様性特論Ⅰ

４．以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

論文、応用化学研究実験Ⅰ～Ⅳ

５．修士（工学）・修士（理学）については、指導教員の指導の下に定める。申請は１年次秋学期開始時とする。

６．応用化学集中講義Ⅰ～Ⅳは春学期一般登録科目である。夏期休暇期間に集中講義を行うため、講義日程については後日掲示を参照のこと。

７．以下の科目は隔年開講の科目となる。下線の科目は2027年度開講されないので注意すること。

〈隔年開講対象科目〉

溶液物理化学特論、無機合成化学特論、無機工業化学特論、先端材料化学特論、分子分光学特論、無機物性化学特論、電気化学特論、生体高分子特論、生命有機化学特論

８．専攻共通特殊講義（生命科学）は生命化学特論と同一科目である。よって応用化学専攻の学生は専攻共通特殊講義（生命科学）を登録することができない。

９．講義時の使用言語については、各担当者の判断により決定する。

10．国際科学技術コースは外国人留学生を対象とし、授業は英語で行われるが、本コース以外の学生も履修することができる。受講については、理工学部・理工学研究科事務室で配布している国際科学技術コースの履修要項を確認し、登録期間中に登録手続きを行うこと。

11. 以下の科目は国際科学技術コース(https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/)と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母国語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。
    2026年度該当科目なし
12. 以下にあげる国際科学技術コース科目は履修することができない。
    電気電子工学専攻：Advanced Electrical and Electronic Engineering Ⅰ・Ⅱ (E)
13. 「協定校単位互換科目」とは、理工学研究科と単位互換に関する協定を結んでいる大学（国内）の科目で、当該大学が受講を許可し、理工学研究科が受講を認める科目である。
    受講については、あらかじめ申請をし、認められた者のみが登録できる。申請方法については、「理工学研究科登録要領」（別紙）および掲示を参照すること。
    なお、この科目については、協定校の科目名が異なれば、複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認すること。
14. 「専攻共通特殊講義」には、「同志社 MOT コース（ダブル・ディグリー)」(詳細は P.195参照）のために、理工学研究科とビジネス研究科において共通に設置している科目および、「安全安心高度技術者養成プログラム」のために設置している科目があるが、本コースおよび、本プログラム以外の学生も履修することができる。
    なお、この科目については、テーマが異なれば複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については上記の履修方法を確認すること。
15. 専攻共通特殊講義の「イノベーションマネジメント」は**履修中止不可科目**のため、よく考えて登録すること。(その他の履修中止不可科目は登録期間前までに大学院掲示板に掲示する。)
16. 「安全安心高度技術者養成プログラム」を修了する為には、事前にプログラム履修登録した上で、所定の要件を満たす必要がある。詳細については、後掲の『「安全安心高度技術者養成プログラム」について』を参照すること。
17. 「専攻共通特殊講義（安全安心実習)」の登録に関しては掲示・説明会にて確認のこと。
18. 高等研究教育院設置科目については、P.457を参照のこと。
19. 「大学院特別講義１」「大学院特別講義２」は、専攻により登録可能なクラスが異なる。登録期間前までに掲示される大学院掲示板および DUET メッセージにより確認すること。

数理環境科学専攻

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
●数理科学コース							
31650001		解析学特論Ⅰ	2	竹井　義次	春学期	2	
31650002		解析学特論Ⅱ	2	竹井　義次	秋学期	2	(注)10参照
31650005		数値解析特論Ⅰ	2	吉川　　仁	春学期	2	
31650006		数値解析特論Ⅱ	2	吉川　　仁 今井　仁司	秋学期	2	
31650007		情報数理特論Ⅰ	2	齋藤　誠慈	春学期	2	
31650008		情報数理特論Ⅱ	2	齋藤　誠慈	秋学期	2	
31650009		幾何学特論Ⅰ	2	浅岡　正幸	春学期	2	
31650010		幾何学特論Ⅱ	2	浅岡　正幸	秋学期	2	(注)10参照
31650011		応用計算代数学特論	2	三木　啓司	春学期	2	
31650012		離散数理特論	2	三木　啓司	秋学期	2	
31650013		数学史特論Ⅰ	2	但馬　　亨	春学期	2	
31650014		数学史特論Ⅱ	2	但馬　　亨	秋学期	2	
31650015		統計ファイナンス特論Ⅰ	2	津田　博史	春学期	2	
31650016		統計ファイナンス特論Ⅱ	2	津田　博史	秋学期	2	
31650017		関数方程式特論Ⅰ	2	(本年度休講)			2024年度以前生対象
31650018		関数方程式特論Ⅱ	2	(本年度休講)			〃
31650019		数理システム特論	2	齋藤　誠慈 竹井　義次 津田　博史 三木　啓司 浅岡　正幸	春学期	2	
31650044		代数学特論Ⅰ	2	阿部　　健	春学期	2	
31650045		代数学特論Ⅱ	2	阿部　　健	秋学期	2	
31650050		確率論特論Ⅰ	2	塩沢　裕一	春学期	2	2025年度以降生対象
31650051		確率論特論Ⅱ	2	塩沢　裕一	秋学期	2	〃
●環境科学コース							
31650020		自然環境特論Ⅰ	2	堤　　浩之	春学期	2	(注)10参照
31650021		自然環境特論Ⅱ	2	堤　　浩之	秋学期	2	
31650022		地球環境特論	2	小畠　秀和	春学期	2	
31650023		地球惑星環境特論	2	小畠　秀和	秋学期	2	(注)10参照
31650024		資源・エネルギー学特論Ⅰ	2	後藤　琢也	春学期	2	
31650025		資源・エネルギー学特論Ⅱ	2	後藤　琢也	秋学期	2	
31650026		人間環境特論	2	赤尾　聡史	春学期	2	
31650027		有機反応機構特論	2	赤尾　聡史	秋学期	2	
31650028		地球システム科学特論	2	(本年度休講)			
31650029		環境システム工学特論	2	盛満　正嗣	春学期	2	
31650031		生態学特論Ⅰ	2	長谷川元洋	春学期	2	(注)10参照
31650032		生態学特論Ⅱ	2	長谷川元洋	秋学期	2	
31650033		大気環境特論Ⅰ	2	山根　省三	春学期	2	(注)10参照
31650034		大気環境特論Ⅱ	2	山根　省三	秋学期	2	
31650043		環境機器分析特論	2	盛満　正嗣	秋学期	2	
31650046		生物多様性特論Ⅰ	2	大園　享司	春学期	2	
31650047		生物多様性特論Ⅱ	2	大園　享司	秋学期	2	(注)10参照

登録コード		科　　目　　名	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
●共通							
31650035		数理環境科学特論	2	盛満　正嗣 齋藤　誠慈 津田　博史 山根　省三 赤尾　聡史 三木　啓司 大園　享司 堤　浩之 長谷川元洋 浅岡　正幸 小畠　秀和 塩沢　裕一 阿部　健 吉川　仁	春学期	2	必修
31650048		数理環境科学輪講	2	盛満　正嗣 齋藤　誠慈 津田　博史 山根　省三 後藤　琢也 赤尾　聡史 三木　啓司 大園　享司 堤　浩之 竹井　義次 長谷川元洋 浅岡　正幸 小畠　秀和 塩沢　裕一 阿部　健 吉川　仁	秋学期	集中	必修
31650037		環境シミュレーション工学特論Ⅰ	2	長岡　直人	春学期	2	
31650038		環境シミュレーション工学特論Ⅱ	2	（本年度休講）			
31650039		数理環境科学特別講義１	2	（本年度休講）			
31650040		数理環境科学特別講義２	2	（本年度休講）			
31650041		数理環境科学特別講義３	2	（本年度休講）			
31650042		数理環境科学特別講義４	2	（本年度休講）			
31600001	001	大学院特別講義１	2	Seung-Wuk Lee	春学期	2	（注）18参照
	002			澤　　宏司	春学期		
	003			澤　　宏司	秋学期		
31600002		大学院特別講義２	2	（本年度休講）			（注）18参照
31650901		協定校単位互換科目	2				（注）12参照
31650101		数理環境研究実験Ⅰ	2		春学期	集中	１年次配当 （注）2参照
31650102		数理環境研究実験Ⅱ	2		秋学期	集中	〃
31650103		数理環境研究実験Ⅲ	2		春学期	集中	２年次配当 （注）2参照
31650104		数理環境研究実験Ⅳ	2		秋学期	集中	〃
31650100		論文					（注）３参照
専攻共通特殊講義　（注）13参照							
登録コード		テ　　ー　　マ	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　　考
科 目	クラス						
31600101		情報技術	2	吉田　純一 奥田　　環	春学期	2	インターネット講義
31600102		ナノテクノロジー	2	大谷　直毅	春学期	2	
31600103		制御システム	2	廣垣　俊樹	秋学期	2	
31600104		生命科学	2	北岸　宏亮	春学期	2	
31600105		地球環境科学	2	（本年度休講）			2024年度以前生対象
31600117		資源・エネルギー学	2	後藤　琢也	春学期	2	（注）７参照
31600110	001	イノベーションマネジメント①	2	森　　良弘	春学期後半	2	今出川校地開講 （注）14参照
	301	イノベーションマネジメント㉚①					大阪サテライト開講 （注）14参照
31600113		リスクマネジメント	2	田中　達也 毛利　　正	春学期	2	

登録コード		テ　ー　マ	単位	担　当　者	期　間	週時間	備　考
科 目	クラス						
31600114		安全工学１	2	毛利　正 牛田　和彦 木村　共孝	秋学期	2	
31600115		安全工学２	2	毛利　正 後藤　琢也 佐藤　譲宣 小川　正博	秋学期	2	
31600116		安全安心実習	2	毛利　正 田中　達也	秋学期	集中	（注）16参照

履修方法

指導教員の指示により「数理環境科学特論」「数理環境科学輪講」「数理環境研究実験Ⅰ～Ⅳ」を含めて30単位以上を選択履修すること。なお、前記単位数の中には、他専攻の科目、専攻共通特殊講義、協定校単位互換科目、関西四大学大学院単位互換科目、国際科学技術コース科目及び高等研究教育院設置科目合わせて６単位以内を含むことができるが、自由科目を含めることはできない。

（注）１．研究実験を効果的に進めていくために、その基礎である授業科目は可能な限り１年次で履修すること。

２．「数理環境研究実験Ⅰ～Ⅳ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、グレードⅠから順に登録履修すること。特に指示のない限り、Ⅰ～Ⅳは同じクラスを登録すること。
また、クラスについては「数理環境研究実験クラスコード表」を参照すること。

３．「論文」は２年次に登録すること。

４．以下にあげる他専攻の科目は履修することができない。
（情報工学専攻）　インターンシップ
（電気電子工学専攻）インターンシップ、科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ
（機械工学専攻）　Advanced English Ⅰ・Ⅱ
（応用化学専攻）　工業数学特論ＣⅠ・ＣⅡ、科学技術英語特論、科学英語表現法特論、応用化学学外実習、生命化学特論

５．以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。
論文、数理環境研究実験Ⅰ～Ⅳ、数理環境科学輪講

６．修士（工学）・修士（理学）については、指導教員の指導の下に定める。申請は１年次秋学期開始時とする。

７．専攻共通特殊講義（資源・エネルギー学）は資源・エネルギー学特論Ⅰと同一科目である。よって数理環境科学専攻の学生は専攻共通特殊講義（資源・エネルギー学）を登録することができない。

８．講義時の使用言語については、各担当者の判断により決定する。

９．国際科学技術コースは外国人留学生を対象とし、授業は英語で行われるが、本コース以外の学生も履修することができる。受講については、理工学部・理工学研究科事務室で配布している国際科学技術コースの履修要項を確認し、登録期間中に登録手続きを行うこと。

10．以下の科目は国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。
生態学特論Ⅰ、大気環境特論Ⅰ、生物多様性特論Ⅱ、自然環境特論Ⅰ、地球惑星環境特論、解析学特論Ⅱ、幾何学特論Ⅱ

11．以下にあげる国際科学技術コース科目は履修することができない。
電気電子工学専攻：Advanced Electrical and Electronic Engineering Ⅰ・Ⅱ (E)

12．「協定校単位互換科目」とは、理工学研究科と単位互換に関する協定を結んでいる大学（国内）の科目で、当該大学が受講を許可し、理工学研究科が受講を認める科目である。
受講については、あらかじめ申請をし、認められた者のみが登録できる。申請方法については、「理工学研究科登録要領」（別紙）および掲示を参照すること。
なお、この科目については、協定校の科目名が異なれば、複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認すること。

13. 「専攻共通特殊講義」には、「同志社 MOT コース（ダブル・ディグリー）」（詳細は P.195参照）のために、理工学研究科とビジネス研究科において共通に設置している科目および、「安全安心高度技術者養成プログラム」のために設置している科目があるが、本コースおよび、本プログラム以外の学生も履修することができる。
    なお、この科目については、テーマが異なれば複数回登録履修できるが、修了必要単位への算入については、上記の履修方法を確認すること。
14. 専攻共通特殊講義の「イノベーションマネジメント」は**履修中止不可科目**のため、よく考えて登録すること。（その他の履修中止不可科目は登録期間前までに大学院掲示板に掲示する。）
15. 「安全安心高度技術者養成プログラム」を修了する為には、事前にプログラム履修登録した上で、所定の要件を満たす必要がある。詳細については、後掲の『「安全安心高度技術者養成プログラム」について』を参照すること。
16. 「専攻共通特殊講義（安全安心実習）」の登録に関しては掲示・説明会にて確認のこと。
17. 高等研究教育院設置科目については、P.457を参照のこと。
18. 「大学院特別講義１」「大学院特別講義２」は、専攻により登録可能なクラスが異なる。登録期間前までに掲示される大学院掲示板および DUET メッセージにより確認すること。

情報工学研究実験クラスコード

情報工学研究実験Ⅰ~Ⅳ：31610101~31610104

010	渡部　広一
013	大久保雅史
014	橋本　雅文
015	程　　俊
016	土屋　隆生
018	佐藤　健哉
021	高橋　和彦
022	大崎　美穂
023	Ivan Tanev
024	土屋　誠司
025	加藤　恒夫
026	小板　隆浩
027	奥田　正浩
028	小野　景子
029	田村　晃裕
030	木村　共孝
031	桂井麻里衣
032	木村　達明
033	白浜　公章

電気電子工学研究実験クラスコード

電気電子工学研究実験Ⅰ~Ⅳ：31620101~31620104

001	井上　　馨
002	近藤　弘一
020	加藤　利次
026	松川　真美
027	粕谷　俊郎
028	出口　博之
030	岩井　誠人
031	戸田　裕之
032	馬場　吉弘
033	藤原　耕二
034	大谷　直毅
035	佐藤　祐喜
036	小山　大介
037	髙橋　康人
038	衣斐　信介
039	鈴木　将之
041	平田健太郎
042	吉川　治周
043	大平　昌敬

機械工学研究実験クラスコード

機械工学研究実験Ⅰ~Ⅳ：31630101~31630104

022	辻内　伸好
024	平田　勝哉
027	稲岡　恭二
028	大窪　和也
029	高岡　正憲
033	宮本　博之
034	廣垣　俊樹
036	田中　達也
039	多久和英樹
040	松村恵理子
041	伊藤　彰人
043	笹田　昌弘
044	小武内清貴
045	湯浅　元仁
046	中村　守正
047	原　　峻平
048	中川　正夫

（連携大学院方式）

123	粕谷　俊郎 宮本　直樹
131	松川　真美 眞野　　功
133	藤原　耕二 前地　洋明
134	馬場　吉弘 立松　明芳
135	岩井　誠人 五島　成夫
137	藤原　耕二 光武　義雄
138	井上　　馨 松下　元士
140	戸田　裕之 桐山　博光
143	馬場　吉弘 坪井　敏宏
144	岩井　誠人 清水　　聡

（連携大学院方式）

111	中村　守正 染川　英俊
112	松村恵理子 齋藤　篤史
116	中村　守正 内藤　公喜
118	松村恵理子 中村　博司
125	田中　達也 榊原　圭太
145	平田　勝哉 和田　章弘

※ 101以降は連携大学院方式による研究指導を受けるためのクラスであり、
あらかじめ研究指導願を提出し、認められた者のみが登録できる。

応用化学研究実験クラスコード

応用化学研究実験Ⅰ~Ⅳ：31640101~31640104

025	小寺　政人
026	松本　道明
027	塚越　一彦
029	水谷　　義
032	土屋　活美
033	稲葉　　稔
036	白川　善幸
037	加藤　将樹
038	木村　佳文
039	人見　　穣
040	古賀　智之 Seung-Wuk Lee
041	竹中　　壮
042	橋本　雅彦
043	北岸　宏亮
044	土井　貴之
045	吉田　幹生
046	石田　尚之
047	遠藤太佳嗣

数理環境研究実験クラスコード

数理環境研究実験Ⅰ~Ⅳ：31650101~31650104

016	齋藤　誠慈
019	盛満　正嗣
020	津田　博史
022	山根　省三
023	後藤　琢也
027	竹井　義次
028	大園　享司
029	堤　　浩之
030	長谷川元洋
031	赤尾　聡史
032	浅岡　正幸
033	塩沢　裕一
034	阿部　　健
035	小畠　秀和
036	三木　啓司
037	吉川　　仁

（連携大学院方式）

101	堤　　浩之 木村　治夫

※ 101以降は連携大学院方式による研究指導を受けるためのクラスであり、
あらかじめ研究指導願を提出し、認められた者のみが登録できる。

「同志社 MOT コース（ダブル・ディグリー）」の開設について

理工学研究科とビジネス研究科は、技術を経営に生かし企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、緊密な連携の下に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営コース「同志社MOT コース（ダブル・ディグリー）」を開設する（MOT とは、Management of Technology の略で、一般に技術経営と訳される）。

本コースは、MOT に関する理論と実践、教育と研究の連携・融合を実現し、優れた MOT 人材を育成するため、３年間で修士（工学）もしくは修士（理学）とビジネス修士（専門職）の二つの学位の取得を可能とするものであり、産業界からの MOT 人材育成の要望に応えるものである。

両研究科への入学者を対象とし、必要な知識・適性等を判定したうえで本コースの履修を認める。

詳細については、後日掲示するので確認すること。

「安全安心高度技術者養成プログラム」について

本プログラムは、機械工学専攻に設置されている「安全技術者養成コース」を基礎として、2018年度に「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム　安全・安心のための課題解決力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人養成プログラム」（略称「安全安心高度技術者養成プログラム」）として採択されたものである。

従来のコースは、安全・安心に関する講義と実習を行うことで、どのような利用者でも安心して使用できる機械装置を設計・製造できる技術者を養成し、社会の安全・安心への要望に応えるものであった。2019年度より、従来のコース内容を良心に基づく新しい理系教育のキャリアパスとしての実践的内容に発展させ、理工学研究科の全専攻で履修可能なプログラムとして展開している。本プログラムの修了者には、修了証が授与される。

プログラム修了要件

専攻共通特殊講義として開講される科目（必修１科目（２単位）と選択３科目（６単位））の中から、計４単位修得することをプログラム修了要件とする。なお、修得した単位については、各専攻における30単位の専攻修了要件に含まれる。

※プログラム修了認定されなかった場合、「リスクマネジメント」、「安全工学１」、「安全工学２」、「安全安心実習」の単位は、他の専攻共通特殊講義と同様の取り扱いとする。

・プログラム対象科目（専攻共通特殊講義）一覧

科目区分	科目コード	テーマ	単位	期間
必修	31600113	リスクマネジメント	2	春学期
選択	31600114	安全工学１	2	秋学期
	31600115	安全工学２	2	秋学期
	31600116	安全安心実習	2	秋学期

履修方法

本プログラムの履修には、１年次春学期に実施される説明会に参加し、指導教員の履修許可を得た上で、プログラム履修登録を行うこと。説明会・登録期間については、後日掲示にて詳細を確認すること。一度プログラム履修登録を行った場合、その登録を中止することはできないため、注意すること。なお、研究実験に支障がでないように、プログラム対象科目については、１年次に登録履修することが望ましい。

生命医科学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

医工学・医情報学専攻

◆目指すべき人材（物）像

生命医科学研究科医工学・医情報学専攻博士課程（前期）は、生命科学を中心にした医工学ならびに医情報学の知識や技術について、生体情報の正確な計測と生体機能の工学的具現化に関する研究をとおして、工学と医学を基盤にした総合的な研究能力を身につけて、医療技術産業のみならず幅広い産業分野でその基幹を支えて活躍できる中核的技術者を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

学力の三要素 / 領域：下記の資質・能力を備えた学生に修士（工学）の学位を授与する。

【知識・技能】

・医工学ならびに医科学の先端研究に関する知識を体系的に理解できる。
・医工学の基礎となる機械系・電気系・情報系・生命系において、核となる専門的知識や技術を身につけ、利用できる。

【思考力・判断力・表現力】

・修得した専門分野や医科学の知識と技術を駆使して、医学・医療や工学の分野において、社会に貢献できる。
・核となる専門分野における課題を解決するために、論理的思考に基づいた方法論を他者に伝えることができる。

【主体性・多様性・協働性】

・修得した専門分野で、医学・医療や工学の諸課題を自ら発見し、解決することができる。
・医工学ならびに医科学の先端分野の課題解決で、PDCA サイクルを考慮に入れた方法論を使える。

◆カリキュラムポリシー

・ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。
・医工学ならびに医情報学の知識や技術をもちいて、医学・医療や工学における諸課題を解決できる人物を育成するために、医工学コースと医情報学コースおよび国際科学技術コースを設ける。
・それぞれのコースに必修科目と専門的知識を深めるための選択科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
・必修科目では、核となる専門分野における課題解決のために実験や演習を行い、PDCA サイクルを考慮した実践的活動を行う（医工学コース：12単位、医情報学コース：10単位、国際科学技術コース：８単位）。そのため、医工学コースには医工学研究実験Ⅰ～Ⅳとプロジェクト特別演習 A および医工学特別演習 A を設置し、医情報学コースには医情報学研究実験Ⅰ～Ⅳとプロジェクト特別演習 A を設置し、国際科学技術コースには Research and Experiments in Biomedical Sciences and Informatics Ⅰ（E）～Ⅳ（E）を設置する。
・選択科目では、各自の研究領域の深化ならびに専門関連分野に対する幅広い素養の獲得を目的として、それぞれのコースに設置された科目群および他コース、他専攻、他研究科科目を学ぶ（医工学コース：18単位、医情報学コース：20単位、国際科学技術コース：22単位）。
・さらに、修士論文を提出し最終試験に合格することが要求され、研究に必要な１ヶ国語以上の外国語に通じていることが求められる。
・研究実験Ⅰ～Ⅳ（国際科学技術コースは Research and Experiments in Biomedical Sciences and Informatics Ⅰ（E）～Ⅳ（E））では、核となる専門分野における課題を解決するために、専門知識の習得、参考論文講読、実験、専門家との議論、学会での情報収集、最先端装置の理解が必要となる。
・プロジェクト特別演習 A、医工学特別演習 A では、自らたてた課題に対して、PDCA サイクルを回しな

がら問題解決を目指すことにより、その分野に関する知識と自立化が促される。また、論文もしくは発表会が義務付けられており、課題の意義、PDCA サイクルの方針、問題解決への道筋を報告することが求められる。さらにセメスター期間での解決が必要であり、効率の良い研究が求められる。

・自コースに設置された専門科目群は、自らの専門分野ならびにその周辺分野の専門知識を習得するために14単位以上（国際科学技術コースは８単位以上）を履修する。
・他コース、他専攻、他研究科などで開講されている科目を履修することで、より幅広い興味、関心に基づいた学習をすることができる。
・修士論文の最終試験は、発表会により審査される。そのために、課題の説明、研究遂行の流れ、得られた結論について十分な発表ならびに質疑応答が必要とされる。

◆修了要件

①博士課程（前期課程）に２年以上在学していること。
ただし、優れた業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第７条の規定により、２年未満の在学であっても修了できる。（早期修了）
②自コースの「研究実験Ⅰ～Ⅳ」を履修していること。
なお、①のただし書きを適用して２年未満の在学で修了する者の研究実験の履修については、自コースの「研究実験Ⅰ～Ⅱ」のみの履修とし、修士論文審査を含め、総合的に判断する。早期修了制度の詳細については事前に京田辺キャンパス教務センター（生命医科学研究科）にて確認すること。
③自コースの「研究実験Ⅰ～Ⅳ」の８単位、「プロジェクト特別演習 A」の２単位、「医工学特別演習 A」の２単位（医工学コースのみ）、自コース設置の選択科目からの14単位を含めて合計30単位以上履修していること。
上記②に記載しているなお書きを適用する者については、自コースの「研究実験Ⅰ～Ⅱ」の４単位、「プロジェクト特別演習 A」の２単位、「医工学特別演習 A」の２単位（医工学コースのみ）、自コース設置科目からの18単位を含めて合計30単位以上履修していること。
④修士論文を提出し最終試験に合格すること。
⑤研究に必要な１ケ国以上の外国語に通じていること。

医生命システム専攻

◆目指すべき人材（物）像

生命医科学研究科医生命システム専攻博士課程（前期）は、医生命科学を中心とした知識や技術について、生命維持の機構とヒト疾患の発病機構に関する研究をとおして、医学を基盤にした総合的な研究能力を身につけて、高度化する医学や薬学における諸課題に対応できる柔軟な能力と生命倫理を有する専門技術者ならびに科学者を養成することを目的とする。

具体的には、創薬や食品を中心とした健康医療分野ならびにその周辺医療技術分野産業の高度化と、国民の健康増進と疾病の予防と治療に貢献できる専門科学者を養成することを目的とする。

◆ディプロマポリシー

学力の三要素 / 領域：下記の資質・能力を備えた学生に修士（理学）の学位を授与する。
【知識・技能】
①生命医科学の応用分野に関する知識を理解できる（知識・技能）。
②生命医科学に関する諸問題の本質を理解し、実験技術や学術的知識を適切に運用して取り組むことができる（知識・技能）。

【思考力・判断力・表現力】
①生命医科学分野に関する課題に対して論理的思考に基づいた研究計画の立案を行い、解決方策を学術的に探究できる（思考力・判断力）。
②国際感覚をもって生命医科学に関する自らの研究成果を学術論文として記述し、他者に論理的に説明することができる（表現力）。
【主体性・多様性・協働性】
①生命医科学と社会のつながりを意識しながら生命医科学に関する課題を発見し、研究目的を主体的にあるいは指導教員の指導の下に設定し、研究を進める能力を修得する（主体性）。
②生命科学者としての倫理観をもって行動し、様々な人の多様性を理解し協働しながら課題解決にあたることができる（多様性・協働性）。

◆カリキュラムポリシー

・ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。
・生命科学を中心とした医科学の知識や技術をもちいて、医学や医療における諸課題を解決できる人物を育成するために、医生命システム専攻を設ける。
・研究能力を高めるための必修科目と専門的知識を深めるための選択科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
・必修科目では、核となる専門分野における課題解決のために実験を行い、PDCA サイクルを考慮した実践的活動を行う（8単位）。そのため、医生命システム研究実験Ⅰ～Ⅳ（国際科学技術コースは Research and Experiments in Medical Life Systems Ⅰ（E）～Ⅳ（E））を設定する。
・選択科目では、各自の研究領域の深化ならびに専門関連分野に対する幅広い素養の獲得を目的として、自専攻に設置された科目群からの14単位（国際科学技術コースは８単位以上）を含めて22単位を学ぶ。
・さらに、修士論文を提出し最終試験に合格することが要求され、研究に必要な１ヶ国語以上の外国語に通じていることが求められる。

必修科目
・医生命システム研究実験Ⅰ～ IV では生命医科学の体系的な知識や技術をもちいて、医学及び医療における諸課題を解決するための高度な研究能力を涵養するために、研究計画の立案、研究の実施、結果の解析を行い、その集大成として修士論文の執筆と公聴会での発表が求められる。また研究を通じて、生命医科学が直面する諸課題を主体的に発見し、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し協働しながら探求し、問題解決できるようになる。
選択科目
・選択科目では生命医科学に関わる諸課題の本質を深く理解できるようになるため、多数の特論科目、特別講義科目、プロジェクト特別演習 A、および他専攻、他研究科科目を設置している。

◆修了要件

①博士課程（前期課程）に 2 年以上在学していること。
ただし、優れた業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第７条の規定により、２年未満の在学であっても修了できる。（早期修了）
②「医生命システム研究実験Ⅰ～Ⅳ」を履修していること。
なお、①のただし書きを適用して２年未満の在学で修了する者の医生命システム研究実験の履修については、「医生命システム研究実験Ⅰ～Ⅱ」のみの履修とし、修士論文審査を含め、総合的に判断する。早期修了制度の詳細については事前に京田辺キャンパス教務センター（生命医科学研究科）にて確認すること。
③「医生命システム研究実験Ⅰ～Ⅳ」の８単位、自専攻設置科目（国際科学技術コースを除く）からの14単位を含めて合計30 単位以上履修していること。

上記②に記載しているなお書きを適用する者については、「医生命システム研究実験Ⅰ～Ⅱ」の４単位、
自専攻設置科目（国際科学技術コースを除く）からの18単位を含めて合計30単位以上履修していること。
④修士論文を提出し最終試験に合格すること。
⑤研究に必要な１ケ国以上の外国語に通じていること。

生 命 医 科 学 研 究 科

医工学・医情報学専攻　医工学コース

当該年度の開講科目一覧表については、生命医科学部・生命医科学研究科ホームページを参照ください。

		科目コード	科　目　名	単位数	配当年次
授業科目	選択科目	31410101	医用複合材料学特論	2	1～
		31410102	バイオマテリアル特論	2	1～
		31410103	再生医療特論	2	1～
		31410104	マイクロマテリアル特論	2	1～
		31410105	医用デバイス特論	2	1～
		31410106	機能解剖特論	2	1～
		31410107	機械制御工学特論	2	1～
		31410110	非線形数理特論	2	1～
		31410123	放射線科学特論	2	1～
		31410130	ロボット工学特論	2	1～
		31420033	関西四大学大学院単位互換科目	2	1～
		31420034	関西四大学大学院単位互換科目	4	1～
			医工学特論特別講義ＡⅠ	2	1～
			医工学特論特別講義Ａ２	2	1～
			医工学特論特別講義ＢⅠ	1	1～
			医工学特論特別講義Ｂ２	1	1～
			医工学特論特別講義ＣⅠ	2	1～
			生命医科学特論特別講義ＡⅠ	2	1～
			生命医科学特論特別講義Ａ２	2	1～
			生命医科学特論特別講義ＢⅠ	2	1～
			生命医科学特論特別講義Ｂ２	2	1～
			医工学特論	2	1～
	必修科目	31410053	医工学特別演習Ａ	2	1～
		31410052	プロジェクト特別演習Ａ	2	1～
研究指導科目	必修科目	31410001	医工学研究実験Ⅰ	2	1～
		31410002	医工学研究実験Ⅱ	2	1～
		31410003	医工学研究実験Ⅲ	2	2～
		31410004	医工学研究実験Ⅳ	2	2～
		31400099	論文		2

※医工学研究実験Ⅰ～Ⅳはグレード制である。（Ⅰに合格しなければⅡに進めない）

※医工学研究実験Ⅰ・Ⅲは春学期、Ⅱ・Ⅳは秋学期にしか開講されない。

医工学・医情報学専攻 医情報学コース

当該年度の開講科目一覧表については、生命医科学部・生命医科学研究科ホームページを参照ください。

		科目コード	科目名	単位数	配当年次
授業科目	選択科目	31410111	生体情報学特論	2	1～
		31410118	超音波エレクトロニクス特論Ⅰ	2	1～
		31410119	超音波エレクトロニクス特論２	2	1～
		31410120	医療情報学特論	2	1～
		31420042	生体情報アルゴリズム特論	2	1～
		31420040	バイオメディカルコンピューティング特論	2	1～
		31420043	科学と良心	2	1～
		31420044	心理環境科学特論	2	1～
		31420045	セルフアウエアネス（コーチング入門）	2	1～
		31420046	統計基礎	2	1～
		31420047	プログラミング入門	2	1～
		31420051	AI ビジネス実践論	2	1～
		31420007	生物センシング工学特論	2	1～
		31420041	生物音響工学特論	2	1～
		31420008	生物物理学特論	2	1～
		31420035	自己組織化の科学特論	2	1～
		31420009	医用画像システム特論	2	1～
		31420038	超音波医科学特論	2	1～
		31420010	量子力学特論	2	1～
		31410123	放射線科学特論	2	1～
		31410124	有機合成特論	2	1～
		31420004	有機反応特論Ⅰ	2	1～
		31420005	有機反応特論２	2	1～
		31420012	神経行動科学特論	2	1～
		31420036	神経生物学特論	2	1～
		31420013	応用化学特論	2	1～
		31420049	超音波計測特論	2	1～
		31420050	データサイエンス特論	2	1～
		31420033	関西四大学大学院単位互換科目	2	1～
		31420034	関西四大学大学院単位互換科目	4	1～
		31420048	大阪大学大学院単位互換科目	2	1～
			生命医科学特論特別講義ＡⅠ	2	1～
			生命医科学特論特別講義Ａ２	2	1～
			生命医科学特論特別講義ＢⅠ	2	1～
			生命医科学特論特別講義Ｂ２	2	1～
	必修科目	31410052	プロジェクト特別演習Ａ	2	1～
研究指導科目	必修科目	31420000	医情報学研究実験Ⅰ	2	1～
		31420001	医情報学研究実験Ⅱ	2	1～
		31420002	医情報学研究実験Ⅲ	2	2～
		31420003	医情報学研究実験Ⅳ	2	2～
		31400099	論文		2

※医情報学研究実験Ⅰ～Ⅳはグレード制である。（Ⅰに合格しなければⅡに進めない）

※医情報学研究実験Ⅰ・Ⅲは春学期、Ⅱ・Ⅳは秋学期にしか開講されない。

医生命システム専攻

当該年度の開講科目一覧表については、生命医科学部・生命医科学研究科ホームページを参照ください。

		科目コード	科目名	単位数	配当年次
授業科目	選択科目	31433102	ストレス応答解析学特論	2	1～
		31433103	脳神経機構学特論	2	1～
		31433105	アンチエイジング特論	2	1～
		31433106	バイオテクノロジー特論	2	1～
		31433108	神経情報伝達制御学特論	2	1～
		31433109	創薬科学特論	2	1～
		31433110	遺伝子工学特論	2	1～
		31433111	タンパク質・核酸構造解析特論	2	1～
		31433113	臨床再生医学特論	2	1～
		31433114	シナプス機能生物学特論	2	1～
		31433119	バイオイメージング特論	2	1～
		31433120	免疫代謝学特論	2	1～
		31433121	分子生命科学特論	2	1～
		31433124	脳構造形態学実習特論	1	1～
		31433125	サイエンスコミュニケーション特論Ⅰ	2	1～
		31433126	サイエンスコミュニケーション特論Ⅱ	2	1～
		31433127	生命科学をめぐるサイエンスコミュニケーション特論	2	1～
		31433128	神経病理学特論	2	1～
		31433129	生体データ解析特論	2	1～
		31433152	プロジェクト特別演習Ａ	2	1～
		31420033	関西四大学大学院単位互換科目	2	1～
		31420034	関西四大学大学院単位互換科目	4	1～
			生命医科学特論特別講義ＡⅠ	2	1～
			生命医科学特論特別講義Ａ２	2	1～
			生命医科学特論特別講義ＢⅠ	2	1～
			生命医科学特論特別講義Ｂ２	2	1～
研究指導科目	必修科目	31433001	医生命システム研究実験Ⅰ	2	1～
		31433002	医生命システム研究実験Ⅱ	2	1～
		31433003	医生命システム研究実験Ⅲ	2	2～
		31433004	医生命システム研究実験Ⅳ	2	2～
		31400099	論文		2

※医生命システム研究実験Ⅰ～Ⅳはグレード制である。（Ⅰに合格しなければⅡに進めない）

※医生命システム研究実験Ⅰ・Ⅲは春学期、Ⅱ・Ⅳは秋学期にしか開講されない。

スポーツ健康科学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆目指すべき人材（物）像

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士課程（前期）は、健康とスポーツに対する現代的関心と欲求の増大に応えて、「健康」と「スポーツ」が有機的に融合したスポーツ健康科学を体系的に習得し、その成果を大学・研究所、医療・健康関連産業、民間企業や地方自治体等において、的確かつ柔軟に、現実に対応できる能力を有する高度専門職業人、および広範囲な研究能力の涵養と新たな学問領域の開拓が期待できる卓越した研究者を目指す人材の養成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

・健康とスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する諸問題を、スポーツ健康科学の学術的知見に基づき総合的に理解し、自然科学的研究法または人文科学的研究法を適切に高度に運用できる（知識・技能）。
・スポーツを通じた「健康づくり」や「生きがいづくり」に寄与・貢献し、スポーツ・健康教育の制度やその社会的環境をより整備、発展させることができる（思考力・判断力・表現力）。
・健康とスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する諸問題を様々な視点から科学的に解明し、新たな当該研究分野を開拓できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

Ⅰ．現代社会が要求する、健康の増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる多様な人材を育成するために、必修科目（研究Ⅰ～Ⅳ）と選択科目（B 群科目）ならびに他研究科等が設置する科目を履修するC 群科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
２．必修科目A群科目には、個々の学生における研究課題の系統的な深化を保証するために「健康科学研究」、「トレーニング科学研究」及び「スポーツ・マネジメント研究」の研究ゼミナールを設置し、４セメスター連続して履修することを必須とする。ここでは、高度な知識、能力の論理的運用力の育成を行い、８単位の単位取得を義務づける（知識・技能）。
３．学生に、スポーツ健康科学内外の他領域に関する知見・理論を幅広く習得させることを目的として、文献研究等の講義を通じて最新の研究テーマと「高度な専門知識」を修得する「特講」と、実験等の実践を通した知識の定着と各職場で要求される「知識の運用能力」を修得する「実験演習」をＢ群科目に選択科目として設置する（思考力・判断力・表現力）。
４．本研究科のＡ群科目とＢ群科目は連動しており、Ａ群科目である各自の専門研究領域の学修・研究に必要と思われる科目を、同分野のＢ群科目から主に選択し研究を実施する。加えて、広くスポーツ健康科学内の関連諸領域の問題の所在と基礎知識を修得する必要性から他分野のＢ群科目を履修する（知識・技能）。
５．総合応用科学としてのスポーツ健康科学の専門家育成を幅広く推進していく目的から、指導教員の指導・許可のもと、他研究科等に設置されている関連科目（C 群科目）の履修を積極的に推奨し、６単位を上限として修了要件に算入する（主体性・多様性・協働性）。
６．博士課程（前期課程）修了時には、「修士論文」「課題研究論文」のいずれかを提出し、論文最終試験に合格することを条件とする。また、Ｂ群科目及びＣ群科目から、修士論文提出者は22単位以上、課題研究論文提出者は30単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力）。
７．本研究科は、研究者育成とともに高度専門職業人養成も、その使命と考える。そのため、高度専門職業人指向の学生に対しては、修士論文に代えて課題研究論文を提出することも可能とする。しかし学生の教育研究水準を確保するために、修士論文により課程を修了する学生より多くのＢ群及びＣ群科目の

履修を義務づける（主体性・多様性・協働性）。

8．研究科構成員全員で修士の学位の保証を図る目的から、学生は、第１セメスター終了時までに、「研究計画書」を指導担当教員の指導のもとに完成させる。また、学年進行に合わせて研究計画・執筆計画発表会、中間発表会、予備審査会等を実施する（思考力・判断力・表現力）。

スポーツ健康科学研究科

スポーツ健康科学専攻

科目区分		配当年次	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名	単位	担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	備考
A群（必修科目）	健康科学分野	1～	31510001	001	健康科学研究Ⅰ	2	井澤　鉄也	田	春2	不可	不可	
				002	健康科学研究Ⅰ		栁田　昌彦	田				
				003	健康科学研究Ⅰ		北條　達也	田				
				004	健康科学研究Ⅰ		石井好二郎	田				
				005	健康科学研究Ⅰ		海老根直之	田				
				006	健康科学研究Ⅰ		髙倉　久志	田				
			31510002	001	健康科学研究Ⅱ	2	井澤　鉄也	田	秋2	不可	不可	
				002	健康科学研究Ⅱ		栁田　昌彦	田				
				003	健康科学研究Ⅱ		北條　達也	田				
				004	健康科学研究Ⅱ		石井好二郎	田				
				005	健康科学研究Ⅱ		海老根直之	田				
				006	健康科学研究Ⅱ		髙倉　久志	田				
		2～	31510003	001	健康科学研究Ⅲ	2	井澤　鉄也	田	春2	不可	不可	
				002	健康科学研究Ⅲ		栁田　昌彦	田				
				003	健康科学研究Ⅲ		北條　達也	田				
				004	健康科学研究Ⅲ		石井好二郎	田				
				005	健康科学研究Ⅲ		海老根直之	田				
				006	健康科学研究Ⅲ		髙倉　久志	田				
			31510004	001	健康科学研究Ⅳ	2	井澤　鉄也	田	秋2	不可	不可	
				002	健康科学研究Ⅳ		栁田　昌彦	田				
				003	健康科学研究Ⅳ		北條　達也	田				
				004	健康科学研究Ⅳ		石井好二郎	田				
				005	健康科学研究Ⅳ		海老根直之	田				
				006	健康科学研究Ⅳ		髙倉　久志	田				
	トレーニング科学分野	1～	31510011	003	トレーニング科学研究Ⅰ	2	田附　俊一	田	春2	不可	不可	
				004	トレーニング科学研究Ⅰ		竹田　正樹	田				
				005	トレーニング科学研究Ⅰ		石倉　忠夫	田				
				006	トレーニング科学研究Ⅰ		中村　康雄	田				
				007	トレーニング科学研究Ⅰ		福岡　義之	田				
				008	トレーニング科学研究Ⅰ		上林　清孝	田				
				009	トレーニング科学研究Ⅰ		若原　　卓	田				
			31510012	003	トレーニング科学研究Ⅱ	2	田附　俊一	田	秋2	不可	不可	
				004	トレーニング科学研究Ⅱ		竹田　正樹	田				
				005	トレーニング科学研究Ⅱ		石倉　忠夫	田				
				006	トレーニング科学研究Ⅱ		中村　康雄	田				
				007	トレーニング科学研究Ⅱ		福岡　義之	田				
				008	トレーニング科学研究Ⅱ		上林　清孝	田				
				009	トレーニング科学研究Ⅱ		若原　　卓	田				

科目区分		配当年次	登録コード		科目名	単位	担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	備考
			科目	クラス								
	トレーニング科学分野	2～	31510013	003	トレーニング科学研究Ⅲ	2	田附　俊一	田	春2	不可	不可	
				004	トレーニング科学研究Ⅲ		竹田　正樹	田				
				005	トレーニング科学研究Ⅲ		石倉　忠夫	田				
				006	トレーニング科学研究Ⅲ		中村　康雄	田				
				007	トレーニング科学研究Ⅲ		福岡　義之	田				
				008	トレーニング科学研究Ⅲ		上林　清孝	田				
				009	トレーニング科学研究Ⅲ		若原　　卓	田				
			31510014	003	トレーニング科学研究Ⅳ	2	田附　俊一	田	秋2	不可	不可	
				004	トレーニング科学研究Ⅳ		竹田　正樹	田				
				005	トレーニング科学研究Ⅳ		石倉　忠夫	田				
				006	トレーニング科学研究Ⅳ		中村　康雄	田				
				007	トレーニング科学研究Ⅳ		福岡　義之	田				
				008	トレーニング科学研究Ⅳ		上林　清孝	田				
				009	トレーニング科学研究Ⅳ		若原　　卓	田				
	スポーツ・マネジメント分野	1～	31510021	003	スポーツ・マネジメント研究Ⅰ	2	二宮　浩彰	田	春2	不可	不可	
				004	スポーツ・マネジメント研究Ⅰ		庄子　博人	田				
				005	スポーツ・マネジメント研究Ⅰ		岩田昌太郎	田				
			31510022	003	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ	2	二宮　浩彰	田	秋2	不可	不可	
				004	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ		庄子　博人	田				
				005	スポーツ・マネジメント研究Ⅱ		岩田昌太郎	田				
		2～	31510023	003	スポーツ・マネジメント研究Ⅲ	2	二宮　浩彰	田	春2	不可	不可	
				004	スポーツ・マネジメント研究Ⅲ		庄子　博人	田				
				005	スポーツ・マネジメント研究Ⅲ		岩田昌太郎	田				
			31510024	003	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ	2	二宮　浩彰	田	秋2	不可	不可	
				004	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ		庄子　博人	田				
				005	スポーツ・マネジメント研究Ⅳ		岩田昌太郎	田				
B群（選択科目）	共通	1～	31511101	001	スポーツ健康科学特別演習	2	井澤　鉄也	田	春集中	不可	不可	【2026年度以降生のみ】 自身が登録する「●●研究Ⅰ」と同じ担当者のクラスを同時履修すること。
				002	スポーツ健康科学特別演習		栁田　昌彦	田				
				003	スポーツ健康科学特別演習		北條　達也	田				
				004	スポーツ健康科学特別演習		石井好二郎	田				
				005	スポーツ健康科学特別演習		海老根直之	田				
				006	スポーツ健康科学特別演習		髙倉　久志	田				
				007	スポーツ健康科学特別演習		田附　俊一	田				
				008	スポーツ健康科学特別演習		竹田　正樹	田				
				009	スポーツ健康科学特別演習		石倉　忠夫	田				
				010	スポーツ健康科学特別演習		中村　康雄	田				
				011	スポーツ健康科学特別演習		福岡　義之	田				
				012	スポーツ健康科学特別演習		上林　清孝	田				
				013	スポーツ健康科学特別演習		若原　　卓	田				
				014	スポーツ健康科学特別演習		二宮　浩彰	田				
				015	スポーツ健康科学特別演習		庄子　博人	田				
				016	スポーツ健康科学特別演習		岩田昌太郎	田				

科目区分		配当年次	登録コード		科目名	単位	担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	備考
			科目	クラス								
B群（選択科目）	健康科学分野	1～	31511001		スポーツ医学特講	2	北條　達也	田	春2	可	可	
		1～	31511002		スポーツ医学実験演習	2	北條　達也	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511003		スポーツ生化学特講	2	井澤　鉄也	田	春集中	可	可	
		1～	31511004		スポーツ生化学実験演習	2	井澤　鉄也	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511005		スポーツ栄養学特講	2	海老根直之	田	春2	可	可	
		1～	31511006		スポーツ栄養学実験演習	2	海老根直之	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511007		公衆衛生学特講	2	柳田　昌彦	田	春2	可	可	
		1～	31511008		公衆衛生学フィールドワーク演習	2	柳田　昌彦	田	秋2	不可	不可	
		1～	31511009		運動処方論特講	2	石井好二郎	田	春集中	可	可	
		1～	31511010		運動処方論実験演習	2	石井好二郎	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511046		スポーツ分子生物学特講	2	髙倉　久志	田	春2	可	可	
		1～	31511050		スポーツ分子生物学実験演習	2	髙倉　久志	田	秋集中	不可	不可	
					スポーツ健康科学特論特別講義A		（本年度休講）					
	トレーニング科学分野	1～	31511011		スポーツ心理学特講	2	石倉　忠夫	田	春2	可	可	
		1～	31511012		スポーツ心理学実験実習	1	石倉　忠夫	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511051		スポーツ心理学実験演習	2	石倉　忠夫	田	秋2	不可	不可	
		1～	31511015		スポーツ生理学特講	2	竹田　正樹	田	春2	可	可	
		1～	31511016		スポーツ生理学実験実習	1	竹田　正樹	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511052		スポーツ生理学実験演習	2	竹田　正樹		秋集中	不可	不可	
		1～	31511021		スポーツ・バイオメカニクス特講	2	中村　康雄	田	春2	可	可	
		1～	31511022		スポーツ・バイオメカニクス実験実習	1	中村　康雄	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511053		スポーツ・バイオメカニクス実験演習	2	中村　康雄	田	秋2	不可	不可	
		1～	31511035		スポーツ運動学特講	2	田附　俊一	田	春2	可	可	
		1～	31511036		スポーツ運動学実験実習	1	田附　俊一	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511054		スポーツ運動学実験演習	2	田附　俊一	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511037		スポーツ・トレーニング・コーチング論特講	2	松倉　啓太	田	春2	可	可	
		1～	31511039		環境生理学特講	2	福岡　義之	田	春集中	可	可	
		1～	31511040		環境生理学実験実習	1	福岡　義之	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511055		環境生理学実験演習	2	福岡　義之	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511041		身体運動制御論特講	2	上林　清孝	田	春2	可	可	
		1～	31511042		身体運動制御論実験実習	1	上林　清孝	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511056		身体運動制御論実験演習	2	上林　清孝	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511043		スポーツ生体ダイナミクス特講	2	若原　　卓	田	春2	可	可	
		1～	31511045		スポーツ生体ダイナミクス実験実習	1	若原　　卓	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511057		スポーツ生体ダイナミクス実験演習	2	若原　　卓	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511047		スポーツ身体動作学特講	2	新井　　彩	田	春2	可	可	
					スポーツ健康科学特論特別講義B		（本年度休講）					
B群（選択科目）	スポーツ・マネジメント分野	1～	31511027		スポーツ・マーケティング・リサーチ特講	2	二宮　浩彰	田	春2	可	可	
		1～	31511028		スポーツ・マーケティング・リサーチ演習	2	二宮　浩彰	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511044		スポーツビジネス論特講	2	庄子　博人	田	春2	可	可	
		1～	31511048		スポーツビジネス論演習	2	庄子　博人	田	秋2	不可	不可	
		1～	31511049		保健体育科教育学特講	2	岩田昌太郎	田	春2	可	可	
		1～	31511058		スポーツ教育学演習	2	岩田昌太郎	田	秋集中	不可	不可	
		1～	31511059		障害者スポーツ論特講	2	河西　正博	田	春集中	可	可	
		1～	31512201		スポーツ健康科学特論特別講義C	2	有吉　忠一	田	秋2	可	可	
		1～	31512202		スポーツ健康科学特論特別講義C	2	佐々木浩雄	田	秋2	可	可	

科目区分		配当年次	登録コード		科目名	単位	担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	備考
			科目	クラス								
C群	他研究領域				他研究科設置科目							
		2	31510099		論文							
		2	31511099		課題研究							

【修了要件および履修方法】

・本前期課程に２年以上在学していること。
・Ａ群（必修科目）の３分野よりいずれか１つを選択し、「●●研究Ⅰ～Ⅳ」８単位を修得すること。
・「論文」（修士論文）で修了する場合はＢ群（選択科目）及びＣ群より22単位以上、「課題研究」（課題研究論文）で修了する場合はＢ群（選択科目）及びＣ群より30単位以上を修得すること。
・修士論文、課題研究論文のいずれかを提出し、論文最終試験に合格すること。
・【2024年度以降生のみ】修了判定までに、国内（国際も可）学会（含：支部会・研究会）で、１回以上発表する。
・研究に必要な１カ国以上の外国語に通じていること。
・Ｃ群については、指導教員の許可のもとに６単位まで履修可とする。

【修士論文提出の場合】

<table>
<tr><th>科目群</th><th>分野</th><th>配当年次</th><th>科目名</th><th>単位</th><th>備考</th><th>修了必要単位</th><th>修了条件</th></tr>
<tr><td rowspan="12">Ａ群（必修科目）</td><td rowspan="4">健康科学</td><td>１～</td><td>健康科学研究Ⅰ</td><td rowspan="12">各２単位</td><td rowspan="12">１つの分野を選択</td><td rowspan="12">合計８単位</td><td rowspan="17">合計30単位以上</td></tr>
<tr><td>１～</td><td>健康科学研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>２～</td><td>健康科学研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>２～</td><td>健康科学研究Ⅳ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">トレーニング科学</td><td>１～</td><td>トレーニング科学研究Ⅰ</td></tr>
<tr><td>１～</td><td>トレーニング科学研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>２～</td><td>トレーニング科学研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>２～</td><td>トレーニング科学研究Ⅳ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スポーツ・マネジメント</td><td>１～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅰ</td></tr>
<tr><td>１～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>２～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>２～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅳ</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="6">Ｂ群（選択科目）</td><td rowspan="6">１～</td><td>スポーツ健康科学特別演習</td><td rowspan="4">２単位</td><td></td><td rowspan="6">合計22単位以上</td></tr>
<tr><td>●●特講</td></tr>
<tr><td>●●演習</td></tr>
<tr><td>●●実験演習</td></tr>
<tr><td>●●実験実習</td><td>１単位</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ健康科学特論特別講義</td><td>２単位</td><td>同一科目名であっても科目コードが異なれば複数回登録可能</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ｃ群（他研究科等科目）</td><td></td><td>※指導教員の許可の上、登録履修すること
登録にあたっては該当科目を設置している研究科または高等研究教育院の履修要項をよく確認すること</td><td></td><td>６単位まで履修可能</td></tr>
<tr><td colspan="2">論文（修士論文）</td><td></td><td>論文</td><td></td><td></td><td></td><td>必須</td></tr>
</table>

【課題研究論文提出の場合】

<table>
<tr><th>科目群</th><th>分野</th><th>配当年次</th><th>科目名</th><th>単位</th><th>備考</th><th>修了必要単位</th><th>修了条件</th></tr>
<tr><td rowspan="12">A群（必修科目）</td><td rowspan="4">健康科学</td><td>1～</td><td>健康科学研究Ⅰ</td><td rowspan="12">各2単位</td><td rowspan="12">1つの分野を選択</td><td rowspan="12">合計8単位</td><td rowspan="17">合計38単位以上</td></tr>
<tr><td>1～</td><td>健康科学研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>2～</td><td>健康科学研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>2～</td><td>健康科学研究Ⅳ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">トレーニング科学</td><td>1～</td><td>トレーニング科学研究Ⅰ</td></tr>
<tr><td>1～</td><td>トレーニング科学研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>2～</td><td>トレーニング科学研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>2～</td><td>トレーニング科学研究Ⅳ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スポーツ・マネジメント</td><td>1～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅰ</td></tr>
<tr><td>1～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅱ</td></tr>
<tr><td>2～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅲ</td></tr>
<tr><td>2～</td><td>スポーツ・マネジメント研究Ⅳ</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="6">B群
（選択科目）</td><td rowspan="6">1～</td><td>スポーツ健康科学特別演習</td><td rowspan="4">2単位</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="6">合計30単位以上</td></tr>
<tr><td>●●特講</td></tr>
<tr><td>●●演習</td></tr>
<tr><td>●●実験演習</td></tr>
<tr><td>●●実験実習</td><td>1単位</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ健康科学特論特別講義</td><td>2単位</td><td>同一科目名であっても科目コードが異なれば複数回登録可能</td></tr>
<tr><td colspan="2">C群
（他研究科等科目）</td><td></td><td>※指導教員の許可の上、登録履修すること
登録にあたっては該当科目を設置している研究科または高等研究教育院の履修要項をよく確認すること</td><td></td><td>6単位まで履修可能</td></tr>
<tr><td colspan="2">課題研究
（課題研究論文）</td><td></td><td>課題研究</td><td></td><td></td><td></td><td>必須</td></tr>
</table>

【注意】

・A群（必修科目）は自らが選択した分野以外の分野から科目履修することは可能であるが、修了必要単位には含まれない。
　登録履修する場合は、指導教員に相談の上、担当教員に申し出ること。
・B群（選択科目）は、A群（必修科目）で自らが選択した分野以外からも自由に履修することができる。但し、その場合は「●●特講」を中心とし、「●●実験演習 / ●●実験実習」等を履修する場合は、事前に指導教員に相談すること。
・論文及び課題研究の作成にあたっては、手引きを参考にしつつ、最終的には指導教員の指示に従うこと。
・関西4大学大学院科目については、指導教員の許可のもと履修できるものとし、B群として10単位まで修了単位に含まれる。
・他研究科生の履修については、担当者の許可を得ること。

心理学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

心理学専攻

〈目指すべき人材（物）像〉

心理学研究科心理学専攻博士課程（前期課程）では、心理学について実証的立場からの高度な知識の蓄積を目的とするが、さらに基礎的実験技術の習得、また応用面での臨床的技術の習得を行う。前期課程で培った知識・研究方法を背景に、教育・司法・行政・医療等の職種を中心とした健全なこころの成長に貢献できる人物を育成し、基礎的な問題から応用的諸問題にまで対応できる問題解決能力をもった研究者及び社会人の養成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

〈学力の三要素/領域〉

下記の資質・能力を備えた学生に修士（心理学）学位を授与します

【心理学コース】

〈知識・技能〉

心理学についての基礎から応用に至る実証的な研究法や高度な専門知識を理解できるようになる。また科学的な方法論によるデータ収集・解析技術や実験機器・装置の運用技術を習得し、それらを適切に用いることができるようになる。

〈思考力・判断力・表現力〉

論理的な議論に基づいて問題設定する能力や、得られた実証的データを適切に解釈し論理的に議論を展開する能力を身につける。また得られた研究成果を、専門領域において適切に発信する能力や、専門外の人にもわかりやすく説明する能力を習得する。

〈主体性・多様性・協働性〉

心理学の専門分野の先行研究はもとより、実社会や近接領域の学問分野にも関心を寄せて、自ら課題を発見し問題を設定しようとする態度を養うとともに、他者と議論を重ねながら研究課題を追及したり、研究分野に応じて研究協力者と協働しながら研究を実施したりすることができるようになる。

【臨床心理学コース】

〈知識・技能〉

心理学についての基礎から応用に至る実証的な研究法や高度な専門知識を理解できるようになる。また、科学的な方法論によるデータ収集・解析技術や実験機器・装置の運用技術を習得し、それらを適切に用いることができるようになる。併せて心理臨床的な幅広い知識と実践技術を身につける。

〈思考力・判断力・表現力〉

論理的な議論に基づいて問題設定する能力や、得られた実証的データを適切に解釈し論理的に議論を展開する能力を身につける。また得られた研究成果を、専門領域において適切に発信する能力と、専門外の人にもわかりやすく説明する能力を習得する。併せて臨床心理学の専門家として、受容的で双方向的にコミュニケーションをとる能力を身につける。

〈主体性・多様性・協働性〉

心理学の専門分野の先行研究はもとより、実社会や近接領域の学問分野にも関心を寄せて、自ら課題を発見し問題を設定しようとする態度を養うとともに、他者と議論を重ねながら研究課題を追及したり、研究分野に応じて研究協力者と協働しながら研究を実施したりすることができるようになる。併せて臨床心理学の専門家として、多様な価値観を受容できる柔軟な姿勢や、常に他者から学ぼうとする真摯な態度を身につける。

◆カリキュラム・ポリシー

〈カリキュラム総説〉

ディプロマ･ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます

こころと行動の仕組みとその機能を理解し、心理学の高度な専門知識と技能を用いて広く社会において活躍できる人物を育成するために、甲類科目、乙類科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

甲類科目では、心理学の専門家として社会で活躍できる人物を育成するのに核となる高度な専門知識と技能（知識・技能）、科学的かつ論理的に議論を展開する能力（思考力・判断力・表現力）、ならびに社会への貢献を目指す態度（主体性・多様性・協働性）を習得することを到達目標とし、１年次から２年次にかけて、講義と演習を組み合わせた授業科目（心理学コースは８単位、臨床心理学コースは32単位）を履修する。

乙類科目は、心理学の各領域における高度な専門知識や技能（知識・技能）、科学的視点からの批判的思考力（思考力・判断力・表現力）、ならびに他者と議論を重ねながら課題を追求する姿勢（主体性・多様性・協働性）を習得することを到達目標とし、１年次から２年次にかけて、講義と演習を組み合わせた授業科目（心理学コースは22単位、臨床心理学コースは10単位）を履修する。

心 理 学 研 究 科

心理学専攻　心理学コース

は今年度休講科目

履修年次▶			1～									2～							
科目区分		開講期間	登録コード 科目コード	登録コード クラス	科目名	単位	担当者	開講校地	週時間	聴講区分		登録コード 科目コード	登録コード クラス	科目名	単位	担当者	開講校地	週時間	聴講区分
甲類科目	講義	春	31701201	000	心理学体系論Ⅰ	2	竹原　卓真 他	田	2.0	不可									
	講義	秋	31701202	000	心理学体系論Ⅱ	2	畑　敏道 他	田	2.0	不可									
	演習	春	31701203	001	心理学体系論演習Ⅰ	1		田	2.0	不可		31701205	001	心理学体系論演習Ⅲ	1		田	2.0	不可
				002			内山伊知郎						002			内山伊知郎			
				003			及川　昌典						003			及川　昌典			
				004			神山　貴弥						004			神山　貴弥			
				005									005						
				006			竹原　卓真						006			竹原　卓真			
				007			田中あゆみ						007			田中あゆみ			
				008			中谷内一也						008			中谷内一也			
				009			畑　敏道						009			畑　敏道			
		秋	31701204	001	心理学体系論演習Ⅱ	1	青山謙二郎	田	2.0	不可		31701206	001	心理学体系論演習Ⅳ	1	青山謙二郎	田	2.0	不可
				002			内山伊知郎						002			内山伊知郎			
				003			及川　昌典						003			及川　昌典			
				004			神山　貴弥						004			神山　貴弥			
				005									005						
				006			竹原　卓真						006			竹原　卓真			
				007			田中あゆみ						007			田中あゆみ			
				008			中谷内一也						008			中谷内一也			
				009			畑　敏道						009			畑　敏道			
修士論文												31701099	000	論文	0		田	集中	不可

履修年次▶		1～								
科目区分	開講期間	登録コード 科目コード	登録コード クラス	科目名	単位	担当者	開講校地	週時間	聴講区分
乙類科目	秋	31702551	000	臨床心理学研究法特論	2	井上　和哉	田	2.0	不可
	秋	31702552	000	心理学研究法特論	2	池田　賢司	田	2.0	不可
	春	31702553	000	認知心理学特論	2	竹原　卓真	田	2.0	不可
	秋	31702557	000	生理心理学特論	2	畑　敏道	田	2.0	可
	秋	31702566	000	実験社会心理学特論	2	及川　昌典	田	2.0	可
		31702567	000	学習心理学特論	2				可
		31702568	000	感情心理学特論	2				不可
		31702569	000	臨床パーソナリティ特論	2				不可
	春	31702570	000	発達心理学特論	2	内山伊知郎	田	2.0	可
	秋	31702571	000	教育心理学特論	2	田中あゆみ	田	2.0	不可
	秋	31702572	000	学校心理学特論	2	神山　貴弥	田	2.0	可
	秋	31702573	000	臨床社会心理学特論	2	余語　真夫	田	2.0	不可
	春	31702575	000	精神病理学特論	2	富永　敏行	今	2.0	不可
	春	31702578	000	リスク心理学特論	2	中谷内一也	田	2.0	不可
	秋	31702579	000	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	石川　信一	田	2.0	不可
	春	31702580	000	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	興津真理子	今	2.0	不可
	秋	31702581	000	バリアフリーの心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	武藤　崇	インタ	2.0	不可
	秋	31702582	000	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	毛利　真弓	田	2.0	不可
		31702583	000	心理学特論	2				不可
	秋	31702585	000	保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	庵地　雄太	田	2.0	不可
	秋	31702586	000	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	榎本　正己	田	2.0	不可
	春	31702587	000	心の健康教育に関する理論と実践	2	大西　貴子	田	2.0	不可

履修方法

甲類科目　講義４単位＋演習４単位、計：８単位を履修すること。

乙類科目　指導教員の指示のもと、22単位以上を履修すること。

※心理学コース生は、臨床心理学コースの甲類科目及び、臨床心理学コースにのみ設置されている乙類科目を履修することはできない。

心理学専攻　臨床心理学コース

は今年度休講科目

履修年次▶			1～									2～							
科目区分		開講期間	登録コード 科目コード	クラス	科目名	単位	担当者	開講校地	週時間	聴講区分		登録コード 科目コード	クラス	科目名	単位	担当者	開講校地	週時間	聴講区分
甲類科目	講義	春	31702001	000	臨床心理学特論Ⅰ	2	石川　信一	田	2.0	不可									
			31702007	000	臨床心理面接特論Ⅰ	2	毛利　真弓	田	2.0	不可									
			31702019	000	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	八木安理子	今	2.0	不可									
		秋	31702002	000	臨床心理学特論Ⅱ	2	杉若　弘子	田	2.0	不可									
			31702008	000	臨床心理面接特論Ⅱ	2	武藤　　崇	今	2.0	不可									
	実習	春	31702003	000	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	毛利　真弓 他	田	4.0	不可		31702028	000	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習1）	2	毛利　真弓 他	今	4.0	不可
			31702029	000	臨床心理実習Ⅲ（心理実践実習2）	1	石川　信一 他	今	2.0	不可		31702031	000	臨床心理実習Ⅴ（心理実践実習4）	1	石川　信一 他	今	2.0	不可
												31702033	000	臨床心理・学外実習Ⅰ（心理実践実習6）	2	鈴木田英里 他	今	4.0	不可
		秋	31702004	000	臨床心理基礎実習Ⅱ	2	毛利　真弓 他	今	4.0	不可		31702021	000	臨床心理実習Ⅱ	2	毛利　真弓 他	今	4.0	不可
			31702030	000	臨床心理実習Ⅳ（心理実践実習3）	1	石川　信一 他	今	2.0	不可		31702032	000	臨床心理実習Ⅵ（心理実践実習5）	1	石川　信一 他	今	2.0	不可
												31702034	000	臨床心理・学外実習Ⅱ（心理実践実習7）	2	鈴木田英里 他	今	4.0	不可
	演習	春	31702010	000	臨床心理査定演習Ⅱ	2	興津真理子	田	2.0	不可									
			31702015	001	臨床心理学体系論演習Ⅰ	1	石川　信一	田	2.0	不可		31702017	001	臨床心理学体系論演習Ⅲ	1	石川　信一	田	2.0	不可
				002			興津真理子		2.0				002			興津真理子		2.0	
				003									003						
				004			杉若　弘子		2.0				004			杉若　弘子		2.0	
				005			武藤　　崇		2.0				005			武藤　　崇		2.0	
				006			毛利　真弓		2.0				006			毛利　真弓		2.0	
				007					2.0				007					2.0	
		秋	31702016	001	臨床心理学体系論演習Ⅱ	1	石川　信一	田	2.0	不可		31702018	001	臨床心理学体系論演習Ⅳ	1	石川　信一	田	2.0	不可
				002			興津真理子		2.0				002			興津真理子		2.0	
				003									003						
				004			杉若　弘子		2.0				004			杉若　弘子		2.0	
				005			武藤　　崇		2.0				005			武藤　　崇		2.0	
				006			毛利　真弓		2.0				006			毛利　真弓		2.0	
				007					2.0				007					2.0	
修士論文												31701099	000	論文	0		田	－	不可

履修年次▶			1～							
科目区分		開講期間	登録コード 科目コード	クラス	科目名	単位	担当者	開講校地	週時間	聴講区分
乙類科目	A群	秋	31702551	000	臨床心理学研究法特論	2	井上　和哉	田	2.0	不可
	A群	秋	31702552	000	心理学研究法特論	2	池田　賢司	田	2.0	不可
	B群	春	31702553	000	認知心理学特論	2	竹原　卓真	田	2.0	不可
	B群	秋	31702557	000	生理心理学特論	2	畑　　敏道	田	2.0	可
	E群		31702563	000	心理療法特論Ⅱ	2				不可
	E群	春	31702564	000	心理療法特論Ⅲ	2	永野　浩二	田	2.0	不可
	E群	秋	31702565	000	臨床心理地域援助特論	2	八木安理子	田	2.0	不可
	C群	秋	31702566	000	実験社会心理学特論	2	及川　昌典	田	2.0	可
	B群		31702567	000	学習心理学特論	2				可
	B群		31702568	000	感情心理学特論	2				不可
	B群		31702569	000	臨床パーソナリティ特論	2				不可
	B群	春	31702570	000	発達心理学特論	2	内山伊知郎	田	2.0	可
	B群	秋	31702571	000	教育心理学特論	2	田中あゆみ	田	2.0	不可
	B群	秋	31702572	000	学校心理学特論	2	神山　貴弥	田	2.0	可
	C群	秋	31702573	000	臨床社会心理学特論	2	余語　真夫	田	2.0	不可
	D群	春	31702575	000	精神病理学特論	2	富永　敏行	今	2.0	不可
	C群	春	31702578	000	リスク心理学特論	2	中谷内一也	田	2.0	不可
	B群	秋	31702579	000	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	石川　信一	田	2.0	不可
	C群	春	31702580	000	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	興津真理子	今	2.0	不可
	D群	秋	31702581	000	バリアフリーの心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	武藤　　崇	インタ	2.0	不可
	C群	秋	31702582	000	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	毛利　真弓	田	2.0	不可
	－		31702583	000	心理学特論	2				不可
	－	春	31702584	000	心理療法特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	杉若　弘子	田	2.0	不可
	D群	秋	31702585	000	保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	庵地　雄太	田	2.0	不可
	－	秋	31702586	000	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	榎本　正己	田	2.0	不可
	－	春	31702587	000	心の健康教育に関する理論と実践	2	大西　貴子	田	2.0	不可

履修方法

甲類科目　　講義10単位＋実習16単位＋演習6単位、計：32単位を履修すること。
乙類科目　　指導教員の指示のもと、10単位以上を履修すること。

※臨床心理学コース生は、心理学コースの甲類科目を履修することはできない。

グローバル・スタディーズ
研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻博士課程（前期）は、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究の３つのクラスターに分かれ、どのクラスターにおいても、高度な言語運用能力及びコミュニケーション能力を涵養するとともに、学際的、総合的アプローチを基礎に、研究課題を自ら発見し、論理的に議論を展開する能力等を身に付けさせ、国際機関、公共機関、国際ビジネスに携わる企業、報道機関等、異文化社会間の国際交流・理解の推進に貢献できる専門的人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

（1）アメリカ研究クラスター

知識・技能：

アメリカが直面する地球規模の課題に対して、地域の特性に着目しつつ地域横断的に考え、学際的知見に基づいて理解できる。

思考力・判断力・表現力：

アメリカが直面する地球規模の課題をみずから発見し、他者との対話を通じてその公正な解決方法を学術的に探究できる。

主体性・多様性・協働性：

アメリカに生きる人々や文化の多様性を尊重し、課題の解決に向けて他者と協働できる。

（2）現代アジア研究クラスター

知識・技能：

現代アジアが直面する地球規模の課題に対して、地域の特性に着目しつつ地域横断的に考え、学際的知見に基づいて理解できる。

思考力・判断力・表現力：

現代アジアが直面する地球規模の課題をみずから発見し、他者との対話を通じてその公正な解決方法を学術的に探究できる。

主体性・多様性・協働性：

現代アジアに生きる人々や文化の多様性を尊重し、課題の解決に向けて他者と協働できる。

（3）グローバル社会研究クラスター

知識・技能：

グローバル社会が直面する地球規模の課題に対して、地域の特性に着目しつつ地域横断的に考え、学際的知見に基づいて理解できる。

思考力・判断力・表現力：

グローバル社会が直面する地球規模の課題をみずから発見し、他者との対話を通じてその公正な解決方法を学術的に探究できる。

主体性・多様性・協働性：

グローバル社会に生きる人々や文化の多様性を尊重し、課題の解決に向けて他者と協働できる。

◆カリキュラム・ポリシー

（1）アメリカ研究クラスター

＜カリキュラム総説＞

・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、必修科目および選択科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

・必修科目（14単位）では課題解決のための基礎知識・技能を、選択科目（16単位以上）では課題解決に必要な専門的知識・技能を習得することを目的とする。

＜学力の三要素／領域＞
・地球規模の課題を考究するための基礎知識・技能を習得することを目的として、３つのクラスター（アメリカ研究クラスター、現代アジア研究クラスター、グローバル社会研究クラスター）に共通の必修科目として「グローバル・スタディーズ入門」を設置する（知識・技能）。
・地球規模の課題を考究するための各イシューに関する基礎知識・技能を習得することを目的として、必修科目「理論と方法」（[エスニック / カルチュラル・スタディーズ]、[ジェンダー・市民社会・教育]、[歴史・文化・ポストコロニアル]、[国際経済・移住労働・多文化共生]、[国際開発・国際協力] の５つのクラスからなる）を設置する（知識・技能）。
・アメリカ社会が直面する地球規模の課題を考究するための専門的な知識・技能を習得することを目的として一連の選択科目を設置する（知識・技能）。
・アメリカ社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、アメリカ研究クラスターの必修科目「アメリカ研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、および共通の必修科目「総合演習」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

（２）現代アジア研究クラスター
＜カリキュラム総説＞
・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、必修科目および選択科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
・必修科目（14単位）では課題解決のための基礎知識・技能を、選択科目（16単位以上）では課題解決に必要な専門的知識・技能を習得することを目的とする。
＜学力の三要素／領域＞
・地球規模の課題を考究するための基礎知識・技能を習得することを目的として、３つのクラスター（アメリカ研究クラスター、現代アジア研究クラスター、グローバル社会研究クラスター）に共通の必修科目として「グローバル・スタディーズ入門」を設置する（知識・技能）。
・地球規模の課題を考究するための各イシューに関する基礎知識・技能を習得することを目的として、必修科目「理論と方法」（[エスニック / カルチュラル・スタディーズ]、[ジェンダー・市民社会・教育]、[歴史・文化・ポストコロニアル]、[国際経済・移住労働・多文化共生]、[国際開発・国際協力] の５つのクラスからなる）を設置する（知識・技能）。
・現代アジア社会が直面する地球規模の課題を考究するための専門的な知識・技能を習得することを目的として一連の選択科目を設置する（知識・技能）。
・現代アジア社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、現代アジア研究クラスターの必修科目「現代アジア研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、および共通の必修科目「総合演習」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

（３）グローバル社会研究クラスター
＜カリキュラム総説＞
・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、必修科目および選択科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
・必修科目（14単位）では課題解決のための基礎知識・技能を、選択科目（16単位以上）では課題解決に必要な専門的知識・技能を習得することを目的とする。
＜学力の三要素／領域＞
・地球規模の課題を考究するための基礎知識・技能を習得することを目的として、３つのクラスター（アメリカ研究クラスター、現代アジア研究クラスター、グローバル社会研究クラスター）に共通の必修科目として「グローバル・スタディーズ入門」を設置する（知識・技能）。
・地球規模の課題を考究するための各イシューに関する基礎知識・技能を習得することを目的として、必修科目「理論と方法」（[エスニック / カルチュラル・スタディーズ]、[ジェンダー・市民社会・教育]、[歴史・

文化・ポストコロニアル]、[国際経済・移住労働・多文化共生]、[国際開発・国際協力] の５つのクラスからなる）を設置する（知識・技能）。
・グローバル社会が直面する地球規模の課題を考究するための専門的な知識・技能を習得することを目的として一連の選択科目を設置する（知識・技能）。
・グローバル社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、グローバル社会研究クラスターの必修科目「グローバル社会研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、および共通の必修科目「総合演習」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

グローバル・スタディーズ研究科

グローバル・スタディーズ専攻　：　前期課程（2024年度以降生）

	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
必修科目（グローバル・スタディーズ研究科共通：6単位）											
	31800002	001	グローバル・スタディーズ入門①	2	村田 雄二郎, 冨山　一郎, 太田　修, 厳　善平, 内藤　正典, 菊池　恵介, 松村圭一郎, 横山　雄大 （科目代表：横山　雄大）	春学期	2	1～	不可	J	
		002	グローバル・スタディーズ入門②	2	三牧　聖子, 秋林こずえ, Gavin J. CAMPBELL, 菅野　優香, 南川　文里, Themis CHRONOPOULOS, 小山田英治, 中西　久枝, 工藤　晴子, Laura-Anca PAREPA （科目代表：Laura-Anca PAREPA）	春学期				E	
	31800003	001	理論と方法① －エスニック / カルチュラル・スタディーズ－	2	南川　文里, Gavin J. CAMPBELL, Themis CHRONOPOULOS （科目代表：Themis Chronopoulos）	秋学期	2	1～	不可	E	指導教員のクラスを履修することは必須ではない。
		002	理論と方法② －ジェンダー・市民社会・教育－	2	岡野　八代, 三牧　聖子, 工藤　晴子 （科目代表：岡野　八代）					J	
		003	理論と方法③ －歴史・文化・ポストコロニアル－	2	村田雄二郎, 冨山　一郎, 太田　修, 横山　雄大 （科目代表：村田雄二郎）					J	
		004	理論と方法④ －国際経済・移住労働・多文化共生－	2	菊池　恵介, 松村圭一郎, 厳　善平 （科目代表：菊池　恵介）					J	
		005	理論と方法⑤ －国際開発・国際協力－	2	小山田英治, Laura-Anca PAREPA, 芦　宛雪 （科目代表：小山田英治）					E	
	31800004	001	総合演習① －アメリカ研究－	2	三牧　聖子, Gavin J. CAMPBELL, 秋林こずえ, 菅野　優香, Themis CHRONOPOULOS （科目代表：Gavin J. CAMPBELL）	春学期	2	2～	不可	E	指導教員と相談の上、履修するクラスを選択すること。 なお③および④クラスについては、実施言語を確認のうえ選択すること。
		002	総合演習② －アジア研究－	2	村田雄二郎, 冨山　一郎, 厳　善平, 太田　修, 横山　雄大 （科目代表：厳　善平）					J	

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
	31800004	003	総合演習③ －国際開発・国際協力－	2	中西　久枝, Laura-Anca PAREPA, 工藤　晴子 (科目代表:Laura-Anca PAREPA)	春学期	2	2～	不可	E	指導教員と相談の上、履修するクラスを選択すること。 なお③および④クラスについては、実施言語を確認のうえ選択すること。
		004	総合演習④ －ジェンダー・市民社会・多文化共生－	2	菊池　恵介, 内藤　正典, 松村圭一郎, 南川　文里 (科目代表:南川　文里)					J	
必修科目(クラスター別：8単位)											
アメリカ研究クラスター	31810008	001	アメリカ研究演習Ⅰ①	2	Gavin J. CAMPBELL	春学期	2	1～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅰ②		秋林こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅰ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅰ④		菅野　優香						
		005	アメリカ研究演習Ⅰ⑤		(2026年度休講)						
		006	アメリカ研究演習Ⅰ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅰ⑦		三牧　聖子						
	31810009	001	アメリカ研究演習Ⅱ①	2	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	2	1～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅱ②		秋林　こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅱ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅱ④		(2026年度休講)						
		005	アメリカ研究演習Ⅱ⑤		岡野　八代						
		006	アメリカ研究演習Ⅱ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅱ⑦		三牧　聖子						
	31810010	001	アメリカ研究演習Ⅲ①	2	Gavin J. CAMPBELL	春学期	2	2～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅲ②		秋林こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅲ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅲ④		菅野　優香						
		005	アメリカ研究演習Ⅲ⑤		(2026年度休講)						
		006	アメリカ研究演習Ⅲ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅲ⑦		三牧　聖子						
	31810011	001	アメリカ研究演習Ⅳ①	2	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	2	2～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅳ②		秋林こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅳ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅳ④		(2026年度休講)						
		005	アメリカ研究演習Ⅳ⑤		岡野　八代						
		006	アメリカ研究演習Ⅳ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅳ⑦		三牧　聖子						
現代アジア研究クラスター	31820005	001	現代アジア研究演習Ⅰ①	2	冨山　一郎	春学期	2	1～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅰ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅰ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅰ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅰ⑤		小山田英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅰ⑥		(2026年度休講)						

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
現代アジア研究クラスター	31820006	001	現代アジア研究演習Ⅱ①	2	冨山　一郎	秋学期	2	1～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅱ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅱ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅱ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅱ⑤		小山田　英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅱ⑥		（2026年度休講）						
	31820007	001	現代アジア研究演習Ⅲ①	2	冨山　一郎	春学期	2	2～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅲ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅲ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅲ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅲ⑤		小山田英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅲ⑥		（2026年度休講）						
	31820008	001	現代アジア研究演習Ⅳ①	2	冨山　一郎	秋学期	2	2～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅳ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅳ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅳ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅳ⑤		小山田　英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅳ⑥		（2026年度休講）						
グローバル社会研究クラスター	31830005	001	グローバル社会研究演習Ⅰ①	2	工藤　晴子	春学期	2	1～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅰ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅰ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅰ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅰ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅰ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅰ⑦		Laura-Anca PAREPA						
	31830006	001	グローバル社会研究演習Ⅱ①	2	工藤　晴子	秋学期	2	1～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅱ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅱ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅱ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅱ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅱ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅱ⑦		Laura-Anca PAREPA						
	31830007	001	グローバル社会研究演習Ⅲ①	2	工藤　晴子	春学期	2	2～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅲ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅲ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅲ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅲ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅲ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅲ⑦		Laura-Anca PAREPA						
	31830008	001	グローバル社会研究演習Ⅳ①	2	工藤　晴子	秋学期	2	2～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅳ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅳ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅳ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅳ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅳ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅳ⑦		Laura-Anca PAREPA						

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
選択科目											
科目群A（アメリカ研究）	31800101		アメリカの外交と政治	2	三牧　聖子	春学期	2	I～	可	J	
	31800102		ジェンダーと平和	2	秋林こずえ	春学期	2	I～	可	J	隔年で言語を変更
	31800132		ジェンダーと開発	2	工藤　晴子	秋学期	2	I～	可	E	隔年で開講
	31800103		アメリカ史	2	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	2	I～	可	E	
	31800104		現代アメリカの政治と社会	2	Gavin J. CAMPBELL	春学期	2	I～	可	E	
	31800106		現代アメリカの文化と社会	2	南川　文里	秋学期	2	I～	可	J	
	31800107		多文化社会アメリカ	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	E	隔年で開講
	31800109		アメリカの視覚文化	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	隔年で言語を変更
	31800110		クィア・スタディーズ	2	菅野　優香	春学期	2	I～	可	J	隔年で言語を変更
	31800111		アメリカ政治思想	2	三牧　聖子	秋学期	2	I～	可	E	隔年で言語を変更
	31800112		フェミニズム思想	2	岡野　八代	秋学期	2	I～	可	J	
	31800113		グローバル時代のシティズンシップ論	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	隔年で言語を変更
	31800011		現代アメリカと世界	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	E	
	31800114		黒人の表現文化	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	I～	可	E	
	31800115		アフリカン・ディアスポラ	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	I～	可	E	
	31800148		アメリカの社会と文学	2	ウェルズ　恵子	秋学期	2	I～	可	J	
	31801305		特殊研究A5－フェミニスト・ケアの倫理－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	I～	可	E	
	31801308		特殊研究A8－アジア系アメリカ人の歴史と文化－	2	和泉　真澄	春学期	2	I～	可	E	
	31800149		移民研究の射程と方法	2	南川　文里	春学期	2	I～	可	E	
	31801311		特殊研究A11－グローバル・シティーズ－	2	Themis CHRONOPOULOS	春学期	2	I～	可	E	
	31801312		特殊研究A12－東アジアの国際関係－	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	E	
	31801313		特殊研究A13－ Introduction to Film Analysis －	2	Carol DONELAN	春学期	2	I～	可	E	
科目群B（アジア研究）	31800116		アジア経済論	2	厳　善平	秋学期	2	I～	可	J	
	31800117		中国経済論	2	厳　善平	春学期	2	I～	可	J	
	31800118		中国文献研究	2	厳　善平	春学期	2	I～	可	J	
	31820206		現代アジア思想論	2	村田雄二郎	春学期	2	I～	可	J	隔年で開講
	31820212		東アジア文化交渉論	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	隔年で開講
	31800119		中国の社会と文化	2	須藤　瑞代	秋学期	2	I～	可	J	
	31800120		日中関係史論	2	横山　雄大	春学期	2	I～	可	J	
	31800121		近現代の中国	2	村田雄二郎	秋学期	2	I～	可	J	
	31802305		特殊研究B5－外交政策論－	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	不可	J	
	31800122		朝鮮半島の社会と文化	2	小川原宏幸	春学期	2	I～	可	J	
	31800123		日朝関係史論	2	太田　修	秋学期	2	I～	可	J	
	31800124		近現代の朝鮮	2	小川原宏幸	秋学期	2	I～	可	J	
	31800125		朝鮮文献研究	2	太田　修	春学期	2	I～	可	J	
	31800126		近現代の日本	2	冨山　一郎	春学期	2	I～	可	J	
	31800127		沖縄近現代史	2	冨山　一郎	秋学期	2	I～	可	J	
	31820208		アジアの中の日本	2	（2026年度休講）	秋学期	2	I～	可	J	
	31800128		日本文献研究	2	冨山　一郎	秋学期	2	I～	可	J	
	31800150		近現代の東南アジアⅠ	2	小山田英治	秋学期	2	I～	可	J	
	31800151		近現代の東南アジア２	2	小山田英治	春学期	2	I～	可	J	
	31800131		東南アジア経済論	2	芦　宛雪	春学期	2	I～	可	E	
	31802306		特殊研究B6－朝鮮半島の政治と経済－	2	朴　一	秋学期	2	I～	可	J	
	31820207		アジアの移民とディアスポラ	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	
	31800149		移民研究の射程と方法	2	南川　文里	春学期	2	I～	可	E	隔年で開講
	31802301		特殊研究B1－現代中国政治研究－	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	
	31802318		特殊研究B18－戦後北東アジア国際関係史－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	I～	可	J	

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
科目群C（ジェンダー・セクシュアリティ研究）	31800110		クィア・スタディーズ	2	菅野　優香	春学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で言語を変更
	31800102		ジェンダーと平和	2	秋林こずえ	春学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で言語を変更
	31800132		ジェンダーと開発	2	工藤　晴子	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	隔年で開講
	31800112		フェミニズム思想	2	岡野　八代	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800133		ヒューマン・セキュリティ論とケアの倫理	2	工藤　晴子	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800134		イスラームとジェンダー	2	中西　久枝	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800135		ジェンダーと教育	2	秋林こずえ	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で開講
	31801305		特殊研究 A5－フェミニスト・ケアの倫理－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
科目群D（移民・難民・多文化共生論）	31800137		イスラームと多文化共生	2	内藤　正典	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800138		移民・難民問題	2	内藤　正典	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31830212		レイシズム研究	2	菊池　恵介	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31803304		特殊研究 C4－植民地主義研究の諸相－	2	水谷　　智	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800127		沖縄近現代史	2	冨山　一郎	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800123		日朝関係史論	2	太田　　修	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800114		黒人の表現文化	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800115		アフリカン・ディアスポラ	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31801308		特殊研究 A8－アジア系アメリカ人の歴史と文化－	2	和泉　真澄	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31820207		アジアの移民とディアスポラ	2	（2026年度休講）	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800149		移民研究の射程と方法	2	南川　文里	春学期	2	Ⅰ～	可	E	隔年で開講
	31800134		イスラームとジェンダー	2	中西　久枝	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
科目群E（グローバル市民社会の課題）	31800139		グローバル化と格差問題	2	菊池　恵介	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800133		ヒューマン・セキュリティ論とケアの倫理	2	工藤　晴子	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31830205		地球市民社会論	2	工藤　晴子	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800113		グローバル時代のシティズンシップ論	2	（2026年度休講）	春学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で言語を変更
	31800102		ジェンダーと平和	2	秋林こずえ	春学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で言語を変更
	31800135		ジェンダーと教育	2	秋林こずえ	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で開講
	31803305		特殊研究 C5 －ラテンアメリカの社会運動－	2	柴田　修子	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800152		紛争と平和	2	（2026年度休講）	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800141		地球環境問題	2	大西　有子，林　　耕次，Alimata SIDIBE，Andi Patiware METARAGAKUSUMA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31801312		特殊研究 A12－東アジアの国際関係－	2	（2026年度休講）	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
科目群F（国際開発・国際協力論）	31800142		グローバル政治経済	2	Laura-Anca PAREPA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800015		比較地域論	2	松村圭一郎	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800143		国連とグローバルガバナンス	2	中西　久枝	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800134		イスラームとジェンダー	2	中西　久枝	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800144		人間開発論	2	松村圭一郎	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800153		安全保障の新課題	2	中西　久枝，Laura-Anca PAREPA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31830113		国際協力論	2	小山田英治	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31830114		開発とガバナンス	2	小山田英治	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800132		ジェンダーと開発	2	工藤　晴子	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	隔年で開講
	31800116		アジア経済論	2	厳　　善平	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31802302		特殊研究 B2－国際関係論－	2	Laura-Anca PAREPA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31802308		特殊研究 B8 －プロジェクト・サイクル・マネジメント－	2	小山田英治，井上　　健，松尾　敬子，Ferda GELEGEN	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
科目群F（国際開発・国際協力論）	31802309		特殊研究 B9 －プロジェクトガバナンス－	2	小山田英治 田中　孝宜 武藤　亜子	春学期	2	1～	可	E	
	31803309		特殊研究 C9－開発政策－	2	（2026年度休講）	春学期	2	1～	可	E	
	31800141		地球環境問題	2	大西　有子， 林　　耕次， Alimata SIDIBE， Andi Patiware METARAGAKUSUMA	秋学期	2	1～	可	E	
科目群G（人文・社会科学方法論）	31800015		比較地域論	2	松村圭一郎	春学期	2	1～	可	J	
	31802315		特殊研究B15－アカデミックライティング1（日本語）－	2	横山　雄大	春学期	2	1～	可	J	
	31802316		特殊研究B16－アカデミックライティング2（日本語）－	2	横山　雄大	秋学期	2	1～	可	J	
	31803401		特殊研究D1－アカデミックライティング1（英語）－	2	Manuela ANTONIU	春学期	2	1～	可	E	
	31803402		特殊研究D2－アカデミックライティング2（英語）－	2	Manuela ANTONIU	秋学期	2	1～	可	E	
	31804310		社会研究方法論 1	2	Laura-Anca PAREPA	春学期	2	1～	可	E	
	31804311		社会研究方法論 2	2	芦　　宛雪	秋学期	2	1～	可	E	
	31800145		フィールドワーク	2	米川　尚樹	春学期	2	1～	不可	J	
	31803312		特殊研究 C12－社会調査とデータ処理－	2	翟　　亜蕾	秋学期	2	1～	可	J	
	31803316		特殊研究C16－歴史研究の新技法：データ、空間、記憶－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	1～	可	J	
論文											
	31800091		論文					2～	不可		
	31800092		課題研究					2～	不可		

授業における教授言語
J：日本語、E：英語

グローバル・スタディーズ専攻　：　前期課程（2023年度以前生）

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
必修科目（グローバル・スタディーズ研究科共通：6単位）											
	31800002	001	グローバル・スタディーズ入門①	2	村田雄二郎, 冨山　一郎, 太田　　修, 厳　　善平, 内藤　正典, 菊池　恵介, 松村圭一郎, 横山　雄大 （科目代表：横山　雄大）	春学期	2	1～	不可	J	
		002	グローバル・スタディーズ入門②	2	三牧　聖子, 秋林こずえ, Gavin J. CAMPBELL, 菅野　優香, 南川　文里, Themis CHRONOPOULOS, 小山田英治, 中西　久枝, 工藤　晴子, Laura-Anca PAREPA （科目代表：Laura-Anca PAREPA）	春学期				E	
	31800003	001	理論と方法① －エスニック / カルチュラル・スタディーズ－	2	南川　文里, Gavin J. CAMPBELL, Themis CHRONOPOULOS （科目代表：Themis Chronopoulos）	秋学期	2	1～	不可	E	指導教員のクラスを履修することは必須ではない。
		002	理論と方法② －ジェンダー・市民社会・教育－	2	岡野　八代, 三牧　聖子, 工藤　晴子 （科目代表：岡野　八代）					J	
		003	理論と方法③ －歴史・文化・ポストコロニアル－	2	村田雄二郎, 冨山　一郎, 太田　　修, 横山　雄大 （科目代表：村田雄二郎）					J	
		004	理論と方法④ －国際経済・移住労働・多文化共生－	2	菊池　恵介, 松村圭一郎, 厳　　善平 （科目代表：菊池　恵介）					J	
		005	理論と方法⑤ －国際開発・国際協力－	2	小山田英治, Laura-Anca PAREPA, 芦　　宛雪 （科目代表：小山田英治）					E	
	31800004	001	総合演習①　－アメリカ研究－	2	三牧　聖子, Gavin J. CAMPBELL, 秋林こずえ, 菅野　優香, Themis CHRONOPOULOS （科目代表：Gavin J. CAMPBELL）	春学期	2	2～	不可	E	指導教員と相談の上、履修するクラスを選択すること。 なお③および④クラスについては、実施言語を確認のうえ選択すること。
		002	総合演習②　－アジア研究－	2	村田雄二郎, 冨山　一郎, 厳　　善平, 太田　　修, 横山　雄大 （科目代表：厳　　善平）					J	

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
	31800004	003	総合演習③ －国際開発・国際協力－	2	中西　久枝, Laura-Anca PAREPA, 工藤　晴子 (科目代表:Laura-Anca PAREPA)	春学期	2	2～	不可	E	指導教員と相談の上、履修するクラスを選択すること。 なお③および④クラスについては、実施言語を確認のうえ選択すること。
		004	総合演習④ －ジェンダー・市民社会・多文化共生－	2	菊池　恵介, 内藤　正典, 松村圭一郎, 南川　文里 (科目代表：南川　文里)					J	
必修科目（クラスター別：８単位）											
アメリカ研究クラスター	31810008	001	アメリカ研究演習Ⅰ①	2	Gavin J. CAMPBELL	春学期	2	1～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅰ②		秋林こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅰ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅰ④		菅野　優香						
		005	アメリカ研究演習Ⅰ⑤		(2026年度休講)						
		006	アメリカ研究演習Ⅰ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅰ⑦		三牧　聖子						
	31810009	001	アメリカ研究演習Ⅱ①	2	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	2	1～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅱ②		秋林こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅱ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅱ④		(2026年度休講)						
		005	アメリカ研究演習Ⅱ⑤		岡野　八代						
		006	アメリカ研究演習Ⅱ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅱ⑦		三牧　聖子						
	31810010	001	アメリカ研究演習Ⅲ①	2	Gavin J. CAMPBELL	春学期	2	2～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅲ②		秋林こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅲ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅲ④		菅野　優香						
		005	アメリカ研究演習Ⅲ⑤		(2026年度休講)						
		006	アメリカ研究演習Ⅲ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅲ⑦		三牧　聖子						
	31810011	001	アメリカ研究演習Ⅳ①	2	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	2	2～	不可		
		002	アメリカ研究演習Ⅳ②		秋林こずえ						
		003	アメリカ研究演習Ⅳ③		南川　文里						
		004	アメリカ研究演習Ⅳ④		(2026年度休講)						
		005	アメリカ研究演習Ⅳ⑤		岡野　八代						
		006	アメリカ研究演習Ⅳ⑥		Themis CHRONOPOULOS						
		007	アメリカ研究演習Ⅳ⑦		三牧　聖子						
現代アジア研究クラスター	31820005	001	現代アジア研究演習Ⅰ①	2	冨山　一郎	春学期	2	1～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅰ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅰ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅰ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅰ⑤		小山田英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅰ⑥		(2026年度休講)						
	31820006	001	現代アジア研究演習Ⅱ①	2	冨山　一郎	秋学期	2	1～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅱ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅱ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅱ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅱ⑤		小山田英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅱ⑥		(2026年度休講)						
	31820007	001	現代アジア研究演習Ⅲ①	2	冨山　一郎	春学期	2	2～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅲ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅲ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅲ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅲ⑤		小山田英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅲ⑥		(2026年度休講)						

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
現代アジア研究クラスター	31820008	001	現代アジア研究演習Ⅳ①	2	冨山　一郎	秋学期	2	2～	不可		
		002	現代アジア研究演習Ⅳ②		厳　善平						
		003	現代アジア研究演習Ⅳ③		村田雄二郎, 横山　雄大						
		004	現代アジア研究演習Ⅳ④		太田　修						
		005	現代アジア研究演習Ⅳ⑤		小山田英治						
		006	現代アジア研究演習Ⅳ⑥		（2026年度休講）						
グローバル社会研究クラスター	31830005	001	グローバル社会研究演習Ⅰ①	2	工藤　晴子	春学期	2	1～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅰ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅰ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅰ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅰ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅰ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅰ⑦		Laura-Anca PAREPA						
	31830006	001	グローバル社会研究演習Ⅱ①	2	工藤　晴子	秋学期	2	1～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅱ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅱ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅱ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅱ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅱ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅱ⑦		Laura-Anca PAREPA						
	31830007	001	グローバル社会研究演習Ⅲ①	2	工藤　晴子	春学期	2	2～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅲ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅲ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅲ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅲ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅲ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅲ⑦		Laura-Anca PAREPA						
	31830008	001	グローバル社会研究演習Ⅳ①	2	工藤　晴子	秋学期	2	2～	不可		
		002	グローバル社会研究演習Ⅳ②		西川由紀子						
		003	グローバル社会研究演習Ⅳ③		松村圭一郎						
		004	グローバル社会研究演習Ⅳ④		内藤　正典						
		005	グローバル社会研究演習Ⅳ⑤		中西　久枝						
		006	グローバル社会研究演習Ⅳ⑥		菊池　恵介						
		007	グローバル社会研究演習Ⅳ⑦		Laura-Anca PAREPA						
選択科目											
科目群Ａ（アメリカ研究）	31800101		アメリカの外交と政治	2	三牧　聖子	春学期	2	1～	可	J	
	31800102		ジェンダーと平和	2	秋林こずえ	春学期	2	1～	可	J	隔年で言語を変更
	31800132		ジェンダーと開発	2	工藤　晴子	秋学期	2	1～	可	E	隔年で開講
	31800103		アメリカ史	2	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	2	1～	可	E	
	31800104		現代アメリカの政治と社会	2	Gavin J. CAMPBELL	春学期	2	1～	可	E	
	31800106		現代アメリカの文化と社会	2	南川　文里	秋学期	2	1～	可	J	
	31800107		多文化社会アメリカ	2	（2026年度休講）	春学期	2	1～	可	E	隔年で開講
	31800109		アメリカの視覚文化	2	（2026年度休講）	春学期	2	1～	可	J	隔年で言語を変更
	31800110		クィア・スタディーズ	2	菅野　優香	春学期	2	1～	可	J	隔年で言語を変更
	31800111		アメリカ政治思想	2	三牧　聖子	秋学期	2	1～	可	E	隔年で言語を変更
	31800112		フェミニズム思想	2	岡野　八代	秋学期	2	1～	可	J	
	31800113		グローバル時代のシティズンシップ論	2	（2026年度休講）	春学期	2	1～	可	J	隔年で言語を変更

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
科目群A（アメリカ研究）	31800011		現代アメリカと世界	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	E	
	31800114		黒人の表現文化	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	I～	可	E	
	31800115		アフリカン・ディアスポラ	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	I～	可	E	
	31810122		アメリカの社会と文学 I	2	ウェルズ恵子	秋学期	2	I～	可	J	
	31801305		特殊研究 A5－フェミニスト・ケアの倫理－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	I～	可	E	
	31801308		特殊研究 A8－アジア系アメリカ人の歴史と文化－	2	和泉　真澄	春学期	2	I～	可	E	
	31803315		特殊研究 C15－移民研究の射程と方法－	2	南川　文里	春学期	2	I～	可	E	
	31801311		特殊研究 A11－グローバル・シティーズ－	2	Themis CHRONOPOULOS	春学期	2	I～	可	E	
	31801312		特殊研究 A12－東アジアの国際関係－	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	E	
	31801313		特殊研究 A13－ Introduction to Film Analysis －	2	Carol DONELAN	春学期	2	I～	可	E	
科目群B（アジア研究）	31800116		アジア経済論	2	厳　善平	秋学期	2	I～	可	J	
	31800117		中国経済論	2	厳　善平	春学期	2	I～	可	J	
	31800118		中国文献研究	2	厳　善平	春学期	2	I～	可	J	
	31820206		現代アジア思想論	2	村田雄二郎	春学期	2	I～	可	J	隔年で開講
	31820212		東アジア文化交渉論	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	隔年で開講
	31800119		中国の社会と文化	2	須藤　瑞代	秋学期	2	I～	可	J	
	31800120		日中関係史論	2	横山　雄大	春学期	2	I～	可	J	
	31800121		近現代の中国	2	村田雄二郎	秋学期	2	I～	可	J	
	31802305		特殊研究 B5－外交政策論－	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	不可	J	
	31800122		朝鮮半島の社会と文化	2	小川原宏幸	春学期	2	I～	可	J	
	31800123		日朝関係史論	2	太田　修	秋学期	2	I～	可	J	
	31800124		近現代の朝鮮	2	小川原宏幸	秋学期	2	I～	可	J	
	31800125		朝鮮文献研究	2	太田　修	春学期	2	I～	可	J	
	31800126		近現代の日本	2	冨山　一郎	春学期	2	I～	可	J	
	31800127		沖縄近現代史	2	冨山　一郎	秋学期	2	I～	可	J	
	31820208		アジアの中の日本	2	（2026年度休講）	秋学期	2	I～	可	J	
	31800128		日本文献研究	2	冨山　一郎	秋学期	2	I～	可	J	
	31800129		東南アジアと世界	2	小山田英治	秋学期	2	I～	可	J	
	31800130		近現代の東南アジア	2	小山田英治	春学期	2	I～	可	J	
	31800131		東南アジア経済論	2	芦　宛雪	春学期	2	I～	可	E	
	31802306		特殊研究 B6－朝鮮半島の政治と経済－	2	朴　一	秋学期	2	I～	可	J	
	31820207		アジアの移民とディアスポラ	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	
	31803315		特殊研究 C15－移民研究の射程と方法－	2	南川　文里	春学期	2	I～	可	E	隔年で開講
	31802301		特殊研究 B1－現代中国政治研究－	2	（2026年度休講）	春学期	2	I～	可	J	
	31802318		特殊研究 B18－戦後北東アジア国際関係史－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	I～	可	J	
科目群C（ジェンダー・セクシュアリティ研究）	31800110		クィア・スタディーズ	2	菅野　優香	春学期	2	I～	可	J	隔年で言語を変更
	31800102		ジェンダーと平和	2	秋林こずえ	春学期	2	I～	可	J	隔年で言語を変更
	31800132		ジェンダーと開発	2	工藤　晴子	秋学期	2	I～	可	E	隔年で開講
	31800112		フェミニズム思想	2	岡野　八代	秋学期	2	I～	可	J	
	31800133		ヒューマン・セキュリティ論とケアの倫理	2	工藤　晴子	春学期	2	I～	可	E	
	31800134		イスラームとジェンダー	2	中西　久枝	秋学期	2	I～	可	E	
	31800135		ジェンダーと教育	2	秋林こずえ	秋学期	2	I～	可	J	隔年で開講
	31801305		特殊研究 A5－フェミニスト・ケアの倫理－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	I～	可	E	
科目群D（移民・難民・多文化共生論）	31800137		イスラームと多文化共生	2	内藤　正典	春学期	2	I～	可	J	
	31800138		移民・難民問題	2	内藤　正典	秋学期	2	I～	可	J	
	31830212		レイシズム研究	2	菊池　恵介	春学期	2	I～	可	J	
	31803304		特殊研究 C4－植民地主義研究の諸相－	2	水谷　智	春学期	2	I～	可	E	
	31800127		沖縄近現代史	2	冨山　一郎	秋学期	2	I～	可	J	
	31800123		日朝関係史論	2	太田　修	秋学期	2	I～	可	J	

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
科目群D（移民・難民・多文化共生論）	31800114		黒人の表現文化	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800115		アフリカン・ディアスポラ	2	Themis CHRONOPOULOS	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31801308		特殊研究A8－アジア系アメリカ人の歴史と文化－	2	和泉　真澄	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31820207		アジアの移民とディアスポラ	2	（2026年度休講）	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31803315		特殊研究Ｃ１５－移民研究の射程と方法－	2	南川　文里	春学期	2	Ⅰ～	可	E	隔年で開講
	31800134		イスラームとジェンダー	2	中西　久枝	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
科目群E（グローバル市民社会の課題）	31800139		グローバル化と格差問題	2	菊池　恵介	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800133		ヒューマン・セキュリティ論とケアの倫理	2	工藤　晴子	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31830205		地球市民社会論	2	工藤　晴子	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800113		グローバル時代のシティズンシップ論	2	（2026年度休講）	春学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で言語を変更
	31800102		ジェンダーと平和	2	秋林こずえ	春学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で言語を変更
	31800135		ジェンダーと教育	2	秋林こずえ	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	隔年で開講
	31800140		ラテンアメリカの社会運動と社会政策	2	柴田　修子	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31803413		特殊研究ＤⅠ３　－紛争と平和－	2	（2026年度休講）	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800141		地球環境問題	2	大西　有子，林　耕次，Alimata SIDIBE，Andi Patiware METARAGAKUSUMA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31801312		特殊研究A12－東アジアの国際関係－	2	（2026年度休講）	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
科目群F（国際開発・国際協力論）	31800142		グローバル政治経済	2	Laura-Anca PAREPA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800015		比較地域論	2	松村圭一郎	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31800143		国連とグローバルガバナンス	2	中西　久枝	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800134		イスラームとジェンダー	2	中西　久枝	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800144		人間開発論	2	松村圭一郎	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31830112		安全保障の新しい課題	2	中西　久枝，Laura-Anca PAREPA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31830113		国際協力論	2	小山田英治	春学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31830114		開発とガバナンス	2	小山田英治	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800132		ジェンダーと開発	2	工藤　晴子	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	隔年で開講
	31800116		アジア経済論	2	厳　善平	秋学期	2	Ⅰ～	可	J	
	31802302		特殊研究 B2－国際関係論－	2	Laura-Anca PAREPA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31802308		特殊研究 B8 －プロジェクト・サイクル・マネジメント－	2	小山田英治 井上　健， 松尾　敬子， Ferda GELEGEN	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31802309		特殊研究 B9 －プロジェクトガバナンス－	2	小山田英治 田中　孝宜 武藤　亜子	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31803309		特殊研究 C9－開発政策－	2	（2026年度休講）	春学期	2	Ⅰ～	可	E	
	31800141		地球環境問題	2	大西　有子，林　耕次，Alimata SIDIBE，Andi Patiware METARAGAKUSUMA	秋学期	2	Ⅰ～	可	E	

	登録コード		科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	言語	備　考
	科目	クラス									
科目群G（人文・社会科学方法論）	31800015		比較地域論	2	松村圭一郎	春学期	2	1～	可	J	
	31802315		特殊研究B15－アカデミックライティング1（日本語）－	2	横山　雄大	春学期	2	1～	可	J	
	31802316		特殊研究B16－アカデミックライティング2（日本語）－	2	横山　雄大	秋学期	2	1～	可	J	
	31803401		特殊研究D1－アカデミックライティング1（英語）－	2	Manuela ANTONIU	春学期	2	1～	可	E	
	31803402		特殊研究D2－アカデミックライティング2（英語）－	2	Manuela ANTONIU	秋学期	2	1～	可	E	
	31804310		社会研究方法論1	2	Laura-Anca PAREPA	春学期	2	1～	可	E	
	31804311		社会研究方法論2	2	芦　宛雪	秋学期	2	1～	可	E	
	31800145		フィールドワーク	2	米川　尚樹	春学期	2	1～	不可	J	
	31803312		特殊研究C12－社会調査とデータ処理－	2	翟　亜蕾	秋学期	2	1～	可	J	
	31803316		特殊研究C16-歴史研究の新技法：データ、空間、記憶-	2	（2026年度休講）	秋学期	2	1～	可	J	
論文											
	31800091		論文					2～	不可		
	31800092		課題研究					2～	不可		

授業における教授言語
J：日本語、E：英語

履修方法

1．

①アメリカ研究クラスター

研究科共通必修科目6単位、アメリカ研究クラスター必修科目8単位を含み、合計30単位以上を履修すること。修士論文を提出せず、特定の課題研究の審査により修了する場合は、研究科共通必修科目6単位、アメリカ研究クラスター必修科目8単位を含み、合計38単位以上を履修すること。

②現代アジア研究クラスター

研究科共通必修科目6単位、現代アジア研究クラスター必修科目8単位を含み、合計30単位以上を履修すること。修士論文を提出せず、特定の課題研究の審査により修了する場合は、研究科共通必修科目6単位、現代アジア研究クラスター必修科目8単位を含み、合計38単位以上を履修すること。

③グローバル社会研究クラスター

研究科共通必修科目6単位、グローバル社会研究クラスター必修科目8単位を含み、合計30単位以上を履修すること。修士論文を提出せず、特定の課題研究の審査により修了する場合は、研究科共通必修科目6単位、グローバル社会研究クラスター必修科目8単位を含み、合計38単位以上を履修すること。

2．

本学他研究科科目、本学高等研究教育院設置科目のうち本研究科が定める科目（※）、関西四大学大学院単位互換科目及び外国協定大学における履修科目は、本研究科の認定を経て、10単位を超えない範囲で修了単位に算入することができる。

3．

博士課程（後期）への進学を希望する場合は、修士論文の提出を必須とする。

4．

（※2022年度以前生）博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（プログラム略称：GRM）の修了を目指し修めた単位（GRM プログラムの修了を“希望する”学生用の科目コードで登録した単位）は、本研究科の学位取得に必要な単位としてカウントされないので十分に注意すること。

履修するにあたっては、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」について及び博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修要項を熟読すること。

（※2023年度以降生）高等研究教育院設置科目のうち、履修可能な科目についてはすべて認定の対象となる。

ビジネス研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程は、グローバル化の中で社会的使命を持ち、サステナビリティ、文化と創造性ビジネス，アジアビジネスへの理解と研究を通して、国際ビジネスリーダーとして必要な視点や能力を身に付けて、日本と母国の経済発展を支える人物の養成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

[下記の資質・能力を備えた学生に修士（経営学）学位を授与します]

Based on the 'conscience', the principle that underpins Doshisha's education philosophy, Global Business and Management Studies Senko (hereinafter, GBMS Senko) of Doshisha Business School is seeking to develop global business leaders with strong social orientation. GBMS Senko grants Master of Business Administration (MBA) Degree to a person who completed its English-based curriculum with following characteristics. GBMS Senko aims to develop business leaders who can advance societies of both their native land and Japan.

2023年度以前生

1) Students who possess knowledge, skills, abilities and attitude as global business leaders in both basic and advanced areas. (knowledge・ability・skills)
   1-1) Students who possess knowledge, skills, abilities and attitude as global business leaders. Those include basic knowledge and skills on functional areas on management; (knowledge・ability・skills)
   1-2) Students who possess knowledge and skills in either one or multiple below areas: sustainability (including green), culture and creativity, Asian business and/or other advanced management areas. (knowledge・ability・skills)

2) Students who possess skills as global business leaders, including skills to think critically and analytically; skills to communicate effectively in English. (critical thinking・judgment・expressive skills)

3) Students, based on their conscientiousness, who possess perspectives, orientation and positive attitude towards socially oriented mission within the global society. Students who possess attitude to value and collaborate well with people of diverse backgrounds; and attitude to orient towards practical solutions. (subjectivity・diversity・collaboration)
   3-1) Students, based on their conscientiousness, who possess perspectives, orientation and positive attitude towards socially oriented mission within the global society. (subjectivity)
   3-2) Students who possess attitude to value and collaborate well with people of diverse backgrounds; and attitude to orient towards practical solutions. (diversity・collaboration)

2024年度以降生

1) Students can acquire and effectively apply foundational and advanced management knowledge and skills. By adeptly utilizing these, students can contribute as Responsible Innovative Leaders in business and management, within Japan and the broader global community. Alternatively, students can conduct exceptional research based on these acquired knowledge and skills. (knowledge・ability・skills)

2) Based on conscience, students can engage in thinking and decision-making that generates innovation, and they are also capable of excellent communication as leaders, primarily using English. Harnessing these critical thinking, judging, and expressive abilities, students can contribute effectively as Responsible Innovative Leaders in business and management, within both local and global communities, including Japan. Alternatively, students can leverage these critical thinking, judging, and expressive skills to undertake outstanding research efforts. (critical thinking・judgment・expressive skills)

3) As leaders, students can proactively take initiative, respect diversity, and demonstrate collaboration. By effectively utilizing these qualities of initiative, diversity appreciation, and collaboration, students can contribute as Responsible Innovative Leaders in business and management, within the global society, including Japan. (subjectivity・diversity・collaboration)

◆カリキュラム・ポリシー

2023年度以前生

In order to achieve objectives placed on our diploma policies, GBMS Senko sets curriculum, which includes core courses, global intensive courses, elective courses, required courses and Master's Thesis/Research Project Report. GBMS Senko offers a curriculum which aims to develop above mentioned global leaders, through acquisition of high level of 1) knowledge and skills; 2) thinking, analyzing, communicating and judging capabilities; and 3) attitude towards social orientation and collaboration with people of diverse background.

The contents of curriculum, methods of education and evaluation are described below.

1. Curriculum Content

(1) Curriculum Structure

The curriculum is designed to give students a solid foundation in the core business subjects, and to allow students to shape their course selections to match their interests by choosing from a broad menu of electives.

The curriculum is made up of five parts: core courses, global intensive courses, elective courses, required courses, and master's thesis/research project report. The core, global intensive and elective courses are lecture courses; while required courses and master's thesis/research project report are seminar courses.

The core is consisted of two parts, foundation core and perspective core courses, nine courses in total. Students are strongly encouraged to take these courses in their first year. By foundation core courses, students acquire basic knowledge and skills of key functional management areas. By perspective core courses, students acquire knowledge and perspectives to be a global leader with conscientiousness. The perspective core courses aim to develop students'
positive attitude towards socially oriented mission within the global society.

The global intensive courses are offered by top professors from leading overseas business schools. By having an experience of being taught by faculty members of foreign business schools, students acquire both advanced knowledge and skills, and develop attitude to value collaborative works with people of diverse background.

In terms of electives, there are two categories of elective courses: Global MBA electives and courses taken at overseas partner universities and/or Japanese MBA courses. Students are recommended to take these courses to deepen their knowledge, further sharpen their skills and cultivate their attitude towards global leadership, after taking most of the core courses.

The Global MBA elective courses cover a broad range of business subjects, including those in our focus areas: Sustainability, Asia and Culture, as well as the advanced management. By elective courses, students get advanced knowledge and skills of management. At the same time, by elective courses of focused areas (Sustainability, Asia and Culture), students get knowledge, skills, insight, attitude in these focused areas. By allowing students to take Business Studies courses and also international alliance school courses, students will get further knowledge and cross-cultural skills and perspectives.

Although this is outside of the curriculum, by providing an opportunity to study Japanese, students get knowledge and familiarity to the Japanese language and also the Japanese society.

(2) Required courses and Master's Thesis and Research Project Report

The required courses consist of four steps: Critical and Analytical Thinking (1st semester), Master's Thesis and Research Project I (2nd semester), Master's Thesis and Research Project II (3rd semester) and Master's Thesis and Research Project III (4th semester). The master's thesis/ research project report is not for course credit, but students are required to register so that their master thesis / research project report be evaluated.

By seminar courses including critical thinking class and research (Master Thesis and Research Project Report), students acquire knowledge and skills, thinking, judging and articulation skills, and also an attitude to take initiatives of their studies.

2. Education Methods

(1) Course Guidance

Before the registration of classes, both in Spring and Fall semesters, students get guidance on courses to take, by faculty members assigned for the students. This curriculum guidance enables students to take courses fit for their interest and career plans.

(2) Scheduling of Courses

Most of courses are placed during days of week days. In order to encourage students to study Japanese language courses offered by Doshisha University, courses are carefully placed so that there will be a minimal conflict with those Japanese courses. Also some courses are offered in the evening, so that students who belong to Japanese MBA Senko, most of them are working, can take those courses. By doing so, it is aimed that students will have more interactions with students who have experiences in Japanese business. Global intensive courses are offered in a compressed format (typically one-week or two-week) in the spring semester of the first year.

(3) Education Methods
In order to educate academically strong and yet highly professional business leaders, various education methods are adopted. Besides the traditional lecture style classes, interactive educational methods, such as case discussions and presentations are used to develop students' thinking, analytical and communication skills. Within the class environment of students of highly diverse nationalities, group projects are frequently encouraged to develop students' leadership skills and attitude to collaborate with people of diverse background. In order to develop attitude towards practicality, various field-based projects, executive talks and corporate visits are also adopted.

3. Evaluation Method
(1) Conditions for Completion and Evaluation Methods
To complete GBMS studies and earn an MBA degree, a student will need to: 1) reside at least two years; 2) complete courses totaling 46 credits; and 3) successfully submit and defend their Master's Thesis or Research Project Report. Most courses are worth two credits. Students are required to obtain at least 16 credits of core courses; at least 2 credits of global intensive courses; at least 16 credits from elective courses; and 8 credits of required courses. Also, although it is not for course credit but students are required to register Master's Thesis/ Research Project Report in their second year and pass this course by successfully submitting and defending their thesis or report.

Courses under the core, global intensive, elective categories use 7 scale evaluation method of A+, A, B+, B, C+, C and F. GPA system is used. Courses under the required courses and the Master's Thesis/Research Project Report use Pass or Fail in evaluation.

(2) Master's Thesis/Research Project Report
Over the two years of stay, students develop their Master's Thesis/Research Project Report by taking required courses, Critical and Analytical Thinking (1st semester), Master's Thesis and Research Project I (2nd semester), Master's Thesis and Research Project II (3rd semester) and Master's Thesis and Research Project III (4th semester). Students present and report their progress at various workshops through the required courses. After the successfully pass Master's Thesis and Research Project III, students submit their Master's Thesis or Research Project Report followed by the defense. Three faculty members, composed of chief evaluator and two vice evaluators, are in charge of evaluation.

2024年度以降生
- We provide the Core (required)、Global Intensive (required elective 選択必修)、Electives and Required Courses, and established a curriculum as below.
- The Core consists of 8 courses (16 credits) that build a foundation of knowledge in the key areas of management. They are Accounting, Marketing, Finance, People and Organizations, Business Economics, Strategic Management, Operations Management and Business and Society in Global Context. Students are required to take all 8 courses.
- The Global Intensive is offered in a compressed (typically one-week or two-week) format by renowned visiting professors. Students are required to take at least 1 course (2 credits).
- The Elective consisted of two categories, Global MBA electives and courses taken at overseas partner university and/or Japanese MBA courses. Students are required to take at least 8 Elective courses (16 credits). Global Intensive courses and Elective courses together, students are required to take at least 22 credits.
- The Global MBA Electives cover a broad range of business subjects, including Sustainability, Culture and Creativity, Business in Asia, and Advanced Management.
- Students can take courses at overseas partner university and/or courses offered by Japanese MBA program (Japanese language proficiency test N1 required), up to 10 credits, which can be counted toward students' MBA degree.
- Students develop their Master's Thesis or Research Project Report by taking four Required Courses: Critical and Analytical Thinking, Master's Thesis and Research Project I, II, and III. These courses help students to develop conceptual understanding and critical thinking and analytical skills as a foundation for their major project. Students are required to take all 4 courses (8 credits).
- To earn a Master of Business Administration (MBA) degree, students are required to submit and successfully defend their Master's Thesis / Research Project Report.

グローバル経営研究専攻（2023年度以前生）

科目コード	クラスコード	科目名	単位	担当者	期間 ※1		週時間 ※1	開講校地
【Core/ 選択基礎科目群】								
<Perspectives Subjects>								
31302001	000	Business and Society in the Global Context	2	Mari Iizuka	SPRING	Q2	4	今出川
31302002	000	Responsible Leadership in the Global Context	2	CANCEL				
<Foundation Subjects>								
31302021	000	Accounting	2	Yoko Ogushi	FALL	Q1	4	今出川
31302022	000	Marketing	2	Philip Sugai	FALL	Q1	4	今出川
31302023	000	Finance	2	Etsuaki Yoshida	FALL	Q2	4	今出川
31302024	000	People and Organizations	2	CANCEL				
31302025	001	Business Economics	2	Hiroko Okudaira	SPRING	Q2	4	今出川
31302025	002	Business Economics	2	Hiroko Okudaira	FALL	Q2	4	今出川
31302026	000	Strategic Management	2	Arif Iqball	FALL	Q2	4	今出川
31302027	000	Operations Management	2	Yong Yin	FALL	Q2	4	今出川
【Global Intensive/ グローバル・インテンシブ科目群】								
31302071	000	Global Intensive Subject 1	2	Francesco Ukon	FALL	Q2	4	今出川
31302072	000	Global Intensive Subject 2	2	Lan Hu	FALL	Q2	集中	今出川
31302073	000	Global Intensive Subject 3	2	Toshimi Munehira	FALL	Q2	集中	今出川
31302074	000	Kyoto Intensive Subject	2	Mari Iizuka	SPRING		集中	今出川
【Elective/ 選択応用科目群】								
<Sustainability and Green Business>								
31302101	000	Foundations for Sustainable Management	2	Yong Yin	SPRING	Q1	4	今出川
31302102	000	Green Management in Action	2	Ken Arii	FALL	Q1	4	今出川
31302103	000	Environmental Accounting	2	Bishnu Adhikary	FALL	Q1	4	今出川
31302104	000	Sustainable and Responsible Marketing	2	CANCEL				
31302105	000	Sustainable Human Resource Management	2	Hiroko Okudaira	FALL	Q1	4	今出川
31302106	000	Economics for Sustainable Development	2	CANCEL				
<Culture and Creativity>								
31302151	000	Cultural and Creative Industries	2	Anya Doi-Benson	FALL	Q2	4	今出川
31302153	000	The Business of Fashion Industry	2	Francesco Ukon	FALL	Q1	4	今出川
31302154	000	Cultural Tourism	2	Carlos Tarrero	SPRING	Q1	4	今出川
31302155	000	e-Marketing	2	Philip Sugai	FALL	Q2	4	今出川
31302156	000	Creativity in Organizations	2	Hiroko Okudaira	FALL	Q2	4	今出川
<Business in Asia>								
31302201	000	Understanding Japanese Corporations	2	Arif Iqball	SPRING	Q2	4	今出川
31302202	000	Japanese Business Practices	2	Etsuaki Yoshida	FALL	Q1	4	今出川
31302203	000	Marketing in Asia	2	CANCEL				
31302204	000	Human Resource Management in Asia	2	CANCEL				
31302205	000	Investment in Asia	2	Etsuaki Yoshida	SPRING	Q1	4	今出川
31302206	000	Operations Management in Asia	2	Yong Yin	FALL	Q1	4	今出川
<Advanced Management>								
31302258	000	Statistics	2	Vera Paola Shoda	SPRING	Q1	4	今出川
31302266	000	Information Technology/Management	2	Vera Paola Shoda	FALL	Q2	4	今出川
31302267	000	Data Science in Business	2	Vera Paola Shoda	SPRING	Q2	4	今出川
31302158	000	Entrepreneurship	2	Yoko Ogushi	SPRING	Q1	4	今出川
31302253	000	Business Research Method	2	Vera Paola Shoda	SPRING	Q2	4	今出川
31302251	000	Business Analysis and Valuation	2	Yoko Ogushi	SPRING	Q2	4	今出川
31302252	000	Business Law	2	Koji Takahashi	SPRING	Q2	4	今出川
31302254	000	Knowledge and Innovation Management	2	CANCEL				

科目コード	クラスコード	科目名	単位	担当者	期間 ※1		週時間 ※1	開講校地
31302255	000	Marketing Research	2	Philip Sugai	FALL	Q2	4	今出川
31302256	000	Making Sense of the Global Economy	2	Etsuaki Yoshida	SPRING	Q1	4	今出川
31302259	000	Strategic Cost Management	2	Yoko Ogushi	SPRING	Q2	4	今出川
31302260	000	Strategic Management for Innovation and Change	2	Yoshihiro Mori	SPRING	Q1	4	今出川
31302261	000	Professional Development	2	Arif Iqball	FALL	Q2	4	今出川
31302262	000	Writing Skills for Effective Communication	2	Robert Aspinall	FALL	Q1	4	今出川
31302269	000	Project-based Internship	2	Arif Iqball Akio Umeda	Year-round	Year-round	集中	今出川
【Required course/ 必修科目】								
31302801	001	Critical and Analytical Thinking	2	Mari Iizuka	FALL			今出川
31302801	002	Critical and Analytical Thinking	2	Philip Sugai	FALL			今出川
31302801	007	Critical and Analytical Thinking	2	Yong Yin	FALL			今出川
31302801	013	Critical and Analytical Thinking	2	Hiroko Okudaira	FALL			今出川
31302801	018	Critical and Analytical Thinking	2	Etsuaki Yoshida	FALL			今出川
31302801	021	Critical and Analytical Thinking	2	Yoko Ogushi	FALL			今出川
31302801	022	Critical and Analytical Thinking	2	Arif Iqball	FALL			今出川
31302801	023	Critical and Analytical Thinking	2	Vera Paola Shoda	FALL			今出川
31302802	001	Master Thesis and Research Project I	2	Mari Iizuka	SPRING			今出川
31302802	002	Master Thesis and Research Project I	2	CANCEL				
31302802	007	Master Thesis and Research Project I	2	Yong Yin	SPRING			今出川
31302802	013	Master Thesis and Research Project I	2	Hiroko Okudaira	SPRING			今出川
31302802	018	Master Thesis and Research Project I	2	Etsuaki Yoshida	SPRING			今出川
31302802	021	Master Thesis and Research Project I	2	Yoko Ogushi	SPRING			今出川
31302802	022	Master Thesis and Research Project I	2	Arif Iqball	SPRING			今出川
31302802	023	Master Thesis and Research Project I	2	Vera Paola Shoda	SPRING			今出川
31302803	001	Master Thesis and Research Project II	2	Mari Iizuka	FALL			今出川
31302803	002	Master Thesis and Research Project II	2	Philip Sugai	FALL			今出川
31302803	007	Master Thesis and Research Project II	2	Yong Yin	FALL			今出川
31302803	013	Master Thesis and Research Project II	2	Hiroko Okudaira	FALL			今出川
31302803	018	Master Thesis and Research Project II	2	Etsuaki Yoshida	FALL			今出川
31302803	021	Master Thesis and Research Project II	2	Yoko Ogushi	FALL			今出川
31302803	022	Master Thesis and Research Project II	2	Arif Iqball	FALL			今出川
31302803	023	Master Thesis and Research Project II	2	Vera Paola Shoda	FALL			今出川
31302804	001	Master Thesis and Research Project III	2	Mari Iizuka	SPRING			今出川
31302804	002	Master Thesis and Research Project III	2	CANCEL				
31302804	007	Master Thesis and Research Project III	2	Yong Yin	SPRING			今出川
31302804	013	Master Thesis and Research Project III	2	Hiroko Okudaira	SPRING			今出川
31302804	018	Master Thesis and Research Project III	2	Etsuaki Yoshida	SPRING			今出川
31302804	021	Master Thesis and Research Project III	2	Yoko Ogushi	SPRING			今出川
31302804	022	Master Thesis and Research Project III	2	Arif Iqball	SPRING			今出川
31302804	023	Master Thesis and Research Project III	2	Vera Paola Shoda	SPRING			今出川
31302901	000	Master's Thesis 論文			FALL (2nd year)			今出川
31302902	000	Master's Thesis 論文			SPRING (2nd year)			今出川
31302911	000	Research Project Report 課題研究			FALL (2nd year)			今出川
31302912	000	Research Project Report 課題研究			SPRING (2nd year)			今出川

履修方法

必修科目８単位、選択基礎科目群から16単位、グローバル・インテンシブ科目群から２単位以上、選択応用科目群から１６単位以上履修し、全体て合計46単位以上を履修し、特定の課題についての研究成果（リサーチプロジェクトレポート）又は修士論文の審査に合格すること。

なお、本研究科ビジネス専攻設置科目及び外国協定大学における履修科目は、合計10単位まて選択応用科目群の修了単位に算入する。

外国人留学生については、日本語・日本文化教育科目を履修することがてきる。ただし、課程修了に必要な単位数には含めない。

※１　ビジネス研究科設置科目は、原則として、各学期を前半後半に分割して開講される。
　　例：「Marketing」は秋学期前半に １週４時間開講。

グローバル経営研究専攻（2024年度以降生）

科目コード	クラスコード	科　目　名	単位	担　当　者	期　間 ※1		週時間 ※1	開講校地
【Core/ 必修基礎科目群】								
31302001	000	Business and Society in the Global Context	2	Mari Iizuka	SPRING	Q2	4	今出川
31302021	000	Accounting	2	Yoko Ogushi	FALL	Q1	4	今出川
31302022	000	Marketing	2	Philip Sugai	FALL	Q1	4	今出川
31302023	000	Finance	2	Etsuaki Yoshida	FALL	Q2	4	今出川
31302024	001	People and Organizations	2	Mari Iizuka	SPRING	Q1	4	今出川
31302024	002	People and Organizations	2	Mari Iizuka	FALL	Q1	4	今出川
31302025	001	Business Economics	2	Hiroko Okudaira	SPRING	Q2	4	今出川
31302025	002	Business Economics	2	Hiroko Okudaira	FALL	Q2	4	今出川
31302026	000	Strategic Management	2	Arif Iqball	FALL	Q2	4	今出川
31302027	000	Operations Management	2	Yong Yin	FALL	Q2	4	今出川
【Global Intensive/ グローバル・インテンシブ科目群】								
31302071	000	Global Intensive Subject 1	2	Francesco Ukon	FALL	Q2	4	今出川
31302072	000	Global Intensive Subject 2	2	Lan Hu	FALL	Q2	集中	今出川
31302073	000	Global Intensive Subject 3	2	Toshimi Munehira	FALL	Q2	集中	今出川
31302074	000	Kyoto Intensive Subject	2	Mari Iizuka	SPRING		集中	今出川
【Elective/ 選択応用科目群】								
<Sustainability>								
31302101	000	Foundations for Sustainable Management	2	Yong Yin	SPRING	Q1	4	今出川
31302102	000	Green Management in Action	2	Ken Arii	FALL	Q1	4	今出川
31302103	000	Environmental Accounting	2	Bishnu Adhikary	FALL	Q1	4	今出川
31302104	000	Sustainable and Responsible Marketing	2	CANCEL				
31302105	000	Sustainable Human Resource Management	2	Hiroko Okudaira	FALL	Q1	4	今出川
31302106	000	Economics for Sustainable Development -For students entering in and before 2024 -Same contents as 31302107	2	CANCEL				
31302107	000	Political Economy of Sustainability -For students entering in and after 2025 -Same contents as 31302106	2	CANCEL				
<Culture and Creativity>								
31302151	000	Cultural and Creative Industries	2	Anya Doi-Benson	FALL	Q2	4	今出川
31302153	000	The Business of Fashion Industry	2	Francesco Ukon	FALL	Q1	4	今出川
31302154	000	Cultural Tourism	2	Carlos Tarrero	SPRING	Q1	4	今出川
31302155	000	e-Marketing	2	Philip Sugai	FALL	Q2	4	今出川
31302156	000	Creativity in Organizations	2	Hiroko Okudaira	FALL	Q2	4	今出川
<Business in Asia>								
31302201	000	Understanding Japanese Corporations	2	Arif Iqball	SPRING	Q2	4	今出川
31302202	000	Japanese Business Practices	2	Etsuaki Yoshida	FALL	Q1	4	今出川
31302203	000	Marketing in Asia	2	CANCEL				
31302204	000	Human Resource Management in Asia	2	CANCEL				
31302205	000	Investment in Asia	2	Etsuaki Yoshida	SPRING	Q1	4	今出川
31302206	000	Operations Management in Asia	2	Yong Yin	FALL	Q1	4	今出川
<Advanced Management>								
31302258	000	Statistics	2	Vera Paola Shoda	SPRING	Q1	4	今出川
31302266	000	Information Technology/Management	2	Vera Paola Shoda	FALL	Q2	4	今出川
31302267	000	Data Science in Business	2	Vera Paola Shoda	SPRING	Q2	4	今出川
31302158	000	Entrepreneurship	2	Yoko Ogushi	SPRING	Q1	4	今出川
31302253	000	Business Research Method	2	Vera Paola Shoda	SPRING	Q2	4	今出川
31302251	000	Business Analysis and Valuation	2	Yoko Ogushi	SPRING	Q2	4	今出川

科目コード	クラスコード	科　目　名	単位	担　当　者	期　　間 ※1		週時間 ※1	開講校地
31302252	000	Business Law	2	Koji Takahashi	SPRING	Q2	4	今出川
31302254	000	Knowledge and Innovation Management	2	CANCEL				
31302255	000	Marketing Research	2	Philip Sugai	FALL	Q2	4	今出川
31302256	000	Making Sense of the Global Economy	2	Etsuaki Yoshida	SPRING	Q1	4	今出川
31302259	000	Strategic Cost Management	2	Yoko Ogushi	SPRING	Q2	4	今出川
31302260	000	Strategic Management for Innovation and Change	2	Yoshihiro Mori	SPRING	Q1	4	今出川
31302261	000	Professional Development	2	Arif Iqball	FALL	Q2	4	今出川
31302262	000	Writing Skills for Effective Communication	2	Robert Aspinall	FALL	Q1	4	今出川
31302269	000	Project-based Internship	2	Arif Iqball Akio Umeda	Year-round	Year-round	集中	今出川
【Required course/ 必修科目】								
31302801	001	Critical and Analytical Thinking	2	Mari Iizuka	FALL			今出川
31302801	002	Critical and Analytical Thinking	2	Philip Sugai	FALL			今出川
31302801	007	Critical and Analytical Thinking	2	Yong Yin	FALL			今出川
31302801	013	Critical and Analytical Thinking	2	Hiroko Okudaira	FALL			今出川
31302801	018	Critical and Analytical Thinking	2	Etsuaki Yoshida	FALL			今出川
31302801	021	Critical and Analytical Thinking	2	Yoko Ogushi	FALL			今出川
31302801	022	Critical and Analytical Thinking	2	Arif Iqball	FALL			今出川
31302801	023	Critical and Analytical Thinking	2	Vera Paola Shoda	FALL			今出川
31302802	001	Master Thesis and Research Project I	2	Mari Iizuka	SPRING			今出川
31302802	002	Master Thesis and Research Project I	2	CANCEL				
31302802	007	Master Thesis and Research Project I	2	Yong Yin	SPRING			今出川
31302802	013	Master Thesis and Research Project I	2	Hiroko Okudaira	SPRING			今出川
31302802	018	Master Thesis and Research Project I	2	Etsuaki Yoshida	SPRING			今出川
31302802	021	Master Thesis and Research Project I	2	Yoko Ogushi	SPRING			今出川
31302802	022	Master Thesis and Research Project I	2	Arif Iqball	SPRING			今出川
31302802	023	Master Thesis and Research Project I	2	Vera Paola Shoda	SPRING			今出川
31302803	001	Master Thesis and Research Project II	2	Mari Iizuka	FALL			今出川
31302803	002	Master Thesis and Research Project II	2	Philip Sugai	FALL			今出川
31302803	007	Master Thesis and Research Project II	2	Yong Yin	FALL			今出川
31302803	013	Master Thesis and Research Project II	2	Hiroko Okudaira	FALL			今出川
31302803	018	Master Thesis and Research Project II	2	Etsuaki Yoshida	FALL			今出川
31302803	021	Master Thesis and Research Project II	2	Yoko Ogushi	FALL			今出川
31302803	022	Master Thesis and Research Project II	2	Arif Iqball	FALL			今出川
31302803	023	Master Thesis and Research Project II	2	Vera Paola Shoda	FALL			今出川
31302804	001	Master Thesis and Research Project III	2	Mari Iizuka	SPRING			今出川
31302804	002	Master Thesis and Research Project III	2	CANCEL				
31302804	007	Master Thesis and Research Project III	2	Yong Yin	SPRING			今出川
31302804	013	Master Thesis and Research Project III	2	Hiroko Okudaira	SPRING			今出川
31302804	018	Master Thesis and Research Project III	2	Etsuaki Yoshida	SPRING			今出川
31302804	021	Master Thesis and Research Project III	2	Yoko Ogushi	SPRING			今出川
31302804	022	Master Thesis and Research Project III	2	Arif Iqball	SPRING			今出川
31302804	023	Master Thesis and Research Project III	2	Vera Paola Shoda	SPRING			今出川
31302901	000	Master's Thesis 論文			FALL (2nd year)			今出川
31302902	000	Master's Thesis 論文			SPRING (2nd year)			今出川
31302911	000	Research Project Report 課題研究			FALL (2nd year)			今出川
31302912	000	Research Project Report 課題研究			SPRING (2nd year)			今出川

履修方法

必修科目８単位、必修基礎科目群から１６単位、グローバル・インテンシブ科目群から２単位以上、選択応用科目群から１６単位以上履修し、全体て合計４６単位以上を履修し、特定の課題についての研究成果（リサーチプロジェクトレポート）又は修士論文の審査に合格すること。

なお、本研究科ビジネス専攻設置科目及び外国協定大学における履修科目は、合計１０単位まて選択応用科目群の修了単位に算入する。

外国人留学生については、日本語・日本文化教育科目を履修することがてきる。ただし、課程修了に必要な単位数には含めない。

※１　ビジネス研究科設置科目は、原則として、各学期を前半後半に分割して開講される。
　　例：「Marketing」は秋学期前半に １週４時間開講。

大学院研究科専攻別授業科目
および履修方法

博士課程(後期課程)

神学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆目指すべき人材（物）像

◇博士課程（後期課程）

【神学】

神学研究科神学専攻博士課程（後期）は、人類の営みに深く関わり、生きるための知恵と力を生み出してきた宗教の中でも特にキリスト教の分野に関する、高度で専門的な知識と研究方法、分析能力を身につけ、問題の解決と社会への発信を推進する専門家及びキリスト教研究を牽引する研究者の育成を目指している。

【一神教研究】

神学研究科神学専攻博士課程（後期）は、人類の営みに深く関わり、生きるための知恵と力を生み出してきた宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教の分野に関する、高度で専門的な知識と研究方法、分析能力を身につけ、問題の解決と社会への発信を推進する専門家及び一神教研究を牽引する研究者の育成を目指している。

◆ディプロマ・ポリシー

【神学】

（知識・技能）

キリスト教及び関連分野についての高度で専門的な知識を習得し、キリスト教にかかわる複雑な諸問題に的確に対処し、複眼的な視点と厳密な研究方法をもって体系的・総合的に解明できる。

（思考力・判断力・表現力）

問題解決に必要とされる文献・データと有効な研究方法を見定める判断力を備え、論理的な分析を一貫して行う思考力を持ち、その結果を博士論文に簡潔明瞭にまとめることのできる表現力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

キリスト教に関する独創的な課題を主体的に設定し、様々な先行研究を十分に咀嚼し、高度で専門的な知識と厳密な研究方法をもって論理的に考察し、自らの考えを国内外の研究者に積極的に発信し問題を共有しながら、解決に向かう推進力を持っている。

【一神教研究】

（知識・技能）

キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教についての高度で専門的な知識を習得し、3つの一神教にかかわる複雑な諸問題に的確に対処し、複眼的な視点と厳密な研究方法をもって体系的・総合的に解明できる。

（思考力・判断力・表現力）

問題解決に必要とされる文献・データと有効な研究方法を見定める判断力を備え、論理的な分析を一貫して行う思考力を持ち、その結果を博士論文に簡潔明瞭にまとめることのできる表現力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する独創的な課題を主体的に設定し、様々な先行研究を十分に咀嚼し、高度で専門的な知識と厳密な研究方法をもって論理的に考察し、自らの考えを国内外の研究者に積極的に発信し問題を共有しながら、解決に向かう推進力を持っている。

◆カリキュラム・ポリシー

【神学】

〈2023年度以降生〉

キリスト教の分野における、幅広い視野を持ち高度な分析能力を身につけた専門家及び研究者を育成するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目と研究指導科目を設置する。学生への研究指導は、指導教員3名（主指導教員1名、副指導教員2名）によって行われる。指導教員の指導の下、学生は、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本、博士学位論文の作成を進める。

・キリスト教及び関連分野に関する高度で専門的な知識を習得するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目の中から3分野を選択し、「演習 I」「演習 II」をそれぞれ6単位以上履修する。

・キリスト教及び関連分野に関する高度な研究力を養うため、主指導教員の研究指導科目を履修し、博士学位論文提出までに研究指導完了（見込み）を受ける。

・キリスト教に関する高度で専門的な知識と研究力、それに厳密な研究方法をもって自ら設定した独創的な課題を考察できるようになり、研究者、教育者、専門家として指導的な役割を果たすことができるようになるため、主指導教員と2名の副指導教員の下、博士学位論文を作成する。また、博士学位論文を提出するためには、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本が必要となる。

〈2022年度以前生〉

キリスト教の分野における、幅広い視野を持ち高度な分析能力を身につけた専門家及び研究者を育成するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目と研究指導科目を設置する。学生への研究指導は、指導教員3名（主指導教員1名、副指導教員2名）によって行われる。指導教員の指導の下、学生は、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本、博士学位論文の作成を進める。

・キリスト教及び関連分野に関する高度で専門的な知識を習得するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目の中から「演習 I」「演習 II」をそれぞれ6単位以上履修する。

・キリスト教及び関連分野に関する高度な研究力を養うため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成される研究指導科目のうちの3分野を選定し、博士学位論文提出までに各科目指導担当教員による研究指導完了（見込み）を受ける。

・キリスト教に関する高度で専門的な知識と研究力、それに厳密な研究方法をもって自ら設定した独創的な課題を考察できるようになり、研究者、教育者、専門家として指導的な役割を果たすことができるようになるため、主指導教員と2名の副指導教員の下、博士学位論文を作成する。また、博士学位論文を提出するためには、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本が必要となる。

【一神教研究】

〈2023年度以降生〉

キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教の分野における、幅広い視野を持ち高度な分析能力を身につけた専門家及び研究者を育成するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目と研究指導科目を設置する。学生への研究指導は、指導教員3名（主指導教員1名、副指導教員2名）によって行われる。指導教員の指導の下、学生は、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本、博士学位論文の作成を進める。

・キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する高度で専門的な知識を習得するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目の中から3分野を選択し（「一神教学際研究」は必修）、「演習 I」「演習 II」をそれぞれ6単位以上履修する。

・キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する高度な研究力を養うため、主指導教員の研究指導科目を履修し、博士学位論文提出までに研究指導完了（見込み）を受ける。

・キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する高度で専門的な知識と研究力、それに厳密な研究方法をもって自ら設定した独創的な課題を考察できるようになり、研究者、教育者、専門家として指導的な役割を果たすことができるようになるため、主指導教員と2名の副指導教員の下、博士学位論文を作成する。また、博士学位論文を提出するためには、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本が必要となる。

〈2022年度以前生〉

キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教の分野における、幅広い視野を持ち高度な分析能力を身につけた専門家及び研究者を育成するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目と研究指導科目を設置する。学生への研究指導は、指導教員3名（主指導教員1名、副指導教員2名）によって行われる。指導教員の指導の下、学生は、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本、博士学位論文の作成を進める。

・キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する高度で専門的な知識を習得するため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成されるコース指導科目の中から「演習 I」「演習 II」をそれぞれ6単位以上履修する。
・キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する高度な研究力を養うため、「聖書学」、「キリスト教史学」、「組織神学」、「一神教学際研究」の4分野から構成される研究指導科目のうちの3分野を選定し（「一神教学際研究」は必修）、博士学位論文提出までに各科目指導担当教員による研究指導完了（見込み）を受ける。
・キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という3つの一神教に関する高度で専門的な知識と研究力、それに厳密な研究方法をもって自ら設定した独創的な課題を考察できるようになり、研究者、教育者、専門家として指導的な役割を果たすことができるようになるため、主指導教員と2名の副指導教員の下、博士学位論文を作成する。また、博士学位論文を提出するためには、学会での研究発表2本、学術雑誌への論文掲載2本が必要となる。

神 学 研 究 科

神学専攻（一神教学際研究コースを含む）

2025年度以降生

	登録コード		科目名	分　　野	担 当 者	単位	期間
	科　目	クラス					
研究指導科目	40110000	001	神学特殊研究	聖書学	越後屋　朗		春・秋
		011		キリスト教史学	村上みか		
		021		組織神学	小原克博		
		031		一神教学際研究	Ada COHEN		
		032		一神教学際研究	勝又悦子		
コース指導科目（授業科目）	40130401		演習Ⅰ	聖書学	越後屋　朗	2	春
	40130411			キリスト教史学	村上みか	2	
	40130421			組織神学	小原克博	2	
	40130431			一神教学際研究	Ada COHEN	2	
	40130432			一神教学際研究	勝又悦子	2	
	40130501		演習Ⅱ	聖書学	越後屋　朗	2	秋
	40130511			キリスト教史学	村上みか	2	
	40130521			組織神学	小原克博	2	
	40130531			一神教学際研究	Ada COHEN	2	
	40130532			一神教学際研究	勝又悦子	2	
	40100201		論　　文				

履修方法

・主指導教員の研究指導科目「神学特殊研究」を毎年度登録し、指導を受けなければならない。

・コース指導科目は、主指導教員の指導のもと３分野を選択し「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」からそれぞれ６単位以上履修すること。一神教学際研究コース生は必ず「一神教学際研究」を含むこと。

・コース指導科目は、各年度に登録できるのは８単位までである。

・「論文」は、修了を予定している年度の春学期に登録すること。

※大学院学則により、博士課程の後期課程に３年以上在学した場合は、次の学期から学費の減免が適用される。ただし、学部または大学院（前期課程・後期課程）の授業科目（「神学特殊研究」および「論文」を除く）の履修を希望する場合は、この適用を受けることができないため、留意のうえ科目登録をすること。不明な点は、神学研究科事務室まで問い合わせること。

１．学位取得要件

下記の要件をすべて充足する必要があります。

⑴博士課程（後期課程）に３年以上在学すること。

⑵提出の要件を満たしたうえで博士学位論文を提出し、最終試験（博士学位論文総合試験）に合格すること。

⑶研究に必要な外国語によく通じていること。

２．指導教員および論文想定題の申請

指導教員３名を決定する（主指導教員1名、副指導教員２名）。主指導教員と相談のうえ論文想定題を決定し、指導教員３名とあわせて4月下旬までに神学研究科事務室に届け出ること。

※論文は日本語で作成する。ただし、指導教員がその必要性を認めた場合には、許可申請書を神学研究科事務室に届け出、神学研究科委員会の承認を経て英語による論文作成が認められる。許可申請書は、博士学位論文提出の1年前までに届け出ること。

３．博士学位論文提出要件

①研究指導科目・コース指導科目の履修

⑴主指導教員の「神学特殊研究」を毎年度登録し、博士学位論文提出までに研究指導完了（見込み）を受けること。

⑵主指導教員の指導のもと、「聖書学」「キリスト教史学」「組織神学」「一神教学際研究」の４分野から３分野を選択し、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」からそれぞれ６単位以上履修済（見込み）であること。ただし、一神教学際研究コース生は「一神教学際研究」分野を含むものとする。

②研究発表・研究業績

⑴学会での研究発表２本以上、学術雑誌への論文掲載（査読付き、研究ノート不可）２本以上の研究業績があること。

③博士学位論文予備審査

⑴博士学位論文提出要領に沿って、予備審査論文等を提出し、予備審査に合格すること。

※２年以上在学している者は、予備審査を申請することができる。原則、博士学位論文審査を希望する前学期中に審査を受けること。

⑵予備審査で指摘を受けた場合、修正した論文を指導教員3名に提出すること。

⑶指導教員3名から提出の許可（修正完了済の確認）を得ること。

４．博士学位論文の提出と審査

⑴博士学位論文提出要領に沿って、学位申請論文等を提出すること。

※博士学位論文の提出から学位授与まで、通常で６ヶ月程度の期間を要する。

⑵審査の最終段階で、博士学位論文総合試験を実施し、論文提出者による口頭発表、論文内容に関する質疑応答や口述試験、及び研究に必要な外国語に関する学力確認を行う。

⑶神学研究科委員会は、論文審査、総合試験の結果について審議する。

＜博士学位論文審査基準＞

1）研究テーマおよび問題設定の学術的意義が明確に示されているか。

2）関連する先行研究を十分に調査し、理解したうえで、適切な研究方法を選択しているか。

3）一貫した論述が展開され、明確な論拠のもとに適切な結論を導き出せているか。

4）結論が独自の新たな知見を提示し、当該研究が将来の学問的進展を促進するものであるか。

5）学術論文としての形式的要件を満たしているか。

５．学位授与

研究科長会の承認を経て、以下の学位が授与される。

「博士（神学）（同志社大学）」　Doctor of Theology

「博士（一神教研究）（同志社大学）」　Doctor of Philosophy in Monotheistic Studies

６．博士学位の公表

博士学位を授与された者は、原則、同志社大学学術リポジトリにて論文全文を公表する。

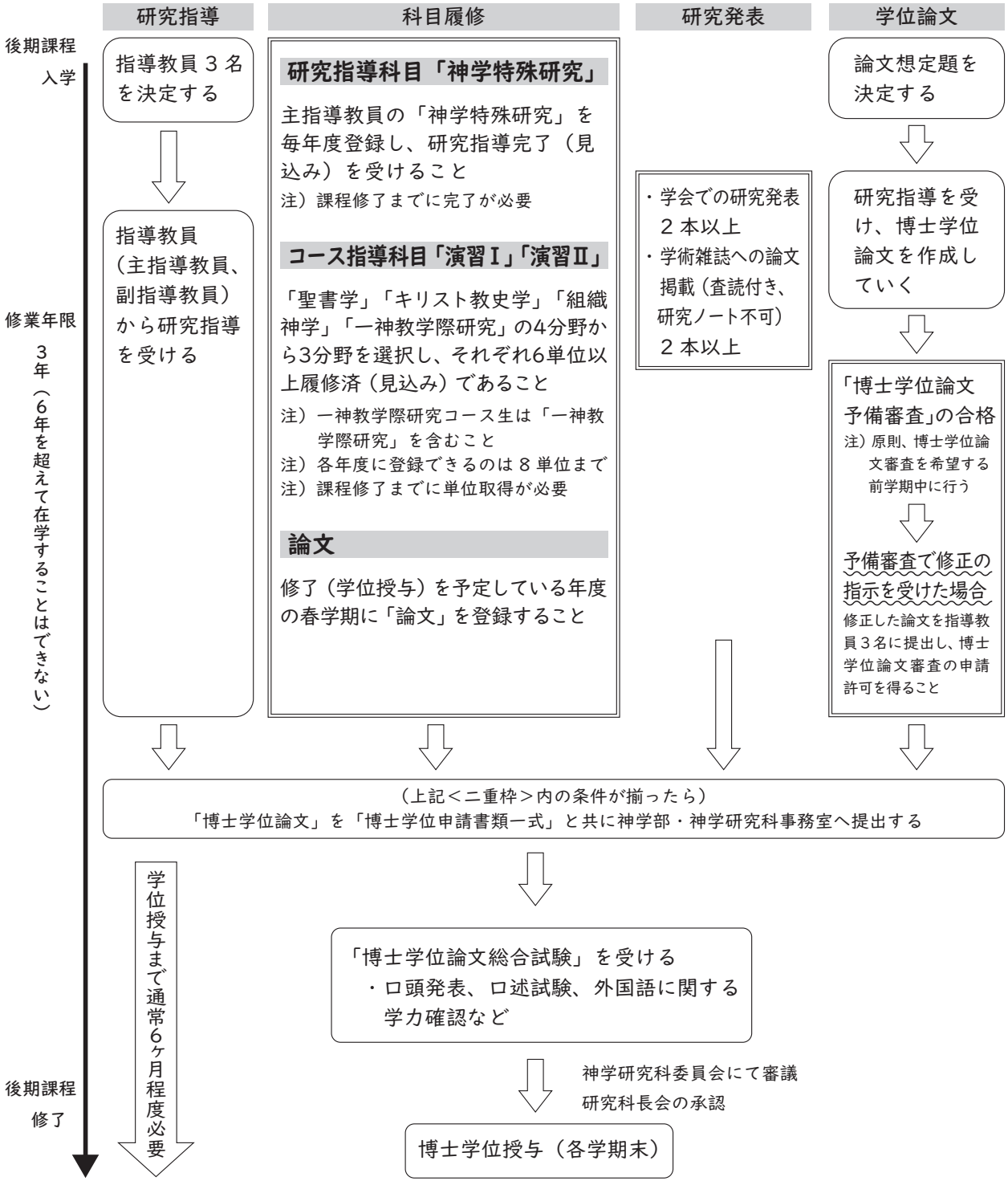
７．その他

⑴登録の具体的要領については別冊『神学研究科登録要領』を参照してください。

⑵「神学部研究室図書貸出規程」および「学会発表に対する交通費等の補助」については、本『履修要項』の神学研究科博士課程（前期課程）のページを参照してください。

2025年度以降生

8．神学研究科　博士課程（後期課程）入学から博士学位授与までの流れ



神学研究科

神学専攻（一神教学際研究コースを含む）

2023～2024年度生

	登録コード		科目名	分野	担当者	単位	期間
	科目	クラス					
研究指導科目	40110000	001	神学特殊研究	聖書学	越後屋　朗		春・秋
		011		キリスト教史学	村上みか		
		021		組織神学	小原克博		
		031		一神教学際研究	Ada COHEN		
		032		一神教学際研究	勝又悦子		
コース指導科目（授業科目）	40130401		演習Ⅰ	聖書学	越後屋　朗	2	春
	40130411			キリスト教史学	村上みか	2	
	40130421			組織神学	小原克博	2	
	40130431			一神教学際研究	Ada COHEN	2	
	40130432			一神教学際研究	勝又悦子	2	
	40130501		演習Ⅱ	聖書学	越後屋　朗	2	秋
	40130511			キリスト教史学	村上みか	2	
	40130521			組織神学	小原克博	2	
	40130531			一神教学際研究	Ada COHEN	2	
	40130532			一神教学際研究	勝又悦子	2	
	40100201		論文				

履修方法

・主指導教員の研究指導科目「神学特殊研究」を毎年度登録し、指導を受けなければならない。
・コース指導科目は、主指導教員の指導のもと３分野を選択し「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」からそれぞれ６単位以上履修すること。一神教学際研究コース生は必ず「一神教学際研究」を含むこと。
・コース指導科目は、各年度に登録できるのは８単位までである。
・「論文」は、修了を予定している年度の春学期に登録すること。
※大学院学則により、博士課程の後期課程に３年以上在学した場合は、次の学期から学費の減免が適用される。ただし、学部または大学院（前期課程・後期課程）の授業科目（「神学特殊研究」および「論文」を除く）の履修を希望する場合は、この適用を受けることができないため、留意のうえ科目登録をすること。不明な点は、神学研究科事務室まで問い合わせること。

１．学位取得要件

下記の要件をすべて充足する必要があります。

⑴博士課程（後期課程）に３年以上在学すること。

⑵提出の要件を満たしたうえで博士学位論文を提出し、最終試験（博士学位論文総合試験）に合格すること。

⑶研究に必要な外国語によく通じていること。

２．指導教員および論文想定題の申請

指導教員３名を決定する（主指導教員1名、副指導教員２名）。主指導教員と相談のうえ論文想定題を決定し、指導教員３名とあわせて4月下旬までに神学研究科事務室に届け出ること。

※論文は日本語で作成する。ただし、指導教員がその必要性を認めた場合には、許可申請書を神学研究科事務室に届け出、神学研究科委員会の承認を経て英語による論文作成が認められる。許可申請書は、博士学位論文提出の1年前までに届け出ること。

３．博士学位論文提出要件

①研究指導科目・コース指導科目の履修

⑴主指導教員の「神学特殊研究」を毎年度登録し、博士学位論文提出までに研究指導完了（見込み）を受けること。

⑵主指導教員の指導のもと、「聖書学」「キリスト教史学」「組織神学」「一神教学際研究」の４分野から３分野を選択し、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」からそれぞれ６単位以上履修済（見込み）であること。ただし、一神教学際研究コース生は「一神教学際研究」分野を含むものとする。

②研究発表・研究業績

⑴学会での研究発表２本以上、学術雑誌への論文掲載（査読付き、研究ノート不可）２本以上の研究業績があること。

４．博士学位論文の提出と審査

⑴博士学位論文提出要領に沿って、学位申請論文等を提出すること。

※博士学位論文の提出から学位授与まで、通常で６ヶ月程度の期間を要する。

⑵審査の最終段階で、博士学位論文総合試験を実施し、論文提出者による口頭発表、論文内容に関する質疑応答や口述試験、及び研究に必要な外国語に関する学力確認を行う。

⑶神学研究科委員会は、論文審査、総合試験の結果について審議する。

＜博士学位論文審査基準＞

1）研究テーマおよび問題設定の学術的意義が明確に示されているか。

2）関連する先行研究を十分に調査し、理解したうえで、適切な研究方法を選択しているか。

3）一貫した論述が展開され、明確な論拠のもとに適切な結論を導き出せているか。

4）結論が独自の新たな知見を提示し、当該研究が将来の学問的進展を促進するものであるか。

5）学術論文としての形式的要件を満たしているか。

５．学位授与

研究科長会の承認を経て、以下の学位が授与される。

「博士（神学）（同志社大学）」　Doctor of Theology

「博士（一神教研究）（同志社大学）」　Doctor of Philosophy in Monotheistic Studies

６．博士学位の公表

博士学位を授与された者は、原則、同志社大学学術リポジトリにて論文全文を公表する。

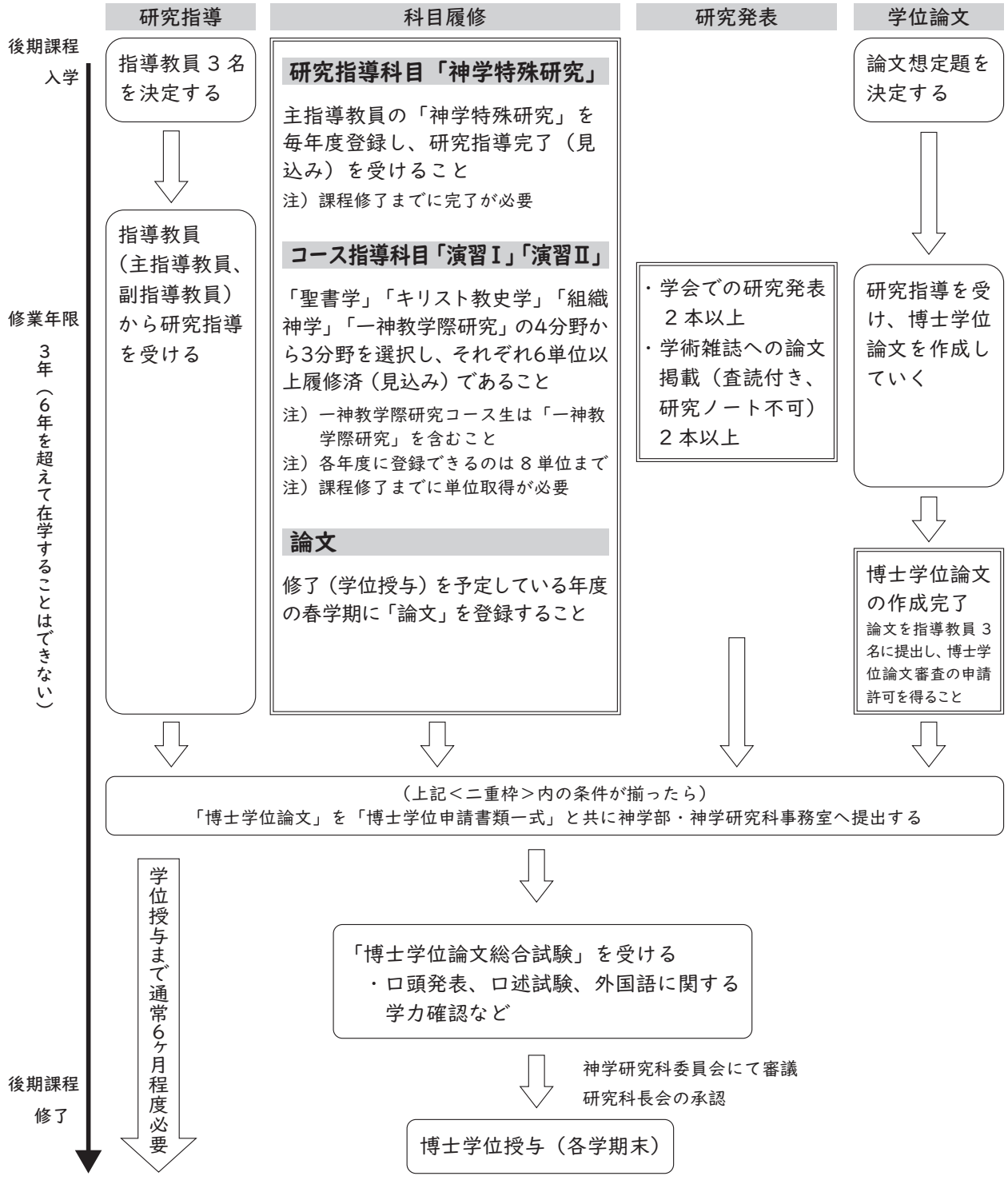
７．その他

⑴登録の具体的要領については別冊『神学研究科登録要領』を参照してください。

⑵「神学部研究室図書貸出規程」および「学会発表に対する交通費等の補助」については、本『履修要項』の神学研究科博士課程（前期課程）のページを参照してください。

2023～2024年度生

8．神学研究科　博士課程（後期課程）入学から博士学位授与までの流れ



神 学 研 究 科

神学専攻（一神教学際研究コースを含む）

2016～2022年度生

	登録コード		科目名	分　　野	担 当 者	単位	期間
	科　目	クラス					
研究指導科目	40110211		神学特殊研究 Ⅰ	聖書学	越後屋　　朗		春・秋
	40110212		神学特殊研究 Ⅱ	聖書学	（本年度休講）		
	40110213		神学特殊研究 Ⅲ	聖書学	（本年度休講）		
	40110214		神学特殊研究 Ⅳ	キリスト教史学	村 上 み か		
	40110215		神学特殊研究 Ⅴ	キリスト教史学	（本年度休講）		
	40110216		神学特殊研究 Ⅵ	キリスト教史学	（本年度休講）		
	40110217		神学特殊研究 Ⅶ	組織神学	小 原 克 博		
	40110218		神学特殊研究 Ⅷ	組織神学	（本年度休講）		
	40110219		神学特殊研究 Ⅸ	組織神学	（本年度休講）		
	40110220		神学特殊研究 Ⅹ	組織神学	（本年度休講）		
	40110221		神学特殊研究 Ⅺ	組織神学	（本年度休講）		
	40110222		神学特殊研究 Ⅻ	組織神学	（本年度休講）		
	40120223		神学特殊研究 ⅩⅢ	一神教学際研究	勝 又 悦 子		
	40120224		神学特殊研究 ⅩⅣ	一神教学際研究	Ada COHEN		
コース指導科目（授業科目）	40130301	001	演習Ⅰ	聖書学	越後屋　　朗	2	春
		011		キリスト教史学	村 上 み か	2	
		021		組織神学	小 原 克 博	2	
		031		一神教学際研究	Ada COHEN	2	
		032		一神教学際研究	勝 又 悦 子	2	
	40130302	001	演習Ⅱ	聖書学	越後屋　　朗	2	秋
		011		キリスト教史学	村 上 み か	2	
		021		組織神学	小 原 克 博	2	
		031		一神教学際研究	Ada COHEN	2	
		032		一神教学際研究	勝 又 悦 子	2	
	40100201		論　　文				

履修方法

・主指導教員の指導のもと、上記研究指導科目から３分野を登録し、指導を受けなければならない。
・コース指導科目は、「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」からそれぞれ６単位以上履修すること。
・「神学特殊研究」と「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」は、同じ教員のものを同時に登録すること。
・「神学特殊研究」は、各年度に登録できるのは２科目までである。
・コース指導科目は、各年度に登録できるのは８単位までである。
・「論文」は、修了を予定している年度の春学期に登録すること。
※大学院学則により、博士課程の後期課程に３年以上在学した場合は、次の学期から学費の減免が適用される。ただし、学部または大学院（前期課程・後期課程）の授業科目（「神学特殊研究」および「論文」を除く）の履修を希望する場合は、この適用を受けることができないため、留意のうえ科目登録をすること。不明な点は、神学研究科事務室まで問い合わせること。

１．学位取得要件

下記の要件をすべて充足する必要があります。

⑴博士課程（後期課程）に３年以上在学すること。

⑵提出の要件を満たしたうえで博士学位論文を提出し、最終試験（博士学位論文総合試験）に合格すること。

⑶研究に必要な外国語によく通じていること。

２．指導教員および論文想定題の申請

指導教員３名を決定する（主指導教員1名、副指導教員２名）。主指導教員と相談のうえ論文想定題を決定し、指導教員３名とあわせて4月下旬までに神学研究科事務室に届け出ること。

※論文は日本語で作成する。ただし、指導教員がその必要性を認めた場合には、許可申請書を神学研究科事務室に届け出、神学研究科委員会の承認を経て英語による論文作成が認められる。許可申請書は、博士学位論文提出の1年前までに届け出ること。

３．博士学位論文提出要件

①研究指導科目・コース指導科目の履修

⑴主指導教員の指導のもと、各学年に履修が必要な「神学特殊研究」を「聖書学」「キリスト教史学」「組織神学」「一神教学際研究」の４分野のうちの３分野から選択し、科目担当教員から研究指導完了（見込み）を受けること。ただし、一神教学際研究コース生は「一神教学際研究」分野を含むものとする。

⑵「神学特殊研究」と同じ教員の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を登録し、それぞれ６単位以上履修済（見込み）であること。

②研究発表・研究業績

⑴学会での研究発表２本以上、学術雑誌への論文掲載（査読付き、研究ノート不可）２本以上の研究業績があること。

４．博士学位論文の提出と審査

⑴博士学位論文提出要領に沿って、学位申請論文等を提出すること。

※博士学位論文の提出から学位授与まで、通常で６ヶ月程度の期間を要する。

⑵審査の最終段階で、博士学位論文総合試験を実施し、論文提出者による口頭発表、論文内容に関する質疑応答や口述試験、及び研究に必要な外国語に関する学力確認を行う。

⑶神学研究科委員会は、論文審査、総合試験の結果について審議する。

＜博士学位論文審査基準＞

1）研究テーマおよび問題設定の学術的意義が明確に示されているか。

2）関連する先行研究を十分に調査し、理解したうえで、適切な研究方法を選択しているか。

3）一貫した論述が展開され、明確な論拠のもとに適切な結論を導き出せているか。

4）結論が独自の新たな知見を提示し、当該研究が将来の学問的進展を促進するものであるか。

5）学術論文としての形式的要件を満たしているか。

５．学位授与

研究科長会の承認を経て、以下の学位が授与される。

「博士（神学）（同志社大学）」　Doctor of Theology

「博士（一神教研究）（同志社大学）」　Doctor of Philosophy in Monotheistic Studies

６．博士学位の公表

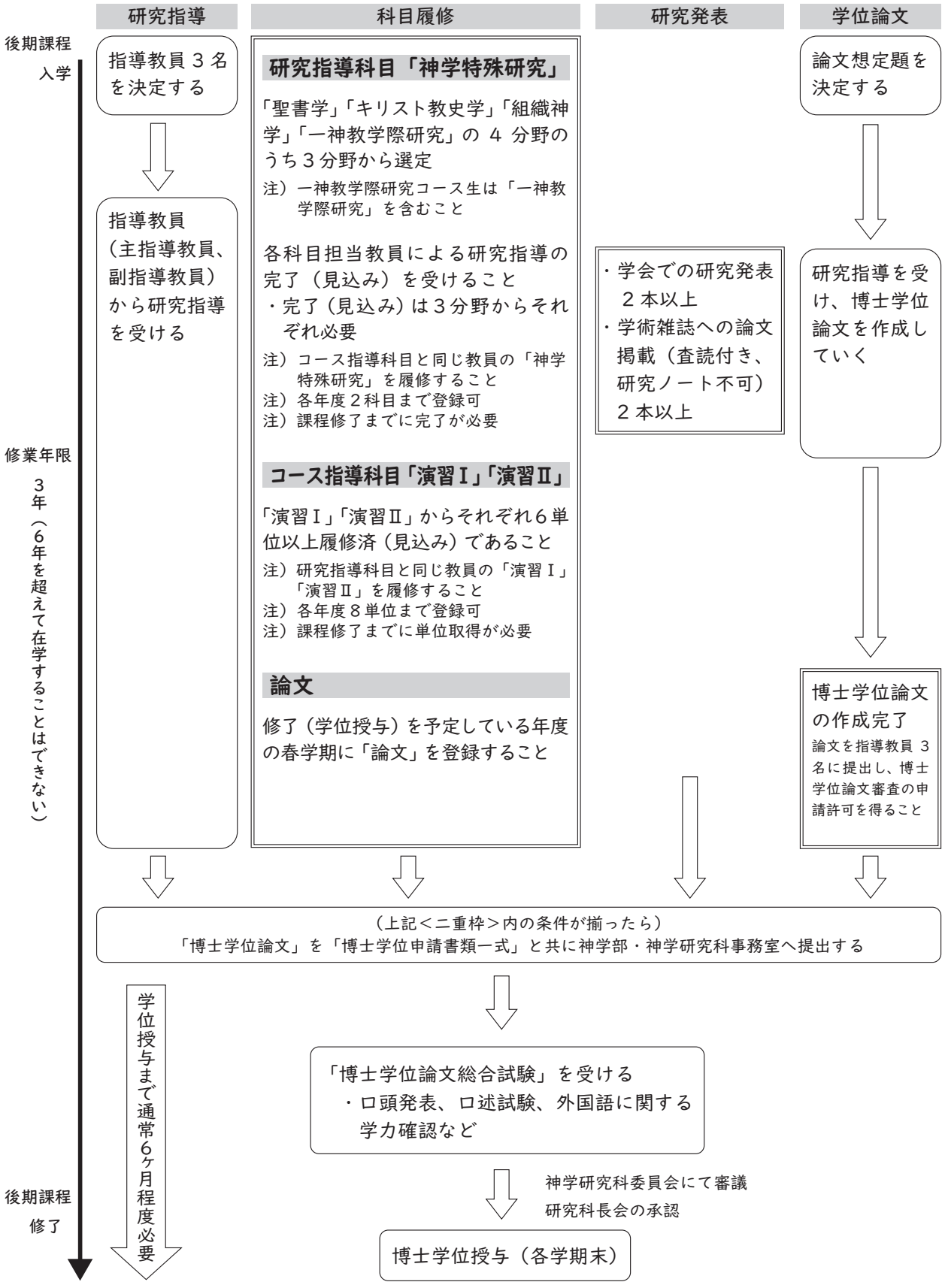
博士学位を授与された者は、原則、同志社大学学術リポジトリにて論文全文を公表する。

７．その他

⑴登録の具体的要領については別冊『神学研究科登録要領』を参照してください。

⑵「神学部研究室図書貸出規程」および「学会発表に対する交通費等の補助」については、本『履修要項』の神学研究科博士課程（前期課程）のページを参照してください。

2016～2022年度生



文学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

文学研究科博士課程（後期）は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の高度な理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とし、広い視野に立つ精深な学識と高度な研究能力を涵養し、人間及びその言語・文化活動の全体を根源的、歴史的、また体系的に捉え、理解する力を備えた研究者として自立できる人物を養成することを目指す。

哲学専攻

哲学専攻博士課程（後期）は、思想、宗教、文化という歴史的社会的な背景を踏まえた西洋の伝統的な哲学及び倫理学の根本問題について、古典研究の概念的、解釈的な理解力と自己の主題を精神史に位置づける問題構想力の徹底的な研鑽をとおして、高度な研究の資質、さらに教育者としての指導性を身につけて、専門機関における研究職並びに高度知識社会における教育職で活躍しうる人物を養成することを目的とする。

博士（哲学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（哲学）の学位を授与する。

・哲学及び倫理学で最も求められる研究に必要な幅広い知識を備え、応用的な知識・理解に関する高度な研究と教育ができる（知識・技能）。
・原典を読み解き、深く思索する力を研ぎ澄ませ、確かな判断力を養い、研究成果を学際的研究や共同研究において発信交流できる高度な専門性を身につけられる（思考力・判断力・表現力）。
・つねに研究倫理を遵守し、他者との対話を通じて、多様なものの見方からアクチュアルな問題に主体的に取り組み、自己省察や自己啓発を心がけられる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

・哲学専攻は、大学や諸研究機関で働く、高度な研究と教育の資質をもった人物を養成するために、後期課程生が主指導教員の担当する特殊研究と演習を履修するだけではなく、副指導をはじめ他の教員の科目も積極的に受講するようにカリキュラムを設計している。

各科目群で養成する学力

・「哲学特殊研究」（2024年度以前生は「哲学および哲学史特殊研究」）は指導教員の指示により、いずれか一つを登録し、研究内容はもちろんのこと、それだけに留まらず、問題意識を深く主体的に涵養して、多様性と協働性の観点から研究方法や研究倫理をしっかりと身に付けるために、その指導を必ず受けなければならない（知識・技能、主体性・多様性・協働性）。
・個々の研究内容の一層の深化をはかり、学会等での発表や質疑応答の仕方などを学ぶために、コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各６単位以上、「哲学総合演習」を４単位以上、合計16単位以上を履修しなければならない。
・「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は、それぞれ、春学期と秋学期に開講される。演習では、後期課程生の問題関心と指導教員の専門性とを勘案して、後期課程生の能動的な参画のもとで、その研究に対する専門的な指導を行っていく（知識・技能）。そのなかで、後期課程生は、「哲学特殊研究」（2024年度以前生は「哲学および哲学史特殊研究」）の学びと併せて、原典の読解と思索を深化させていく（思考力・判断力・表現力）。
・「哲学総合演習」では、研究の領域の専門性にかかわらず、後期課程生と指導教員の全員が集まり、後期課程生の発表を聞きながら、それぞれの関心を背景に討論を展開する。「哲学総合演習」への参加を通じて、

後期課程生は、主体的な研究の重要性を自覚しながら、多様なものの見方を知り他の考え方をみずからの研究の糧としていくという協動的な学びに従事していく（主体性・多様性・協働性）。
・後期課程では、近年、とくに問題になっている研究倫理にも注視している。「哲学特殊研究」（2024年度以前生は「哲学および哲学史特殊研究」）で研究倫理の意義を説く。そこに留まらず、後期課程生の研究を指導する「演習」でも、研究倫理の遵守に関して、いっそう具体的な指示が与えられる。一同が会する「哲学総合演習」も研究倫理に関する統一的な教育の場として活用する（主体性・多様性・協働性）。
・こうした高度な専門性を有する指導のもとで、高度知識社会のなかで問うべき根本的な課題を論理的な思索と包括的な判断とによって発信できるようになる（思考力・判断力・表現力）。
・後期課程の教育課程には「論文」として博士論文の制作を配置している。博士論文の提出がなければ、博士（哲学）の学位を取得できないことは、言うまでもない。博士論文の内容に関しては、とくに、古典研究の概念的、解釈的な理解力、高度に専門的な知識の応用的局面、研究成果の学際的な意義を問う。

英文学・英語学専攻

英文学・英語学専攻博士課程（後期）は、同志社英学校以来の伝統と現代のグローバリズムに基づき、前期課程において習得した英米文学と英語学・英語教育、およびこれらの関連分野における知識をさらに専門的に深め、鋭い分析・論理的批判能力と高度な英語運用能力を備えた人物の養成を目的としている。グローバル社会に通用する専門的知識、極めて高度な実践的英語運用能力、学術的および学際的思考能力・判断力を身につけ、将来、国内外の高等教育機関において研究・教育に深く携われ、国内外の学術会議や学術雑誌などに学術成果を発表し、自立した研究者・教育者として活躍できる人物を養成することを目的とする。

博士（英文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（英文学）の学位を授与する。
・英米および英語圏の文学とこれらの関連分野において、独創的かつ深い学術的知見に基づき、個別分野に対する理解を深め、極めて高い専門性を確立することができる（知識・技能）。
・専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な極めて高度な英語運用能力を習得し、それを国内外の学術機関や学会において有効に活用できる（知識・技能）。
・グローバル社会において、文学やそれに関連する分野の専門的かつ精緻な分析を通じて、独創的かつ国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。
・課題解決方法や理論を、国内外における学術会議において、精緻な英語表現により、論理的に提示し、国内外の学術雑誌などに論文を発表できる（思考力・判断力・表現力）。
・グローバル社会において、文学や文化の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組み、国内外の研究者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

・英米文学の領域において、博士課程（前期）で習得した専門的知識をさらに深め、専門性が高い英語運用能力を携え、博士論文を執筆・提出し、高等教育機関で自立した研究者・教育者として活躍できる人物を養成するため、高度な専門知識と研究能力を養う英米文学特殊研究と研究成果を活用できる能力を養う演習、および英文学総合特殊演習から構成されるカリキュラムを設置する。主指導および副指導からなる２人の教員による指導のもと、英米文学特殊研究を６単位以上、演習を６単位以上、さらに英文学総合特殊演習を４単位以上、合計16単位以上を習得しなくてはならない。

各科目群で養成する学力

・研究指導科目である英米文学特殊演習では、主指導の教員から博士論文作成のための個別指導を受け、論文作成に必要な専門性が高い知識を携え、客観的かつ正確に調査を行う技術を養い、論文を論理的に構築して英文論文を完成させる高度な英語表現能力を習得する。また、コース指導科目の演習では、主指導だけでなく、副指導の教員などの科目（２単位以上）も履修することで、広く深い学識を育む（知識・技能）。
・英米文学特殊研究と演習を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、論文作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、博士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。
・英米文学特殊研究と演習において、指導教員との意見交換の中で、主体的に博士論文に通じる研究に取り組むとともに、討論の中で多様性を受け入れ、より独創的かつ学術的に高度な議論を構築する。英文学総合特殊演習では、学会での個人研究発表に準じた形態で発表と質疑応答により指導をおこなう。個人発表においては主体的に論文作成に取り組み、専門の全教員と前期課程学生が参加する討論を通じ、他者との意見交換により多様性を受容し、さらに分析能力を磨くとともに、研究者としての素養を育む（主体性・多様性・協働性）。

博士（英語学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（英語学）の学位を授与する。

・英語学・英語教育とこれらの関連分野において、独創的かつ深い学術的知見に基づき、個別分野に対する理解を深め、極めて高い専門性を確立することができる（知識・技能）。
・専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な極めて高度な英語運用能力を習得し、それを国内外の学術機関や学会において有効に活用できる（知識・技能）。
・グローバル社会において、英語学や英語教育及びそれに関連する分野の専門的かつ精緻な分析を通じて、独創的かつ国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。
・課題解決方法や理論を、国内外における学術会議において、精緻な英語表現により、論理的に提示し、国内外の学術雑誌などに論文を発表できる（思考力・判断力・表現力）。
・グローバル社会において、言語の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組み、国内外の研究者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

・英語学・英語教育の領域において、博士課程（前期）で習得した専門的知識をさらに深め、専門性が高い英語運用能力を携え、博士論文を執筆・提出し、高等教育機関で自立した研究者・教育者として活躍できる人物を養成するため、高度な専門知識と研究能力を養う英語学特殊研究と研究成果を活用できる能力を養う演習、および英語学総合特殊演習から構成されるカリキュラムを設置する。主指導および副指導からなる２人の教員による指導のもと、英語学特殊研究を６単位以上、演習を６単位以上、さらに英語学総合特殊演習を４単位以上、合計16単位以上を習得しなくてはならない。

各科目群で養成する学力

・研究指導科目である英語学特殊演習では、主指導の教員から博士論文作成のための個別指導を受け、論文作成に必要な専門性が高い知識を携え、客観的かつ正確に調査を行う技術を養い、論文を論理的に構築して英文論文を完成させる高度な英語表現能力を習得する。また、コース指導科目の演習では、主指導だけでなく、副指導の教員などの科目（２単位以上）も履修することで、広く深い学識を育む（知識・技能）。

・英語学特殊研究と演習を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、論文作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、博士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。
・英語学殊研究と演習において、指導教員との意見交換の中で、主体的に博士論文に通じる研究に取り組むとともに、討論の中で多様性を受け入れ、より独創的かつ学術的に高度な議論を構築する。英語学総合特殊演習では、学会での個人研究発表に準じた形態で発表と質疑応答により指導をおこなう。個人発表においては主体的に論文作成に取り組み、専門の全教員と前期課程学生が参加する討論を通じ、他者との意見交換により多様性を受容し、さらに分析能力を磨くとともに、研究者としての素養を育む（主体性・多様性・協働性）。

文化史学専攻

文化史学専攻博士課程（後期）は、過去における人間活動のあらゆる領域における事象を対象として、幅広い史料の徹底した分析と精緻な解釈に立脚したオリジナルな歴史像を構築できる能力を身につけて、歴史学の領域において自立した研究者として、あるいは関連する高度専門的な職業において自立的に活躍し、歴史学研究の進展に寄与する人物を養成することを目的とする。

博士（文化史学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（文化史学）の学位を授与する。
・歴史学の領域において自立した研究者として、あるいは関連する高度専門的な職業において自立的に活躍できるように、高度な歴史研究を遂行するのに必要な、当該関連分野に関する広くかつ深い知識、および多様な史料を分析して解釈できる能力を有する（知識・技能）。
・独創的な発想と柔軟かつ緻密な思考を土台にして展開される高度な研究を遂行し、過去の世界に関する人類の認識の進展に寄与しうる有意義な歴史の見方を構想して提示できる能力を有する（思考力・判断力・表現力）。
・重要でありながらも未開拓であった歴史上の課題を主体的かつ先駆的に発見して解明し、多様な観点を尊重する広い視野をもって、人類全体の調和に資する歴史認識の深化に貢献する姿勢をとれる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運用方針

・歴史学の領域において自立した研究者として、あるいは関連する高度専門的な職業において自立的に活躍できるような人材を養成するために、個人の研究分野に関する高度な知識を養う特殊研究と、得た知識を批判的に分析して再構築し表現する力を養う演習､総合演習によって構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

・特殊研究は、指導教員のもとで、高度な歴史研究を遂行するのに必要な、当該関連分野に関する広くかつ深い知識を学ぶことを到達目標とし、Ｉ科目以上を履修する（知識・技能）。
・演習は、設定された課題について多様な史料の解析にもとづいた創造的な構想能力を養うことを到達目標とし、Ⅰ・Ⅱ各４単位以上を履修する。総合演習は、学生と担当教員の全員の出席のもとで、学生が研究発表を行い、高度な専門的歴史研究にふさわしい論理構成や表現能力の錬磨を行うとともに、出席者間での討議を通じて高度な批判的思考力を培うことを到達目標とし、ＡⅠ・ＡⅡまたはＢⅠ・ＢⅡから各２単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力）。

・博士論文は、主体的に課題を発見し、多様な史料の独創的な分析にもとづいて、人類にとって意義あるオリジナルな歴史像を構築し提示することを到達目標とする。また国内外の学会や研究会等での研究発表を自主的に行うことを、博士論文提出の前提条件としている（主体性・多様性・協働性）。

国文学専攻

国文学専攻博士課程（後期）は、古代・中世・近世・近現代の日本文学及び日本語について、作品の実証的研究や理論的研究、国際的視野に基づく比較研究、芸能・演劇等の隣接諸領域を視野に入れた研究、京都という地理的環境を生かした研究などをとおして、日本文化について豊かな専門的知識や知的洞察力を身につけて、大学をはじめとする高度な研究・教育機関において十分な活躍をしうる人物を養成することを目的とする。

博士（国文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（国文学）の学位を授与する。

・日本文学・日本語に関する課題の解決方法について、文献の探索や読解のための専門知識や技能を備え、高度な学術研究の立場を深く理解できる（知識・技能）。
・日本文学・日本語に関する課題について、高度な学術研究の立場から問題点を探究する知的洞察力を身につけ、課題解決のための学術会議において意見を表明できる（思考力・判断力・表現力）。
・日本文学・日本語に関する課題を高度な学術研究の立場から主体的に解決するために、他者と広く意見を交わし、多様な視点を養い、協働的に研究できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運用方針

・日本文学・日本語に関する課題を専門知識や知的洞察力を駆使しながら高度な学術研究の立場から解決し表現できる人物を育成するために、自身の研究テーマに係る高度な専門知識・技能・判断力を養う特殊研究および研究に必要な幅広く高度な能力と資質を養う演習Ⅰ・演習Ⅱ・総合演習によって構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

・特殊研究は、自身が取り上げた課題を解決するために必要な日本文学・日本語に関する専門的知識・技能や思考力を駆使した高度な学術研究の立場を深く理解することを到達目標とし、1科目以上を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
・演習Ⅰ・演習Ⅱは、専門的な判断力や表現力を駆使し、日本文学・日本語の専門領域およびその関連領域に関する高度な学術研究を推進することを到達目標とし、それぞれ6単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力）。
・総合演習は、在籍学生および教員の全員と相互批判しながら各自の研究を主体的・協働的に進展させ、多様な視点を養うことを到達目標とし、4単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
・最後に博士論文において、専門的な知識・技能や思考力・表現力を駆使し、日本文学・日本語についての高度な学術研究に貢献する成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
・なお、広く社会的な評価を得るために、学会で口頭発表および論文発表をすることを奨励する（主体性・多様性・協働性）。

美学芸術学専攻

美学芸術学専攻博士課程（後期）は、美学・芸術学・芸術史（美術史）について、西洋・東洋（日本）の美や芸術について、理論と専門的知識とを相互補完的に学ぶことによって、精深な学識、高度な研究能力、柔軟な思考力、鋭敏な分析力、並びに豊かな表現力を身につけて、美術館・博物館、大学をはじめとする研究機関で研究者として活躍しうる人物を養成することを目的とする。

博士（芸術学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（芸術学）の学位を授与する。

・西洋・東洋（日本）の美学、芸術学、芸術史についての高度な専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法を深く学ぶことができる（知識・技能）。
・多くの情報の中から重要な問題を見出すとともに、多様な視点から柔軟かつ論理的な分析を通じて的確な推論を下し、その成果を平易かつ明晰に表現する高度な研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
・芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運用方針

・美術館・博物館、大学をはじめとする研究機関で研究者として活躍しうる人物を養成するため、特殊研究、特殊演習、総合特殊演習から構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

・研究指導科目である特殊研究では、博士論文作成のための高度な研究能力を養う。この特殊研究のうち一つを履修しなければならない（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
・コース指導科目である特殊演習Ⅰ・Ⅱでは、美や芸術についての高度な専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法を主体的に深く学び、高度な研究能力を身につける。Ⅰ・Ⅱそれぞれから各６単位以上を履修しなければならない（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
・コース指導科目である総合特殊演習では、芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽する。この特殊総合演習から４単位以上を履修しなければならない（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
・博士論文において、身につけた知識・技能・思考力・判断力・表現力を駆使し、高度な研究成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

授業1週目（DOWeek）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載していますので、以下の URL、QR コード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び
https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

2026年度 履修登録関連資料の訂正について

「履修要項」「履修の手引き」といった科目登録に必要な資料について、訂正が生じた場合は、文学部・文学研究科ホームページにて随時周知しますので各自確認してください。

■文学部・文学研究科ホームページ
https://letters.doshisha.ac.jp/letters/students/graduateschool.html

文学研究科

哲学専攻（2013年度以降生）

	登録コード		科目名	主題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
コース指導科目	40211123	001	演習Ⅰ①		2	新　茂之	春学期	2
		002	演習Ⅰ②			（本年度休講）		
		003	演習Ⅰ③			中村　拓也		
		004	演習Ⅰ④			鬼頭　葉子		
		005	演習Ⅰ⑤			服部　敬弘		
	40211124	001	演習Ⅱ①		2	新　茂之	秋学期	2
		002	演習Ⅱ②			（本年度休講）		
		003	演習Ⅱ③			中村　拓也		
		004	演習Ⅱ④			鬼頭　葉子		
		005	演習Ⅱ⑤			服部　敬弘		
	40211125		哲学総合演習		4	新　茂之 中村　拓也 鬼頭　葉子 服部　敬弘	春･秋学期	隔週2
研究指導科目	40211101		哲学および哲学史特殊研究Ⅰ （2024年度以前生のみ登録可）			新　茂之	春･秋学期	2
	40211131		哲学特殊研究Ⅰ(2025年度以降生のみ登録可)			新　茂之	春･秋学期	2
	40211102		哲学および哲学史特殊研究Ⅱ （2024年度以前生のみ登録可）			（本年度休講）		
	40211132		哲学特殊研究Ⅱ(2025年度以降生のみ登録可)			（本年度休講）		
	40211103		哲学および哲学史特殊研究Ⅲ （2024年度以前生のみ登録可）			中村　拓也	春･秋学期	2
	40211133		哲学特殊研究Ⅲ(2025年度以降生のみ登録可)			中村　拓也	春･秋学期	2
	40211104		哲学および哲学史特殊研究Ⅳ （2024年度以前生のみ登録可）			鬼頭　葉子	春･秋学期	2
	40211134		哲学特殊研究Ⅳ(2025年度以降生のみ登録可)			鬼頭　葉子	春･秋学期	2
	40211105		哲学および哲学史特殊研究Ⅴ （2024年度以前生のみ登録可）			服部　敬弘	春･秋学期	2
	40211135		哲学特殊研究Ⅴ(2025年度以降生のみ登録可)			服部　敬弘	春･秋学期	2
	40211106		哲学および哲学史特殊研究Ⅵ （2024年度以前生のみ登録可）			（本年度休講）		
	40211136		哲学特殊研究Ⅵ(2025年度以降生のみ登録可)			（本年度休講）		
	40211107		哲学および哲学史特殊研究Ⅶ （2024年度以前生のみ登録可）			（本年度休講）		
	40211137		哲学特殊研究Ⅶ(2025年度以降生のみ登録可)			（本年度休講）		
	40211108		哲学および哲学史特殊研究Ⅷ （2024年度以前生のみ登録可）			（本年度休講）		
	40211138		哲学特殊研究Ⅷ(2025年度以降生のみ登録可)			（本年度休講）		
	40211109		哲学および哲学史特殊研究Ⅸ （2024年度以前生のみ登録可）			（本年度休講）		
	40211139		哲学特殊研究Ⅸ(2025年度以降生のみ登録可)			（本年度休講）		
			論文					

履修方法

（2024年度以前生）

指導教員の指示により、上記の「哲学および哲学史特殊研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」のうち、いずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各６単位以上、「哲学総合演習」を４単位以上、合計16単位以上を履修すること。

（2025年度以降生）

指導教員の指示により、上記の「哲学特殊研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」のうち、いずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各６単位以上、「哲学総合演習」を４単位以上、合計16単位以上を履修すること。

英文学・英語学専攻（2014年度以降生）

	登録コード		科目名	主題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
研究指導科目	40212131	001	英米文学特殊研究Ⅰ①		2	（本年度休講）	春学期	2
		002	英米文学特殊研究Ⅰ②	20世紀転換期のアメリカ文学研究		石塚　則子		
		003	英米文学特殊研究Ⅰ③			（本年度休講）		
		004	英米文学特殊研究Ⅰ④	アメリカ文学･文化研究I(論文作成演習I)		白川　恵子		
		005	英米文学特殊研究Ⅰ⑤	１９世紀・２０世紀英米小説		臼井　雅美		
		006	英米文学特殊研究Ⅰ⑥	地図とシェイクスピア		勝山　貴之		
		007	英米文学特殊研究Ⅰ⑦	Harold Pinter と David Hare の劇作を読む		川島　　健		
		008	英米文学特殊研究Ⅰ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅰ		下楠　昌哉		
		009	英米文学特殊研究Ⅰ⑨			（本年度休講）		
		010	英米文学特殊研究Ⅰ⑩	イギリス・ロマン主義研究		金津　和美		
		011	英米文学特殊研究Ⅰ⑪	19・20世紀イギリス小説		金谷　益道		
		012	英米文学特殊研究Ⅰ⑫	アメリカ文学研究と批評理論		山辺　省太		
	40212132	001	英米文学特殊研究Ⅱ①		2	（本年度休講）	秋学期	2
		002	英米文学特殊研究Ⅱ②	20世紀転換期のアメリカ文学研究		石塚　則子		
		003	英米文学特殊研究Ⅱ③			（本年度休講）		
		004	英米文学特殊研究Ⅱ④	アメリカ文学・文化研究Ⅱ（論文作成演習Ⅱ）		白川　恵子		
		005	英米文学特殊研究Ⅱ⑤	１９世紀・２０世紀英米小説		臼井　雅美		
		006	英米文学特殊研究Ⅱ⑥	シェイクスピアと東洋への旅行記		勝山　貴之		
		007	英米文学特殊研究Ⅱ⑦	Oscar Wilde's *An Ideal Husband* を読む		川島　　健		
		008	英米文学特殊研究Ⅱ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅱ		下楠　昌哉		
		009	英米文学特殊研究Ⅱ⑨			（本年度休講）		
		010	英米文学特殊研究Ⅱ⑩	イギリス・ロマン主義研究		金津　和美		
		011	英米文学特殊研究Ⅱ⑪	19・20世紀イギリス小説		金谷　益道		
		012	英米文学特殊研究Ⅱ⑫	論文作成法		山辺　省太		
	40212136	001	英語学特殊研究Ⅰ①	認知言語学研究	2	菊田　千春	春学期	2
		002	英語学特殊研究Ⅰ②	第二言語習得・心理言語学		赤松　信彦		
		003	英語学特殊研究Ⅰ③	応用コーパス言語学研究		能登原祥之		
		004	英語学特殊研究Ⅰ④	音声学・音韻論研究		菅原真理子		
		005	英語学特殊研究Ⅰ⑤			STEFANIE ALEXA STADLER		
コース指導科目	40212137	001	英語学特殊研究Ⅱ①	認知言語学研究	2	菊田　千春	秋学期	2
		002	英語学特殊研究Ⅱ②	第二言語習得・心理言語学		赤松　信彦		
		003	英語学特殊研究Ⅱ③	応用コーパス言語学研究法		能登原祥之		
		004	英語学特殊研究Ⅱ④	音声学・音韻論研究		菅原真理子		
		005	英語学特殊研究Ⅱ⑤			STEFANIE ALEXA STADLER		
	40212141	001	演習Ⅰ①		2	（本年度休講）	春学期	2
		002	演習Ⅰ②	第二言語習得・心理言語学		赤松　信彦		
		003	演習Ⅰ③	シェイクスピアとグローバル交易		勝山　貴之		
		004	演習Ⅰ④	英米文学と文学理論		臼井　雅美		
		005	演習Ⅰ⑤	同性愛の舞台表象		川島　　健		
		006	演習Ⅰ⑥	合衆国通史とアメリカ文学：その１		白川　恵子		
		007	演習Ⅰ⑦	イーディス・ウォートン研究		石塚　則子		
		008	演習Ⅰ⑧	応用コーパス言語学		能登原祥之		
		009	演習Ⅰ⑨			（本年度休講）		
		010	演習Ⅰ⑩	認知言語学研究		菊田　千春		
		011	演習Ⅰ⑪	『ユリシーズ』演習Ⅰ		下楠　昌哉		
		012	演習Ⅰ⑫			（本年度休講）		

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間
	科 目	クラス						
コース指導科目	40212141	013	演習Ⅰ⑬	イギリス・ロマン主義研究	2	金津　和美	春学期	2
		014	演習Ⅰ⑭	コンラッド・フォースター研究		金谷　益道		
		015	演習Ⅰ⑮	中世英文学研究		大沼　由布		
		016	演習Ⅰ⑯	音声学・音韻論		菅原真理子		
		017	演習Ⅰ⑰	現代アメリカ文学研究		山辺　省太		
		018	演習Ⅰ⑱			STEFANIE ALEXA STADLER		
		019	演習Ⅰ⑲			杉浦　秀行		
	40212142	001	演習Ⅱ①		2	（本年度休講）	秋学期	2
		002	演習Ⅱ②	第二言語習得・心理言語学		赤松　信彦		
		003	演習Ⅱ③	シェイクスピアとグローバル経済		勝山　貴之		
		004	演習Ⅱ④	英米文学と文学理論		臼井　雅美		
		005	演習Ⅱ⑤	同性愛の舞台表象		川島　　健		
		006	演習Ⅱ⑥	合衆国通史とアメリカ文学：その２		白川　恵子		
		007	演習Ⅱ⑦	イーディス・ウォートン研究		石塚　則子		
		008	演習Ⅱ⑧	応用コーパス言語学研究法		能登原祥之		
		009	演習Ⅱ⑨			（本年度休講）		
		010	演習Ⅱ⑩	認知言語学研究		菊田　千春		
		011	演習Ⅱ⑪	『ユリシーズ』演習 II		下楠　昌哉		
		012	演習Ⅱ⑫			（本年度休講）		
		013	演習Ⅱ⑬	イギリス・ロマン主義研究		金津　和美		
		014	演習Ⅱ⑭	コンラッド・フォースター研究		金谷　益道		
		015	演習Ⅱ⑮	中世英文学研究		大沼　由布		
		016	演習Ⅱ⑯	音声学・音韻論研究		菅原真理子		
		017	演習Ⅱ⑰	現代アメリカ文学研究		山辺　省太		
		018	演習Ⅱ⑱			STEFANIE ALEXA STADLER		
		019	演習Ⅱ⑲			杉浦　秀行		
	40212145		英文学・英語学総合特殊演習	研究論文発表	4	赤松　信彦 勝山　貴之 臼井　雅美 白川　恵子 石塚　則子 川島　　健 能登原祥之 菊田　千春 下楠　昌哉 金津　和美 金谷　益道 菅原真理子 山辺　省太 STEFANIE ALEXA STADLER	春･秋学期	2
			論文					

履修方法

指導教員の指示により、「英米文学特殊研究Ⅰ，Ⅱ」「英語学特殊研究Ⅰ，Ⅱ」のいずれかを登録し、各６単位以上、合計12単位以上を履修すること。

コース指導科目のうち、「演習Ⅰ，Ⅱ」から各６単位以上、「総合特殊演習」を４単位以上、合計16単位以上を履修すること。

なお、上記の「演習Ⅰ，Ⅱ」12単位には、少なくとも主指導の教員が担当するものが８単位、副指導の教員が担当するものが４単位含まれるものとする。

文化史学専攻（2016年度以降生）

	登録コード		科目名	主題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
研究指導科目	40204101		文化史学特殊研究Ⅰ			佐野　静代	春･秋学期	2
	40204102		文化史学特殊研究Ⅱ			水ノ江和同	春･秋学期	2
	40204103		文化史学特殊研究Ⅲ			（本年度休講）		
	40204104		文化史学特殊研究Ⅳ			（本年度休講）		
	40204105		文化史学特殊研究Ⅴ			（本年度休講）		
	40204106		文化史学特殊研究Ⅵ			小林　丈広	春･秋学期	2
	40204107		文化史学特殊研究Ⅶ			（本年度休講）		
	40204108		文化史学特殊研究Ⅷ			堀井　優	春･秋学期	2
	40204109		文化史学特殊研究Ⅸ			阿部　俊大	春･秋学期	2
	40204110		文化史学特殊研究Ⅹ			小野　直子	春･秋学期	2
	40204111		文化史学特殊研究Ⅺ			（本年度休講）		
	40204112		文化史学特殊研究Ⅻ			服部　伸	春･秋学期	2
	40204113		文化史学特殊研究ⅩⅢ			（本年度休講）		
コース指導科目	40204131	001	演習Ⅰ①	歴史地理学	2	佐野　静代	春学期	2
		002	演習Ⅰ②			水ノ江和同		
		003	演習Ⅰ③			（本年度休講）		
		004	演習Ⅰ④			（本年度休講）		
		005	演習Ⅰ⑤			（本年度休講）		
		006	演習Ⅰ⑥	日本近現代史の諸問題Ⅰ		小林　丈広		
		007	演習Ⅰ⑦			（本年度休講）		
		008	演習Ⅰ⑧	中東イスラーム史の諸問題Ⅰ		堀井　優		
		009	演習Ⅰ⑨	西洋中世史研究の諸問題Ⅰ		阿部　俊大		
		010	演習Ⅰ⑩	南北アメリカ史		小野　直子		
		011	演習Ⅰ⑪			（本年度休講）		
		012	演習Ⅰ⑫	西洋近代史演習		服部　伸		
		013	演習Ⅰ⑬			（本年度休講）		
	40204132	001	演習Ⅱ①	歴史地理学	2	佐野　静代	秋学期	2
		002	演習Ⅱ②	考古学の理論と実践		水ノ江和同		
		003	演習Ⅱ③			（本年度休講）		
		004	演習Ⅱ④			（本年度休講）		
		005	演習Ⅱ⑤			（本年度休講）		
		006	演習Ⅱ⑥	日本近現代史の諸問題Ⅱ		小林　丈広		
		007	演習Ⅱ⑦			（本年度休講）		
		008	演習Ⅱ⑧	中東イスラーム史の諸問題２		堀井　優		
		009	演習Ⅱ⑨	西洋中世史研究の諸問題Ⅱ		阿部　俊大		
		010	演習Ⅱ⑩	南北アメリカ史		小野　直子		
		011	演習Ⅱ⑪			（本年度休講）		
		012	演習Ⅱ⑫	西洋近代史演習		服部　伸		
		013	演習Ⅱ⑬			（本年度休講）		
	40204124		文化史学総合演習ＡⅠ（日本史）		1	小林　丈広 水ノ江和同 佐野　静代	春学期	隔週2
	40204125		文化史学総合演習ＡⅡ（日本史）		1	小林　丈広 水ノ江和同 佐野　静代	秋学期	隔週2

	登録コード		科　　目　　名	主　　題	単位	担 当 者	期 間	週時間
	科 目	クラス						
コース指導科目	40204126		文化史学総合演習ＢⅠ（西洋史） （2024年度以前生のみ登録可）		1	阿部　俊大 堀井　　優 服部　　伸 小野　直子	春学期	隔週2
	40204128		文化史学総合演習ＢⅠ（西洋・東洋史） （2025年度以降生のみ登録可）		1	阿部　俊大 堀井　　優 服部　　伸 小野　直子	春学期	隔週2
	40204127		文化史学総合演習ＢⅡ（西洋史） （2024年度以前生のみ登録可）		1	阿部　俊大 堀井　　優 服部　　伸 小野　直子	秋学期	隔週2
	40204129		文化史学総合演習ＢⅡ（西洋・東洋史） （2025年度以降生のみ登録可）		1	阿部　俊大 堀井　　優 服部　　伸 小野　直子	秋学期	隔週2
			論文					

履修方法

指導教員の指示により、「文化史学特殊研究Ⅰ～Ⅻ」のうち、いずれか１つを登録して、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各４単位以上、および「文化史学総合演習ＡⅠ・Ⅱ」または「文化史学総合演習ＢⅠ・Ⅱ」から各２単位以上、合計12単位以上を履修すること。

国文学専攻（2015年度以降生）

	登録コード		科目名	主題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
研究指導科目	40206131		日本文学特殊研究Ⅰ			垣見　修司	春･秋学期	2
	40206132		日本文学特殊研究Ⅱ			岩坪　　健	春･秋学期	2
	40206133		日本文学特殊研究Ⅲ			植木　朝子	春･秋学期	2
	40206134		日本文学特殊研究Ⅳ			（本年度休講）		
	40206135		日本文学特殊研究Ⅴ			（本年度休講）		
	40206136		日本文学特殊研究Ⅵ			西川　貴子	春･秋学期	2
	40206137		日本文学特殊研究Ⅶ			（本年度休講）		
	40206138		日本文学特殊研究Ⅷ			（本年度休講）		
	40206139		日本文学特殊研究Ⅸ			瀬崎　圭二	春･秋学期	2
	40206141		日本語学特殊研究Ⅰ			（本年度休講）		
	40206142		日本語学特殊研究Ⅱ			藤井　俊博	春･秋学期	2
コース指導科目	40206151	001	演習Ⅰ①	上代日本文学の考究	2	垣見　修司	春学期	2
		002	演習Ⅰ②	中古文学の研究方法		岩坪　　健		
		003	演習Ⅰ③	日本中世文学の諸問題		植木　朝子		
		004	演習Ⅰ④			（本年度休講）		
		005	演習Ⅰ⑤			（本年度休講）		
		006	演習Ⅰ⑥	近現代文学の研究方法		西川　貴子		
		007	演習Ⅰ⑦			（本年度休講）		
		008	演習Ⅰ⑧			（本年度休講）		
		009	演習Ⅰ⑨	日本近現代文学における諸問題		瀬崎　圭二		
		010	演習Ⅰ⑩			（本年度休講）		
		011	演習Ⅰ⑪	日本語の諸問題		藤井　俊博		
	40206152	001	演習Ⅱ①	上代文学の諸問題	2	垣見　修司	秋学期	2
		002	演習Ⅱ②	中古文学の研究方法		岩坪　　健		
		003	演習Ⅱ③	日本中世文学の諸問題		植木　朝子		
		004	演習Ⅱ④			（本年度休講）		
		005	演習Ⅱ⑤			（本年度休講）		
		006	演習Ⅱ⑥	近現代文学の研究方法		西川　貴子		
		007	演習Ⅱ⑦			（本年度休講）		
		008	演習Ⅱ⑧			（本年度休講）		
		009	演習Ⅱ⑨	日本近現代文学における諸問題		瀬崎　圭二		
		010	演習Ⅱ⑩			（本年度休講）		
		011	演習Ⅱ⑪	日本語の諸問題		藤井　俊博		
	40206153		総合演習	日本文学・日本語学の発展的研究	4	岩坪　　健 垣見　修司 西川　貴子 藤井　俊博 瀬崎　圭二	春･秋学期	2
			論文					

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目「日本文学特殊研究Ⅰ～Ⅸ」「日本語学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」のうち、いずれか一つを登録して、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各６単位以上、「総合演習」を４単位以上、合計16単位以上を履修すること。

美学芸術学専攻（2013年度以降生）

	登録コード		科目名	主題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
コース指導科目	40213131	001	美学芸術学特殊演習Ⅰ①		2	（本年度休講）	春学期	2
		002	美学芸術学特殊演習Ⅰ②	東アジア美術史の諸問題Ⅰ		河野　道房		
		003	美学芸術学特殊演習Ⅰ③	美術における保管と展示		越前　俊也		
		004	美学芸術学特殊演習Ⅰ④	履修生の研究課題に沿って		伊達　立晶		
		005	美学芸術学特殊演習Ⅰ⑤	イメージ研究の方法論Ⅰ		佐藤　守弘		
		006	美学芸術学特殊演習Ⅰ⑥	カント『判断力批判』の序文を読む		森田　團		
	40213132	001	美学芸術学特殊演習Ⅱ①		2	（本年度休講）	秋学期	2
		002	美学芸術学特殊演習Ⅱ②	東アジア美術史の諸問題Ⅱ		河野　道房		
		003	美学芸術学特殊演習Ⅱ③	観者から考察する美術		越前　俊也		
		004	美学芸術学特殊演習Ⅱ④	履修生の研究課題に沿って		伊達　立晶		
		005	美学芸術学特殊演習Ⅱ⑤	イメージ研究の方法論Ⅱ		佐藤　守弘		
		006	美学芸術学特殊演習Ⅱ⑥	カント『判断力批判』の序文を読む		森田　團		
	40213130		美学芸術学総合特殊演習	美学・芸術学・芸術史の諸問題	4	河野　道房 越前　俊也 伊達　立晶 佐藤　守弘 森田　團 大愛　崇晴 吉田　朋子	春･秋学期	2
研究指導科目	40213133	001	美学芸術学特殊研究①			（本年度休講）	春･秋学期	2
		002	美学芸術学特殊研究②			河野　道房		
		003	美学芸術学特殊研究③			越前　俊也		
		004	美学芸術学特殊研究④			伊達　立晶		
		005	美学芸術学特殊研究⑤			森田　團		
		006	美学芸術学特殊研究⑥			佐藤　守弘		
			論文					

履修方法

指導教員の指示により、上記の「美学芸術学特殊研究」のうち、いずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「美学芸術学特殊演習Ⅰ・Ⅱ」から各６単位以上、「美学芸術学総合特殊演習」を４単位以上、合計16単位以上を履修すること。

社会学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◇博士課程（後期課程）

社会学研究科博士課程（後期）は、各専門の学問分野について、各専門分野が開拓し蓄積してきた理論的、実証的方法を自己の研究テーマに即して応用探求批判し、博士学位論文の作成を通じて、既存の研究水準を半歩でも前進させる研究能力を身に付けて、学問の理論的実践的飛躍に貢献できる研究者、若しくは当該専門分野での経営執行の専門家の養成を目的とする。

社会福祉学専攻

◆人材養成に関する目的

社会福祉学専攻博士課程（後期）は、博士課程（前期）と同様に、社会福祉の「価値・倫理観」、「知識」と「援助技術」の習得という教育目標のもと、博士学位論文の作成を指導することにより、大学院生の高度な研究能力を育成することによって、優秀な研究者を養成することを目的とするとともに、社会福祉の諸領域において専門性の高い企画立案と実践を遂行できる経営・管理的実践家の養成を目指す。

◆ディプロマ・ポリシー

少子・高齢化社会における多くの福祉課題の解決に向けて、社会福祉の制度・政策、地域福祉、対人援助それぞれの高度な専門知識を習得し、現場に密接した優れた相談援助スキルを身に付けることができる。（知識・技能）

社会が直面する社会問題に対し、社会福祉の各領域において抜きん出た国際的な社会科学的知見から学術的に探究し、その解決に向けて行動し、発信できる。（思考力・判断力・表現力）

社会福祉の基礎になっている価値・倫理観を習得し、福祉社会の健全な発展に向けてハイレベルな政策企画や実践を探求できる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

【2018年度以降生】

後期課程では、院生は指導教員の研究指導科目を登録し、博士論文の完成に向けて研究指導を受け、独創的な研究をまとめた学会報告と学術論文の作成を行う。また、授業科目の中から、各「セミナー」「社会福祉学総合演習」を含め計10単位以上を履修する。

その間、博士論文予備発表会で報告し、博士学位論文提出予備審査を経て、学位論文提出条件を充足するように個別研究指導を受ける。また、副指導教員を含む他の教員からも指導を受ける。

研究指導科目ならびに授業科目は、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

【2017年度以前生】

後期課程では、院生は指導教員の研究指導科目を登録し、博士論文の完成に向けて研究指導を受け、独創的な研究をまとめた学会報告と学術論文の作成を行う。その間、博士論文予備発表会で報告し、博士学位論文提出予備審査を経て、学位論文提出条件を充足するように個別研究指導を受ける。また、副指導教員を含む他の教員からも指導を受ける。研究指導科目は、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

メディア学専攻

◆人材養成に関する目的

メディア学専攻博士課程（後期）は、メディアとジャーナリズム、情報と社会、文化とコミュニケーションの視座から、現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの影響・機能について、高度な理論的研究を行うとともに、実践的スキルを修得させ、修了後は研究者として、あるいは官民の研究機関・メディア機関や一般コミュニケーション関連企業等において活躍できる人材の育成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

幅広い国際的視野と高度な学術的な知見に基づいてメディアの重要な社会的課題を理解することができる。（知識・技能）

高度な専門家としてメディアの重要課題の解決に有効な学際的で独創的な研究によって学界・産業界・国際社会などに貢献ができる。（思考力・判断力・表現力）

民主的で公正な社会実現に向けてメディアの重要な課題を解決するために自立した専門的な探求ができる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

- 国際的な視野を持つ高度な専門家として、メディアとジャーナリズムの関わり、情報と社会の関わり、文化とコミュニケーションの関わりという視座からの独創的な研究によって、学界・産業界・国際社会などに貢献ができる人材を育成するため、指導教員により深く専門的な教育指導を行う研究指導科目を設置する。
- 研究指導科目は各専任教員の「メディア学特殊研究」からなるが、さらに授業科目である個々の研究領域の各「特殊講義」および「リサーチ・セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において学びを深め、メディアの課題をより深く理解し、その解決に向けた学界・産業界・国際社会などに貢献する独創的な研究を行いうるために、計18単位以上を履修する。「リサーチ・セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では多角的、学際的な視野をもった専門家の育成をめざす。その上で、毎年全教員が参加する中間発表会での個々人の研究の錬磨、副指導教員制度の活用、さらには学会発表および学術論文の作成を行うことを通じて、博士号取得に向けた高度な学術研究の方法とその実践的応用、また形式知のみならず暗黙知に至るまで身に付けることを目標として履修する。
- 研究指導科目ならびに授業科目は、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

教育文化学専攻

◆人材養成に関する目的

教育文化学専攻博士課程（後期）は、多文化共生社会おける教育文化による人間形成について理論研究およびフィールド研究に取り組むことで、多文化間の相互理解に関する高度な研究能力と学際的視野を有する研究者、教育者の育成を目指す。

◆ディプロマ・ポリシー

多文化共生社会における教育文化による人間形成、多文化間の相互理解について、高度な研究能力を習得し、それぞれの専門分野において新しい知見を提供する高度な論文を執筆することができる。（知識・技能）

多文化共生社会における教育文化による人間形成、多文化間の相互理解について、諸理論と学際的方法に基づいて、より高度な問題発見、分析、解決ができ、これを公表することができる。（思考力・判断力・表現力）

多文化共生社会における教育文化による人間形成、多文化間の相互理解について、学際的な視野を持って主体的に活動する研究者、教育者としての態度を育成できる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、博士後期課程では、深い専門的な知識と理論を探求するため、研究指導科目である教育文化学特殊研究を通じて、教員から専門的な指導を受けると同時に、授業科目によって構成されるカリキュラムから16単位以上を修得するという単位制度を基本としている。

授業科目は、研究指導科目に加え、多文化共生社会における教育文化による人間形成を理解し、多文化間の相互理解を推進していくことを到達目標にし、多様な学際的な側面から知識と技能を習得するための科目によって構成されている。

研究指導科目および授業科目はそれぞれ、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

社会学専攻

◆人材養成に関する目的

社会学専攻博士課程（後期）は、社会学・人類学という学問分野についての自立した専門的研究教育者養成をめざして行われる教育をとおして、（１）人間社会に対する深い洞察力、（２）オリジナルな研究を論理的かつ説得的に展開する能力、（３）専門分野におけるコミュニケーションや組織化の能力を身に付け、大学をはじめ各種研究機関において専門教育研究職として社会に貢献する人材の養成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

社会学、社会心理学、社会人類学それぞれにおけるオリジナルな調査研究を展開するために必要な幅広い知識を習得する。（知識・技能）

前期課程で習得した基礎研究能力に加え、専門分野におけるコミュニケーション能力や組織力、研究資源の獲得・管理能力、オリジナルな調査研究の構築力を養う。（思考力・判断力・表現力）

人間社会に対する深い洞察力を持ち、高い倫理性を併せ持つ自立した研究者となることを目指す。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

【2018年度以降生】

ディプロマ・ポリシーに基づき、博士後期課程では、深い専門的な知識と理論を探求するため、院生は指導教員の研究指導科目である社会学特殊研究を登録し、博士学位請求論文の作成に向けての指導を受けると同時に、「アドバンスト・リサーチ・セミナーⅠ・Ⅱ」を含めて14単位以上の単位を修得する。研究指導科目ならびに授業科目は、「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

最終的には学位請求論文の完成が目標となるが、国際学会や全国学会での研究発表、学会専門誌での論文発表が前提となる。各自のオリジナルな研究成果を論理的かつ説得的に発表できるように指導することが教育の柱となる。また適宜、副指導教員を含む他の教員からも指導を受けることにより、より広い視座を獲得することも必要となる。

産業関係学専攻

◆人材養成に関する目的

産業関係学専攻博士課程（後期）は、雇用・労働に関わる問題について学会での研究発表や学術論文の執筆を行うことにより、高度な専門知識・革新的な研究方法や分析能力を実践的に涵養することをとおして、産業関係学の高度な研究能力と雇用ルールの制度設計等を行う能力を身に付けて、労働研究及び人材マネジメントの専門家として大学・研究機関・企業・行政機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

雇用・労働問題を専門的実証的に分析することにより、雇用と労働を巡る事実と理論を相互媒介的に認識できるようになる。（知識・技能）

理論的知見に基づき新たな雇用制度を提起するために、博士論文等の学術論文の執筆、学会での研究発表等ができるようになる。（思考力・判断力・表現力）

雇用・労働問題を専門的実証的に分析することにより、課題の解決に向けた新たな雇用ルールの制度設計を行うことができる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

深く専門的な知識と理論を探求するため、研究指導科目である産業関係学特殊研究（テキスト情報系・数値情報系）を通じて、教員から専門的な指導を受けると同時に、授業科目の中から、合同演習形式の「アドバンスト・リサーチ・セミナー」２単位を含め12単位以上を修得するという単位制度を基本としている。

研究指導科目では、雇用・労働を巡る社会現象の観察から出発して、社会現象の中にある法則や特質を解明し、学問的知見に基づいて雇用ルールの制度設計を行えるようになると共に、明らかになった知見を学会発表や博士論文等の学術論文の形で公表することを目指している。

授業科目は、それぞれ「学力の三要素 / 領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

これらを通じて、雇用・労働問題を専門的、実証的に分析することにより、雇用と労働を巡る事実と理論を相互媒介的に認識し、新たな雇用ルールの制度設計を遂行できる労働研究及び人材マネジメントの専門家の育成を目指している。

社会学研究科

社会福祉学専攻（2018年度以降生）

科目群	履修年次	登録コード		科目名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード					
研究指導科目	1～	40910101		社会福祉学特殊研究Ⅰ	鈴木　良	通年	2	
	1～	40910102		社会福祉学特殊研究Ⅱ	木原　活信	通年	2	
	1～	40910103		社会福祉学特殊研究Ⅲ	永田　祐	通年	2	
	1～	40910104		社会福祉学特殊研究Ⅳ	休講			
	1～	40910105		社会福祉学特殊研究Ⅴ	小山　隆	通年	2	
	1～	40910106		社会福祉学特殊研究Ⅵ	休講			
	1～	40910107		社会福祉学特殊研究Ⅶ	空閑　浩人	通年	2	
	3～			論文				

科目群	履修年次	登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード						
授業科目	1～	40910001		社会保障論セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910002		社会保障論セミナーⅡ	4	休講			
	1～	40910003		福祉思想・福祉哲学セミナーⅠ	4	木原　活信	通年	2	
	1～	40910004		福祉思想・福祉哲学セミナーⅡ	4	休講			
	1～	40910005		ソーシャルワーク論セミナーＡⅠ	4	休講			
	1～	40910006		ソーシャルワーク論セミナーＡⅡ	4	休講			
	1～	40910007		高齢者福祉論セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910008		高齢者福祉論セミナーⅡ	4	休講			
	1～	40910009		ソーシャルワーク論セミナーＢⅠ	4	休講			
	1～	40910010		ソーシャルワーク論セミナーＢⅡ	4	小山　隆	通年	2	
	1～	40910011		地域福祉論セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910012		地域福祉論セミナーⅡ	4	永田　祐	秋学期	4	
	1～	40910013		ソーシャルワーク論セミナーＣⅠ	4	空閑　浩人	通年	2	
	1～	40910014		ソーシャルワーク論セミナーＣⅡ	4	休講			
	1～	40910015		障害学セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910016		障害学セミナーⅡ	4	鈴木　良	通年	2	
	1～	40911001		社会福祉学総合演習	2	鈴木　良 空閑　浩人 木原　活信 小山　隆 永田　祐 野村　裕美	通年	集中※	

※集中講義科目の講義日程等は指導教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれかを一つ登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から、「社会福祉学総合演習」2単位を含め、合計10単位以上を履修すること。

社会福祉学専攻（2017年度以前生）

科目群	履修年次	登録コード		科目名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード					
研究指導科目	1～	40910101		社会福祉学特殊研究Ⅰ	鈴木　良	通年	2	
	1～	40910102		社会福祉学特殊研究Ⅱ	木原　活信	通年	2	
	1～	40910103		社会福祉学特殊研究Ⅲ	永田　祐	通年	2	
	1～	40910104		社会福祉学特殊研究Ⅳ	休講			
	1～	40910105		社会福祉学特殊研究Ⅴ	小山　隆	通年	2	
	1～	40910106		社会福祉学特殊研究Ⅵ	休講			
	1～	40910107		社会福祉学特殊研究Ⅶ	空閑　浩人	通年	2	
	3～			論　文				

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれかを一つ登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。

メディア学専攻

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード					
研究指導科目	1～	40920101		メディア学特殊研究Ⅰ A	休講			
	1～	40920102		メディア学特殊研究Ⅰ B	休講			
	1～	40920103		メディア学特殊研究Ⅱ A	佐伯　順子	通年	2	
	1～	40920104		メディア学特殊研究Ⅱ B	休講			
	1～	40920105		メディア学特殊研究Ⅲ A	河崎　吉紀	通年	2	
	1～	40920106		メディア学特殊研究Ⅲ B	小黒　　純	通年	2	
	1～	40920107		メディア学特殊研究Ⅳ A	竹内　幸絵	通年	2	
	1～	40920108		メディア学特殊研究Ⅳ B	勝野　宏史	通年	2	
	3～			論　文				

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード						
授業科目	1～	40920001		表象メディア論特殊講義	4	竹内　幸絵	通年	2	
	1～	40920002		現代文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40920003		情報環境論特殊講義	4	休講			
	1～	40920004		社会ネットワーク論特殊講義	4	休講			
	1～	40920005		メディア社会論特殊講義	4	休講			
	1～	40920006		メディアとジェンダー論特殊講義	4	佐伯　順子	通年	2	
	1～	40920007		ジャーナリズム論特殊講義	4	小黒　　純	通年	2	
	1～	40920008		調査報道論特殊講義	4	休講			
	1～	40920009		メディア史特殊講義	4	河崎　吉紀	通年	2	
	1～	40920010		ジャーナリズム史特殊講義	4	休講			
	1～	40920011		マス・コミュニケーション論特殊講義	4	休講			
	1～	40920012		マス・メディア論特殊講義	4	休講			
	1～	40920013		コミュニケーション論特殊講義	4	休講			
	1～	40920014		現代社会論特殊講義	4	休講			
	1～	40920015		広報学特殊講義	4	休講			
	1～	40920016		メディア人類学特殊講義	4	勝野　宏史	通年	2	
	1～	40921001		リサーチ・セミナーⅠ	2	河崎　吉紀 小黒　　純 佐伯　順子 竹内　幸絵 勝野　宏史	通年	集中※	
	2～	40921002		リサーチ・セミナーⅡ	2	河崎　吉紀 小黒　　純 佐伯　順子 竹内　幸絵 勝野　宏史	通年	集中※	リサーチ・セミナーⅠを履修済であること
	3～	40921003		リサーチ・セミナーⅢ	2	河崎　吉紀 小黒　　純 佐伯　順子 竹内　幸絵 勝野　宏史	通年	集中※	リサーチ・セミナーⅡを履修済であること

※集中講義科目の講義日程等は指導教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から「リサーチ・セミナーⅠ」「リサーチ・セミナーⅡ」「リサーチ・セミナーⅢ」各2単位を含め、合計18単位以上を履修すること。

教育文化学専攻

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担 当 者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード					
研究指導科目	1～	40960101		教育文化学特殊研究Ⅰ	吉田　亮	通年	2	
	1～	40960102		教育文化学特殊研究Ⅱ	兒島　明	通年	2	
	1～	40960103		教育文化学特殊研究Ⅲ	休講			
	1～	40960104		教育文化学特殊研究Ⅳ	中川　吉晴	通年	2	
	1～	40960105		教育文化学特殊研究Ⅴ	小松　光	通年	2	
	1～	40960106		教育文化学特殊研究Ⅵ	休講			
	1～	40960107		教育文化学特殊研究Ⅶ	休講			
	1～	40960108		教育文化学特殊研究Ⅷ	休講			
	3～			論　文				

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード						
授業科目	1～	40960021		キリスト教人間形成論特殊講義	4	休講			
	1～	40960022		キリスト教教育文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40960026		日本教育文化論特殊講義	4	兒島　明	通年	2	
	1～	40960027		西洋教育文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40960025		異文化間心理教育論特殊講義	4	休講			
	1～	40960028		アジア教育文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40960031		移民教育文化論特殊講義	4	吉田　亮	通年	2	
	1～	40960032		比較教育文化論特殊講義	4	小松　光	通年	2	
	1～	40960041		学校教育文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40960062		生涯学習文化論特殊講義	4	中川　吉晴	通年	2	
	1～	40960063		教育文化学調査法特殊講義	4	休講			
	1～	40960064		Doctoral Lectures in Globalization, Education and Culture	4	W.R.Stevenson III	通年	2	
	1～	40960065		教育文化学特殊講義Ⅰ	4	休講			
	1～	40960066		教育文化学特殊講義Ⅱ	4	休講			
	1～	40960067		教育文化学特殊講義Ⅲ	4	休講			

履修方法

指導教員の指示により、特殊研究のいずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。授業科目は、合計16単位以上を 履修すること。

社会学専攻

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担 当 者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード					
研究指導科目	1～	40940201		社会学特殊研究Ⅰ	休講			
	1～	40940202		社会学特殊研究Ⅱ	休講			
	1～	40940203		社会学特殊研究Ⅲ	尾嶋　史章	通年	2	
	1～	40940204		社会学特殊研究Ⅳ	鵜飼　孝造	通年	2	
	1～	40940205		社会学特殊研究Ⅴ	森　千香子	通年	2	
	1～	40940206		社会学特殊研究Ⅵ	藤本　昌代	通年	2	
	1～	40940207		社会学特殊研究Ⅶ	板垣　竜太	通年	2	
	1～	40940208		社会学特殊研究Ⅷ	休講			
	3～			論　文				

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード						
授業科目	1～	40940001		社会心理学特殊講義	4	休講			
	1～	40940002		政治社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40940003		家族社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40940004		災害復興過程論特殊講義	4	休講			
	1～	40940005		教育社会学特殊講義	4	尾嶋　史章	通年	2	
	1～	40940006		社会階層論特殊講義	4	休講			
	1～	40940007		社会学理論特殊講義	4	鵜飼　孝造	通年	2	
	1～	40940008		社会ネットワーク分析論特殊講義	4	休講			
	1～	40940009		社会人類学特殊講義	4	板垣　竜太	通年	2	
	1～	40940010		産業・労働社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40940011		職業社会学特殊講義	4	藤本　昌代	通年	2	
	1～	40940012		国際社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40940013		エリアスタディーズ特殊講義	4	休講			
	1～	40940014		多文化共生論特殊講義	4	森　千香子	通年	2	
	1～	40941001		アドバンスト・リサーチ・セミナーⅠ	1	藤本　昌代 尾嶋　史章 鵜飼　孝造 森　千香子 板垣　竜太	通年	集中※	
	2～	40941002		アドバンスト・リサーチ・セミナーⅡ	1	藤本　昌代 尾嶋　史章 鵜飼　孝造 森　千香子 板垣　竜太	通年	集中※	Ⅰを履修済であること

※集中講義科目の講義日程等は指導教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から、「アドバンスト・リサーチ・セミナーⅠ」「アドバンスト・リサーチ・セミナーⅡ」 各1単位を含め、合計14単位以上を履修すること。

産業関係学専攻

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード					
研究指導科目	1～	40950101		産業関係学特殊研究Ⅰ	寺井　基博	通年	2	
	1～	40950102		産業関係学特殊研究Ⅱ	松山　一紀	通年	2	
	1～	40950103		産業関係学特殊研究Ⅲ	上田　眞士	通年	2	
	1～	40950104		産業関係学特殊研究Ⅳ	梶谷　真也	通年	2	
	1～	40950105		産業関係学特殊研究Ⅴ	浦坂　純子	通年	2	
	1～	40950106		産業関係学特殊研究Ⅵ	阿形　健司	通年	2	
	3～			論　文				

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目コード	クラスコード						
授業科目	1～	40950001		非典型雇用論特殊講義	4	休講			
	1～	40950002		労働調査論特殊講義	4	休講			
	1～	40950003		産業関係学特殊講義	4	休講			
	1～	40950004		人的資源管理論特殊講義	4	上田　眞士	通年	2	
	1～	40950005		労働市場論特殊講義	4	休講			
	1～	40950006		労働経済学特殊講義	4	梶谷　真也	通年	2	
	1～	40950007		労働統計論特殊講義	4	休講			
	1～	40950008		キャリア形成論特殊講義	4	浦坂　純子	通年	2	
	1～	40950009		教育社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40950010		産業社会学特殊講義	4	阿形　健司	通年	2	
	1～	40950011		産業心理学特殊講義	4	松山　一紀	通年	2	
	1～	40950012		組織行動学特殊講義	4	休講			
	1～	40950013		雇用政策特殊講義	4	休講			
	1～	40950014		労働法特殊講義	4	寺井　基博	通年	2	
	3～	40951001		アドバンスト・リサーチ・セミナー	2	松山　一紀	通年	集中※	
	1～	40951002		アドバンスト・フィールドワーク	2	浦坂　純子	通年	集中※	

※集中講義科目の講義日程等は担当教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれかを一つ登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から、「アドバンスト・リサーチ・セミナー」２単位を含め、合計12単位以上を履修すること。

法学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

政治学専攻

◇博士（政治学）

目指すべき人材（物）像

法学研究科政治学専攻博士課程（後期）は、政治学の各分野について、専門的できめ細かな指導を行うことを通じて、研究者あるいは行政・立法機関、企業などにおける実務家として広く学界で活躍する人材の養成を目指す。また、博士学位取得に至るまでの体系的な学修システム（博士学位取得プロセス）を運用するなかで、大学や研究機関において研究活動を行う研究者の育成はもとより、実務家として活動しながらも研究機関に所属する研究者と積極的に連携した研究活動を展開し、その学術的成果を広く社会に還元させることの出来る有為な人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（DP）

下記の資質・能力を備えた学生に博士（政治学）学位を授与します。

知識・技能

・政治学の各分野において、独立した研究者としての活動の基盤となる、高度かつ専門的な知識を獲得し、政治学的な問題を客観的に調査するために必要な技能を修得する。

思考力・判断力・表現力

・独立した研究者として活動することを可能とする、研究テーマに応じた理論と分析手法を駆使することにより、政治学的な問題に対応できる柔軟な応用力を修得する。

主体性・多様性・協働性

・文化や思想の多様性を尊重し、他者との協働を通じて、対象とする政治学的な問題について、独創性のある分析と提言ができる。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

・政治学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者としての独創性のある研究を行うことができる研究能力を身につけるためのカリキュラムを定め、博士学位論文執筆のための体系的なシステム（博士学位取得プロセス）を提供する。

学力の三要素 / 領域

知識・技能

・学生は、指導教員の専門的できめ細かな指導を受けることにより、政治学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者として独創性のある研究を行うことができる研究能力を身につけ、十分な学術的価値を有する博士学位論文を執筆する。

・なお、政治学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングをあらかじめ受けていない者は、第１年次に、政治学系の研究論文作成のトレーニングとして「論文演習（政治資料・データ研究）」を履修する。

思考力・判断力・表現力

・第２年次に論文題目審査を受けることにより、研究テーマの学術的価値を適切に表現する力を修得する。

主体性・多様性・協働性

・いずれの学生に対しても、修了までの３年の間には、広い学問的視野の涵養が目的とされる中で様々な研究手法を修得する機会が与えられる「総合演習（政治学）」の履修が求められる。

・さらに、最終審査委員予定者が同席して実施される中間報告会で報告し指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する力を修得する。

私法学専攻

◇博士（法学）

目指すべき人材（物）像

法学研究科私法学専攻博士課程（後期）は、私法学の各分野において、専門的できめ細かな指導を行うことを通じて、研究者あるいは法曹界・行政・企業などにおける法律実務家として広く学界で活躍する人材の養成を目指す。また、博士学位取得に至るまでの体系的な学修システム（博士学位取得プロセス）を運用するなかで、大学や研究機関において研究活動を行う研究者の育成はもとより、実務家として活動しながらも研究機関に所属する研究者と積極的に連携した研究活動を展開し、その学術的成果を広く社会に還元させることの出来る有為な人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（DP）

下記の資質・能力を備えた学生に博士（法学）学位を授与します。

知識・技能

・私法学の各分野において、独立した研究者としての活動の基盤となる、高度かつ専門的な知識を獲得し、各研究領域における調査・研究手法に習熟している。

思考力・判断力・表現力

・独立した研究者として活動することを可能とする、法理論的研究、比較法的研究、法史的研究、法政策学的研究など、研究テーマに求められる適切な研究手法を駆使できる。

主体性・多様性・協働性

・対象とする法律問題について、理論面・実践面において独創的かつ有意義な情報の発信ができる。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

・私法学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者としての独創性のある研究を行うことができる研究能力を修得するためのカリキュラムを定める。

学力の三要素 / 領域

知識・技能

・担当教員による専門的かつ、きめ細かな指導を受けることを基本とする。一方で、後期課程に進学する以前に、法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない者に対しては、第１年次に、法学系の研究論文作成のトレーニングとして「論文演習Ⅰ（判例研究）」「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の

履修を求める。

思考力・判断力・表現力

・博士学位論文執筆のための体系的なシステム（博士学位取得プロセス）を提供する。また、第２年次には、論文題目審査を受けることにより、研究テーマの学術的価値を適切に表現する力を身につける。

主体性・多様性・協動性

・いずれの学生に対しても、修了までの３年の間には、広い学問的視野の涵養が目的とされる中で様々な研究手法を修得する機会が与えられる「総合演習（法学）」の履修が求められる。

・さらに博士学位論文の執筆過程では、学位論文審査予定の教員が同席して実施される中間報告会で、執筆の現状などを報告し指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける。

公法学専攻

◇博士（法学）

目指すべき人材（物）像

法学研究科公法学専攻博士課程（後期）は、公法学の各分野において専門的できめ細かな指導を行うことを通じて、研究者あるいは法曹界・行政・企業などにおける法律実務家として広く学界で活躍する人材の養成を目指す。また、博士学位取得に至るまでの体系的な学修システム（博士学位取得プロセス）を運用するなかで、大学や研究機関において研究活動を行う研究者の育成はもとより、実務家として活動しながらも研究機関に所属する研究者と積極的に連携した研究活動を展開し、その学術的成果を広く社会に還元させることの出来る有為な人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（DP）

下記の資質・能力を備えた学生に博士（法学）学位を授与します。

知識・技能

・公法学の各分野において、独立した研究者としての活動の基盤となる、高度かつ専門的な知識を獲得し、各研究領域における調査・研究手法に習熟している。

思考力・判断力・表現力

・独立した研究者として活動することを可能とする、法理論的研究、比較法的研究、法史的研究、法政策学的研究など、研究テーマに求められる適切な研究手法を駆使できる。

主体性・多様性・協働性

・対象とする法律問題について、理論面・実践面において独創的かつ有意義な情報の発信ができる。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

・公法学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者としての独創性のある研究を行うことができる研究能力を修得するためのカリキュラムを定める。

学力の三要素 / 領域

知識・技能

・担当教員による専門的かつ、きめ細かな指導を受けることを基本とする。一方で、後期課程に進学する以前に、法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない者に対しては、第１年次に、法学系の研究論文作成のトレーニングとして「論文演習Ⅰ（判例研究）」「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の履修を求める。

思考力・判断力・表現力

・博士学位論文執筆のための体系的なシステム（博士学位取得プロセス）を提供する。また、第２年次には、論文題目審査を受けることにより、研究テーマの学術的価値を適切に表現する力を身につける。

主体性・多様性・協働性

・いずれの学生に対しても、修了までの３年の間には、広い学問的視野の涵養が目的とされる中で様々な研究手法を修得する機会が与えられる「総合演習（法学）」の履修が求められる。

・さらに博士学位論文の執筆過程では、学位論文審査予定の教員が同席して実施される中間報告会で執筆の現状などを報告し指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける。

法 学 研 究 科

政 治 学 専 攻

登録コード		研 究 指 導 科 目	担 当 者
科 目	クラス		
40310105		政 治 思 想 史 特 殊 研 究	長谷川一年
40310302		国 際 政 治 学 特 殊 研 究 Ⅰ	村田　晃嗣
40310303		国 際 政 治 学 特 殊 研 究 Ⅱ	大矢根　聡
40310306		国 際 政 治 学 特 殊 研 究 Ⅲ	鷲江　義勝
40310401		行 政 学 特 殊 研 究	市川　喜崇
40310501		政 治 史 特 殊 研 究 Ⅰ	力久　昌幸
40310502		政 治 史 特 殊 研 究 Ⅱ	森　　靖夫
40310702		国 際 政 治 経 済 学 特 殊 研 究	寺田　　貴
40310801		政 治 文 化 論 特 殊 研 究	西澤　由隆
40310803		政 治 過 程 論 特 殊 研 究	森　　裕城
40310804		政 治 行 動 論 特 殊 研 究	飯田　　健
40310901		論　　文	

登録コード		授 業 科 目	期 間	週時間	単位	担 当 者	備 考
科 目	クラス						
40310881		論文演習（政治資料・データ研究）	春学期	2	2	担当者不定	
40310891		総合演習（政治学）				長谷川一年、大矢根　聡、鷲江　義勝、市川　義崇、森　　靖夫、毛利　亜樹、寺田　　貴、西澤　由隆、森　　裕城、飯田　　健、森下　明子、望月　詩史	

履修方法

・指導教員の指示により、専攻分野の研究指導を受けてください。
・指導教員の「特殊研究」は必ず登録してください。
・「論文演習（政治資料・データ研究）」の履修対象者は、政治学系の研究科を修士論文の合格をもって修了していない学生（政治学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない学生）とします。
・「総合演習（政治学）」は、単位修得を修了要件とはしませんが、３年間のうち（修了まで）に単位を修得することが望ましい。
・博士学位取得プロセスについての詳細は、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
・大学院学則により、博士課程の後期課程に３年以上在学した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、**学部または大学院の授業科目（特殊研究および論文を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができません**ので、留意のうえ科目登録をしてください。

ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。。

私法学専攻

登録コード		研究指導科目	担当者	備考
科目	クラス			
40330101		民法特殊研究Ⅰ	神谷　遊	
40330102		民法特殊研究Ⅱ	上田誠一郎	
40330103		民法特殊研究Ⅲ	川和　功子	
40330104		民法特殊研究Ⅳ	梶山　玉香	
40330105		民法特殊研究Ⅴ		
40330106		民法特殊研究Ⅵ		
40330201		商法特殊研究Ⅰ		
40330202		商法特殊研究Ⅱ	釜田　薫子	
40330203		商法特殊研究Ⅲ	川口　恭弘	
40330204		商法特殊研究Ⅳ	舩津　浩司	
40330205		商法特殊研究Ⅴ	木下　孝治	
40330206		商法特殊研究Ⅵ	伊藤　靖史	
40330301		経済法特殊研究	瀬領　真悟	
40330402		国際私法特殊研究Ⅰ	髙杉　直	
40330403		国際私法特殊研究Ⅱ	林　貴美	
40330404		国際私法特殊研究Ⅲ		
40330501		民事訴訟法特殊研究Ⅰ	川嶋　四郎	
40330502		民事訴訟法特殊研究Ⅱ	岡田　幸宏	
40330503		民事訴訟法特殊研究Ⅲ	中西　正	
40330504		民事訴訟法特殊研究Ⅳ	林　昭一	
40330505		民事訴訟法特殊研究Ⅴ		
40330603		知的財産法特殊研究Ⅰ	井関　涼子	（注１）
40330604		知的財産法特殊研究Ⅱ	山根　崇邦	
40330802		労働法特殊研究Ⅰ	土田　道夫	
40330803		労働法特殊研究Ⅱ		
40310901		論　文		

登録コード		授業科目	期間	週時間	単位	担当者	備考
科目	クラス						
40330881		論文演習Ⅰ（判例研究）	春学期	2	2	担当者不定	
40330882		論文演習Ⅱ（外国法研究）	秋学期	2	2	担当者不定	
40330891		総合演習（法学）	春学期	2	2	（本年度休講）	

履修方法

・指導教員の指示により、専攻分野の研究指導を受けてください。
・指導教員の「特殊研究」は必ず登録してください。
・「論文演習Ⅰ（判例研究）」と「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の履修対象者は、法学系の研究科を修士論文の合格をもって修了していない学生（法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない学生）とします。
・「論文演習Ⅰ（判例研究）」と「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の担当者は、履修している学生の指導教員となる予定です。
・「総合演習（法学）」は、単位修得を修了要件とはしませんが、３年間のうち（修了まで）に単位を修得することが望ましい。
・博士学位取得プロセスについての詳細は、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
・大学院学則により、博士課程の後期課程に３年以上在学した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、**学部または大学院の授業科目（特殊研究および論文を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができません**ので、留意のうえ科目登録をしてください。

（注１）2023年度以前生は知的財産権法特殊研究を履修してください。

ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。

公法学専攻

登録コード		研究指導科目	担当者	備考
科目	クラス			
40360101		憲法特殊研究Ⅰ	勝山　教子	
40360102		憲法特殊研究Ⅱ	松本　哲治	
40360103		憲法特殊研究Ⅲ		
40360104		憲法特殊研究Ⅳ		
40360201		行政法特殊研究Ⅰ		
40360204		行政法特殊研究Ⅱ	佐伯　彰洋	
40360203		行政法特殊研究Ⅲ（税法を含む）	倉見　智亮	
40360205		行政法特殊研究Ⅳ	横田　光平	
40360206		行政法特殊研究Ⅴ	黒坂　則子	
40360302		国際法特殊研究Ⅰ	新井　　京	
40360303		国際法特殊研究Ⅱ	浅田　正彦	
40360304		国際法特殊研究Ⅲ		
40360401		刑法特殊研究Ⅰ	川崎　友巳	
40360406		刑法特殊研究Ⅱ	松原　久利	
40360403		刑法特殊研究Ⅲ	十河　太朗	
40360407		刑法特殊研究Ⅳ		
40360408		刑法特殊研究Ⅴ		
40360411		刑法特殊研究Ⅵ		
40360405		刑事学特殊研究	川崎　友巳	
40360409		刑事訴訟法特殊研究Ⅰ	宇藤　　崇	
40360410		刑事訴訟法特殊研究Ⅱ		
40360501		法哲学特殊研究Ⅰ	濱　真一郎	
40360502		法哲学特殊研究Ⅱ		
40360601		法思想史特殊研究	戒能　通弘	
40360602		法制史特殊研究Ⅰ		
40360603		法制史特殊研究Ⅱ		
40360604		法社会学特殊研究	木下麻奈子	
40310901		論　　文		

登録コード		授業科目	期間	週時間	単位	担当者	備考
科目	クラス						
40330881		論文演習Ⅰ（判例研究）	春学期	2	2	担当者不定	
40330882		論文演習Ⅱ（外国法研究）	秋学期	2	2	担当者不定	
40330891		総合演習（法学）	春学期	2	2	（本年度休講）	

履修方法

・指導教員の指示により、専攻分野の研究指導を受けてください。
・指導教員の「特殊研究」は必ず登録してください。
・「論文演習Ⅰ（判例研究）」と「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の履修対象者は、法学系の研究科を修士論文の合格をもって修了していない学生（法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない学生）とします。
・「論文演習Ⅰ（判例研究）」と「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の担当者は、履修している学生の指導教員となる予定です。
・「総合演習（法学）」は、単位修得を修了要件とはしませんが、３年間のうち（修了まで）に単位を修得することが望ましい。
・博士学位取得プロセスについての詳細は、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
・大学院学則により、博士課程の後期課程に３年以上在学した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、**学部または大学院の授業科目（特殊研究および論文を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができません**ので、留意のうえ科目登録をしてください。

ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。

経済学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

経済政策専攻（後期課程）

◆人材養成に関する目的

経済学研究科経済政策専攻博士課程（後期）は、本研究科の長い歴史に培われてきた研究教育環境の下で、特定の研究分野とそれに関連する幅広い分野に関する深い学識と国際性に裏付けられたコミュニケーション能力を備え、経済学の研究水準の新たな理解に立って、自立的に高度な研究に取り組むことのできる人物を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

国内外の専門・関連領域の先端的研究から十分な専門的知見・分析技法を習得し、その学術的・社会的な意義を理解し、またグローバルに学術交流できる。

（思考力・判断力・表現力）

自らの分析・研究成果の独創性を学術的水準に抽象化して理解し、知の体系・学術の発展に寄与し、さらなる発展の可能性、未解決の課題を自覚できる。

（主体性・多様性・協働性）

常に良心と社会的視点に基づいて柔軟に物事を考え、人びとの多様な発展と幸福を追求し、経済が直面する課題に独創的な貢献をできる。

◆カリキュラム・ポリシー

〔研究者養成コース〕

・博士学位を取得して大学・研究機関等で経済学の研究に従事し、グローバルに活躍する人物を養成するために、論文指導演習、合同演習、選択研究科目を設置する。
・論文指導演習は、自ら学術的・社会的な意義・貢献のある研究構想を提示すること、客観的で一貫性のある論理を構成すること、指導教員の助言・批判に的確に応答すること、学術論文として適切な形式を備えて独創的な研究成果を示すことを到達目標とする。１年次から３年次にかけて「論文指導演習Ⅰ・II」の８単位を必修とする。（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）
・合同演習は、指導教員以外の教員・院生を交えて研究発表をする演習科目である。発表の技術を向上させ、出席者との質疑応答を通じて博士論文の水準を高めることを到達目標とする。１年次から３年次にかけて登録必須科目として設置する。（主体性・多様性・協働性）
・選択研究科目は、博士論文を執筆するうえで必要な周辺領域の高度な知識・分析技法を習得することを到達目標とする。指導教員の同意のうえで１年次から３年次にかけて８単位を選択履修する。（知識・技能）

〔社会人特別コース〕

・企業・研究機関・大学などで蓄積した研究成果を活かして論文にまとめ、博士学位を取得するために、論文指導演習、合同演習、選択研究科目を設置する。
・論文指導演習は、自ら学術的・社会的な意義・貢献のある研究構想を提示すること、客観的で一貫性のある論理を構成すること、指導教員の助言・批判に的確に応答すること、学術論文として適切な形式を備えて独創的な研究成果を示すことを到達目標とする。１年次から３年次にかけて「論文指導演習Ⅰ」の４単位を必修とする。（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）
・合同演習は、指導教員以外の教員・院生を交えて研究発表をする演習科目である。発表の技術を向上させ、出席者との質疑応答を通じて博士論文の水準を高めることを到達目標とする。１年次から３年次にかけて登録必須科目として設置する。（主体性・多様性・協働性）

・選択研究科目は、博士論文を執筆するうえで必要な周辺領域の高度な知識・分析技法を習得することを到達目標とする。指導教員の同意のうえで１年次から３年次にかけて４単位を選択履修する。（知識・技能）

経 済 学 研 究 科

経済政策専攻

登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
研究指導分野									
40410020		財政政策学		（本年度休講）			1～	不可	
40410040	094	理論経済学㊹		茂見　岳志			1～	不可	
40410040	096	理論経済学㊻		谷村　智輝			1～	不可	
40410040	097	理論経済学㊼		山森　　亮			1～	不可	
40410040	102	理論経済学㉒		大野　　隆			1～	不可	
40410040	106	理論経済学㊻		大垣　昌夫			1～	不可	
40410060	070	計量経済学⑦⓪		北坂　真一			1～	不可	
40410070	104	国際経済学㊹		手島　健介			1～	不可	
40410070	107	国際経済学㊼		山本　和博			1～	不可	
40410080	098	環境経済学㊽		石田　葉月			1～	不可	
40410080	105	環境経済学㊺		三俣　　学			1～	不可	
40410090		貨幣金融論		新関三希代			1～	不可	
40410110		労働経済論		宮本　　大			1～	不可	
40410140		企業経済論		竹廣　良司			1～	不可	
40410200		経済統計論		（本年度休講）			1～	不可	
40410220		経済学史		西岡　幹雄			1～	不可	
40410230		日本経済史		（本年度休講）			1～	不可	
40410240		中国経済史		横井　和彦			1～	不可	
40410260	095	比較社会経済史㊺		菅　　一城			1～	不可	
40410260	103	比較社会経済史㉓		福岡　正章			1～	不可	
40410270		経済政策理論		東　　良彰			1～	不可	
40410280		資源経済学		和田　喜彦			1～	不可	
40410290		宗教経済学		（本年度休講）			1～	不可	
40410300	061	公共経済学⑥①		八木　　匡			1～	不可	
40410300	079	公共経済学⑦⑨		宮澤　和俊			1～	不可	
40410300	090	公共経済学⑨⓪		船橋　恒裕			1～	不可	
40410310		金融政策論		（本年度休講）			1～	不可	
40410320		世界経済史		（本年度休講）			1～	不可	
40410330		環境情報学		（本年度休講）			1～	不可	
40410340		地域交通論		小藤　弘樹			1～	不可	
40410350		文化経済論		河島　伸子			1～	不可	
40410360		国際政治経済学		（本年度休講）			1～	不可	
40410370		金融論		（本年度休講）			1～	不可	
40410380		国際金融論		久保徳次郎			1～	不可	
40410390		経済情報学		宮崎　　耕			1～	不可	
40410500		合同演習		全教員			1～	不可	
〔授業科目〕									
演習科目									
40410510		論文指導演習Ⅰ	4	全教員	通年	2	1	不可	クラスコード表参照
40410520		論文指導演習Ⅱ	4	4クラス	通年	2	2	不可	
40410530		論文指導演習Ⅲ	4	7クラス	通年	2	3	不可	

登録コード		科　目　名・ク　ラ　ス	単位	担　当　者	期　間	週時間	配当年次	聴講区分	備　　考
科　目	クラス								
選択研究科目									
40410601	001	ミクロ経済学研究①	4	茂見　岳志 佐藤　敦紘			1～	不可	
40410601	002	ミクロ経済学研究②	4	大野　　隆 谷村　智輝			1～	不可	
40410602	001	マクロ経済学研究①	4	（未定）			1～	不可	
40410603	001	数量経済分析研究①	4	八木　　匡 河島　伸子			1～	不可	
40410604	001	経済政策研究①	4	茂見　岳志 小橋　　晶			1～	不可	
40410604	002	経済政策研究②	4	春）手島　健介・ 八木　　匡 秋）八木　　匡・ 荒渡　　良			1～	不可	
40410605	001	経済史研究①	4	西岡　幹雄 福岡　正章			1～	不可	
40410605	002	経済史研究②	4	横井　和彦 谷村　智輝			1～	不可	
40410606	001	政治経済学研究①	4	（未定）			1～	不可	
40410607	001	日本経済研究①	4	（未定）			1～	不可	
40410608	001	世界経済研究①	4	（未定）			1～	不可	
論文									
40410801		論文					1～	不可	

（注）選択研究科目は、博士論文を執筆するうえで必要となる周辺領域について、深い知識を得ることを到達目標とした科目である。本科目は複数の担当者により行われ、指導教員の同意のうえ、履修する。

論文指導演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ担当者クラス・コード

コード	担　当　者	コード	担　当　者	コード	担　当　者	コード	担　当　者
046	西岡　幹雄	054	宮崎　　耕	055	久保徳次郎	061	八木　　匡
063	河島　伸子	070	北坂　真一	073	和田　喜彦	079	宮澤　和俊
085	新関三希代	086	竹廣　良司	090	船橋　恒裕	092	東　　良彰
093	小藤　弘樹	094	茂見　岳志	095	菅　　一城	096	谷村　智輝
097	山森　　亮	098	石田　葉月	099	宮本　　大	101	横井　和彦
102	大野　　隆	103	福岡　正章	104	手島　健介	105	三俣　　学
106	大垣　昌夫	107	山本　和博				

履修方法

1．研究者養成コース

指導教員の研究指導分野を選択し、指導教員が担当する論文指導演習Ⅰ・Ⅱの８単位と選択研究科目８単位を含む20単位以上を修得しなければならない。また、在学中は合同演習を登録しなければならない。

2．社会人特別コース

指導教員の研究指導分野を選択し、指導教員が担当する論文指導演習Ⅰの４単位と選択研究科目４単位を含む８単位以上を修得しなければならない。また、在学中は合同演習を登録しなければならない。

商学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

教育の目的

国際的に通用する学術研究の発展のためには、国内外の最先端の研究成果に精通し、高度な調査・研究・教育活動を担う若手研究者の育成が望まれている。本研究科では、世界的水準を意識した学術研究・教育体制の下で、高度の専門知識や応用的な研究方法を教授する。大学院学生の研究活動を積極的に支援し、1966年に発刊した『商学論集』などへの投稿や学会における研究成果の発表、国際的な調査・交流活動を奨励している。そのことによって、独創的で洞察力に優れた高度な研究能力と、国際的に信頼される豊かな学識とを備えた人材を積極的に育成する。そのうえ、学位取得のプロセスを明確にし、複数研究指導制、アドバイザリー・ボードを設け、厳正な審査によって博士号を取得させる。

【人材養成目的】

商学研究科商学専攻博士課程（後期）は，現代産業社会の経済活動に関わる諸問題について，みずから課題を発見し探求する深い学識と専門的調査研究能力を基礎に，より高度な学問領域を深く掘り下げ，新しく開拓し，もって現代産業社会および学術活動の進歩と発展に貢献する研究・教育活動等の中核を担いうる人材を養成することを目的とする。

【ディプロマ・ポリシー】（学位授与方針）

商学研究科では、ビジネス環境の変化に対応することのできる、次の三つの観点から評価した高度な能力をかねそなえた人物に、「博士（商学）」の学位を授与する。

知識・技能

現代産業社会の諸問題について、文献資料や統計データを調査・分析する技能を備え、理論的・実証的に、社会と学術の進歩に貢献しうる深い洞察ができるような、関連する分野への幅広い学術的知見を得ることができる。

思考力・判断力・表現力

現代産業社会の諸問題について、自ら課題を積極的に発見し、社会と学術の進歩に貢献しうる知見を探求し、広く公表できる。

主体性・多様性・協働性

現代産業社会の諸問題についての幅広い学術的理解に基づいて、産業社会の発展に寄与するために、行動することができる。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成方針）

現代産業社会の経済活動に関わる諸問題について、自ら課題を発見し、高度な学問領域を探求し、産業社会および学術の進歩と発展に貢献する人材を養成するために、博士論文作成を個別指導する集中制の「研究指導科目」および16単位以上を履修する「コース指導科目」を設置する。「コース指導科目」は、専門分野に関連する研究領域に関して、研究能力の向上を目的とする「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」と、教育能力および教育技法の指導に重点を置いた「総合演習」から構成される。

知識・技能

「研究指導科目」、「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」を履修することにより、現代産業社会の諸問題に関連する専門分野および研究領域について、文献資料やデータの調査・分析、より広範な知識の習得および、研究能力の向上を図ることができるようになる。また、「総合演習」を受講することにより、研究能力の向上のみならず、教育能力の向上および教育技法の習得を行うことができるようになる

思考力・判断力・表現力

「研究指導科目」、「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」を履修することにより、現代産業社会の諸問題に関連する専門分野および研究領域について、広範な知識と研究能力の習得にもとづき、自ら課題を設定し、論文や学会報告として公表することができるようになる。また、「総合演習」を受講することにより、プレゼンテーション能力を養成することができるようになる。

主体性・多様性・協働性

「研究指導科目」、「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」を履修することにより、現代産業社会の諸問題を探求する基本的態度を身につけることができるようになる。また、「総合演習」における報告や討論を通じて、多様な見解についての知見を深め、将来、産業社会の発展に貢献する主体的・協働的な態度を身につけた研究者・教育者、高度専門職業人として行動するための姿勢を身につけることができるようになる。

商 学 研 究 科

商学研究科　開講科目一覧

後期課程

◆研究指導科目

（2023年度以降生）

登録コード		科目名	クラス	主題	担当者	登録コード		科目名	クラス	主題	担当者
科目	クラス					科目	クラス				
40500100	001	商学特殊研究	1	金融論	植田　宏文	40500100	011	商学特殊研究	11	企業と社会	今西　宏次
40500100	002	商学特殊研究	2	貿易論	田淵　太一	40500100	012	商学特殊研究	12	経営戦略論	冨田　健司
40500100	003	商学特殊研究	3	金融システム論	丸茂　俊彦	40500100	013	商学特殊研究	13	管理会計論	中川　優
40500100	004	商学特殊研究	4	国際金融論	服部　茂幸	40500100	014	商学特殊研究	14	国際会計論	稲見　亨
40500100	005	商学特殊研究	5	地域経済論	内藤　徹	40500100	015	商学特殊研究	15	財務会計論	志賀　理
40500100	006	商学特殊研究	6	市場と人間	小島　秀信	40500100	016	商学特殊研究	16	財務諸表分析	山本　達司
40500100	007	商学特殊研究	7	商業史	川満　直樹	40500100	017	商学特殊研究	17	実験会計学	田口　聡志
40500100	008	商学特殊研究	8	電子商取引	長沼　健	40500100	018	商学特殊研究	18	貿易政策論	久松　太郎
40500100	009	商学特殊研究	9	消費者行動論	髙橋　広行	40500100	019	商学特殊研究	19	産業連関論	岡　敏弘
40500100	010	商学特殊研究	10	国際契約論	吉川英一郎	40500100	020	商学特殊研究	20	財務諸表論	大日方　隆

（2016～2022年度生）

登録コード		研究指導分野	担当者	登録コード		研究指導分野	担当者
科目	クラス			科目	クラス		
40500015		金融論	植田　宏文	40500050		経営戦略論	冨田　健司
40500043		貿易論	田淵　太一	40500037		管理会計論	中川　優
40500046		金融システム論	丸茂　俊彦	40500038		国際会計論	稲見　亨
40500040		国際金融論	服部　茂幸	40500018		財務会計論	志賀　理
40500049		地域経済論	内藤　徹	40500047		財務諸表分析	山本　達司
40500044		企業と社会	今西　宏次	40500048		実験会計学	田口　聡志

◆コース指導科目

登録コード		科目名	クラス	単位	担当者	期間	登録コード		科目名	クラス	単位	担当者	期間
科目	クラス						科目	クラス					
40500101	001	演習Ⅰ	1	2	植田　宏文	春学期	40500102	001	演習Ⅱ	1	2	植田　宏文	秋学期
40500101	002	演習Ⅰ	2	2	田淵　太一	春学期	40500102	002	演習Ⅱ	2	2	田淵　太一	秋学期
40500101	003	演習Ⅰ	3	2	丸茂　俊彦	春学期	40500102	003	演習Ⅱ	3	2	丸茂　俊彦	秋学期
40500101	004	演習Ⅰ	4	2	服部　茂幸	春学期	40500102	004	演習Ⅱ	4	2	服部　茂幸	秋学期
40500101	005	演習Ⅰ	5	2	内藤　徹	春学期	40500102	005	演習Ⅱ	5	2	内藤　徹	秋学期
40500101	006	演習Ⅰ	6	2	小島　秀信	春学期	40500102	006	演習Ⅱ	6	2	小島　秀信	秋学期
40500101	007	演習Ⅰ	7	2	川満　直樹	春学期	40500102	007	演習Ⅱ	7	2	川満　直樹	秋学期
40500101	008	演習Ⅰ	8	2	長沼　健	春学期	40500102	008	演習Ⅱ	8	2	長沼　健	秋学期
40500101	009	演習Ⅰ	9	2	髙橋　広行	春学期	40500102	009	演習Ⅱ	9	2	髙橋　広行	秋学期
40500101	010	演習Ⅰ	10	2	吉川英一郎	春学期	40500102	010	演習Ⅱ	10	2	吉川英一郎	秋学期
40500101	011	演習Ⅰ	11	2	今西　宏次	春学期	40500102	011	演習Ⅱ	11	2	今西　宏次	秋学期
40500101	012	演習Ⅰ	12	2	冨田　健司	春学期	40500102	012	演習Ⅱ	12	2	冨田　健司	秋学期
40500101	013	演習Ⅰ	13	2	中川　優	春学期	40500102	013	演習Ⅱ	13	2	中川　優	秋学期
40500101	014	演習Ⅰ	14	2	稲見　亨	春学期	40500102	014	演習Ⅱ	14	2	稲見　亨	秋学期
40500101	015	演習Ⅰ	15	2	志賀　理	春学期	40500102	015	演習Ⅱ	15	2	志賀　理	秋学期
40500101	016	演習Ⅰ	16	2	山本　達司	春学期	40500102	016	演習Ⅱ	16	2	山本　達司	秋学期
40500101	017	演習Ⅰ	17	2	田口　聡志	春学期	40500102	017	演習Ⅱ	17	2	田口　聡志	秋学期
40500101	018	演習Ⅰ	18	2	久松　太郎	春学期	40500102	018	演習Ⅱ	18	2	久松　太郎	秋学期

40500101	019	演習Ⅰ	19	2	岡　敏弘	春学期	40500102	019	演習Ⅱ	19	2	岡　敏弘	秋学期
40500101	020	演習Ⅰ	20	2	大日方　隆	春学期	40500102	020	演習Ⅱ	20	2	大日方　隆	秋学期
40500111		総合演習		4	植田　宏文 田淵　太一 丸茂　俊彦 服部　茂幸 内藤　徹 小島　秀信 川満　直樹 長沼　健 髙橋　広行 吉川英一郎 今西　宏次 冨田　健司 中川　優 稲見　亨 志賀　理 山本　達司 田口　聡志 久松　太郎 岡　敏弘 大日方　隆	春秋							

【履修方法】

・指導教員の指示により,「商学特殊研究」(2016年度生～2022年度生は研究指導科目のうちいずれか一つ)を登録し，指導を受けるものとする。コース指導科目のうち，副指導教員の「演習Ⅰ・Ⅱ」,「総合演習」を含み，16単位以上を履修すること。

総合政策科学研究科

総合政策科学専攻
2025年度以降生

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

◇博士課程（後期課程）

総合政策科学研究科総合政策科学専攻博士課程（後期）は、高度な問題解決能力を総合的に備えた専門職業人を育成すべく、総合性、学際性及び現地性にすぐれた教育体系をとおして、多角的な視野で問題を正しく把握し、解決に向けての政策を的確に立案・実施できる能力に加え、職業的研究者としても十分に社会に貢献できる資質を涵養することにより、政府、企業、非営利等の社会の基幹領域や、主として人文・社会科学系の学問研究分野の第一線で活躍できる人材を養成することを目的とする。

【2025年度以降生】

博士（政策科学）

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

多様化・複雑化する現代社会において、公共部門・民間企業が国内外で直面する課題を、学際的・総合的観点に立った高度な学術的知見に基づいて理解できるようになる。

（思考力・判断力・表現力）

多様化・複雑化する現代社会において、公共部門・民間企業が国内外で直面する課題を、学際的・総合的観点に立った高度な学術的知見に基づいて政策の立案・実施・評価を的確に行うことができるようになる。

（主体性・多様性・協働性）

多様化・複雑化・国際化する現代社会が直面する公共的課題などを主体的に発見し、その適切な解決策を特定の学問分野の枠を超えて理論・実証の両面から多角的に探求できるようになる。

◆カリキュラム・ポリシー

・多様化・複雑化・国際化する現代社会が直面する公共的課題などに対して、高度な理論的知見と卓越した実践的能力に基づいて、その問題解決を主導することのできる研究者や高度専門職業人を養成するために、コースワークである選択必修科目や演習科目、リサーチワークである研究指導科目や論文によって構成されるカリキュラムを設置する。

・選択必修科目は、多様化・複雑化・国際化する現代社会が直面する公共的課題を理解するとともに、政策科学領域の学術的研究の基礎となる研究分析手法の習得を目標とし、１科目２単位以上を履修する。

・演習科目は、担当教員間の密接な連携による指導の下で、高度に学術的かつ専門的な評価に値する研究としての博士資格論文、博士学位論文を完成することを目標に、１０単位以上を履修する。

・研究指導科目は、指導教員の研究指導により、公共部門、民間企業、国際社会が直面する課題を解決するための能力の総合的・体系的習得と独創的な学術研究の完成を目標とし、高度に専門的な研究を遂行する。

・論文は、科目の履修を通して獲得した、現代社会が直面する様々な課題の体系的・実践的解決に関する研究活動の集大成として、独創性、学際性及び総合性において、高度に学術的かつ専門的な評価に値する卓越した研究として厳格に審査される。

博士（ソーシャル・イノベーション）

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

社会に生起する具体的公共問題を、学際的・総合的観点に立った高度な学術的知見に基づいて、なお且つ歴史的・哲学的・経営的視点からも理解できるようになる。

（思考力・判断力・表現力）

社会に生起する具体的公共問題を解決するために、学際的・総合的観点に立った高度な学術的知見に基づいたソーシャル・イノベーション・モデルを開発し、社会的事業を継続的に企画・立案・実践することができるようになる。

（主体性・多様性・協働性）

社会に生起する具体的公共問題を解決するために、ソーシャル・イノベーターとして、また理論と実践ともに優れたソーシャル・イノベーション研究者として、学術的、社会的な評価を得られるようになる。また知的財産としての価値を有するようなソーシャル・イノベーション・モデルを発展させる意欲を昂進させるようになる。

◆カリキュラム・ポリシー

・社会に生起する具体的公共問題に対して、高度な理論的知見と卓越した実践的能力に基づいて、その問題解決を主導することのできる研究者や高度専門職業人を養成するために、コースワークである選択必修科目や演習科目、リサーチワークである研究指導科目や論文によって構成されるカリキュラムを設置する。
・選択必修科目は、社会に生起する具体的公共問題を理解するとともに、ソーシャル・イノベーションに関する学術的研究の基礎となる研究分析手法の習得を目標とし、１科目２単位以上を履修する。
・演習科目は、担当教員間の密接な連携による指導の下で、高度に学術的かつ専門的な評価に値する研究としての博士資格論文、博士学位論文を完成することを目標に、１０単位以上を履修する。
・研究指導科目は、指導教員の研究指導により、社会に生起する具体的公共問題の課題解決能力の総合的・体系的習得と独創的な学術研究の完成を目標とし、高度に専門的な研究を遂行する。
・論文は、科目の履修を通して獲得した、社会に生起する具体的公共問題の体系的・実践的解決に関する研究活動の集大成を、社会的課題の実践的解決を目指す社会実験を通じて自らの仮説の妥当性を証明する独創性、学際性及び総合性において、高度に学術的、専門的、社会革新的な評価に値する卓越した実践的研究として厳格に審査される。

授業１週目(DO Week)と授業２週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り２週分の授業はオンデマンドで受講することが同志社大学及び同志社大学大学院における標準的な授業となりますが、総合政策科学研究科においては、教室での授業とオンデマンドでの受講（原則１週目のみ）が基本となります。

授業１週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載しています。以下 URL もしくは QR コードから詳細を確認してください。また、授業２週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び（標準的な授業）
https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

総 合 政 策 科 学 研 究 科

総合政策科学専攻（2025年度以降生）

登録コード 科目	クラス	科 目 名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
リサーチワーク								
〔研究指導科目〕								
40780001	001	政策科学特殊研究		足立　光生	春学期			指導教員の研究指導科目を選択すること
	002	政策科学特殊研究		藤本　哲史				
	003	政策科学特殊研究		畑本　裕介				
	004	政策科学特殊研究		内田　真輔				
	005	政策科学特殊研究		入江　容子				
	006	政策科学特殊研究		柿本　昭人				
	007	政策科学特殊研究		川口　　章				
	008	政策科学特殊研究		川井　圭司				
	009	政策科学特殊研究		川上　敏和				
	010	政策科学特殊研究		川浦　昭彦				
	011	政策科学特殊研究		風間　規男				
	012	政策科学特殊研究		久保　真人				
	014	政策科学特殊研究		武藏　勝宏				
	015	政策科学特殊研究		新見　陽子				
	016	政策科学特殊研究		野田　　遊				
	017	政策科学特殊研究		野間　敏克				
	018	政策科学特殊研究		岡本由美子				
	019	政策科学特殊研究		大島佳代子				
	020	政策科学特殊研究		多田　　実				
	021	政策科学特殊研究		田中　秀樹				
	022	政策科学特殊研究		田中　宏樹				
	023	政策科学特殊研究		月村　太郎				
	024	政策科学特殊研究		吉田　　徹				
	025	政策科学特殊研究		富樫　耕介				
	101	政策科学特殊研究		足立　光生	秋学期			
	102	政策科学特殊研究		藤本　哲史				
	103	政策科学特殊研究		畑本　裕介				
	104	政策科学特殊研究		内田　真輔				
	105	政策科学特殊研究		入江　容子				
	106	政策科学特殊研究		柿本　昭人				
	107	政策科学特殊研究		川口　　章				
	108	政策科学特殊研究		川井　圭司				
	109	政策科学特殊研究		川上　敏和				
	110	政策科学特殊研究		川浦　昭彦				
	111	政策科学特殊研究		風間　規男				
	112	政策科学特殊研究		久保　真人				
	114	政策科学特殊研究		武藏　勝宏				
	115	政策科学特殊研究		新見　陽子				
	116	政策科学特殊研究		野田　　遊				
	117	政策科学特殊研究		野間　敏克				
	118	政策科学特殊研究		岡本由美子				
	119	政策科学特殊研究		大島佳代子				

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
40780001	120	政策科学特殊研究		多田　　実	秋学期			指導教員の研究指導科目を選択すること
	121	政策科学特殊研究		田中　秀樹				
	122	政策科学特殊研究		田中　宏樹				
	123	政策科学特殊研究		月村　太郎				
	124	政策科学特殊研究		吉田　　徹				
	125	政策科学特殊研究		富樫　耕介				
コースワーク								
〔演習科目〕								
40780020	001	特講演習Ⅰ	2	足立　光生	春学期	集中	不可	配当年次： ２年次～ 指導教員“以外”の演習科目を選択すること
	002	特講演習Ⅰ		藤本　哲史				
	003	特講演習Ⅰ		畑本　裕介				
	004	特講演習Ⅰ		内田　真輔				
	005	特講演習Ⅰ		入江　容子				
	006	特講演習Ⅰ		柿本　昭人				
	007	特講演習Ⅰ		川口　　章				
	008	特講演習Ⅰ		川井　圭司				
	009	特講演習Ⅰ		川上　敏和				
	010	特講演習Ⅰ		川浦　昭彦				
	011	特講演習Ⅰ		風間　規男				
	012	特講演習Ⅰ		久保　真人				
	014	特講演習Ⅰ		武藏　勝宏				
	015	特講演習Ⅰ		新見　陽子				
	016	特講演習Ⅰ		野田　　遊				
	017	特講演習Ⅰ		野間　敏克				
	018	特講演習Ⅰ		岡本由美子				
	019	特講演習Ⅰ		大島佳代子				
	020	特講演習Ⅰ		多田　　実				
	021	特講演習Ⅰ		田中　秀樹				
	022	特講演習Ⅰ		田中　宏樹				
	023	特講演習Ⅰ		月村　太郎				
	024	特講演習Ⅰ		吉田　　徹				
	025	特講演習Ⅰ		富樫　耕介				
	026	特講演習Ⅰ		中島　恵理				
40780021	001	特講演習Ⅱ		足立　光生	秋学期			指導教員“以外”の演習科目を選択すること
	002	特講演習Ⅱ		藤本　哲史				
	003	特講演習Ⅱ		畑本　裕介				
	004	特講演習Ⅱ		内田　真輔				
	005	特講演習Ⅱ		入江　容子				
	006	特講演習Ⅱ		柿本　昭人				
	007	特講演習Ⅱ		川口　　章				
	008	特講演習Ⅱ		川井　圭司				
	009	特講演習Ⅱ		川上　敏和				
	010	特講演習Ⅱ		川浦　昭彦				
	011	特講演習Ⅱ		風間　規男				
	012	特講演習Ⅱ		久保　真人				
	014	特講演習Ⅱ		武藏　勝宏				
	015	特講演習Ⅱ		新見　陽子				
	016	特講演習Ⅱ		野田　　遊				
	017	特講演習Ⅱ		野間　敏克				

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
40780021	018	特講演習Ⅱ	2	岡本由美子	秋学期	集中	不可	指導教員“以外”の演習科目を選択すること
	019	特講演習Ⅱ		大島佳代子				
	020	特講演習Ⅱ		多田　　実				
	021	特講演習Ⅱ		田中　秀樹				
	022	特講演習Ⅱ		田中　宏樹				
	023	特講演習Ⅱ		月村　太郎				
	024	特講演習Ⅱ		吉田　　徹				
	025	特講演習Ⅱ		富樫　耕介				
40780010	000	共同演習			2年次秋	集中	不可	
〔選択必修科目（２単位以上履修すること)〕								
40780030	001	リサーチ・デザイン特講 (政策科学)	2	川上　敏和 藤本　哲史 川浦　昭彦 入江　容子 田中　秀樹 野田　　遊 安達　晃史 中原　　慧 辻　優太郎 柿本　昭人 川口　　章 久保　真人 大島佳代子 月村　太郎	春学期	集中	不可	オンデマンド授業+対面授業 ※講義日程の詳細はシラバス、時間割表を確認すること
40780031	001	リサーチ・デザイン特講 (ソーシャル・イノベーション)		川上　敏和 藤本　哲史 川浦　昭彦 入江　容子 田中　秀樹 野田　　遊 安達　晃史 中原　　慧 辻　優太郎 武藏　勝宏				
40780040	001	比較政策科学文献研究（政策科学）		柿本　昭人	秋学期	2	不可	
	002	比較政策科学文献研究（政策科学）		川井　圭司	春学期	2		
40780041	001	比較政策科学文献研究 (ソーシャル・イノベーション)		中嶋　　愛	春学期	2	不可	

履修方法

1．研究指導を希望する教員に相談の上、修了必要単位数表（下記、3の表）に従って計画的に履修すること。

2．年間の登録単位数は24単位を限度とする。また、春学期および秋学期の登録単位数はそれぞれ12単位を限度とする。

3．修了必要単位数表

	科目群	科目名　※すべて合否科目	配当年次	学期	修了必要単位数の内訳	合計
リサーチワーク	研究指導科目	政策科学特殊研究	毎年次	春／秋	単位無し	12単位以上
コースワーク	演習科目	特講演習Ⅰ	2年次～	春	8単位以上	
		特講演習Ⅱ	1年次～	秋		
		共同演習	2年次	秋	2単位	
	選択必修科目	リサーチ・デザイン特講（政策科学） 比較政策科学文献研究（政策科学） リサーチ・デザイン特講（ソーシャル・イノベーション） 比較政策科学文献研究（ソーシャル・イノベーション）	1年次～	春／秋	2単位	

※早期修了の場合は修了必要単位数が変わります。詳細は「履修の手引き」を参照のこと

4．リサーチワーク

・研究指導科目：**指導教員の担当する「政策科学特殊研究」を毎学期必ず登録すること。**

5．コースワーク

・演習科目：指導教員**以外**が担当する「特講演習Ⅰ」「特講演習Ⅱ」を8単位以上、指導教員が科目代表者を務める「共同演習」（2年次秋学期）を2単位履修すること。

※「特講演習Ⅰ」「特講演習Ⅱ」は同一学期に複数クラス履修することが可能。ただし、同一学期に「共同演習」を履修することができない。

・選択必修科目：2単位以上履修すること。登録にあたっては、「履修の手引き」を参照のこと。

6．選択必修科目の登録について

・登録にあたり「履修希望書」の提出が必要となる（学修支援システム DUET では登録できない）。
詳細は「履修の手引き」を参照のこと。

7．希望学位の決定及び修了時の学位について

・選択必修科目の登録をもって、自身の希望学位（政策科学もしくは、ソーシャル・イノベーション）が決まる。

例）希望学位を「政策科学」とする場合は「リサーチ・デザイン特講（政策科学）」もしくは「比較政策科学文献研究（政策科学）」の登録が必要。
希望学位を「ソーシャル・イノベーション」とする場合は「リサーチ・デザイン特講（ソーシャル・イノベーション）」もしくは「比較政策科学文献研究（ソーシャル・イノベーション）」の登録が必要。

この希望学位が、修了時に授与される学位となるため、指導教員とよく相談すること。

総合政策科学専攻
2024年度以前生

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

◇博士課程（後期課程）

総合政策科学研究科総合政策科学専攻博士課程（後期）は、高度な問題解決能力を総合的に備えた専門職業人を育成すべく、総合性、学際性及び現地性にすぐれた教育体系をとおして、多角的な視野で問題を正しく把握し、解決に向けての政策を的確に立案・実施できる能力に加え、職業的研究者としても十分に社会に貢献できる資質を涵養することにより、政府、企業、非営利等の社会の基幹領域や、主として人文・社会科学系の学問研究分野の第一線で活躍できる人材を養成することを目的とする。

さらに各コースでは、以下のようなコースごとの特徴に基づく人材養成に関する目的、教育研究上の目的を定めている。

【2024年度以前生】

公共政策コース・企業政策コース・国際政策コース

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

多様化・複雑化する現代社会において、公共部門・民間企業が国内外で直面する課題を、学際的・総合的観点に立った高度な学術的知見に基づいて理解できるようになる。

（思考力・判断力・表現力）

多様化・複雑化する現代社会において、公共部門・民間企業が国内外で直面する課題を、学際的・総合的観点に立った高度な学術的な知見に基づいて政策の立案・実施・評価を的確に行うことができるようになる。

（主体性・多様性・協働性）

多様化・複雑化・国際化する現代社会が直面する公共的課題などを主体的に発見し、その適切な解決策を特定の学問分野の枠を超えて理論・実証の両面から多角的に探求できるようになる。

◆カリキュラム・ポリシー

・多様化・複雑化・国際化する現代社会が直面する公共的課題などに対して、高度な理論的知見と卓越した実践的能力に基づいて、その問題解決を主導することのできる研究者や高度専門職業人を養成するために、共通科目、演習科目、展開科目、研究指導科目、論文などによって構成されるカリキュラムを設置する。
・共通科目は、多様化・複雑化・国際化する現代社会が直面する公共的課題を理解するとともに、政策科学に関する学術的研究の基礎となる研究分析手法の習得を目標とし、１科目２単位以上を選択必修科目Ⅰとして履修する。
・演習科目は、各コース担当教員間の密接な連携による指導の下で、高度に学術的かつ専門的な評価に値する研究としての博士資格論文を完成することを目標に、１科目２単位を履修する。
・展開科目は、公共部門、民間企業、国際社会が直面する課題を探求し、その体系的・実践的解決を図るために必要な学際的・総合的かつ高度な専門知識とその応用力の習得を目標とし、所属コースの展開科目Ａ群から１科目２単位以上、他コースの展開科目Ａ群から１科目２単位以上、展開科目Ｂ群から１科目２単位以上を選択必修科目Ⅱとして履修する。
・研究指導科目は、指導教員の研究指導により、公共部門、民間企業、国際社会が直面する課題解決能力の総合的・体系的習得と独創的な学術研究の完成を目標とし、高度に専門的な研究を遂行する。
・論文は、科目の履修を通して獲得した、現代社会が直面する様々な課題の体系的・実践的解決に関する研究活動の集大成として、独創性、学際性及び総合性において、高度に学術的かつ専門的な評価に値する卓越的な研究として厳格に審査される。

ソーシャル・イノベーションコース

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

地域社会に生起する具体的公共問題を、学際的・総合的観点に立った高度な学術的知見に基づいて、なお且つ歴史的・哲学的・経営的視点からも理解できるようになる。

（思考力・判断力・表現力）

地域社会に生起する具体的公共問題を解決するために、学際的・総合的観点に立った高度な学術的な知見に基づいたソーシャル・イノベーション・モデルを開発し、社会的事業を継続的に企画・立案・実践することができるようになる。

（主体性・多様性・協働性）

社会に生起する具体的公共問題を解決するために、ソーシャル・イノベーターとして、また理論と実践ともに優れたソーシャル・イノベーション研究者として、学術的、社会的な評価を得られるようになる。また知的財産としての価値を有するようなソーシャル・イノベーション・モデルを発展させる意欲を昂進させるようになる。

◆カリキュラム・ポリシー

・社会に生起する具体的公共問題に対して、高度な理論的知見と卓越した実践的能力に基づいて、その問題解決を主導することのできる研究者や高度専門職業人を養成するために、共通科目、演習科目、展開科目、研究指導科目、論文などによって構成されるカリキュラムを設置する。

・共通科目は、社会に生起する具体的公共問題を理解するとともに、ソーシャル・イノベーションに関する学術的研究の基礎となる研究分析手法の習得を目標とし、１科目２単位以上を選択必修科目Ⅰとして履修する。

・演習科目は、コース担当教員間の密接な連携による指導の下で、高度に学術的かつ専門的な評価に値する研究としての博士資格論文を完成することを目標に、１科目２単位を履修する。

・展開科目は、社会に生起する具体的公共問題を探求し、その体系的・実践的解決を図るために必要な学際的・総合的かつ高度な専門知識とその応用力の習得を目標とし、所属コースの展開科目Ａ群から１科目２単位以上、他コースの展開科目Ａ群および展開科目Ｂ群からあわせて２科目４単位以上（ただし他コース展開科目Ａ群から１科目２単位以上）を選択必修科目Ⅱとして履修する。

・研究指導科目は、指導教員の研究指導により、社会に生起する具体的公共問題の課題解決能力の総合的・体系的習得と独創的な学術研究の完成を目標とし、高度に専門的な研究を遂行する。

・論文は、科目の履修を通して獲得した、社会に生起する具体的公共問題の体系的・実践的解決に関する研究活動の集大成を、社会的課題の実践的解決を目指す社会実験を通じて自らの仮説の妥当性を証明する独創性、学際性及び総合性において、高度に学術的、専門的、社会革新的な評価に値する卓越的な実践的研究として厳格に審査される。

授業１週目(DO Week)と授業２週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り２週分の授業はオンデマンドで受講することが同志社大学及び同志社大学大学院における標準的な授業となりますが、総合政策科学研究科においては、教室での授業とオンデマンドでの受講（原則１週目のみ）が基本となります。

授業１週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載しています。以下 URL もしくは QR コードから詳細を確認してください。また、授業２週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び（標準的な授業）
https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

総 合 政 策 科 学 研 究 科

総合政策科学専攻（2024年度以前生）

＜公共政策コース＞

登録コード 科目	登録コード クラス	科 目 名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
研究指導								
〔研究指導科目〕								
40750001	004	公共政策特殊研究Ⅰ		川浦　昭彦	春学期			指導教員の研究指導科目を選択すること
	104	公共政策特殊研究Ⅰ		川浦　昭彦	秋学期			
	007	公共政策特殊研究Ⅰ		田中　宏樹	春学期			
	107	公共政策特殊研究Ⅰ		田中　宏樹	秋学期			
	009	公共政策特殊研究Ⅰ		川上　敏和	春学期			
	109	公共政策特殊研究Ⅰ		川上　敏和	秋学期			
	010	公共政策特殊研究Ⅰ		久保　真人	春学期			
	110	公共政策特殊研究Ⅰ		久保　真人	秋学期			
40750002	001	公共政策特殊研究Ⅱ		武藏　勝宏	春学期			
	101	公共政策特殊研究Ⅱ		武藏　勝宏	秋学期			
	004	公共政策特殊研究Ⅱ		風間　規男	春学期			
	104	公共政策特殊研究Ⅱ		風間　規男	秋学期			
	006	公共政策特殊研究Ⅱ		大島佳代子	春学期			
	106	公共政策特殊研究Ⅱ		大島佳代子	秋学期			
	007	公共政策特殊研究Ⅱ		柿本　昭人	春学期			
	107	公共政策特殊研究Ⅱ		柿本　昭人	秋学期			
	009	公共政策特殊研究Ⅱ		川井　圭司	春学期			
	109	公共政策特殊研究Ⅱ		川井　圭司	秋学期			
	010	公共政策特殊研究Ⅱ		川口　　章	春学期			
	110	公共政策特殊研究Ⅱ		川口　　章	秋学期			
	013	公共政策特殊研究Ⅱ		野田　　遊	春学期			
	113	公共政策特殊研究Ⅱ		野田　　遊	秋学期			
	014	公共政策特殊研究Ⅱ		吉田　　徹	春学期			
	114	公共政策特殊研究Ⅱ		吉田　　徹	秋学期			
	015	公共政策特殊研究Ⅱ		入江　容子	春学期			
	115	公共政策特殊研究Ⅱ		入江　容子	秋学期			
	016	公共政策特殊研究Ⅱ		畑本　裕介	春学期			
	116	公共政策特殊研究Ⅱ		畑本　裕介	秋学期			

【授業科目】

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
必修科目								
〔演習科目〕								
40751001	000	共同演習	2		2年次秋	集中	不可	
選択必修科目Ⅰ								
〔共通科目（２単位以上履修すること)〕　※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない								
40701051		リサーチ・デザイン特講	2	（本年度休講）				
40701052		量的分析特講	2	（本年度休講）				
40701053		質的分析特講	2	（本年度休講）				
選択必修科目Ⅱ								
〔展開科目Ａ群（公共政策コース）（２単位以上履修すること)〕 ※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない								
40751101		政策分析特別研究	2	川上　敏和	秋学期	2	不可	
40751102		憲法解釈特別研究	2	大島佳代子	春学期	2	不可	
40751103		立法政策過程論特別研究	2	（本年度休講）				
40751104		政策形成論特別研究	2	髙橋　克紀 上村　　崇	秋学期	2	不可	
40751105		現代行政法特別研究	2	小谷　真理	秋学期	2	不可	
40751106		政策ネットワーク論特別研究	2	風間　規男	秋学期	2	不可	
40751107		行政管理論特別研究	2	入江　容子	春学期	2	不可	
40751108		政策実施論特別研究	2	（本年度休講）				
40751131		政策評価論特別研究	2	（本年度休講）				
40751109		地方自治論特別研究	2	野田　遊	春学期	2	不可	
40751110		政治行動論特別研究	2	（本年度休講）				
40751111		経済学的政策特別研究	2	（本年度休講）				
40751112		計量経済学特別研究	2	（本年度休講）				
40751113		公共選択論特別研究	2	川浦　昭彦	秋学期	2	不可	
40751114		都市政策論特別研究	2	（本年度休講）				
40751115		公共事業論特別研究	2	川上　敏和	秋学期	2	不可	
40751116		公共投資論特別研究	2	田中　宏樹	秋学期	2	不可	
40751117		地方財政政策論特別研究	2	（本年度休講）				
40751118		文化政策・まちづくり観光論特別研究	2	（本年度休講）				
40751119		環境経済学特別研究	2	内田　真輔	秋学期	2	不可	
40751120		福祉政策論特別研究	2	（本年度休講）				
40751121		生活保障論特別研究	2	畑本　裕介	春学期	2	不可	
40751123		雇用政策論特別研究	2	川口　　章	春学期	2	不可	
40751124		ジェンダー政策論特別研究	2	藤本　哲史	春学期	2	不可	
40751125		情報通信政策特別研究	2	（本年度休講）				
40751126		環境政策特別研究	2	（本年度休講）				
40751127		スポーツ法政策特別研究	2	川井　圭司	春学期	2	不可	
40751128		スポーツ政策論特別研究	2	川井　圭司	秋学期	2	不可	
40751129		スポーツコミュニティ論特別研究	2	（本年度休講）				
40751132		比較政治学特別研究	2	吉田　　徹	秋学期	2	不可	
〔展開科目Ａ群（他コース）（２単位以上履修すること)〕								
		〔展開科目〔Ａ群〕（企業政策コース）	＜企業政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔Ａ群〕（国際政策コース）	＜国際政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔A群〕(ソーシャル・イノベーションコース)	＜ソーシャル・イノベーションコース＞科目ページ　参照					

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
〔展開科目Ｂ群（他コース）（２単位以上履修すること)〕								
		〔展開科目〔Ｂ群〕（各コース共通）	＜共通科目＞科目ページ　参照					

＜企業政策コース＞

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
研究指導								
〔研究指導科目〕								
40760003	004	企業政策特殊研究Ⅰ		野間　敏克	春学期			指導教員の研究指導科目を選択すること
	104	企業政策特殊研究Ⅰ		野間　敏克	秋学期			
	005	企業政策特殊研究Ⅰ		岡本由美子	春学期			
	105	企業政策特殊研究Ⅰ		岡本由美子	秋学期			
40760004	004	企業政策特殊研究Ⅱ		川口　　章	春学期			
	104	企業政策特殊研究Ⅱ		川口　　章	秋学期			
	005	企業政策特殊研究Ⅱ		多田　　実	春学期			
	105	企業政策特殊研究Ⅱ		多田　　実	秋学期			
	006	企業政策特殊研究Ⅱ		足立　光生	春学期			
	106	企業政策特殊研究Ⅱ		足立　光生	秋学期			
40760006	001	企業政策特殊研究Ⅲ		久保　真人	春学期			
	101	企業政策特殊研究Ⅲ		久保　真人	秋学期			
	002	企業政策特殊研究Ⅲ		藤本　哲史	春学期			
	102	企業政策特殊研究Ⅲ		藤本　哲史	秋学期			
	006	企業政策特殊研究Ⅲ		田中　秀樹	春学期			
	106	企業政策特殊研究Ⅲ		田中　秀樹	秋学期			

【授業科目】

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
必修科目								
〔演習科目〕								
40760002	000	共同演習	2		2年次秋	集中	不可	
選択必修科目Ⅰ								
〔共通科目（２単位以上履修すること)〕　※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない								
40701051		リサーチ・デザイン特講	2	（本年度休講）				
40701052		量的分析特講	2	（本年度休講）				
40701053		質的分析特講	2	（本年度休講）				
選択必修科目Ⅱ								
〔展開科目Ａ群（企業政策コース）（２単位以上履修すること)〕 ※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない								
40760201		意思決定論特別研究	2	多田　　実	秋学期	2	不可	
40760202		組織行動論特別研究	2	久保　真人	秋学期	2	不可	
40760203		人的資源戦略論特別研究	2	（本年度休講）				
40760204		金融政策論特別研究	2	（本年度休講）				
40760205		資本市場政策特別研究	2	足立　光生	春学期	2	不可	
40760206		知財政策特別研究	2	（本年度休講）				
40760207		科学技術・イノベーション政策論特別研究	2	（本年度休講）				
40760208		国際企業経営論特別研究	2	（本年度休講）				
40760209		保健医療保障論特別研究	2	（本年度休講）				
40760212		ワーク・ライフ・バランス特別研究	2	藤本　哲史	春学期	2	不可	

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
40760213		マーケティング特別研究	2	多田　　伶	春学期	集中	不可	
40760214		アカウンティング特別研究	2	（本年度休講）				
40760215		地域金融特別研究	2	野間　敏克	春学期	2	不可	
40760216		技術とイノベーション特別研究	2	（本年度休講）				
40760217		人とイノベーション特別研究	2	（本年度休講）				
40760218		組織と文化特別研究	2	（本年度休講）				
40760219		組織と人間特別研究	2	（本年度休講）				
40760220		企業行動論特別研究	2	（本年度休講）				
40760221		スポーツ経営論特別研究	2	（本年度休講）				
40760223		事業承継特別研究－ファイナンス研究－	2	（本年度休講）				
40760224		ベンチャーファイナンス特別研究	2	（本年度休講）				
40760225		経営の理論と実践特別研究	2	（本年度休講）				
		企業政策特別研究プロジェクト	2	（本年度休講）				
40760242		人材・組織マネジメント特別研究	2	田中　秀樹	春学期	2	不可	
〔展開科目Ａ群（他コース）（２単位以上履修すること）〕								
		〔展開科目〔Ａ群〕（公共政策コース）	＜公共政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔Ａ群〕（国際政策コース）	＜国際政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔A群〕（ソーシャル・イノベーションコース）	＜ソーシャル・イノベーションコース＞科目ページ　参照					
〔展開科目Ｂ群（他コース）（２単位以上履修すること）〕								
		〔展開科目〔Ｂ群〕（各コース共通）	＜共通科目＞科目ページ　参照					

＜国際政策コース＞

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
研究指導								
〔研究指導科目〕								
40770007	001	国際政策特殊研究Ⅰ		川浦　昭彦	春学期			指導教員の研究指導科目を選択すること
	101	国際政策特殊研究Ⅰ		川浦　昭彦	秋学期			
	003	国際政策特殊研究Ⅰ		岡本由美子	春学期			
	103	国際政策特殊研究Ⅰ		岡本由美子	秋学期			
	004	国際政策特殊研究Ⅰ		川上　敏和	春学期			
	104	国際政策特殊研究Ⅰ		川上　敏和	秋学期			
	005	国際政策特殊研究Ⅰ		新見　陽子	春学期			
	105	国際政策特殊研究Ⅰ		新見　陽子	秋学期			
40770009	001	国際政策特殊研究Ⅲ		月村　太郎	春学期			
	101	国際政策特殊研究Ⅲ		月村　太郎	秋学期			

【授業科目】

登録コード 科目	クラス	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
必修科目								
〔演習科目〕								
40770003	000	共同演習	2		2年次秋	集中	不可	
選択必修科目Ⅰ								
〔共通科目（２単位以上履修すること)〕				※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない				
40701051		リサーチ・デザイン特講	2	（本年度休講）				
40701052		量的分析特講	2	（本年度休講）				
40701053		質的分析特講	2	（本年度休講）				
選択必修科目Ⅱ								
〔展開科目Ａ群（国際政策コース）（２単位以上履修すること)〕				※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない				
40770301		国際政治学特別研究	2	月村　太郎	春学期	2	不可	
40770302		国際法特別研究	2	新井　　京	春学期	2	不可	
40770303		国際機構論特別研究	2	蓮生　郁代	春学期	2	不可	
40770304		現代外交政策論特別研究	2	齋藤　嘉臣	春学期	2	不可	
40770305		ODA 政策論特別研究	2	（本年度休講）				
40770306		EU 政策論特別研究	2	原田　　徹	春学期	2	不可	
40770307		アジア地域政策論特別研究	2	松田　　哲	秋学期	2	不可	
40770308		国際金融論特別研究	2	根岸　祥子	春学期	2	不可	
40770309		人間の安全保障特別研究	2	（本年度休講）				
40770310		国際協力 NGO 論特別研究	2	（本年度休講）				
40770326		国際社会論特別研究	2	富樫　耕介	春学期	2	不可	
40770327		開発政策論特別研究	2	新見　陽子	春学期	2	不可	
〔展開科目Ａ群（他コース）（２単位以上履修すること)〕								
		〔展開科目〔Ａ群〕（公共政策コース）	＜公共政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔Ａ群〕（企業政策コース）	＜企業政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔A群〕(ソーシャル・イノベーションコース)	＜ソーシャル・イノベーションコース＞科目ページ　参照					
〔展開科目Ｂ群（他コース）（２単位以上履修すること)〕								
		〔展開科目〔Ｂ群〕（各コース共通）	＜共通科目＞科目ページ　参照					

＜ソーシャル・イノベーションコース＞

登録コード 科目	クラス	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
研究指導								
〔研究指導科目〕								
40740019	005	ソーシャル・イノベーション特殊研究Ⅲ		武蔵　勝宏	春学期			指導教員の研究指導科目を選択すること
	105	ソーシャル・イノベーション特殊研究Ⅲ		武蔵　勝宏	秋学期			
	006	ソーシャル・イノベーション特殊研究Ⅲ		多田　　実	春学期			
	106	ソーシャル・イノベーション特殊研究Ⅲ		多田　　実	秋学期			

【授業科目】

登録コード 科目	クラス	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
必修科目								
〔演習科目〕								
40740004		ワークショップ演習	2	（本年度休講）				
選択必修科目Ⅰ								
〔共通科目（２単位以上履修すること)〕 ※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない								
40740061		ソーシャル・イノベーションの理論と技法特講	2	中島　恵理	秋学期	2	不可	
40740062		現代社会起業特講	2	中嶋　　愛	春学期	2	不可	
40740063		ワークショップ論特講	2	（本年度休講）				
選択必修科目Ⅱ								
〔展開科目Ａ群（ソーシャル・イノベーションコース）（２単位以上履修すること)〕 ※前期課程で履修済みの科目を後期課程で再度履修することはできない								
40740401		公共性特別研究	2	柿本　昭人	秋学期	2	不可	
40740402		市民社会論特別研究	2	（本年度休講）				
40740403		地域政策論特別研究	2	安達　晃史	秋学期	2	不可	
40740404		コミュニティデザイン論特別研究	2	（本年度休講）				
40740405		ソーシャル・ネットワーク特別研究	2	中嶋　　愛	秋学期	2	不可	
40740406		安全・安心社会特別研究	2	（本年度休講）				
40740407		地域福祉論特別研究	2	畑本　裕介	秋学期	2	不可	
40740408		食農政策科学特別研究	2	（本年度休講）				
40740410		ソーシャル・ビジネス特別研究	2	伊藤　　健	春学期	集中	不可	
40740412		ワークショップの理論と技法特別研究	2	山下　里愛 渡辺　珠子	春学期	集中	不可	
40740413		臨床まちづくり学特別研究	2	（本年度休講）				
40740414		ソーシャル・インクルージョン特別研究	2	中島　恵理	春学期	2	不可	
40740416		地域力再生実践論特別研究	2	（本年度休講）				
40740417		地域環境教育特別研究	2	（本年度休講）				
40740418		パートナーシップ特別研究	2	小田切康彦	春学期	2	不可	
40740419		企業倫理・社会的責任特別研究	2	松岡　秀紀	秋学期	2	不可	
40740421		食科学・食育論特別研究	2	（本年度休講）				
40740422		現代有機農業特別研究Ⅰ	2	（本年度休講）				
40740423		現代有機農業特別研究Ⅱ	2	（本年度休講）				
40740427		自立・自給型生活特別研究 －スロークローズ論－	2	（本年度休講）				
40740430		インターンシップ特別研究 －持続可能な地域社会をデザインする－	2	（本年度休講）				
		ソーシャル・イノベーション特別研究プロジェクト	2	（本年度休講）				
〔展開科目Ａ群（他コース)：Ａ群（他コース）から４単位以上、またはＡ群（他コース）から２単位、Ｂ群から２単位、あわせて４単位以上履修すること〕								
		〔展開科目〔Ａ群〕（公共政策コース）	＜公共政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔Ａ群〕（企業政策コース）	＜企業政策コース＞科目ページ　参照					
		〔展開科目〔Ａ群〕（国際政策コース）	＜国際政策コース＞科目ページ　参照					
〔展開科目Ｂ群（各コース共通)〕								
		〔展開科目〔Ｂ群〕（各コース共通）	＜共通科目＞科目ページ　参照					

＜各コース共通＞

〔展開科目Ｂ群（各コース共通）（公共政策コース、企業政策コース、国際政策コースは２単位以上履修すること）〕

登録コード		科　目　名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備　考
科　目	クラス							
40701501		英語文献研究（政策価値論）	2	柿本　昭人	秋学期	2	不可	
40701502		英語文献研究（政策評価論）	2	（本年度休講）				
40701503		英語文献研究（グローバル経済論）	2	岡本由美子	春学期	2	不可	
40701508		英語文献研究（国際関係論）	2	（本年度休講）				
40701510		英語文献研究（スポーツ法政策論）	2	川井　圭司	春学期	2	不可	
40701512		英語文献研究 （東アジアにおける冷戦の文化政治）	2	（本年度休講）				
40701520		日本語文献研究	2	（本年度休講）				

履修方法（公共政策コース、企業政策コース、国際政策コース）

１．研究指導を希望する教員に相談の上、修了必要単位数表（下記、３の表）に従って計画的に履修すること。

２．年間の登録単位数は24単位を限度とする。また、春学期および秋学期の登録単位数はそれぞれ12単位を限度とする。

３．修了必要単位数表

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">科　目　群　（　　）は科目名</th><th>配当年次</th><th>学期</th><th colspan="2">修了必要単位の内訳</th><th>合計</th></tr>
<tr><td>研究指導</td><td>研究指導科目</td><td>（特殊研究）</td><td>毎年次</td><td>春
秋</td><td colspan="2">単位無し</td><td rowspan="8">10単位以上</td></tr>
<tr><td>必修科目</td><td>演習科目</td><td>（共同演習）</td><td>２年次</td><td>秋</td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修科目Ⅰ</td><td rowspan="3">共通科目</td><td>（リサーチ・デザイン特講）</td><td>１年次</td><td>春</td><td colspan="2" rowspan="3">2単位以上</td></tr>
<tr><td>（量的分析特講）</td><td>１年次</td><td>春</td></tr>
<tr><td>（質的分析特講）</td><td>１年次</td><td>春</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修科目Ⅱ</td><td>展開科目Ａ群（所属コース）</td><td>（略）</td><td>１年次～</td><td></td><td>2単位以上</td><td rowspan="3">6単位以上</td></tr>
<tr><td>展開科目Ａ群（他コース）</td><td>（略）</td><td>１年次～</td><td></td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td>展開科目Ｂ群(各コース共通)</td><td>（略）</td><td>１年次～</td><td></td><td>2単位以上</td></tr>
</table>

４．研究指導

・研究指導科目：**指導教員の担当する「特殊研究」を毎学期必ず登録すること。**

５．必修科目

・演習科目：指導教員が科目代表者を務める「共同演習」（２年次秋学期）を履修すること。
２年短期修了の場合は、１年次秋学期に履修すること。１年短期修了の場合は履修は不要。

６．選択必修科目Ⅰ

・共通科目の３科目から１科目を履修すること。

７．選択必修科目Ⅱ

・展開科目Ａ群（所属コース）：２単位以上履修すること。
・展開科目Ａ群（他コース）：２単位以上履修すること。
・展開科目Ｂ群（各コース共通）：２単位以上履修すること。
※Ｂ群は外国語文献の講読を行う授業科目によって構成される。また、「日本語文献研究」は外国人留学生のみを履修対象とした科目である。

履修方法（ソーシャル・イノベーションコース）

１．研究指導を希望する教員に相談の上、修了必要単位数表（下記、３の表）に従って計画的に履修すること。

２．年間の登録単位数は24単位を限度とする。また、春学期および秋学期の登録単位数はそれぞれ12単位を限度とする。

３．修了必要単位数表

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">科　目　群　（　　）は科目名</th><th>配当年次</th><th>学期</th><th colspan="3">修了必要単位の内訳</th><th>合計</th></tr>
<tr><td rowspan="2">研究指導</td><td rowspan="2">研究指導科目</td><td rowspan="2">（特殊研究）</td><td rowspan="2">毎年次</td><td>春</td><td colspan="3" rowspan="2">単位無し</td><td rowspan="8">10単位以上</td></tr>
<tr><td>秋</td></tr>
<tr><td>必修科目</td><td>演習科目</td><td>（ワークショップ演習）</td><td>２年次</td><td>秋</td><td colspan="3">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修科目Ⅰ</td><td rowspan="3">共通科目</td><td>（ソーシャル・イノベーションの理論と技法特講）</td><td>１年次</td><td>春</td><td colspan="3" rowspan="3">2単位以上</td></tr>
<tr><td>（現代社会起業特講）</td><td>１年次</td><td>春</td></tr>
<tr><td>（ワークショップ論特講）</td><td>１年次</td><td>春</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修科目Ⅱ</td><td>展開科目Ａ群（所属コース）</td><td>（略）</td><td>１年次～</td><td></td><td colspan="2">2単位以上</td><td rowspan="3">6単位以上</td></tr>
<tr><td>展開科目Ａ群（他コース）</td><td>（略）</td><td>１年次～</td><td></td><td>2単位以上</td><td rowspan="2">4単位以上</td></tr>
<tr><td>展開科目Ｂ群(各コース共通)</td><td>（略）</td><td>１年次～</td><td></td><td></td></tr>
</table>

４．研究指導

・研究指導科目：**指導教員の担当する「特殊研究」を毎学期必ず登録すること。**

５．必修科目

・演習科目：指導教員が科目代表者を務める「ワークショップ演習」（２年次秋学期）を履修すること。２年短期修了の場合は、１年次秋学期に履修すること。１年短期修了の場合は、履修は不要。

６．選択必修科目Ⅰ

・共通科目の３科目から１科目を履修すること。
ただし、前期課程で「ソーシャル・イノベーションの理論と技法」「現代社会起業研究」を既修得の場合は、「ワークショップ論特講」を選択し履修すること。

７．選択必修科目Ⅱ

・展開科目Ａ群（所属コース）：Ａ群（所属コース）から２単位以上履修すること。
・展開科目Ａ群（他コース）、Ｂ群（各コース共通）　：あわせて４単位以上履修すること。ただし、Ａ群（他コース）から２単位以上履修すること。
※Ｂ群は外国語文献の講読を行う授業科目によって構成される。また、「日本語文献研究」は外国人留学生のみを履修対象とした科目である。

文化情報学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆文化情報学研究科の理念と研究指導

文化情報学研究科においては、人々の営み－文化－を、単に直感や経験則によってではなく、理論とデータに基づいて科学の視点から捉え、異なる学問分野の知識を有機的に結合して新しい文化理解の方法論を構築し、文化のよりよい伝承と、時代の要請に応える文化の創出に貢献できる研究活動を行い、学際的な研究能力の涵養と、新たな学問分野を開拓できる能力の啓発を教育研究上の理念・目的としている。

これら教育研究上の理念・目的を達成するために、①文化資源学、②言語データ科学、③行動データ科学、④これらの科学探究を支えるデータ科学基盤の４つの特化コースを重点開拓分野とし、各コースが連携して文化の諸事象・現象を対象に高度な教育研究活動を展開する。

具体的には、文化資源が持つ多彩な情報の関連性の総合化、複雑かつ曖昧な言語現象の解明、多様な人間行動の説明・予測・デザイン、数理・情報・統計科学の方法論構築など、異なる学問分野を融合した教育研究活動を展開している。それによって、前期課程では、柔軟な発想のできる広い視野を有し、社会で生起する多様で複雑な諸問題に的確に適応できる柔軟な発想能力を有する高度な専門職業人の育成を、後期課程では、文化の諸現象を多様な視点で解析し、文化に関する新たな研究手法を開発する能力、新たな学問分野を開拓する能力などを有する、国際社会で活躍できる研究者の育成を目指している。

前期課程の修了者は社会のあらゆる分野で活躍できると考えており、特に、さまざまな文化事象に対する深い理解力とともに情報分析能力を身につけていることから、公共機関や企業の研究調査解析部門、新聞社・テレビ局など報道関係、博物館・美術館などの機関での活躍が期待できる。また、後期課程の修了者は大学における先端的な文理融合部門、意思決定・立案の為の調査と分析を行う機関、大学や国・地方公共団体の空間情報解析・文化財保護関係部門、博物館・美術館などの研究機関で研究員として活躍することが期待できる。

これらのことを具現化するため、各課程で以下の研究指導を実施する。

後期課程

後期課程においても、博士論文の研究指導だけではなく、文化資源学・言語データ科学・行動データ科学・データ科学基盤の各コースの教育研究内容に関連した専門科目・共通科目をバランス良く履修できるとともに、主指導教授の文化情報学特殊研究と、研究発表および司会を担当するシンポジウム科目を必ず履修させる。ひとつの研究領域だけでなく、関連する分野の基礎的素養を涵養し、文理融合を主軸とした研究方法も修得させ、豊かな学識を有する研究者の養成を目指している。

また、年１回の国内会議、修了までに国際会議での口頭発表１件、査読付学術誌論文１篇の採録を達成させるなどの客観的な評価も取り入れて、研究能力のみならず、外国語論文執筆技法、外国語プレゼンテーション技法、ディスカッション能力、問題発見・解決能力を身につけることを目標にして指導を行っている。

◆人材養成目的

後期課程

文化情報学研究科文化情報学専攻博士課程（後期）は、文化の諸現象を、多様な視点から捉え、異なる学問分野の知識を有機的に結合した教育研究活動をとおして、学際的な研究能力と新たな学問分野を開拓できる能力を身に付けて、国内外の各分野で活躍できる研究者を育成することを目的とする。

◆教育課程編成・実施の方針（CP）

博士課程（後期課程）

DP での資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

編成・運営方針

データサイエンスの最新の知見と、対象文化領域とその周辺領域の深い専門知識に基づいて、科学的な探究を行える人物を育成するために、専門科目、共通科目、研究指導科目、シンポジウム科目、論文によって

構成されるカリキュラムを配置している。なお、授業科目は、文化資源学コース、言語データ科学コース、行動データ科学コース、データ科学基盤コースに配置している。

知識・技能

・授業科目群は、新たな学問領域を開拓する基礎となるデータサイエンスの最新の知見と、対象文化領域および周辺領域の深い専門知識を習得することを到達目標とし、専門科目および共通科目から10単位以上を選択履修する。
・研究指導科目群は、授業科目群で習得する知識に基づいて未開拓な主題設定もしくは研究方法を用いた研究を独自に計画・実施することを到達目標とし、文化情報学特殊研究を必修科目として６単位を履修する。
・共通科目群においては、日々変化する文化情報学に関する最新で高度な知識・技能を修得する。（以上、知識・技能）

思考力・判断力・表現力

論文は、研究設計を独自に計画・実施し、対象文化領域に対する深い専門的知識と、それを科学的に探究するための発展的な研究手法を開発し、そこから得た新たな知見を公表することを到達目標とし、必修とする。（以上、思考力・判断力・表現力）

主体性・多様性・協働性

シンポジウム科目は、研究発表を通して、発表技法をより良いものにするだけでなく、自身の研究の方向性や位置づけを明確に把握することを到達目標とし、必修科目として、１年次から２年次にかけて４単位を履修する。（以上、主体性・多様性・協働性）

◆学位授与の方針（DP）

後期課程

知識・技能

対象文化領域およびデータサイエンスの最新の知識・技能に基づいて、科学的な探究を行える。さらに将来にわたって、研究設計を独自に計画・実施し、発展的な研究手法を自ら身につけることができる。

思考力・判断力・表現力

複雑かつ多様化する社会の諸問題を文化情報の観点から発見・探究し、高い倫理観と良心に基づいた判断により、課題の所在あるいは解決方法を学術的に提示できる。

主体性・多様性・協働性

文化と人間に関する未開拓な主題設定や研究方法の開発に挑み、新たな学問分野を創出できる。人間への根源的な理解を深め、人間社会の多様な発展と真の幸福の追求の中に研究の意義を見出し、その研究成果を広く共有し還元できる。

文 化 情 報 学 研 究 科

文化情報学専攻（2013年度以降生）

登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
【専門科目】									
◇文化資源学コース									
		計量文藝解析深論　1	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		計量文藝解析深論　2	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		文科系統学深論　1	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		文科系統学深論　2	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		文化情報発信特別研究	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		時代様式深論	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		歴史文化情報深論　1	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		歴史文化情報深論　2	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		文化財分析法深論　1	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		文化財分析法深論　2	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
40810011		日本古典文学情報深論　1	2	福田　智子	春学期	2	1～	不可	
40810012		日本古典文学情報深論　2	2	福田　智子	秋学期	2	1～	不可	
40810013		時空間事象研究深論	2	津村　宏臣	春学期	2	1～	不可	
40810014		応用人類学研究深論	2	津村　宏臣	秋学期	2	1～	不可	
40810015		デジタルヒストリー深論　1	2	RAPPO Gaetan	春学期	2	1～	不可	
40810016		デジタルヒストリー深論　2	2	RAPPO Gaetan	秋学期	2	1～	不可	
◇言語データ科学コース									
		計量言語学深論　1	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		計量言語学深論　2	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
40820003		言語情報深論　1	2	沈　　力	春学期	2	1～	不可	
40820004		言語情報深論　2	2	沈　　力	秋学期	2	1～	不可	
		コーパス言語学深論	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
		言語コミュニケーション学深論	2	（本年度休講）		2	1～		2023年度以前生のみ履修可
40820007		言語記述研究深論	2	山内　信幸	春学期	2	1～	不可	
40820008		計量語法研究深論	2	山内　信幸	秋学期	2	1～	不可	
40820009		言語計算システム深論	2	星　　英仁	春学期	2	1～	不可	
40820010		言語インターフェイス深論	2	星　　英仁	秋学期	2	1～	不可	
40820011		言語運用研究深論	2	伊藤　紀子	春学期	2	1～	不可	
40820012		言語計算科学深論	2	伊藤　紀子	秋学期	2	1～	不可	
◇行動データ科学コース									
		マルチメディア情報環境深論　1	2	（本年度休講）					2023年度以前生のみ履修可
		マルチメディア情報環境深論　2	2	（本年度休講）					2023年度以前生のみ履修可
40830003		比較文化深論	2	（本年度休講）		2	1～		
40830004		未来学深論	2	（本年度休講）		2	1～		
40830005		計量社会学深論　1	2	鄭　　躍軍	春学期	2	1～	不可	
40830006		計量社会学深論　2	2	鄭　　躍軍	秋学期	2	1～	不可	
40830007		グラフィック表現学深論　1	2	下嶋　　篤	春学期	2	1～	不可	
40830008		グラフィック表現学深論　2	2	下嶋　　篤	秋学期	2	1～	不可	
40830009		認知システム深論　1	2	杉尾　武志	春学期	2	1～	不可	
40830010		認知システム深論　2	2	杉尾　武志	秋学期	2	1～	不可	
40830011		身体表現文化深論　1	2	阪田真己子	春学期	2	1～	不可	
40830012		身体表現文化深論　2	2	阪田真己子	秋学期	2	1～	不可	

登録コード 科目	クラス	科目名・クラス	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備考
◇データ科学基盤コース									
		数理モデル深論　1	2	（本年度休講）					2023年度以前生のみ履修可
		数理モデル深論　2	2	（本年度休講）					2023年度以前生のみ履修可
40840003		類似性データ解析深論	2	宿久　洋	春学期	2	1～	不可	
40840004		大規模データ解析深論	2	宿久　洋	秋学期	2	1～	不可	
		基礎数理深論	2	（本年度休講）					2023年度以前生のみ履修可
		数理科学深論	2	（本年度休講）					2023年度以前生のみ履修可
40840007		情報アクセス技術深論	2	波多野賢治	春学期	2	1～	不可	
40840008		データベースシステム深論	2	波多野賢治	秋学期	2	1～	不可	
40840009		数理統計学深論　1	2	狩野　裕	春学期	2	1～	不可	
40840010		数理統計学深論　2	2	狩野　裕	秋学期	2	1～	不可	
【共通科目】									
		文化情報学特殊演習　1	2	（本年度休講）					
		文化情報学特殊演習　2	2	（本年度休講）					
		文化情報学特殊演習　3	2	（本年度休講）					
		文化情報学特殊演習　4	2	（本年度休講）					
		文化情報学特殊演習　5	2	（本年度休講）					
		文化情報学特殊演習　6	2	（本年度休講）					
【アドバンスト・シンポジウム科目】									
40806501		アドバンスト・シンポジウム　1	1	杉尾　武志 福田　智子 沈　力 山内　信幸 鄭　躍軍 下嶋　篤 阪田真己子 宿久　洋 波多野賢治 狩野　裕	春学期	集中	1～	不可	
40806502		アドバンスト・シンポジウム　2	1	杉尾　武志 福田　智子 沈　力 山内　信幸 鄭　躍軍 下嶋　篤 阪田真己子 宿久　洋 波多野賢治 狩野　裕	秋学期	集中	1～	不可	
40806503		アドバンスト・シンポジウム　3	1	杉尾　武志 福田　智子 沈　力 山内　信幸 鄭　躍軍 下嶋　篤 阪田真己子 宿久　洋 波多野賢治 狩野　裕	春学期	集中	2～	不可	
40806504		アドバンスト・シンポジウム　4	1	杉尾　武志 福田　智子 沈　力 山内　信幸 鄭　躍軍 下嶋　篤 阪田真己子 宿久　洋 波多野賢治 狩野　裕	秋学期	集中	2～	不可	

登録コード		科　目　名・ク　ラ　ス	単位	担　当　者	期　間	週時間	配当年次	聴講区分	備　　考
科　目	クラス								
【研究指導科目】									
40806901		文化情報学特殊研究　Ⅰ	1		春学期	集中	1	不可	クラスコード表参照 特殊研究ⅠとⅡ、ⅢとⅣ、ⅤとⅥを同時に登録すること
40806902		文化情報学特殊研究　Ⅱ	1		秋学期	集中	1	不可	
40806903		文化情報学特殊研究　Ⅲ	1		春学期	集中	2	不可	
40806904		文化情報学特殊研究　Ⅳ	1		秋学期	集中	2	不可	
40806905		文化情報学特殊研究　Ⅴ	1		春学期	集中	3	不可	
40806906		文化情報学特殊研究　Ⅵ	1		秋学期	集中	3	不可	
【論文】									
40809800		論文							提出予定年度に必ず登録すること

≪クラスコード表≫

クラスコード	担　当　者	クラスコード	担　当　者
022	沈　　力	042	宿久　　洋 狩野　　裕
023	山内　信幸	043	波多野賢治
032	鄭　　躍軍	044	阪田真己子
035	下嶋　　篤	045	福田　智子
036	杉尾　武志		

履修方法

コース専門科目および共通科目から10単位以上、アドバンスト・シンポジウムⅠ～４の４単位、研究指導科目の文化情報学特殊研究Ⅰ～Ⅵの６単位、合計20単位以上を履修すること。

理工学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

本学は、「良心を手腕に運用する人材」の育成を建学の目的とし、それを具現するために、キリスト教主義・自由主義・国際主義を教育理念の柱としている。本研究科は、この教育理念に基づき、基礎および応用理論を十分に修得し、理工学における柱石となり、かつ知徳を兼ね備え社会に貢献し得る一国の良心ともいうべき人材を養成するのみならず、科学技術の革新に対応できる幅広い基礎知識と専攻分野に関する高度な学識をもち、指導的役割を果たすことができる創造性豊かな技術者あるいは研究者の養成を目的としている。

博士前期課程では、広い視野に立って、精深な学識を授け、専攻分野における研究能力や高度な専門性を要する職業に従事できる能力を養うことを目的としている。また、博士後期課程では、専門分野について自立して研究活動を行うのに必要な高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を有する人材の育成を目指している。

本研究科は、情報工学専攻、電気電子工学専攻、機械工学専攻、応用化学専攻、数理環境科学専攻の５専攻を有し、各専攻の教育研究の目的と人材養成の指針は、次のとおりである。

情報工学専攻

◇博士課程（後期課程）

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科情報工学専攻博士課程（後期）は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための情報処理に関する高度で幅広い学問について、セミナー科目などをとおして理論的側面を中心とする知識を、また、研究室での高度で専門的な研究実験および学術的国際会議等での発表・討論を通じて実践的な知識・技術・研究遂行能力を身につけて、世界トップレベルの研究者として活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための情報処理について高度で幅広い学識を備え、高度な専門知識と関連する学際的知識に基づき情報システムの専門分野における高度な学問を習得できる（知識・技能）。

●トップレベルの研究者あるいは技術者として活躍するために身につけた高度な研究能力・実践的技術を情報システムにおける先進的あるいは専門性の高い課題の解決に活用することができ、成果を学術論文にまとめて国際学術会議などで発表・討論することができる（思考力・判断力・表現力）。

●多様な情報システムにおける先端的あるいは専門性の高い課題を積極的に発見し、解決法を中心となって探求かつ指導できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための高度で幅広い学問を身につけて、トップレベルの研究者あるいは技術者として活躍できる人材を育成するために、特殊研究、特別セミナーから構成されるカリキュラムを設置する。

●特殊研究は、トップレベルの研究者あるいは技術者として活躍するための高度な研究能力・実践的な技術を身につけること、専門分野における高い学問を習得すること、成果を発表するに十分なプレゼンテーション力・ディベート力を身につけることを到達目標として、指導教員の指示により１年次から３年次にわたり、「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」までの計12単位を修得する（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。

●特別セミナーは、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための高度

で幅広い学識を身につけることを到達目標として、４単位以上のゼミ形式の科目を選択履修する（ただし同一テーマは２単位までとする）（知識・技能）。

●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

電気電子工学専攻

◇博士課程（後期課程）

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科電気電子工学専攻博士課程（後期）は、現代社会に不可欠な電気エネルギー・電子情報通信の基礎となる学問領域について、これまでに習得した理論・技術を基に多角的な見地からの研究能力の涵養をとおして、国際的に認知される独創的な研究を自らの方針・方向性あるいは哲学に基づいて推進することができる高度で柔軟な研究能力等を身につけて、電気エネルギー・デバイス・通信分野等において活躍する人材の養成を行うことを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●電気電子工学の基礎理論ならびに応用理論に関する深い学識をもち、システム設計や回路設計、シミュレーションなどを通じて技術的課題の解決に活用できる（知識・技能）。

●技術者あるいは研究者として高い倫理観をもち、よりよい社会の発展に役立つ研究開発を実現できる（思考力・判断力）。

●多様な研究グループ内でも、リーダーシップと高い表現力を発揮し、成果を主体的に発信できる（主体性・多様性・協働性）。

●国際的な場での活躍に十分な高いコミュニケーション能力と英語力を身につける（多様性・協働性）。

●社会の発展に役立つ先端課題を主体的に見出し、論理的思考のもとで、独創的かつ最適な解決方策を探求できる（思考力・判断力・表現力）。

◆カリキュラム・ポリシー

●電気電子工学に関する深い学識をもち、高い倫理観をもって、よりよい社会の発展に役立つ技術を創出できる人材の養成を目的とする。この目的に基づき、以下に示す教育課程を編成する。トップレベルの研究者あるいは技術者として活躍するための高度な研究能力・実践的な技術を身につけるため、修了までに所定の16単位以上を修得する。

●電気電子工学に関わる先端課題を主体的に見出し、国際的に評価される独創的な研究を自主的・自立的に自らの哲学に基づいて推進し主体的に発信することを到達目標として、１年次から３年次にわたり、「電気電子工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」までの計12単位を修得する（主体性・多様性・協働性）。

●電気電子工学の分野の理論や知識を一層深化することにより、優れた解決方策を探求する能力を身につけることを到達目標として、ゼミ形式の「電気電子特別セミナー」を４単位以上修得する（ただし同一テーマは２単位までとする）（知識・技能）。

●所定の単位を修得し、博士論文を提出し、審査に合格することが学位取得の要件となる。博士論文を作成する研究の過程では、電気電子工学に関わる先端的課題を自主的に見出し、独創的な解決方策を探求する能力を磨くことを目標とする（思考力・判断力・表現力）。

●世界で活躍する研究者としての素養を得ることを目的に、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の派遣留学制度を設置する。

機械工学専攻

◇博士課程（後期課程）

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科機械工学専攻博士課程（後期）は、材料・構造、熱・流体、振動・制御・生産などを軸とし、時代と共に発展する機械工学の様々な分野について、先進的な実習・研究活動をとおして、高度な専門的知識と研究・開発能力を涵養し、自らの良心に基づき実行できる独立した研究者・国際人としての主体性と自主性を身につけて、機械工学分野の国際的な発展を先導し、科学技術と人類の幸福に貢献する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●機械工学の複雑な課題を、材料系、熱・流体系、機力・制御系の高度な知識と幅広い実践的な知見に基づいて理解できる（知識・技能）。
●機械工学の複雑な課題を積極的に見出し、高度システムの実験解析・設計手法および関連する幅広い学術的な知見を使って、その解決策を探求できる（思考力・判断力・表現力）。
●機械工学の複雑な課題を解決するために、高度なシステムおよび数値実験を企画実行し、実験結果の解析および数値解析技術が適切に利用でき、かつ指導的な立場から運用できる（主体性・多様性・協働性）。
●国際社会で活躍できるに十分な語学力と国際性を身につけて、機械工学の複雑な課題を国際的な視点から捉えて、海外の研究者・技術者と交流をはかりながら問題解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●高度で複雑な機械工学の課題の発見とその課題解決能力を実践的に身につけるためのテーマ設定により、高度な知識・態度・技能をより深く習得し、世界に通用する研究者を育成するために、特殊研究、特別セミナーから構成されるカリキュラムを設置する。
●特殊研究は、トップレベルの研究者あるいは技術者として活躍するための高度な研究能力・実践的な技術を身につけることを到達目標として、指導教員の指示により１年次から３年次にわたり、「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」までの計12単位を修得する（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）（主体性・多様性・協働性）。
●特別セミナーは、高度で複雑な機械工学の課題の発見とその課題解決能力を実践的に身につけるためのテーマ設定により、高度な知識・態度・技能をより深く習得し、世界に通用する研究者を育成することを到達目標として、４単位以上のゼミ形式の科目を選択履修する（ただし同一テーマは２単位までとする）（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）。
●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

応用化学専攻

◇博士課程（後期課程）工学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科応用化学専攻博士課程（後期、工学）は、持続可能な社会基盤形成に向けて現在および将来中核となる化学および化学技術の課題について、先端的な研究実験およびプレゼンテーションをとおして、自ら問題を発見し解決する能力、研究成果を国際的に広く伝達できるコミュニケーション能力および独創性にあふれた専門的研究能力を身につけて、化学や化学技術について広い視野から行動できる人材を育成することを目的とする。特に、工学上重要な物質の創製や分離、それらの製造プロセスに関連する科学技術を専門とする研究者として活躍できる人材を育成することを目的とする。この目的の達成は、本学の教育理念（自由主義・キリスト教主義・国際主義）に基づいて行われる。

◆ディプロマ・ポリシー

●化学工業等で必要とされる、新たな物質の合成や分離を行うための高度な専門的能力を得る（知識・技能）。
●化学物質などの新規な製造プロセスについての新しい概念や独創的な方法を提案することができる（知識・技能）。
●英語を用いて化学技術についての専門的研究者が必要とするコミュニケーションができる（知識・技能）。
●化学技術に関わる諸課題の本質を、高度に専門的な化学および化学工学の知識ならびに、幅広い教養に基づいて理解できる（思考力・判断力・表現力）。
●化学技術に関わる諸課題を解決するための、高度な専門的研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
●国際感覚や良識をもった専門的研究者として、リーダーシップを発揮しながら化学技術に関わる諸課題に取り組むことができる（思考力・判断力・表現力）。
●化学技術に関わる諸課題、およびそれに対する対応・解決方法について、専門的研究者として社会に発信するための高度なプレゼンテーションができる（主体性・多様性・協働性）。
●現在および未来の工学・医学などが直面する化学に関する諸課題を、高度な専門家としての独創的視点から発見することができる（主体性・多様性・協働性）。
●現在および未来の工学・医学などが直面する化学に関する諸課題について、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、高度な専門家として探求し解決できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

応用化学専攻博士課程（後期、工学）は、化学および化学工学における重要な専門分野に対応する必修の特殊研究科目を履修することで、高度な専門的研究者としての能力を育成している。その運用にあたっては、専攻に所属する全教員の出席のもと、１年に１度の成果報告会で厳格に審査している。さらに、高度な専門的研究者にも必要とされる幅広い学識を習得するため、応用化学特別セミナー15科目を設置している。国際感覚や良識をもった問題解決能力、必要なことを正しく伝えられるプレゼンテーション能力を習得するため、論文誌などを通じた学外への研究発表を課しており、提出された博士論文については、主査と副査による厳格な審査を行っている。さらに、この学位審査のプロセスの公正性は副審査委員によって確認されている。

●化学工業等で必要とされる新たな物質の合成や分離を行い、また、それらに関わる製造プロセスについての新しい概念や独創的な方法を提案するための高度な専門的能力を身につけるため、特殊研究科目12単位を必修としている。なお、高度に専門的な研究者を育成するため、履修生が選択した特殊研究科目に対応する専門能力を身につけることができる。さらに、専門家として、より幅広い知識、技能を身につける

ため、応用化学特別セミナー４単位の修得を課している（知識・技能）。
●英語を用いて化学技術についての専門的研究者が必要とするコミュニケーション能力を身につけるため、在学生語学試験に合格することを課している（知識・技能）。
●化学技術に関わる諸課題の本質を、高度に専門的な化学および化学工学の知識ならびに、幅広い教養に基づいて理解し、高度な専門的研究者としての思考力、判断力を身につけるため、特殊研究科目12単位を必修としている（思考力・判断力・表現力）。
●国際感覚や良識をもった化学技術の専門家としてリーダーシップを発揮するため、幅広い知識を身につけるための応用化学特別セミナー４単位を必修とし、在学生語学試験に合格することを課している（思考力・判断力・表現力）。
●化学技術に関わる諸課題、およびそれに対する対応・解決方法について、専門的研究者として社会に発信するための高度なプレゼンテーション能力を養うため、専攻に所属する全教員の出席のもと、１年に１度の成果報告会を課し、さらに論文誌などを通じた学外での研究発表を課している（思考力・判断力・表現力）。
●特殊研究科目、応用化学特別セミナーを履修しつつ、博士論文を仕上げていく過程において、国内外での発表や外部との交流が必要となり、これらの総合的遂行により、化学および化学技術における高度な専門家として、独創的視点から主体的に課題を発見する能力を身につけることができる。さらに、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、高度な専門家として課題を解決する能力を身につけることができる（主体性・多様性・協働性）。
●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

◇博士課程（後期課程）理学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科応用化学専攻博士課程（後期、理学）は、持続可能な社会基盤形成に向けて現在および将来中核となる化学および化学技術の課題について先端的な研究実験およびプレゼンテーションをとおして、自ら問題を発見し解決する能力、研究成果を国際的に広く伝達できるコミュニケーション能力および独創性にあふれた専門的研究能力を身につけて、化学や化学技術について広い視野から行動できる人材を育成することを目的とする。特に、化学の発展において重要な物質の合成、分離、またそれらを記述する理論に関連する科学技術を専門とする研究者として活躍できる人材を育成することを目的とする。この目的の達成は、本学の教育理念（自由主義・キリスト教主義・国際主義）に基づいて行われる。

◆ディプロマ・ポリシー

●化学の進展に必要な高度な化学実験を、適切に行うための高度な専門的能力を得る（知識・技能）。
●高度に専門的な理論に基づいて、新たな化学反応や物質分離のための概念や独創的な方法を提案することができる（知識・技能）。
●英語を用いて専門的研究者としての化学者が必要とするコミュニケーションができる（知識・技能）。
●化学に関わる諸課題の本質を、高度に専門的な化学の知識ならびに、幅広い教養に基づいて理解できる（思考力・判断力・表現力）。
●化学の発展を実現するための高度な専門的研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
●国際感覚や良識をもった専門的研究者として、リーダーシップを発揮しながら化学に関わる諸課題に取り組むことができる（思考力・判断力・表現力）。
●化学に関わる諸課題、およびそれに対する対応・解決方法について、専門的研究者として社会に発信する

ための高度なプレゼンテーションができる（主体性・多様性・協働性）。
●化学の発展に必要な諸課題を高度な専門家としての独創的視点から発見することができる（主体性・多様性・協働性）。
●現在の化学が直面する諸課題について、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、高度な専門家として探求し解決できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

応用化学専攻博士課程（後期、理学）は、最先端の化学における重要な専門分野に対応する必修の特殊研究科目を履修することで、高度な専門的研究者としての能力を育成している。その運用にあたっては、専攻に所属する全教員の出席のもと、１年に１度の成果報告会で厳格に審査している。さらに、高度な専門的研究者にも必要とされる幅広い学識を習得するため、応用化学特別セミナー14科目を設置している。国際感覚や良識をもった問題解決能力、必要なことを正しく伝えられるプレゼンテーション能力を習得するため、論文誌などを通じた学外への研究発表を課しており、提出された博士論文については、主査と副査による厳格な審査を行っている。さらに、この学位審査のプロセスの公正性は副審査委員によって確認されている。
●最先端の化学研究において必要とされる新たな物質の合成や分離を行い、また、それらに関わる理論的学域における新しい概念や独創的な方法を提案するための高度な専門的能力を身につけるため、特殊研究科目12単位を必修としている。なお、高度に専門的な研究者を育成するため、履修生が選択した特殊研究科目に対応する専門能力を身につけることができる。さらに、専門家として、より幅広い知識、技能を身につけるため、応用化学特別セミナー４単位の修得を課している（知識・技能）。
●英語を用いて専門的化学研究者が必要とするコミュニケーション能力を身につけるため、在学生語学試験に合格することを課している（知識・技能）。
●先端的な化学に関わる諸課題の本質を、高度な化学の専門知識ならびに、幅広い教養に基づいて理解し、高度な専門的研究者としての思考力、判断力を身につけるため、特殊研究科目12単位を必修としている（思考力・判断力・表現力）。
●国際感覚や良識をもった専門的化学研究者としてリーダーシップを発揮するため、幅広い知識を身につけるための応用化学特別セミナー４単位を必修とし、在学生語学試験に合格することを課している（思考力・判断力・表現力）。
●専門的化学研究者として社会に発信するための高度なプレゼンテーション能力を養うため、専攻に所属する全教員の出席のもと、１年に１度の成果報告会を課し、さらに論文誌などを通じた学外での研究発表を課している（思考力・判断力・表現力）。
●特殊研究科目、応用化学特別セミナーを履修しつつ、博士論文を仕上げていく過程において、国内外での発表や外部との交流が必要となり、これらの総合的遂行により、専門的化学研究者として、独創的視点から主体的に課題を発見する能力を身につけることができる。さらに、国際感覚や良識をもって、他者の多様性を理解し、他者と協働しながら、高度な専門家として課題を解決する能力を身につけることができる（主体性・多様性・協働性）。
●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

数理環境科学専攻

◇博士課程（後期課程）工学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科数理環境科学専攻博士課程（後期）は、数理科学と環境科学について、関係分野の学問的進展についての理解と独創的な研究の立案と実行をとおして、専攻分野の深い知識とそれを応用する能力、学際的課題に対処できる素養、最先端の課題についての創造的な研究を行う能力を身につけて、研究・教育機関や各種産業界等において活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●環境科学・数理科学の高度な専門知識を駆使して、最先端の成果の真価を正確に評価理解できる（知識・技能）。
●環境科学・数理科学の最先端の課題を抽出分析し、新理論を構築する創造力を持ち、その成果を国内学会、国際学会を問わず的確にプレゼンテーションできる（思考力・判断力・表現力）。
●環境科学・数理科学の諸課題を積極的に発見・設定し、多種多様な地球環境に対し有益な解決法を得ることができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●地球環境をより深く理解して数理モデルを構築解析し、専門知識を駆使して環境科学・数理科学の諸課題において独創的な研究を推進することのできる高度で柔軟な研究能力を習得することを到達目標とし、特殊研究、特別セミナーから構成されるカリキュラムを設置する（思考力・判断力・表現力）。
●特殊研究は、トップレベルの研究者あるいは技術者として活躍するための高度な研究能力・実践的な技術を身につけることを到達目標として、指導教員の指示により１年次から３年次にわたり、特殊研究Ⅰ～Ⅵまでの計12単位を修得する。多種多様な地球環境の中に現れる諸課題を環境科学・数理科学の観点から捉え、環境に有益な解決法を得る能力を養う（主体性・多様性・協働性）。
●数理環境科学特別セミナーは、環境科学・数理科学の諸課題において独創的な研究を推進することのできる高度で柔軟な研究能力を習得することを到達目標として、４単位以上のゼミ形式の科目を選択履修する（ただし同一テーマは２単位までとする）（知識・技能）。
●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

◇博士課程（後期課程）理学

◆目指すべき人材（物）像

理工学研究科数理環境科学専攻博士課程（後期）は、数理科学と環境科学について、関係分野の学問的進展についての理解と独創的な研究の立案と実行をとおして、専攻分野の深い知識とそれを応用する能力、学際的課題に対処できる素養、最先端の課題についての創造的な研究を行う能力を身につけて、研究・教育機関や各種産業界等において活躍する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

●環境科学・数理科学の高度な専門知識を駆使して、最先端の成果の真価を正確に評価理解できる（知識・技能）。
●環境科学・数理科学の最先端の課題を抽出分析し、新理論を構築する創造力を持ち、その成果を国内学会、

国際学会を問わず的確にプレゼンテーションできる（思考力・判断力・表現力）。
●環境科学・数理科学の諸課題を積極的に発見・設定し、多様な森羅万象の中に現れる諸問題について総合的、かつ真理開明に至る解決法を得ることができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

●人間を取り巻く森羅万象をより深く理解して数理モデルを構築解析し、専門知識を駆使して環境科学・数理科学の諸課題において独創的な研究を推進することのできる高度で柔軟な研究能力を習得することを到達目標とし、特殊研究、特別セミナーから構成されるカリキュラムを設置する（思考力・判断力・表現力）。
●特殊研究は、トップレベルの研究者あるいは技術者として活躍するための高度な研究能力・実践的な技術を身につけることを到達目標として、指導教員の指示により１年次から３年次にわたり、特殊研究Ⅰ～Ⅵまでの計12単位を修得する。多様な森羅万象の中に現れる諸課題を環境科学・数理科学の観点から抽出分析し、主体的、総合的、かつ真理開明を目指す解決法を得る能力を養う（主体性・多様性・協働性）。
●数理環境科学特別セミナーは、環境科学・数理科学の諸課題において独創的な研究を推進することのできる高度で柔軟な研究能力を習得することを到達目標として、４単位以上のゼミ形式の科目を選択履修する（ただし同一テーマは２単位までとする）（知識・技能）。
●世界で活躍できる技術者としての素養を得ることを目的に、留学希望者には、所定の条件を満たし、プログラムを修了すると本学と派遣先大学双方の大学からそれぞれの修士学位または博士学位を同時に２つ取得することができるダブルディグリー制度や短期・長期の留学制度を設置している。

理 工 学 研 究 科

情報工学専攻

科目区分	科目コード	クラス	科　　目　　名	単位	担当者	期間時間	備考
	春学期入学者対象						
研究指導科目	41610201		情報工学特殊研究Ⅰ	2		春集中	1年次配当(注)1参照
	41610202		情報工学特殊研究Ⅱ	2		秋集中	〃
	41610203		情報工学特殊研究Ⅲ	2		春集中	2年次配当(注)1参照
	41610204		情報工学特殊研究Ⅳ	2		秋集中	〃
	41610205		情報工学特殊研究Ⅴ	2		春集中	3年次配当(注)1参照
	41610206		情報工学特殊研究Ⅵ	2		秋集中	〃
	秋学期入学者対象						
	41610301		情報工学特殊研究Ⅰ	2		秋集中	1年次配当(注)1参照
	41610302		情報工学特殊研究Ⅱ	2		春集中	〃
	41610303		情報工学特殊研究Ⅲ	2		秋集中	2年次配当(注)1参照
	41610304		情報工学特殊研究Ⅳ	2		春集中	〃
	41610305		情報工学特殊研究Ⅴ	2		秋集中	3年次配当(注)1参照
	41610306		情報工学特殊研究Ⅵ	2		春集中	〃
論文	41610100		論文				(注)3参照

科目区分	科目コード	クラス	科　目　名	テ　ー　マ	単位	担当者	期間時間	備考
授業科目	41610102	010	情報工学特別セミナー	知的自律行動メカニズム	2	渡部　広一	春集中	(注)2参照
		013		センシング情報処理		橋本　雅文		
		014		ヒューマンインタフェース		大久保雅史		
		015		通信理論		程　　俊		
		017		アコースティックイメージング		土屋　隆生		
		018		分散コンピューティング		佐藤　健哉		
		021		知能ロボティクス		高橋　和彦		
		022		進化的方法論		Ivan Tanev		
		023		機械学習と知識発見		大崎　美穂		
		024		知能システム		土屋　誠司		
		025		音声情報処理		加藤　恒夫		
		026		マルチモーダル信号処理		奥田　正浩		
		027		分散システム		小板　隆浩		
		028		進化的機械学習		小野　景子		
		029		自然言語処理		田村　晃裕		
		030		ネットワークデザイン		木村　共孝		
		031		情報抽出と検索		桂井麻里衣		
		032		情報通信システム		木村　達明		
		033		画像認識と生成		白浜　公章		

科目区分	科目コード	クラス	科　目　名	テ　ー　マ	単位	担当者	期間時間	備考
授業科目	41610102	510	情報工学特別セミナー	知的自律行動メカニズム	2	渡部　広一	秋集中	(注)2参照
		513		センシング情報処理		橋本　雅文		
		514		ヒューマンインタフェース		大久保雅史		
		515		通信理論		程　　俊		
		517		アコースティックイメージング		土屋　隆生		
		518		分散コンピューティング		佐藤　健哉		
		521		知能ロボティクス		高橋　和彦		
		522		進化的方法論		Ivan Tanev		
		523		機械学習と知識発見		大崎　美穂		
		524		知能システム		土屋　誠司		
		525		音声情報処理		加藤　恒夫		
		526		マルチモーダル信号処理		奥田　正浩		
		527		分散システム		小板　隆浩		
		528		進化的機械学習		小野　景子		
		529		自然言語処理		田村　晃裕		
		530		ネットワークデザイン		木村　共孝		
		531		情報抽出と検索		桂井麻里衣		
		532		情報通信システム		木村　達明		
		533		画像認識と生成		白浜　公章		

履修方法

指導教員の指示により「情報工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「情報工学特別セミナー」４単位以上を履修すること。ただし、同一担当者による「情報工学特別セミナー」の単位修得は、２単位までとする。

（注）1.「情報工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、特殊研究Ⅰから順に登録履修すること。また、春学期入学と秋学期入学で科目コードが分かれているため注意すること。クラスコード、担当者については「特殊研究Ⅰ～Ⅵクラスコード表」を参照すること。

2.「情報工学特別セミナー（10、13、14、17、21、24、510、513、514、517、521、524クラスを除く）」は、国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。

3.「論文」は修了を予定している年度の春学期に登録すること。

4. 以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

論文、情報工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ

電気電子工学専攻

科目区分	科目コード	クラス	科　　目　　名	単位	担当者	期間時間	備考
	春学期入学者対象						
研究指導科目	41620201		電気電子工学特殊研究Ⅰ	2		春集中	1年次配当(注)1参照
	41620202		電気電子工学特殊研究Ⅱ	2		秋集中	〃
	41620203		電気電子工学特殊研究Ⅲ	2		春集中	2年次配当(注)1参照
	41620204		電気電子工学特殊研究Ⅳ	2		秋集中	〃
	41620205		電気電子工学特殊研究Ⅴ	2		春集中	3年次配当(注)1参照
	41620206		電気電子工学特殊研究Ⅵ	2		秋集中	〃
	秋学期入学者対象						
	41620301		電気電子工学特殊研究Ⅰ	2		秋集中	1年次配当(注)1参照
	41620302		電気電子工学特殊研究Ⅱ	2		春集中	〃
	41620303		電気電子工学特殊研究Ⅲ	2		秋集中	2年次配当(注)1参照
	41620304		電気電子工学特殊研究Ⅳ	2		春集中	〃
	41620305		電気電子工学特殊研究Ⅴ	2		秋集中	3年次配当(注)1参照
	41620306		電気電子工学特殊研究Ⅵ	2		春集中	〃
論文	41620100		論文				(注)3参照

科目区分	科目コード	クラス	科　目　名	テ　ー　マ	単位	担当者	期間時間	備考
授業科目	41620102	002	電気電子工学特別セミナー	電力システム	2	馬場　吉弘	春集中	(注)2参照
		004		超音波工学		松川　真美		
		005		光通信工学		戸田　裕之		
		006		応用非線形解析		近藤　弘一		
		007		磁気応用工学		藤原　耕二		
		008		応用回路工学		加藤　利次		
		009		非線形プラズマ物理学		粕谷　俊郎		
		010		電磁波工学		出口　博之		
		013		無線通信システムⅠ		衣斐　信介		
		015		電気電子材料学		佐藤　祐喜		
		022		応用システム理論		平田健太郎		
		023		レーザ応用工学		鈴木　将之		
		502		電力システム		馬場　吉弘	秋集中	(注)2参照
		504		超音波工学		松川　真美		
		505		光通信工学		戸田　裕之		
		507		磁気応用工学		藤原　耕二		
		514		応用制御工学		井上　　馨		
		516		無線通信システムⅡ		岩井　誠人		
		517		光電子デバイス工学		大谷　直毅		
		519		波動応用デバイス		小山　大介		
		520		パワーマグネティックス		髙橋　康人		
		524		電気流体力学		吉川　治周		
		525		マイクロ波工学		大平　昌敬		

履修方法

指導教員の指示により「電気電子工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「電気電子工学特別セミナー」４単位以上を履修すること。ただし、同一担当者による「電気電子工学特別セミナー」の単位修得は、２単位までとする。

（注）１.「電気電子工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、特殊研究Ⅰから順に登録履修すること。また、春学期入学と秋学期入学で科目コードが分かれているため注意すること。クラスコード、担当者については「特殊研究Ⅰ～Ⅵクラスコード表」を参照すること。

２.「電気電子工学特別セミナー」は、国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。

３.「論文」は修了を予定している年度の春学期に登録すること。

４. 以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

論文、電気電子工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ

機械工学専攻

科目区分	科目コード	クラス	科　　目　　名	単位	担当者	期間時間	備考
	春学期入学者対象						
研究指導科目	41630201		機械工学特殊研究Ⅰ	2		春集中	1年次配当(注)1参照
	41630202		機械工学特殊研究Ⅱ	2		秋集中	〃
	41630203		機械工学特殊研究Ⅲ	2		春集中	2年次配当(注)1参照
	41630204		機械工学特殊研究Ⅳ	2		秋集中	〃
	41630205		機械工学特殊研究Ⅴ	2		春集中	3年次配当(注)1参照
	41630206		機械工学特殊研究Ⅵ	2		秋集中	〃
	秋学期入学者対象						
	41630301		機械工学特殊研究Ⅰ	2		秋集中	1年次配当(注)1参照
	41630302		機械工学特殊研究Ⅱ	2		春集中	〃
	41630303		機械工学特殊研究Ⅲ	2		秋集中	2年次配当(注)1参照
	41630304		機械工学特殊研究Ⅳ	2		春集中	〃
	41630305		機械工学特殊研究Ⅴ	2		秋集中	3年次配当(注)1参照
	41630306		機械工学特殊研究Ⅵ	2		春集中	〃
論文	41630100		論文				(注)3参照

科目区分	科目コード	クラス	科　目　名	テ　ー　マ	単位	担当者	期間時間	備考
授業科目	41630102	003	機械工学特別セミナー	流体力学	2	平田　勝哉	春集中	(注)2参照
		004		金属材料工学		宮本　博之		
		005		構造設計		大窪　和也		
		009		自動化システム		廣垣　俊樹		
		010		伝熱現象		稲岡　恭二		
		012		非線形物理学		高岡　正憲		
		013		成形加工		田中　達也		
		014		運動と振動の制御		辻内　伸好		
		015		理工学における逆問題		多久和英樹		
		016		先端エネルギー変換科学		松村恵理子		
		017		材料加工		笹田　昌弘		
		018		制御工学		伊藤　彰人		
		019		表面工学とトライボロジー		中村　守正		
		503		流体力学		平田　勝哉	秋集中	(注)2参照
		504		金属材料工学		宮本　博之		
		505		構造設計		大窪　和也		
		509		自動化システム		廣垣　俊樹		
		510		伝熱現象		稲岡　恭二		
		512		非線形物理学		高岡　正憲		
		513		成形加工		田中　達也		
		514		運動と振動の制御		辻内　伸好		
		515		理工学における逆問題		多久和英樹		
		516		先端エネルギー変換科学		松村恵理子		
		517		材料加工		笹田　昌弘		
		518		制御工学		伊藤　彰人		
		519		表面工学とトライボロジー		中村　守正		

履修方法

指導教員の指示により「機械工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「機械工学特別セミナー」４単位以上を履修すること。ただし、同一担当者による「機械工学特別セミナー」の単位修得は、２単位までとする。

（注）１.「機械工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、特殊研究Ⅰから順に登録履修すること。また、春学期入学と秋学期入学で科目コードが分かれているため注意すること。クラスコード、担当者については「特殊研究Ⅰ～Ⅵクラスコード表」を参照すること。

２.「機械工学特別セミナー」は、国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。

３.「論文」は修了を予定している年度の春学期に登録すること。

４．以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

論文、機械工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ

応用化学専攻

科目区分	科目コード	クラス	科　　目　　名	単位	担当者	期間時間	備考
	春学期入学者対象						
研究指導科目	41640201		応用化学特殊研究Ⅰ	2		春集中	1年次配当(注)1参照
	41640202		応用化学特殊研究Ⅱ	2		秋集中	〃
	41640203		応用化学特殊研究Ⅲ	2		春集中	2年次配当(注)1参照
	41640204		応用化学特殊研究Ⅳ	2		秋集中	〃
	41640205		応用化学特殊研究Ⅴ	2		春集中	3年次配当(注)1参照
	41640206		応用化学特殊研究Ⅵ	2		秋集中	〃
	秋学期入学者対象						
	41640301		応用化学特殊研究Ⅰ	2		秋集中	1年次配当(注)1参照
	41640302		応用化学特殊研究Ⅱ	2		春集中	〃
	41640303		応用化学特殊研究Ⅲ	2		秋集中	2年次配当(注)1参照
	41640304		応用化学特殊研究Ⅳ	2		春集中	〃
	41640305		応用化学特殊研究Ⅴ	2		秋集中	3年次配当(注)1参照
	41640306		応用化学特殊研究Ⅵ	2		春集中	〃
論文	41640100		論文				(注)3参照

科目区分	科目コード	クラス	科　目　名	テ　ー　マ	単位	担当者	期間時間	備考
授業科目	41640102	001	応用化学特別セミナー	電気化学的エネルギー変換	2	稲葉　　稔	春集中	(注)2参照
		002		バイオインスパイアード金属錯体		小寺　政人		
		003		生物分離工学		松本　道明		
		012		固体物性化学		加藤　将樹		
		014		生体高分子材料		古賀　智之		
		018		生体内超分子化学		北岸　宏亮		
		507		機能性有機材料化学		水谷　　義	秋集中	(注)2参照
		509		微粒子工学		白川　善幸		
		510		マイクロ流体フロー分析		塚越　一彦		
		511		多相系移動現象論		土屋　活美		
		513		時間分解レーザー分光		木村　佳文		
		515		バイオインスパイアード物質変換化学		人見　　穣		
		516		触媒機能設計		竹中　　壮		
		517		電池材料化学		土井　貴之		

履修方法

指導教員の指示により「応用化学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「応用化学特別セミナー」４単位以上を履修すること。ただし、同一担当者による「応用化学特別セミナー」の単位修得は、２単位までとする。

（注）1.「応用化学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、特殊研究Ⅰから順に登録履修すること。また、春学期入学と秋学期入学で科目コードが分かれているため注意すること。クラスコード、担当者については「特殊研究Ⅰ～Ⅵクラスコード表」を参照すること。

2.「応用化学特別セミナー」は、国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。

3.「論文」は修了を予定している年度の春学期に登録すること。

4. 博士（工学）、博士（理学）は、指導教員の指導の下に定める。

5. 以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

論文、応用化学特殊研究Ⅰ～Ⅵ

数理環境科学専攻

科目区分	科目コード	クラス	科　　目　　名	単位	担当者	期間時間	備考
	春学期入学者対象						
研究指導科目	41650201		数理環境科学特殊研究Ⅰ	2		春集中	1年次配当(注)1参照
	41650202		数理環境科学特殊研究Ⅱ	2		秋集中	〃
	41650203		数理環境科学特殊研究Ⅲ	2		春集中	2年次配当(注)1参照
	41650204		数理環境科学特殊研究Ⅳ	2		秋集中	〃
	41650205		数理環境科学特殊研究Ⅴ	2		春集中	3年次配当(注)1参照
	41650206		数理環境科学特殊研究Ⅵ	2		秋集中	〃
	秋学期入学者対象						
	41650301		数理環境科学特殊研究Ⅰ	2		秋集中	1年次配当(注)1参照
	41650302		数理環境科学特殊研究Ⅱ	2		春集中	〃
	41650303		数理環境科学特殊研究Ⅲ	2		秋集中	2年次配当(注)1参照
	41650304		数理環境科学特殊研究Ⅳ	2		春集中	〃
	41650305		数理環境科学特殊研究Ⅴ	2		秋集中	3年次配当(注)1参照
	41650306		数理環境科学特殊研究Ⅵ	2		春集中	〃
論文	41650100		論文				(注)3参照

科目区分	科目コード	クラス	科　目　名	テ　ー　マ	単位	担当者	期間時間	備考
授業科目	41650102	002	数理環境科学特別セミナー	環境システム工学	2	盛満　正嗣	春集中	(注)2参照
		005		差分・微分方程式		齋藤　誠慈		
		006		統計ファイナンス		津田　博史		
		009		エネルギーシステム科学		後藤　琢也		
		010		生物多様性科学		大園　享司		
		011		環境防災科学		堤　　浩之		
		013		森林生態学		長谷川元洋		
		014		環境衛生工学		赤尾　聡史		
		502		環境システム工学		盛満　正嗣	秋集中	(注)2参照
		509		エネルギーシステム科学		後藤　琢也		
		510		生物多様性科学		大園　享司		
		511		環境防災科学		堤　　浩之		
		512		解析学		竹井　義次		
		513		森林生態学		長谷川元洋		
		514		環境衛生工学		赤尾　聡史		
		515		幾何学		浅岡　正幸		

履修方法

指導教員の指示により「数理環境科学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「数理環境科学特別セミナー」４単位以上を履修すること。ただし、同一担当者による「数理環境科学特別セミナー」の単位修得は、２単位までとする。

（注）１.「数理環境科学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」はグレード制である。原則として、備考欄の配当年次に従い、特殊研究Ⅰから順に登録履修すること。また、春学期入学と秋学期入学で科目コードが分かれているため注意すること。クラスコード、担当者については「特殊研究Ⅰ～Ⅵクラスコード表」を参照すること。

２.「数理環境科学特別セミナー」は、国際科学技術コース（https://istc.doshisha.ac.jp/istc/en/）と合同で実施予定の為、英語にて講義を行う。ただし、受講者が日本語を母語とする者のみの場合は、日本語で講義を行うことがある。

３.「論文」は修了を予定している年度の春学期に登録すること。

４．博士（工学)、博士（理学）については、指導教員の指導の下に定める。

５．以下の科目の成績は、「合格」または「不合格」により評価される。

論文、数理環境科学特殊研究Ⅰ～Ⅵ

特殊研究Ⅰ～Ⅵクラスコード表

情報工学特殊研究クラスコード

クラス	担　当　者	研　究　タ　イ　ト　ル
002	渡　部　広　一	知識情報処理
004	橋　本　雅　文	センシング情報処理
005	土　屋　隆　生	数値音響工学
008	程　　俊	情報伝送理論
010	佐　藤　健　哉	分散コンピューティング
012	Ivan Tanev	進化的コンピューティング
013	高　橋　和　彦	知能制御システム
014	大　崎　美　穂	機械学習と知識発見
015	大久保　雅　史	ヒューマンコンピュータインタラクション
016	土　屋　誠　司	知能システム
017	奥　田　正　浩	スパース情報モデリング
018	加　藤　恒　夫	音声情報処理
019	小　板　隆　浩	分散システム

電気電子工学特殊研究クラスコード

クラス	担　当　者	研　究　タ　イ　ト　ル
005	藤　原　耕　二	電気機器
006	加　藤　利　次	応用電気回路
007	出　口　博　之	電磁波工学
009	松　川　真　美	応用計測
010	粕　谷　俊　郎	応用物理学
012	戸　田　裕　之	マイクロ波フォトニクス
013	岩　井　誠　人	無線通信工学
014	大　谷　直　毅	光電子デバイス
015	馬　場　吉　弘	電力システム
016	井　上　　馨	応用制御工学
017	近　藤　弘　一	応用数学
018	佐　藤　祐　喜	電子材料工学
019	小　山　大　介	波動応用デバイス
020	平　田　健太郎	応用システム理論
021	衣　斐　信　介	統計的信号処理
022	髙　橋　康　人	パワーマグネティックス

特殊研究Ⅰ～Ⅵクラスコード表

機械工学特殊研究クラスコード

クラス	担当者	研究タイトル
002	宮本博之	金属材料科学
004	稲岡恭二	移動現象
005	平田勝哉	流体力学
011	辻内伸好	振動制御工学
012	高岡正憲	非線形物理
013	大窪和也	構造設計
014	田中達也	成型加工
015	廣垣俊樹	生産システムデザイン
017	多久和英樹	逆問題
018	松村恵理子	先端エネルギー変換科学
019	笹田昌弘	材料加工
020	伊藤彰人	制御工学
021	中村守正	機械要素設計・表面改質

応用化学特殊研究クラスコード

クラス	担当者	研究タイトル
001	小寺政人	機能錯体化学
002	水谷義	有機反応
004	土屋活美	移動現象
005	塚越一彦	計測分離工学
006	白川善幸	粉体工学
008	松本道明	生物反応工学
010	稲葉稔	エネルギー変換化学
013	加藤将樹	無機物性化学
014	木村佳文	時間分解レーザー分光
015	古賀智之	高分子化学
016	人見穣	機能分子化学
017	竹中壮	材料システム工学
018	土井貴之	電池材料化学
019	北岸宏亮	生体内超分子化学

数理環境科学特殊研究クラスコード

クラス	担当者	研究タイトル
004	盛満正嗣	環境システム工学
008	齋藤誠慈	差分方程式論
009	津田博史	統計ファイナンス
010	後藤琢也	エネルギーシステム
011	大園享司	生物多様性
012	堤浩之	環境防災科学
013	竹井義次	解析学
014	長谷川元洋	森林生態系研究
015	赤尾聡史	環境衛生工学
016	浅岡正幸	幾何学

生命医科学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

医工学・医情報学専攻

◆人材養成に関する目的

１．教育研究の目的

生命現象の本質を正しく科学的に理解すると同時に、その制御機構を多角的な視点から明らかにする教育研究活動を展開する。このことによって、生命科学ならびにその周辺に位置する基礎医学、理学、工学、さらには人文科学や社会科学等の分野までをも見渡せる学際的、総合的な研究能力を涵養・啓発することを目的とする。また、基礎医学教育を重視した生命医科学部の理念を受け継ぎ、人と社会に役立つ研究を念頭におき、新たな学問分野を開拓・運用できる人材を養成する。

医工学・医情報学専攻

生体機能を十分に理解し、次世代技術を支える高度技術者としての進路を想定し、生命科学分野の学問的進展状況を的確に把握しつつ、医療技術のフロンティア領域である医学と工学のさまざまな複合分野で必要とされる高度技術の研究と教育を展開する。これらの活動を通じて、当該分野のさらなる技術発展に寄与できる研究者を養成するとともに、工学技術を的確に運用し次世代医療技術課題にも柔軟に対応できる能力を有する高度技術者としての総合的知識や技術の付与と啓発を行う。本専攻は医工学コースおよび医情報学コースにより構成される。具体的には、医工学コースでは、生体構造のモデル化や人工創成に関連するバイオマテリアル、生体機能の人工的実現へ向けたロボティクスやティッシュエンジニアリング等の研究、医情報学コースでは、生体情報の的確な取得に関連する生体計測技術、生体情報の処理機構の模擬に関連する脳神経機構解析や医療情報システム等の研究を行うことで高度な医工学技術の習得を目的とする。本専攻で取得できる学位は、博士（工学）である。

医生命システム専攻

生命科学を中心とした幅広い医科学ならびに医工学知識を理解するとともに、医療関連機関における高度医療システムのさまざまな課題にも対応できる研究者の養成を目的とする。そのため、ヒトをひとつの生命システムとして捉える視点から生命現象を研究し、その制御機構の解明を目指す教育・研究を展開する。とりわけ、生体内外の刺激に応答、適応する機能システムとして生命を位置づけ、この機能を解明する学問分野を重視する。また、関連周辺医療技術の理解および生命機能維持機構解明に対する多角的なアプローチを通じて総合的な知識や技術の付与と啓発を行い、当該分野の学術発展に寄与できる研究者を養成する。具体的には、生命現象の本質を総合的に考えるシステム生物学や生命制御の基幹に関連する脳神経機構学、生命現象を分子レベルで解明する遺伝子工学や分子生物学、分子薬理学等の研究を通じて、生命医科学に関連するさまざまな現象の把握と高度な理解の習得を目的とする。本専攻で取得できる学位は、博士（理学）である。

２．人材養成目的

生命医科学研究科博士課程（後期）は、生命科学を中心とした医工学・医情報学並びに医科学の先端研究について、関連する先進的な諸研究への能動的な参画をとおして、知識と技術を質的量的ともに深め、独創的な研究法や学問分野を創造する能力を身に付けて、生命の本質を科学的に解明しその成果を社会に還元することにより、生命医科学分野の発展に寄与し、国際的に高く評価される専門技術者、科学者を養成することを目的とする。

◆目指すべき人材（物）像

生命医科学研究科医工学・医情報学専攻博士課程（後期）は、生命科学を中心にした医工学ならびに医情報学の知識や技術について、関連する諸研究への能動的な参画をとおして、知識と技術を質的量的ともに深め、工学技術を的確に医療技術へと展開できる能力を身につけて、基幹産業分野で次世代を先導する技術者として、あるいは大学や各種研究機関において、わが国の高度医療技術研究を先導し、国際的に高く評価さ

れる研究者を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

学力の三要素 / 領域：下記の資質・能力を備えた学生に博士（工学）の学位を授与する。
【知識・技能】
・医工学ならびに医情報学の先端研究に関連する先進的な諸分野に関する知識と技術の深化ができる。
・医工学ならびに医情報学の基盤となる分野に関する専門的知識と技術を、最先端工学に応用できる。
【思考力・判断力・表現力】
・医工学ならびに医情報学の先端分野で、独創的な研究を遂行し、その成果を社会に還元することができる。
【主体性・多様性・協働性】
・医工学ならびに医情報学の知識と技術を駆使して、医学・医療や工学の研究分野に能動的な参画ができる。

◆カリキュラム・ポリシー

・ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。
・生命科学を中心とした医工学ならびに医情報学の先端研究に関連する先進的な諸研究への能動的な参画をとおして、生命の本質を科学的に解明し、その成果を社会に還元することにより、生命医科学分野の発展に寄与し、国際的に高く評価される専門技術者、科学者を養成するために、医工学コースと医情報学コースをもうける。
・それぞれのコースに必修科目と専門的知識を深めるための選択科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
・必修科目では課題解決のさらなる深化のための実験や演習を行い、PDCA サイクルを考慮した実践的活動を行う（14単位）。そのため、医工学特殊研究Ⅰ～Ⅵ（12単位）、医情報学特殊研究Ⅰ～Ⅵ（12単位）とプロジェクト特別演習Ｂ（2単位）を設定する。
・選択科目では、研究科内に設置されている授業科目から２単位以上を履修する。
・博士論文を提出し、最終試験に合格すること、研究に必要な1ヶ国以上の外国語によく通じていることが求められる。
・博士論文提出の要件は、査読付き学術誌への原著論文（掲載決定済を含む）1本以上、あるいは研究科委員会での事前審査で了承されたものとする。
・特殊研究では、査読付き学術誌に掲載されうる原著論文の作製又は同等のレベルの成果が求められ、そのために十分深い知識の獲得と利用が必要となる。
・選択科目では、各自の研究課題の持つ社会的な意義や独創性を自己評価し、その成果を社会に還元する能力を修得する。
・特殊研究では、査読付き学術誌に掲載されうる原著論文の作製又は同等のレベルの成果が求められ、そのために客観的かつ論理的推論が必要とされる。
・「プロジェクト特別演習Ｂ」（2単位）では、研究の遂行をプロジェクトとして捉えて、研究課題の企画・立案・計画・発表・評価等に関連した実践力を養う。
・特殊研究では、査読付き学術誌に掲載されうる原著論文の作製又は同等のレベルの成果が求められる。そのために最先端の研究に触れ、かつ自らの結果に対する他者から評価を受けるためにも、学会出席・発表などを行う。それにより、研究の方向性や位置付けに対する客観的な視野を身に付ける。
・「プロジェクト特別演習Ｂ」（2単位）では、研究の遂行をプロジェクトとして捉えることで、研究に対する学生の「自主自立の精神」を涵養する。

◆修了要件

①博士課程（後期課程）に３年以上在学していること。
ただし、優れた研究業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第７条の規定により、３年未満の

在学であっても修了できる。
②自コースの「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「プロジェクト特別演習Ｂ」２単位を含めて、自コース設置の科目から合計16単位以上を履修していること。
なお、①のただし書きを適用して３年未満の在学で修了する場合の自コースの「特殊研究Ⅲ～Ⅵ」の履修については、上記によらず、博士論文審査を含めて総合的に判断する。
③博士論文を提出し最終試験に合格すること。
④研究に必要な１ケ国以上の外国語によく通じていること。

医生命システム専攻

◆目指すべき人材（物）像

生命医科学研究科医生命システム専攻博士課程（後期）は、医生命科学を中心とした先端研究について、関連する先進的な諸研究への能動的な参画をとおして、知識と技術を質的量的ともに深め、独創的な研究法や学問分野を創造する能力を身につけて、生命の本質を科学的に解明しその成果を社会に還元することにより、生命医科学分野の発展に寄与し、国際的に高く評価される専門技術者、科学者を養成することを目的とする。

具体的には、創薬や食品を中心とした健康医療分野ならびにその周辺医療技術分野産業の高度化と、国民の健康増進と疾病の予防と治療に貢献できること、さらには研究成果を具現化し社会への実装化ができる専門科学者を養成することを目的とする。これらの知識と技術を習得するにあたり、意識として研究倫理ならびに生命倫理をもつことが要求される。

◆ディプロマ・ポリシー

学力の三要素 / 領域：下記の資質・能力を備えた学生に博士（理学）の学位を授与する。
【知識・技能】
①生命医科学の先端研究を理解する専門的能力を得る（知識・技能）。
②生命医科学に関する課題を高度に専門的な知識によって理解し、独創的な研究を遂行して新たな概念や方法を提案することができる（知識・技能）。
【思考力・判断力・表現力】
①専門的な理論に基づいて生命医科学における課題の解決方策を提示し、研究結果の学術的な解析ができる（思考力・判断力）。
②生命医科学に関する自らの研究成果を英文の学術論文として社会に発信し、他者に論理的に説明することができる（表現力）。
【主体性・多様性・協働性】
①生命医科学と社会のつながりを意識しながら生命医科学に関する課題を積極的に発見し、研究計画を自ら立案、解決できる（主体性）。
②生命科学者としての倫理観を修得し、様々な人の多様性を理解し協働しながら、高度な専門家として課題を探求することができる（多様性・協働性）。

◆カリキュラムポリシー

・ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。
・生命科学を中心とした医科学の先端研究に関連する先進的な諸研究への能動的な参画をとおして、生命の本質を科学的に解明し、その成果を社会に還元することにより、生命医科学分野の発展に寄与し、国際的に高く評価される科学者を養成するために、医生命システム専攻を設ける。

・研究能力を高めるための必修科目と専門的知識を深めるための選択科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
・必修科目では高度な専門的研究者としての能力を育成するために、課題解決のさらなる深化のための実験を行う（14単位)。そのため、医生命システム特殊研究Ⅰ～Ⅵ（12単位）とプロジェクト特別演習Ｂ（2単位）を設定する。
・選択科目では、自専攻内に設置されている授業科目から2単位以上を履修する。
・さらに、博士論文を提出し最終試験に合格することが要求され、研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通じていることが求められる。
・博士論文提出の要件は、査読付き学術誌への原著論文（掲載決定済を含む）1本以上、あるいは研究科委員会での事前審査で了承されたものとする。

必修科目
・医生命システム特殊研究Ⅰ～ Ⅵ では生命医科学の体系的な知識や先端的な技術をもちいて、医学及び医療における諸課題を解決し社会に還元するための専門的な研究能力を養成するために、研究背景の調査と計画の立案、研究の実施、結果の緻密な解析を行う。またその集大成として査読付学術誌での原著論文としての発信および博士論文の執筆と公聴会での発表が求められ、研究の独創性と先進性、論文としての卓越性が問われる。また研究を通じて、生命医科学が直面する諸課題を主体的に発見し、国際感覚や高い倫理観をもって、他者の多様性を理解し協働しながら探求し、高度な専門家として問題解決できるようになる。
・プロジェクト特別演習Ｂでは、研究の遂行をプロジェクトとして捉えて、研究課題の企画・立案・計画・発表・評価等に関連した実践力を養い、研究に対する学生の「自主自立の精神」の確立を目指す。

選択科目
・自専攻設置の深論科目では生命医科学の先端研究を理解する専門的能力を修得する。

◆修了要件

①博士課程（後期課程）に３年以上在学していること。
ただし、優れた研究業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第７条の規定により、３年未満の在学であっても修了できる。
②「医生命システム特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「プロジェクト特別演習Ｂ」２単位を含めて、自専攻設置の科目から合計16単位以上を履修していること。
なお、①のただし書きを適用して３年未満の在学で修了する場合の「医生命システム特殊研究Ⅲ～Ⅵ」の履修については、上記によらず、博士論文審査を含めて総合的に判断する。
③博士論文を提出し最終試験に合格すること。
④研究に必要な１ケ国以上の外国語によく通じていること。

生 命 医 科 学 研 究 科

医工学・医情報学専攻 医工学コース

当該年度の開講科目一覧表については、生命医科学部・生命医科学研究科ホームページを参照ください。

	科目コード	科　目　名	単位数	配当年次
授業科目	41410101	医用複合材料学深論	2	1～
	41410102	生体適合材料深論	2	1～
	41410103	再生医療深論	2	1～
	41410104	医用ロボット工学深論	2	1～
	41410112	非線形応用数理深論	2	1～
	41410113	再生医科学深論	2	1～
	41410114	バイオマテリアル深論	2	1～
	41410115	機械材料設計学深論	2	1～
	41410116	放射線科学深論	2	1～
	41410117	医用機械制御工学深論	2	1～
	41400052	プロジェクト特別演習Ｂ	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ａ１	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ａ２	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ｂ１	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ｂ２	2	1～
研究指導科目	41410011	医工学特殊研究Ⅰ	2	1～
	41410012	医工学特殊研究Ⅱ	2	1～
	41410013	医工学特殊研究Ⅲ	2	2～
	41410014	医工学特殊研究Ⅳ	2	2～
	41410015	医工学特殊研究Ⅴ	2	3～
	41410016	医工学特殊研究Ⅵ	2	3～
	41400099	論文		3

医工学・医情報学専攻 医情報学コース

当該年度の開講科目一覧表については、生命医科学部・生命医科学研究科ホームページを参照ください。

	科目コード	科　目　名	単位数	配当年次
授業科目	41410106	生体計測深論	2	1～
	41422116	生体化学情報深論	2	1～
	41410107	生物情報学深論	2	1～
	41422112	医療情報学深論	2	1～
	41422113	生命物理学深論	2	1～
	41422114	超音波医科学深論	2	1～
	41422115	生物センシング工学深論	2	1～
	41422117	行動生物学深論	2	1～
	41422118	人間情報学深論	2	1～
	41400052	プロジェクト特別演習Ｂ	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ａ１	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ａ２	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ｂ１	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ｂ２	2	1～
研究指導科目	41422011	医情報学特殊研究Ⅰ	2	1～
	41422012	医情報学特殊研究Ⅱ	2	1～
	41422013	医情報学特殊研究Ⅲ	2	2～
	41422014	医情報学特殊研究Ⅳ	2	2～
	41422015	医情報学特殊研究Ⅴ	2	3～
	41422016	医情報学特殊研究Ⅵ	2	3～
	41400099	論文		3

医生命システム専攻

当該年度の開講科目一覧表については、生命医科学部・生命医科学研究科ホームページを参照ください。

	科目コード	科　目　名	単位数	配当年次
授業科目	41430101	システム生物科学深論	2	1～
	41430102	ストレス応答解析学深論	2	1～
	41430105	アンチエイジング深論	2	1～
	41430107	神経情報伝達制御学深論	2	1～
	41430108	創薬科学深論	2	1～
	41430109	遺伝子工学深論	2	1～
	41430110	臨床再生医学深論	2	1～
	41430112	分子生命科学深論	2	1～
	41430113	免疫代謝学深論	2	1～
	41400052	プロジェクト特別演習Ｂ	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ａ１	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ａ２	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ｂ１	2	1～
		生命医科学深論特別講義Ｂ２	2	1～
研究指導科目	41430011	医生命システム特殊研究Ⅰ	2	1～
	41430012	医生命システム特殊研究Ⅱ	2	1～
	41430013	医生命システム特殊研究Ⅲ	2	2～
	41430014	医生命システム特殊研究Ⅳ	2	2～
	41430015	医生命システム特殊研究Ⅴ	2	3～
	41430016	医生命システム特殊研究Ⅵ	2	3～
	41400099	論文		3

スポーツ健康科学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆目指すべき人材（物）像

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士課程（後期）は、隣接諸科学の先端的知見とスポーツ健康科学の専門的知識を修得し、その成果を的確かつ柔軟に応用、運用できる能力を身に付けて、大学・研究所において広範囲な研究能力を発揮して新たな学問領域の開拓をする研究者や、医療・健康関連産業や地方自治体等において、学際的かつ高度な専門性を生かして活躍する超高度専門職業人となる人材の養成を目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

・スポーツ健康科学の先端的な専門知識と技術を深化させることができる（知識・技能）。
・スポーツ健康科学の先端的な専門的知識と技術を駆使して、得られた成果を的確に応用できる（思考力・判断力・表現力）。
・スポーツ健康科学の先端的分野で独創的な研究を展開し、国際的な貢献ができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

Ⅰ．スポーツ健康科学に関して学修した理論と技術を深化させて先鋭化することにより、国際的に認められる独創性の高い研究を遂行できる高度で柔軟な研究能力を養うことを到達目標とし、「深論」を履修するとともに、指導教員による研究指導科目である「特殊研究」を１年次から３年次にかけて継続的に履修する。

２．各自の専門分野に特化した文献研究によって得た事象を、実験・実習によって具現化することにより高度な専門的知識を修得し、さらに学生自身が自らの研究に関する問題点を発見し、研究を深化させながら問題を解決する能力を養うために、指導教員の指示により「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」を在籍期間中６セメスター連続して履修する（知識・技能）。

３．「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」では各自の研究テーマに特化した文献研究によって得た事象から独創的なアイデアを発掘し、それを実験・実習によって具現化し実証することで、研究テーマに関連する最新の実験技術の運用能力と、得られたデータの分析能力をも涵養し、各自の課題解決能力と新たな課題を発見する力を養う。また、スポーツ種目等の研究の継続によって修得した技術の運用能力もこれに属する（思考力・判断力・表現力）。

４．幅広い視野に立つ研究者及び、超高度専門職業人としての素養を養う講義科目である「深論」の中から合計２単位以上を履修する。また同時に「特殊演習」により講義で学んだことをゼミナール形式で２単位履修する（主体性・多様性・協働性）。

５．博士課程（後期課程）修了時には、「博士論文」を提出し、最終試験（最終審査会）に合格することを条件とする。また、「深論」から２単位以上、「特殊演習」から２単位以上を履修する。さらに、研究に必要な英語資格試験を合格することも条件とする（思考力・判断力・表現力）。

スポーツ健康科学研究科

スポーツ健康科学専攻

科目区分	配当年次	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名	単位	担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	備考
講義科目	1～	41500011		スポーツ医学深論	2	北條　達也	田	秋集中	不可	不可	
		41500012		スポーツ生化学深論	2	井澤　鉄也	田	春集中	不可	不可	
		41500013		スポーツ栄養学深論	2	海老根直之	田	秋集中	不可	不可	
		41500014		公衆衛生学深論	2	柳田　昌彦	田	秋集中	不可	不可	
		41500015		運動処方深論	2	石井好二郎	田	春集中	不可	不可	
		41500016		スポーツ心理学深論	2	石倉　忠夫	田	春集中	不可	不可	
		41500017		スポーツ運動学深論	2	田附　俊一	田	秋集中	不可	不可	
		41500018		スポーツ生理学深論	2	竹田　正樹	田	秋集中	不可	不可	
		41500019		スポーツ・バイオメカニクス深論	2	中村　康雄	田	春集中	不可	不可	
		41500021		環境生理学深論	2	福岡　義之	田	春集中	不可	不可	
		41500023		スポーツ・マーケティング・リサーチ深論	2	二宮　浩彰	田	秋集中	不可	不可	
		41500024		身体運動制御深論	2	上林　清孝	田	春集中	不可	不可	
		41500025		スポーツ生体ダイナミクス深論	2	若原　　卓	田	春集中	不可	不可	
演習科目	1～	41500101	002	スポーツ健康科学特殊演習	2	井澤　鉄也	田	秋集中	不可	不可	
			003	スポーツ健康科学特殊演習		田附　俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊演習		柳田　昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊演習		北條　達也					
			006	スポーツ健康科学特殊演習		福岡　義之					
			007	スポーツ健康科学特殊演習		石井好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊演習		二宮　浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊演習		石倉　忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊演習		中村　康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊演習		竹田　正樹					
			013	スポーツ健康科学特殊演習		海老根直之					
			014	スポーツ健康科学特殊演習		上林　清孝					
			015	スポーツ健康科学特殊演習		若原　　卓					
研究指導科目	1～	41501001	002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ	2	井澤　鉄也	田	春集中	不可	不可	
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		田附　俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		柳田　昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		北條　達也					
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		福岡　義之					
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		石井好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		二宮　浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		石倉　忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		中村　康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		竹田　正樹					
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		海老根直之					
			014	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		上林　清孝					
			015	スポーツ健康科学特殊研究Ⅰ		若原　　卓					

科目区分	配当年次	登録コード		科目名	単位	担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	備考
		科目	クラス								
研究指導科目	1～	41501002	002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ	2	井澤　鉄也	田	秋集中	不可	不可	
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		田附　俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		柳田　昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		北條　達也					
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		福岡　義之					
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		石井好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		二宮　浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		石倉　忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		中村　康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		竹田　正樹					
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		海老根直之					
			014	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		上林　清孝					
			015	スポーツ健康科学特殊研究Ⅱ		若原　　卓					
	2～	41501003	002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ	2	井澤　鉄也	田	春集中	不可	不可	
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		田附　俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		柳田　昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		北條　達也					
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		福岡　義之					
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		石井好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		二宮　浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		石倉　忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		中村　康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		竹田　正樹					
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		海老根直之					
			014	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		上林　清孝					
			015	スポーツ健康科学特殊研究Ⅲ		若原　　卓					
	2～	41501004	002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ	2	井澤　鉄也	田	秋集中	不可	不可	
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		田附　俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		柳田　昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		北條　達也					
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		福岡　義之					
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		石井好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		二宮　浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		石倉　忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		中村　康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		竹田　正樹					
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		海老根直之					
			014	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		上林　清孝					
			015	スポーツ健康科学特殊研究Ⅳ		若原　　卓					

科目区分	配当年次	登録コード		科目名	単位	担当者	校地	期間時間	他研究科生	聴講生	備考
		科目	クラス								
研究指導科目	3～	41501005	002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ	2	井澤　鉄也	田	春集中	不可	不可	
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		田附　俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		柳田　昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		北條　達也					
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		福岡　義之					
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		石井好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		二宮　浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		石倉　忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		中村　康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		竹田　正樹					
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		海老根直之					
			014	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		上林　清孝					
			015	スポーツ健康科学特殊研究Ⅴ		若原　　卓					
	3～	41501006	002	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ	2	井澤　鉄也	田	秋集中	不可	不可	
			003	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		田附　俊一					
			004	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		柳田　昌彦					
			005	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		北條　達也					
			006	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		福岡　義之					
			007	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		石井好二郎					
			008	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		二宮　浩彰					
			009	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		石倉　忠夫					
			010	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		中村　康雄					
			011	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		竹田　正樹					
			013	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		海老根直之					
			014	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		上林　清孝					
			015	スポーツ健康科学特殊研究Ⅵ		若原　　卓					
	3	41500099		論文	－						

【修了要件および履修方法】

①本後期課程に３年以上在学していること。
ただし、以下に挙げる優れた研究業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第７条の規定により、３年未満の在学であっても修了できる。
・本博士後期課程入学後学位論文提出までに、国内外の著名な学術誌に２編以上の研究論文を公表する。
・国際学会における研究発表を１件以上行うこと。
・履修科目の GPA が4.0以上の優秀な成績を残すこと。
早期修了しようとする者は、前期・後期あわせて３年以上在学し、②の規定にかかわらず、在学年次の特殊研究必要単位数を修得していることを条件とする。

②「特殊研究」を12単位、履修していること。
なお、①ただし書きを適用して、３年未満の在学で修了する者のスポーツ健康科学特殊研究Ⅰ～Ⅵの履修単位数については、博士学位論文審査を含め、総合的に判断する。

③研究科内に設置されている講義科目「深論」から合計２単位以上、演習科目「特殊演習」から合計２単位以上を履修していること。なお特殊演習は必ず特殊研究と同教員のクラスを履修・登録すること。

④博士論文を提出し、最終試験に合格すること。

⑤研究に必要な１カ国以上の外国語によく通じていること。

※博士論文提出にあたっては、「スポーツ健康科学研究科博士論文審査基準」を参照のこと。

心理学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

心理学専攻

〈目指すべき人材（物）像〉

心理学研究科心理学専攻博士課程（後期課程）では、前期課程において習得した心理学研究の高度な知識・技術を基盤として、心理学における先端的専門知識と研究能力を身に付けた研究者を養成し、大学における専門分野の研究にとどまらず、産官学分野にまたがって基礎的な問題から応用的諸問題にまで対応できる問題発見能力とそれに対する解決能力をもった研究者及び教育者を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

〈学力の三要素 / 領域〉

下記の資質・能力を備えた学生に博士（心理学）学位を授与します

〈知識・技能〉

心理学についての基礎から応用に至る専門的な研究法や高度な先端的専門知識を理解できるようになる。また先端的研究のためのデータ収集・解析技術や実験機器・装置の運用技術を習得し、それらを適切に用いることができるようになる。併せて応用面での臨床的技術の開発能力を身につけ、適切に用いることができるようになる。

〈思考力・判断力・表現力〉

大学における専門分野の研究にとどまらず、産官学分野にまたがって基礎的な問題から応用的諸問題にまで対応できる問題発見能力と、それに対する解決能力を身につける。また得られた研究成果を、国内外を問わず専門領域において適切に発信する能力と、社会に向けてわかりやすく発信する能力を習得する。

〈主体性・多様性・協働性〉

実社会や近接領域の学問分野にも広く関心を寄せながら、こころと行動の仕組みと機能に関する先端的知見を科学的に探求しようとする態度や、産官学分野にまたがる基礎から応用までの諸問題の解決に貢献しようとする態度を養う。また研究分野に応じて他分野との協働を有機的に促進し、周囲の人々を啓発、育成、伸長することができるようになる。

◆カリキュラム・ポリシー

〈カリキュラム総説〉

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます

心理学における高度な先端的専門知識と研究能力を身につけた研究者・教育者を育成するために、心理学特殊研究、プロジェクト特別演習によって構成されるカリキュラムを設置する。

心理学特殊研究は、心理学の研究者・教育者として社会で活躍できる人物を育成するのに必要な高度な先端的専門知識と専門的技能（知識・技能）と、専門分野にとどまらない幅広い視点から科学的かつ論理的に議論を展開する能力（思考力・判断力・表現力）を習得することを到達目標とし、１年次から３年次にかけて、演習形式による研究指導科目を履修する。

プロジェクト特別演習は、心理学の研究者・教育者として社会で活躍できる人物を育成するのに必要な先端的知見を科学的に探求し、産官学分野にまたがる基礎的な問題から応用的諸問題にまで対応できる問題発見能力とそれに対する解決能力（思考力・判断力・表現力）、産官学分野にまたがる緒問題を解決しようとする態度（主体性・多様性・協働性）を習得することを到達目標とし、２年次において、演習形式による研究指導科目を履修する。

心 理 学 研 究 科

心理学専攻

は今年度休講科目

履修年次▶		1～				2～				3～				開講情報▼		
科目区分	開講期間	登録コード 科目コード	クラス	科目名	単位	登録コード 科目コード	クラス	科目名	単位	登録コード 科目コード	クラス	科目名	単位	担当者	開講校地	週時間
研究指導科目	春学期	41701131	001	心理学特殊研究（1）	2	41701133	001	心理学特殊研究（3）	2	41701135	001	心理学特殊研究（5）	2	青山謙二郎	田	集中
			002				002				002			内山伊知郎	田	集中
			003				003				003			神山　貴弥	田	集中
			004				004				004					
			005				005				005			杉若　弘子	田	集中
			006				006				006			竹原　卓真	田	集中
			007				007				007			田中あゆみ	田	集中
			008				008				008			中谷内一也	田	集中
			009				009				009			畑　敏道	田	集中
			010				010				010			武藤　崇	田	集中
			011				011				011					
			012				012				012			石川　信一	田	集中
	秋学期	41701132	001	心理学特殊研究（2）	2	41701134	001	心理学特殊研究（4）	2	41701136	001	心理学特殊研究（6）	2	青山謙二郎	田	集中
			002				002				002			内山伊知郎	田	集中
			003				003				003			神山　貴弥	田	集中
			004				004				004					
			005				005				005			杉若　弘子	田	集中
			006				006				006			竹原　卓真	田	集中
			007				007				007			田中あゆみ	田	集中
			008				008				008			中谷内一也	田	集中
			009				009				009			畑　敏道	田	集中
			010				010				010			武藤　崇	田	集中
			011				011				011					
			012				012				012			石川　信一	田	集中
プロジェクト科目	春学期					41701141	001	プロジェクト特別演習（1）	2							
							002							内山伊知郎	田	集中
							003							神山　貴弥	田	集中
							004									
							005							杉若　弘子	田	集中
							006							竹原　卓真	田	集中
							007							田中あゆみ	田	集中
							008							中谷内一也	田	集中
							009							畑　敏道	田	集中
							010							武藤　崇	田	集中
							011									
							012							石川　信一	田	集中
	秋学期					41701142	001	プロジェクト特別演習（2）	2					青山謙二郎	田	集中
							002							内山伊知郎	田	集中
							003							神山　貴弥	田	集中
							004									
							005							杉若　弘子	田	集中
							006							竹原　卓真	田	集中
							007							田中あゆみ	田	集中
							008							中谷内一也	田	集中
							009							畑　敏道	田	集中
							010							武藤　崇	田	集中
							011									
							012							石川　信一	田	集中
博士論文																

【修了要件および履修方法】

①博士課程に５年【博士課程（前期課程）または修士課程を修了した学生は、当該課程の２年の在籍期間を含む】以上、在学していること
②研究指導科目から12単位修得すること
③プロジェクト科目から４単位修得すること
④博士論文を提出し、これに関連しておこなわれる試験に合格すること
⑤研究に必要な外国語によく通じていること
※博士論文提出にあたっては、「心理学研究科　履修の手引き」を参照のこと

グローバル・スタディーズ研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻博士課程（後期）は、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究の３つのクラスターに分かれ、どのクラスターにおいても、世界の研究者などと国際共同研究プロジェクトを計画立案、推進、完遂できる十分な言語・コミュニケーション能力や、グローバルなスタンダードに見合った創造力を涵養し、研究機関、国際協力機関等で活躍できる研究者及び高度専門職業人を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

◇アメリカ研究クラスター

知識・技能：

アメリカが直面する地球規模の課題を、研究者または専門職業人として高度な学際的知見に基づいて理解できる。

思考力・判断力・表現力：

アメリカが直面する地球規模の課題をみずから発見し、研究者または専門職業人として独創的かつ高度な解決方法を学術的に探究できる。

主体性・多様性・協働性：

アメリカに生きる人々や文化の多様性を尊重し、研究者または専門職業人として共同で研究プロジェクトまたはプロジェクトを推進できる。

◇現代アジア研究クラスター

知識・技能：

現代アジアが直面する地球規模の課題を、研究者または専門職業人として高度な学際的知見に基づいて理解できる。

思考力・判断力・表現力：

現代アジアが直面する地球規模の課題をみずから発見し、研究者または専門職業人として独創的かつ高度な解決方法を学術的に探究できる。

主体性・多様性・協働性：

現代アジアに生きる人々や文化の多様性を尊重し、研究者または専門職業人として共同で研究プロジェクトまたはプロジェクトを推進できる。

◇グローバル社会研究クラスター

知識・技能：

グローバル社会が直面する地球規模の課題を、研究者または専門職業人として高度な学際的知見に基づいて理解できる。

思考力・判断力・表現力：

グローバル社会が直面する地球規模の課題をみずから発見し、研究者または専門職業人として独創的かつ高度な解決方法を学術的に探究できる。

主体性・多様性・協働性：

グローバル社会に生きる人々や文化の多様性を尊重し、研究者または専門職業人として共同で研究プロジェクトまたはプロジェクトを推進できる。

◆カリキュラム・ポリシー

2020年度以降生

◇アメリカ研究クラスター

＜カリキュラム総説＞

・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、「研究指導科目」および「コース指導科目」によって構成されるカリキュラムを設置する。
・「研究指導科目」は、指導教員の指示により、１つ以上を登録し指導を受ける。また、「コース指導科目」は、指導教員が担当する演習Ⅰと演習Ⅱをそれぞれ６単位以上履修する。
＜学力の三要素／領域＞
・アメリカ社会が直面する地球規模の課題を考究するための高度な門的知識・技能を習得することを目的として「研究指導科目」および「コース指導科目」を設置する（知識・技能）。
・アメリカ社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、「研究指導科目」および「コース指導科目」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

◇現代アジア研究クラスター
＜カリキュラム総説＞
・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、「研究指導科目」および「コース指導科目」によって構成されるカリキュラムを設置する。
・「研究指導科目」は、指導教員の指示により、１つ以上を登録し指導を受ける。また、「コース指導科目」は、指導教員が担当する演習Ⅰと演習Ⅱをそれぞれ６単位以上履修する。
＜学力の三要素／領域＞
・現代アジア社会が直面する地球規模の課題を考究するための高度な門的知識・技能を習得することを目的として「研究指導科目」および「コース指導科目」を設置する（知識・技能）。
・現代アジア社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、「研究指導科目」および「コース指導科目」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

◇グローバル社会研究クラスター
＜カリキュラム総説＞
・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、「研究指導科目」および「コース指導科目」によって構成されるカリキュラムを設置する。
・「研究指導科目」は、指導教員の指示により、１つ以上を登録し指導を受ける。また、「コース指導科目」は、指導教員が担当する演習Ⅰと演習Ⅱをそれぞれ６単位以上履修する。
＜学力の三要素／領域＞
・グローバル社会が直面する地球規模の課題を考究するための高度な門的知識・技能を習得することを目的として「研究指導科目」および「コース指導科目」を設置する（知識・技能）。
・グローバル社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、「研究指導科目」および「コース指導科目」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

2019年度以前生
◇アメリカ研究クラスター
＜カリキュラム総説＞
・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、「研究指導科目」および「特殊研究」によって構成されるカリキュラムを設置する。
・アメリカ研究クラスターにテーマ別に設置された「研究指導科目」では、１年次から３年次まで指導教員により一貫した研究指導が行なわれる。また、「特殊研究」では、先行研究の検証、研究手法の習得を含めた指導が行なわれ、短期サイクルで研究成果を報告・発表することが求められる。
＜学力の三要素／領域＞

・アメリカ社会が直面する地球規模の課題を考究するための高度な専門的知識・技能を習得することを目的として「研究指導科目」および「特殊研究」を設置する（知識・技能）。
・アメリカ社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、「研究指導科目」および「特殊研究」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

◇現代アジア研究クラスター
＜カリキュラム総説＞
・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、「研究指導科目」および「特殊研究」によって構成されるカリキュラムを設置する。
・現代アジア研究クラスターにテーマ別に設置された「研究指導科目」では、１年次から３年次まで指導教員により一貫した研究指導が行なわれる。また、「特殊研究」では、先行研究の検証、研究手法の習得を含めた指導が行なわれ、短期サイクルで研究成果を報告・発表することが求められる。
＜学力の三要素／領域＞
・現代アジア社会が直面する地球規模の課題を考究するための高度な専門的知識・技能を習得することを目的として「研究指導科目」および「特殊研究」を設置する（知識・技能）。
・現代アジア社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、「研究指導科目」および「特殊研究」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

◇グローバル社会研究クラスター
＜カリキュラム総説＞
・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、「研究指導科目」および「特殊研究」によって構成されるカリキュラムを設置する。
・グローバル社会研究クラスターにテーマ別に設置された「研究指導科目」では、１年次から３年次まで指導教員により一貫した研究指導が行なわれる。また、「特殊研究」では、先行研究の検証、研究手法の習得を含めた指導が行なわれ、短期サイクルで研究成果を報告・発表することが求められる。
＜学力の三要素／領域＞
・グローバル社会が直面する地球規模の課題を考究するための高度な専門的知識・技能を習得することを目的として「研究指導科目」および「特殊研究」を設置する（知識・技能）。
・グローバル社会が直面する地球規模の課題を探求する基本的態度、および多様性、協働性を修養すると同時に、学術的見地から調査・研究を実践していくことを目的として、「研究指導科目」および「特殊研究」を設置する（思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）。

グローバル・スタディーズ研究科

グローバル・スタディーズ専攻：後期課程（2020年度以降生）

	登録コード		科目名・クラス	主題	単位	担当者	期間	備考
	科目	クラス						
研究指導科目								
アメリカ研究クラスター	41810110	001	アメリカ特殊研究Ⅰ・①	アメリカの歴史と社会		Gavin J. CAMPBELL	春学期	
	41810120	001	アメリカ特殊研究Ⅱ・①	アメリカ社会と文化		南川　文里		
	41810130	001	アメリカ特殊研究Ⅲ・①	アメリカの政治と外交		三牧　聖子		
	41810140	001	アメリカ特殊研究Ⅳ・①	アメリカの社会と国際関係		秋林こずえ		
	41810150	001	アメリカ特殊研究Ⅴ・①	アメリカの政治と社会		（2026年度休講）		
	41810160	001	アメリカ特殊研究Ⅵ・①	アメリカのジェンダーと社会		菅野　優香		
	41810110	011	アメリカ特殊研究Ⅰ・⑪	アメリカの歴史と社会		Gavin J. CAMPBELL	秋学期	
	41810120	011	アメリカ特殊研究Ⅱ・⑪	アメリカ社会と文化		南川　文里		
	41810130	011	アメリカ特殊研究Ⅲ・⑪	アメリカの政治と外交		三牧　聖子		
	41810140	011	アメリカ特殊研究Ⅳ・⑪	アメリカの社会と国際関係		秋林こずえ		
	41810150	011	アメリカ特殊研究Ⅴ・⑪	アメリカの政治と社会		岡野　八代		
	41810160	011	アメリカ特殊研究Ⅵ・⑪	アメリカのジェンダーと社会		（2026年度休講）		
現代アジア研究クラスター	41820110	001	現代アジア特殊研究Ⅰ・①	現代中国社会・文化論		厳　　善平	春学期	
	41820120	001	現代アジア特殊研究Ⅱ・①	朝鮮半島の社会・文化論		太田　　修		
	41820130	001	現代アジア特殊研究Ⅲ・①	東南アジアの社会・政治論		小山田英治		
	41820140	001	現代アジア特殊研究Ⅳ・①	アジア比較社会論		冨山　一郎		
	41820150	001	現代アジア特殊研究Ⅴ・①	アジア地域間関係論		村田雄二郎		
	41820160	001	現代アジア特殊研究Ⅵ・①	アジアの歴史と文化		（2026年度休講）		
	41820110	011	現代アジア特殊研究Ⅰ・⑪	現代中国社会・文化論		厳　　善平	秋学期	
	41820120	011	現代アジア特殊研究Ⅱ・⑪	朝鮮半島の社会・文化論		太田　　修		
	41820130	011	現代アジア特殊研究Ⅲ・⑪	東南アジアの社会・政治論		小山田英治		
	41820140	011	現代アジア特殊研究Ⅳ・⑪	アジア比較社会論		冨山　一郎		
	41820150	011	現代アジア特殊研究Ⅴ・⑪	アジア地域間関係論		村田雄二郎		
	41820160	011	現代アジア特殊研究Ⅵ・⑪	アジアの歴史と文化		（2026年度休講）		
グローバル社会研究クラスター	41830110	001	グローバル社会特殊研究Ⅰ・①	人口移動と多文化社会論		内藤　正典	春学期	
	41830120	001	グローバル社会特殊研究Ⅱ・①	開発政策論		中西　久枝		
	41830130	001	グローバル社会特殊研究Ⅲ・①	経済と政治の人類学		松村圭一郎		
	41830140	001	グローバル社会特殊研究Ⅳ・①	グローバル化と紛争		西川由紀子		
	41830150	001	グローバル社会特殊研究Ⅴ・①			（2026年度休講）		
	41830160	001	グローバル社会特殊研究Ⅵ・①	グローバル化とレイシズム		菊池　恵介		
	41830170	001	グローバル社会特殊研究Ⅶ・①	防衛と安全保障研究		Laura-Anca PAREPA		
	41830110	011	グローバル社会特殊研究Ⅰ・⑪	人口移動と多文化社会論		内藤　正典	秋学期	
	41830120	011	グローバル社会特殊研究Ⅱ・⑪	開発政策論		中西　久枝		
	41830130	011	グローバル社会特殊研究Ⅲ・⑪	経済と政治の人類学		松村圭一郎		
	41830140	011	グローバル社会特殊研究Ⅳ・⑪	グローバル化と紛争		西川由紀子		
	41830150	011	グローバル社会特殊研究Ⅴ・⑪			（2026年度休講）		
	41830160	011	グローバル社会特殊研究Ⅵ・⑪	グローバル化とレイシズム		菊池　恵介		
	41830170	011	グローバル社会特殊研究Ⅶ・⑪	防衛と安全保障研究		Laura-Anca PAREPA		
コース指導科目								
アメリカ研究クラスター	41810100	001	演習Ⅰ・①		2	Gavin J. CAMPBELL	春学期	
		002	演習Ⅰ・②		2	秋林こずえ		
		003	演習Ⅰ・③		2	南川　文里		
		004	演習Ⅰ・④		2	菅野　優香		
		005	演習Ⅰ・⑤		2	（2026年度休講）		
		006	演習Ⅰ・⑥		2	三牧　聖子		

	登録コード		科目名・クラス	主題	単位	担当者	期間	備考
	科目	クラス						
アメリカ研究クラスター	41810200	001	演習Ⅱ・①		2	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	
		002	演習Ⅱ・②		2	秋林こずえ		
		003	演習Ⅱ・③		2	南川　文里		
		004	演習Ⅱ・④		2	（2026年度休講）		
		005	演習Ⅱ・⑤		2	岡野　八代		
		006	演習Ⅱ・⑥		2	三牧　聖子		
現代アジア研究クラスター	41820100	001	演習Ⅰ・①		2	冨山　一郎	春学期	
		002	演習Ⅰ・②		2	厳　善平		
		003	演習Ⅰ・③		2	村田雄二郎		
		004	演習Ⅰ・④		2	太田　修		
		005	演習Ⅰ・⑤		2	小山田英治		
		006	演習Ⅰ・⑥		2	（2026年度休講）		
	41820200	001	演習Ⅱ・①		2	冨山　一郎	秋学期	
		002	演習Ⅱ・②		2	厳　善平		
		003	演習Ⅱ・③		2	村田雄二郎		
		004	演習Ⅱ・④		2	太田　修		
		005	演習Ⅱ・⑤		2	小山田英治		
		006	演習Ⅱ・⑥		2	（2026年度休講）		
グローバル社会研究クラスター	41830100	001	演習Ⅰ・①		2	松村圭一郎	春学期	
		002	演習Ⅰ・②		2	内藤　正典		
		003	演習Ⅰ・③		2	中西　久枝		
		004	演習Ⅰ・④		2	Laura-Anca PAREPA		
		005	演習Ⅰ・⑤		2	西川由紀子		
		006	演習Ⅰ・⑥		2	菊池　恵介		
		007	演習Ⅰ・⑦		2	（2026年度休講）		
	41830200	001	演習Ⅱ・①		2	松村圭一郎	秋学期	
		002	演習Ⅱ・②		2	内藤　正典		
		003	演習Ⅱ・③		2	中西　久枝		
		004	演習Ⅱ・④		2	Laura-Anca PAREPA		
		005	演習Ⅱ・⑤		2	西川由紀子		
		006	演習Ⅱ・⑥		2	菊池　恵介		
		007	演習Ⅱ・⑦		2	（2026年度休講）		
論文								
	41801600		論文					

履修方法（2020年度以降生）

研究指導科目のうち、指導教員の指示により、１つ以上を春学期・秋学期とも登録し、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、指導教員の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」をそれぞれ６単位以上履修すること。

論文は所定の手続きに従い、予備審査並びに本審査を受けなければならない。

グローバル・スタディーズ専攻：後期課程（2019年度以前生）

	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	備　考
	科目	クラス				
研究指導科目						
アメリカ研究クラスター	41810010	001	アメリカの歴史と社会①	Gavin J. CAMPBELL	春学期	
	41810020	001	アメリカの文学と文化①	（2026年度休講）		
	41810030	001	日米関係論①	秋林こずえ		
	41810040	001	アメリカの社会と文化①	南川　文里		
	41810050	001	アメリカの政治と社会①	（2026年度休講）		
	41810060	001	アメリカのジェンダーと社会①	菅野　優香		
	41810000	001	アメリカ特殊研究①	Gavin J. CAMPBELL	春学期	
		002	アメリカ特殊研究②	秋林こずえ		
		003	アメリカ特殊研究③	南川　文里		
		004	アメリカ特殊研究④	菅野　優香		
		005	アメリカ特殊研究⑤	（2026年度休講）		
		006	アメリカ特殊研究⑥	（2026年度休講）		
	41810010	011	アメリカの歴史と社会⑪	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	
	41810020	011	アメリカの文学と文化⑪	（2026年度休講）		
	41810030	011	日米関係論⑪	秋林こずえ		
	41810040	011	アメリカの社会と文化⑪	南川　文里		
	41810050	011	アメリカの政治と社会⑪	岡野　八代		
	41810060	011	アメリカのジェンダーと社会⑪	（2026年度休講）		
	41810000	011	アメリカ特殊研究⑪	Gavin J. CAMPBELL	秋学期	
		012	アメリカ特殊研究⑫	秋林こずえ		
		013	アメリカ特殊研究⑬	南川　文里		
		014	アメリカ特殊研究⑭	（2026年度休講）		
		015	アメリカ特殊研究⑮	岡野　八代		
		016	アメリカ特殊研究⑯	（2026年度休講）		
現代アジア研究クラスター	41820010	001	現代中国社会・文化論①	厳　　善平	春学期	
	41820020	001	朝鮮半島の社会・文化論①	太田　　修		
	41820030	001	東南アジアの社会・政治論①	小山田英治		
	41820040	001	アジア比較社会論①	冨山　一郎		
	41820050	001	アジア地域間関係論①	村田雄二郎		
	41820060	001	アジアの歴史と文化①	（2026年度休講）		
	41820000	001	現代アジア特殊研究①	冨山　一郎	春学期	
		002	現代アジア特殊研究②	厳　　善平		
		003	現代アジア特殊研究③	村田雄二郎		
		004	現代アジア特殊研究④	太田　　修		
		005	現代アジア特殊研究⑤	小山田英治		
		006	現代アジア特殊研究⑥	（2026年度休講）		
	41820010	011	現代中国社会・文化論⑪	厳　　善平	秋学期	
	41820020	011	朝鮮半島の社会・文化論⑪	太田　　修		
	41820030	011	東南アジアの社会・政治論⑪	小山田英治		
	41820040	011	アジア比較社会論⑪	冨山　一郎		
	41820050	011	アジア地域間関係論⑪	村田雄二郎		
	41820060	011	アジアの歴史と文化⑪	（2026年度休講）		
	41820000	011	現代アジア特殊研究⑪	冨山　一郎	秋学期	
		012	現代アジア特殊研究⑫	厳　　善平		
		013	現代アジア特殊研究⑬	村田雄二郎		
		014	現代アジア特殊研究⑭	太田　　修		
		015	現代アジア特殊研究⑮	小山田英治		
		016	現代アジア特殊研究⑯	（2026年度休講）		

	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間	備　考
	科目	クラス				
グローバル社会研究クラスター	41830010	001	人口移動と多文化社会論①	内藤　正典	春学期	
	41830020	001	開発政策論①	中西　久枝		
	41830030	001	地域安全保障論①	（2026年度休講）		
	41830040	001	グローバル社会とジェンダー①	西川由紀子		
	41830050	001	市民社会と人道主義①	（2026年度休講）		
	41830080	001	グローバル化とレイシズム①	菊池　恵介		
	41830090	001	比較地域開発論①	（2026年度休講）		
	41830000	001	グローバル社会特殊研究①	松村圭一郎	春学期	
		002	グローバル社会特殊研究②	内藤　正典		
		003	グローバル社会特殊研究③	中西　久枝		
		004	グローバル社会特殊研究④	Laura-Anca PAREPA		
		005	グローバル社会特殊研究⑤	西川由紀子		
		006	グローバル社会特殊研究⑥	（2026年度休講）		
		007	グローバル社会特殊研究⑦	（2026年度休講）		
	41830010	011	人口移動と多文化社会論⑪	内藤　正典	秋学期	
	41830020	011	開発政策論⑪	中西　久枝		
	41830030	011	地域安全保障論⑪	（2026年度休講）		
	41830040	011	グローバル社会とジェンダー⑪	西川由紀子		
	41830050	011	市民社会と人道主義⑪	（2026年度休講）		
	41830080	011	グローバル化とレイシズム⑪	菊池　恵介		
	41830090	011	比較地域開発論⑪	（2026年度休講）		
	41830000	011	グローバル社会特殊研究⑪	松村圭一郎	秋学期	
		012	グローバル社会特殊研究⑫	内藤　正典		
		013	グローバル社会特殊研究⑬	中西　久枝		
		014	グローバル社会特殊研究⑭	Laura-Anca PAREPA		
		015	グローバル社会特殊研究⑮	西川由紀子		
		016	グローバル社会特殊研究⑯	菊池　恵介		
		017	グローバル社会特殊研究⑰	（2026年度休講）		
論文						
	41801600		論　文			

履修方法（2019年度以前生）

指導教員の指示により、いずれかのクラスターの研究指導科目を履修すること。

大学院研究科専攻別授業科目
および履修方法
一貫制博士課程

脳科学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

発達加齢脳専攻

◆人材養成に関する目的

脳科学研究科発達加齢脳専攻は、脳機能の本質を科学的に解明することを通じて、世界に通用する実力と広い視野を身に付け、世界の脳科学研究の第一線で活躍できる研究者、我が国がめざす「科学技術立国」を支える基礎研究者、脳科学の研究成果に基づき商品開発や研究戦略を立案できる開発研究者など、研究成果を国際社会に還元し、生命科学、基礎医学分野の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

（知識・技能）

・自然科学の基礎および脳科学の基本事項と最新知見を学び、それらを活かした最先端の研究活動を遂行するために必要な実験機器を操作することができる。

・実験から得られたデータを的確に解析し表現する方法を身につけ、適正なかたちで結果をまとめ報告する研究論文を執筆することができる。

（思考力・判断力・表現力）

・過去の研究から重要な情報を選別し、自己の実験結果を統合して適切な結論を引き出し、その結論の妥当性を考察することができる。

・自己の実験結果に関する深い思索を通じ、次の研究に向けたテスト可能な仮説を提唱することができる。

・研究内容や成果を正確に、またわかりやすく伝えるための表現力を身に付けることができる。

（主体性・多様性・協働性）

・積極性と柔軟性を身につけ、国際交流を通じて、異なる文化や価値観を理解しながら共同研究を行うことができる。

・様々な研究者との交流を通じて、失敗や逆境にめげない強靭かつ楽天的な精神を身につけ、自己の研究スタイルを冷静に客観視することができる。

◆カリキュラム・ポリシー

（編成・運営方針）

・次世代の脳科学の中心的な研究者としての使命感を学生に強く自覚させ、その自覚に相応しい自然科学の基礎知識と脳科学の基本事項、および最先端の実験技術を習得させることを教育課程編成の基本方針とする。

・この方針に基づき、１年次では、科学全般に対する広い視点を持ちつつ、脳科学についての基礎知識を身につけることができるように必修科目を設定する。

・また同じく１年次では、学部時代の学習内容に応じて自然科学の基礎を学ぶことができる選択科目を設置し、２年次以降は、テーマ別に深い専門的知識を学習できる多様な選択科目を設定する。

・将来、世界的なレベルで独自の研究を推進することができるように、１年次～５年次をとおして、多数の研究指導科目を体系的に配置する。

（知識・技能）

・必修科目では、脳科学に関する基本事項と最先端の研究例を学びながら、研究の適正な実施と発表に関わる安全と倫理についても履修する。また実験実習をとおして、実験機器の操作法およびデータの解析と表現の基本的方法を習得する。

・選択科目では、学部時代に自然科学の学習が不十分であった学生が、生物学を中心とした自然科学の基礎を学ぶことで、脳科学の基礎と研究例についても十分理解できるようになる。

・研究指導科目では、実際の研究現場において最先端の研究に参加する。それにより脳科学の最新の研究方法と、そこから生じる成果について理解することになり、研究に対する主体的かつ能動的な態度の形成が

促される。
（思考力・判断力・表現力）
・選択科目では、脳科学の中心的なテーマ別に最先端の研究方法と成果について学び、そこから自己の研究にとって重要な情報を引き出し、実際の研究に活かす方略を考案する力を養成する。
・研究指導科目では、特に１～３年次の脳科学研究基礎実験において、最先端の研究に参加すると同時に自らの研究についても計画して実施し、自己の実験結果に関する考察力と、次に向けた仮説の構成力を養う。
（主体性・多様性・協働性）
・研究指導科目では、特に３～５年次の脳科学研究特殊実験において、実際に国際的な共同研究に加わり海外の研究者と交流することで、将来の共同研究を可能とする積極性と柔軟性を養い、同時に研究者としての自己に対する冷静な観察力と、研究に必要な強靭で楽天的な精神を身につける。また、自らの研究成果を論文にまとめ公表する力も養成する。

脳 科 学 研 究 科

発達加齢脳専攻（2017～2026年度生）

登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備　考
科目	クラス								
講義科目									
必修科目（17単位）									
52101001	001	脳科学実験Ⅰ①	4	坂場　武史	春	集中	1～	不可	
	002	脳科学実験Ⅰ②	4	髙森　茂雄	春	集中	1～	不可	
	003	脳科学実験Ⅰ③	4	元山　　純	春	集中	1～	不可	
	008	脳科学実験Ⅰ⑧	4	御園生裕明	春	集中	1～	不可	
	011	脳科学実験Ⅰ⑪	4	髙橋　　晋	春	集中	1～	不可	
	012	脳科学実験Ⅰ⑫	4	正水　芳人	春	集中	1～	不可	
	013	脳科学実験Ⅰ⑬	4	金子奈穂子	春	集中	1～	不可	
	014	脳科学実験Ⅰ⑭	4	松井　鉄平	春	集中	1～	不可	
52101002	001	脳科学実験２①	4	坂場　武史	春	集中	1～	不可	
	002	脳科学実験２②	4	髙森　茂雄	春	集中	1～	不可	
	003	脳科学実験２③	4	元山　　純	春	集中	1～	不可	
	008	脳科学実験２⑧	4	御園生裕明	春	集中	1～	不可	
	011	脳科学実験２⑪	4	髙橋　　晋	春	集中	1～	不可	
	012	脳科学実験２⑫	4	正水　芳人	春	集中	1～	不可	
	013	脳科学実験２⑬	4	金子奈穂子	春	集中	1～	不可	
	014	脳科学実験２⑭	4	松井　鉄平	春	集中	1～	不可	
52101003	－	研究安全と倫理	2	髙橋　　晋 正水　芳人 松井　鉄平 金子奈穂子	春	2	1～	不可	
52101004	－	脳構造形態学実習	1	元山　　純 正水　芳人 金子奈穂子	秋	2	1～	不可	
52101011	－	科学コミュニケーション	2	金子奈穂子 坂場　武史 髙森　茂雄 元山　　純 髙橋　　晋 正水　芳人 松井　鉄平	秋	2	1～	不可	
52101012	－	脳科学研究戦略	2	髙橋　　晋 坂場　武史 髙森　茂雄 元山　　純 正水　芳人 松井　鉄平 金子奈穂子	春	2	1～	不可	
52101021	－	神経科学入門	2	髙森　茂雄 坂場　武史 髙橋　　晋 松井　鉄平	秋	2	1～	不可	
選択科目（５単位以上）									
52101101	－	細胞生物学	2	髙森　茂雄	春	2	1～	不可	
52101102	－	分子生物・遺伝学	2	元山　　純	春	2	1～	不可	
52101131	－	病態脳科学入門	2	正水　芳人 金子奈穂子	秋	2	1～	不可	
52101141	－	赤ちゃんを科学する	2	元山　　純 嶋田　容子	秋	2	1～	不可	

登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備　考
科目	クラス								
52101211	－	神経生物物理学	2	坂場　武史 髙橋　　晋 松井　鉄平	秋	2	2～	不可	
52101212	－	神経情報計算論・統計	2	坂場　武史 髙橋　　晋 松井　鉄平 御園生裕明	春	2	2～	不可	
52101221	－	行動認知神経科学	2	髙橋　　晋 松井　鉄平 畑　　敏道	秋	2	2～	不可	
52101222	－	記憶・学習	2	髙橋　　晋 松井　鉄平 小林　耕太	春	2	2～	不可	
52101231	－	神経疾患と創薬	2	金子奈穂子 正水　芳人 舟本　　聡	春	2	2～	不可	
52101311	－	神経シグナリング	2	髙森　茂雄 坂場　武史	春	2	3～	不可	
52101321	－	神経発生と生後発達	2	元山　　純 正水　芳人 金子奈穂子 内山伊知郎	秋	2	3～	不可	
52101331	－	ストレス・老化神経科学	2	（本年度休講）			3～	不可	
研究指導科目〔必修〕（18単位）									
52102001	001	脳科学研究基礎実験Ⅰ①	2	坂場　武史	秋	集中	1～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究基礎実験Ⅰ②	2	髙森　茂雄	秋	集中	1～	不可	
	003	脳科学研究基礎実験Ⅰ③	2	元山　　純	秋	集中	1～	不可	
	011	脳科学研究基礎実験Ⅰ⑪	2	髙橋　　晋	秋	集中	1～	不可	
	012	脳科学研究基礎実験Ⅰ⑫	2	正水　芳人	秋	集中	1～	不可	
	013	脳科学研究基礎実験Ⅰ⑬	2	金子奈穂子	秋	集中	1～	不可	
	014	脳科学研究基礎実験Ⅰ⑭	2	松井　鉄平	秋	集中	1～	不可	
52102002	001	脳科学研究基礎実験Ⅱ①	2	坂場　武史	春	集中	2～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究基礎実験Ⅱ②	2	髙森　茂雄	春	集中	2～	不可	
	003	脳科学研究基礎実験Ⅱ③	2	元山　　純	春	集中	2～	不可	
	011	脳科学研究基礎実験Ⅱ⑪	2	髙橋　　晋	春	集中	2～	不可	
	012	脳科学研究基礎実験Ⅱ⑫	2	正水　芳人	春	集中	2～	不可	
	013	脳科学研究基礎実験Ⅱ⑬	2	金子奈穂子	春	集中	2～	不可	
	014	脳科学研究基礎実験Ⅱ⑭	2	松井　鉄平	春	集中	2～	不可	
52102003	001	脳科学研究基礎実験Ⅲ①	2	坂場　武史	秋	集中	2～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究基礎実験Ⅲ②	2	髙森　茂雄	秋	集中	2～	不可	
	003	脳科学研究基礎実験Ⅲ③	2	元山　　純	秋	集中	2～	不可	
	011	脳科学研究基礎実験Ⅲ⑪	2	髙橋　　晋	秋	集中	2～	不可	
	012	脳科学研究基礎実験Ⅲ⑫	2	正水　芳人	秋	集中	2～	不可	
	013	脳科学研究基礎実験Ⅲ⑬	2	金子奈穂子	秋	集中	2～	不可	
	014	脳科学研究基礎実験Ⅲ⑭	2	松井　鉄平	秋	集中	2～	不可	
52102004	001	脳科学研究基礎実験Ⅳ①	2	坂場　武史	春	集中	3～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究基礎実験Ⅳ②	2	髙森　茂雄	春	集中	3～	不可	
	003	脳科学研究基礎実験Ⅳ③	2	元山　　純	春	集中	3～	不可	
	011	脳科学研究基礎実験Ⅳ⑪	2	髙橋　　晋	春	集中	3～	不可	
	012	脳科学研究基礎実験Ⅳ⑫	2	正水　芳人	春	集中	3～	不可	
	013	脳科学研究基礎実験Ⅳ⑬	2	金子奈穂子	春	集中	3～	不可	
	014	脳科学研究基礎実験Ⅳ⑭	2	松井　鉄平	春	集中	3～	不可	

登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	配当年次	聴講区分	備　考
科目	クラス								
52102011	001	脳科学研究特殊実験Ⅰ①	2	坂場　武史	秋	集中	3～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究特殊実験Ⅰ②	2	髙森　茂雄	秋	集中	3～	不可	
	003	脳科学研究特殊実験Ⅰ③	2	元山　　純	秋	集中	3～	不可	
	011	脳科学研究特殊実験Ⅰ⑪	2	髙橋　　晋	秋	集中	3～	不可	
	012	脳科学研究特殊実験Ⅰ⑫	2	正水　芳人	秋	集中	3～	不可	
	013	脳科学研究特殊実験Ⅰ⑬	2	金子奈穂子	秋	集中	3～	不可	
	014	脳科学研究特殊実験Ⅰ⑭	2	松井　鉄平	秋	集中	3～	不可	
52102012	001	脳科学研究特殊実験Ⅱ①	2	坂場　武史	春	集中	4～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究特殊実験Ⅱ②	2	髙森　茂雄	春	集中	4～	不可	
	003	脳科学研究特殊実験Ⅱ③	2	元山　　純	春	集中	4～	不可	
	011	脳科学研究特殊実験Ⅱ⑪	2	髙橋　　晋	春	集中	4～	不可	
	012	脳科学研究特殊実験Ⅱ⑫	2	正水　芳人	春	集中	4～	不可	
	013	脳科学研究特殊実験Ⅱ⑬	2	金子奈穂子	春	集中	4～	不可	
	014	脳科学研究特殊実験Ⅱ⑭	2	松井　鉄平	春	集中	4～	不可	
52102013	001	脳科学研究特殊実験Ⅲ①	2	坂場　武史	秋	集中	4～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究特殊実験Ⅲ②	2	髙森　茂雄	秋	集中	4～	不可	
	003	脳科学研究特殊実験Ⅲ③	2	元山　　純	秋	集中	4～	不可	
	011	脳科学研究特殊実験Ⅲ⑪	2	髙橋　　晋	秋	集中	4～	不可	
	012	脳科学研究特殊実験Ⅲ⑫	2	正水　芳人	秋	集中	4～	不可	
	013	脳科学研究特殊実験Ⅲ⑬	2	金子奈穂子	秋	集中	4～	不可	
	014	脳科学研究特殊実験Ⅲ⑭	2	松井　鉄平	秋	集中	4～	不可	
52102014	001	脳科学研究特殊実験Ⅳ①	2	坂場　武史	春	集中	5～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究特殊実験Ⅳ②	2	髙森　茂雄	春	集中	5～	不可	
	003	脳科学研究特殊実験Ⅳ③	2	元山　　純	春	集中	5～	不可	
	011	脳科学研究特殊実験Ⅳ⑪	2	髙橋　　晋	春	集中	5～	不可	
	012	脳科学研究特殊実験Ⅳ⑫	2	正水　芳人	春	集中	5～	不可	
	013	脳科学研究特殊実験Ⅳ⑬	2	金子奈穂子	春	集中	5～	不可	
	014	脳科学研究特殊実験Ⅳ⑭	2	松井　鉄平	春	集中	5～	不可	
52102015	001	脳科学研究特殊実験Ⅴ①	2	坂場　武史	秋	集中	5～	不可	成績評価は「合」「否」で行われる。
	002	脳科学研究特殊実験Ⅴ②	2	髙森　茂雄	秋	集中	5～	不可	
	003	脳科学研究特殊実験Ⅴ③	2	元山　　純	秋	集中	5～	不可	
	011	脳科学研究特殊実験Ⅴ⑪	2	髙橋　　晋	秋	集中	5～	不可	
	012	脳科学研究特殊実験Ⅴ⑫	2	正水　芳人	秋	集中	5～	不可	
	013	脳科学研究特殊実験Ⅴ⑬	2	金子奈穂子	秋	集中	5～	不可	
	014	脳科学研究特殊実験Ⅴ⑭	2	松井　鉄平	秋	集中	5～	不可	
論　文〔必修〕									
52103001	－	論文				集中	5	不可	2025年度博士学位論文提出予定者は必ず登録すること。

履修方法

1　研究指導科目の「脳科学研究基礎実験Ⅰ～Ⅳ」８単位、「脳科学研究特殊実験Ⅰ～Ⅴ」10単位を含め、合計40単位以上を履修すること。

2　同志社大学大学院学則第７条第１項ただし書きに定める在学期間が５年未満で修了する場合、研究指導科目の「脳科学研究特殊実験Ⅱ～Ⅴ」の履修については、上記によらず、博士論文審査を含めて総合的に判断する。

大学院研究科専攻別授業科目
および履修方法

専門職学位課程

同志社大学専門職大学院学則

（2026年4月1日改正）

第1章　総　　則

第1条　本学専門職大学院は、学問の自由とキリスト教的精神とを尊重して、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

第2条　本学専門職大学院は、教育研究水準の向上を図り、本学専門職大学院の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2　点検及び評価に関する規程は、別に定める。

3　本学専門職大学院は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

4　本学は、第1項及び前項に規定する点検及び評価の結果並びに認証評価の結果を公表するとともに、教育研究活動等について不断の見直しを行う。

第3条　本学専門職大学院の課程は、専門職学位課程とする。

第2章　研究科の組織及び修業年限

第4条　本学専門職大学院の各研究科に次の専攻を置く。

司法研究科	法務専攻
ビジネス研究科	ビジネス専攻

第5条　司法研究科に関する事項は、法科大学院学則として別にこれを定める。

第6条　本学専門職大学院においては、夜間その他特定の時間において授業等を行うことができる。

第7条　専門職学位課程の標準修業年限は、2年とする。

2　前項の規定にかかわらず、主として実務の経験を有する者に対しては当該研究科の定めるところにより、1年以上2年未満の期間とすることができる。

3　前2項の規定にかかわらず、職業を有しているなどの事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に本学専門職大学院の教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出た者に対しては、当該研究科の定めるところにより、その履修を4年まで認めることができる。

4　第25条の規定により転入学を許可された転入学生の修業年限は、前3項に基づき当該研究科教授会の審議を経て決定する。

第8条　本課程に4年を超えて在学することを認めない。

2　第25条の規定により転入学を許可された転入学生の在学年限は、前項に基づき当該研究科教授会の審議を経て決定する。

第3章　授業科目、履修方法及び教育方法の特例

第9条　本学専門職大学院の教育課程は、各研究科が学校教育法施行規則第165条の2第1項第1号及び第2号により定める方針に基づき編成し、授業科目、履修方法等は、別表Ⅱにおいてこれを定める。授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

（1）　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学専門職大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

（2）　実験及び実習については、30時間から45時間までの範囲で本学専門職大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

（3）　第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学専門職大学院が定める。

2　本学専門職大学院は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　本学専門職大学院は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第10条　本学専門職大学院は、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

第11条　本学専門職大学院学生は、別に定める他の大学大学院において当該大学大学院の授業科目を履修することができる。

2　前項の規定により履修した授業科目について単位を修得した者には、各研究科において教育上有益と認めるときは、各研究科が修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲で課程修了の所定単位としてこれを認定することができる。

第12条　第29条により留学した大学の大学院において単位を修得した者、外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し単位を修得した者、外国の大学院の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し単位を修得した者及び専門職大学院設置基準第13条第2項に定める「国際連合大学」の教育課程における授業科目を履修し単位を修得した者には、各研究科において教育上有益と認めるときは、前条により認定した単位と合わせて各研究科が修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲で課程修了の所定単位として認定することができる。

第13条　本学専門職大学院は、各研究科において教育上有益と認めるときは、大学院学生が入学前に大学大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学専門職大学院において修得したものとして認定することができる。

2　前項の単位は、転入学の場合を除き、第11条、第12条の規定により本学専門職大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて各研究科が修了要件として定める単位数の2分の1を超えないものとする。

第14条　本章に定めるもののほか、授業科目の種類、単位数、履修方法の細目等については、各研究科の定めるところによる。

第14条の2　本学専門職大学院は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2　本学専門職大学院は、学修の成果に係る評価及び修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対し

てその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第４章　課程修了の認定

第 15 条　修士（専門職）の学位を得ようとする者は、本課程に第７条に定めた年限以上在学し、各研究科が修了要件として定める次の要件を満たさなければならない。

ビジネス研究科　ビジネス専攻　授業科目について 46 単位以上修得し、ソリューションレポートの審査に合格すること。

第 16 条　課程修了の認定は、研究科長会の審議を経て、学長が決定する。

２　研究科長会に関する内規は、別に定める。

第５章　学位の授与

第 17 条　本学専門職大学院において、各研究科の課程修了の認定を得た者には、次の学位を授与する。

ビジネス研究科　ビジネス修士（専門職）

２　前項に規定する学位には、「ビジネス修士（専門職）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第６章　学年、学期及び休業日

第 18 条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終る。

第 19 条　学年を次の２学期に分ける。

春学期　４月１日から９月 20 日まで

秋学期　９月 21 日から翌年３月 31 日まで

第 20 条　休業日は、次のとおりとする。

（1）　日曜日

（2）「国民の祝日に関する法律」に定める休日

（3）　創立記念日　11 月 29 日

（4）　キリスト降誕日　12 月 25 日

（5）　夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。

２　前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第７章　入学、転入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

第 21 条　入学の時期は、学年の始めとする。ただし、研究科が必要とするときは、入学の時期を学期の始めとすることができる。

第 22 条　本課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

（1）　大学を卒業した者

（2）　大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学専門職大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと本学専門職大学院が認めたもの

（3）　大学院への入学に関し、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第 155 条第１項に規定された者

第 23 条　外国人の入学志願者のうち、その入学資格の判明しがたいときには、当該外国公館の証明を必要とする。

第 24 条　入学志願者には各研究科が学校教育法施行規則第 165 条の２第１項第３号により定める方針に基づき、入学審査を行い、入学者を決定する。

２　前項の審査方法、時期等については、その都度定める。

第 25 条　他の大学大学院学生又は本学大学院を修了した者で、転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り前条に準ずる審査を経たうえで、転入学を許可することがある。

第 26 条　入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Ｉの８に定める入学検定料を納入しなければならない。

２　災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

３　前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第 27 条　入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

２　本学の複数の研究科・専攻・クラスター（以下「研究科等」という。）の入学許可を得て、一方の研究科等の学費を納入した者が、もう一方の研究科等への入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の研究科等の学費に振替を認めることがある。

３　前項の振替の詳細は、別に定める。

第 28 条　学生が疾病その他やむを得ない事由により休学しようとするときは、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。

２　休学期間は、１年又は半年とする。

３　休学の期間は、通算して２年を超えることができない。ただし、母国における兵役義務による休学は、この期間に算入しない。

４　休学期間は、第７条に定める修業年限及び第８条に定める在学年限には算入しない。

第 29 条　学生は、在学中各研究科教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学の大学院に留学することができる。

２　留学の期間は、第７条に定める修業年限及び第８条に定める在学年限に算入できる。

３　留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第 30 条　学生が、疾病その他やむを得ない事由により退学しようとするときは、その旨願い出なければならない。

第 31 条　学長は、学力劣等で成業の見込みがないと認める者、また出席常でない者を、当該研究科教授会の審議を経て、論旨退学させることがある。

第 32 条　学長は、品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該研究科教授会において懲戒の対象となりうると認められたときは、けん責、停学又は退学に処すことができる。

２　前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第 33 条　次の各号のいずれかに該当する者は、該当学期末に除籍する。

（1）　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

（2）　在学期間が第８条に規定する在学年限を超える者

第 34 条　退学者及び前条第１項第１号により除籍された者が、再入学を願い出た場合は、それを許可することがある。

なお、除籍された者が再入学を願い出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第 35 条　再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第８章　科目等履修生、聴講生、研修生、委託生、外国人留学生及び外国人研究生

第 36 条　各研究科に設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、科目等履修生とすることができる。

２　科目等履修生のうち、他の大学大学院学生で、協定に基づき本学専門職大学院の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

３　科目等履修生が履修した授業科目について試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価を受け合格したときは、所定の単位を与える。

４　前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第 37 条　各研究科に設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、聴講生とすることができる。

２　聴講生に関する内規は、別に定める。

第 38 条　本学専門職大学院の専門職学位を得た者で、高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力をさらに養うため研修を希望するものがあるときは、当該研究科において、研修生としてこれを許可することがある。

２　研修生に関する内規は、別に定める。

第 39 条　他の大学大学院学生にして、その大学院の委託により、本学専門職大学院研究科における授業科目中１科目又は数科目の選修を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、当該研究科教授会の審議を経て、修学を許可することがある。

２　委託生が選修科目の試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価に合格したときは、その科目の修了証明書を授与する。

第 40 条　外国人留学生、外国人研究生に関する内規は、別にこれを定める。

第９章　学　　費

第 41 条　在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

２　外国人留学生（特別学生）研修料の納入時期も前項に準ずる。

３　履修料及び聴講料は、所定の期日内に納入しなければならない。

４　委託生修学料、大学院研修生研修料及び外国人研究生研究指導料は、所定の期日までに納入しなければならない。

第 42 条　学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、委託生修学料、研修料及び研究指導料を含む。）、教育充実費、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの６にこれを定める。

２　協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本学から１学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

３　休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

４　第 36 条第２項に定める、協定に基づき本学専門職大学院の授業科目を履修するため、他の大学院から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

５　いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

６　退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

７　第 32 条に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第 43 条　やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費を延納することができる。

２　前項の学費の延納の詳細は、別に定める。

第 43 条の２　災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

２　前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第 10 章　教育研究実施組織及び運営組織

第 44 条　本学専門職大学院における授業は、一定数の本学教員がこれを担当する。

第 45 条 各研究科に共通する重要事項は、部長会で審議する。

２　部長会に関する規程は、別に定める。

第 46 条　各研究科に研究科教授会を置く。

２　研究科教授会は、当該研究科に関する次の事項を審議する。

（1）学生の入学、退学、休学、修了等に関する事項及び学位の授与に関する事項関する事項

（2）教育課程に関する事項

（3）教員の人事に関する事項

（4）学則、研究科諸規程に関する事項

（5）その他研究科長がつかさどる教育研究に関する事項

３　研究科教授会は、学長から諮問された事項について審議する。

４　研究科教授会は、学生の入学、修了、学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で研究科教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

５　研究科教授会の組織及び運営に関する事項は、各研究科教授会において定める。

第 46 条の２　各研究科に教育課程連携協議会を置く。

２　教育課程連携協議会に関し必要な事項は、各研究科において別に定める。

第 47 条　専門職大学院の学務は、学長が総括し、各研究科の学務は、当該研究科長がこれを管掌する。その他、専門職大学院の事務を遂行するため、職員を置く。

第 47 条の２　本学専門職大学院は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第 11 章　学生の入学定員及び収容定員

第 48 条　各研究科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
ビジネス研究科　ビジネス専攻	30 名	60 名

第 12 章　研究指導施設及び厚生保健施設

第 49 条　図書館を設け、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報等を系統的に整備し、教育研究を促進する。

第 50 条　学生の研究のため各研究科に読書研究室を設ける。

第 51 条　教職員及び学生の保健医療には、学生支援機構保健センターを利用する。

附　則

この学則は、2004 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、2005 年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、2006 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2006 年度第１年次入学生から適用し、2005 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

附　則

１　この学則は、2007 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2007 年度第１年次入学生から適用し、2006 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

附　則

この学則は、2008 年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、2009 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2009 年度第１年次入学生から適用し、2008 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

３　第 42 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2009 年度入学生に適用する。2008 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

１　この学則は、2010 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科授業科目一覧表は、2010 年度第１年次入学生から適用し、2009 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。ただし、グローバル MBA コースについては、2009 年度第１年次入学生から授業科目及び履修方法を適用する。

附　則

１　この学則は、2011 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2011 年度第１年次入学生から適用し、2010 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

１　この学則は、2012 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2012 年度第１年次入学生から適用し、2011 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

３　第 42 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費は、入学年度にかかわらず、2012 年度の学費から適用する。

附　則

１　この学則は、2014 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2014 年度第１年次入学生から適用し、2013 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

１　この学則は、2015 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2015 年度第１年次入学生から適用し、2014 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

１　この学則は、2017 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2017 年度第１年次入学生から適用し、2016 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

３　第 42 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2017 年度入学生に適用する。2016 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

１　この学則は、2018 年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2018 年度第１年次入学生から適用し、2017 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

１　この学則は、2019 年４月１日から施行する。

２　第 42 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020 年４月１日以降に再入学する学生に適用する。

３　第 42 条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019 年４月１日以降に派遣を決定する学生に適用

する。

附　則

この学則は、2020年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、2021年４月から施行する。

附　則

１　この学則は、2022年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2022年度第１年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

１　この学則は、2023年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2023年度第１年次入学生から適用し、2022年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

３　第42条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2023年度入学生に適用する。2022年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

１　この学則は、2024年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2024年度第１年次入学生から適用し、2023年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

３　第42条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2024年度入学生に適用する。2023年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

１　この学則は、2025年４月１日から施行する。

２　第９条の別表Ⅱの研究科人材養成目的及び授業科目一覧表は、2025年度第１年次入学生から適用し、2024年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

３　第42条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2025年度入学生に適用する。2024年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

この学則は、2026年４月から施行する。

別表Ⅰ　学　　費

入学金、授業料及び教育充実費

ビジネス研究科

（年額）

	入学金	授業料	教育充実費
第１年次	200,000円	1,062,000円	227,000円
第２年次		1,262,000円	227,000円
所定単位修得者		631,000円	113,500円

（1）授業料及び教育充実費については、各々２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。

（2）学内進学者の入学金については、２分の１とする。

（3）２年を超えて在籍した場合の学費は、第２年次の学費を適用する。

（4）専門職学位課程において、２年以上在学し、所定の単位を習得した者は、次の学期から所定単位修得者欄に記載の学費を適用する。ただし、学部又は大学院の授業科目の履修を希望する者及び第７条第３項の規定により長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）については、適用しない。

（5）転入学生の入学金は、200,000円とし、授業料及び教育充実費は、転入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生及び本学大学院修了生に限り、入学金は２分の１とする。

（6）再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度４月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

（7）MOTコース生が理工学研究科を修了し、ビジネス研究科MOTコースに転入学した場合は、（5）にかかわらず授業料は1,162,000円、教育充実費は113,500円とし、入学金の全額を免除する。

なお、ビジネス研究科に１年を超えて在籍した場合の学費は、ビジネス研究科の第２年次学費を適用する。

（8）長期履修学生の学費については、以下のとおり取り扱う。

ア　授業料は、標準修業年限までの合計額を履修年数で除した額とする。ただし、合計額には長期履修学生となる以前の額は含まない。また、千円未満の端数が発生する場合は、千円単位に切り上げ、この学費を適用する最初の年次で調整する。

イ　教育充実費は、標準修業年限を超えた学期以降、標準修業年限における最終年次の教育充実費の２分の１とする。

ウ　アの規定にかかわらず、履修期間の短縮が認められた場合の授業料は、標準修業年限までの合計額から既納入額を控除した額とする。

エ　ア及びイの規定にかかわらず、認められた履修期間を超えて在籍する場合の学費は、標準修業年限における最終年次の学費を適用する。

オ　アの規定にかかわらず、長期履修学生だった者が再入学する場合の授業料は、再入学前を含む履修期間が再入学を許可された年次に在籍する同一履修期間の長期履修学生と同額とする。

特別在籍料

ダブルディグリープログラムによる留学期間	特別在籍料
1年	300,000円
1学期	150,000円

休学在籍料

休学期間	休学在籍料
1年	120,000円
半年	60,000円

・母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表Ⅰの2　履修料

ビジネス研究科

履修登録料	50,000円
履　修　料（1単位につき）	61,000円

（1）研究科において、履修科の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
（2）本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2分の1とする。
（3）学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
（4）複数の研究科に併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの3　聴講料

ビジネス研究科

聴講登録料	50,000円
聴　講　料（1単位につき）	41,000円

（1）聴講科の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
（2）本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2分の1とする。
（3）学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
（4）複数の研究科に併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの4　委託生修学料

ビジネス研究科

（年額）

修学料	581,000円

修学期間が春学期又は秋学期に限る場合は、修学料を2分の1とする。

別表Ⅰの5　外国人留学生（特別学生）入学金及び研修料

ビジネス研究科

入学金	50,000円
研修料	1,220,000円
研修料（年度内の在学期間が7月以内の場合）	610,000円

（1）研修料については、2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
（2）特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
（3）期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第4条第2項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
（4）秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
（5）特別学生が、年度内に20単位（年度内の在学期間が7月以内の場合は10単位）を超えて学科目登録をする場合は、超過する分1単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録するときは学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録するときは大学院学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録するときは専門職大学院学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、国際教養教育院科目を登録するときは学則別表Ⅰの2に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
（6）研修料の総額が当該年度の第1年次の授業料を超える場合は、その額にとどめる。
（7）外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しないときがある。

別表Ⅰの6　外国人研究生　研究指導料

ビジネス研究科

（月額）

研究指導料	29,000円

別表Ⅰの7　大学院研修生

ビジネス研究科

研修料	
1年	半年
343,000円	171,500円

別表Ｉの８　入学検定料

区　　分		金　　額
一般入学試験	第１次選考	10,000 円
	第２次選考	25,000 円
その他特別試験		35,000 円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験	書類選考および研究科独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
司法研究科一般入学試験		25,000 円

同志社大学法科大学院学則

（2026年４月１日改正）

第１章　総　　則

（本学則の目的）

第１条　本学則は、同志社大学専門職大学院学則第５条に基づき、司法研究科（以下「本研究科」という。）の組織及び運営について、必要な基準を定めることを目的とする。

２　本研究科の組織及び運営について、本学則で定めのないものについては、同志社大学専門職大学院学則の定めによる。

（研究科の目的）

第２条　本研究科は、法曹としての深い学識及び卓越した能力を専ら養うことを目的とする。

第２章　研究科の組織及び修業年限

（課程）

第３条　本研究科に専門職学位課程として法務専攻を置く。

（修業年限）

第４条　本研究科の標準修業年限は、３年とする。

２　前項の規定にかかわらず、同志社大学専門職大学院学則第25条の規定により転入学を許可された転入学生の修業年限は、研究科教授会の審議を経て決定する。

（在学年限）

第５条　本研究科に５年を超えて在学することを認めない。

２　前項の規定にかかわらず、同志社大学専門職大学院学則第25条の規定により転入学を許可された転入学生の在学年限は、研究科教授会の審議を経て決定する。

第３章　授業科目、履修方法及び教育方法の特例

（授業科目、履修方法等）

第６条　本研究科の教育課程は、学校教育法施行規則第165条の２第１項第１号及び第２号により定める方針に基づき編成し、授業科目、履修方法等は、別表Ⅱにおいてこれを定める。

２　定められた修得単位又は成績の基準を満たさないため進級することができない者については、別に定めるところにより、既に履修した科目の単位及び成績を無効とする。この場合には、無効とされた科目を再度登録履修しなければならない。

（他の大学院等における授業科目の履修）

第７条　本研究科学生は、別に定める他の法科大学院又は他研究科において、授業科目を履修することができる。

２　前項の規定により履修した授業科目について単位を修得した者には、本研究科が教育上有益と認めるときは、30単位を超えない範囲で課程修了の所定単位としてこれを認定する。

（外国の大学院における授業科目の履修）

第８条　第15条により留学した大学の大学院において単位を修得した者、外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し単位を修得した者、外国の大学院の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し単位を修得した者及び専門職大学院設置基準第13条第２項に定める「国際連合大学」の教育課程における授業科目を履習し単位を修得した者には、本研究科が教育上有益と認めるときは、30単位を超えない範囲で課程修了の所定単位としてこれを認定する。

（入学前の既修単位の認定）

第９条　本研究科学生が入学前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本研究科が教育上有益と認めるときは、転入学の場合を除き、30単位を超えない範囲で本研究科において修得したものとして認定する。

（他の大学院等における履修単位及び入学前の既修単位の認定の上限）

第10条　本研究科の課程修了の要件として修得すべき単位数のうち、第７条から第９条に規定する単位の認定は、転入学の場合を除き、合計で33単位を超えないものとする。

第４章　課程修了の認定及び学位の授与

（課程修了の認定）

第11条　本研究科の修了要件は、本研究科に第４条に定めた年限以上在学し、授業科目について96単位以上修得することとする。

（学位の授与）

第12条　本研究科において、課程修了の認定を得た者には、法務博士（専門職）の学位を授与する。

２　前項に規定する学位には、「法務博士（専門職）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第５章　法学既修者

（法学既修者）

第13条　本研究科が必要とする法学の基礎的な学識を有すると認める者（以下「法学既修者」という。）に関しては、第11条に規定する在学期間については１年在学したものとみなし、同条に規定する単位については、第６条の別表Ⅱに定める30単位を超えない範囲で本研究科が認定した科目の単位を修得したものとみなす。

２　第11条に規定する研究科の課程修了の要件として修得すべき単位数のうち、第７条から第９条に規定する単位の認定について、法学既修者は、前項の単位と合わせて33単位を超えないものとする。

３　前２項の規定にかかわらず、認定連携法曹基礎課程を修了し

て本研究科に入学する法学既修者及びそれと同等の学識を有すると本研究科が認める者は、第11条に規定する単位については、第６条の別表Ⅱに定める49単位を超えない範囲で本研究科が認定した科目の単位を修得したものとみなす。

4　第11条に規定する研究科の課程修了の要件として修得すべき単位数のうち、第７条から第９条に規定する単位の認定について、認定連携法曹基礎課程を修了して本研究科に入学する法学既修者及びそれと同等の学識を有すると本研究科が認める者は、前項の単位と合わせて49単位を超えないものとする。

第６章　休学及び留学

（休学）

第14条　学生が疾病その他やむを得ない事由により休学しようとするときは、春学期又は秋学期授業開始日までに研究科長に願い出て、学長の許可を得なければならない。

２　休学期間は、１年又は半年とする。

３　休学の期間は、通算して３年を超えることができない。ただし、母国における兵役義務による休学は、この期間に算入しない。

４　休学期間は、第４条に定める修業年限及び第５条に定める在学年限には算入しない。

（留学）

第15条　本研究科学生は、在学中、研究科教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学の大学院に留学することができる。

２　留学の期間は、第４条に定める修業年限及び第５条に定める在学年限に算入できる。

３　留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第７章　学　費

（学費）

第16条　学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、委託生修学料、研修料及び研究指導科を含む。）、教育充実費、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの６にこれを定める。

第８章　入学定員及び収容定員

（入学定員及び収容定員）

第17条　本研究科法務専攻の入学定員は70名、収容定員210名とする。

附　則

この学則は、2004年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、2005年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、2007年４月１日から施行する。

２　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻授業科目一覧表は、2007年度第１年次入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

附　則

１　この学則は、2008年４月１日から施行する。

２　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻授業科目一覧表は、2008年度第１年次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

３　第11条に規定する課程の修了要件として修得すべき単位数は、2008年度以降の入学生に加え、2007年度及び2006年度入学生（2006年度に入学した法学既修者を除く。）に適用し、2006年度に入学した法学既修者及び2005年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　則

１　この学則は、2009年４月１日から施行する。

２　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻授業科目一覧表は、2009年度第１年次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

３　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2009年度入学生に適用する。2008年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

１　この学則は、2010年４月１日から施行する。

２　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻授業科目一覧表は、2010年度第１年次入学生から適用するが、2009年度及び2008年度入学生（2008年度に入学した法学既修者を除く。）については、改正前の別表Ⅱ中の必修科目のＣ群基幹科目の項中の「公法総合演習　２」、「刑事法総合演習　２」、「民事法総合演習Ⅰ　２」、「民事法総合演習Ⅱ　２」、「民事法総合演習Ⅲ　２」を削除し、選択科目のＣ群基幹科目の項中に「Ｃ群１類　総合演習」の項を挿入し、「公法総合演習　２」、「刑事法総合演習　２」、「民事法総合演習Ⅰ　２」、「民事法総合演習Ⅱ　２」、「民事法総合演習Ⅲ　２」、「民事法総合演習Ⅳ　２」、「民事法総合演習Ⅴ　２」を挿入し、選択科目のＣ群基幹科目のその余の科目を「Ｃ群２類」とし、「上記Ｃ群１類科目から６単位以上を選択履修すること。」を挿入する。また、選択科目のＨ群実務関連科目の項中に「Ｈ群１類」「Ｈ群２類」の項を挿入し、「模擬裁判　２」、「クリニック　２」、「エクスターンシップ　２」,「法律文書作成　２」をＨ群１類とし、Ｈ群２類に「法律実務演習（公法）　２」、「法律実務演習（刑事法）　２」「法律実務演習（民事法）　２」を挿入し、「上記Ｈ群科目から２単位以上を選択履修すること。」を「上記Ｈ群１類科目から２単位以上を選択履修すること。」に変更する。選択科目のＢ群１類に「法情報調査・文書作成入門　２」を、Ｃ群２類に「会社法特講　２」を、Ｄ群１類に「著作権法Ⅱ　２」、「倒産法Ⅱ　２」を、Ｅ群１類に「金融担保法　２」、「債権法改正案特講　２」、「契約法改正案特講　２」、「労災補償法　２」を、Ｆ群１類に「アジア法Ⅰ　２」、「アジア法Ⅱ　２」、「外国法特別セミナー　３」を挿入する。さらに、履修方法の第１項中の「必修科目68単位、選択科目28単

位以上」を「必修科目58単位、選択科目38単位以上」に変更し、第２項中の「必修科目38単位（Ａ群科目を除く。）、選択科目28単位以上」を「必修科目28単位（Ａ群科目を除く。）、選択科目38単位以上」に変更する。

2008年度に入学した法学既修者及び2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の授業科目一覧表による。

3　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2011年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2011年度第１年次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2012年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2012年度第１年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、入学年度にかかわらず、2012年度の学費から適用する。ただし、2011年度以前の入学生について、従前の学費の額を超えるときは、その額にとどめる。

附　則

この学則は、2013年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、2014年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2014年度第１年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2015年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2015年度第１年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2016年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2016年度第１年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2017年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2017年度第１年次入学生に加え、2016年度入学生及び2015年度入学生（2015年度に入学した法学既修者を除く。）にも適用し、2015年度に入学した法学既修者及び2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。ただし、2015年度入学生（法学既修者を除く。）については、「行政法基礎演習」、「商法基礎演習」、「知的財産法Ⅰ」、「知的財産法Ⅱ」、「著作権法Ⅰ」、「著作権法Ⅱ」は従前の扱いによる。

3　2015年度入学生（法学既修者を除く。）については、第10条にいう「39単位」は「41単位」に、第11条にいう「102単位」は「104単位」に、第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表の履修方法１にいう「68単位」は「70単位」、「102単位」は「104単位」に、それぞれ読み替える。

4　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2018年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2018年度第１年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2019年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2019年度第１年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年４月１日以降に再入学する学生に適用する。

4　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年４月１日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附　則

1　この学則は、2020年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2020年度第１年次入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2021年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2021年度第１年次入学生から適用し、2020年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2022年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2022年度第１年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

附　則

1　この学則は、2023年４月１日から施行する。

2　第６条の別表Ⅱの司法研究科法務専攻人材養成目的及び授業科目一覧表は、2023年度第１年次入学生から適用し、2022年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び授業科目一覧表による。

3　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2023年度入学生に適用する。2022年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2024年４月１日から施行する。

2　第16条の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2024年度入学生に適用する。2023年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

この学則は、2026年４月１日から施行する。

別表Ⅰ　学　　費

入学金、授業料及び教育充実費

入学金	単位授業料（1単位につき）	教育充実費
200,000円	37,000円	157,000円

（1）授業料は、単位授業料のみとする。

（2）単位授業料については、各学期における登録単位数に応じて徴収する。教育充実費については、各々２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。

（3）学内進学者の入学金については、２分の１とする。

（4）所定の修業年限を超えて在籍した場合の学費は、登録単位数に応じた単位授業料及び教育充実費とする。

（5）再入学生の入学金は、100,000円とし、学費は、登録単位数に応じた単位授業料及び教育充実費とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度４月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

（6）転入学生の入学金は、200,000円とし、単位授業料及び教育充実費は、転入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生及び本学大学院修了生に限り、入学金は２分の１とする。

特別在籍料

ダブルディグリープログラムによる留学期間	特別在籍料
１年	300,000円
１学期	150,000円

休学在籍料

休学期間	休学在籍料
１年	120,000円
半年	60,000円

・母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表Ⅰの２　履修料

履修登録料	50,000円
履　修　料（1単位につき）	42,000円

（1）本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、２分の１とする。

（2）学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

（3）複数の研究科に併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの３　聴講料

聴講登録料	50,000円
聴　講　料（1単位につき）	28,000円

（1）本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、２分の１とする。

（2）学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

（3）複数の研究科に併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの４　委託生修学料

委託生修学料については、登録単位数に応じた単位授業料の合計額相当額とする。

別表Ⅰの５　外国人研究生　研究指導料

（月額）

研究指導料	26,000円

別表Ⅰの６　大学院研修生　研修料

研修料	
１年	半年
307,500 円	153,750 円

２０２６年度

司法研究科学年暦

同志社大学

春学期　17週（102日）

2026年

4月1日（水）	春学期始め・入学式
2日（木）	新入学生履修指導期間
3日（金）	履修科目登録期間（注1）
4日（土）	
6日（月）	講義開始
4月29日（水）～5月5日（火）	休日
5月6日（水）	振替休日（授業日）
6月26日（金）	春学期学費納入最終日
7月20日（月）	海の日（授業日）
25日（土）	講義最終日
25日（土）	基礎知識確認試験（予定）
27日（月）	期末試験開始
8月8日（土）	期末試験終了
10日（月）	夏期休暇開始
9月10日（木）	春学期学位論文総合審査日
10日（木）	夏期休暇終了
11日（金）	在学生成績通知（注2）
16日（水）17日（木）	秋学期履修科目登録変更期間
20日（日）	春学期終り
26日（土）	春学期学位授与式

秋学期　18週（108日）

9月21日（月）	秋学期始め
25日（金）	講義開始
10月12日（月）	スポーツの日（授業日）
11月3日（火）	文化の日（授業日）
23日（月）	勤労感謝の日（授業日）
26日（木）27日（金）28日（土）	創立記念行事週間（休講）
29日（日）	創立記念日（休日）
12月11日（金）	秋学期学費納入最終日
25日（金）	冬期休暇開始
25日（金）	キリスト降誕日（休日）

2027年

1月6日（水）	冬期休暇終了
7日（木）	講義再開
10日（日）	共通到達度確認試験（予定）
11日（月）	成人の日（授業日）
16日（土）	基礎知識確認試験（予定）
23日（土）	創立者永眠の日
23日（土）	講義最終日
25日（月）	期末試験開始
2月11日（木）	建国記念の日（休日）
13日（土）	期末試験終了
3月4日（木）	秋学期学位論文総合審査日
9日（火）	在学生成績通知（注3）
20日（土）21日（日）22日（月）	秋学期学位授与式
31日（水）	秋学期終り

（注1）一般登録科目の履修科目登録日は、この期間内の年次毎に指定された日となる。
前年度3月の成績通知日以降､この履修科目登録期間までに先行登録期間が設定される。
（注2）成績通知日以降、履修科目登録変更期間までに、先行登録期間が設定される。
（注3）成績通知日以降、翌年度4月の履修科目登録期間までに、先行登録期間が設定される。

2026年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	●29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
●3	●4	●5	●6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	●20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	●11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	●21	●22	●23	24	25	26
27	28	29	30			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	●12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	●3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	●23	24	25	26	27	28
29	30					

2027年

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月

日	月	火	水	木	金	土
					●1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	●11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	●11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	●23	24	25	26	27
28						

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
●21	●22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●印は「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
授業時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:10～14:40	14:55～16:25	16:40～18:10
	Ⅵ	Ⅶ			
	18:25～19:55	20:10～21:40			

司法研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

法務専攻

同志社大学大学院司法研究科（法科大学院）は、豊かな人間性と感受性および人権感覚を兼ね備え、良心にもとづいて法を運用するプロフェッショナル（法曹三者等）を養成する。そして、21世紀の社会の多様な要望に応えてスペシャリストとして活躍できるよう、専門分野の高度な知見および国際的視野と判断力の涵養に努める。

◆ディプロマ・ポリシー

法曹として不可欠な基本的な法的知識に加えて、応用的・先端的な法分野等における高度な専門的知識を修得し、法曹として求められる高い責任感と倫理観とを身につけることができる。（知識・技能）

多様な法的紛争を迅速かつ的確に解決するために、深い法的知識に裏付けられた論理的思考力、判断・分析力、及び、表現力を涵養し、新たな法的課題に対して柔軟かつ創造的に対応する能力を発揮することができる。（思考力・判断力・表現力）

様々な法的問題の解決を通じ、法曹として、主体的に社会に貢献するという意識を強く持ち、国際的な紛争等にみられる多様な考え方や異なる文化の存在を尊重した、適正な解決策を提案できる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

法曹に不可欠な基本的な法的知識及び実務上の法的対応能力の修得を図るとともに、法的思考力、理解力、分析力、表現力、判断力などの養成を行う。

このような人材を育成するためのカリキュラムの科目群は、下記のような、Ａ群基礎科目・Ｉ類・２類、Ｂ群法曹基本科目・Ｉ類・２類、Ｃ群基幹科目・Ｉ類・２類、Ｄ群展開・先端科目ＩＩ類・２類、Ｅ群展開・先端科目ＩＩ類・２類、Ｆ群外国法科目Ｉ類・２類、Ｇ群基礎法・隣接科目Ｉ類・２類、Ｈ群実務関連科目Ｉ類・２類から構成されている。

修了にあたっては、合計96単位以上の履修を求める。その内訳は、（Ｉ）必修科目は、Ａ群から30単位、Ｂ群から６単位、Ｃ群から27単位の合計63単位、（２）選択科目は、Ｄ群Ｉ類から４単位以上を含むＤ群・Ｅ群から計12単位以上、Ｆ群・Ｇ群から各々２単位以上の計６単位以上、Ｈ群Ｉ類から４単位以上を含む、合計33単位以上修得しなければならない。

⊙Ａ群科目として、法律基本科目及び法学の基礎に関する科目（必修・選択科目）を置く。基幹科目としての演習科目等の履修が可能な学力を身に付けることを到達目標とする。すべての科目は研究者教員によって講義形式で行われる。（知識・技能）

⊙Ｂ群科目として、民事・刑事の裁判実務と法曹倫理等に関する科目（必修・選択科目）を置く。裁判制度や実務の進行過程、事実認定、要件事実等を理解し、実務の基礎を修得することを到達目標とする。多くの科目は実務家教員及び研究者教員が行う。（知識・技能／思考力・判断力・表現力）

⊙Ｃ群科目として、法律基本科目に関する公法、刑事法及び民事法に関する演習科目、講義科目（必修・選択科目）を置く。基本的な法的知識を前提にした法的思考力、分析力、表現力等の修得を到達目標とする。本研究科のコアとなる科目群であり、多くの科目は少人数の演習形式で行うとともに、一部の科目は研究者教員と実務家教員が合同かつ複数で行う。（知識・技能／思考力・判断力・表現力）

⊙Ｄ群科目として、法律基本科目以外の応用的先端的な法領域に関する科目の内、司法試験の選択科目に関する科目（選択科目）を置く。必修の基幹科目等で養った学力を更に発展させ、先端的な法領域に関する高度の専門的知識等を、また、実務での即戦力につながる先端知識等を修得することを到達目標とする。（知識・技能／思考力・判断力・表現力）

⊙Ｅ群科目として、Ｄ群科目以外の主要な先端法領域に関する科目（選択科目）を置く。先端的な法領域に関する高度の専門的知識等を、また、実務での即戦力につながる先端知識等を修得することを到達目標とする。（知識・技能／思考力・判断力・表現力）

⦿Ｆ群科目として、アメリカ法、ＥＵ法、アジア法などの諸外国の法制度や法解釈に関する科目（選択科目）を置く。国際的な法的紛争に的確に対応できるような外国法の知識を修得するとともに、外国の実務家と対等に問題解決にあたれるための技能を修得することを到達目標とする。（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）

⦿Ｇ群科目として、基礎法学に関連する分野の科目（選択科目）を置く。法解釈の前提としての、確固たる法解釈の方法論や価値判断体系等を修得することを到達目標とする。（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）

⦿Ｈ群科目として、法曹としての技能や法律実務（模擬裁判、法律文書作成等）に関する科目（選択科目）を置く。民事・刑事の裁判実務と裁判実務の進行過程、事実認定、要件事実等を理解することを到達目標とする。実務関連科目の多くは、裁判官経験者や検察官、弁護士が中心となって行う。（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）

障がいのある学生への受講に対する配慮

「見る」「聴く」「話す」「四肢を使って作業する」など、心身の機能障がいのため「社会的障壁」となる内容を含む科目（演習、実験、実習、語学など）については、「合理的配慮」として代替措置をとることが可能なものがあります。登録前に、研究科事務室までご相談ください。

司 法 研 究 科

法務専攻（2022～2026年度生）

登録コード		科　　目　　名	単位	担当者	配当年次		期　間	週時間	備　考
科目	クラス				法学未修者	法学既修者			
A群　基礎科目 〔必修科目〕			※備考欄に＊印のある科目は京都大学単位互換対象科目。詳細は登録要領を参照。						
61200041		憲法講義Ⅰ	2	松本　哲治	1		春学期	2	
61200042		憲法講義Ⅱ	2	御幸　聖樹	1		秋学期	2	
61200043	001	行政法講義（総論）①	2	重本　達哉	2	1	春学期	2	2026年度法学既修者及び2025年度以前の再履修者のみ対象
	002	行政法講義（総論）②	2	重本　達哉	1	1	秋学期	2	2026年度法学未修者及び再履修者のみ対象
61202004		刑法講義Ⅰ（総論）	2	山田　　慧	1		春学期	2	
61202005		刑法講義Ⅱ（各論）	2	松原　久利	1		秋学期	2	
61202006		民法講義Ⅰ（総則）	2	佐久間　毅	1		春学期	2	
61202015		民法講義Ⅱ（物権法）	2	佐久間　毅	1		秋学期	2	
61202016		民法講義Ⅲ（契約法Ⅰ）	2	深谷　　格	1		春学期	2	
61202017		民法講義Ⅳ（契約法Ⅱ）	2	野々上敬介	1		秋学期	2	
61202018		民法講義Ⅴ（不法行為法）	2	長野　史寛	1		春学期	2	
61202019		民法講義Ⅵ（家族法）	2	神谷　　遊	1		秋学期	2	
61202026		商法講義Ⅰ	2	洲崎　博史	1	1	春学期	2	
61202027		商法講義Ⅱ	2	洲崎　博史	1	1	秋学期	2	
61202012	001	刑事訴訟法講義①	2	斎藤　　司	2	1	春学期	2	
	002	刑事訴訟法講義②	2	佐藤　由梨	1～	1	秋学期	2	
61200044	001	民事訴訟法講義①	2	林　　昭一	2	1	春学期	2	＊
	002	民事訴訟法講義②	2	林　　昭一	1～	1	秋学期	2	＊
原則として、法学既修者で履修を免除されなかった科目がある者は、当該科目を1年次に登録・履修しなければならない。									
〔選択科目〕 A群1類									
61200032		法学基礎講義	2	原田　大樹	1		春学期	2	2026年度入学生のみ対象（再履修の場合は登録可能）
A群2類									
61200071		憲法基礎演習Ⅰ	1	松本　哲治	1～	1～	春学期	隔週2	
61200072		憲法基礎演習Ⅱ	1	御幸　聖樹	1～	1～	秋学期	隔週2	
61200073		行政法基礎演習	1	松村　　享	2～	1～	春学期	隔週2	
61200074		刑法基礎演習Ⅰ	1	松原　久利	1～	1～	春学期	隔週2	
61200075		刑法基礎演習Ⅱ	1	十河　太朗	1～	1～	秋学期	隔週2	
61200076		民法基礎演習Ⅰ	1	（本年度休講）	1～	1～			
61200077		民法基礎演習Ⅱ	1	（本年度休講）	1～	1～			
61200078		商法基礎演習	1	木下　孝治	1～	1～	春学期	隔週2	
61200079		刑事訴訟法基礎演習	1	（本年度休講）	2～	1～			
61200080		民事訴訟法基礎演習	1	川嶋　四郎	2～	1～	春学期	隔週2	
B群　法曹基本科目 〔必修科目〕									
61202051	001	刑事訴訟実務の基礎①	2	濵田　　毅 田中　千尋	2～	1～	秋学期	2	
	002	刑事訴訟実務の基礎②	2	濵田　　毅 田中　千尋	2～	1～	秋学期	2	

登録コード		科　　目　　名	単位	担当者	配当年次		期　間	週時間	備　考
科目	クラス				法学未修者	法学既修者			
61202052	001	民事訴訟実務の基礎①	2	野々上敬介 林田　敏幸	2	I	春学期	2	
	002	民事訴訟実務の基礎②	2	深谷　　格 林田　敏幸	2	I	春学期	2	
61202053	001	法曹倫理①	2	藤井　康弘 藤井　俊彦 田中　千尋	2	I	春学期	2	
	002	法曹倫理②	2	藤井　康弘 藤井　俊彦 田中　千尋	2	I	春学期	2	
〔選択科目〕 B群Ⅰ類					※指定されたクラスを登録すること。詳細は登録要領を参照。				
61200062		法情報調査・文書作成入門	2	菊池　亨輔	I	I	春学期	2	2026年度入学生のみ対象（再履修の場合は登録可能）
B群２類　応用ゼミ									
		応用ゼミ（法曹基本）	2	（本年度休講）					
C群　基幹科目 〔必修科目〕					※指定された習熟度のクラスを登録すること。詳細は登録要領を参照。 ※備考欄に＊印のある科目は京都大学単位互換対象科目。詳細は登録要領を参照。				
61200105	001	憲法演習Ⅰ①	2	御幸　聖樹	2	I	春学期	2	
	002	憲法演習Ⅰ②	2	松本　哲治	2	I	春学期	2	
	003	憲法演習Ⅰ③	2	松本　哲治	2	I	春学期	2	
	004	憲法演習Ⅰ④	2	御幸　聖樹	2	I	春学期	2	
61200109	001	憲法演習Ⅱ①	I	松本　哲治	2	I	秋学期	隔週2	
	002	憲法演習Ⅱ②	I	御幸　聖樹	2	I	秋学期	隔週2	
	003	憲法演習Ⅱ③	I	御幸　聖樹	2	I	秋学期	隔週2	
	004	憲法演習Ⅱ④	I	松本　哲治	2	I	秋学期	隔週2	
61200107	001	行政法演習Ⅰ①	2	横田　光平	2	I	春学期	2	在学中受験対応クラス＊
	002	行政法演習Ⅰ②	2	重本　達哉	2	I	春学期	2	〃　＊
	003	行政法演習Ⅰ③	2	重本　達哉	2	I	秋学期	2	＊
	004	行政法演習Ⅰ④	2	横田　光平	2	I	秋学期	2	＊
61200110	001	行政法演習Ⅱ①	I	横田　光平	2	I	秋学期	隔週2	在学中受験対応クラス
	002	行政法演習Ⅱ②	I	重本　達哉	2	I	秋学期	隔週2	〃
	003	行政法演習Ⅱ③	I	重本　達哉	3	2	春学期前半	2	
	004	行政法演習Ⅱ④	I	横田　光平	3	2	春学期前半	2	
	005	行政法演習Ⅱ⑤	I	重本　達哉	3	2	秋学期	隔週2	再履修者に限る
61200124	001	刑法演習Ⅰ①	2	松原　久利	2	I	春学期	2	
	002	刑法演習Ⅰ②	2	十河　太朗	2	I	春学期	2	
	003	刑法演習Ⅰ③	2	松原　久利	2	I	春学期	2	
	004	刑法演習Ⅰ④	2	十河　太朗	2	I	春学期	2	
61200125	001	刑法演習Ⅱ①	2	十河　太朗	2	I	秋学期	2	＊
	002	刑法演習Ⅱ②	2	松原　久利	2	I	秋学期	2	＊
	003	刑法演習Ⅱ③	2	十河　太朗	2	I	秋学期	2	＊
	004	刑法演習Ⅱ④	2	松原　久利	2	I	秋学期	2	＊
61200126	001	刑事訴訟法演習Ⅰ①	2	濵田　　毅	2	I	春学期	2	在学中受験対応クラス
	002	刑事訴訟法演習Ⅰ②	2	濵田　　毅	2	I	春学期	2	〃
	003	刑事訴訟法演習Ⅰ③	2	濵田　　毅	2	I	秋学期	2	
	004	刑事訴訟法演習Ⅰ④	2	濵田　　毅	2	I	秋学期	2	

登録コード		科　　目　　名	単位	担当者	配当年次		期　間	週時間	備　考
科目	クラス				法学未修者	法学既修者			
61200127	001	刑事訴訟法演習Ⅱ①	2	宇藤　崇	2	1	秋学期	2	在学中受験対応クラス
	002	刑事訴訟法演習Ⅱ②	2	濵田　毅	2	1	秋学期	2	〃
	003	刑事訴訟法演習Ⅱ③	2	宇藤　崇	3	2	春学期	2	
	004	刑事訴訟法演習Ⅱ④	2	濵田　毅	3	2	春学期	2	
	005	刑事訴訟法演習Ⅱ⑤	2	宇藤　崇	3	2	秋学期	2	再履修者に限る
61200171	001	民法演習Ⅰ①	2	深谷　格 山畑　博史	2	1	春学期	2	
	002	民法演習Ⅰ②	2	深谷　格 山畑　博史	2	1	春学期	2	
	003	民法演習Ⅰ③	2	野々上敬介 西村　学	2	1	春学期	2	
	004	民法演習Ⅰ④	2	野々上敬介 西村　学	2	1	春学期	2	
61200172	001	民法演習Ⅱ①	2	佐久間　毅 藤井　康弘	2	1	秋学期	2	
	002	民法演習Ⅱ②	2	佐久間　毅 藤井　康弘	2	1	秋学期	2	
	003	民法演習Ⅱ③	2	大中　有信 梅澤　匠	2	1	秋学期	2	
	004	民法演習Ⅱ④	2	大中　有信 梅澤　匠	2	1	秋学期	2	
61200173	001	民法演習Ⅲ①	2	野々上敬介 中世古裕之	2	1	秋学期	2	
	002	民法演習Ⅲ②	2	野々上敬介 中世古裕之	2	1	秋学期	2	
	003	民法演習Ⅲ③	2	深谷　格 小國　隆輔	2	1	秋学期	2	
	004	民法演習Ⅲ④	2	深谷　格 小國　隆輔	2	1	秋学期	2	
61200145	001	商法演習Ⅰ①	2	洲崎　博史	2	1	春学期	2	在学中受験対応クラス＊
	002	商法演習Ⅰ②	2	洲崎　博史	2	1	春学期	2	〃　＊
	003	商法演習Ⅰ③	2	木下　孝治	2	1	秋学期	2	＊
	004	商法演習Ⅰ④	2	木下　孝治	2	1	秋学期	2	＊
61200146	001	商法演習Ⅱ①	1	洲崎　博史	2	1	秋学期	隔週2	在学中受験対応クラス
	002	商法演習Ⅱ②	1	洲崎　博史	2	1	秋学期	隔週2	〃
	003	商法演習Ⅱ③	1	木下　孝治	3	2	春学期	隔週2	
	004	商法演習Ⅱ④	1	木下　孝治	3	2	春学期	隔週2	
	005	商法演習Ⅱ⑤	1	木下　孝治	3	2	秋学期	隔週2	再履修者に限る
61200176	001	民事訴訟法演習Ⅰ①	2	林　昭一	2	1	春学期	2	在学中受験対応クラス＊
	002	民事訴訟法演習Ⅰ②	2	林　昭一	2	1	春学期	2	〃　＊
	003	民事訴訟法演習Ⅰ③	2	林　昭一	2	1	秋学期	2	＊
	004	民事訴訟法演習Ⅰ④	2	林　昭一	2	1	秋学期	2	＊
61200177	001	民事訴訟法演習Ⅱ①	2	園田　賢治	2	1	秋学期	2	在学中受験対応クラス＊
	002	民事訴訟法演習Ⅱ②	2	園田　賢治	2	1	秋学期	2	〃　＊
	003	民事訴訟法演習Ⅱ③	2	園田　賢治	3	2	春学期	2	＊
	004	民事訴訟法演習Ⅱ④	2	園田　賢治	3	2	春学期	2	＊
	005	民事訴訟法演習Ⅱ⑤	2	中西　正	3	2	秋学期	2	再履修者に限る＊

登録コード		科　　目　　名	単位	担当者	配当年次		期　間	週時間	備　考
科目	クラス				法学未修者	法学既修者			
〔選択科目〕 C群Ⅰ類　総合演習		※備考欄に＊印のある科目は指定された習熟度のクラスを登録すること。詳細は登録要領を参照。							
61200116		憲法総合演習Ⅰ	Ⅰ	御幸　聖樹	3	2	春学期	隔週2	
61200117		憲法総合演習Ⅱ	Ⅰ	松本　哲治	3	2	秋学期	隔週2	
61200118	001	行政法総合演習Ⅰ①	Ⅰ	横田　光平	3	2	春学期前半	2	
	002	行政法総合演習Ⅰ②	Ⅰ	重本　達哉	3	2	春学期後半	2	
61200119		行政法総合演習Ⅱ	Ⅰ	横田　光平	3	2	秋学期	隔週2	
61200142	001	刑法総合演習①	Ⅰ	十河　太朗	3	2	春学期	隔週2	
	002	刑法総合演習②	Ⅰ	四方　　奨	3	2	春学期	隔週2	
	003	刑法総合演習③	Ⅰ	松原　久利	3	2	秋学期	隔週2	
61200143	001	刑事訴訟法総合演習①	Ⅰ	宇藤　　崇	3	2	春学期	隔週2	刑事訴訟法総合演習(2単位)を履修済みの場合は履修できない。
	002	刑事訴訟法総合演習②	Ⅰ	宇藤　　崇	3	2	秋学期	隔週2	
61200144		刑事訴訟法総合演習	2	（本年度休講）	3	2			2022年度生対象
61200178	001	民法総合演習Ⅰ①	2	大中　有信 山崎　浩一	3	2	春学期	2	
	002	民法総合演習Ⅰ②	2	佐久間　毅 中井　俊輔	3	2	秋学期	2	
61200179		民法総合演習Ⅱ	Ⅰ	（本年度休講）	3	2			2022年度生対象
61200180	001	民法総合演習Ⅱ①	2	大中　有信	3	2	春学期	2	2023～2026年度生対象
	002	民法総合演習Ⅱ②	2	大中　有信	3	2	秋学期	2	
61200150	001	民法特別演習①	2	大中　有信	3	2	春学期	2	2022年度生対象。民法総合演習Ⅱ（1単位）を履修済みの場合は履修できない。
	002	民法特別演習②	2	大中　有信	3	2	秋学期	2	
61200170	001	商法総合演習①	Ⅰ	木下　孝治	3	2	春学期	隔週2	
	002	商法総合演習②	Ⅰ	洲崎　博史	3	2	秋学期	隔週2	
61200168	001	民事訴訟法総合演習①	2	園田　賢治	3	2	春学期	2	
	002	民事訴訟法総合演習②	2	園田　賢治	3	2	秋学期	2	
C群２類									
61200181		刑法特講Ⅰ	2	十河　太朗	2～	Ⅰ～	春学期	2	
61200182		刑法特講Ⅱ	2	松原　久利	2～	Ⅰ～	秋学期	2	
61200601		家族法	2	（本年度休講）	3	2			
61200196		商行為法・手形法	2	木下　孝治	2～	Ⅰ～	秋学期	2	
61200602		会社法特講Ⅰ	2	木下　孝治	3	2	春学期	2	
61200603		会社法特講Ⅱ	2	（本年度休講）	2～	Ⅰ～			
61200190		民事訴訟法特講	2	（本年度休講）	2～	Ⅰ～			
D群およびE群から計12単位以上を選択履修すること。 D群　展開・先端科目Ⅰ 〔選択科目〕 D群Ⅰ類から４単位以上を選択履修すること。 D群Ⅰ類									
61200201	001	労働法Ⅰ①	2	村中　孝史	2～	Ⅰ～	春学期	2	
	002	労働法Ⅰ②	2	村中　孝史	2～	Ⅰ～	春学期	2	
61200202	001	労働法Ⅱ①	2	村中　孝史	2～	Ⅰ～	秋学期	2	
	002	労働法Ⅱ②	2	村中　孝史	2～	Ⅰ～	秋学期	2	
61200241	001	労働法総合演習①	2	村中　孝史	3	2	春学期	2	
	002	労働法総合演習②	2	村中　孝史	3	2	秋学期	2	
61200249		知的財産法Ⅰ	2	藤川　義人	2～	Ⅰ～	春学期	2	
61200250		知的財産法Ⅱ	2	辻村　和彦	2～	Ⅰ～	秋学期	2	
61200251		知的財産法Ⅲ	2	辻村　和彦	2～	Ⅰ～	春学期	2	

登録コード		科　　目　　名	単位	担当者	配当年次		期　間	週時間	備　考
科目	クラス				法学未修者	法学既修者			
61200252		知的財産法Ⅳ	2	雨宮沙耶花	2～	1～	秋学期	2	
61200204		経済法Ⅰ	2	小林　涉	2～	1～	春学期	2	
61200205		経済法Ⅱ	2	小林　涉	2～	1～	春学期	2	
61200222		経済法Ⅲ	2	小林　涉	2～	1～	秋学期	2	
61200242		経済法総合演習	2	小林　涉	3	2	春学期	2	
61200223		環境法Ⅰ	2	越智　敏裕	2～	1～	春学期	2	
61200224		環境法Ⅱ	2	越智　敏裕	2～	1～	秋学期	2	
61200243		環境法総合演習	2	島村　健	3	2	春学期	2	
61200226		租税法Ⅰ	2	坂巻　綾望	2～	1～	春学期	2	
61200227	001	租税法Ⅱ①	2	坂巻　綾望	2～	1～	秋学期	2	
	002	租税法Ⅱ②	2	坂巻　綾望	3	2	春学期	2	
61200244	001	租税法総合演習①	2	坂巻　綾望	3	2	春学期	2	
	002	租税法総合演習②	2	坂巻　綾望	3	2	秋学期	2	
61200237		倒産法Ⅰ	2	中西　正	2～	1～	春学期	2	
61200238		倒産法Ⅱ	2	中西　正	2～	1～	秋学期	2	
61200245		倒産法総合演習	2	野村　祥子	3	2	春学期	2	
61200247		国際法Ⅰ	2		2～	1～			京都大学単位互換対象科目。詳細は登録要領を参照。
61200248		国際法Ⅱ	2		2～	1～			
61200246		国際法総合演習	2	繁田　泰宏	2～	1～	春学期	2	
61200232		国際私法Ⅰ	2	高橋　宏司	2～	1～	春学期	2	
61200233		国際私法Ⅱ	2	高橋　宏司	2～	1～	秋学期	2	
61200363		国際民事訴訟法	2	高橋　宏司	2～	1～	春学期	2	
61200324		国際動産取引法	2	黄　ジン霆	2～	1～	秋学期	2	
D群２類　応用ゼミ									
		応用ゼミ（展開・先端Ⅰ）	2	（本年度休講）					
E群　展開・先端科目Ⅱ 〔選択科目〕 E群Ⅰ類									
61200371		地方自治法	2	松村　享	2～	1～	春学期	隔週4	
61200372		情報法	2	佐伯　彰洋	2～	1～	秋学期	2	
61200301		刑事政策	2	緒方あゆみ	2～	1～	春学期	2	
61200302		クリミナル・ジャスティス・システム	2	緒方あゆみ	2～	1～	秋学期	2	
61200376		金融担保法	2	（本年度休講）	2～	1～			
61200608		信託法	2	佐久間　毅 野々上敬介	2～	1～	秋学期	2	公益財団法人トラスト未来フォーラム寄付講座
61200213		ADR 法	2	川嶋　四郎	3	2	秋学期	2	
61200212		救済手続法	2	中西　正	2～	1～	春学期	2	
61200211		保険法	2	洲崎　博史	2～	1～	秋学期	2	
61200341		コーポレート・ガバナンス	2	林　雄亮	2～	1～	秋学期	2	
61200342		コーポレート・ファイナンス	2	洲崎　博史	3	2	春学期	2	
61200343		企業結合法（M＆A）	2	（本年度休講）	3	2			
61200379		労災補償法	2	（本年度休講）	2～	1～			
61200364		国際環境法	2	繁田　泰宏	3	2	秋学期	2	
61200365		国際租税法	2	坂巻　綾望	3	2	秋学期	2	
61200230		国際人権法	2	戸田　五郎	3	2	春学期	2	
61200231		国際経済法	2	小林　涉	2～	1～	春学期	2	
61200611		競争法の国際比較	2	（本年度休講）	2～	1～			
61200612		国際民事紛争処理の実務	2	小倉　隆	2～	1～	春学期	2	

登録コード		科　　目　　名	単位	担当者	配当年次		期　間	週時間	備　考
科目	クラス				法学未修者	法学既修者			
61200613		ビジネス法務調査とプレゼンテーション	1	児島　幸良	2～	1～	春学期	隔週4	応用ゼミ（展開・先端Ⅱ）⑬を未履修の場合のみ登録履修できる
61200614		ブロックチェーン・暗号資産法	2	高橋　宏司	3	2	秋学期	2	応用ゼミ（展開・先端Ⅱ）⑭を未履修の場合のみ登録履修できる
E群2類　応用ゼミ									
61201320	020	応用ゼミ（展開・先端Ⅱ）⑳ －不動産登記の実務～法曹が身につけておきたい理論と実務～－	2	北詰健太郎 浅野　真弘 松原　大和	2～	1～	秋学期	2	
61201321	021	応用ゼミ（展開・先端Ⅱ）㉑ －経済法の理解深化のための執行と唱導の実務－	2	小林　　渉	2～	1～	秋学期	2	
61201322	022	応用ゼミ（展開・先端Ⅱ）㉒ －私的整理概論－	2	中西　　正 浅野　雄太 野瀬　義明	2～	1～	秋学期	2	
F群およびG群から計6単位以上を選択履修すること。 **F群　外国法科目** **〔選択科目〕** 2単位以上を選択履修すること。 **F群1類**									
61200451		アメリカン・リーガルシステム	2	Colin.P.A.Jones	1～	1～	秋学期	2	
61200465		アメリカ契約法・英文契約実務	2	Colin.P.A.Jones	2～	1～	秋学期	2	
61200456		アメリカビジネス法	2	釜田　薫子	1～	1～	秋学期	2	
61200460		EU 法	2		1～	1～			京都大学単位互換対象科目。詳細は登録要領を参照。
61200466		アジア法Ⅰ	2	黄　ジン霆	1～	1～	秋学期	2	
61200467		アジア法Ⅱ	2	權　　鍾浩	1～	1～	秋学期	集中	
61200464	001	外国法実地研修①	2	大中　有信	1～	1～	春学期	集中	研修費(旅費等)が必要
	002	外国法実地研修②	2	大中　有信	1～	1～	春学期	集中	オンラインクラス
61200463	001	海外インターンシップ①	2	（本年度休講）	1～	1～			異なる法域における研修の場合は、2回まで登録履修できる。研修費（旅費等）が必要
	002	海外インターンシップ②	2	Colin.P.A.Jones	1～	1～	秋学期	集中	
		外国法特別セミナー	1	（本年度休講）	1～	1～			
61200761	061	外国法特別セミナー61	2	Stephen C. Wilks	1～	1～	秋学期	集中	
		外国法特別セミナー	3	（本年度休講）	1～	1～			
F群2類　応用ゼミ									
		応用ゼミ（外国法）	1		慶應義塾大学単位互換対象科目。 詳細は登録要領を参照。				
		応用ゼミ（外国法）	2						
G群　基礎法・隣接科目 **〔選択科目〕** 2単位以上を選択履修すること。 **G群1類**									
61200501		法理学	2	（本年度休講）	1～	1～			
61200502		比較法文化論Ⅰ	2	（本年度休講）	1～	1～			
61200503		比較法文化論Ⅱ	2	濱　真一郎	1～	1～	秋学期	2	
61200504		法社会学	2	木下麻奈子	1～	1～	秋学期	2	
61200506		現代人権論	2	（本年度休講）	1～	1～			

登録コード		科　　目　　名	単位	担当者	配当年次		期　間	週時間	備　考
科目	クラス				法学未修者	法学既修者			
G群２類　応用ゼミ									
		応用ゼミ（基礎法・隣接）	2	（本年度休講）					
H群　実務関連科目 〔選択科目〕 H群Ⅰ類から４単位以上を選択履修すること。 H群Ⅰ類									
61200555	001	刑事模擬裁判①	2	濵田　毅 田中　千尋	3	2	春学期	2	
	002	刑事模擬裁判②	2	遠藤　賢 田中　千尋	3	2	秋学期	2	
61200556		民事模擬裁判	2	大島　眞一	2～	Ⅰ～	秋学期	2	
61200552	001	クリニック①	2	山﨑　浩一	3	2	春学期	2	
	002	クリニック②	2	山﨑　浩一	3	2	秋学期	2	
61200606	001	エクスターンシップⅠ①	2	濵田　毅 久保　祐貴	3	2	春学期	2	前年度３月に研修を行う者対象。実習料が必要
	002	エクスターンシップⅠ②	2	濵田　毅 久保　祐貴	3	2	春学期	2	8月・9月に研修を行う者対象。実習料が必要
61200607		エクスターンシップⅡ	2	木下　孝治 小倉　隆	3	2	春学期	2	企業法務・自治体法務での研修
61200061		公法実務の基礎	2	齋藤　亮介 山﨑　浩一	2～	Ⅰ～	秋学期	2	
H群２類									
61200554		法律文書作成	2	（本年度休講）	3	2			
61200564		法律実務演習（民事法）	1	深谷　格 園田　賢治 洲崎　博史	2～	Ⅰ～	秋学期	2	京都大学単位互換対象科目。詳細は登録要領を参照。2027年度開講の61200565とセット登録（連続する年度で登録）
61200565		法律実務演習（民事法）	1	深谷　格 園田　賢治 洲崎　博史	3	2	春学期	2	京都大学単位互換対象科目。詳細は登録要領を参照。2025年度開講の61200564とセット登録（連続する年度で登録）

履修条件一覧表

法学未修者として入学した者

〔選択科目〕

科　　目　　名	配当年次	履　　修　　条　　件
経済法Ⅱ	２～	**経済法Ⅰを履修済、または同時に登録すること。**
労働法Ⅱ	２～	**労働法Ⅰを履修済、または同時に登録すること。**
知的財産法Ⅳ	２～	**知的財産法Ⅲを履修済、または同時に登録すること。**

法学既修者として入学した者

〔必修科目〕

入学試験における法律科目試験及び履修免除試験の成績により、履修を免除されなかったＡ群基礎科目（必修科目）がある場合は、当該科目を履修すること。法律科目試験及び履修免除試験の科目と履修を免除されないＡ群基礎科目（必修科目）の対応関係は下記のとおりとする。

法律科目試験・履修免除試験科目	履修を免除されないＡ群基礎科目（必修科目）
行政法	**行政法講義（総論）**
商法	**商法講義Ⅰ、商法講義Ⅱ**
刑事訴訟法	**刑事訴訟法講義**
民事訴訟法	**民事訴訟法講義**

〔選択科目〕

科　　目　　名	配当年次	履　　修　　条　　件
経済法Ⅱ	１～	**経済法Ⅰを履修済、または同時に登録すること。**
労働法Ⅱ	１～	**労働法Ⅰを履修済、または同時に登録すること。**
知的財産法Ⅳ	１～	**知的財産法Ⅲを履修済、または同時に登録すること。**

履修方法（2025～2026年度生）

・法学未修者として入学した者

必修科目63単位、選択科目33単位以上、合計96単位以上を履修すること。
選択科目については、下表「修了に必要な単位（最少）数表」に示す最低必要単位数以上を履修すること。

修了に必要な単位（最少）数表

<table>
<tr><td colspan="3">科目群</td><td colspan="4">最低必要単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td colspan="2">A群</td><td colspan="3">30</td><td rowspan="3">63</td><td rowspan="15">96</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="3">6</td></tr>
<tr><td colspan="2">C群</td><td colspan="3">27</td></tr>
<tr><td rowspan="15">選択科目</td><td>A群</td><td>2類</td><td colspan="3"></td><td rowspan="14">33</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C群</td><td>1類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>A群</td><td>1類</td><td colspan="2"></td><td rowspan="11">28以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">D群</td><td>1類</td><td>4以上</td><td rowspan="3">12以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">E群</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">F群</td><td>2以上</td><td rowspan="2">6以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">G群</td><td>2以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H群</td><td>1類</td><td colspan="2">4以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

・法学既修者として入学した者

必修科目63単位、選択科目33単位以上、合計96単位以上を履修すること。
選択科目については、次表「修了に必要な単位（最少）数表」に示す最低必要単位数以上を履修すること。

＊以下の者は、必修科目33単位（B群６単位・C群27単位)、選択科目33単位以上を履修すること。

1．連携協定校の認定連携法曹基礎課程（以下「法曹コース」という。）を修了し、その修了の翌年度に本研究科に入学した法学既修者。この場合には、合格した入学試験の選抜方式を問わない。
2．連携協定校以外の法曹コースを修了し、その修了の翌年度に本研究科に入学した法学既修者。この場合には、法曹コース特別選抜入試（法学既修者開放型選抜入試）での入学者に限る。
3．上記1、2に該当しない法学既修者にあっては、入学試験及び履修免除試験で七法の全てにつき履修免除を得た者。

＊一般入学試験により入学した者で、一般入学試験及び履修免除試験において免除されなかった科目がある場合は、免除されなかった科目に該当するA群基礎科目（必修科目）及び必修科目33単位（B群６単位・C群27単位)、選択科目33単位以上を履修すること。

修了に必要な単位（最少）数表

<table>
<tr><td colspan="3">科目群</td><td colspan="4">最低必要単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td colspan="2">A群</td><td colspan="3">30</td><td rowspan="3">63</td><td rowspan="15">96</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="3">6</td></tr>
<tr><td colspan="2">C群</td><td colspan="3">27</td></tr>
<tr><td rowspan="15">選択科目</td><td>A群</td><td>2類</td><td colspan="3"></td><td rowspan="14">33</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C群</td><td>1類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>A群</td><td>1類</td><td colspan="2"></td><td rowspan="11">28以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">D群</td><td>1類</td><td>4以上</td><td rowspan="3">12以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">E群</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">F群</td><td>2以上</td><td rowspan="2">6以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">G群</td><td>2以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H群</td><td>1類</td><td colspan="2">4以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

年次別最高（最低）登録単位数

年間の登録単位数は、以下の単位数を限度とし、かつ、１学期（春学期または秋学期）の登録単位数は、22単位を限度とする。ただし、法学未修者３年次生、法学既修者２年次生については、１学期（春学期または秋学期）の登録単位数は25単位を限度とする。また、１学期（春学期または秋学期）の最低登録単位数は１単位とする。

１）法学未修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法学未修者として入学した者	36単位	36単位（注１）（注２）	44単位

（注１）法学未修者１年次から２年次に進級した者で、再履修が必要なＡ群基礎科目（必修科目）がある場合は、当該科目について６単位を上限として、36単位を超えて登録することができる。

（注２）法学未修者１年次（入学した年度に限る）にＡ群基礎科目（必修科目）30単位を修得し、未修者２年次に進級した者は、36単位を超えて44単位まで登録することができる。

２）法学既修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法学既修者として入学した者	36単位（注３）（注４）	44単位	

（注３）入学時に履修を免除されなかったＡ群基礎科目（必修科目）がある場合は、第１年次（入学した年度）に限り、当該科目について６単位を上限として、36単位を超えて登録することができる。

（注４）本研究科が指定する者は、36単位を超えて44単位まで登録することができる。
本研究科が指定する者は、以下の者とする。

１．連携協定校の認定連携法曹基礎課程（以下「法曹コース」という。）を修了し、その修了の翌年度に本研究科に入学した法学既修者。この場合には、合格した入学試験の選抜方式を問わない。

２．連携協定校以外の法曹コースを修了し、その修了の翌年度に本研究科に入学した法学既修者。この場合には、法曹コース特別選抜入試（法学既修者開放型選抜入試）での入学者に限る。

３．上記１、２に該当しない法学既修者にあっては、入学試験及び履修免除試験で七法の全てにつき履修免除を得た者。

履修方法（2023～2024年度生）

・法学未修者として入学した者

必修科目63単位、選択科目33単位以上、合計96単位以上を履修すること。
選択科目については、下表「修了に必要な単位（最少）数表」に示す最低必要単位数以上を履修すること。

修了に必要な単位（最少）数表

<table>
<tr><td colspan="3">科目群</td><td colspan="4">最低必要単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td colspan="2">A群</td><td colspan="3">30</td><td rowspan="3">63</td><td rowspan="11">96</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="3">6</td></tr>
<tr><td colspan="2">C群</td><td colspan="3">27</td></tr>
<tr><td rowspan="11">選択科目</td><td>A群</td><td>2類</td><td colspan="3"></td><td rowspan="10">33</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C群</td><td>1類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>A群</td><td>1類</td><td colspan="2"></td><td rowspan="9">28以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">D群</td><td>1類</td><td>4以上</td><td rowspan="3">12以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">E群</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">F群</td><td>2以上</td><td rowspan="2">6以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">G群</td><td>2以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H群</td><td>1類</td><td colspan="2">4以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

・法学既修者として入学した者

必修科目63単位、選択科目33単位以上、合計96単位以上を履修すること。
選択科目については、次表「修了に必要な単位（最少）数表」に示す最低必要単位数以上を履修すること。

＊法学未修者１・２年次配当のＡ群基礎科目（必修科目）のうち、26単位（行政法・商法受験型）もしくは24単位（民訴法・刑訴法受験型）を修得したものとみなされ履修を一括免除された者は、それぞれ下記の単位数以上を履修すること。ただし、特定分野の科目の単位を修得したものとみなされず履修を免除されなかった科目がある者は、当該免除されなかった科目及び受験型によりそれぞれ下記の科目を履修すること。ただし、履修免除試験の成績により履修を免除された科目がある場合は、下記の必修科目単位数のうち、当該科目の単位をＡ群単位から除くものとする。

【行政法・商法受験型】
　必修科目37単位（Ａ群４単位・Ｂ群６単位・Ｃ群27単位）、選択科目33単位以上を履修

【民訴法・刑訴法受験型】
　必修科目39単位（Ａ群６単位・Ｂ群６単位・Ｃ群27単位）、選択科目33単位以上を履修

＊法曹コース特別選抜入学試験により入学した者及び本研究科の法曹養成連携協定校の法曹コースを修了し、特別選抜試験以外の一般入学試験により入学した者は、法学未修者１・２年次配当のＡ群基礎科目（必修科目）30単位を修得したものとみなされ履修を一括免除された者は、必修科目33単位（Ｂ群６単位・Ｃ群27単位）、選択科目33単位以上を履修すること。

修了に必要な単位（最少）数表

<table>
<tr><td colspan="3">科目群</td><td colspan="4">最低必要単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td colspan="2">A群</td><td colspan="3">30</td><td rowspan="3">63</td><td rowspan="11">96</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="3">6</td></tr>
<tr><td colspan="2">C群</td><td colspan="3">27</td></tr>
<tr><td rowspan="11">選択科目</td><td>A群</td><td>2類</td><td colspan="3"></td><td rowspan="10">33</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C群</td><td>1類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>A群</td><td>1類</td><td colspan="2"></td><td rowspan="9">28以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">D群</td><td>1類</td><td>4以上</td><td rowspan="3">12以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">E群</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">F群</td><td>2以上</td><td rowspan="2">6以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">G群</td><td>2以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H群</td><td>1類</td><td colspan="2">4以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

年次別最高（最低）登録単位数

年間の登録単位数は、以下の単位数を限度とし、かつ、１学期（春学期または秋学期）の登録単位数 は、22単位を限度とする。ただし、法学未修者３年次生、法学既修者２年次生については、１学期（春学期または秋学期）の登録単位数は25単位を限度とする。また、１学期（春学期または秋学期）の最低登録単位数は１単位とする。

１）法学未修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法学未修者として入学した者	36単位	36単位（注１）	44単位

（注１）法学未修者１年次から２年次に進級した者で、再履修が必要なＡ群基礎科目（必修科目）がある場合は、当該科目について６単位を上限として、36単位を超えて登録することができる。

２）法学既修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法学既修者として入学した者	36単位（注２）（注３）	44単位	

（注２）法学既修者については、入学試験で基準点に達せず履修を免除されなかったＡ群基礎科目（必修科目）がある場合、第１年次に限って、当該科目の単位分について（６単位が上限）、36単位を超えて登録することができる。

（注３）本研究科が指定する者は、44単位を上限として、36単位を超えて登録することができる。本研究科が指定する者は、別途、通知する。

３）法曹コースを修了し法学既修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法曹コースを修了し法学既修者として入学した者（注４）	44単位	44単位	

（注４）本研究科の法曹養成連携協定校以外の法曹コースを修了し、特別選抜試験以外の一般入学試験により入学した者は除く。

履修方法（2022年度生）

・法学未修者として入学した者

必修科目63単位、選択科目33単位以上、合計96単位以上を履修すること。
選択科目については、下表「修了に必要な単位（最少）数表」に示す最低必要単位数以上を履修すること。

修了に必要な単位（最少）数表

<table>
<tr><td colspan="3">科目群</td><td colspan="4">最低必要単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td colspan="2">A群</td><td colspan="3">30</td><td rowspan="3">63</td><td rowspan="11">96</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="3">6</td></tr>
<tr><td colspan="2">C群</td><td colspan="3">27</td></tr>
<tr><td rowspan="11">選択科目</td><td>A群</td><td>2類</td><td colspan="3"></td><td rowspan="10">33</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C群</td><td>1類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>A群</td><td>1類</td><td colspan="2"></td><td rowspan="8">28以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">D群</td><td>1類</td><td>4以上</td><td rowspan="3">12以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">E群</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">F群</td><td>2以上</td><td rowspan="2">6以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">G群</td><td>2以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H群</td><td>1類</td><td colspan="2">4以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

・法学既修者として入学した者

必修科目63単位、選択科目33単位以上、合計96単位以上を履修すること。
選択科目については、次表「修了に必要な単位（最少）数表」に示す最低必要単位数以上を履修すること。

＊法学未修者１・２年次配当のＡ群基礎科目（必修科目）のうち、26単位（行政法・商法受験型）もしくは24単位（民訴法・刑訴法受験型）を修得したものとみなされ履修を一括免除された者は、それぞれ下記の単位数以上を履修すること。ただし、特定分野の科目の単位を修得したものとみなされず履修を免除されなかった科目がある者は、当該免除されなかった科目及び受験型によりそれぞれ下記の科目を履修すること。ただし、履修免除試験の成績により履修を免除された科目がある場合は、下記の必修科目単位数のうち、当該科目の単位をＡ群単位から除くものとする。

【行政法・商法受験型】
必修科目37単位（Ａ群４単位・Ｂ群６単位・Ｃ群27単位）、選択科目33単位以上を履修

【民訴法・刑訴法受験型】
必修科目39単位（Ａ群６単位・Ｂ群６単位・Ｃ群27単位）、選択科目33単位以上を履修

＊法曹コース特別選抜入学試験により入学した者及び本研究科の法曹養成連携協定校の法曹コースを修了し、特別選抜試験以外の一般入学試験により入学した者は、法学未修者１・２年次配当のＡ群基礎科目（必修科目）30単位を修得したものとみなされ履修を一括免除された者は、必修科目33単位（Ｂ群６単位・Ｃ群27単位）、選択科目33単位以上を履修すること。

修了に必要な単位（最少）数表

<table>
<tr><td colspan="3">科目群</td><td colspan="4">最低必要単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td colspan="2">A群</td><td colspan="3">30</td><td rowspan="3">63</td><td rowspan="11">96</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="3">6</td></tr>
<tr><td colspan="2">C群</td><td colspan="3">27</td></tr>
<tr><td rowspan="11">選択科目</td><td>A群</td><td>2類</td><td colspan="3"></td><td rowspan="10">33</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C群</td><td>1類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>A群</td><td>1類</td><td colspan="2"></td><td rowspan="8">28以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">B群</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">D群</td><td>1類</td><td>4以上</td><td rowspan="3">12以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">E群</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">F群</td><td>2以上</td><td rowspan="2">6以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">G群</td><td>2以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H群</td><td>1類</td><td colspan="2">4以上</td></tr>
<tr><td>2類</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

年次別最高（最低）登録単位数

⑴　年間の登録単位数は、以下の単位数を限度とし、かつ、１学期（春学期または秋学期）の登録単位数は、22単位を限度とする。ただし、法学未修者３年次生、法学既修者２年次生ついては、１学期（春学期または秋学期）の登録単位数は25単位を限度とする。

１）法学未修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法学未修者として入学した者	36単位	36単位（注１）	44単位

（注１）法学未修者１年次から２年次に進級した者で、再履修が必要なＡ群基礎科目（必修科目）がある場合は、当該科目について６単位を上限として、36単位を超えて登録することができる。

２）法学既修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法学既修者として入学した者	36単位（注２）（注３）	44単位	

（注２）法学既修者については、入学試験で基準点に達せず履修を免除されなかったＡ群基礎科目（必修科目）がある場合、第１年次に限って、当該科目の単位分について（６単位が上限）、36単位を超えて登録することができる。

（注３）本研究科が指定する者は、44単位を上限として、36単位を超えて登録することができる。本研究科が指定する者は、別途、通知する。

３）法曹コースを修了し法学既修者として入学した者

	第１年次	第２年次	第３年次
法曹コースを修了し法学既修者として入学した者（注４）	44単位	44単位	

（注４）本研究科の法曹養成連携協定校以外の法曹コースを修了し、特別選抜試験以外の一般入学試験により入学した者は除く。

⑵　１学期（春学期または秋学期）の最低登録単位数は１単位とする。

２０２６年度

ビジネス研究科学年暦

同志社大学

春学期　16週（96日）

2026年

4月1日（水）	春学期始め・春学期入学式
5日（日） 6日（月）	履修科目登録期間
8日（水）	春学期前半講義開始
28日（火）	2025年度生　春学期学費納入最終日
28日（火）	2024年度以前生 春学期学費（教育充実費）納入最終日
4月29日（水） 〜 5月6日（水）	休日
6月2日（火）	2024年度以前生 春学期学費（単位授業料）納入最終日
4日（木）	春学期前半末試験開始
10日（水）	春学期前半講義最終日
10日（水）	春学期前半末試験終了
（6月11日（木）〜12日（金）休講）	
13日（土）	春学期後半講義開始
25日（木）	在学生成績通知
7月20日（月）	海の日（授業日）
8月1日（土）	春学期後半末試験開始
7日（金）	春学期後半講義最終日
7日（金）	春学期後半末試験終了
8日（土）	夏期休暇開始
9月1日（火）	夏期休暇終了
2日（水）	在学生成績通知
10日（木）	春学期学位総合審査日
14日（月） 15日（火）	履修科目登録期間
20日（日）	春学期終り
26日（土）	春学期学位授与式

秋学期　16週（96日）

9月21日（月）	秋学期始め・秋学期入学式
28日（月）	秋学期前半講義開始
10月12日（月）	スポーツの日（授業日）
30日（金）	2025年度以降生　秋学期学費納入最終日
30日（金）	2024年度以前生 秋学期学費（教育充実費）納入最終日
11月3日（火）	文化の日（授業日）
13日（金）	2024年度以前生 秋学期学費（単位授業料）納入最終日
16日（月）	秋学期前半末試験開始
21日（土）	秋学期前半講義最終日
21日（土）	秋学期前半末試験終了
（11月24日（火）〜25日（水）　休講）	
26日（木） 27日（金） 28日（土）	創立記念行事週間（休講）
29日（日）	創立記念日（休日）
30日（月）	秋学期後半講義開始
12月24日（木）	冬期休暇開始
25日（金）	キリスト降誕日（休日）

2027年

1月6日（水）	冬期休暇終了
7日（木）	講義再開
7日（木）	在学生成績通知
11日（月）	成人の日（授業日）
23日（土）	創立者永眠の日
2月1日（月）	秋学期後半末試験開始
6日（土）	秋学期後半講義最終日
6日（土）	秋学期後半末試験終了
3月4日（木）	秋学期学位総合審査日
9日（火）	在学生成績通知
20日（土） 21日（日） 22日（月）	秋学期学位授与式 （うち、大学が指定する1日）
31日（水）	秋学期終り

2026年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	●29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
●3	●4	●5	●6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	●20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	●11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	●21	●22	●23	24	25	26
27	28	29	30			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	●12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	●3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	●23	24	25	26	27	28
29	30					

2027年

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月

日	月	火	水	木	金	土
					●1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	●11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	●11	12	13
14	15	16	●23	18	19	20
21	22	●23	24	25	26	27
28						

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
●21	●22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●印は「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
授業時間	9:00〜10:30	10:45〜12:15	13:10〜14:40	14:55〜16:25	16:40〜18:10
	Ⅵ	Ⅶ			
	18:25〜19:55	20:10〜21:40			

ビジネス研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆教育研究上の目的

本研究科は、建学の精神である国際主義および良心主義を教学の基本理念とし、新たな企業社会との連携の場を構築し、グローバル化、IT 化に象徴される変革期の現代企業が抱える様々な課題に応えうる経営教育を実現すると共に、グローバルスタンダードとなりうる高度で価値ある経営ノウハウを開発・提供し、常に企業と社会に開かれた教育と研究を行うことを目的とした専門職大学院である。

◆人材養成に関する目的

ビジネス研究科ビジネス専攻専門職学位課程は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、常に企業と社会に開かれた教育と研究を通して、グローバルな視野の下、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

［下記の資質・能力を備えた学生にビジネス修士（専門職）学位を授与します］

ビジネス研究科ビジネス専攻（以下では「本専攻」という）は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成することを使命としている。このため、本専攻の教育課程で所定の修了要件を満たす過程において、以下のような能力・資質・感性を修得した人物に「ビジネス修士（専門職）」（MBA）の学位を授与する。

2023年度以前生

１）ビジネスの創造とソリューション能力（知識・技能）
グローバル経済と地域社会、いずれの領域においても、伝統とイノベーションに基づく独創的な事業創造を推進し、事業が直面する諸問題を解決し、それを通じて企業や組織の持続的成長を可能とする戦略を策定し実行できる。

２）経済社会的役割を果たしうるリーダーシップ能力（思考力・判断力・表現力）
企業・組織において事業の創造と諸課題の解決を図りつつその経済社会的役割の実現に導き、あるいは、地域経済社会の活性化を牽引するリーダーシップを発揮できる。

３）グローバルな視野を備えたプロフェッショナリズムのもと、国境、地域、国籍を超えた相互理解能力を持ち、「良心」を中核に行動する能力（主体性・多様性・協働性）
あらゆるビジネスの場面において、たとえ困難な局面においても、良心を基礎とし、諸課題の解決に当たりビジネスの成果を挙げつつ、企業・組織としてあるいは起業家として経済社会で果たすべき役割の実現に向けて行動できる。他国や他地域との言語や文化の相違を乗り越えて相互に理解でき、事業を遂行できるようになる。ビジネスパーソンとしての高い能力とグローバルな視点を有し、社会的責任感と志を持ってビジネスを実行できる。

2024年度以降生

１）経営の基礎的知識や 技能をもとに、発展的知識や技能を身につけ応用することができる。これらの知識・技能を駆使して、Responsible Innovative Leader として、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。（知識・技能）

２）良心に基づき、革新を産み出すための思考や判断をすることができ、またリーダーとしての優れたコミュニケーションをおこなうことができる。（その際の言語は、まずは日本語を想定している。）これらの思考力・判断力・表現力を駆使して、Responsible Innovative Leader として、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。（思考力・判断力・表現力）

３）リーダーとして、主体的に動き、多様性を尊重し、協働性を発揮することができる。これらの主体性・多様性・協働性を駆使して、Responsible Innovative Leader として、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。（主体性・多様性・協働性）

◆カリキュラム・ポリシー

2023年度以前生

本専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、共通科目ＡおよびＢ、専門科目群の学習を通じて、ビジネスの現場に求められる①専門知識の獲得、②思考力や問題解決に必要な判断能力、プレゼンテーションによる表現力の錬成、③主体的な学生同士の議論を通じて、多様性を重んじ協働して学ぶ態度、を体系的に養成することができるようカリキュラムを編成している。
教育内容、教育方法、評価方法については以下のような方針をとっている。

１．教育内容

（１）科目構成

実務に必要な基本的な知識から専門的知識まで網羅できるよう、共通科目Ａ、共通科目Ｂおよび専門科目群を設置している。

共通科目Ａは、６つの専門分野それぞれにおける基礎科目である。MBA として不可欠な知識を獲得するために、自らの専門分野外の科目についても網羅的な履修が推奨されている。

共通科目Ｂは、６つの専門分野の基礎科目の知識をさらに発展させる科目である。

専門科目は時代に即応した持続的成長を実現できるビジネスパーソンを育成するために幅広い専門分野について必要な科目を設置している。

科目分野は「中小企業・地域経営」、「イノベーション」、「マーケティング」、「会計・ファイナンス」、「ビジネス環境分析」、「ゼネラルマネジメント」の６分野に分類されている。

「中小企業・地域経営」分野には、中小企業、ファミリービジネス等の経営、あるいは企業継承を目的とした専門性の修得を目的とした科目を設置。

「イノベーション」分野には、企業の CTO 等を展望した人材を育成するために MOT の専門性を高めることを目的とした科目を設置。

「マーケティング」分野には、幅広いマーケティング業務に従事できる専門性を育成するための科目を設置。

「会計・ファイナンス」分野には、企業の CFO 等を展望した人材を育成するために、財務関連の専門性を高める科目を設置。

「ビジネス環境分析」分野には、外部環境の分析から経営戦略に活かす専門性を高める科目を設置。

「ゼネラルマネジメント」分野には、組織や組織間でのマネジメントに活かす専門性を高める科目を設置。

（２）プロジェクト研究

２年修了生は１年次の秋学期より、３年修了生は２年時の秋学期より、専門科目の履修等によって修得した知識をもとに、担当教員の下で学生自ら課題を設定、その分析を行う「ソリューションレポート」の作成に向けての調査・研究を実施する。同じ分野の類似したテーマを課題として取り上げる学生同士が互いに議論し、情報交換しながら理解を深める場としても機能している。教員はプロジェクト研究の場における議論の整理をし、専門的な指導を行うことで議論や理解の深化を助ける。主として担当する教員は一人であるが、修了年次の９月上旬に行われるプロジェクト研究の中間報告の場等を通じて、複数の専任教員が適宜協力し、学生が設定した課題に関して理論面、実務面双方から指導を行う。

２．教育方法

（１）履修指導

春学期、秋学期のそれぞれの履修登録期間の開始前に、教員が担当学生に対して個別に履修指導を行っている。これにより、個々の学生の多様な経歴や将来のキャリアデザインに則した履修計画を策定することが可能になる。

（２）科目配置

昼間に仕事を持つ社会人学生が無理なく履修でき、かつ、体系的な学びのガイドラインとなるよう共通科目Ａ、共通科目Ｂ　及び　専門科目の開講時期が配慮されている。共通科目Ａは、１年次の春学期前半・後半、秋学期前半に配置されており、多くの科目は土曜日に開講される。共通科目Ｂは、春学期後半、秋学期前半・後半に配置される。平日夜間の今出川教室・大阪教室、あるいは土曜日昼間の今出川教室で開

講される。専門科目は、年間を通じて配置される。これらの科目は、平日夜間の今出川教室・大阪教室、あるいは土曜日昼間の今出川教室で開講される。

（３）教育方法

MBA の教育方法は、座学による基本知識の習得だけではなく、ビジネスの現場における課題への的確かつダイナミックな対応能力を身に付け、実践的経営能力を育成するために、ケース・スタディを用いた議論や、実証的リサーチ、プレゼンテーションなど主体的な学びに重点を置いた授業形式を採用し、問題解決型の能力を養成している。議論やプレゼンテーションを繰り返すことを通じて、問題発見とその解決力、多様な意見の理解や他者を説得するためのコミュニケーション・スキルを高めていく。

３．評価方法

（１）修了要件と評価

本専攻を修了するためには、①原則として２年以上の在学期間を要し、②共通科目Ａ・Ｂおよび専門科目を20科目（40単位）以上、プロジェクト研究基礎・Ⅰ・Ⅱを３科目（６単位）の合計46単位以上を取得したうえで、③ソリューションレポートの審査に合格する必要がある。各科目の成績は GPA 制度を導入し、A+、A、B+、B、C+、ＣおよびＦの７段階で評価される。

（２）ソリューションレポート

プロジェクト研究の履修を通じて、MBA として修得した知識を具体的な事例に適用した問題解決型の「ソリューションレポート」を作成していく。

ソリューションレポートは、学生個人が自らの問題意識に基づいて現実の社会、企業における諸問題を課題として設定し、実務に則した分析、問題解決について取り組む。「プロジェクト研究」の場における学生相互の議論、情報交換等を踏まえ、問題把握、分析、問題解決を進めることになる。修了年次の９月上旬の中間報告会で進捗を確認し、１月上旬に提出されたのち口頭による発表会を経て、主査　及び　副査２名の教員により評価を受ける。

<u>2024年度以降生</u>

- ビジネス専攻では、その中に、中小企業・地域経営、イノベーション、マーケティング、会計・ファイナンス、ビジネス環境分析、ゼネラルマネジメントの6つの専門分野を設定する。
- 必修科目、共通科目 A、共通科目 B、専門科目群、プロジェクト研究（必修）及びソリューションレポートなどにより構成されるカリキュラムを設置する。
- 専攻の修了のためには、必修8科目（16単位）、選択科目である共通科目 A・B 及び専門科目から12科目（24単位）以上、プロジェクト研究基礎・I・II を３科目（６単位）の合計46単位以上を取得し、かつソリューションレポートの審査に合格する必要がある。
- 必修科目は、「オペレーションズマネジメント」、「マーケティング」、「基礎会計学・ファイナンス」、「ビジネス経済学」、「ビジネス統計学」、「組織行動と人的資源管理」、「経営戦略」、「企業経営と良心」の8科目16単位である。
- 共通科目 A は、選択科目ではあるが、基礎的な３科目６単位である。
- 共通科目 B は、先に述べた8つの必修科目や共通科目 A で獲得した基礎知識を前提とし、さらに拡充する発展科目（選択科目）である。
- 専門科目群は各専門分野について、より高度で最新の知識を獲得するための応用科目（選択科目）である。
- プロジェクト研究では、専門科目の履修によって取得した知識をもとに、担当教員の下で学生自ら課題を設定、その分析を行う「ソリューションレポート」の作成に向けての調査・研究を実施する。プロジェクト研究3科目6単位は、上記８科目に加えて必修である。
- ソリューションレポートの作成、口頭審査の合格が修了要件である。ソリューションレポートは、プロジェクト研究での指導をもとに、学生個人は自らの問題意識に基づいて現実の社会、企業における諸問題を課題として設定し、実務に即した分析、問題解決について取り組み作成する。
- 社会人学生が履修しやすいように配慮し、夜間や週末、また今出川や大阪での開講等を行う。

ビジネス研究科

ビジネス専攻（2024年度以降生用）

登録コード 科目	登録コード クラス	科目名		単位	担当者	期間 ※1		週時間 ※1	開講校地
【必修科目】									
61300510		オペレーションズマネジメント		2	殷　勇	秋学期	後半	4	今出川
61300102		マーケティング		2	山下　貴子	春学期	後半	4	今出川
61300511		基礎会計学・ファイナンス		2	野瀬　義明	春学期	後半	4	大阪
61300108	001	ビジネス経済学	①	2	文　世一	秋学期	前半	4	今出川
	301	ビジネス経済学	㊿①	2	文　世一	秋学期	前半	4	大阪
61300109		ビジネス統計学		2	藤原　浩一	秋学期	後半	4	今出川
61300512		組織行動と人的資源管理		2	井上　福子	秋学期	前半	4	今出川
61300011		経営戦略		2	崔　裕眞	春学期	前半	4	今出川
61300502		企業経営と良心 （「次の環境 」を見据えて京都で考える）		2	野瀬　義明、他複数	春学期	前半	4	今出川
【共通科目A】									
61300006	001	中小企業経営	①	2	児玉　俊洋	春学期	後半	4	今出川
	301	中小企業経営	㊿①	2	児玉　俊洋	春学期	後半	4	大阪
61300007	001	イノベーションマネジメント	①	2	森　良弘	春学期	後半	4	今出川
	301	イノベーションマネジメント	㊿①	2	森　良弘	春学期	後半	4	大阪
61300010	001	組織マネジメント	①	2	井上　福子	春学期	前半	4	今出川
	301	組織マネジメント	㊿①	2	井上　福子	春学期	前半	4	大阪
【共通科目B】									
61300003		企業の社会的・国際的役割		2	石原　克治	春学期	後半	4	今出川
61300513	001	起業と事業創造	①	2	児玉　俊洋	秋学期	前半	4	今出川
	301	起業と事業創造	㊿①	2	児玉　俊洋	秋学期	前半	4	大阪
61300113		プロジェクトマネジメント		2	勝連　城二	秋学期	前半	4	今出川
61300122		ビジネスモデルイノベーション		2	森　良弘	秋学期	後半	4	今出川
61300115	001	マーケティングリサーチ	①	2	山下　貴子	春学期	後半	4	今出川
	002	マーケティングリサーチ	②	2	山下　貴子	秋学期	前半	4	今出川
61300116		消費者問題		2	（本年度休講）				
61300314	001	消費者行動	①	2	山下　貴子	春学期	前半	4	今出川
	301	消費者行動	㊿①	2	山下　貴子	春学期	前半	4	大阪
61300106		ビジネス会計学		2	梅田　昭夫	秋学期	前半	4	今出川
61300008	001	ビジネスファイナンス	①	2	野瀬　義明	秋学期	前半	4	今出川
	301	ビジネスファイナンス	㊿①	2	野瀬　義明	秋学期	前半	4	大阪
61300117		管理会計		2	島　吉伸	春学期	後半	4	今出川
61300119	001	ミクロ経済分析	①	2	文　世一	秋学期	後半	4	今出川
	301	ミクロ経済分析	㊿①	2	文　世一	秋学期	後半	4	大阪
61300509		企業価値経営		2	大上　高充	秋学期	後半	4	今出川
61300202	001	コーポレートガバナンス	①	2	梅田　昭夫	春学期	後半	4	今出川
	002	コーポレートガバナンス	②	2	梅田　昭夫	春学期	後半	4	今出川
61300322	001	リーダーシップ	①	2	井上　福子	秋学期	後半	4	今出川
	301	リーダーシップ	㊿①	2	井上　福子	秋学期	後半	4	大阪
61300420		京都の伝統産業と文化ビジネス		2	崔　裕眞	秋学期	後半	4	今出川
61300503		ダイバーシティ・マネジメント		2	（本年度休講）				
【専門科目】									
中小企業・地域経営									
61300211	001	ベンチャーファイナンス	①	2	野瀬　義明	秋学期	後半	4	今出川
	301	ベンチャーファイナンス	㊿①	2	野瀬　義明	秋学期	後半	4	大阪

登録コード		科　目　名		単位	担　当　者	期　　間 ※1		週時間 ※1	開講校地
科目	クラス								
61300212		地域ブランド戦略		2	殿村　美樹	春学期	前半	4	今出川
61300407		戦略的企業再生		2	（本年度休講）				
61300514		産業集積とエコシステム		2	児玉　俊洋	秋学期	後半	4	今出川
61300419	001	観光マーケティング	①	2	金武　　創	春学期	後半	4	今出川
	301	観光マーケティング	㉑	2	金武　　創	春学期	前半	4	大阪
61300438		京都の知恵ビジネス		2	中森　孝文	春学期	前半	4	今出川
61300439		中小企業経営コンサルティング		2	島ノ内英久	春学期	前半	4	今出川
61300466		中小企業経営演習		2	児玉　俊洋、島ノ内英久	春学期	後半	4	今出川
61300249		中小企業・地域経営特殊研究（アントレプレナーシップ）		2	（本年度休講）				
61300515		都市経済学		2	文　　世一	春学期	前半	4	今出川
イノベーション									
61300251		オープンイノベーション		2	森　　良弘	春学期	前半	4	今出川
61300506		ＤＸビジネス戦略		2	宗平　順己	春学期	前半	4	今出川
61300253		サプライチェーンマネジメント		2	（本年度休講）				
61300254		組織イノベーション		2	（本年度休講）				
61300309		知財マネジメント		2	内藤　浩樹	秋学期	前半	4	今出川
61300455	001	技術マーケティング	①	2	高広　伯彦	秋学期	前半	4	今出川
	301	技術マーケティング	㉑	2	高広　伯彦	秋学期	前半	4	大阪
61300299		イノベーション特殊研究（サービスデザイン論）		2	宗平　順己	秋学期	後半	4	今出川
	001	イノベーション特殊研究（生産財のイノベーション）	①	2	延岡健太郎	春学期	前半	4	今出川
	301	イノベーション特殊研究（生産財のイノベーション）	㉑	2	延岡健太郎	春学期	前半	4	大阪
	002	イノベーション特殊研究（消費財のイノベーション）	②	2	延岡健太郎	秋学期	後半	4	今出川
	302	イノベーション特殊研究（消費財のイノベーション）	㉒	2	延岡健太郎	秋学期	後半	4	大阪
61300516		ＭＯＴ概論		2	延岡健太郎	春学期	後半	4	今出川
61300601	001	ＭＯＴ特殊講義① －ナノテクノロジー－	①	2	理工学研究科（大谷　直毅）	春学期		2	京田辺
61300602	002	ＭＯＴ特殊講義② －生命科学－	②	2	理工学研究科（北岸　宏亮）	春学期		2	京田辺
61300603	003	ＭＯＴ特殊講義③ －情報技術－	③	2	理工学研究科（吉田　純一、奥田　　環）	春学期		2	インタ
61300605	005	ＭＯＴ特殊講義⑤ －制御システム－	⑤	2	理工学研究科（廣垣　俊樹）	秋学期		2	京田辺
61300607	007	ＭＯＴ特殊講義⑦ －資源・エネルギー学－	⑦	2	理工学研究科（後藤　琢也）	春学期		2	京田辺
マーケティング									
61300311		サービスマーケティング		2	（本年度休講）				
61300312	001	マーケティング戦略 （2024年度以前生対象）※61300518と同一内容	①	2	高広　伯彦	春学期	後半	4	今出川
	301	マーケティング戦略 （2024年度以前生対象）※61300518と同一内容	㉑	2	高広　伯彦	春学期	後半	4	大阪
61300518	001	ＢｔｏＢマーケティング （2025年度以降生対象）※61300312と同一内容	①	2	高広　伯彦	春学期	後半	4	今出川
	301	ＢｔｏＢマーケティング （2025年度以降生対象）※61300312と同一内容	㉑	2	高広　伯彦	春学期	後半	4	大阪
61300313		広告・コミュニケーション		2	（本年度休講）				
61300315		商品・ブランド開発		2	（本年度休講）				
61300339		マーケティング特殊研究（デジタルマーケティング）		2	高広　伯彦	春学期	前半	4	今出川
		マーケティング特殊研究（クリエイティブコミュニケーション）		2	（本年度休講）				

登録コード		科　目　名		単位	担　当　者	期　間 ※1		週時間 ※1	開講校地
科目	クラス								
会計・ファイナンス									
61300224		税務戦略		2	宮井　秀明	春学期	後半	4	今出川
61300341	001	会計・監査	①	2	梅田　昭夫	秋学期	後半	4	今出川
	002	会計・監査	②	2	梅田　昭夫	秋学期	後半	4	今出川
61300342		投資戦略 （2024年度以前生対象）※61300517と同一内容		2	（本年度休講）				
		投資戦略 （2024年度以前生対象）※61300517と同一内容		2	（本年度休講）				
61300517		証券市場 （2025年度以降生対象）※61300342と同一内容		2	（本年度休講）				
		証券市場 （2025年度以降生対象）※61300342と同一内容		2	（本年度休講）				
61300343		M＆A戦略		2	天野祐一郎	秋学期	前半	4	今出川
61300344	300	コストマネジメント	㉚⓪	2	島　吉伸	秋学期	後半	4	大阪
61300404		リスクマネジメント		2	新村　猛	秋学期	前半	4	今出川
61300369		会計・ファイナンス特殊研究 （独占禁止法（経済学的な観点から））		2	（本年度休講）				
	304	会計・ファイナンス特殊研究（原価計算）	㉚④	2	安酸　建二	春学期	後半	4	大阪
61300241	001	コーポレートファイナンス	①	2	藤原　浩一	春学期	前半	4	今出川
	301	コーポレートファイナンス	㉚①	2	藤原　浩一	春学期	前半	4	大阪
ビジネス環境分析									
61300371		マクロ経済分析		2	筒井　肇	秋学期	前半	4	今出川
61300372		内外通貨金融環境（通貨と金融の国際経済学）		2	（本年度休講）				
61300399		ビジネス環境分析特殊研究（流通論）		2	（本年度休講）				
61300504		Green Management in Action		2	有井　健	秋学期	前半	4	今出川
61300505		現代地政学と経済安全保障		2	村上　政俊	春学期	前半	4	今出川
61300507	001	データ・サイエンス	①	2	藤原　浩一	秋学期	前半	4	今出川
	301	データ・サイエンス	㉚①	2	藤原　浩一	秋学期	前半	4	大阪
ゼネラルマネジメント									
61300453	001	ナレッジマネジメント	①	2	崔　裕眞	秋学期	後半	4	今出川
	301	ナレッジマネジメント	㉚①	2	崔　裕眞	春学期	前半	4	大阪
61300471		ビジネスコミュニケーション		2	佐藤　研一	春学期	前半	4	今出川
61300472		リーガルマインド		2	飯田　浩司、 森脇　肇	春学期	後半	4	今出川
61300499		ゼネラルマネジメント特殊研究（ラグジュアリマネジメント）		2	崔　裕眞	秋学期	前半	4	今出川
国際連携科目									
61300611		国際連携科目 1		1	※2				
		国際連携科目 2		2					
		国際連携科目 3		3					
		国際連携科目 4		4					
フィールドスタディ									
61300501		フィールドスタディ		2	（本年度休講）				
61300804	※3	プロジェクト研究基礎		2	※3				
61300802	※3	プロジェクト研究Ⅰ		2	※3				
61300803	※3	プロジェクト研究Ⅱ		2	※3				
61300901		ソリューションレポート		–	※4				

注）

※１　ビジネス研究科設置科目は、原則として各学期を前半後半に分割して開講される。
例：「中小企業経営（今出川校地）」は春学期後半に１週４時間開講。

※２　海外提携大学との交換プログラムによる設置科目。
海外の大学にて履修。詳細については、ビジネス研究科ホームページの在学生ページに掲載される「派遣留学生募集要項」参照のこと。

※３　プロジェクト研究の開講クラス、担当者および登録方法については、
別冊子『履修の手引き』の「プロジェクト研究・ソリューションレポートについて」の頁を参照し、
あらかじめ決定された指導担当教員のクラスを履修すること。
プロジェクト研究基礎は最終学年の前年に、プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱは最終学年に登録のこと。

※４　最終年次に必ず登録すること。

ビジネス専攻（2023年度以前生用）

登録コード		科　目　名		単位	担　当　者	期　間 ※1		週時間 ※1	開講校地
科目	クラス								
【共通科目A】									
61300414		ベンチャー企業経営		2	（本年度休講）				
61300006	001	中小企業経営	①	2	児玉　俊洋	春学期	後半	4	今出川
	301	中小企業経営	㊿①	2	児玉　俊洋	春学期	後半	4	大阪
61300007	001	イノベーションマネジメント	①	2	森　　良弘	春学期	後半	4	今出川
	301	イノベーションマネジメント	㊿①	2	森　　良弘	春学期	後半	4	大阪
61300008	001	ビジネスファイナンス	①	2	野瀬　義明	秋学期	前半	4	今出川
	301	ビジネスファイナンス	㊿①	2	野瀬　義明	秋学期	前半	4	大阪
61300009		人的資源管理		2	井上　福子	秋学期	前半	4	今出川
61300010	001	組織マネジメント	①	2	井上　福子	春学期	前半	4	今出川
	301	組織マネジメント	㊿①	2	井上　福子	春学期	前半	4	大阪
61300011		経営戦略		2	崔　　裕眞	春学期	前半	4	今出川
61300102		マーケティング		2	山下　貴子	春学期	後半	4	今出川
61300106		ビジネス会計学		2	梅田　昭夫	秋学期	前半	4	今出川
61300108	001	ビジネス経済学	①	2	文　　世一	秋学期	前半	4	今出川
	301	ビジネス経済学	㊿①	2	文　　世一	秋学期	前半	4	大阪
61300109		ビジネス統計学		2	藤原　浩一	秋学期	後半	4	今出川
61300502		企業経営と良心（「次の環境」を見据えて京都で考える）		2	野瀬　義明、他複数	春学期	前半	4	今出川
【共通科目B】									
61300003		企業の社会的・国際的役割		2	石原　克治	春学期	後半	4	今出川
61300112	001	事業創造マネジメント	①	2	児玉　俊洋	秋学期	前半	4	今出川
	301	事業創造マネジメント	㊿①	2	児玉　俊洋	秋学期	前半	4	大阪
61300113		プロジェクトマネジメント		2	勝連　城二	秋学期	前半	4	今出川
61300122		ビジネスモデルイノベーション		2	森　　良弘	秋学期	後半	4	今出川
61300115	001	マーケティングリサーチ	①	2	山下　貴子	春学期	後半	4	今出川
	002	マーケティングリサーチ	②	2	山下　貴子	秋学期	前半	4	今出川
61300116		消費者問題		2	（本年度休講）				
61300314	001	消費者行動	①	2	山下　貴子	春学期	前半	4	今出川
	301	消費者行動	㊿①	2	山下　貴子	春学期	前半	4	大阪
61300117		管理会計		2	島　　吉伸	春学期	後半	4	今出川
61300119	001	ミクロ経済分析	①	2	文　　世一	秋学期	後半	4	今出川
	301	ミクロ経済分析	㊿①	2	文　　世一	秋学期	後半	4	大阪
61300121		グローバル企業経営 （2022年度以前生対象）※61300509と同一内容		2	大上　高充	秋学期	後半	4	今出川
61300509		企業価値経営 （2023年度以降生対象）※61300121と同一内容		2	大上　高充	秋学期	後半	4	今出川
61300202	001	コーポレートガバナンス	①	2	梅田　昭夫	春学期	後半	4	今出川
	002	コーポレートガバナンス	②	2	梅田　昭夫	春学期	後半	4	今出川
61300241	001	コーポレートファイナンス	①	2	藤原　浩一	春学期	前半	4	今出川
	301	コーポレートファイナンス	㊿①	2	藤原　浩一	春学期	前半	4	大阪
61300322	001	リーダーシップ	①	2	井上　福子	秋学期	後半	4	今出川
	301	リーダーシップ	㊿①	2	井上　福子	秋学期	後半	4	大阪
61300420		京都の伝統産業と文化ビジネス		2	崔　　裕眞	秋学期	後半	4	今出川
61300503		ダイバーシティ・マネジメント		2	（本年度休講）				

登録コード		科　目　名		単位	担　当　者	期　間 ※1		週時間 ※1	開講校地
科目	クラス								
【専門科目】									
中小企業・地域経営									
61300211	001	ベンチャーファイナンス	①	2	野瀬　義明	秋学期	後半	4	今出川
	301	ベンチャーファイナンス	㉛	2	野瀬　義明	秋学期	後半	4	大阪
61300212		地域ブランド戦略		2	殿村　美樹	春学期	前半	4	今出川
61300407		戦略的企業再生		2	（本年度休講）				
61300416		産業集積と立地戦略		2	児玉　俊洋	秋学期	後半	4	今出川
61300419	001	観光マーケティング	①	2	金武　　創	春学期	後半	4	今出川
	301	観光マーケティング	㉛	2	金武　　創	春学期	前半	4	大阪
61300438		京都の知恵ビジネス		2	中森　孝文	春学期	前半	4	今出川
61300439		中小企業経営コンサルティング		2	島ノ内英久	春学期	前半	4	今出川
61300466		中小企業経営演習		2	児玉　俊洋、島ノ内英久	春学期	後半	4	今出川
61300249		中小企業・地域経営特殊研究（アントレプレナーシップ）		2	（本年度休講）				
61300515		都市経済学		2	文　　世一	春学期	前半	4	今出川
イノベーション									
61300251		オープンイノベーション		2	森　　良弘	春学期	前半	4	今出川
61300252		ＩＴビジネス戦略 （2022年度以前生対象）※61300506と同一内容		2	宗平　順己	春学期	前半	4	今出川
61300506		ＤＸビジネス戦略 （2023年度以降生対象）※61300252と同一内容		2	宗平　順己	春学期	前半	4	今出川
61300253		サプライチェーンマネジメント		2	（本年度休講）				
61300254		組織イノベーション		2	（本年度休講）				
61300309		知財マネジメント		2	内藤　浩樹	秋学期	前半	4	今出川
61300455	001	技術マーケティング	①	2	高広　伯彦	秋学期	前半	4	今出川
	301	技術マーケティング	㉛	2	高広　伯彦	秋学期	前半	4	大阪
61300299		イノベーション特殊研究（サービスデザイン論）		2	宗平　順己	秋学期	後半	4	今出川
	001	イノベーション特殊研究（生産財のイノベーション）	①	2	延岡健太郎	春学期	前半	4	今出川
	301	イノベーション特殊研究（生産財のイノベーション）	㉛	2	延岡健太郎	春学期	前半	4	大阪
	002	イノベーション特殊研究（消費財のイノベーション）	②	2	延岡健太郎	秋学期	後半	4	今出川
	302	イノベーション特殊研究（消費財のイノベーション）	㉜	2	延岡健太郎	秋学期	後半	4	大阪
61300516		ＭＯＴ概論		2	延岡健太郎	春学期	後半	4	今出川
61300601	001	ＭＯＴ特殊講義① －ナノテクノロジー－	①	2	理工学研究科（大谷　直毅）	春学期		2	京田辺
61300602	002	ＭＯＴ特殊講義② －生命科学－	②	2	理工学研究科（北岸　宏亮）	春学期		2	京田辺
61300603	003	ＭＯＴ特殊講義③ －情報技術－	③	2	理工学研究科（吉田　純一、奥田　　環）	春学期		2	インタ
61300605	005	ＭＯＴ特殊講義⑤ －制御システム－	⑤	2	理工学研究科（廣垣　俊樹）	秋学期		2	京田辺
61300607	007	ＭＯＴ特殊講義⑦ －資源・エネルギー学－	⑦	2	理工学研究科（後藤　琢也）	春学期		2	京田辺
マーケティング									
61300311		サービスマーケティング		2	（本年度休講）				
61300312	001	マーケティング戦略	①	2	高広　伯彦	春学期	後半	4	今出川
	301	マーケティング戦略	㉛	2	高広　伯彦	春学期	後半	4	大阪
61300313		広告・コミュニケーション		2	（本年度休講）				
61300315		商品・ブランド開発		2	（本年度休講）				

登録コード		科目名		単位	担当者	期間 ※1		週時間 ※1	開講校地
科目	クラス								
61300339		マーケティング特殊研究（デジタルマーケティング）		2	高広　伯彦	春学期	前半	4	今出川
		マーケティング特殊研究（クリエイティブコミュニケーション）		2	（本年度休講）				
会計・ファイナンス									
61300224		税務戦略		2	宮井　秀明	春学期	後半	4	今出川
61300341	001	会計・監査	①	2	梅田　昭夫	秋学期	後半	4	今出川
	002	会計・監査	②	2	梅田　昭夫	秋学期	後半	4	今出川
61300342		投資戦略		2	（本年度休講）				
		投資戦略		2	（本年度休講）				
61300343		M＆A戦略		2	天野祐一郎	秋学期	前半	4	今出川
61300344	300	コストマネジメント	㊳⓪	2	島　吉伸	秋学期	後半	4	大阪
61300404		リスクマネジメント		2	新村　猛	秋学期	前半	4	今出川
61300369		会計・ファイナンス特殊研究（独占禁止法（経済学的な観点から））		2	（本年度休講）				
	304	会計・ファイナンス特殊研究（原価計算）	㊳④	2	安酸　建二	春学期	後半	4	大阪
ビジネス環境分析									
61300371		マクロ経済分析		2	筒井　肇	秋学期	前半	4	今出川
61300372		内外通貨金融環境（通貨と金融の国際経済学）		2	（本年度休講）				
61300399		ビジネス環境分析特殊研究（流通論）		2	（本年度休講）				
61300504		Green Management in Action		2	有井　健	秋学期	前半	4	今出川
61300505		現代地政学と経済安全保障		2	村上　政俊	春学期	前半	4	今出川
61300507	001	データ・サイエンス	①	2	藤原　浩一	秋学期	前半	4	今出川
	301	データ・サイエンス	㊳①	2	藤原　浩一	秋学期	前半	4	大阪
ゼネラルマネジメント									
61300453	001	ナレッジマネジメント	①	2	崔　裕眞	秋学期	後半	4	今出川
	301	ナレッジマネジメント	㊳①	2	崔　裕眞	春学期	前半	4	大阪
61300471		ビジネスコミュニケーション		2	佐藤　研一	春学期	前半	4	今出川
61300472		リーガルマインド		2	飯田　浩司、森脇　肇	春学期	後半	4	今出川
61300499		ゼネラルマネジメント特殊研究（ラグジュアリマネジメント）		2	崔　裕眞	秋学期	前半	4	今出川
国際連携科目									
61300611		国際連携科目 1		1	※2				
		国際連携科目 2		2					
		国際連携科目 3		3					
		国際連携科目 4		4					
フィールドスタディ									
61300501		フィールドスタディ		2	（本年度休講）				
61300804	※3	プロジェクト研究基礎		2	※3				
61300802	※3	プロジェクト研究Ⅰ		2	※3				
61300803	※3	プロジェクト研究Ⅱ		2	※3				
61300901		ソリューションレポート		−	※4				

注）

※１　ビジネス研究科設置科目は、原則として各学期を前半後半に分割して開講される。
例：「中小企業経営（今出川校地）」は春学期後半に１週４時間開講。

※２　海外提携大学との交換プログラムによる設置科目。
海外の大学にて履修。詳細については、ビジネス研究科ホームページの在学生ページに掲載される「派遣留学生募集要項」参照のこと。

※３　プロジェクト研究の開講クラス、担当者および登録方法については、
別冊子『履修の手引き』の「プロジェクト研究・ソリューションレポートについて」の頁を参照し、
あらかじめ決定された指導担当教員のクラスを履修すること。
プロジェクト研究基礎は最終学年の前年に、プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱは最終学年に登録のこと。

※４　最終年次に必ず登録すること。

「同志社 MOT コース（ダブル・ディグリー）」について

理工学研究科（2011年度以前は工学研究科）とビジネス研究科は、技術を経営に生かし企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、緊密な連携の下に、高度で実践的な教育研究を行う技術経営コース「同志ネ士 MOT コース（ダブル・ディグリー）」を2006年4月より開設した。

本コースは、MOT に関する理論と実践、教育と研究の連携・融合を実現し、優れた MOT 人材を育成するため、3年間で修士（工学）もしくは修士（理学）とビジネス修士（専門職）という二つの学位の取得を可能とするものであり、産業界からの MOT 人材育成の要望に応えるものである。 2006年度以降の両研究科への入学者から対象とし、必要な知識・適性等を判定したうえで本コースの履修を認める。

詳細については、ビジネス研究科事務室に問い合わせること。

「障がい等のある学生の授業履修に際しての要望について」

履修する上での要望がある場合は、できる限り授業開始の2週間前までにビジネス研究科事務室にお問い合わせください。

高等研究教育院

■高等研究教育院

高等研究教育院は、本学の特色ある先端研究科等の成果の還元による、大学院教育の高度化、学修化、グローバル化を推進することを目的とする、研究科横断的な組織です。学問分野・領域に共通する基礎能力の涵養を目的とした大学院教育プログラム、特定課題に関する体系的な大学院教育プログラムの開発と実施をしています。

1.【大学院共通科目】アドバンスト・リベラルアーツ科目群（ALA 科目群）

所属研究科で身につけた専門性を社会の現場でより活かせるように、大学院生に相応しい基盤的な能力を、専門性とは別の視点から身につけることができるよう設計した科目の集まりです。すなわち、本科目群は、未来の社会の諸課題に対して、普遍的な見方から全体像を捉える能力（俯瞰力）、複数の専門知を組み合わせながらアプローチできる能力（総合力）、未来の社会を読み解く視座（創造力）、良心を支柱に未来の社会のあり方を模索する能力（提案力）を意識的に身にまとい、諸問題に対して「専門外の補助線」を引き、本質を捉え新たな課題を探り、常に挑戦する姿勢の涵養を目的とするものです。

ALA 科目群では、小人数クラスによる密接な指導を基とした知識や精神性の伝達を行います。担当教員と大学院生が議論によって切磋琢磨する授業は、まさにリベラルアーツの原点と言えます。様々な学問的背景を持つ教員、学生、社会人が共修する環境で、是非、専門的知識と専門外の知識を組み合わせ、同志社大学の学生らしい、複眼的な視野を獲得して欲しいと考えています。詳細は、ホームページに掲載の内容をご確認ください。

アドバンスト・リベラルアーツ科目群

2．研究科横断副専攻プログラム「Comm 5.0-AI・データサイエンスプログラム」

「Comm 5.0-AI・データサイエンスプログラム」では、次代の社会を先導する人物を養成するために、次に掲げる能力を総合的・統合的に涵養する教育課程を編成します。

＊知識・技能　IoT、ビッグデータ等の先端的情報工学の知識・技能を習得すると共に、ヒトに関する知識、ヒトの生体情報を取得する知識を習得する。実験や実習を中心に行うことで、実践的な知識・技術の獲得を目指す。

＊思考力・判断力・表現力　文理融合的な視点で未来の技術の活用方法を考察する能力を習得する。今後出現すると予想される未来技術について議論し、来るべき社会のあり方をアクティブラーニングによる演習を中心に考察する。

＊主体性・多様性・協働性　プログラム担当教員とプログラムの連携機関が密接に連携して行う共同研究を大学院学生の鍛錬の場として設計する科目を開発し、主体的に研究を進める中で、今後の社会動向やニーズを自ら考える能力を涵養する。

【大学院共通科目】アドバンスト・リベラルアーツ科目群（ALA 科目群）			研究科横断 副専攻プログラム
グローバル・リソース・マネジメント（GRM）コース	「次の環境」協創コース	サイエンス コミュニケーションコース	Comm 5.0 – AI・データサイエンス 副専攻プログラム
・困難を克服するための「知恵」の獲得 ・大学院レベルの高度なリテラシーの獲得 ・専門分野の壁を越え、英語で学ぶ	・自然科学と人文社会科学の融合 ・「大学」と「企業」の壁を越えた社会人との共修 ・社会実装を見据えたイノベーションの具現化	・科学技術に関する基礎的知識と、その社会的背景を理解 ・科学と社会の関係性やコミュニケーションの枠組みを学ぶ ・科学的情報をわかりやすく伝えるスキルの修得 ・科学的情報発信の実践力強化	・Society 5.0における新たなCommunicationとCommunityの在り方を考察する ・先端的情報工学技術の活用を学ぶ ・社会と連携した研究活動の実践
詳細はホームページに掲載の内容を確認してください。	詳細はホームページに掲載の内容を確認してください。	詳細はホームページに掲載の内容を確認してください。	本プログラムからＡＬＡ科目群へ提供している科目は全大学院生が履修可能ですが、本プログラムを履修可能な研究科・専攻は限られています。詳細はホームページに掲載の内容を確認してください。

Ⅰ．GRMコースの科目履修およびコース修了

1．履修方法

博士課程の前期課程・後期課程に所属する全大学院生に履修資格がありますが、修得した単位の取扱いは、研究科毎に異なります。多くの研究科で課程修了に必要な単位に算入されますが、算入の可否、算入単位の上限等は、所属する研究科の履修要項で確認し、履修計画を立ててください。

登録はシラバスを確認のうえ、所定の履修科目登録期間に DUET で行います。

なお、「On-site Group Work」は海外での実習を伴うため10名程度の定員とし、登録者が多い場合には選考を行います。選考により履修できなくなった場合には、同時履修が必要な「On-site Group Work Introduction」と併せて、大学が登録を削除します。選考は4月中に実施されるため、削除された4単位分は、秋学期に登録追加してください。

2．コース修了（コース登録・修了要件）

コース修了には、必修科目を含む10単位の修得が必要です。

GRM科目の履修者にはコース修了の希望を調査し、修了希望者を「コース履修生」として登録します。コース履修生は DUET のメニュー「その他教育プログラム」にある「グローバル・リソース・マネジメント」から、コースの科目一覧や履修状況（履修年度や成績など）を確認することができます。

コース履修生を対象に修了判定を行い、コース修了者には修了証を授与します。また、学修歴のデジタル証明であるオープンバッジ発行について案内します。

Ⅱ.2026年度 開講科目一覧（2025年度以降生用）

選択 / 必修	科目コード	クラス	科目名	担当者	単位	学期	校地
必修	35650600	000	On-site Group Work Preparation	大西　有子	2	春(集中)	今出川
	3565060I	000	On-site Group Work	大西　有子	2	春(集中)	今出川
	3565065I	000	Seminar for Advanced Liberal Arts	大西　有子 内藤　正典	2	秋(集中)	今出川
選択	3565061I	000	Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity	大西　有子 小山田英治 稲葉　　稔 長岡　直人 中川　正夫 八木　　匡 濱　真一郎	2	春	オンライン
	3565062I	000	Mathematics and Physics as Liberal Arts	Camille-faith PASCUA ROMERO	2	春	オンライン
	35650622	000	Infrastructure Design for Human Communities	Camille-faith PASCUA ROMERO	2	秋	オンライン
	35650623	000	Environmental Earth Science as Liberal Arts	大西　有子	2	秋(集中)	今出川
	35650624	000	Global Resource Management: Interdisciplinary Approach I -Climate Change-	大西　有子	2	春(集中)	オンライン
	35650634	000	Global Resource Management: Interdisciplinary Approach 2 -Transdisciplinary Research Methods-	大西　有子	2	秋(集中)	今出川
	35650625	000	Global Resource Management and Sustainable Development Goals I	大西　有子	2	春	今出川
	35650635	000	Global Resource Management and Sustainable Development Goals 2	大西　有子	2	秋	オンライン
	3565063I	000	Global Resource Management and International Relations	（休講）	2		
	35650632	000	Research Methods of Social Sciences	（休講）	2		
	35650633	000	Global Society in the Modern World	小山田英治	2	秋(集中)	今出川
	3565064I	000	GRM Topics I -Natural Hazards and Disaster Management-	松川　杏寧	2	春(集中)	今出川
	35650642	000	GRM Topics 2 -Topics in Mathematics for Information and Data Sciences-	徳山　　豪	2	春(集中)	今出川
	35650643	000	Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works	西川由起子	2	春(集中)	今出川
	35650644	000	Introductory Laboratory of Infrastructures	池田　陽紀	2	秋	京田辺

・全科目とも配当年次は「MI～」です。
・授業は英語で行われますが、履修生の語学力を考慮して、部分的に日本語で行われることもあります。
・履修生の通学校地のバランス等により校地を変更する可能性があります。
・集中講義以外の教室で行われる科目について、オンデマンド配信の授業（I週目の DO Week 等）の有無はシラバスで確認してください。配信授業がない場合は科目担当者が別途、日程を設定します。
・「On-site Group Work」は「On-site Group Work Introduction」と同時履修が必要です。
・「Introductory Laboratory of Infrastructures」は実習科目のため週4時間。その他の科目は週2時間です。

路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う
授業・期末試験の実施について

路線が不通の場合や暴風警報、特別警報が発表された場合には、授業および期末試験の実施について以下の措置をとります。

Ⅰ．路線が不通の場合

・「１．対象となる路線」の定める条件に合致した場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。
・開通後は、「２．開通時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。
・該当交通機関の事故等による一時的な運転見合わせの場合には、平常どおり授業・期末試験を実施しますのでご注意ください。

１．対象となる路線

次のイ、ロ、ハのいずれかひとつの条件に合致する場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。

［今出川校地］

イ．京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
ロ．次表のａ～ｄの２以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間

［京田辺校地］

イ．京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
ロ．近鉄電車（京都～大和西大寺間）が全面不通の場合
ハ．次表のａ～ｅの２以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間
e	JR	木津～京橋間

２．開通時刻と授業・期末試験開始講時

開通後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

開通時刻	開始講時
６時 30 分までに開通	１講時から実施（平常どおり）
10 時 40 分までに開通	３講時から実施
15 時 55 分までに開通	６講時から実施
15 時 56 分時点で不通が継続中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

開通時刻	開始講時
6 時 30 分までに開通	1 講時（9 時 30 分）から実施（平常どおり）
10 時 00 分までに開通	2 講時（13 時 00 分）から実施
12 時 30 分までに開通	3 講時（15 時 30 分）から実施
12 時 31 分以後に開通	全講時実施しない

Ⅱ．暴風警報あるいは特別警報発表の場合

・「1．警報発表対象地域」に示す表の府県予報区、一次細分区域、市町村等をまとめた地域、または二次細分区域のいずれかひとつを対象に暴風警報あるいはなんらかの特別警報が発表された場合、発表時の次の講時から、その日の授業・期末試験の実施を中止します。

・ただし、発表された時点で、すでに実施中もしくは開始直前の授業・期末試験については、警報の緊急性等を考慮の上で、大学がその中止を判断します。

・特別警報が発表された場合、該当地域は非常に危険な状況にあります。特別警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。

・警報解除後、危険が回避されたことが確認された場合には、「2．警報解除時刻と授業･期末試験開始講時」により開始講時を決定します。ただし、状況判断の上、別途指示することがあります。

1．警報発表対象地域

府県予報区	一次細分区域	市町村等をまとめた地域	二次細分区域
京都府	南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
		京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
		山城中部	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
		山城南部	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村
大阪府	大阪府	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
		東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
		大阪市	大阪市
		南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
		泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

２．警報解除時刻と授業・期末試験開始講時

警報解除後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

警報解除時刻	開始講時
6 時 30 分までに解除	1 講時から実施（平常どおり）
10 時 40 分までに解除	3 講時から実施
15 時 55 分までに解除	6 講時から実施
15 時 56 分時点で警報が発表中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

警報解除時刻	開始講時
6 時 30 分までに解除	1 講時（9 時 30 分）から実施（平常どおり）
10 時 00 分までに解除	2 講時（13 時 00 分）から実施
12 時 30 分までに解除	3 講時（15 時 30 分）から実施
12 時 31 分時点で警報が発表中	全講時実施しない。

Ⅲ．Ⅰ、Ⅱにかかわらず、授業・期末試験を行うことが困難もしくは危険であると学長が判断した場合、休講・中止とすることがあります。

Ⅳ．Ⅰ．に定めた路線において計画運休の確定情報が発表された場合、不通となる路線に応じて、授業の休講、期末試験の中止などの措置をとることがあります。

Ⅴ．路線の不通や暴風警報・特別警報の発表、荒天・自然災害などにより、平常どおり授業・期末試験を行うことができない時には、大学 HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class 等を利用して、大学や授業担当者から、必要に応じた連絡を行います。
大学 HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class 等をこまめに確認してください。

以上

連　絡　先

（今出川校地）

今出川キャンパス教務センター

文学研究科	075–251–3361
法学研究科	075–251–3511
経済学研究科	075–251–3521
今出川校地教務課	075–251–3200

新町総合窓口

社会学研究科事務室	075–251–3411
総合政策科学研究科事務室	075–251–3860
神学研究科事務室	075–251–3330
商学研究科事務室	075–251–3660
グローバル・スタディーズ研究科事務室	075–251–3931
司法研究科事務室	075–251–3518
ビジネス研究科事務室	075–251–4585

（京田辺校地）

京田辺キャンパス教務センター

生命医科学研究科	0774–65–7054
スポーツ健康科学研究科	0774–65–7056
心理学研究科	0774–65–7337
京田辺校地教務課	0774–65–7053
文化情報学研究科事務室	0774–65–7610
理工学研究科事務室	0774–65–6200
脳科学研究科事務室	0774–65–6053

発行　同志社大学
〒602–8580　京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601
☎(075)251－3200

2026年４月１日


DOSHISHA UNIVERSITY MDCCCLXXV KYOTO
VERITAS
LIBERABIT
VOS